

高宮八丁遺跡

(大阪府寝屋川市)

石 器 編

1 9 8 8 • 3

寝屋川市教育委員会

高宮八丁遺跡

(大阪府寝屋川市)

石 器 編

1 9 8 8 • 3

寝屋川市教育委員会

序 文

高宮八丁遺跡は、昭和60年10月から昭和61年7月まで、寝屋川郵便局庁舎建設地内において2,700㎡を発掘調査し、弥生時代前期中ごろから中期中ごろに至る古代河内潟北岸の低地に立地した、弥生集落の遺跡であることが確認された新発見遺跡であります。

遺跡からは、竪穴式住居跡や墓等の遺構は検出されなかったものの、多くの溝や柱穴、土壌、自然河川が発見され、それらの中から多種・多様で豊富な土器・石器・木製品等の出土をみることができました。

この遺跡を記録保存して後世に残すため、昭和62年度から3か年計画で出土遺物等の整理を行っており、土器については洗浄・注記・復元を、石器については実測を、木製品についてはP.E.G含浸処理法による科学的保存処理及び樹種鑑定を、さらに各種資料の整理にそれぞれ取りくんでいます。

また、調査報告書についても、昭和62年3月に発刊しました発掘調査概要報告書に引き続いで、出土遺物ごとにより詳細にわたって分析、記録するため、石器編・木器編・土器及び本文編と、3巻にわたって発刊する計画であります。

この報告書は、第1巻・石器編として、遺跡から出土した多数の石鏃・石錐・石砲丁・石剣・石槍・石斧・たたき石・砥石・石小刀・投弾等の石器を、種類ごとにその内容をまとめたものであります。

本書が、多くの未解明な部分を残す弥生時代前期・中期の古代河内潟周辺の弥生社会の歴史と文化を明らかにする一助となり、本市文化財に対する理解を深める基礎資料となれば望外の喜びであります。

なお、現地発掘調査に引き続いて、今回の出土遺物等の整理においても、寝屋川郵便局庁舎建設事業主体者として、遺跡の記録保存のための整理経費の負担など、多大のご協力をいただきました近畿郵政局をはじめ、関係各位に深く感謝の意を表する次第です。

昭和63年3月

寝屋川市教育委員会

教育長 山田勝久

例　　言

1. 本書は、昭和60年10月から昭和61年7月に実施した高宮八丁遺跡（寝屋川郵便局庁舎建設地内）発掘調査の遺物整理調査報告書であり、出土遺物のなかで石器類に関する整理結果をまとめたものである。
2. 本遺物整理調査は、寝屋川市教育委員会が近畿郵政局の依頼を受けて実施したものである。
3. 本遺物整理調査に要した費用はすべて近畿郵政局が負担した。
4. 本報告書の作成については、大阪教育大学大学院講師（考古学）瀬川芳則を顧問とし、寝屋川市教育委員会社会教育部社会教育課文化財保護係・塙山剛之が担当し、調査員として米岡オレゴン大学助手・片岡修、補助員として中原初美、鶴林齊享、川畑聰、露口真広、村田幸子、山田夏代があつた。
5. 本書の執筆、写真撮影、編集は塙山が担当し、遺物実測及びトレス、遺物観察表の作成は、調査員及び調査補助員がそれぞれ担当した。
6. 遺物の整理及び本報告書作成にあたっては、多くの方々から御教示をいただいたが、特に石器の石材鑑定については、寝屋川市立第四中学校高谷鉄兵氏の多大な協力を得、また下記の諸氏には多くの御指導、御教示を得た。記して深く謝意を表する。
植田正幸氏（守口市教育委員会）、財団法人枚方市文化財研究調査会、野島稔氏（四條畷市立歴史民俗資料館）、浜田幸司氏（大阪教育大学大学院）、増崎勝敏氏（大阪府立南寝屋川高校教諭）
(五十音順)
7. 遺物整理調査の実施にあたっては、近畿郵政局の全面的な理解と協力を得、寝屋川市立池田第二小学校、同池の里小学校、同池田第二幼稚園の協力を得た。記して厚く感謝の意を表する。
8. 整理を行った石器類については、寝屋川市教育委員会が保管し、その一部は寝屋川市立埋蔵文化財資料館で展示している。

本文目次

はじめに	1
第1章 高宮八丁遺跡の環境	2
第2章 武器・狩猟具	5
第1節 石鎌	5
第2節 石槍	98
第3節 石劍	110
第4節 石匙	113
第5節 投彈	114
第3章 収穫具	119
第1節 石庖丁	119
第2節 大型石庖丁	150
第3節 打製石庖丁	153
第4章 工具	154
第1節 石錐	154
第2節 幅平片刃石斧	204
第3節 柱状片刃石斧	210
第4節 太型蛤刃石斧	211
第5節 打製石斧	219
第6節 石小刀	222
第7節 敷石	224
第8節 砥石	229
第9節 台石	247
第10節 凹石	250
第5章 渔撈具	251
第1節 石鍔	251
第6章 装身具	253
第1節 勾玉	253
第2節 管玉	253
第7章 その他	254
第1節 用途不明石製品	254
第2節 刀器	255
附章 高宮八丁遺跡発掘調査の成果から(瀬川芳則)	256

挿図目次

挿図1	調査地位置図	3
挿図2	高宮八丁遺跡周辺遺跡分布図	4
挿図3	D-3地区検出のドングリの貯蔵穴	258

図 版 目 次

図版1	石鎚（実測図）	261
図版2	石鎚（実測図）	262
図版3	石鎚（実測図）	263
図版4	石鎚・石匙・石錐（実測図）	264
図版5	石錐・石斧（実測図）	265
図版6	勾玉・管玉・玉砥石・投弾（実測図）	266
図版7	石庖丁（実測図）	267
図版8	石庖丁（実測図）	268
図版9	石庖丁（実測図）	269
図版10	石庖丁（実測図）	270
図版11	石庖丁（実測図）	271
図版12	石庖丁（実測図）	272
図版13	石庖丁（実測図）	273
図版14	石庖丁（実測図）	274
図版15	石庖丁（実測図）	275
図版16	石庖丁・大型石庖丁（実測図）	276
図版17	大型石庖丁（実測図）	277
図版18	石槍（実測図）	278
図版19	石劍・石小刀・石斧（実測図）	279
図版20	石斧（実測図）	280
図版21	石斧（実測図）	281
図版22	石斧・砥石（実測図）	282
図版23	砥石（実測図）	283
図版24	砥石（実測図）	284
図版25	敲石・用途不明石器（実測図）	285
図版26	台石（実測図）	286
図版27	石鎚（写真）	287
図版28	石鎚（写真）	288
図版29	石鎚（写真）	289
図版30	石鎚（写真）	290
図版31	石鎚（写真）	291
図版32	石鎚（写真）	292
図版33	石鎚（写真）	293
図版34	石鎚（写真）	294
図版35	石鎚（写真）	295
図版36	石鎚（写真）	296

図版37	石錐（写真）	297
図版38	石錐（写真）	298
図版39	石錐（写真）	299
図版40	石錐（写真）	300
図版41	石錐（写真）	301
図版42	石錐・投弾（写真）	302
図版43	投弾・石斧（写真）	303
図版44	石庖丁（写真）	304
図版45	石庖丁（写真）	305
図版46	石庖丁（写真）	306
図版47	石庖丁（写真）	307
図版48	石庖丁（写真）	308
図版49	石庖丁（写真）	309
図版50	石庖丁（写真）	310
図版51	石庖丁（写真）	311
図版52	大型石庖丁（写真）	312
図版53	大型石庖丁（写真）	313
図版54	大型石庖丁・打製石庖丁（写真）	314
図版55	石槍（写真）	315
図版56	石槍（写真）	316
図版57	石槍・石剣・石小刀（写真）	317
図版58	石斧（写真）	318
図版59	石斧（写真）	319
図版60	石斧（写真）	320
図版61	石斧（写真）	321
図版62	石斧（写真）	322
図版63	石斧・玉砥石（写真）	323
図版64	玉砥石（写真）	324
図版65	砥石（写真）	325
図版66	砥石（写真）	326
図版67	砥石（写真）	327
図版68	砥石（写真）	328
図版69	砥石（写真）	329
図版70	砥石（写真）	330
図版71	砥石（写真）	331
図版72	砥石（写真）	332
図版73	砥石（写真）	333
図版74	敲石（写真）	334

図版75	敲石（写真）	335
図版76	敲石（写真）	336
図版77	敲石（写真）	337
図版78	敲石・石錐（写真）	338
図版79	台石（写真）	339
図版80	台石（写真）	340
図版81	台石・凹石（写真）	341
図版82	勾玉・管玉・碧玉原石・用途不明石器（写真）	342
図版83	刃器（写真）	343

はじめに

本報告書は、昭和60年10月から昭和61年7月に実施した大阪府寝屋川市初町所在の高宮八丁遺跡出土の石器類に関する整理結果をまとめたものである。

「石器類」として本書で取り扱うものは、武器・狩猟具としての石鎌、石槍、石剣、石匙、投弾等であり、収穫具としての石庖丁、大型石庖丁、打製石庖丁等で、工具としての石錐、扁平片刃石斧、柱状片刃石斧、大型蛤刃石斧、打製石斧、石小刀、敲石、砥石、台石、凹石等で、漁撈具としての石鍤、装身具としての勾玉、管玉等である。その他として、前記のどの種類にも分類できない用途不明石製品、從来さまざまな名称で呼ばれており一辺あるいはそれ以上の辺に調整剥離によって刃部をつくり出している刃器がある。

製作途中において生じるサスカイトの剥片、石核やその他の石材の剥片、自然礫や礫については含まれていない。

各石器の出土数については第1表出土石器組成表のとおりである。

個々の石器については、各節において種類別に記載し、観察表を掲載した。

第1表 出土石器組成表

出土遺物	数	出土遺物	数
石鎌	600	打製石斧	7
石槍	39	石小刀	4
磨製石剣	8	敲石	39
打製石剣	8	砥石	96
石匙	1	玉	16
投弾	38	台石	9
石庖丁	199	凹石	1
大型石庖丁	11	石鍤	5
打製石庖丁	2	勾玉	1
石錐	331	管玉	2
扁平片刃石斧	34	用途不明石製品	20
柱状片刃石斧	2	刃器	240+α
大型蛤刃石斧	59	合計	1792+α

第1章 高宮八丁遺跡の環境

高宮八丁遺跡は、寝屋川市初町（はっちょう）332番1他（小字名北高田）に所在する弥生時代前期から中期にかけての集落遺跡である。

遺跡の所在する寝屋川市は、大阪府の東北部に位置し、市の地形は東西6.89km、南北6.74km、面積24km²であり、大きく東部丘陵地帯と西部平坦地帯に別けることができる。

東部丘陵地帯は、大阪府と奈良県の府県境に連なる生駒山系の西側斜面から派生した洪積層の大坂層群により形成され、西部平坦地帯は沖積層によって形成されている。

高宮八丁遺跡は、この東部丘陵地帯と西部平坦地帯の接点に位置している。市内を流れる河川としては、母なる北の河淀川をはじめとして、寝屋川、古川、瀬良川、前川、南前川、打上川、楠根川等があり、淀川と古川以外はいずれもその源を東部生駒系の山間に発している。

高宮八丁遺跡は、本市の市名にもなっており市内を貫流している寝屋川の左岸に位置している。

高宮八丁遺跡の所在する大阪平野の地形発達については、梶山彦太郎・市原実両氏のすぐれた研究成果があり、それによると約3,000~2,000年前に大阪平野の北に大きく形成されていた河内潟の北東に位置し、寝屋川左岸に形成された低湿地に立地している。遺跡内における各層は北東から南西方向へゆるやかに傾斜を示しており、これは遺跡の立地条件によるものであろう。

高宮八丁遺跡は、その出土遺物から弥生時代前期（畿内第Ⅰ様式中段階）から中期中葉（畿内第Ⅲ様式）に至る間古代河内潟北岸の低地に形成された弥生聚落であり、遺物や遺構、遺物包含層の状況などから大きく2時期に区分することができる。

第1の時期としては、弥生時代前期中葉から前期末までの畿内第Ⅰ様式中段階から第Ⅰ様式新段階の時期であり、第2の時期は、弥生時代前期末から中期中葉までの畿内第Ⅰ様式新段階から第Ⅲ様式の時期である。本遺跡では、頸部に明確な段をもつ畿内第Ⅰ様式古段階に属する土器も少数出土しているが、現在土器の洗浄作業が完全に終了していない段階でもあり、現時点では当遺跡の聚落成立の開始時期は畿内第Ⅰ様式中段階にとどめておきたい。

高宮八丁遺跡の最盛期は、その遺物の出土量からみて弥生時代前期末（畿内第Ⅰ様式新段階）から中期前半（畿内第Ⅱ様式）の時期であり、畿内第Ⅲ様式の時期に属する遺物は少なくなる状況がみられる。

畿内第Ⅱ様式の時期には、当遺跡の東約800mの海拔60m近い太秦の丘陵の頂上付近には高地性聚落遺跡として、学史上有名な太秦遺跡が出現する。

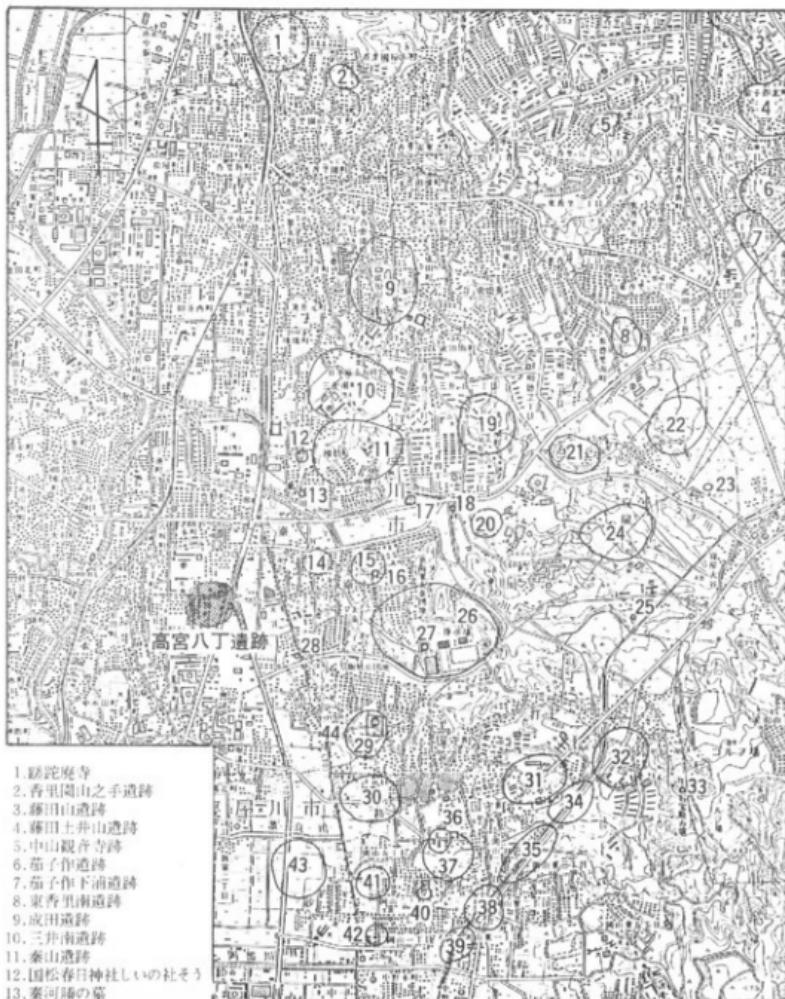
今後、高宮八丁遺跡及び太秦遺跡の調査が進むことにより密接な関係にあると推察される両遺跡の関連が解明されていくものと考えられる。

註

- (1) 梶山彦太郎・市原実「大阪平野の発達史—¹⁴C年代データーからみた—」『地質学論集』第7号 1972
梶山彦太郎・市原実『讀大阪平野發達史』1985
- (2) 瀬川芳則「弥生文化と農耕」『大阪府史』第一巻古代編 I 1978
瀬川芳則「太秦遺跡」『寝屋川市の文化財第1集』1979



挿図1 調査地位置図



1. 駿陀庵寺
 2. 香里開山之手遺跡
 3. 藤田山遺跡
 4. 藤田土井山遺跡
 5. 中山觀音寺跡
 6. 茄子作遺跡
 7. 茄子作下浦遺跡
 8. 東香乳南遺跡
 9. 成田遺跡
 10. 三井南遺跡
 11. 秦山遺跡
 12. 国松春日神社しいの社そう
 13. 秦河陽の墓
 14. 神宮寺跡
 15. 太秦庵寺
 16. 奥駒輪出土地
 17. 延喜式内御屋神社
 18. 題シ塚
 19. 池の瀬遺跡
 20. 太秦北遺跡
 21. 寝屋遺跡
 22. 寝屋東遺跡
 23. 寝屋長者屋敷跨伝承地
 24. 寝屋南遺跡
 25. 寝屋古墳
 26. 太秦遺跡・太秦古墳群
 27. トノ山(高塚)古墳
 28. 韓式土器出土地
 29. 高宮麻寺跡(国史跡)・高宮遺跡
 30. 小路遺跡
 31. 国守西遺跡
 32. 打上遺跡
 33. 石の宝殿古墳(国史跡)
 34. 国守遺跡
 35. 坂井遺跡
 36. 謹良寺跡
 37. 岡山遺跡
 38. 忍ヶ岡駅前遺跡
 39. 南山下遺跡
 40. 忍ヶ岡古墳
 41. 北口遺跡
 42. 奈良田遺跡
 43. 砂遺跡
 44. 延喜式内高宮神社

挿図2 高宮八丁遺跡周辺遺跡分布図

第2章 武器・狩獵具

本遺跡出土の武器・狩獵具としては、石鎌、石槍、石剣、石匙、投弾があげられる。

石剣については、磨製品と打製品があり、特に磨製石剣については儀品・祭紀用具、副葬品としての用途も考えられるが、本遺跡での出土状況からみて武器に含めるものとする。しかし、磨製品・打製品を含めて今後機能と形態から検討していく必要がある。

石匙については、狩獵に伴う「皮はぎ」として狩獵具に含めた。

第1節 石 鎌（図版1～3・27～36－1～555）

本遺跡出土の石鎌は総数600点である。本遺跡からは磨製石鎌は1点も出土しておらず、全て打製石鎌である。

石鎌の形態分類は、基部の形態により分類した『紫雲出』を基本としている『池上遺跡 石器編』に準じて、凹基無茎式、平基無茎式、円基無茎式、尖基無茎式、凸基有茎式の5形態に分類した。

その他に前記5形態に属さない特殊形態も出土している。

調整刃離の状況は、石鎌の両面全体に施されるものと、大剥離面を残し側刃（基部も含む）に細かな調整を施すものに大別することができる。側刃の調整の一形態として鋸歯状に整えているものもある。

石材は1点以外は全てサスカイトであり、二上山周辺産のものが90%を占め、残り10%が他地域産（金山産）のものである。

a) 凹基無茎式（図版1・27～32－1～303）

凹基無茎式のものは303点出土している。本遺跡から出土している石鎌の55%を占め、最も量の多い形態である。

石材は（136）の粘板岩以外は全てサスカイトであり、二上山周辺に産するサスカイトが大半であるが、他地域産（金山産）とみられるものも27点（11・15・18・30・42・67・82・84・106・128・135・150・167・175・176・189・190・211・233・236・263・271・281・287・298・300・303－凹基無茎式の8.9%）出土している。

法量は、長さ12.0～45.0mm（平均24.0mm）、幅9.0～26.0mm（平均15.9mm）、厚さ2.0～7.0mm（平均3.9mm）、重さ0.2～6.3g（平均1.3g）を測る。

凹基無茎式の平面形態はバラエティに豊み、基辺・側辺とも多くの変化がみられる。

- 基辺の抉りが深く直線的（V字形に凹むもの）（1～13）
- 基辺の抉りが三角形状で浅いもの（14～33）
- 基辺の抉りが深く半円状に凹むもの（34～59）
- 基辺が台形状に凹むもの（85～108）
- 基辺が浅い半円状に凹むもの（150～176）
- 基辺が浅く半円状に凹み、側辺に丸みをもつもの（177～205）
- 基辺が浅く半円状に凹み、全体形が五角形に近いもの（206～209）
- 基辺が浅い半円状に凹み、縦長の形態のもの（210～227）
- 基辺が浅い半円状に凹み、側辺は丸みをもつ縱長のもの（228～246）

- 基辺が直線に近いもの (247~287)
- 全体形が五角形に近いもの (60~84)
- 側辺がふくらみをもつ部分と内弯する部分が組み合わさっているもの (109~149) - この形態の内 (133~136) は、基辺近くの側辺の抉りが深いものである。
- 側辺の一部あるいは全部を鋸歯状に調整しているもの (6・24・57・58・156・173~176・204・205・209・245・246・252・264・284~287)
- 両側辺及び一侧辺に棘状の突起をもつもの (10・43・51)

以上のごとく凹基無茎式石鎚は、調整方法での細分の他に形態上からの細分も今後の検討課題である。

b) 平基無茎式 (図版 2・32・33・304~393)

平基無茎式のものは90点出土しており、凹基無茎式に次いで多い形態 (出土石鎚総数の16.3%) のものである。

石材は全てサスカイトであり、二上山周辺のサスカイトの他に、他地域産 (金山産) とみられるものも10点 (304・315・316・327・333・357・362・363・382・393-平基無茎式の11.1%) 出土している。

法量は、長さ15.5~49.0mm (平均27.1mm)、幅9.0~56.0mm (平均17.8mm)、厚さ2.0~7.0mm (平均4.1mm)、重さ0.4~9.9g (平均1.8g) を測る。

基辺は中軸線に対して直交するものが大半であり、やや外彎するもの (325・328) もある。

- 平面形態は正三角形に近い形を呈するもの (304~334)
- 側辺が丸みをもっているもの (335~360)
- 二等辺三角形に近い形を呈するもの (361~393) - このタイプのものは、全体に擬長である。
また側辺の一部あるいは全部に鋸歯状の調整を施しているもの (313・314・330・331・344~346・360・386~390) もみられる。

c) 円基無茎式 (図版 2・3・34・35~394~471)

円基無茎式のものは78点出土している。(出土石鎚総数の14.2%)

石材は二上山周辺のサスカイトが大半を占め、他地域産 (金山産) とみられるものは6点 (405・408・417・428・450・454-円基無茎式の7.7%) 出土している。

法量は長さ19.0~45.0mm (平均28.0mm)、幅9.0~25.0mm (平均14.8mm)、厚さ2.5~9.0mm (平均4.0mm)、重さ0.4~8.8g (平均1.7g) を測る。

円基式に分類したものは、基辺が外彎するものであり、

- 基辺が丸く浅く外彎するもの (394~419)
- 基辺が丸く大きく外彎するもの (420~451)
- 細形のもの (452~471)

がある。

各細分の内には、先端を細く鋭く突出させているもの (397・407・434・437・444~447・449・452・461・462・466・467) や、側辺の一部あるいは全部に鋸歯状の調整を施しているもの (399・401・416・442・444~451・464~466) もみられる。

このタイプの側辺は、先端からゆるやかなカーブをもって基辺に至るもののがほとんどで、全体的に

丸みのあるものである。

d) 尖基無茎式 (図版3・35・36-472~532)

尖基無茎式のものは61点出土している。(出土石器総数の11.1%)

石材は二上山周辺のサスカイトの他に、他地域産(金山産)とみられるものが6点(476・503・504・517・529・531-尖基無茎式の9.8%)出土している。

法量は、長さ20.3~62.5mm(平均32.5mm)、幅9.6~21.5mm(平均14.8mm)、厚さ2.3~9.5mm(平均4.3mm)、重さ0.3~10.1g(平均2.2g)を測る。

側辺はゆるやかに外彌するものが大半であり、直線的なものもみられる。

○最大幅(逆刺)が基部中央よりやや下位にあるもの(472~495)

○最大幅(逆刺)が基端寄りにあるもの(496~508)

○柳葉形のもの(509~520)

○側辺が直線的で菱形に近いもの(521~532)

がある。

先端部を細く鋭く突出させているもの(515~517)や、側辺の一部あるいは全部に鋸歯状の調整を施しているもの(476・511・518~520)、(508)は両側刃先端付近に棘状の突起を有し、両面両側刃沿いにはあらい剥離の後、細かな調整を施している。両面とも基部中央に大剥離面を残している。棘状突起の断面はレンズ状を呈している。

e) 凸基有茎式 (図版3・36-533~551)

凸基有茎式のものは19点出土しており、5形態の中では最も数量の少ない形態で出土石器総数の3.4%である。

石材は全て二上山周辺で産出するサスカイトであり、他地域のものは含まれていない。他地域産のサスカイトで含まれていないのは後述する特殊形態を除いては、5形態の内この凸基有茎式だけである。

法量は、長さ24.0~52.5mm(平均35.0mm)、幅11.0~25.0mm(平均14.6mm)、厚さ3.0~9.0mm(平均5.6mm)、重さ0.7~9.6g(平均3.0g)を測る。

側辺の形態は丸みをもつものと、直線的なものに大別でき、逆刺部も角をなすものと丸くながらかなものに大別できる。

逆刺から基部に至る抉りは、

○浅くながらかなもの(533~543)

○深く角をもつもの(544~551)

がある。

全体形が丸みをもち幅広のもの(533・534・535・542~545・549・551)と細形のもの(536~541・546~548・550)に大別できる。

f) 特殊形態 (図版36-552~555)

(552)は、先端が欠損しており、逆刺と基端は鋭く側辺には鋸歯状剥離調整が施されている。(553)は、両逆刺の大きさに著しい差があり先端は丸くおさめている。全体にかなり風化している。(554)は、先端及び基端(茎基部端)を欠損している。有茎式のタイプと思われるが、直線的な側辺は縱方向に研磨が施され、研磨された箇所は面を形成している。(555)は、二等辺三角形を呈するが各角は

丸みをもっている。石庭丁の端部を再加工して利用している。

以上のように各タイプの石鎚について触れてきたが、以下全体的にみた傾向等について述べることにする。

本遺跡は弥生時代畿内第Ⅰ様式中段階から第Ⅲ様式古段階の土器が出上しており、石鎚についてもこれらの時期に伴うものである。

出土石鎚の各器種の割合は、凹基無茎式55.0%、平基無茎式16.3%、円基無茎式14.2%、尖基無茎式11.1%、凸基有茎式3.4%となっており凹・平基式群が全体の71.3%を占め凸基式群（円基無茎式、尖基無茎式、凸基有茎式）の28.7%を大きく上回っており、凹・平基式群の石鎚が本遺跡の主体となっていることがわかる。（各時期の傾向については現在土器の整理作業が完了していない点もあり後にゆづりたい。）

各形式の長さについては第2表のとおりである。各形式の中心は、凹基無茎式は1.5～3.5cm、平基無茎式は2.0～3.5cm、円基無茎式は2.0～3.5cm、尖基無茎式は2.0～3.9cm、凸基有茎式は2.5～3.9cmの範囲にある。3cmを境としてみると、凹基無茎式は79.1%が3cm以下、平基無茎式は61.7%が3cm以下、円基無茎式は62.5%が3cm以下、尖基無茎式は36.1%が3cm以下、凸基有茎式は36.3%が3cm以下という傾向を示す。

次に重さについては、第3表のとおりであり、各形式の中心は凹基無茎式は0.5～1.9g、平基無茎式は0.5～1.9g、円基無茎式は0.5～1.9g、尖基無茎式は1.0～1.9g、凸基有茎式は1.0～1.9gの範囲である。

畿内では弥生時代前期新段階に石鎚の大型化がはじまり、凸基式群の石鎚が増加すると言われております、本遺跡においても凸基式群が出土するようになる。しかし、長さ及び重量の点からみるとけっして大型化しているとは言えず、全形式とも長さでは2～3cm、重さでは1.0～1.9g台のものが中心となる傾向にある。

このことは、他地域の様相と若干異なった傾向を示しており、今後北河内地域における前期～中期遺跡の資料の増加をまち、また、本遺跡の東約800mに位置している中期初頭に出現する高地性集落の太秦遺跡との関連も含めて検討していきたい。

註

- (1) 小林行雄・佐原眞『紫雲出』詫間町文化財保護委員会 1964
- (2) 石神章子・村上富貴子・池北孝男『池上遺跡 第3分冊の2 石器編』財團法人大阪文化財センター
- (3) 佐原眞「かつて戦争があった—石鎚の変質—」『古代学研究』78 1975

第2表 出土石鏃長さ別点数

形状名	長さ(cm)	0~0.9	1.0~1.9	2.0~2.9	3.0~3.9	4.0~4.9	5.0~5.9	計
四基無茎式		2	23	44	22	15	7	1 1
		1.7	20.0	38.3	19.1	13.0	6.1	0.9 0.9
平基無茎式		3	12	14	15	2	1	47点
		6.4	25.5	29.8	31.9	4.3	2.1	100%
円基無茎式		2	10	18	11	5	1 1	48点
		4.2	20.8	37.5	22.9	10.4	2.1 2.1	100%
尖基無茎式		5	8	11	7	2	1 2	36点
		13.9	22.2	30.5	19.4	5.6	2.8 5.6	100%
凸基有茎式		4	3	2		1	1	11点
		36.3	27.3	18.2		9.1	9.1	100%

(欠損品は除く)

第3表 出土石鏃重量別点数

形状名	重さ(g)	0.1~0.9	1.0~1.9	2.0~2.9	3.0~3.9	4.0~4.9	5.0~5.9	6.0~6.9	計
四基無茎式	7	43	27	25	4	2	3 1	2	1 115点
	6.1	37.4	23.5	21.7	3.5	1.7	2.6 0.9	1.7	0.9 100%
平基無茎式		10	11	9	5 4	2	4 2		47点
		21.3	23.4	9.1	10.6	8.5	4.3 8.5	4.3	100%
円基無茎式		8	17	13	5 2	1	2		48点
		16.6	35.4	27.1	10.4	4.2	2.1 4.2		100%
尖基無茎式		5	10	7	4 2	2	2	2 1 1	36点
		13.9	27.8	19.4	11.1	5.6	5.6 5.6	5.6 2.7 2.7	100%
凸基有茎式		3	4	1				2	1 11点
		27.3	36.3	9.1				18.2	9.1 100%
計		7	66	68	58	19	10 8 9	4 2 4 1	1 257点
		2.7	25.7	26.5	22.6	7.4	3.9 3.1 3.5	1.5 0.8 1.5 0.4	0.4 100%

(欠損品は除く)

石鏃(凹基無蓋式)

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (m) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考
図版27 1	F-6 — 青灰色砂層	16.0(残存) 16.0 3.8 0.5	杏仁形		<ul style="list-style-type: none"> 先端大きく欠損 先端部は細身 逆刺は鋭い 両面とも調整面からなっているが全体になめらかで磨滅している 基辺は大きく、V字形に凹む 	
図版27 2	E-5 — 黒色粘質土層 (上層)	24.0(残存) 19.0(残存) 3.5 1.1	杏仁形		<ul style="list-style-type: none"> 片逆刺欠損 先端は使用による欠損。(欠損後も使用の可能性あり) 側辺は直線的だが逆刺付近で少し、くの字形に曲がる 基辺は非常に深く台形状に凹む 先端は鋭く、逆刺はやや鋭い 全面に調整剥離を施し、やや難である。 鶴はA面中央を通る 	
図版27 3	F-8 溝226と溝227 黒色粘質土層 (下層)	17.0(残存) 21.5(残存) 4.5 1.2	杏仁形		<ul style="list-style-type: none"> 先端及び両逆刺欠損 逆刺が長くのびるものである。 基辺は深く円形状に凹む 全体に調整剥離を施す 鶴はA面中央を通る 	
図版27 4	E-7 — 暗黄灰色砂層	26.5 17.0(残存) 3.0 0.8	扁平な杏仁形		<ul style="list-style-type: none"> 両面とも側辺沿いで調整剥離が施されているが鶴は通らず 逆刺 片方欠損 側辺はわずかに先端で段差をもつ 両面とも側辺部と基辺部にステップ状剥離 先端は鋭く、逆刺も鋭い 基辺は半円状に大きく凹む 薄身 	
図版27 5	E-4 — 黒色粘質土層 (下層)	39.5(残存) 16.5(残存) 6.0 2.4	三角形		<ul style="list-style-type: none"> 縦長で厚みあり 逆刺片方欠損 両面とも全体に調整面からなるが、A面は急角度で中央に鶴が明瞭に通っている 先端は鋭い方で、逆刺は鈍い 基辺はV字型に大きく凹む 	
図版27 6	D-7・E-7 間觀察用断面 — 灰黑色粘質土層 (砂まじり)	22.5 14.0 4.0 0.9	杏仁形		<ul style="list-style-type: none"> 先端はわずかに欠損 基部中央沿いから先端に向けてすぼまる 両面とも調整面よりなる 両側辺とも基部中央にわずかに鎌歛状を呈す 逆刺はやや鋭い 基辺は台形状に深く凹む B面の調整は先端部、左側辺に混在する 基辺は深く丸みのある三角形 	
図版27 7	E-6 — —	20.5 14.5(残存) 4.0 0.8	杏仁形		<ul style="list-style-type: none"> 片逆刺及び基辺大半を欠損 両側辺はほぼ直線的 基辺は凹むが形状不明 先端、逆刺は鈍い B面中央に大剥離面 調整剥離は、A面では細かいがB面では大まかである 全体的に磨滅を受けている 	

石鏡（凹基無茎式）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考
図版27 8	E-6 — 暗黄灰色砂質土層 (粘土まじり)	22.2 16.0 4.9 1.2	扁平な杏仁形		<ul style="list-style-type: none"> 先端部上半とA面右側辺の逆刺を欠損する 側辺は直線的だが逆刺においてやや外彎する 逆刺は鋸く突出し、基辺はくの字状に深く屈曲する 各辺両面より調整剥離を施し、逆刺もでいねいな調整剥離で整形 鍔はA面中央から逆刺先端まで通る 各辺ともエッジは薄く鋭い 	
図版27 9	D-3 — 黒色粘質土層 (下層)	22.7 16.3 3.2 1.1	扁平な六角形		<ul style="list-style-type: none"> 基辺はくの字形を呈するが、A面左側の逆刺を欠損し、右側も逆刺を欠損する 両辺とも両面より調整剥離 両側辺とともに、先端部は調整剥離の後、折れ面を呈す A面右側辺の剥離はステップ状を呈す 基辺の調整はA面側の剥離により抉られている A面右側面と逆刺部のみエッジが鋭い 	未製品
図版1.27 10	E-5 溝238 灰黒色粘質土層 (木片多し)	38.0 20.0 6.0 3.3	菱形		<ul style="list-style-type: none"> 基辺はややV字形に近い凹みを有する 片面は鍋が通っているが、他方はステップ状を呈する剥離が混在する 両面両側辺には、細かな調整剥離が施されている 逆刺は鋭い 	
図版27 11	F-8 — 黒色粘質土層 (上層)	28.3(残存) 14.5(残存)	四辺形		<ul style="list-style-type: none"> 片側辺が中央部から逆刺にかけて欠損 もう一方の逆刺も少し欠損 剥離は側辺及び基辺沿いに見られるが側辺の一部に見られないところがある 中央には大剥離面残存 先端は鋭い 	金山産
図版27 12	E-6 — 灰黒色粘質土層 (砂まじり)	21.0(残存) 18.5 3.0 1.1	扁平な杏仁形		<ul style="list-style-type: none"> 細身 先端部欠損 両側辺に不明瞭な肩を有し、両肩の位置はずれている 基辺は三角形状に凹む 両逆刺はやや鋭い 基辺沿いに大きめの調整剥離を残し、両側辺には細かい調整剥離を施す A面両側辺にステップ状剥離 	
図版27 13	E-7 溝24 暗黄灰色砂質土層	20.2(残存) 10.5(残存)	扁平な杏仁形 (残存部から推定)		<ul style="list-style-type: none"> 右側辺は縱方向に剥離欠損 左側辺先端、逆刺下端も欠損 基辺の凹みは深い 両面とも両側辺より調整剥離を施し、B面には大剥離面残存 基辺も両面に大きい調整剥離を施す 	
図版27 14	E-7 溝24 暗黄灰色砂質土層 (粘土まじり)	17.0(残存) 9.0 3.0 0.4	不整三角形状		<ul style="list-style-type: none"> 小型 先端欠損 両面とも全体が調整面からなる 両側辺は基辺部ですぼまる 基辺は三角形状に凹む 逆刺は一方が鋭く、他方は钝い 	

石器（四基無茎式）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (m) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考
図版27 15	E-6 —— 暗黄灰色砂層	17.0 —— 12.0 2.5 0.5	扁平な不整三角形	●小型 ●両面とも側辺沿いに、小さく細かな調整剥離が施されている ●中央には大剥離面が残存 ●B面の中央が凹んでいる ●先端は丸みをもち、逆刺は鋭い ●基辺は浅いV字型に凹む	金山産	
図版27 16	D-4 —— 黑色粘質土層 (下層)	16.0(残存) —— 12.5 3.0 0.5	杏仁形	●超小型 ●片逆刺わずかに欠損 ●全体的に丸みを帯び、いびつ ●片側辺は逆刺付近で小さく凹む ●基辺は三角形状に凹む ●先端・逆刺とも鋭い ●B面ほぼ中央に大剥離面を小さく残す ●A面両側辺、B面左側辺にステップ状剥離		
図版27 17	E-6 —— 黑色粘質土層 (下層)	21.2 —— 14.2 3.0 0.7	不整四辺形	●A面は全体に調整剥離 ●B面は中央に大剥離面を残す ●側辺、基辺沿いに調整剥離 ●先端は鈍く、逆刺も鈍く丸みをおびる ●基辺は浅いが三角形状に凹む		
図版27 18	D-3 —— 黑色粘質土層 (上層)	21.5 —— 15.0 4.5 1.1	四辺形	●小型 ●両面とも調整全面からなるがA面に大きなステップ状剥離が中央に見られ、厚みをもつ ●先端は丸みをおび、側辺は基辺寄りですぼまる ●逆刺は丸くなっている ●基辺の凹みは浅い	金山産	
図版27 19	C-3・D-3 間觀察用断面 —— 黑色粘質土層 (上層)	21.5 —— 14.5 4.5 1.2	四辺形	●小型 ●A面は大きな粗い調整 ●B面は右側辺がほとんど未調整のまま ●先端は鋭い	未製品	
図版27 20	E-6 —— 暗黄灰色砂質土層 (粘土まじり)	11.0(残存) —— 14.0 3.0 0.6	杏仁形	●小型 ●上半分を欠損 ●基辺は三角形状に凹む ●逆刺は丸い ●B面中央に大剥離面を残す ●調整剥離はやや複数 ●全体的に著しい磨滅をうけている		
図版27 21	E-5 西側觀察用断面 —— 灰黑色粘質土層	19.0(残存) —— 17.0(残存) 4.5 1.3	杏仁形	●先端欠損し磨滅 ●両逆刺とも欠損 ●全体に表面がなめらかで、両側辺も磨滅 ●両面とも基部中央に大剥離面を残す ●全体的に風化		
図版27 22	E-5 —— 黑色粘質土層 (上層)	14.0(残存) —— 12.5(残存) 3.5 0.6	扁平な菱形	●小型 ●先端部欠損 ●基部中央に両面とも大剥離面を残し、ステップ状剥離が混在 ●右逆刺欠損 ●B面右側辺は左側辺に比べて小さい調整が施され、不揃いである		

石鏡（凹基無茎式）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考
図版27 23	E-4 — 黒色粘質土層 (上層)	16.0(残存) 16.5(残存) 2.5 0.6		扁平な扇形	<ul style="list-style-type: none"> 扁平 上半分及び片逆刺欠損 片側辺ではくの字形にゆるく曲がる 基辺は台形状に凹み、さらにはば中央で小さく円形状に凹む 両面とも大剥離面を大きく残す A面左側辺・基辺・B面基辺沿いにステップ状剥離 調整剥離は、両面とも左側辺及び基辺の左半分に集中しており、右側面においてはわずかである 	
図版27 24	E-7 溝24 暗黄灰色砂層	26.0(残存) 17.5(残存) 3.0 1.4		扇形	<ul style="list-style-type: none"> 両逆刺を欠損 二等辺三角形を呈し、上より3分の1ほどの所が最も厚い 基辺は浅く凹むが、成形前の剥離をそのまま利用しており、垂直に近い角度である 先端はやや鋭い A面右下、及びB面中央に大剥離面を残し、特にB面の剥離は大きい 比較的細かい調整剥離で側辺を仕上げている 	
図版27 25	E-5 — 黒色粘質土層 (上層)	16.0(残存) 18.5 5.0 1.4		扇形	<ul style="list-style-type: none"> 上半分を欠損 逆刺は片方が他方より大きい 基辺は三角形状に凹む 逆刺はやや鋭い A面左側辺沿いに大きなステップ状剥離 調整剥離は複数ある 	
図版27 26	E-7 溝24 暗黄灰色砂層	26.5(残存) 14.0 4.0 0.7		杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> 上半分を欠損 細長 両側辺は、浅く凹凸を繰り返す 基辺は丸みをもって三角形状に凹む 逆刺はやや鋭い 調整剥離を全体に、複数施す 基辺よりやや離れた所に最も厚みをもつ 	
図版27 27	F-7 溝238 暗黒色粘質土層	13.5(残存) 16.0(残存) 4.0 0.8		扇形	<ul style="list-style-type: none"> 上半分及び両逆刺を欠損 基辺は三角形状に凹む 調整剥離を全体に施す 	
図版27 28	F-7 — 青灰色砂層 (黒ブチ混り)	22.0(残存) 17.0(残存) 3.5 1.0		不整扇形	<ul style="list-style-type: none"> 薄身 先端部欠損 片逆刺が少し欠損、他方の逆刺部が大きく欠損 調整剥離は全体に複数 基辺の凹みは三角形状 	
図版27 29	F-7 溝225 灰黒色粘質土層	23.5(残存) 14.5(残存) 3.5 0.7		四辺形	<ul style="list-style-type: none"> 縱長 先端と片逆刺が少し欠損し、他方逆刺部が大きく欠損 片側辺が先端部で一度段をもつ 両面とも調整面からなるが、ステップ状剥離も混在する 基辺の凹みは大きい 	

石鎚（凹基無茎式）

國版番号	出土地名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特 徴	備 考
国版27 30	Z Z —— ——	22.0(残存) 16.5 3.5 1.2	扁平な杏仁形	●薄身 ●先端部欠損 ●両面とも調整面よりなり、周辺沿いの調整の一部は磨滅 ●両逆刺は丸みをもつ ●基辺は浅い三角形状 ●全体に調整は粗い		金山産
国版27 31	E - 8 —— 灰黒色粘質土層 (木片多し)	37.0 14.5 5.5 1.3	杏仁形	●綫長で厚み ●先端で一度段をもつ ●両面に細かな調整剥離が施される ●先端は鋭い ●逆刺は鈍く、両逆刺の形がいびつ ●A面にステップ状剥離が混在		
国版27 32	E - 5 溝222 黒灰色粘質土層	32.0(残存) 15.0 4.5 1.5	三角形状	●綫長で先端欠損 ●側辺の片側は、先端から中央にかけてあまり広がらず、中央から逆刺にかけて広がりをもち、他方は一度先端部で段をもち、逆刺部でもう一度広がりをもつ ●逆刺は鋭い ●A面は急角度の調整剥離で、中央にわずかに鏽が通り、ステップ状剥離も混在 ●B面は全体が調整面からなり、鏽は通らず ●基辺は三角形状に近い凹み		
国版27 33	E - 4 —— 黒色粘質土層 (上層)	43.0(残存) 23.0(残存) 6.0 6.3	不整な六角形	●先端及び両逆刺を欠損 ●大型で綫長 ●全体的にいびつ ●基辺は三角形状に凹む ●両面に大削離面を大きく残す ●両面とも各辺から調整剥離を大まかに施すが、B面右側邊では部分的に施す ●A面両側辺、B面基辺沿いにステップ状剥離		未製品
国版27 34	E - 7 溝24 暗黄灰色砂層	18.5 11.0 3.0 0.3	扁平な杏仁形	●小型 ●薄身、基辺は半円状に凹む ●両面とも調整面からなりステップ状剥離も混在する ●最大厚が基辺寄りにみられる ●先端は鋭い、逆刺はやや鋭い		
国版27 35	E - 5 溝238 黒灰色粘質土層	23.0(残存) 14.5(残存) 3.5 0.7	扁平な六角形	●薄身 ●両逆刺欠損 ●先端部で角をもち、基部中央で凹みをもつ ●先端から基部中央を通り両逆刺残存部分まで鏽が通る ●両面とも調整面からなり、A面に比べてB面の方が調整はていねい ●左側辺沿いにステップ状剥離を呈する ●基辺は深い半円状		
国版27 36	F - 7 —— 明黄灰色砂質土層	24.5(残存) 14.5(残存) 4.5 0.9	扁平な四辺形	●片側辺が中央部でふくらみをもつ ●A面は中央に鏽が通る調整面からなる ●B面はステップ状剥離が多く混在し、でこぼこした面である ●先端は鋭い ●逆刺は片方が欠損し、他方は鋭い ●基辺は半円状に凹む		

石器（凹基無茎式）

国版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考
国版27 37	F-7 — 黑色粘質土層 (上層)	31.5 17.0 4.2 1.7	扁平な菱形		<ul style="list-style-type: none"> 両面とも調整面からなりまたステップ状剥離も混在する 調整剥離は粗雑で鏡が通っていない 先端は鋭く、逆刺は丸くなっている 基辺は半円状に大きく凹む 	
国版27 38	D-3 — 黑色粘質土層 (上層)	28.5 16.5 3.5 1.2	扁平な菱形		<ul style="list-style-type: none"> 両面とも調整面からなるが粗い ステップ状剥離も混在する A面に鏡がかすかに中央に通る 先端は鋭く逆刺は丸い 基辺は半円状に凹む 	
国版27 39	E-6 西側觀察用断面 — 灰黒色粘質土層	19.0(残存) 15.0(残存) 4.0 0.7	三角形状		<ul style="list-style-type: none"> 先端欠損 逆刺の片方もわずかに欠損 両面とも中央に鏡が通り、ていねいな調整剥離が施されている 基辺は大きく半円状に凹む 片側辺中央に少しの凹みがある 	
国版27 40	Z Z — —	22.0(残存) 13.0(残存) 2.5 0.6	扁平な杏仁形		<ul style="list-style-type: none"> 片逆刺欠損 基辺は深く、円形状に凹む 先端、逆刺ともやや鋭い B面中央に大剥離面残存 A面左側辺中央に新しい割れ 調整剥離を両面各辺から大まかに施す A面中央を鏡が通るが不明瞭 風化著しい 	
国版27 41	E-6 — 灰黒色粘質土層 (砂まじり)	21.0 15.0 4.7 0.9	扇形		<ul style="list-style-type: none"> 小型 両面とも側辺・基辺に調整剥離が施され、A面はB面に比べ急角度である 先端は鋭く、逆刺は一方が鋭く、他方は鋭い 両面にステップ状剥離がわずかに混在 	
国版27 42	F-6 — 黑色粘質土層 (上層)	23.5(残存) 13.0(残存) 3.5 0.6	三角形		<ul style="list-style-type: none"> 幅狭で薄身 先端、両逆刺とも欠損 先端部は細く、基部中央にかけて鏡が通る 右側辺に角をもつ 両面とも調整面よりなり、B面右側辺は急角度に入る ステップ状剥離が多く混在する 基辺は深く半円状 	金山産
国版27 43	D-3 — 黑色粘質土層 (上層)	25.0(残存) 20.0(残存) 4.5 1.8	不整な六角形		<ul style="list-style-type: none"> 片逆刺欠損 整美な三角形 片側辺にややきわだつた凹凸が見られる 基辺は深く円形状に凹む 先端は丸く收め逆刺は方形を成す A面中央に大剥離面 B面中央に自然面を残す 両面とも調整剥離が各辺からそれらの面を浮き立てるよう並んで施される 	
国版27 44	D-3 · D-4 間觀察用断面 — 黑色粘質土層 (上層)	24.0 17.0 3.7 1.1	平行四辺形		<ul style="list-style-type: none"> 両面とも先端部と基辺に細かな調整が見られ中央に大きな大剥離面を残す A面右側辺の基辺寄りに欠損が見られ、B面右側辺に大きなステップ状剥離が見られる 先端は鋭い方で逆刺は鋭い 基辺は深い半円状に凹む 	

石鏡(四基無茎式)

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考
図版27 45	E-6 — 黑色粘質土層 (下層)	23.0 15.5 4.0 0.9		菱形	<ul style="list-style-type: none"> A面は両側辺基辺沿いに比較的ていねいな調整剥離が施され中央には大剥離面が残存する B面の左側辺は整った調整であるが右側辺と基辺が難で中央が突出したりへこんだりしてでこぼこしている 逆刺の形が左右非対称で鈍い 先端も鈍い 	
図版27 46	E-4 — 黑色粘質土層 (上層)	27.0 17.0 4.0 1.1		四辺形	<ul style="list-style-type: none"> 両面とも調整面からなる A面左の側辺が基辺寄りでわずかに凹む 先端も逆刺も鈍い 基辺は半円状に凹むが斜基である 	
図版27 47	E-6 — 南側觀察用断面 — 明黄灰色砂質土層	24.0 17.5 2.0 0.6		扁平な杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> 薄身で先端、左逆刺とも鋭い 両面とも基部中央に大剥離面を残し、周辺にていねいな調整剥離を施す 右逆刺近くに凹むような欠損 基辺は浅い半円状 	
図版27 48	E-5 — 西側觀察用断面 — 黒色砂質土層 (上層)	19.0(残存) 17.5 3.5 0.9		六角形	<ul style="list-style-type: none"> 先端部欠損 A面は、側辺基辺沿いに調整剥離を施し、中央には大剥離面を残す B面は、全体に剥離されているが、鏡は通らず 逆刺は片方は鋭く他方は鈍い 基辺は半円状に凹むが斜基である 	
図版27 49	E-8 — 暗黄灰色砂質土層 (粘土まじり)	24.0(残存) 15.5(残存) 4.0 1.1		扇形	<ul style="list-style-type: none"> 先端、片逆刺を欠損 基辺は円形状に凹む 逆刺は鋭い B面右半分に自然面を残す A面左側辺沿いにステップ状剥離 調整剥離はA面では乱雑でありB面では大まかである 鏡はA面中央をやや不明瞭に通る 	
図版27 50	D-4 — 西側觀察用断面 — 灰黒色粘質土層	27.0(残存) 20.0(残存) 5.0 1.8		菱形	<ul style="list-style-type: none"> 先端及び片逆刺を欠損 細長 側辺は直線 基辺は半円状に凹む 逆刺は鋭い 全面に調整剥離が整美に施される B面左側辺の逆刺付近で大きなステップ状剥離 鏡はA面では右側辺に彎曲しながらB面では中央に通る 	
図版27 51	E-4 — 暗黄灰色砂質土層	30.0 26.0 5.5 2.7		四辺形	<ul style="list-style-type: none"> 先端がかなり鈍くなっている 厚みがあり幅広 片側辺が中央で段をもつ 両面全体が調整面からなる 逆刺は鈍い 基辺の凹みは広く半円状 	
図版27 52	E-7 — 黒色粘質土層 (上層)	29.5(残存) 21.5(残存) 5.5 3.0		不整な菱形	<ul style="list-style-type: none"> 両逆刺を欠損 大型 両側辺はほぼ直線的で、基辺は不整形に凹む 先端は鋭い B面に大剥離面を大きく残す 両面両側辺にステップ状剥離 調整剥離は大まかで乱雑である 	未製品

石錐（凹基無茎式）

石版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考
図版27 53	E - 4 — 黑色粘質土層 (上層)	25.0(残存) 21.0(残存) 4.0 1.9		杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> 先端及び両逆刺を欠損 基辺は円形状に凹む 調整剥離が全体に及ぶ B面左側辺・基辺にステップ状剥離 端はA面中央を通り、不明瞭 	
図版27 54	F - 8 — 暗黄灰色砂層	20.0 11.0 3.0 0.8		不整形	<ul style="list-style-type: none"> 小型 全体的に形状はいびつである 基辺は円形状に凹む 先端は丸く収める 逆刺はやや鈍い 両面中央に大きく大剥離面を残す 調整剥離を両面各辺から施すが、施されない部分もある A面左側辺沿いにステップ状剥離 	未製品
図版27 55	Z Z — —	33.0 25.0 6.0 5.0		不整四辺形	<ul style="list-style-type: none"> 先端は鈍い 逆刺は鈍く、基辺の凹みも浅い 両面とも鍛身中央に大剥離面残存 A面右側辺・左逆刺にそれぞれ段をもち、B面先端部と基辺にも見られる 両面ともに粗い調整剥離を施し、ステップ状を呈する剥離が混在する 全体に粗いつくりである 	
図版27 56	E - 5 — 黑色粘質土層 (上層)	16.0(残存) 12.0(残存) 3.0 0.5		不整形	<ul style="list-style-type: none"> 小型 両逆刺を欠損 全体的にいびつである 基辺は成形前の剥離をそのまま利用 先端は鈍い A面両側辺、B面両側辺のみ調整剥離を施す B面右下に自然の亀裂が走る 両面右側辺にステップ状剥離 両面中央に大剥離面を大きく残す 	未製品
図版28 57	F - 8 — 黑色粘質土層 (上層)	26.8(残存) 17.0(残存) 3.5 1.3		四辺形	<ul style="list-style-type: none"> 逆刺の片方大きく欠損 側辺は側辺沿いの調整のあと鋸歯状に調整剥離が施されている B面には側辺・基辺沿いにステップ状剥離が見られる 先端は鈍く、逆刺は鈍い 	
図版28 58	D - 4・D - 5 間観察用断面 — 黑色粘質土層 (上層)	27.5 23.0 4.0 1.6		扁平な杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> 幅広く扁平 先端は鈍い 先端部を寄りの一部のみ厚い 右側辺一部欠損 基部中央右寄りに大剥離面を残す 両側辺は部分的に鋸歯状を呈する 基辺においては未調整 B面先端部から基辺にかけて、大剥離面を残す 調整剥離は両側辺ともていねい 両逆刺鈍い 基辺は半円形 	

石器（凹基無茎式）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (m) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特 徴	備 考
図版28 59	試掘トレンチ1 — —	19.5 11.0(残存) 2.3 0.5		扁平	<ul style="list-style-type: none"> 小型で半分欠損 先端は鋭く突出し、側辺は丸みを帯びる 基辺は深くU字状に屈曲し、逆刺は丸く鈍い 全縁両面より調整剥離 両面とも中央は大剥離面を残す 先端部は側縁A面を深く剥離して抉る 両辺ともエッジは鋭く磨耗はみられない 	
図版28 60	E-6 南側觀察用断面 — — 黒色粘質土層 (上層)	12.0 12.5 2.0 0.2		三角形	<ul style="list-style-type: none"> 超小型 片側辺はほぼ直線的だが、もう片側辺は三角形状に凹む 基辺も半円状に凹む 先端、逆刺ともやや鈍い A面は全面に調整剥離を施すのに反し、B面では大剥離面をそのまま残し、調整剥離はほとんど施さない A面中央の1点より、先端、逆刺の3点に向かって筋がのびる 	
図版28 61	F-6 — — 黒色粘質土層 (上層)	14.5(残存) 17.5 3.0 0.5		菱形	<ul style="list-style-type: none"> 小型 先端を欠損 両側辺は三角形状に浅く凹み、基辺は半円状に浅く凹む 逆刺はやや鋭い 両面基辺沿いにステップ状剥離 調整剥離はやや薄である 	
図版28 62	E-5 — — 黒色粘質土層 (上層)	18.5 12.0 3.0 0.7		不整形	<ul style="list-style-type: none"> 小型 全体的に内彎している 両側辺の先端付近に肩を有する 基辺は深くV字形に凹む A面中央、B面左に大剥離面を残し、B面基辺沿いにステップ状剥離が見られる 両面各側辺に細かな調整剥離が施される 片方の逆刺は、他方に比べ小さい 	未製品
図版28 63	F-7 — — 黒色粘質土層 (下層)	17.0 12.0(残存) 3.0 0.6		扁平な杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> 小型 片逆刺欠損 片側辺に明顯な肩を有し、反対側は不明瞭 先端、逆刺ともやや鋭い 基辺は円形状に浅く凹む B面中央に大剥離面を残す 	
図版28 64	D-5 — — 黒色粘質土層 (上層)	20.0 19.0 3.0 1.1		五角形	<ul style="list-style-type: none"> 小型 両面とも調整面からなる 先端は鈍い方 逆刺は一方が鋭く、他方は鈍い 逆刺の鋭い方は先端よりもていねいな調整剥離が施されている 基辺はわずかに凹む 	
図版28 65	E-6 — — 暗黄灰色砂質土層 (粘土まじり)	15.5(残存) 16.0(残存) 3.0 0.7		杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> 小型 片逆刺をわずかに欠損 片側辺は先端付近で小さく凹む 基辺は円形状に凹む 先端、逆刺とも丸く収める 両面中央に大剥離面を残す B面右側辺にステップ状剥離 調整剥離を乱雑に施す 	

石錠（凹基無蓋式）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考
図版28 66	E-5 溝238 黒灰色粘質土層 (上層)	19.0 14.5 3.0 0.7	扁平な杏仁形	●小型 ●五角形を呈する ●基辺はわずかに凹む ●先端、両側辺中央、両逆刺はやや鋭い ●片側辺に自然面を残す ●基辺には成形前の剥離を残す ●B面は大剥離面そのままで調整剥離を加えず ●A面も大剥離面を残すが、調整剥離は左側辺及び基辺のみである ●特に左下側辺は乱雑な調整剥離で凹凸が激しい ●A面基辺沿いにステップ状剥離	未製品	
図版1-28 67	F-6 —— 黒色粘質土層 (下層)	16.5 16.0 3.5 0.7	扁平な六角形	●小型 ●先端は鋭く、逆刺は鈍い ●側辺に明瞭な肩を有するが、A面右より左の方が高い位置（先端部に近い）にある ●肩の逆刺は鈍い ●両面とも中央に大剥離面を残す ●基辺の調整剥離は側辺に比べ小さい ●両面の基辺沿いに急角度に入る細かな調整剥離 ●両面にステップ状剥離がみられるが、A面の左側辺のものは明瞭 ●断面は不整形 ●B面の右側辺に穴がある	金山産	
図版28 68	E-7 —— 黒色粘質土層 (上層)	17.5(残存) 17.0 3.0 0.8	菱形	●小型 ●先端欠損 ●側辺・基辺沿いに調整剥離が施されている ●側辺は基辺寄りですぼまる ●逆刺は鈍い ●基辺の凹みは浅い半円状		
図版1-28 69	E-5 —— 黒灰色粘質土層 (下層)	19.0 17.0 4.0 1.0	三角形	●先端は鈍く、A面右肩は鋭い ●逆刺はA面右から丸みをもつ ●両側辺は中央で段（肩）をもち、比較的A面右の方が大きな段になる ●A面中央右に原石面、B面中央に大剥離面残存 ●A面は側辺、基辺に調整剥離が中央にむけて急角度で施され、先端から中央にかけて鎌が通る ●両面わずかにステップ状剥離混在		
図版28 70	E-6 —— 灰黑色砂質土層 (上層)	18.0(残存) 17.0(残存) 4.0 0.9	不整形	●小型 ●先端が丸くなっている ●両面とも粗い調整である ●側辺には大きな段のステップ状剥離が見られる ●逆刺は一方が欠損、他方は鈍い ●側辺は、片側がふくらみをもつ ●基辺の凹みは浅い		
図版1-28 71	E-6 —— 黒色粘質土層 (下層)	20.0 15.0 3.0 0.7	六角形	●小型で薄身 ●両面とも中央に大剥離面が残る ●側辺・基辺沿いに調整剥離が施されている ●基辺に比べ側辺に細かな調整剥離 ●先端、逆刺とも鋭い ●鎌が両面とも先端から両逆刺にかけて通っている ●A面右側辺中央下に少し段をもつ		

石鑿（凹基無蓋式）

國版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考
国版28 72	F-6 南側觀察用断面 — 黑色粘質土層 (上層)	21.0(残存) 14.0(残存) 2.5 0.7		扇形	<ul style="list-style-type: none"> ・小型で幅広である ・両逆刺を欠損 ・両側辺はほぼ中央に凹みを有し、肩となす ・基辺は深く台形状に凹む ・先端は鋭い ・A面中央は自然面を残す ・B面では大剥離面が残り、ほぼ大半を占める 	
国版28 73	E-8 — 暗黄灰色砂層	18.5 12.0 3.0 0.6		扁平な杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> ・小型 ・細長の五角形を呈する ・先端はやや鋭く、逆刺はやや鋭い ・片側邊には三角形状の凹みが見られる ・基辺はわずかに凹む ・B面中央に大剥離面を残し、B面左側邊にはステップ状剥離が認められる ・調整剥離は割に難である 	
国版28 74	E-3 — 黑色粘質土層 (上層)	19.5(残存) 14.0(残存) 3.0 0.6		杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> ・先端は鋭く、逆刺は鋭い ・片逆刺を欠損 ・小型で扁平 ・両側辺が上より3分の1ほどの所でくの字形に曲がる ・基辺は円形状に凹む ・A面右側邊に顯著なステップ状剥離 ・B面右側邊、及び中央に浅いステップ状剥離 ・大まかな調整剥離の後、細かい調整剥離を施す 	
国版28 75	E-6 — 黑色粘質土層 (上層)	21.5 15.0 4.5 1.3		不整形	<ul style="list-style-type: none"> ・小型で厚みあり ・先端は鋭い方で、逆刺は丸みをもつ ・両面とも粗い調整面からなり、鏽は通らず ・側辺はふくらみをもつが、片側辺先端部寄りに小さな凹みがある ・基辺の凹みは浅い 	
国版28 76	E-6 溝24 暗黄灰色砂質土層	20.0(残存) 18.0 4.5 1.0		不整菱形	<ul style="list-style-type: none"> ・先端部欠損 ・基部中央に厚み ・先端欠損から基部中央にかけて鏽が通る ・両側辺とも逆刺近くで凹み、両逆刺ともやや細長く鋭い ・全体に調整剥離で、基部中央で交わる ・B面においては、両側辺・基辺から調整剥離が施されている ・基辺は浅く半円状 	
国版28 77	E-6 落ち込み7 黑色粘質土層 (上層)	22.5 13.5 4.0 0.9		先端部は扁平な菱形 基部は不整形	<ul style="list-style-type: none"> ・先端鋭い ・両側辺とも基部中央で角をもつ ・A面においては、三辺より切り合うような調整剥離がみられ、ステップ状剥離が混在する ・B面は基辺近くに大剥離面を残し、周辺の調整は不鮮明 ・基辺は平基ぎみ 	

石器（凹基無基式）

国版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考
国版28 78	D-4 西側觀察用断面 — 黑色粘質土層 (上層)	24.0(残存) 16.0(残存) 3.5 0.9		扁平な扇形	<ul style="list-style-type: none"> 片逆刺を少しきず 側辺はやや丸みを帯び、先端より3分の1ほど の所に凸の肩をやや不明瞭だが持つ 側辺は基部において裾広がりになる 基辺はわずかに凹む 先端、逆刺ともやや鋭い 調整剥離は乱雑で、A面左側辺、B面左側辺沿いにステップ状剥離が認められる 端は、ほぼA面中央を通る 	
国版28 79	D-6・E-6 間觀察用断面 — 灰黒色粘質土層 (木片多し)	23.0 15.5 4.0 1.0		扁平な不整三角形	<ul style="list-style-type: none"> 先端は鈍く、逆刺は丸い 最大厚は中央にある A面は、全面に調整剥離を施している B面は側辺沿いに調整剥離を施し、中央に大剥離面残存 基辺はわずかに凹む 	
国版28 80	E-7 西側觀察用断面 — 黑色粘質土層 (上層)	28.5 16.5 4.5 1.5		扇形	<ul style="list-style-type: none"> 細身 先端は鋭く、逆刺は一方は鈍く、他方はやや鈍い 両側辺の先端付近に、くの字型に屈曲する肩を有する。但し両方の相対位置はズレている 片逆刺は他方より大きい 基辺は円形状に凹む A面は各側辺からの大きな調整剥離の後、細かい調整剥離を施す B面は中央に大剥離面を残し各辺から調整剥離を施す A面中央に端が通る 	
国版28 81	D-5 西側觀察用断面 — 暗黄灰色砂質土層 (粘土まじり)	19.0(残存) 16.0 3.5 1.0		扁平な杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> 薄いが基辺近くに厚みがみられる 先端部欠損 両側辺とも基部中央で肩をもつ 中央に端が通り、基辺近くに大剥離面を残す 調整は不揃い B面は基部中央に大剥離面を残し、先端部近くに段をもち、周辺沿いに不揃いな調整を施す 基辺は浅い三角形 	
国版28 82	E-6 西側觀察用断面 — 灰黒色粘質土層	20.5(残存) 13.0 2.5 0.7		扁平な扇形	<ul style="list-style-type: none"> 小型 先端及び片逆刺を欠損 逆刺はやや鈍い 片側辺に明瞭な肩を有し、反対側の肩は不明瞭 基辺は台形状に凹む A面左側辺上半分は、石塊時の剥離面を残し、垂直であり、そのカーブを利用して肩としている 調整剥離は乱雑である B面では大剥離面を残し、左側辺及び基辺にのみ調整剥離を施す 	金山産

石鏡(四基無茎式)

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考
図版28 83	D-7 —— 暗黄灰色砂質土層 (粘土まじり)	26.0 20.0 6.0 2.9	杏仁形		<ul style="list-style-type: none"> 五角形を呈する 先端、逆刺とも鈍い 片側辺に明瞭な、反対側にはやや不明瞭な突起を有する 各辺にステップ状剥離がみられる 両面とも中央に大剥離面を残す B面左上に1mmほどの穴がある 調整剥離は各辺より施される A面中央に鏽が通る 	未製品
図版28 84	E-4 —— 黑色粘質土層 (上層)	19.0 19.0 3.2 1.1	長方形に近い		<ul style="list-style-type: none"> 小型で先端は鈍い A面左側辺に角をもつ 調整剥離は、A面左側辺と右側辺先端、及び基辺の3分の2に施す B面は大剥離面のまま 基辺は調整のあった所のみ浅い半円に凹む 	未製品 金山産
図版1-28 85	E-4 —— 黑色粘質土層 (上層)	29.0 16.0 4.0 1.1	六角形		<ul style="list-style-type: none"> 先端逆刺は鋭い 側辺は細かな調整剥離が施されている A面基部・B面中央に大剥離面を残す A面には鏽が両逆刺と先端から中央部にのびている A面基辺は大きな剥離で調整されている A面では基辺より先端部の方が剥離が細かく急角度に入る 基辺の凹みは半円状 	
図版28 86	E-7 溝24 暗黄灰色砂層	22.0(残存) 14.5 3.5 0.9	不整形		<ul style="list-style-type: none"> 先端わずかに欠損 幅狭で薄身 先端部に段をもち基部中央に主要剥離面を残す 周辺の調整ははいねいで小さい B面先端部から基辺にかけて大剥離面を残し、周辺の調整はA面と同様 両逆刺は鈍い 基辺は深く半円形 	
図版28 87	F-7・F-8 間観察用断面 —— 黑色粘質土層 (上層)	25.0 16.0 4.5 1.4	五角形		<ul style="list-style-type: none"> 先端は鈍く厚みがある 逆刺も鈍い A面は全体に調整面からなるが中央に4段のステップ状剥離が継に階段状に並んでいる B面は側辺基辺沿いに調整剥離が施され中央に小さな大剥離面が残存 最大厚は基辺のやや上にある 	
図版28 88	F-7 —— 黑色粘質土層 (上層)	25.5(残存) 14.0(残存) 4.5 1.0	扇形		<ul style="list-style-type: none"> 先端細く鋭い 右逆刺やや鋭く、左逆刺欠損 中央に大剥離面を残す 右側辺は急角度に入る調整、左側辺・基辺ともいねいな細かい調整 左側辺逆刺近くにわずかに凹みをもつ B面左寄りに基辺にかけて大剥離面を残す 調整剥離は粗く不揃い A面においては先端でやすぼまり、少し彎曲し、基辺近くでわずかに凹む 	

石錠（凹基無茎式）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考
図版28 89	F-8 — 暗黄灰色砂質土層	20.5(残存) 18.0 3.5 1.2		不整形	<ul style="list-style-type: none"> 先端欠損 両逆刺は丸みをもつ B面においても基部中央に大剥離面をもち周辺の調整は不施 基部近くに大剥離面を残し、周辺はていねいな調整剥離を施す 基辺は深い半円状 	
図版28 90	E-7 — 灰黑色粘質土層 (木片多し)	23.0(残存) 19.5 3.5 1.2		不整六角形	<ul style="list-style-type: none"> 先端欠損 薄くて三角形 両逆刺とも鈍い 基部中央に両面とも大剥離面をもつ 両側辺・基辺に調整剥離、両側辺とも直線・基辺は斜基 B面右側辺は左側辺に比べて急角度の調整剥離が施されている 	
図版28 91	E-6 溝216 黑色粘質土層 (下層)	27.0(残存) 20.5(残存) 4.5 1.4		不整三角形	<ul style="list-style-type: none"> 先端欠損 先端部は細く、右側辺に小さな角をもつ 左逆刺欠損 基部中央に厚み 先端から基部中央にかけて鎌が通る B面基部中央に大剥離面を残し、周辺にていねいな調整剥離を施す 左側辺にステップ状剥離が混在する 基辺は急角度に入る調整 基辺は浅い半階円形 	
図版28 92	D-4 — 暗黄灰色砂質土層	15.0(残存) 18.0 3.0 0.8		扁平な杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> 逆刺は鋭い 上半分、片逆刺とも欠損 細長になると思われるが不明 両面に大剥離面を残す A面右側辺、及びB面左側辺・基辺沿いにステップ状剥離 両面とも調整剥離を各辺から施し、やや難である 基辺は深く、台形状に凹む 	
図版28 93	E-5 — 黒色粘質土層 (上層)	17.5(残存) 19.5(残存) 4.5 1.4		三角形	<ul style="list-style-type: none"> 先端から基部近くまで大きく欠損 片逆刺も大きく欠損 逆刺は鋭い 	
図版28 94	D-5 — 黒色粘質土層 (上層)	22.5(残存) 19.0(残存) 5.0 1.5		菱形	<ul style="list-style-type: none"> 先端、右逆刺欠損 基部中央に厚み 中央で切り合う調整面よりなる B面において基部中央にわずかに大剥離面が残る 両面とも基部中央付近にステップ状剥離を多く混在する 基部中央から逆刺にかけて鎌が通る 	
図版28 95	D-4 — 暗黄灰色砂質土層 (粘土まじり)	23.5(残存) 17.0 4.0 1.7		不整な杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> 先端部大きく欠損 両逆刺はやや鋭く、基辺は台形状を呈する 基部中央両側にステップ状剥離を呈する 両面とも中央に大剥離面をもつ 両面とも調整剥離は粗い 	

石鏃（四基無茎式）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考
図版28 96	F-7・F-8 間觀察用断面 — 黒色粘質土層 (上層)	34.0 18.0 5.5 2.5		菱形	<ul style="list-style-type: none"> ・縦長 ・先端は鋭い ・A面においては大きなステップ状剥離などが混在して、でこぼこしている ・両面とも側辺・基辺沿いに難ではあるが調整は見られる ・基辺はやや斜基 	未製品
図版28 97	E-7 — 黒色粘質土層 (上層)	24.0(残存) 12.0(残存) 2.5 0.7		扁平な扇形	<ul style="list-style-type: none"> ・先端は鋭い ・薄身 ・逆刺は欠損 ・両面とも側辺・基辺沿いに細かな調整剥離が施されている 	
図版28 98	B-4 — 暗黄灰色砂質土層 層	33.5 15.0 4.0 1.8		不整な杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> ・細長 ・逆刺は片方が長くのびているのに対し、他方は短く終わっている ・先端はやや鈍く逆刺の片方は鋭く、他方はやや鋭い ・両面とも大剥離面を中央に残し、各辺から調整剥離を施す ・B面の右逆刺付近では調整剥離を施さない ・A面の先端付近にステップ状剥離 ・基辺は深く円形状に凹む 	
図版28 99	F-8 — 灰黒色粘質土層 (砂まじり)	20.0(残存) 17.0 4.5 1.2		三角形	<ul style="list-style-type: none"> ・先端部大きく欠損 ・逆刺は鋭く、基辺は半円状に凹む ・側辺はふくらみをもつ ・両面とも調整面からなる 	
図版28 100	E-4 Pit203 黑色粘質土層 (下層)	27.0(残存) 21.0(残存) 6.0 3.2		不整な六角形	<ul style="list-style-type: none"> ・先端及び逆刺を欠損 ・厚手 ・逆刺は丸く収める ・A面中央に大剥離面が残る ・両面とも調整剥離は非常に粗く、各所にステップ状剥離が認められる ・基辺は台形状に深く凹む 	未製品
図版28 101	E-7 — 灰黒色粘質土層 (木片多し)	24.4(残存) 16.0(残存) 5.0 2.4		五角形	<ul style="list-style-type: none"> ・先端を欠損する ・側辺は丸みを帯び基辺の凹みは台形状を呈す ・A面左側辺の逆刺は先端を折れ欠く ・両面両側辺より調整剥離 ・A面左側辺、B面右側辺の剥離はステップ状剥離を呈す ・両面ともに大剥離面が残り、B面左上方に打点がある ・A面中央先端部には鏽が通る ・両辺とともにエッジは鋭い ・基辺部の調整は急角度に入る 	
図版28 102	D-4 — 暗黄灰色砂層 (粘土まじり)	23.5 14.5 3.0 0.7		扁平な菱形	<ul style="list-style-type: none"> ・先端は鋭い ・全体的に薄い ・先端部が特に薄く、鏽がわずかに通る ・両面とも調整面よりなり、細かい調整剥離は基辺一部のみ ・A面は切り合う調整がみられる ・調整は全体的に粗い ・基辺は斜基 	

石鎚(凹基無蓋式)

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) 幅 (mm) 厚 (mm) 重量	長さ (mm)	中央断面	特徴	備考
図版28 103	E-5 —— 淡黃灰色砂質土層	18.5(残存) 14.5(〃) 3.5 0.7	不整五角形		<ul style="list-style-type: none"> ・小型 ・先端部は薄い ・先端、左逆刺欠損 ・先端から右基辺に右寄りに鍋が通る ・両面とも基部中央に大剥離面を残し、周辺に調整剥離を施す ・右逆刺は丸みをもつ 	
図版28 104	E-6 —— 暗黃灰色砂質土層 (粘土まじり)	21.0(残存) 13.0(〃) 2.5 0.7	扁平な杏仁形		<ul style="list-style-type: none"> ・小型 ・薄身 ・先端鋭く、わずかに鍋が通る ・左逆刺欠損 ・先端から基辺にかけて両面とも大剥離面を残す ・周辺に部分的に調整剥離が施されている ・基辺は浅く半円状ぎみ 	
図版28 105	D-3・D-4 間観察用断面 —— 黒色粘質土層 (下層)	21.0(残存) 12.0(〃) 4.5 0.9	杏仁形		<ul style="list-style-type: none"> ・小型 ・逆刺はやや鋭い ・先端をわずかに欠損 ・片逆刺も欠損 ・両側辺は上から3分の1ほどの所でわずかに屈曲する ・両面とも調整剥離を全面に施す ・B面左側辺沿いにステップ状剥離 ・A面中央に鍋が通るが不明瞭 ・基辺は台形状に凹む 	
図版28 106	D-4 —— 青灰色砂層	14.0(残存) 18.5(〃) 3.5 0.8	扁平な三角形		<ul style="list-style-type: none"> ・右逆刺欠損 ・薄身 ・先端から基部中央まで欠損 ・中央に鍋が残り、調整は粗い ・左側辺沿いは火に当っている ・B面においても調整は粗い ・基辺は台形状ぎみ 	金山産
図版28 107	E-7 —— 暗黃灰色砂質土層 (粘土まじり)	13.5(残存) 11.0(〃) 3.0 0.4	四辺形		<ul style="list-style-type: none"> ・小型 ・先端は鋭い ・片逆刺はやや欠損 ・両面調整面からなっている ・片側辺が中央あたりで大きくふくらみをもち、逆刺も丸みをおびる ・基辺は中央あたりがわずかに凹む 	
図版28 108	E-5 —— 黒色粘質土層 (上層)	20.5 15.5 3.5 0.9	六角形		<ul style="list-style-type: none"> ・小型 ・先端側辺欠損 ・片逆刺欠損 ・先端に鍋が通る ・先端は鋭く、逆刺はやや鋭い ・両側辺に大きめの調整剥離 ・基辺は台形状に凹む 	未製品
図版28 109	D-4 —— 黒色粘質土層 (上層)	19.0(残存) 12.0 3.0 0.6	杏仁形		<ul style="list-style-type: none"> ・小型で細長 ・先端は欠損 ・側面は上より3分の1ほどの所ですぼまり先端を成す、それより下では内彎しながら逆刺に向かう ・基辺はほぼ三角形状に浅く凹む ・逆刺は鋭い ・両面中央に大剥離面を残す ・調整剥離は削に堆である 	

石鏡（凹基無茎式）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考
図版28 110	D-3 — 黑色粘質土層 (上層)	21.3(残存) 13.0 3.0 0.5	不整四辺形		<ul style="list-style-type: none"> 先端欠損で薄身 両面とも調整面からなり、ステップ状剥離がわずかに混在 A面中央には鍋が通る 両側辺は少しでこぼこしている 逆刺は鋭い 基辺は半円状に凹み、やや斜基である 	
図版28 111	D-4 南側観察用断面 — 淡黃灰色砂質土層	26.0 15.0(残存) 4.0 1.2	不整な五角形		<ul style="list-style-type: none"> 縦長で片逆刺を欠損 先端、逆刺ともやや鋭い 両側辺は上3分の2ほどは丸みをもち、一度くびれ、逆刺に向って幅が広がる 基辺は円形状に凹む 両面中央に大剥離面を残すが、B面ではそれが大部分を占め、細かい調整剥離が各辺から施されている 両面とも調整剥離は比較的ていねいである 鍋はA面中央上半分だけ通る 	
図版28 112	E-6 — 暗黃灰色砂層	30.0(残存) 15.2 3.5 1.1	四辺形		<ul style="list-style-type: none"> 大きさに比べ薄く、先端わずかに欠損 逆刺は鋭く基辺は半円状に大きく凹む 両面、側辺、基辺沿いに細かな調整剥離が施される 中央には大剥離面残存 側辺は中央よりやや上のあたりで一度凹み、そこからまたふくらみをもつ 	
図版29 113	D-5 西側観察用断面 — 暗黃灰色砂層	31.5 15.0(残存) 4.5 1.6	三角形		<ul style="list-style-type: none"> 先端は鋭く、逆刺は一方が欠損し他方は鋭い 両面とも調整面からなるが粗雑でステップ状剥離も混在 縦長で側辺中央でいったん凹む 基辺の凹みは浅い 最大厚は基辺寄り 	
図版1-29 114	E-5 — 黒灰色粘質土層	42.0 17.0 4.0 1.8	菱形		<ul style="list-style-type: none"> 縦長 右逆刺に比べ左逆刺が長い A面両側辺とB面右側辺にステップ状剥離を呈す 両平面ともに鍋が通る 基辺は半円状に凹む 	
図版29 115	Z Z — —	32.0 13.0 5.5 1.2	四辺形		<ul style="list-style-type: none"> 縦長 先端、逆刺とも鋭い 両面とも調整面からなり、中央に鍋が通る A面にステップ状剥離が集中し高い段をもつ 側辺の調整はほぼ一定で整っている 基辺は半円状に凹む 	
図版29 116	F-8 西側観察用断面 — 暗黃灰色砂層	35.5 17.5 4.0 1.6	扁平な杏仁形		<ul style="list-style-type: none"> 先端は鋭い方で逆刺は鋭い 縦長で、側辺は基辺部で内擱する 両面とも調整面からなり、中央部にステップ状剥離が混在し鍋は通らない 基辺の凹みは平基ぎみで、でこぼこしている 	
図版29 117	F-8 — 青灰色砂層	34.5 15.0 4.5 1.7	杏仁形		<ul style="list-style-type: none"> 先端、逆刺とも鋭い 縦長で、側辺は先端あたりで一且角をもつ 両面とも調整面からなり、A面は中央にかすかに鍋が通り、B面はステップ状剥離が混在する 基辺は半円状に凹む 	

石鎚(四基無茎式)

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (m) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考
図版29 118	D-3 西側観察用断面 — 灰黒色粘質土層	24.5(残存) 13.0(×) 3.2 0.7	平行四辺形		<ul style="list-style-type: none"> 逆刺は一方が欠損し他方は鋭い A面は中央に鍋が通る調整面 B面は側辺、基辺沿いに調整剥離が施され中央に大剥離面が残存 基辺は半円状に凹む 	
図版29 119	F-7 西側観察用断面 — 黑色粘質土層 (上層)	27.0 14.0 3.5 1.2	扇形		<ul style="list-style-type: none"> 二等辺三角形 先端、逆刺とも鋭い 先端で、一度段をもつ 両面とも調整面からなる B面基部に大剥離面残存 片逆刺欠損 	
図版29 120	D-4 — 黑色粘質土層 (上層)	27.0 17.0 4.0 1.2	杏仁形		<ul style="list-style-type: none"> 先端はやや鋸く、逆刺は丸みを帯びる 片逆刺欠損 やや細長 片側辺にはほぼ中央に明瞭な凹みがあり肩をなすが、他方は浅く凹み不明瞭である 基辺は浅く円形状に凹む 両面中央に小さく大剥離面を残す A面の左側辺とB面の左側辺沿いにステップ状剥離が認められる 調整剥離は大まかである 	
図版29 121	E-7 西側観察用断面 — 黑色粘質土層 (上層)	26.0 13.5 4.0 1.1	五角形		<ul style="list-style-type: none"> 幅狭 先端部に角をもち基部中央でわずかに内彎し逆刺に至る 左逆刺は鋭く、右逆刺は欠損 先端から基部中央を通り、基辺近くで両逆刺へ鍋が通る 右側辺沿いにステップ状剥離 B面においては基部中央に大剥離面を残し、周辺に調整剥離を施す 基辺は浅い 	
図版29 122	D-4 — 暗黄灰色砂質土層 (粘土まじり)	32.0 16.5 4.5 1.7	四辺形		<ul style="list-style-type: none"> 二等辺三角形で縦長 先端は丸味をおび逆刺は鋭い A面は側辺の調整がほぼ一定して先端から両逆刺にかけて鍋が通る 両面中央に大剥離面残存 基辺は半円状に凹む 	
図版29 123	E-8 — 暗黄灰色砂層	28.0 15.0(残存) 4.0 1.4	不整形		<ul style="list-style-type: none"> 片逆刺を欠損 先端、逆刺ともやや鋭い 細長だが逆刺に近づくにつれしたいに幅が広がる 両側辺は先端付近でくの字形に屈曲し、先端ですぼまる 基辺は台形状に凹む B面中央に大剥離面を残す 調整剥離は比較的大まかである 鍋は右側辺に彎曲しながらも先端と左逆刺を結ぶように通る 	

石鎚(凹基無茎式)

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考
図版29 124	E-7 — 白黄色砂質土層 (粒子粗い)	28.0 15.0(残存)	丸みを帯びた菱形 4.0 1.1	丸みを帯びた菱形	<ul style="list-style-type: none"> 片側刺をわずかに欠損 細長 先端、逆刺ともやや鈍い 片側辺中央付近で明瞭な段をなす 両逆刺の大きさに著しい差がある 基辺は浅く円形状に凹む B面中央に大剥離面を残す 調整剥離がやや難に施される 鍔がA面中央を左右に彎曲しながら通る 	
図版29 125	D-5 — 西側觀察用断面 — 黒灰色粘質土層	18.0(残存) 16.0 3.0 0.9	扁平な杏仁形		<ul style="list-style-type: none"> 扁平で先端部は欠損 両面とも大剥離面を残し、周辺に調整剥離を施す 両逆刺は鈍い 基辺は半基ぎみで斜基である 	
図版29 126	E-7 — 暗黃灰色砂質土層 (粘土まじり)	22.0(残存) 11.5 4.0 0.8	菱形		<ul style="list-style-type: none"> 砲弾型 先端はやや鈍い 逆刺は欠損? 片側辺には凹の肩が明瞭だが対側辺にはない A面中央基辺にステップ状剥離が残る 調整剥離は比較的大まか 基辺は円形状に凹む 鍔は両面とも右に彎曲する 	
図版29 127	E-5 — 暗黄灰色砂質土層	39.5(残存) 21.0(“ ”) 5.5 4.0	扇形		<ul style="list-style-type: none"> 先端はやや鈍い 両逆刺が欠損 片側辺にのみ肩を有する A面左側辺に数多く、B面左側辺にもステップ状剥離が見られる A面中央に三角形状に高所を残す 基辺はややずれて台形状に凹む 調整剥離は大まかである 鍔は、A面において先端近くで左側辺に彎曲しながら、中央において三角形沿いに不明瞭に通る 2mmの舞石を含む 	
図版29 128	E-7 — 西側觀察用断面 — 黒色粘質土層 (上層)	16.5 14.0 2.5 0.5	扁平な扇形		<ul style="list-style-type: none"> 小型 先端はやや鈍く、逆刺はやや鋭い 二等辺三角形を呈すが、片側面先端付近でくの字型に弱く屈曲し、中央付近で凹み、肩を成す A面は粗い調整剥離を施し、盛りあがる B面は大剥離面を中央に残し、調整剥離は各辺沿いにとどめているので平らである A面で鍔は通るようだが不明瞭 基辺は円形状に凹む 	金山産
図版1-29 129	E-7 — 灰黑色粘質土層 (木片多し)	18.5 15.0 3.0 0.4	不整菱形		<ul style="list-style-type: none"> 小型 先端、逆刺ともやや鋭い 側辺にはやや明瞭な肩を有す 基辺は三角形の基底である 明瞭な鍔がA面左側辺に彎曲して通る B面も同様、鍔はやや不明瞭 両側辺基辺の3方向から比較的大きい調整剥離によって成形 両面にステップ状剥離が見られる 調整剥離の角度はA面では急にB面ではややゆるやか 	

石鏡（凹基無茎式）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) 幅 (g)	長さ (mm) 厚 重	中央断面	特徴	備考
図版29 155	E-6 西側観察用断面 — 暗黄灰色砂層	19.0(残存) 16.0 3.5 0.6		三角形	<ul style="list-style-type: none"> 小型 基部中央が厚く、基辺は薄い 先端欠損 先端から基部中央下まで、右寄りに鍋が通る 両面とも調整面となる 鍋の上に2箇所小さな自然面が残る 右側辺の調整は、左側辺に比べて細かくていねい B面においては両側辺は不揃い 基辺は浅い半月状 	
図版29 156	D-5 西側観察用断面 — 灰黒色粘質土層 (砂まじり)	20.0(残存) 14.0(×) 3.0 0.7		不整形	<ul style="list-style-type: none"> 小型 先端は鋭く、逆刺は片方が欠損し、他方は鈍い 鍋は通らず 両面とも側辺、基辺沿いに細かな調整剥離が施され、中央には大剥離面が残存する 両面とも大剥離面沿いにステップ状剥離が混在 基辺の凹みは浅い 	
図版29 157	D-3 — 黑色粘質土層 (下層)	20.0 15.0 3.0 0.6		扁平で三角形に近い	<ul style="list-style-type: none"> 小型で薄身 先端、逆刺とともに丸みをおびる 両面とも調整面からなるが粗雑である 両面とも中央に大剥離面が残存 基辺はわずかに凹む 	
図版29 158	E-7 — 暗黄灰色砂質土層 (粘土まじり)	21.5 14.5 3.0 0.9		五角形	<ul style="list-style-type: none"> 小型 先端は丸みをおび、逆刺は鈍い 中央に大剥離面が残存 両面が、側辺・基辺に沿いに調整剥離を施し、中央に大剥離面が残存 A面は先端から両逆刺にかけてわざかに鍋が通る 基辺の凹みは浅い 	
図版29 159	E-7 西側観察用断面 — 黑灰色粘質土層	20.7 14.0 2.7 0.6		扁平な四辺形	<ul style="list-style-type: none"> 小型で薄身 先端、逆刺とも鋭い 両面とも調整面からなり、B面には大きなステップ状剥離がみられる 基辺の凹みは浅い 側辺片側が先端で一度段をもつ 	
図版29 160	E-7 溝24 暗黄灰色砂層	22.0(残存) 16.5(×) 5.5 1.4		先端部は五角形 基部は扁平な六角形	<ul style="list-style-type: none"> 小型で厚みがある 先端から基部中央を通って両逆刺へ鍋が通る 両側辺に比べて基辺の調整は小さい 左逆刺欠損 B面においても基部中央に大剥離面を残し、周辺沿いに調整剥離を施す A面基辺近くに大剥離面を残す 基辺は浅い 	
図版29 161	E-4 南側観察用断面 — 灰黒色粘質土層	23.0(残存) 16.0(×) 3.0 1.0		杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> 先端、逆刺はやや鈍い 片逆刺欠損 側辺はほぼ直線的で基辺は円形状に凹む B面中央に大剥離面を残す A面左側辺及びB面左側辺にステップ状剥離 調整剥離は、A面では全面に施すが粗雑で、B面では比較的ていねいである 	

石器（凹基無茎式）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (m) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考
図版29 162	E-5 西側觀察用断面 — 黑色粘質土層 (上層)	21.3(残存) 16.5(〃) 2.5 0.6	扁平な四 辺形		<ul style="list-style-type: none"> 薄身 先端、両逆刺欠損 両面とも調整面からなるが粗雑 基辺の凹みは浅い 	
図版29 163	E-6 溝24 暗黄灰色砂層	24.0(残存) 16.0 4.0 1.4	不整な六 角形		<ul style="list-style-type: none"> 先端を欠損 両逆刺は大きさが違う 全体的にいびつである 両逆刺はやや鋭い 両面中央に大剥離面を残す A面右側辺にステップ状剥離 調整剥離は、両面とも各辺より大まかに施す 基辺は円形状に凹む 	
図版29 164	E-8 — 暗黄灰色砂質土 層 (粘土まじり)	23.7 15.5 5.0 1.3	三角形状		<ul style="list-style-type: none"> 厚い 先端は鋭い方で逆刺は丸みをおびる 側辺は先端で丸みをおびる 両面とも調整面からなるが、小さなステップ状剥離も混在する 基辺の凹みは浅い 	
図版29 165	E-7 溝24 暗黄灰色砂層	18.0(残存) 14.5 3.5 0.6	不整菱形		<ul style="list-style-type: none"> 小型で薄身 左逆刺欠損 A面においては先端はやや丸みをもち基部中央にかけて鏽をもち、基辺に主要剥離面が残り、基部中央にステップ状を呈する B面では、左側辺寄りに段をもち、全体に調整面からなり、基部中央にステップ状剥離が混在する 基辺は浅い 	
図版29 166	E-5 — 暗黄灰色砂質土 層 (粘土まじり)	21.0 16.0 3.7 0.9	菱形		<ul style="list-style-type: none"> 小型先端は丸みをおび、逆刺は鋭い 両面とも、側辺基辺に沿いに調整剥離 A面は比較的ていねいな調整で、先端から両逆刺にかけ鏽が通る 	
図版29 167	E-7 溝24 暗黄灰色砂層	24.5(残存) 17.0(〃) 3.5 0.8	菱形		<ul style="list-style-type: none"> 薄身 先端部は細長く鋭い 右逆刺欠損 両側辺とも直線的でわずかに左逆刺近くで角をもつ 左逆刺は鋭い 先端から基部中央へと鏽が通る B面においては中央で切り合う調整が施され、基部中央にわずかに大剥離面が残る 両面とも調整は粗い 基辺は浅い凹み 	金山産
図版29 168	ZZ — —	27.0 17.0 3.5 1.3	扁平な六 角形		<ul style="list-style-type: none"> 先端部欠損 先端近くで側辺がくの字形に内彎する、片側辺はやや不明瞭な肩を有するが反対側辺は不明瞭 基辺は円形状に凹む。基辺の剥離は側辺に比べて小さい 両面に大剥離面を残す 先端近くでは鏽は中央を通るが中央で2つに分かれれる 両逆刺はやや鋭い 	

石鎚(回基無茎式)

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (m) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考
図版30 169	E-7 —— 灰黑色粘質土層	22.0(残存) 14.0(×) 3.0 0.9	扁平な扇形	●細長 ●両逆刺欠損 ●先端は鈍く先端付近で両側辺とも凹み、また両側辺中央付近で凹む ●A面では粗い調整剥離を施し盛り上げ、B面では大剥離面を残し各辺沿いに調整剥離があるため比較的の平らである ●A面中央にわずかに鋸が通る ●A面中央鋸寄りに2mm以下の凹みがある ●基辺は円形状に浅く凹む		
図版30 170	F-7 —— 黑色粘質土層 (上層)	24.0(残存) 18.5(×) 3.2 1.4	四辺形	●先端部の調整が特に粗く先端を作っていない ●両逆刺欠損 ●両面大きめの調整が施されている	未製品	
図版30 171	D-4 —— 黑色粘質土層 (上層)	22.5(残存) 16.0(×) 3.5 1.1	扁平な杏仁形	●全体に薄い ●先端部と左逆刺欠損 ●左側辺はやや鋸歯状を呈する ●両面とも基部中央で大剥離面を残す ●基辺に比べて両側辺こまかくていねい		
図版30 172	D-3 —— 黑色粘質土層 (上層)	12.5(残存) 17.0 3.0 0.5	杏仁形	●上半分欠損 ●逆刺はやや鋭い ●両面中央に大剥離面を残す ●A面左側辺・基辺及びB面基辺沿いにステップ状剥離 ●各辺から調整剥離を施す ●基辺は円形状に凹む		
図版1-30 173	E-5 —— 黑色粘質土層 (下層)	24.0 15.0 3.0 0.8	不整五角形	●先端は鋭い ●逆刺は右が鋭く、左は鈍い ●A面側辺・基辺沿いに調整剥離が浅い角度で施され、中央に大剥離面が残り、それに沿い鋸が先端から2本通っている ●B面は右側辺にていねいな調整が施され、それに沿って鋸が通るが基辺・左側辺はほとんど調整が見られない ●A面大剥離面に3つの大きなステップ状剥離が見られる		
図版30 174	E-5 —— 黒灰色粘質土層	26.0 20.0 5.0 2.0	三角形	●幅広で厚みがある ●先端は鋭いが逆刺は鈍い ●両面とも全体が調整面からなる ●両側辺が鋸歯状 ●基辺の凹みは平基ぎみ		
図版30 175	F-6 —— 黑色粘質土層 (上層)	24.0(残存) 14.0(×) 2.5 0.8	扁平な杏仁形	●扁平である ●先端と両逆刺を欠損 ●A面に小さく、B面に大きく大剥離面を残す ●A面の右側辺とB面の基辺沿いにステップ状剥離 ●両面とも調整剥離は大まかに施した後、細かく施す ●側辺は鋸歯状を呈し、基辺は円形状に凹んでいる	金山産	

石錠（凹基無茎式）

国版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考
国版30 176	E-3 南側觀察用断面 — 明灰色粘質土層	30.0(残存) 18.0(×) 4.5 2.0	先端部 菱形 基部 杏仁形		<ul style="list-style-type: none"> 先端はやや欠損し、両逆刺も欠損している 両面とも基部中央に大剥離面を残し、ステップ状剥離が混在する A面の先端から基部中央にかけて錐が通る 両側辺に比べて基辺の調整剥離は小さい A面左側辺は部分的に鋸歯状を呈す 基辺は浅く半円状 	金山産
国版30 177	D-3 — 黑色粘質土層 (上層)	17.0 13.0 4.0 0.8	先端部 不整四辺形 基部 三角形		<ul style="list-style-type: none"> 小型で全体に厚みがある 先端は鋭い A面においては先端から基辺にかけて大剥離面を残し、両側辺の調整は不規則 左逆刺近くにステップ剥離が混在し、両逆刺とも鋭い B面も大剥離面を残し、部分的に側辺に調整剥離が認められる 基辺は急角度に入る調整がなされ、わずかに凹みがみられる 	
国版30 178	E-6 西側觀察用断面 — 灰黑色粘質土層	18.5 13.0 3.0 0.7	不整形		<ul style="list-style-type: none"> 小型 先端、片逆刺とも欠損 大きな粗い剥離が施されているだけであるがA面の左側辺には細かな調整剥離がみられる 両側辺はそれぞれに先端寄りでふくらむ 	未製品
国版30 179	E-5 — 黑色粘質土層 (上層)	19.2 15.0 2.5 0.6	五角形		<ul style="list-style-type: none"> 薄身と小型 先端は丸みをもつた逆刺は鋭い方 片側辺が逆刺近くですぼむ 両面とも両側辺と基辺沿いに細かな調整剥離を施し、中央に大剥離面が残存する 基辺の凹みは浅い半円状 	
国版30 180	E-6・E-7 間觀察用断面 — 黑色粘質土層 (上層)	20.5 14.5 2.0 0.5	扁平な杏仁形		<ul style="list-style-type: none"> 薄身で小型 両平面とも先端部から基辺にかけて大剥離面を残し、周辺に調整剥離を施す 右逆刺は左逆刺に比べて丸みがある 基辺は浅い 	
国版30 181	E-6 落ち込み218 灰黑色粘質土層	19.3(残存) 14.0(×) 2.8 0.8	杏仁形		<ul style="list-style-type: none"> 先端はやや鋭い 側辺は先端部でふくらみをもつ 逆刺の一方は欠損、他方は鋭い方 側辺と基辺沿いに細かな調整がみられる B面において側辺に比べ基辺の方がていねいな調整である 基辺の凹みは浅い 	
国版30 182	E-3 — 黑色粘質土層 (上層)	18.0(残存) 15.0(×) 3.5 0.8	扇形		<ul style="list-style-type: none"> 小型 先端、両逆刺とも欠損 両側辺はほぼ直線的 A面の中央に錐が通る 両面の調整剥離は乱雑でB面両側辺にステップ状剥離 基辺はやや深く円形状に凹む 	
国版30 183	E-6 溝203 黑灰色粘質土層	20.3(残存) 15.0 4.0 1.1	扇形		<ul style="list-style-type: none"> 先端欠損で逆刺は鋭い 両面とも側辺と基辺沿いに細かな調整剥離が施され、中央に大剥離面が残存 側辺はふくらみをもつ 基辺の凹みは平基ぎみ 	

石錐（凹基無茎式）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考
図版30 184	E-3 溝238 黒灰色粘質土層	23.0 15.0 4.0 1.1		不整扁形	<ul style="list-style-type: none"> 先端やや鋭い 両逆刺とも鋭い A面は全体につくりが粗く、右側辺寄りにステップ状剥離が多く混在し、周辺に細かい調整剥離はない B面先端から基辺にかけて大きな大剥離面が残り、周辺のみに調整が見られる 基辺はわずかに半円状 	
図版30 185	E-4 溝238 黒灰色粘質土層	22.8 14.5 4.0 1.1		杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> 先端は丸みをおび、逆刺は鋭い 側辺は基辺寄りですぼまる 両面とも調整面ではあるが粗雑である 基辺は半円状に凹む 	
図版30 186	E-4 溝238 黒灰色粘質土層	20.0 13.0 3.5 0.6		扁平な杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> 小型で薄身 先端や丸みをもつ 両側辺ともわずかに外彎 両逆刺はやや鋭い A面は調整面よりなり、基辺近くにステップ状剥離を呈する B面、基部中央に大剥離面を残し、両側辺に小さな調整剥離を施す 右側辺にステップ状剥離が混在 基辺近くに気泡、先溝基辺薄く、中央にやや厚みがある 基辺は浅い 	
図版30 187	E-7 灰黑色粘質土層 (木片多し)	26.0(残存) 17.5(×1)		扁平な六角形	<ul style="list-style-type: none"> 薄身 先端は鋭い 逆刺は一方が欠損、他方は鋭い 両面側辺・基辺沿いに調整剥離が施され、中央には大剥離面が残存、先端の一部が欠損、側辺が少し凹んでいるが、その上からさらに調整されている 基辺は半円状に凹む 	
図版30 188	F-7 明黄色砂質土層	28.5 17.0 5.0 1.6		先端部 扁平な菱形 基部 不整五角形	<ul style="list-style-type: none"> 先端は鋭く小さな角を持ち、先端部は細い 基部中央で外彎し両逆刺とも鋭い A面両側辺が基部中央で切り合う調整剥離で基辺近くに大剥離面をもつ B面先端部から基辺にかけて大剥離面を残し、周辺の調整は難 両面ともステップ状剥離が混在する 基部中央に厚みがみられる 基辺は浅く半円状 	
図版30 189	C-5 灰黑色粘質土層	28.0(残存) 19.5 6.0 2.0		不整形	<ul style="list-style-type: none"> 先端欠損 A面に対し左側辺中央あたりに大きな凹みがあり、右側辺は中央でふくらみをもつ。基辺の凹みは浅い 内面調整面からなるがA面は中央にステップが混在する 最大厚は基辺部寄りにある 	金山産

石鏡（凹基無茎式）

國版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (m) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考
国版30 190	E-7 — 白灰色砂層 (粘土まじり)	24.0 — 19.0 3.5 1.4		扁平な杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> 薄身 先端は丸みをもち、わずかに欠損 左逆刺欠損、右逆刺は丸みをもつ A面中央左寄りに大剥離面を残し、左側辺はステップ状剥離が多く混在する。右側辺・基辺においては調整剥離を施す B面中央で切り合う調整で基辺上に大剥離面が残る 基辺は急角度に入る調整剥離を施している 基辺は浅い半円形 	金山産
国版30 191	E-6 — 暗黄灰色砂質土層 (粘土まじり)	21.5(残存) — 17.5(〃) 4.0 1.2		扁平な菱形	<ul style="list-style-type: none"> 先端わずかに欠損、先端は使用による欠損か？欠損後も使用の可能性あり 先端は鈍い B面中央に小さく大剥離面が残る A面基辺右側にステップ状剥離、調整剥離は大まかである 鋸はA面中央を通るが、先端付近は不明瞭 基辺は深く台形状に凹む 	
国版30 192	F-7 — 黒色粘質土層 (上層)	18.5(残存) — 16.5(〃) 3.5 0.9		不整な扇形	<ul style="list-style-type: none"> 先端及び両逆刺欠損 基辺は円形状に凹む A面基辺沿いにステップ状剥離、A面では調整剥離が難に施されそのため剥離面が波うっているものも見られる B面左半分に大剥離面を残すが、右側辺からの大きな調整剥離との境にステップ状を成す 	
国版30 193	E-7 — 黒色粘質土層 (下層)	26.1 — 16.2 5.6 2.0		菱形	<ul style="list-style-type: none"> 全体に厚い 先端部は鋭く調整されているが先端部を欠損する A面左側辺の逆刺は剥離の関係で内傾する 両面中央に鋸が通るがA面のみ逆刺まで通る A面左側辺、B面左側辺の剥離はステップ状を呈する、両面ともエッジは鋭い 基辺の凹みは浅く直線的で逆刺は小さく突出する 両面、両側辺より調整剥離 	
国版30 194	F-9 — 黒色粘質土層 (下層)	23.0 — 15.5 3.5 0.9		扁平な杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> 薄身 先端部は鈍い 両側辺は外彎ぎみに逆刺へ伸びる 両逆刺やや鋭い A面基部中央に大剥離面を残し両側辺に部分的でいわねいな調整剥離がみられる B面先端部に主要剥離面を残し、剥離面の多くはステップ状剥離を呈する 全体的(B面)に調整は粗く、左側辺の一部に細かい調整が残る 基辺の凹みは浅い 	
国版1-30 195	D-5 — 青灰色砂層	26.0 — 18.0 6.0 2.5		扁平な六角形	<ul style="list-style-type: none"> 両面とも基部中央に大剥離面を残す 両辺の調整剥離は粗い 基辺の凹みは浅い 	

石鏃 (四基無茎式)

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (m) (s)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考
図版30 196	E-4 — 黑色粘質土層 (下層)	17.0 — 3.0 1.0	扁平な杏仁形		<ul style="list-style-type: none"> 薄身で幅のあるもの 先端は円のように丸い A面は先端から基辺にかけて大きな自然面を残し、周辺に調整剥離を施すが不揃い B面においては基部中央に大きな大剥離面を残し、周辺に小さい調整剥離を施す 基辺は浅く半円状 	
図版30 197	E-5 — 黑色粘質土層 (上層)	20.5 — 4.5 1.5	不整形		<ul style="list-style-type: none"> 先端が丸くなっていますぐりしている 逆刺は鈍い 両面に粗い調整剥離が施されている 基辺は浅い凹み 	
図版30 198	F-7 — 青黒色砂質土層	22.0 — 14.5 2.5 0.8	扁平な杏仁形		<ul style="list-style-type: none"> 薄身で小型 両面とも中央に大剥離面をもち、周辺沿いに小さな調整剥離が施されている B面においては、左逆刺近くに段をもつ 基辺は浅い凹み 基辺は斜基で両側辺とも外彎ぎみ 	
図版30 199	D-4 — 黑色粘質土層 (下層)	21.5 — 15.5 3.0 1.4	台形		<ul style="list-style-type: none"> 先端部はぼぼまる 基部中央に両面とも大剥離面を残し、A面において三辺とも急角度に入る粗い調整が施されている B面は先端部、基辺、右側辺に部分的に調整を施すのみ 基辺は平基ぎみ 	未製品
図版30 200	F-7 — 黑色粘質土層 (上層)	18.5 — 11.0 4.0 0.7	不整五角形		<ul style="list-style-type: none"> 小型で両逆刺とも鈍い 基部中央で角度をもち逆刺近くでわずかに凹む A面は先端から基部中央を通り基辺近くまで鎬が通る 左側辺、基辺に比べて右側辺の調整は粗い B面は中心に大剥離面をもち、周辺でていねいな細かい調整剥離 基辺は半円状 	
図版30 201	D-7・E-7 間観察用断面 — 灰黒色粘質土層 (木片多し)	18.0 — 14.0(残存) 3.5 0.9	杏仁形		<ul style="list-style-type: none"> 小型で片逆刺を欠損 片側辺は先端付近で内彎するが概して両側辺とも外彎する A面は調整剥離のみ B面中央に大剥離面を残す A面各所およびB面両側辺にステップ状剥離がみられる 基辺は不整な三角形状に凹む 	
図版30 202	E-5 — 黑色粘質土層 (上層)	21.5 — 14.0 4.0 1.0	三角形		<ul style="list-style-type: none"> 小型 先端は丸くなり、逆刺の片方はわずかに欠損、他方は丸い 両面とも調整面からなるが、A面の方が急角度である 側辺はわずかにふくらみをもつ 基辺の凹みは浅い 	

石鏃（凹基無茎式）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考
図版30 203	D-5 — 黒色粘質土層 (下層)	21.0 14.5 3.0 0.9	不整な長方形		<ul style="list-style-type: none"> 小型で扁平である 先端は大きく丸く收め、逆刺の片方は鋭く、他方はやや鈍く、両方の大きさが違う 各辺とも面に対して垂直又は垂直に近い角度で切りたっている 片側邊においては調整剥離を加えず成形前の剥離をそのまま利用している A面は3分の1ほど大剥離面を残すがあとはやや難な調整剥離 B面は大剥離面のみで調整剥離を加えず 基辺は円形状に凹む 	未製品
図版30 204	E-7 — 黒色粘質土層 (上層)	29.0 19.5 4.0 1.7	扁平な菱形		<ul style="list-style-type: none"> 幅広 先端、逆刺とも鋭い 両面とも調整面からなる 側辺はやや鋸歯状でふくらみをもつ 	
図版30 205	E-5 — 黒色粘質土層 (上層)	19.5 15.5 3.0 0.7	扁平な杏仁形		<ul style="list-style-type: none"> 薄くて小型 先端やや鈍い 両面とも中央に大剥離面を残し、A面両側辺沿いにステップ状剥離が多く混在する 左側辺の一部分において不揃いな鋸歯状剥離を施す B面側辺はA面に比べて不揃い 基辺においては急角度に入り調整がわずかにみられる 基辺はわずかに凹む 	
図版30 206	E-6 — 黒色粘質土層 (上層)	18.0 17.5 4.0 1.1	不整な杏仁形		<ul style="list-style-type: none"> 小型 全体的に丸みを帯び、いびつである 先端は丸く、逆刺はやや鋭い 両面とも調整剥離を乱雑に施す B面中央下に大剥離面を残す 先端よりやや離れた所が最も厚い 基辺は台形状に凹む 	
図版30 207	E-5 溝222 黒灰色粘質土層	16.5 17.5 5.0 0.9	杏仁形		<ul style="list-style-type: none"> 小型で基部中央に厚み 先端鋭く、すぼまる A面は先端部に段をもち、中央より右に大剥離面を残す 基部中央より両逆刺に鏡が通る ステップ状剥離が現在している 周辺は細かい調整剥離がみられる B面においても鏡が通り、調整剥離は不揃い 基辺は浅い半円状 	
図版30 208	E-7 — 灰黒色粘質土層 (木片多し)	18.0 17.0 4.5 0.9	菱形		<ul style="list-style-type: none"> 小型 基部中央に厚みがあり、基辺は薄く逆刺は鋭い A面は先端部にわずかに鏡が通り、基部中央に大剥離面が少し残る 両側辺とも丸みをもつ B面においては基辺に大剥離面を残す 調整は不揃いで基辺は未調整 基辺は浅く半円状 	

石錐（四基無茎式）

國版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考
國版30 209	E-4 — 黑色粘質土層 (上層)	18.0(残存) 18.0	3.5 0.7	扁平な六角形	<ul style="list-style-type: none"> 小型で薄い 先端、右逆刺とも欠損で左逆刺は鋭い 両側辺は部分的に鋸歯状剥離を施す A面は調整面よりなる B面基部中央に大剥離面を残し、左側辺沿いにステップ状剥離が混在する 調整剥離は細かい 基辺は浅い半円状 	
國版30 210	B-4 — 明黃灰色砂質土層 (層)	21.0(残存) 11.0	3.5 0.7	不整形	<ul style="list-style-type: none"> 先端欠損で逆刺は鈍い 両面左側辺にステップ状剥離からみられる 全面に調整剥離が施されている A面左側辺中央がわずかに突出している 基辺の凹みは浅いV字型 	
國版30 211	E-5 — 黑色粘質土層 (上層)	22.3 13.0	3.5 0.6	扁平な不整五角形	<ul style="list-style-type: none"> 先端は鋭く、逆刺は丸みをもつ A面にステップ状剥離混在 両面と調整剥離が施されるが、B面は粗い 両側辺の形が非対称 基辺の凹みは浅い 	金山産
國版30 212	D-4 — 黑色粘質土層 (上層)	23.0(残存) 14.5	4.5 1.2	五角形	<ul style="list-style-type: none"> 幅狭で厚みがある 先端部大きく欠損 両面とも、三辺が切り合う調整面よりなる A面は基部中央から逆刺へ鈎が通る B面においては、両逆刺に鈎が通り、逆刺はやや鈍い 基辺は浅い三角形状 	
國版30 213	F-8 構240 灰黑色粘質土層 (木片多し)	25.2(残存) 11.5(〃)	4.5 1.0	杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> 先端は鋭く逆刺は一方が鈍く他方は欠損 縦長 両面とも調整面からなり、中央にかすかに鈎が通る 基辺の凹みは小さく半円状 	
國版30 214	E-6 — 暗黃灰色砂層	25.5(残存) 15.0	5.0 1.6	菱形	<ul style="list-style-type: none"> 細長 先端を欠損、逆刺は一方がやや鋭く、他方はやや鈍い 両側辺はほぼ直線的 全面に調整剥離を施すが、ていねいな箇所もある B面右側辺沿いにステップ状剥離 鈎はA面ほぼ中央を通り、B面では右側辺に弯曲しながら通る 基辺は浅く三角形状に凹む 	
國版30 215	E-6・E-7 間観察用断面 — 暗黃灰色砂層	26.0(残存) 16.0(〃)	3.0 1.1	扁平な杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> 薄身 先端と逆刺の片方わずかに欠損 両面調整面からなる 基辺は半円状に凹む 	
國版30 216	F-7・F-8 間観察用断面 構239 灰黑色粘質土層 (木片多し)	31.5 13.5	3.5 1.3	扁平な六角形	<ul style="list-style-type: none"> 先端は鋭く、逆刺は鈍い 両面とも側辺、基辺に沿いに調整剥離を施し、中央には大剥離面残存 A面の方が調整がていねいで形も整っている 基辺の凹みは半円状で浅い 	

石器（四基無蓋式）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考
図版30 217	E-5 — 黑色粘質土層 (上層)	25.5 — 14.0 3.5 0.9	扁平な四辺形		<ul style="list-style-type: none"> 先端は丸みを帯び、逆刺は鋭い 全体に薄身である 二等辺三角形をなし、B面の中央部に大剥離面残存 A面は側辺、基辺にていねいな調整剥離がみられる A面先端部にわずかに鎌が通る 	
図版30 218	F-3 溝238 黒灰色粘質土層 (上層)	26.0 — 15.0 3.5 1.1	不整形		<ul style="list-style-type: none"> 先端は鋸く、逆刺は鋭い 両面とも中央に大剥離面が残り、側辺・基辺沿いの細かな調整剥離からなる 最大厚は基辺部寄りにある 	
図版30 219	E-7 — 灰黒色粘質土層 (木片多し)	27.5(残存) — 15.0 3.2 1.1	菱形		<ul style="list-style-type: none"> 先端は欠損、逆刺は丸みを帯びる A面は先端から中央にかけて鎌が通る調整面 B面は中央に大剥離面が残り、側辺・基辺沿いに細かな調整 基辺の凹みは浅い 	
図版30 220	E-7 — 15.0(〃) 3.5 1.4	27.7(残存) — 15.0(〃) 3.5 1.4	菱形		<ul style="list-style-type: none"> 先端と両逆刺とも欠損 縦長 両面とも調整面からなり、中央に大剥離面残存 片側辺が基部で少しふくらみをもつ 基辺は半円状に凹むが少しでこぼこしている 	
図版30 221	D-3 — 黑色粘質土層 (下層)	29.5 — 16.7 4.0 1.6	西辺形		<ul style="list-style-type: none"> 縦長 先端は鋸く、逆刺は片方が鋸く、他方は鋭い 両面とも調整面からなり、中央に大剥離面残存 A面先端部にわずかに鎌が通る 基辺は半円状に凹む 	
図版30 222	E-7 溝24 暗黃灰色砂層	24.0(残存) — 16.0 4.5 1.3	菱形		<ul style="list-style-type: none"> 先端は欠損、逆刺は鋭い 細長 A面、両側辺、B面各辺にステップ状剥離が認められる 両面とも調整剥離が全体に施されやや雜である 鎌はA面のほぼ中央を、B面では左側辺に彎曲しながら通る 基辺は円形状に凹む 	
図版30 223	E-5 溝238 黒灰色粘質土層	33.2 — 17.0 5.0 1.9	五角形		<ul style="list-style-type: none"> 縦長 先端は丸みをもち、逆刺も丸い 両面とも調整面からなる A面の基辺と左側辺、B面の左側辺にステップ状剥離が認在 B面は中央に大剥離を残し、A面に比べ平らである 	
図版30 224	F-7 西側觀察用断面 — 黑色粘質土層 (上層)	30.6 — 16.5(残存) — 3.5 1.2	先端部 菱形 基部 扁平な杏仁形		<ul style="list-style-type: none"> 先端部は細長く、やや鋭い 左逆刺欠損 両面とも先端から基部中央にかけて鎌が通り、基辺近くに大剥離面を残す 両側辺は直線的 調整はていねいで両側辺に比べて基辺は小さい調整剥離が施されている 基部中央に比べて基辺は厚みが少ない 基辺は浅い凹み 	

石器（凹基無茎式）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 重	中央断面	特徴	備考
図版31 225	E-5 溝238 黒灰色粘質土層	23.0(残存) 19.5 4.0 1.5		杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> 先端部を欠損、逆刺は鋭い 細長 側辺はほぼ直線的 両面中央に大剥離面を残す A面右側辺沿いにステップ状剥離 両面とも調整剥離は比較的ていねいである 基辺は円形状に凹む 	
図版31 226	E-7 —— 暗黄灰色砂質土層 (粘土まじり)	34.0(残存) 16.0 5.5 2.6		扇形	<ul style="list-style-type: none"> 細長 片逆刺を欠損、先端も欠損の可能性あり 片側辺はほぼ直線的だが、他方は彎曲している 両面とも中央に大剥離面を残すが、A面では小さく、B面では大きく残す 調整剥離は、A面では大まかに、B面では各辺沿いに並んで細かいものが施される B面左逆刺付近にステップ状剥離が認められるが成形以前のものと思われる 端は、A面中央を通る 基辺は浅い半円状 	
図版1-31 227	D-4 —— 黒色粘質土層 (下層)	45.0 25.0 6.0 4.1		不整形	<ul style="list-style-type: none"> A面、B面とも中央から下に向って大剥離面残存 A面においては、調整剥離は比較的大きい、右側辺にステップ状剥離がみられる、又、基辺の調整剥離の角度は鋭い、左側辺上部より彎曲に逆刺へ錐がみられる B面においては先端部に錐が通り、調整剥離は大きい、中央より下の側辺・基辺の調整は椎で角度が鋭い 基辺は平基ぎみ 	
図版31 228	E-5 —— 暗黄灰色粘質土層 (粘土まじり)	20.5 11.0 3.5 0.7		扁平な六角形	<ul style="list-style-type: none"> 小型 両面とも、先端から基辺にかけて大剥離面を残す 両側辺とも、基部中央でわずかに凹む、又、かすかに彎曲している A面先端に錐をもち、側辺に調整剥離を施す B面においては、周辺沿いにていねいな調整剥離を施す 基辺は半円状 	
図版31 229	D-5 西側觀察用断面 —— 暗黄灰色砂層	23.0 13.0(残存) 4.0 1.1		不整形六角形	<ul style="list-style-type: none"> 片逆刺を欠損 先端はやや鋭く、逆刺はやや鋭い 両面とも中央に大剥離面を残し各辺から調整剥離を大まかに施す。但しB面基辺には調整剥離を施さず、横からみると先端が反り上っている 両側辺はやや丸みを帯びる 基辺は不整形に凹む 	
図版31 230	E-5 —— 黒色粘質土層 (上層)	19.5 12.0 3.0 0.7		扁平な杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> 小型で薄身 先端部はぼまるような調整を施す A面基部中央に大剥離面を残し、両側辺の調整に比べて基辺は小さい B面も先端から基辺にかけて大剥離面をもち、周辺に不規則な調整剥離を施す 基辺は浅い 	

石鏃（凹基無蓋式）

国版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特 徴	備 考
国版31 231	E-5 — 黑色粘質土層 (上層)	20.3 12.5 4.0 0.8		不整四刃 形	<ul style="list-style-type: none"> 小型 先端は鋭く、逆刺は鋭い 両面とも調整面からなるが、A面の方が急角度の調整で、又わずかに鏃も通る B面は中央に大剥離面残存 側刃は中央でわずかにふくらみをもつ 基辺の凹みは浅い 	
国版1-31 232	E-6 — 暗黃灰色砂層	23.0(残存) 13.0(×) 4.5 0.9		不整形	<ul style="list-style-type: none"> 先端は鋭い 逆刺は丸みをおび、片方は欠損 全体に剥離を施し、周辺には細かな調整が施されるが鏃は通らず 両面にステップ状剥離が混在 B面中央に深いステップ状剥離がみられわずかに大剥離面残存 	
国版31 233	E-3 南側観察用断面 — 灰黒色粘質土層	25.5 14.3 5.0 1.4		不整五角 形	<ul style="list-style-type: none"> 先端、逆刺とも鋭い A面は側刃・基辺沿いに調整剥離が施されている B面は右側刃と右寄り基辺のみ、粗いステップ状を呈する剥離がみられる 基辺の凹みは浅い 	未製品 金山産
国版31 234	D-6・E-6 間観察用断面 —	25.5(残存) 16.5(×) 3.0 1.2		扁平な杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> 先端及び両逆刺を欠損 両面とも両側刃にステップ状剥離 両面各刃から調整剥離を施すが、乱雜である B面中央に大剥離面 基辺は円形状に凹む 	
国版1-31 235	E-8 — 暗黃灰色砂層	29.0 16.0 4.0 1.8		六角形	<ul style="list-style-type: none"> 綫長ぎみで、先端は鋭く、逆刺はやや鋭い 鏃が先端ではぼまっすぐだが、後は不明瞭 両面とも中央に大剥離面を残す A面の側刃・基辺とB面側刃にステップ状剥離面 調整剥離は、A面ではやや急で、B面ではゆるやかな角度である 基辺は浅い半円状に凹む 	
国版31 236	D-3 南側観察用断面 — 黑色粘質土層 (上層)	34.5 18.5 7.5 3.7		不整杏仁 形	<ul style="list-style-type: none"> 先端は丸く鋭い 基部中央に厚み A面基部中央に大剥離面を残す A面は調整は粗く、不揃い 基辺沿いに急角度に入るステップ状剥離が混在する B面においても右側刃にステップ状剥離が多くみられる 基辺は浅く半円状 	金山産
国版1-31 237	— — 黑色粘質土層 (上層)	30.0 15.0 4.0 1.9		扁平な菱形	<ul style="list-style-type: none"> 両面とも先端部に鏃が通る 両側刃の基部にステップ状剥離を呈する A面の中央部に原石面が残存 B面の中央部に人剥離面が残る 	

石鑿（凹基無蓋式）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考
図版31 238	D-3 — 黑色粘質土層 (上層)	35.0 19.0 6.0 3.0		菱形	<ul style="list-style-type: none"> 先端は鋭い 逆刺はA面右が鋭く、左は丸い 両面とも基部寄りに大剝離面 A面はステップ状剥離が現在 B面先端から中央にかけて鎌が通る 側辺は調整剝離が施されている 基辺凹みは浅い 	
図版31 239	E-3 南側觀察用断面 — 黑色粘質土層 (上層)	14.5(残存) 15.0 4.0 0.8		不整五角形	<ul style="list-style-type: none"> 上半分欠損 両逆刺は大きさに差がありやや鋭い A面で高く盛りあがるがB面は平らに近い B面中央に大剝離面を残す 両面とも調整剝離は比較的丁寧である 基辺は円形状に凹む 	
図版31 240	D-3 土壤205 黑色粘質土層 (下層)	18.0(残存) 22.0 4.0 1.9		杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> 上半分を欠損 逆刺はやや鋭い 両面各辺沿いにステップ状剥離 両面とも調整剝離を乱雑に施す B面中央に大剝離面 基辺は半円形状に凹む 	
図版31 241	F-7 — 明黄灰色砂質土層	13.5(残存) 10.5(〃) 2.5 0.3		菱形	<ul style="list-style-type: none"> 小型 先端及び片逆刺を欠損 逆刺は鋭い 側辺はほぼ直線的 A面中央に小さく、またB面では左半分に大剝離面を残す、調整剝離はA面では各辺から施し、B面では右側辺、及び基辺の右半分から施す A面各辺沿いにステップ状剥離 縫はA面中央、及びB面中央を通る 基辺は円形状に浅く凹む 	
図版31 242	E-5 溝238 黑灰色粘質土層	16.0(残存) 15.0 3.5 0.7		杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> 先端部大きく欠損 厚みはほぼ一定 逆刺は一方が鋭く、他方は丸い 調整剝離は、側辺・基辺沿いに施されているようだが、磨滅して見えにくくなっている 基辺の凹みは半円状 	
図版31 243	D-3・D-4 間觀察用断面 — 黑色粘質土層 (下層)	15.0(残存) 16.5 2.5 0.6		扁平な六角形	<ul style="list-style-type: none"> 薄身 先端部大きく欠損 逆刺は鋭い 側辺がわずかにでこぼこしている 基辺も浅く凹み、でこぼこしている 	
図版31 244	D-4 — 黑色粘質土層 (上層)	13.0(残存) 14.0(〃) 4.0 0.7		不整形	<ul style="list-style-type: none"> 上半分及び片逆刺欠損 逆刺先端付け根が最も厚い 逆刺は方形を呈する 両面に大剝離面を残す 両面とも各辺沿いに調整剝離が並んで施される 基辺は円形状に凹む 	

石鎚（回基無茎式）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特 徴	備 考
図版31 245	E-6 溝237 灰黒色粘質土層 (紗まじり)	26.5(残存) 15.5 4.0 1.3		扁平な五 角形	<ul style="list-style-type: none"> やや細身で先端欠損 A面は先端から基部中央にかけて鎌が通る 両側辺は逆刺近くで丸くなり、逆刺ではありません、鋸歯状を呈している 基辺においては部分的に調整剥離が施されている B面の基部中央には大剥離面を残し、右側辺は左側辺に比べて調整が粗い 基辺は浅い半円形 	
図版31 246	E-7 溝24 暗黄灰色砂層	13.0(残存) 15.0 3.0 0.5		菱形	<ul style="list-style-type: none"> 薄身 先端から基部中央にかけ欠損 両逆刺とも鋭い 両面とも中央で切り合う調整を施し、基辺寄りに大剥離面を残す 両側辺は鋸歯状を呈す 基辺は半円状 	
図版1-31 247	E-5 — 黑色粘質土層 (上層)	18.0 13.0 2.0 0.4		六角形	<ul style="list-style-type: none"> 先端は丸い 逆刺は鋭い 両面とも側辺沿いに調整剥離が施されて、それにそって先端が逆刺にむけて鎌が2本通る 中央には大剥離面残存 	
図版31 248	D-4 — 明黄灰色砂質土 層	12.8 12.0 2.7 0.4		五角形	<ul style="list-style-type: none"> 小型 先端は丸い 逆刺は鋭い 両面とも調整面でA面には中央に大剥離面残存 基辺の凹みは浅い 	
図版31 249	E-5 — 黑色粘質土層 (上層)	17.0 12.0 3.0 0.5		不整形	<ul style="list-style-type: none"> 小型 先端鋭い 逆刺鋭い 片側辺中央に小さな凹みがある 両面とも調整面からなりステップ状剥離も側辺沿いに見られる 片側辺中央に小さな凹みがある 基辺の凹みは平基ぎみ 	
図版31 250	F-6 南側觀察用断面 — 灰黒色粘質土層	17.0 10.0 4.5 0.5		不整五角 形	<ul style="list-style-type: none"> 小型 先端鋭い 逆刺鋭い 両面とも調整面でA面は先端部のみ鎌が通る B面は中央に大剥離面が残存し基辺沿いは急角度の剥離である 基辺の凹みは平基ぎみ 	
図版31 251	E-5 溝222 黑色粘質土層 (下層)	15.3(残存) 15.8 4.5 0.7		不整五角 形	<ul style="list-style-type: none"> 先端部欠損 逆刺鋭い 両面とも調整剥離が雜 片面逆刺寄りにステップ状剥離が何段にも重なり最大厚になる 基辺の凹みは浅い 	未製品
図版31 252	E-5 — 黑色粘質土層 (上層)	12.5 16.5 4.5 0.9		三角形状	<ul style="list-style-type: none"> 小型で厚みがある 逆刺基辺少し欠損 片側辺わずかに鋸歯状になる 両面にステップ状剥離が混在 	

石鏃（四基無茎式）

国版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考
国版31 253	D-3 — 黑色粘質土層 (上層)	17.0(残存) 14.0 3.5 0.8	五角形状	●小型 ●先端欠損 ●逆刺は鋭い ●両面ともいわいな調整剥離が施され、中央に大剥離面が残存しA面左側辺沿いに鏃が通る ●基辺の凹みは浅い		
国版31 254	D-4 — 黑色粘質土層 (下層)	20.5 15.0 4.0 1.0	不整形	●小型 ●先端鋭い ●逆刺丸く収める ●側辺はほぼ直線的 ●A面中央に大剥離面を残す ●B面基辺沿いにステップ状剥離 ●B面右側に施されている調整剥離の一つがきわだつ大きいのが特徴的である ●基辺は浅く凹む		
国版31 255	F-7 溝226 黒灰色粘質土層 (砂利まじり)	20.5 14.0 3.0 0.9	扁平な台形	●やや小型で薄身 ●先端両逆刺とも丸みをもつ ●両面とも基部中央に大きな大剥離面をもつ ●A面は両側辺とも小さい調整剥離を施し、基辺は急斜面に入る調整 ●右逆刺近くに段をもつ ●B面において基辺近くに研磨痕がみられる、又周辺沿いに小さい調整剥離を施す ●基辺に小さな凹みがみられる		
国版31 256	E-4 溝238 黒灰色粘質土層 (上層)	22.5(残存) 14.0(×) 4.0 0.8	菱形	●先端は細く鋭い ●逆刺は片方欠損もう一方鋭い ●片側辺が中央部で大きくふくらみをもつ、基部中央に厚み ●両面とも粗い調整でステップ状剥離も混在 ●A面先端部のみ鏃が通る ●基辺はわずかに凹む		
国版31 257	E-4 — 黒色粘質土層 (上層)	20.0 17.0(残存) 5.0 1.1	不整形	●小型 ●先端は鋭い ●逆刺はやや鋭い、片逆刺を欠損、ほぼ正三角形を呈すると思われる ●両面中央に大剥離面を残す ●B面右側辺沿いに明瞭なステップ状剥離、両面とも各辺から調整剥離をやや施す ●基辺はわずかに調整		
国版31 258	E-7 — 暗黃灰色砂質土層 (粘土まじり)	18.5 19.5 5.0 1.2	六角形	●小型 ●先端は鋭い ●先端から基部中央にかけて厚みをもつ ●逆刺はやや鋭い ●A面先端部で段をもち、基部中央にかけて鏃が通る、基部中央右寄りに大剥離面を残す、右側辺は左側辺・基辺に比べて粗い調整剥離 ●B面においても基部中央に大剥離面を残し、基辺近くにステップ状剥離を呈する。左側辺に比べて右側辺の調整は粗い ●基辺は浅い凹み、基辺は薄い		

石錐（凹基無基式）

國版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考
國版31 259	E-5 溝222 黒灰色粘質土層	21.0 19.0 5.0 1.5		不整扇形	<ul style="list-style-type: none"> やや小型で基部中央に厚み 片逆刺は鋭い A面は先端から基部中央をへて両逆刺に鏽が通る。基部中央の下にわずかに大剥離面が残る 調整剥離は不規則 B面基部中央に大剥離面を残し調整剥離はていねい 両面ともステップ状剥離が混在 基辺は平基ぎみ 	
國版31 260	E-7 —— 暗黄灰色砂質土層 (粘土まじり)	23.0 15.0 4.0 0.9		扁平な菱形	<ul style="list-style-type: none"> 先端はすぼまるような調整 先端部はわずかに角をもつ 両逆刺は鋭い A面基部中央にかけて鏽が通る細かい調整はみられない B面は調整面よりなる 基辺は平基ぎみ 	
國版31 261	E-7 溝24 暗黄灰色砂層	25.0 16.0 3.7 1.2		不整形	<ul style="list-style-type: none"> 先端は鋭い 逆刺は一方は鋭く、もう一方は鈍い A面は全面に調整剥離が施されている B面は側辺、基辺沿いに調整剥離が施されているが中央に大剥離面が残存 基辺の凹みは浅い 	
國版31 262	D-4 —— 黑色粘質土層 (上層)	18.0 17.0 3.5 1.3		不整形六角形	<ul style="list-style-type: none"> 小型 正三角形に近いが側辺は丸みを帯びる 先端は磨滅のため丸い 逆刺は鈍い A面右下にステップ状剥離 両面とも中央に大剥離面を残すように各辺から調整剥離を施す 基辺はわずかに凹む 	
國版31 263	E-5 —— 暗黄灰色砂質土層	22.0 18.5 5.0 2.4		不整形	<ul style="list-style-type: none"> やや小型で厚みがありずんぐりしている 両面とも粗い剥離のみ施されている 	未製品 金山産
國版1-31 264	E-5 —— 黑色粘質土層 (上層)	33.5 23.5 7.0 4.0		扁平な菱形	<ul style="list-style-type: none"> 両面ともに主要剥離面が残る 側辺は外彫して下る 側辺に不ぞろいの鋸歯状剥離を施している 基辺の凹みは浅く平基無基式に近い 	
國版31 265	E-6 —— 暗黒色砂質土層	21.0 14.0 4.0 1.2		不整形	<ul style="list-style-type: none"> 小型 先端は鈍く先端部に鏽が通る 両側辺はわずかに丸みをもつ 両面とも基部中央に大剥離面を残す A面両側辺は基辺に調整剥離を施し、左側辺はステップ状を呈す B面においてもていねいな調整剥離を施す 逆刺は鋭い 基辺は平基ぎみ 	

石鏡（凹基無茎式）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (m) 幅 (m) 厚 (mm)	長さ (m) 重量	中央断面	特徴	備考
図版31 266	F-6 黑色粘質土層 (上層)	25.0 17.1 3.2 1.3		扁平な三角形	<ul style="list-style-type: none"> 先端部は鋸く側辺は丸みを帯びる A面左側辺の逆刺を欠損する 両面とも両側辺より調整剥離 B面には大剥離面残る A面左側辺、B面左側辺の剥離の一部は細かいステップ状を呈す A面中央を鏽が通る、両辺ともにエッジはうすく鋭いが、先端においてはやや磨耗する 基底は直線を呈し逆刺は小さく突出する 	
図版31 267	D-5 西側観察用断面 —— 青灰色砂層	22.0(残存) 17.5 3.5 1.5		杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> 先端部を欠損、やや細長のものになると思われる 逆刺は鋭い 両側辺は上より3分の1ほどの所でくの字形に屈曲し、先端にいくにつれてすぼまる A面は全面に調整剥離を施すが大まかである B面の調整剥離はA面に比べ小さい。鋸はジグザグ状に、中央より左側辺寄りに通る 基底はわずかに凹む B面中央に大剥離面 	
図版31 268	E-4 —— 黒色粘質土層 (上層)	27.5 18.5 5.0 2.5		不整形	<ul style="list-style-type: none"> 石鏡としての先端がまだ作られておらず、上端から下端まで幅がほぼ同一である 基底はわずかに凹む 両面ともステップ状剥離も多数混在する粗い剥離である 	未製品
図版31 269	E-6 —— 暗黄灰色砂質土層 (粘土まじり)	21.5(残存) 14.5 3.8 1.1		不整四辺形	<ul style="list-style-type: none"> 小型 先端わずかに欠損(?) 逆刺は鋭い 片側辺が中央でわずかにふくらむ 両面とも側辺・基底沿いに調整剥離を施し中央に大剥離面を残す 基底の凹みは平基ぎみ 	
図版31 270	E-6・E-7 間観察用断面 —— 灰黒色砂質土層	24.0 14.0 5.0 1.5		不整合形	<ul style="list-style-type: none"> 先端やや鋸くすぼまる形 両側辺ゆるく外湾 逆刺は鋭い 両面とも調整面よりなる A面は基底近くにステップ状剥離 B面は両側辺と基底が切り合うような調整剥離 基部中央に厚み 基底は平基ぎみ 	
図版31 271	E-7 西側観察用断面 —— 黒色粘質土層 (上層)	28.0 15.5 5.5 1.6		五角形	<ul style="list-style-type: none"> 先端純く、基部中央に厚みをもつ 片逆刺は鋭い A面先端部に段を持ち基底近くまで鏽が通る 両側辺より切り合うように調整を施し、中央に細長く大剥離面を残す 周辺沿いにステップ状を呈する剥離 B面においても基部中央に大剥離面を残し、周辺に調整剥離を施し基底沿いにステップ状剥離 基底は平基ぎみ 	金山産

石鑿（四基無蓋式）

國版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (g)	長さ (mm)	幅厚 (mm)	中央断面	特徴	備考
国版31 272	E-7 暗黃灰色砂質土層 (粘土まじり)	23.5 15.0 4.0 1.1	不整杏仁形			<ul style="list-style-type: none"> 先端やや鋭く両側邊において先端部に角をもち基部中央下でも角をもつ 両面とも大剥離面よりなる A面は周辺近くに調整剝離が施されているが不揃い 基辺においては急角度に入る調整を施す B面はA面に比べ左側邊にわずかに調整がみられ全体に粗い 基辺は浅いN字形の凹み 	
国版31 273	E-8 暗黃灰色砂層	26.0 — 18.5 5.0 1.5	不整扇形			<ul style="list-style-type: none"> 先端、基辺は薄く基部中央に厚みをもつ 先端やや鈍い 左逆刺は右逆刺に比べて鋭い A面三辺からの切り合いで基部中央にわずかに大剥離面が残る。剥離の多くはステップ状剥離を呈する。調整は粗い B面は左側辺沿いに大きな大剥離面を残し、右側辺沿いに段をもつ。調整剝離は粗く部分的に残る 基辺は平基ぎみ 	
国版31 274	F-8 暗黃灰色砂質土層 (粒子粗い)	26.5 — 16.5 4.5 1.5	杏仁形			<ul style="list-style-type: none"> やや細長く、全体的にいびつである 先端片逆刺はやや鋭くもう一方の片逆刺は鋭い A面上より4分の3ほどで右に寄った所が盛りあがっている。両面各辺沿いにステップ状剥離、全面に調整剝離を施すが乱雑である 基辺は平基ぎみに凹む 	
国版31 275	E-5 黑色粘質土層 (上層)	24.0 — 18.0 5.0 2.0	不整形			<ul style="list-style-type: none"> 先端逆刺とも鈍い 側邊はほぼ直線的 A面中央に自然面を、B面中央に大剥離面を大きく残す A面左逆刺には自然の凹みが残っている。調整剝離はA面では各辺から施す B面では右側辺以外はほとんど調整剝離を施さない A面右側辺と基辺では調整剝離が急角度に入る 基辺はわずかに凹む 	
国版1-31 276	D-3 黑色粘質土層 (上層)	24.0 — 21.0 3.0 1.5	扁平な菱形			<ul style="list-style-type: none"> 片面の基部に大剥離面を残し他方には自然面が残る 側邊は未調整 基辺の凹みは浅い 全体的に風化（？） 	
国版31 277	E-6 黑色粘質土層 (上層)	25.0(残存) — 18.5() 3.5 1.2	扁平な杏仁形			<ul style="list-style-type: none"> 薄身 先端は鋭く、左逆刺欠損 両側邊は直線的で、右逆刺近くでわずかに凹む A面は基部中央にステップ状剥離が混在し、基辺沿いに大剥離面を残す B面基部中央に大剥離面を残す 調整は両面とも粗い 基辺は平基ぎみ 	

石鍔（凹基無茎式）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) 幅 (g)	長さ 幅厚 重量	中央断面	特徴	備考
図版31 278	D-5 西側観察用断面 —— 灰黑色粘質土層	24.5(残存) 17.0(〃) 3.0 1.0	扁平な杏仁形		<ul style="list-style-type: none"> 薄身 向逆刺欠損 A面は先端部にわずかに鍋が通る 基部中央に大剥離面を残し、両側辺に比べて基辺の調整剥離はやや粗い 両側辺は直線的 B面においては、二辺が切り合う大きな調整剥離が施され、右逆刺近くに小さな大剥離面が残る 	
図版31 279	E-3 —— 明黒灰色粘質土層	30.0 19.0 5.0 1.6	四辺形		<ul style="list-style-type: none"> 先端、逆刺とも鈍い 逆刺で大きく横に広がる 両面中央に鍋が通る 側辺、基辺に調整剥離が施される A面にステップ状剥離が見られる 	
図版31 280	C-5 —— 青黒色砂質土層	31.0(残存) 18.0 5.0 2.4	平行四辺形		<ul style="list-style-type: none"> 縦長で厚みがある 先端欠損 両逆刺も欠損 A面は急角度で、中央に鍋が通る調整面 B面は側辺、基辺沿いに調整剥離を施し、中央に大剥離面残存 両側辺は基部中央でわずかに凹む 基辺はわずかに凹む 	
図版32 281	E-3 —— 黒色粘質土層 (上層)	32.5 23.5 5.0 3.0	扁平な六角形		<ul style="list-style-type: none"> 全体に厚みあり 両側辺はやや直線 両面とも基部中央に大剥離面を残す A面は両側辺、基辺とともに急角度に入る調整剥離、調整は不規則 先端部に鍋が通り、周辺にステップ状剥離が混在 B面は調整が粗く、ステップ状剥離が多く混在する 基辺はわずかに凹む 	金山産
図版32 282	E-7 西側観察用断面 溝238 青黒色砂質土層	36.5(残存) 21.0(〃) 5.0 3.0	不整な五角形		<ul style="list-style-type: none"> 大型で細長 先端はやや鈍く、両逆刺を欠損 両側辺はほぼ直線的 A面右側辺、基辺沿いにステップ状剥離 両面とも調整剥離はやや難に大まかに施す B面中央に大剥離面を残す 鍋はA面で左側辺に彎曲しながら通る 基辺はわずかに凹む 	
図版32 283	E-5 —— 黒色粘質土層	30.0 23.5 6.0 2.9	不整形		<ul style="list-style-type: none"> 厚身がある 先端はやや鈍く、両側辺はわずかに丸みをもち両逆刺近くで少し凹みをもつ A面は先端から左側辺寄りに鍋が通り逆刺に至る 基部中央に大剥離面を残し、調整剥離はていねい B面は調整面によりなり、剥離の多くはステップ状剥離を呈し、調整剥離は側辺に比べて基辺はていねい 基辺は浅い 	

石鐵(凹基無茎式)

国版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (m) (kg)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考
国版32 284	F-8 — 灰黑色粘質土層 (上層)	25.0 15.5 4.0 1.1		扁平な杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> 先端は鋭い方で、逆刺は一方は鋭く他方は丸味をもつ 全体に薄身であり、鍋は通らず 二等辺三角形で側辺は鋸歯状を呈し、両面とも全体に調整剥離が施される 基辺はわずかに凹む 	
国版32 285	F-7 — 黒色粘質土層 (上層)	22.0(残存) 17.0 3.0 1.3		不整形	<ul style="list-style-type: none"> 先端を欠損で、両逆刺は鋭い 両面中央に大きく大剥離面を残す A面右側辺沿いにステップ状剥離 調整剥離は両面各辺より施すが、やや難である 両側辺は鋸歯状で、基辺はわずかに凹む 	
国版32 286	D-3 — 黒色粘質土層 (上層)	27.0 17.3(残存) 4.0 1.6		不整六角形	<ul style="list-style-type: none"> 先端が最大厚で丸くなり、ずんぐりしている 逆刺は片方欠損で他方は鋭い 両面とも大きな調整剥離が施されている 片側辺の中央から逆刺寄りにかけて鋸歯状になり逆刺のみ広かりをもつ 基辺の凹みは平基ぎみ 	未製品
国版32 287	Z Z — —	18.0(残存) 18.0 3.5 1.2		不整な杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> 上半分欠損 細長 逆刺は一方は鋭く、他方は鋭い 両側辺は鋸歯状 両面に大剥離面を残す 両面各辺にステップ状剥離 両面とも調整剥離は大まかなものの後、細かなものを施す 基辺は浅く凹むが、中央よりややずれた所でさらに小さく凹む 	金山産 B面に鉄分付着
国版32 288	D-5 — 黒色粘質土層 (下層)	32.0(残存) 10.0 4.0 1.4		四辺形	<ul style="list-style-type: none"> 縦長で細身 先端は欠損 両逆刺は側辺から丸みを帯びる 両面とも側辺からていねいな調整剥離が施され、中央には鍋が通る B面基部にわずかに大剥離面残存 基辺の凹みは浅い 	
国版32 289	D-3 西侧観察用断面 — 黒色粘質土層 (上層)	25.0(残存) 11.0 3.5 1.2		杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> 先端欠損 細長で逆刺は鋭い A面では全面に調整剥離を施す B面では中央に細長く大剥離面を残す B面右逆刺付近にステップ状剥離 両面とも調整剥離は大まかである 	
国版32 290	D-3 西侧観察用断面 — 黒色粘質土層 (上層)	36.0(残存) 15.0(〃) 4.5 2.8		平行四辺形	<ul style="list-style-type: none"> 先端と逆刺の一方が欠損 側辺部は調整剥離が施されるが粗雑 両面とも大剥離面がわずかに残存 基辺の凹みは浅い 	
国版32 291	F-6 南側観察用断面 — 黒色粘質土層 (上層)	21.5(残存) 15.0(〃) 3.5 0.9		五角形	<ul style="list-style-type: none"> 片逆刺欠損 先端は鋭く、逆刺は鋭い 両面とも調整面からなるが難 基辺の凹みは浅い 	

石鏃（凹基無茎式）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考
図版32 292	F-8 —— 暗黄灰色砂質土層	21.0 14.5(残存)	不整五角形	●小型で薄い ●先端に丸みをもつ ●片逆刺欠損 ●A面は基部中央に鋸が通る ●中央右寄りに大剥離面を残す ●ステップ状剥離が混在し、部分的に粗い調整を施す ●B面においても中央に大剥離面を残し、調整は粗い ●基辺は斜基で浅い	未製品	
図版32 293	D-4 —— 黒色粘質土層 (上層)	20.5 15.0(残存)	杏仁形	●片逆刺はわずかに欠損 ●先端を大きく、丸く収める ●先端に、中央よりずれているが1mm以内の小さな突起が一つ付く ●逆刺も丸く収める ●全面に調整剥離を難に施す ●基辺は浅く凹む		
図版32 294	E-6 北側観察用断面 —— 黒色粘質土層 (上層)	19.5 12.0 3.5 0.8	扁平な半円形	●小型 ●A面は先端鈍く、先端から基辺にかけて大きな大剥離面を残す ●周辺の調整は不揃い ●B面においては、左側辺寄りに大剥離面を残し、調整剥離がわずかに施されている ●両逆刺は鈍く、基辺は半基ぎみ ●基辺近くに厚みがある		
図版32 295	E-5 —— 黒色粘質土層 (上層)	23.5 12.5 4.5 1.2	不整杏仁形	●先端鋭く、基部中央あたりからすぼまるような先端をもつ ●両面先端部に鋸をもつ ●両側辺とも外彎状に円弧を描く ●A面においてはステップ状剥離が混在する ●B面基辺に大剥離面をもち、両側辺に小さな調整剥離が部分的にみられる ●基辺は小さく半円状		
図版32 296	D-4 —— 黒色粘質土層 (下層)	27.0 11.0 0.2 0.9	不整な長方形	●細長で扁平 ●柳葉形を呈する ●先端は鋭く、両逆刺はやや鈍い ●両面とも大剥離面を大きく残す ●各辺より調整剥離を施すが、施していない部分もある。特に片側辺ではその半分を成形前に剥離をとどめ、垂直に切り立っている ●A面右側辺およびB面左側辺沿いにステップ状剥離 ●基辺はわずかに凹む	未製品	
図版32 297	E-5 —— 暗黄灰色砂層	30.0 17.5 3.5 2.1	不整合形	●全体が中央で彎曲している ●先端に丸みをもち、A面においては基部中央に大剥離面を残し、その上下に段を数段もつ ●左側辺と右側辺基部に調整を施している ●B面は中央から基辺にかけて大剥離面を残し、両先端部に調整剥離を施す ●逆刺はやや鈍い ●基辺はわずかに凹む		

石誠（凹基無茎式）

国版番号	出土地名 遺構名 層位名	法量 (m) (s)	長さ 幅厚 重量	中央断面	特徴	備考
国版32 298	B-4 — 白黄色粘質土層 (粒子粗い)	31.0 19.5 5.5 2.9		菱形	<ul style="list-style-type: none"> 先端は鈍い 両面とも調整剥離を施す B面先端部に小さく大剥離面をとどめる 両面ともステップ状を呈する剥離が若干混在する 片逆刺欠損 	金山産
国版32 299	E-4 — 明黄灰色粘質土層	24.4 16.0 2.8 1.1		扁平	<ul style="list-style-type: none"> 横長の薄い剥片を折り、調整剥離を施す 先端部は折れ欠きのみで未調整 基辺はA面左側が逆刺状を呈す A面の三辺、B面の基辺のみ調整剥離 A面には左下方からの大剥離面、B面には右下方からの大剥離面残る 	木製品
国版32 300	F-7 — 黒色粘質土層 (下層)	32.0 16.0 4.0 1.7		三角形	<ul style="list-style-type: none"> 先端両逆刺とも欠損で幅狭 両面とも調整面よりなる A面は中央で切り合う調整剥離を施し、基部中央に段をもつ B面の調整は粗い 右逆刺上に自然面がわざかに残る 	金山産
国版32 301	D-4 — 南側觀察用断面 — 黒灰色粘質土層 (上層)	24.0 17.0 4.1 1.3		扁平な扇形	<ul style="list-style-type: none"> 小型 先端は鋭利で突出し側辺は直線ぎみ A面右側辺は逆刺が斜め下方に突出し、左側辺は逆刺を欠損する 各辺両面より調整剥離を施す 逆刺はB面を大きく抉って成形するが形状は粗雑 鎌はA面中央を通る 両辺ともエッジは薄く鋭い 基辺の凹みは浅いくの字状を呈す 	未製品
国版32 302	E-3 — 黒色粘質土層 (上層)	13.0(残存) 18.0 3.5 0.7		不整五角形	<ul style="list-style-type: none"> 先端部欠損で薄身 左逆刺はわざかに欠損 A面は基部右寄りに大剥離面を残す B面基部中央に大剥離面をもつ 両面とも調整剥離を施す 基辺は浅い凹み 	
国版32 303	E-3 — 黒色粘質土層 (上層)	20.0(残存) 19.0(〃) 3.5 1.2		扁平な扇形	<ul style="list-style-type: none"> 先端部および逆刺欠損 扁平 片側辺が大きく抉れており、製作途上における失敗かもしれない 両面に大剥離面が残る 調整剥離は、A面では左側辺のものが、右側辺・基辺のものより大きく、B面では右側辺と基辺にのみ施される 基辺は浅く凹む 	金山産 未製品

石鐘（平基無茎式）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (m) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考
図版2-32 304	— 西側觀察用断面 — 黒色粘質土層 (上層)	19.0 14.5 3.5 0.5		扇形	<ul style="list-style-type: none"> 先端は鋭く右側の基端は丸い A面は向側辺、基辺とも調整剥離は中央に伸びる B面は半扭ぎみ 先端と両基端から中央にむかって鍋をつくる A、B面とも中央右寄りにステップ状剥離が認められる B面において両側辺とも細かな調整剥離がみられない 基辺はかすかに彎曲している 	金山産
図版32 305	E-5 溝222 — 黒灰色粘質土層 (上層)	21.0 16.5 3.6 1.4		扁平な杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> ほぼ形の整った比較的幅広 先端は一部欠損するが、やや鋭い 側辺は丸みを帯びるがA面左側辺は若干いびつ 基辺は直線的だがや丸みを帯びる 各辺とも両面より薄いていねいな調整剥離 B面中央には大剥離面が残存し左側方に打点がある A面左側辺の上半には、他より深い剥離がみられ、側辺が抉られている 両辺ともエッジは鋭い 	
図版32 306	試掘第2トント チ — 黒色粘質土層 (上層)	17.5(残存) 15.0 3.5 0.8		扁平な六角形	<ul style="list-style-type: none"> やや薄身で先端部欠損 両側辺は直線的で基端はやや丸みをもつ A面は大剥離面を残し、右側辺沿いの調整剥離が左側辺、基辺に比べて細かい B面欠損部から基辺にかけて大剥離面を残し、調整剥離は周辺にとどまる 	
図版32 307	D-4 — 黒色粘質土層 (上層)	15.5 14.5 3.0 0.7		扁平な三角形	<ul style="list-style-type: none"> 小型で薄い 先端は鋭く右基端は鋭い 左側辺より右側辺の方が長い A面は先端から基辺にかけて両面とも大剥離面を残し、調整剥離は周辺にとどまる B面基辺沿いは急角度に入る 	
図版32 308	E-4 — 黒色粘質土層 (上層)	16.5 13.0(残存) 2.0 0.4		扁平な三角形	<ul style="list-style-type: none"> 小型で薄身 先端は丸みをもつ 左基端わずかに欠損 A面右側辺先端部から基辺に鍋が通り、右側辺中央よりわずかにふくらみをもち基端は丸みをもつ 三辺ともわずかに調整剥離が混在 B面も同様で雫 基辺沿いにステップ状剥離 基辺は斜基である 	
図版32 309	E-7 — 黒色粘質土層 (上層)	17.0 16.0 3.5 1.0		不整五角形	<ul style="list-style-type: none"> 小型で薄身 先端やや鋭く、中央に厚み 左側辺中央に小さな角をもち、基辺は斜基 A面は三辺とも剥離は不規いで右側辺沿いにステップ状剥離を呈する B面は中央に大剥離面を残し両側辺、基辺ともいねいな調整剥離を施す 	

石鏡（平基無茎式）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (m) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特 徴	備 考
図版32 310	E-8 灰黒色粘質土層 (砂まじり)	17.5(残存) 17.5 3.0 0.7		不整菱形	<ul style="list-style-type: none"> 小型で薄身 先端部欠損 両面とも大剝離面を残し、中央右寄りでやや厚い A面は両側辺にわずかに調整剥離、基辺にはなし B面右基端部はていねいに調整、左側辺の一部調整がみられる 全体に調整不揃い 	
図版32 311	E-3 溝238 黒灰色粘質土層	22.0(残存) 18.0(〃) 3.5 1.8		先端部 六角形 基部 扁平な杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> 先端は丸みをもち、両面とも中央から基辺にかけて大剝離面を呈し左基端欠損 右側辺やや外彎し、基端鋭い 両周辺とも調整剥離は粗い 	
図版32 312	D-4 — 黒色粘質土層 (上層)	23.0 16.5 5.0 1.4		不整形	<ul style="list-style-type: none"> 先端や丸みをもち、中央に厚みがみられる A面先端から中央にわずかに鍋が通り、両面とも調整面よりなる 右側辺中央に凹みがある ステップ状剥離が混在し、側辺はかすかに丸みをもつ B面中央に大剝離面を残し、わずかに調整剥離がみられる 基辺かすかに内彎している。特に中央にステップ状剥離を施している 	
図版32 313	E-4 溝238 灰黒色粘質土層	22.5(残存) 16.0(〃) 4.5 1.2		杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> 先端左基端とも欠損 A面両側辺沿いに鍋が通り、両側辺、基辺とも調整はやや粗い B面左側辺は小さな調整を施す 右側辺は左側辺に比べ粗い 基辺沿いに急角度のステップ状剥離を呈する 基辺近くに厚みがある 	
図版2-32 314	E-8 — 暗黄灰色砂層	22.0 18.0 2.5 1.2		先端部 扁平な平行四辺形 基辺部 扁平な六角形	<ul style="list-style-type: none"> 先端は鋭く突出しており、基端はやや鈍く片側は欠損している 両面ともていねいな調整剥離で大剝離面はみられない 側辺の調整は基辺に比べて小さく細かい B面中央には大ステップ状剥離がみられる 鍋は両面にみられA面左側辺に彎曲するものと、B面左側辺に彎曲するものがみられる 	
図版32 315	F-6 西側観察用断面 — 黒色粘質土層 (上層)	23.0 19.0 5.5 2.1		不整五角形	<ul style="list-style-type: none"> 厚みあり A面右寄りに鍋が先端下より右基端に通る 左側辺は先端部に角をもち中央でわずかに凹み、左基端は丸い 基辺においては急角度のステップ状剥離を呈す B面中央に大剝離面を残し調整剥離は周辺にとどまる 基辺にステップ状剥離を呈す 	金山産

石鑿 (平基無基式)

図版番号	出上地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考
図版32 316	E-3 — 黑色粘質土層 (上層)	24.0 17.0 3.0 1.0		不整形	<ul style="list-style-type: none"> 薄く、中心のみわずかに厚みあり 先端鋸く、左基端に丸みあり A面においては、三辺より切り合う剥離からなり側辺の調整はわずかにみられる B面では調整のあとが左側辺にみられるのみで未調整 扁平 	金山産 未製品
図版32 317	E-5 西側觀察用断面 — 黑色粘質土層 (上層)	22.0(残存) 17.5(×) 3.0 0.9		扁平な杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> 薄身 先端、両基端ともわずかに欠損 両面とも両側辺から中央に向かって調整剥離がみられ、基辺近くに大剥離面を呈す B面は基辺沿いにステップ状剥離、一部に小さい調整剥離を呈す 	
図版32 318	E-7 東側觀察用断面 — 暗黄灰色砂層	22.5 17.0 3.0 1.2		扁平な菱形	<ul style="list-style-type: none"> 先端わずかに欠損 両側辺とも直線的で薄身 A面は先端部にわずかに鎌がみられる 両面とも調整面よりなる A面左側辺、B面右側辺にステップ状剥離を呈する 基辺はわずかに内彎し、全体に剥離は不揃いである 	
図版32 319	E-3 溝238 黒灰色粘質土層	23.5 17.0 4.0 1.2		不整五角形	<ul style="list-style-type: none"> 先端部細身 右側辺やや直線的 左基端細長く鋸い A面は両側辺から中央で切り合うような調整剥離 基辺近くに剥離面が残り、三方にステップ状を呈す B面中央に大剥離面を残し、両側辺は不揃いな調整 基辺沿い急角度に入る 	
図版32 320	E-3 溝238 黒灰色粘質土層	24.0 17.0(残存) 3.0 0.9		扁平な杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> 薄身で先端鋸い 左基端欠損 両側辺は直線的で右基端は丸みをもつ 両面とも、先端部から基辺にかけて大剥離面を残す 調整剥離は周辺にとどまる 	
図版32 321	E-6 — 黑色粘質土層 (上層)	22.0 18.0 4.0 1.3		扁平な菱形	<ul style="list-style-type: none"> 小型で先端は丸みをもつ 両面とも三辺より切り合いぎみに調整剥離を施し、全体に剥離は不揃い 両辺とも先端部で角をもつ B面右側辺近くにステップ状剥離を呈する 	
図版2-32 322	E-7 — 黑色粘質土層 (下層)	27.0 19.0 6.0 1.8		扇形	<ul style="list-style-type: none"> 先端はやや丸く基辺より若干上の部分が最大幅になる A面中央部分に気泡らしい穴がみられる A面中央にステップ状剥離 A、B面の中央下に大剥離面がみられ、A面右側辺・基辺は急角度に調整剥離が入っているがB面基辺には調整剥離がみられない A面基辺にくらべて両側辺は大きな調整剥離 基辺の中央部分が突出している 	

石鎧(平基無塞式)

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (m) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考
図版2-32 323	E-6 —— 暗黄色砂層	27.0 19.0 4.3 2.1	六角形に 近い		<ul style="list-style-type: none"> 先端は丸みを帯びる 両面とも基辺・側辺に細かな調整剥離を施し、中央に大剥離面残存 B面の先端から両基辺にかけて2本の鈎が通る 	
図版32 324	E-6 —— 灰黑色砂質土層	25.5(残存) 23.5(×) 4.0 1.9	不整五角 形		<ul style="list-style-type: none"> 先端部右基辺とも欠損 両側辺とも小さな調整剥離を施し、左側辺に小さなステップ状剥離が現在する、又基辺から右側辺にかけて大きなステップ状剥離 A面両側辺から中央で切り合う剥離を施す B面中央に大剥離面を残す三辺ともにていねいな調整剥離 基辺は小さな調整剥離がわずかに見られる 	
図版2-32 325	D-3 北側観察用断面 —— 黒色粘質土層 (上層)	24.0 28.0 4.0 1.9	偏平な扇 形		<ul style="list-style-type: none"> 長さに対して幅が広い 両面とも調整剥離を施す A面の調整は、大剥離の後、細かい調整剥離を施す A面両側辺には一部ステップ状剥離がみられ、左側辺の剥離は他の辺に比べて粗い B面には大剥離面が現在し周縁部に浅い調整剥離 先端は鋭く尖り、基辺はやや外側に丸みを帯びている 鈎はA面左側辺へ彎曲 	
図版2-32 326	E-4 溝238 —— 黒灰色粘質土層	31.0 23.0 4.0 3.6	上部が丸 みを帯び た不整逆 台形		<ul style="list-style-type: none"> 形は三角形 先端基辺とも鈎い 各辺ともほぼ1回限りの調整剥離に終っており、調整剥離は急角度に入る A面では主軸より右(B面では左)に先端がずれている。またA面では左(B面では右)の側辺は丸みを帯びている A面右下(B面左下)では斜基を呈する A面(中央と基部側)B面とも大剥離面を残す B面先端にステップ状剥離 	
図版32 327	F-7 溝238 —— 暗黑色粘質土層	17.0(残存) 13.5 3.5 0.6	不整杏仁 形		<ul style="list-style-type: none"> 小型 先端欠損 A面中央から右寄りに大剥離面を残す 左側辺基辺には不揃いの剥離が残り、右側辺にはわずかに残る B面中央に大剥離を残し三辺に調整剥離が見られる 両側辺とも先端から中央にかけてわずかに内彎し右側辺においては角を呈す 	金山産
図版32 328	D-4 溝105 —— 灰黑色粘質土層 (木片多し)	23.5(残存) 19.0(×) 3.0 1.3	不整五角 形		<ul style="list-style-type: none"> 先端欠損 左基辺は鋭く下方に突出している 両面とも大剥離面残存 両側辺両基辺に粗い剥離を施している A面左基辺中央で若干外方にふくらんでいる 	未製品
図版32 329	F-8 西側観察用断面 —— 黒色粘質土層 (上層)	25.0 20.5 4.5 2.5	不整杏仁 形		<ul style="list-style-type: none"> 全体的に縱長の台形を呈する、先端は明確である 先端はやや鋭く、基辺は鈎い A面中央に自然面を、またA面左側面・基辺及びB面中央に大きく人剥離面を残す 調整剥離はA面基辺以外の辺に乱雑に施されるが特にA面右側辺は凸凹が激しい 	未製品

石鎚(平基無茎式)

国版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (m) (g)	長さ 幅厚 重量	中央断面	特 徴	備 考
国版32 330	E-3	27.0 20.0(残存) 5.0 23.0		菱形	<ul style="list-style-type: none"> 先端は細くやや鋭くていねいに調整 両側辺・基辺より中央で切り合う剥離面をもち、左基端は欠損 A面先端部より左側辺は丸みをもつ右側辺は角をもつ 右側辺角から鋸歯状剥離が施され、右基端は鋭い 左側辺・基辺とも調整不均いでステップ状剥離が混在している B面中央から基辺にかけて大剥離面を残し、右側辺・基辺とも小さな調整剥離を呈する 	
国版32 331	E-3 — 黒色粘質土層 (上層)	31.5 22.0 4.0 2.5		不整菱形	<ul style="list-style-type: none"> 先端はやや鋭い 両側辺直線的で両基端は丸みが見られる A面先端部のみに鏽が通る。A面においてはでいねいな調整剥離の後両側辺に細かい鋸歯状剥離が施されている B面においても同様に基辺B面に調整剥離 両面にステップ状剥離が数ヶ所 	
国版2-32 332	E-3 溝238 黒灰色粘質土層	49.0 56.0 5.0 9.9		台形	<ul style="list-style-type: none"> 先端から基端は彎曲している 側辺の付近のみ調整剥離を施す 片面にステップ状の剥離面が残る 両面とも大剥離面を残す 母岩から打ち剥ってきた剥片を成形した後内部を調整している 基辺はわずかに斜基である 	
国版32 333	E-5 — 黒色粘質土層 (上層)	31.5(残存) 24.0 5.5 3.7		不整杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> 先端・左基端ともに欠損 A面右寄りに鏽が通る 両面とも、基部中央に大剥離面を残し、両側辺・基辺とも粗い調整剥離を施す 	未製品 金山産
国版32 334	F-7 溝226 黒灰色粘質土層 (砂利混じり)	21.5 15.2 4.4 1.5		扁平な扇形	<ul style="list-style-type: none"> 全体に未整形 先端は未調整でA面右側辺寄りにある A面左側辺は丸く伸び右側辺は直線的 調整は各辺両面より調整剥離を施す 両面とも中央に大剥離面を残す 鏽はA面中央を彎曲して通る エッジは鋭い 基辺は打ち欠き 	未製品
国版2-33 335	D-3 — 黒色粘質土層 (下層)	20.0 13.0 4.0 1.1		扁平な不整六角形	<ul style="list-style-type: none"> 小型 先端・基端とともにやや鋭い 側辺は中央においては直線をもち、基部においてややすぼまる 両面とも浅い丁寧な調整剥離 A面の調整は中央の大剥離の後、縁部の細かい剥離をほどこす 鏽はやや不明瞭だがA面右側辺に彎曲する B面に大剥離面、A面基部中央に大ステップ状剥離がみられる 	
国版2-33 336	D-4 西側觀察用断面 — 黒色粘質土層 (上層)	22.0 14.0 4.0 0.8		不整五角形	<ul style="list-style-type: none"> 小型 先端は鋭く、基端は丸みを帯びる 側辺・基辺に大きな調整剥離が施されている A面は先端から中央を経て両基端にかけて鏽が通り、B面は右側辺よりに鏽が通る 	

石鏡（平基無基式）

国版番号	出土地名 遺構名 層位名	法量 (m) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考
国版33 337	E-6 —— 黒色粘質土層 (下層)	24.0 14.0 5.4 1.7		扁平な六角形	<ul style="list-style-type: none"> 先端は薄く、基辺に厚い 側辺は基辺近くで若干すぼまり、基辺は鋭い 両面とも中央に大剥離面を留める 両面・両側辺にやや粗い調整剥離を施し、基辺にも大きく剥離を留める A面先端に鏽が通る 	
国版2-33 338	E-6 —— 暗黄灰色砂層	28.0 13.5 5.0 1.6		扇形	<ul style="list-style-type: none"> 先端部は使用のため著しく摩滅している 側辺はやや外彎するが左側先端付近において凹む。両面とも下半分に大剥離面を残す A面では左側先端付近、B面では両側辺及び中央にステップ状剥離がみられ、特にB面中央のものは大きく凹んでいる 	石錐として使用された可能性あり
国版2-33 339	E-7 —— 灰黒色粘質土層 (木片多し)	26.0 15.0 5.0 1.7		菱形	<ul style="list-style-type: none"> 基端は鋭い 側辺は基辺近くで若干すぼまる 両面側辺に調整剥離を施す 	
国版2-33 340	E-6 落ち込み218 灰黒色粘質土層 (砂まじり)	30.0 11.0 4.0 1.3		菱形	<ul style="list-style-type: none"> 側辺は基辺よりわずかに上の部分ですぼまり、両面側辺基辺に調整剥離が施されている 	
国版33 341	E-7 —— 黒色粘質土層 (下層)	31.0 19.0 5.0 2.2		菱形	<ul style="list-style-type: none"> 両基端とも丸みを持つ 周辺薄く、基部中央に厚みがみられる A、B両面とも調整面よりもなる 両側辺・基辺が切り合う剥離面よりもなり、ステップ状剥離が混在する 周辺に小さな調整剥離 基辺わずかに凹みぎみ 	
国版33 342	E-6 溝24 暗黄灰色砂層	33.0 18.5 6.5 3.5		杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> 先端鋭い 厚みがあり基辺は薄い 両側辺とも中央で凹む、両基端は丸い A面中央に鏽らしきものが通り、調整面よりもなる 左側辺にステップ状剥離 B面左側辺沿いに急角度に入る ステップ状剥離が混在する 全体に剥離は不規則 	石錐の可能性あり
国版2-33 343	E-7 —— 灰黒色粘質土層 (木片多し)	37.0 16.0 6.0 3.0		不整六角形	<ul style="list-style-type: none"> 先端は角があるが丸みを帯びる 両面とも中央から基部にかけて大剥離面が残る A面において調整剥離は細かくていねいに施されており、B面は粗い B面右側辺にステップ状剥離がみられる 側辺の角度は先端から基部にかけてゆるやかになっていく 基部あたりで薄くなり剥離の施されていない所がある 基辺はやや斜基である 	

石鎚(平基無基式)

国版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考
国版33 344	D-5 — 黒色粘質土層 (上層)	20.0(残存) 17.5 5.0 1.7	不整三角形		<ul style="list-style-type: none"> 先端部欠損 中央部分で厚みがあり、基辺は薄い 両側辺とも中央からわずかに丸みをもつ A面においては左側辺に調整がほとんどみられず、右側辺には細かい鋸歯状調整剥離を呈する 基辺わずかにふくらみ、左基端は丸みをもち、調整剥離がわずかにみられる B面、欠損部から基辺にかけて大剥離面を残し、左側辺には調整がわずかにみられ、右側辺には細かい鋸歯状調整剥離 基辺に調整認められず 	
国版33 345	C-6 — 灰黑色粘質土層 (砂まじり)	28.5 17.5 4.0 2.1	杏仁形		<ul style="list-style-type: none"> 先端部欠損 両面とも大剥離面が残る 両側辺ともていねいな丸みのある鋸歯状の調整剥離を施す 両側辺とも基端近くで丸みをもち、基辺は厚く、急角度に入る 調整がみられる A面は先端部中央には右寄りにステップ状剥離を呈する 基辺は凹基きみ 	
国版33 346	D-5 西側観察用断面 — 暗黄灰色砂層	31.5 21.0 3.5 2.4	扁平な六角形		<ul style="list-style-type: none"> 両基端が丸く円基きみ 両面に長く大剥離面が残り、両平面・両側辺には鋸歯状剥離を施す 基辺にも調整が施されている わずかであるが一部に研磨痕が認められる 	
国版33 347	D-3・D-4 間観察用断面 — 黒色粘質土層 (下層)	27.0 10.0 3.5 0.7	扁平な六角形		<ul style="list-style-type: none"> 側辺はやや丸みを帯び、基端はやや鈍く抉りは弱い 基端は平基のごとく、直線である 基端および片基辺は垂直に面をなす 両面とも大剥離面を残し、特にB面はその大半が占められる A面上より3分の2ほどの所で、基端に平行して大きなステップ状剥離が認められる 調整剥離は細かい 	
国版33 348	D-5 西側観察用断面 — 暗黄灰色砂層	21.0 14.0 2.5 0.8	扁平な菱形		<ul style="list-style-type: none"> 小型でやや幅が広い 先端部は厚く、基部は薄い 両面とも中央に大剥離面が残存 側辺には調整剥離を施すが、基端部にはほとんど施さない 両面、両側辺ともにステップ状を呈する剥離が若干混在する 両面とも先端に鏡が通る 	
国版33 349	D-7・E-7 間観察用断面 — 灰黒色粘質土層 (砂まじり)	23.0 13.0(残存) 5.0 2.0	不整三角形		<ul style="list-style-type: none"> 幅広で一方の端が欠損 両平面とも中央に大剥離面残存 両平面とも基辺に調整剥離を施し、先端に鏡が通る A面右側辺にステップ状剥離が混在 右側辺が厚く、左側辺にむかって薄くなる 	尖基の可能性あり

石鏡（平基無蓋式）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (m) 幅 (g)	長さ 厚 重量	中央断面	特徴	備考
図版2-33 350	F-6 北側観察用断面 灰黑色粘質土層	25.0 14.0 2.0 0.8	扁平な六角形	●全体の形態は薄身 ●先端は鋭い方だといえる ●両面とも中央に大きな大剥離面を残す ●A面は側辺、基辺に細かな調整剥離を施し、B面においては、側辺はA面に比べ粗い剥離がされている ●基辺はわずかに平坦		
図版33 351	E-5 —— 黑色粘質土層 (上層)	22.0 13.0 5.5 1.4	菱形	●小型で先端は丸みをもつ ●鐵身中央は厚みをもつ ●両平面とも調整剥離が施されている ●A面、先端部右側辺にステップ状を呈する剥離が若干混在する ●B面、先端部右側辺および左基辺にステップ状を呈する ●両面とも先端に鍋が通る		
図版33 352	E-8 —— 暗黄灰色砂層	26.0 14.5 4.0 1.6	三角形	●先端は鋭い ●先端部に厚く、基部に薄い ●A面、両側辺に調整剥離を施す ●中央にステップ状剥離がみられ、他の辺にも若干混在する ●B面中央に大剥離面残存 ●周辺に小さな剥離を施し、更に両面基辺に細かな剥離を施している		
図版33 353	E-3 —— 黑色粘質土層 (上層)	26.0(残存) 15.0 3.0 1.6	六角形	●先端は欠損 ●両面ともに周辺に小さな剥離を施す ●両面とも全体に大剥離面を留め、打点は左下方にあたり、ほぼ平坦である ●A面右端に磨滅痕らしきものがみられる		
図版33 354	E-5 —— 黑色粘質土層 (上層)	30.0 17.5 4.5 2.6	菱形	●先端は鋭い ●両平面ともいねいな調整剥離 ●A面中央に大剥離面が残存し、両側辺、基部中央にステップ状剥離が混在する ●B面先端部中央に大剥離面残存し、両側辺および中央にステップ状を呈する		
図版33 355	D-5 —— 暗黄灰色砂層	32.0 17.5 4.5 2.8	不整杏仁形	●先端は鋭い ●両面とも中央に大剥離面が残存し、両側辺および基辺に調整剥離が施され、ステップ状剥離が若干であるが混在する ●A面先端部に鍋が通る		
図版33 356	E-6 ——	30.5(残存) 16.5 4.5 2.1	菱形	●両端欠損 ●両面とも基部中央に大剥離面を留める ●A面両側辺に調整剥離が施される ●B面両側辺にはやや粗い剥離が施される ●両平面ともにステップ状を呈する剥離が若干混在する ●鍋は両面先端部に通る		
図版33 357	D-5 溝214 暗黄灰色砂層	32.0 19.0 5.5 3.4	不整三角形	●両平面ともいねいな調整剥離を施している ●基部はやや厚みを有する ●A面両側辺にステップ状剥離が混在する ●B面左側辺にステップ状を呈し、中央に大剥離面を留め、A面に比べたら平坦な面をなす ●基辺部の剥離は粗い ●両面とも先端部周辺から剥離で鍋が通る		金山産

石鎚（平基無基式）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考
図版33 358	E-6 溝25 暗黄灰色砂層	31.0 15.5 5.0 2.8		不整四辺形	<ul style="list-style-type: none"> 先端は鋭い A面中央に大剥離面を留め、ほぼ全体に剥離を留している 両側辺にステップ状剥離が混在する B面中央に大剥離面が残存し、右先端部、左側辺に、ステップ状剥離が若干混在する 全体に粗いつくりである 	
図版33 359	E-6 溝237 灰黒色粘質土層 (砂まじり)	31.0(残存) 24.0 6.0 4.6		杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> 先端はわずかに欠損 薄手で、基部に最大厚を有す 丸みをもった両側辺に幅広 基辺は直線とならず凹凸がある 両面中央に大剥離面を残す 両面とも、両側辺と基辺から調整剥離を施す A面基辺に明瞭なステップ状剥離 	
図版33 360	D-3 暗黄灰色砂層	26.0(残存) 12.5 3.0 0.9		菱形	<ul style="list-style-type: none"> 先端は欠損 両面とも剥離が施されている 両側辺に錐歯状剥離がみられる A面、右側辺にステップ状剥離が混在し、主要剥離面を留め、打点は右下方にあたる B面、中央に大剥離面が残存し、右側辺にステップ状剥離がみられる 両面・両基辺に調整剥離が施している B面先端に鈎が通る 	
図版33 361	F-8 溝100 暗黄灰色砂質土層 (粘土まじり)	19.5 14.0 3.5 0.8		扁平な杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> 小型で先端は鈎く、両基端欠損 両側辺中央でわずかに内彎する A面は先端から左寄りに左基端に鈎が通る 基辺近くに大剥離面を残し、左側辺先端部に角をもつ B面は中央から基辺にかけて大剥離面をもち、三辺とも不揃いで雑な剥離を施す 基辺は複な調整 	
図版33 362	E-8 溝100 暗黄灰色砂質土層 (粘土まじり)	16.5 15.0 5.0 1.0		杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> 小型 先端部欠損 両基端は丸みをもち、基辺はわずかに凹む A面は調整面よりなり、中央で切り合い、鈎が通る 右側辺の中央で凹みがみられる B面中央に大剥離面をもち、三辺とも不揃いの調整剥離を施す 	金山産
図版33 363	F-8 溝100 暗黄灰色粘質土層	22.0(残存) 13.0 3.5 0.8		扁平な菱形	<ul style="list-style-type: none"> 幅狭でやや薄身 先端、左基端とも欠損 両面とも調整面よりなる 左側辺は先端部細く、中央部でわずかに角をもつ 右側辺は中央でやや内彎している 右基端は丸みをもつ 細かい調整は両面ともなし 	金山産
図版33 364	E-5 溝100 黑色粘質土層 (上層)	16.0(残存) 13.0(〃) 4.0 0.9		不整杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> 先端部大きく欠損、左基端も欠損 両面とも中央に細長く大剥離面を残し、A面の側辺・基辺とも剥離は不揃い B面左側辺に比べ右側辺はていねいに調整 基辺に調整はみられない 基辺、やや平基ぎみ 	

石錠（平基無蓋式）

国版番号	出土地名 遺構名 層位名	法量 (mm) 幅 (g)	長さ (mm) 厚 重量	中央断面	特 徴	備 考
国版2-33 365	E-7 黑色粘質土層 (上層)	22.0 12.0 4.0 0.8		六角形	<ul style="list-style-type: none"> 小型 片面基部と両面中央に大剥離面を残す 両面とも側辺には調整剥離が施されている 	
国版2-33 366	E-6 灰黒色粘質土層	27.0 15.0 4.0 1.3		扇形	<ul style="list-style-type: none"> A面中央、B面右寄りに大剥離面を残す 側辺は直線 A面、両側辺、B面左側辺に調整剥離を施す 	
国版33 367	E-6 溝25 暗黄灰色砂層	20.5 15.0 3.0 0.7		三角形	<ul style="list-style-type: none"> 小型 幅狭で薄身 先端欠損で左側辺先端部で凹みをもつ 基端近くで凹み、基端は鋭い A面は先端近くから中央を通って右基辺に鍋が通る 周辺に細かい調整が混在する B面中央に大剥離面を残し、左基端近くでステップ状剥離 	
国版33 368	E-4 溝222 黒灰色粘質土層	17.0(残存) 17.0 4.0 1.0		杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> 先端部欠損で両基端もわずかに欠損 両面とも中央に大剥離面をもち、周辺に不規則な調整剥離が施されている 基辺は内彎している 	
国版33 369	F-5 溝24 暗黄灰色砂層 (上層)	25.5 15.0(残存) 4.0 1.1		先端部 菱形 基部 不整形	<ul style="list-style-type: none"> 先端鋸く、先端から中央にかけて厚みがあり、基辺は薄身 右側辺中央に角をもつ A面は中央に大剥離面を残す 基辺の中心より左寄り欠損 B面は中央に大剥離面を残し、ステップ状剥離が混在する 	
国版33 370	E-7 溝24 暗黄灰色砂層	19.0(残存) 17.0 3.5 1.1		扁平な杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> 先端欠損 先端部薄身で基辺近くに厚みがみられる A面は調整面よりなり、基辺沿いに急角度で入る 右側辺は直線的で左側辺に角をもつ B面中央に大剥離面が残る 細かい不規則な調整剥離が両側辺にみられる 	
国版33 371	E-5 暗黄灰色砂質土層	21.0 14.0 2.0 0.8		扁平な杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> 薄身でやや小型 両面ともに大剥離面よりなり、A面周辺に小さな調整剥離が粗く施され、右側辺に小さな気泡がみられる B面右側辺と基辺一部に小さな調整剥離が施され、左基辺は薄く欠損 	
国版33 372	E-6 灰黒色砂質土層	22.5(残存) 22.0 5.5 2.3		先端部 菱形 基部 不整形	<ul style="list-style-type: none"> 先端部大きく欠損 先端から中央にかけて厚みがあり、基辺は薄い A面中央に薄い鍋が両基端に続く 両側辺は直線で右基端欠損し、左基端は鋭い 調整は不規則ぎみ B面調整面よりなり、ステップ状剥離が混在する 	

石器（平基無茎式）

図版番号	出土地名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考
図版33 373	F-8 灰黒色粘質土層 (上層)	30.0 18.0 3.5 1.4		不整形	●全体に薄く、先端部にやや厚みがみられる ●A面は大きな調整面によりなり、先端に丸みがある ●先端部に両面ともわずかに鈎が通る ●調整剥離は先端部と左側邊に部分的に施され、両基辺にはみられない ●B面においては、中央より基辺にかけて大剥離面が残り、先端から基部中央にかけて両側邊とも粗い調整剥離を施している	未製品
図版33 374	E-5 — 黑色粘質土層 (上層)	29.5 — 16.0 4.0 1.8		平扁な杏仁形	●側辺はやや外彎し、A面は三辺より調整剥離が施され、基辺には細かな剥離がみられる ●B面中央に大剥離面を残し、三辺とも比較的大きな調整剥離がみられる ●B面先端が一部欠損	
図版33 375	E-5 溝238 黑色粘質土層 (上層)	31.0 21.0 7.0 3.6		不整五角形	●先端に丸みをもち、中央に厚みを残す ●A面両側辺から切り合う剥離面をもち、中央から基辺にかけて大剥離面を呈す ●右基端は丸く、先端部中央から右側辺沿いにステップ状剥離を呈す ●B面先端から基辺の中央に大剥離面が残り、右側辺に比べ左側辺沿いに急角度に調整剥離が施されている	
図版33 376	E-7 — 灰黒色粘質土層 (木片多し)	29.5 — 15.5 5.0 1.6		菱形	●先端わずかに欠損 ●両面とも三辺より調整剥離を施す ●A面は中央にむけて鈎が通り、基辺は右寄りに上がり、わずかに凹む ●B面は中央下に大剥離面が残る ●A面、B面とも若干ステップ状剥離が混在する	
図版33 377	D-4 — 黒色粘質土層 (上層)	30.0 19.5 3.0 1.7		扁平な杏仁形	●両面ともに大剥離面によりなり、両側辺はていねいな調整剥離を施す ●先端側辺は直線的に伸び途中で少し内彎している部分がみられる ●両基辺においても調整剥離がみられA面の一部にステップ状剥離が混在する	
図版2-33 378	E-6 — 暗黄灰色砂層	34.0 — 20.0 4.5 3.5		菱形	●両面ともていねいな調整剥離を施す ●A面、右側辺にステップ状剥離がみられ、基部中央に厚みを残す ●B面、両側辺に沿ってステップ状剥離がみられ、中央に大剥離面が残り、先端部に鈎が通り ●側辺はやや外彎する	
図版2-33 379	D-3 — 黒色粘質土層 (上層)	48.0 — 20.0 6.5 4.2		扇形	●側辺の右側は若干基辺より上ですぼまり、左側は自然な感じで基辺まで伸びる ●最大幅は基辺より上部にある ●A面は鈎がやや中心を通り、側辺基辺には大きな調整剥離がみられる	
図版33 380	D-7・E-7 間観察用断面 — 白灰色砂層 (粘土まじり)	28.0(残存) — 28.0 6.5 4.4		三角形	●先端は欠損で右基辺もわずかに欠損 ●周辺は薄いが中央に厚みがある ●A面は先端部より中央にかけて鈎が通り薄く両基辺へと続く ●両側辺とも中央でふくらみをもつ ●両側辺より調整剥離を施し、基辺は調整なし ●B面先端部から基辺にかけて大剥離面を残し、両側辺に比べ基辺は小さい調整剥離を施す	

石器（平基無茎式）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (w) (s)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考
図版2-33 381	E-7 — 灰黒色粘質土層 (木片多し)	28.5 14.0 4.5 1.4	平扁な菱形		<ul style="list-style-type: none"> 側辺は直線的で基辺がわずかに内彎ぎみ 両面とも中央に大剥離面を残し、側辺・基辺に調整剥離が施されている 	
図版33 382	D-4 — 黑色粘質土層 (上層)	30.5 17.0 5.0 1.5	菱形		<ul style="list-style-type: none"> 先端や鋸い 幅狭で先端部は薄く、基部中央に厚みがある A面は先端部から中央、中央から両基端途中まで鏽が通り、左側辺が内彎して基端へ伸びる 両側辺にステップ状剥離が混在 基辺わずかに内彎 B面全面調整面よりなり、右側辺、基辺にステップ状剥離を呈する 	金山産
図版2-33 383	F-7 — 黑色粘質土層 (下層)	29.0 18.0 5.0 1.8	菱形		<ul style="list-style-type: none"> 先端はやや中央より左寄りで、側辺は若干内彎ぎみで基端は鈍い 中央に大剥離面が残る 側辺の調整剥離は大きい B面中央に大剥離面が残り、鏽が中央を通らず、左側辺寄りに彎曲して通っている 	
図版33 384	D-5 — 黑色粘質土層 (上層)	27.0 9.5 3.5 1.1	台形		<ul style="list-style-type: none"> 幅狭 A面先端から基端にかけて大剥離面を留め、打点は基端中央にあたる 両側辺には調整剥離を施す 右側辺基部に破損がみられる B面先端に大剥離面が残存し、打点は左方にあたる 基部中央にも大剥離面残存 	
図版2-33 385	E-6 — 暗黄灰色砂層	28.5 9.0 3.0 0.7	不整形		<ul style="list-style-type: none"> 幅狭で先端は鋸い A面両側辺に調整剥離が施し中央に鏽が通る 大剥離面残存 B面左側辺に調整剥離を施す 右側辺と基辺に原石面が残る 	
図版33 386	E-6 — 灰黒色粘質土層 (砂まじり)	21.5 15.0 3.0 0.8	不整杏仁形		<ul style="list-style-type: none"> 先端部は薄身で基辺の上部はやや厚みがみられる 先端は鋸い 両面ともに大剥離面よりなり内側辺においては小さな調整剥離が施され、鋸齒状を呈す 基辺には大きな調整剥離が施されている 	
図版33 387	D-7 — 青灰色砂質土層	31.0 17.0 4.0 2.2	菱形		<ul style="list-style-type: none"> やや薄身で幅狭 先端欠損 A面においては、三辺からやや中央下で切り合う剥離面からなる 両側辺の一部をのぞいて細い鋸齒状剥離が施され、基辺は丸みがある B面も調整面よりなりA面先端部右側辺にステップ状剥離を呈する 	
図版33 388	D-6 — 黑色粘質土層 (上層)	32.5 12.0 3.0 0.9	先端部 扁平な菱形 基部 不整合形		<ul style="list-style-type: none"> 先端は鈍い 両面とも中央から基辺にかけて大剥離面が残り、両側辺は直線的にのび小さいていねいな調整剥離が施され鋸齒状を呈す 基辺A面に調整剥離が施されるがB面は施されず 	

石鏡（平基無蓋式）

国版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) 幅 (x) 厚 重 量	長さ (mm)	中央断面	特 徴	備 考
国版33 389	C-4・D-4 間駿奈川断面 — 黑色粘質土層 (上層)	35.0(残存) 17.0 — 5.0 2.9	菱形		<ul style="list-style-type: none"> 細身 先端部欠損 A面は中央で切り合う剥離を施し中央に錫が通る 両側辺に小さいていねいな鋸歯状調整剥離を施し、中央右寄りにステップ状剥離が混在する 基辺近くに大剥離面がわずかに残る B面においては左側辺に沿ってステップ状を呈する。調整面よりなりA面と同様で中央で切り合っている 基辺の調整はA面に比べて粗い 基辺は凹ぎみ 	
国版2-33 390	D-5 — 黑色粘質土層 (上層)	36.0 — 22.0 3.0 2.0	扁平な杏仁形		<ul style="list-style-type: none"> 側辺はほぼ直線である 両側辺に調整剥離を施し、細かな鋸歯状を呈する 基辺にも調整剥離を施す B面基部中央に大剥離面が残る 	
国版34 391	D-5 — 黑色粘質土層 (下層)	19.5(残存) — 13.5(残存) 3.0 0.9	扁平な五角形		<ul style="list-style-type: none"> 先端および片基端を欠損 全体的に彎曲している 両側辺に大剥離面を大きく残す 両面各辺から調整剥離を施す 	
国版34 392	E-7 — 暗黄灰色砂質土層 (粘土まじり)	32.5 — 17.5 3.2 1.5	扁平		<ul style="list-style-type: none"> 先端部は細長く突出するが先端は欠損する 側辺、基辺は直線的 A面左側辺には細かい調整剥離がみられるが右側辺は未調整 B面には大剥離面残存し上方に打点がある 主要剥離による錫はA面中央を通る 基辺は折断 	未製品
国版34 393	E-5 — 淡黄灰色砂質土層	43.0(残存) — 25.5 7.0 7.1	杏仁形		<ul style="list-style-type: none"> 先端を欠損 やや細長の二等辺三角形を呈する 両面中央に大剥離面を残す 両面両側辺の基辺から調整剥離を施す 両面両側辺基辺沿いにステップ状剥離が見られる 基辺は少しふくらみ、基端はやや鈍い 	金山産

石鍼（円基無茎式）

岡版番号	出土地名 遺構名 層位名	法量 (m) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考
岡版34 394	E-6 溝24 暗黄灰色砂層	21.0 12.0 2.5 0.7		不整六角形	<ul style="list-style-type: none"> 小型 先端鋭い 両平面とも大剥離面が残存 両面ともに周辺に小さな剥離を施す B面基部にステップ状剥離がみられる 全体に粗いつくりである 	
岡版34 395	D-3 — 黒色粘質土層 (上層)	19.0 15.0 3.5 1.0		台形	<ul style="list-style-type: none"> 小型 やや幅が広い 基部に厚く、先端に薄い 両面とも調整剥離は粗い A面両側辺にステップ状を呈する剥離が混在する B面中央に大剥離面が残存 A面先端に鍋が通る 	
岡版2-34 396	E-6 溝24 暗黄灰色砂層	22.0 13.0 2.5 0.7		不整六角形	<ul style="list-style-type: none"> 薄身で先端は鋭い A面表面は剥離が重なりあってでこぼこしている A面右側辺は急角度で大きな調整が施される 先端部にわずかに鍋が通る B面は先端から細く側辺、基辺沿いに調整剥離が施される 中央部に大剥離面残存 	
岡版34 397	E-6 — —	23.0 14.5 3.5 1.1		不整四辺形	<ul style="list-style-type: none"> 先端は鋭い 先端部右側を欠損 両面とも中央に大剥離面を留める 両側辺、基辺に剥離を施す A面基部左側にステップ状剥離を施し、B面にも若干混在する 全体に粗いつくりである 	
岡版2-34 398	E-5 溝238 黒灰色粘質土層	22.0 17.0(先端) 4.0(先端) 1.3		不整形	<ul style="list-style-type: none"> 先端は鋭い 鍋は両側辺に彎曲して通っている A面では、中央と基辺に大剥離面を残す 中央より右下にかけてステップ状剥離が認められる 側辺にはていねいな調整剥離がみられるが、基辺の一部にはみられない B面では、中央に大剥離面、基辺にも調整剥離がみられる 	
岡版34 399	F-8 — 暗黄灰色砂質土層 (粒子あらいい)	24.0(残存) — 14.0 4.0 1.4		菱形	<ul style="list-style-type: none"> 先端欠損 両面ともに調整剥離を施し、ステップ状剥離が、若干ではあるが混在する 両側辺の一部に鏡面状剥離が認められる A面先端部に鍋が通る 基部中央に最大厚を測る 	
岡版34 400	F-6 — 黒色粘質土層 (上層)	26.0 — 15.0 5.0 1.7		扁平な扇形	<ul style="list-style-type: none"> 先端は鋭い 両面とも風化 両面とも全体に剥離がねよぶが、A面基部を下方に大剥離面が残り中央に鈍く稜を持つ A面右側辺、及び左先端部、基辺に調整剥離が施されている B面では、先端に段を持つ 両側辺にステップ状剥離が若干混在する 全体に粗いつくりである 	

石鏡（円基無茎式）

国版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) 幅 (x)	長さ (mm) 厚 (z)	中央断面	特徴	備考
国版34 401	E-6 —— 暗黄灰色砂層	28.0(残存) 16.0 4.0 1.9		扁平な菱形	<ul style="list-style-type: none"> 先端欠損 両面中央に大剥離面を残す A面では左側辺にステップ状剥離が混在し、右側辺は細かな鋸歯状を呈す B面は、A面同様にステップ状剥離が混在する 	
国版34 402	F-8 西側觀察用断面 —— 青黒灰色粘質土層	28.0 16.0 3.0 1.4		不整三角形	<ul style="list-style-type: none"> 縫身中央左方に最大厚を測り、両端は薄い A面では、中央に大剥離面を留め、打点は左方にあたる 右側辺、基辺には細かな剥離がみられ、左側辺は整った剥離が施されている B面では中央に大剥離面を留めるが打点は右方にあたる 両側辺とも粗い剥離である B面はA面に比べ、ほぼ平坦である 	
国版34 403	E-6 溝24 暗黄灰色砂層	26.0 16.0 4.0 1.9		台形	<ul style="list-style-type: none"> 先端に段をもつ 先端は厚く、基部は薄い A面では、中央部に大剥離面を留め、周辺に剥離を施し、ステップ状剥離が混在する B面では、全体に大剥離面を留め、打点は右下方にある 両側辺に剥離を施す 全体に粗いつくりである 	
国版34 404	E-4 —— 黒色粘質土層 (下層)	28.0(残存) 16.5 5.0 2.0		扇形	<ul style="list-style-type: none"> 先端欠損 両端は薄く、縫身中央部に最大厚を測る A面は全体に粗い剥離を施し、右側辺にステップ状剥離が若干混在する B面では、中央部に大剥離面が残存し、両側辺に剥離を施す 	未製品
国版34 405	F-8 西側觀察用断面 溝240 灰黒色粘質土層 (木片多し)	32.0 16.0 3.5 1.6		扁平な扇形	<ul style="list-style-type: none"> 薄手で先端は鋭い 先端部に段をもつ B面の基部左方に大剥離面残存 ステップ状剥離が両面に混在 全体に粗いつくりである 	金山産
国版34 406	E-5 —— 黒色粘質土層 (上層)	39.0 17.0 5.0 2.4		菱形	<ul style="list-style-type: none"> 先端は鋭い 両面とも剥離が施され、大剥離を留めず、B面では先端左に段をもつ 両面ともステップ状剥離が混在する 全体に粗いつくりである 	
国版34 407	E-5 —— 黒色粘質土層 (上層)	33.0 18.5 3.0 1.6		不整形	<ul style="list-style-type: none"> 薄手のもの 先端は細く鋭く突出している 両面とも先端に錐が通る 中央に大剥離面残存 A面先端部両側辺に調整剥離が施され、ステップ状剥離が混在する B面左側辺にステップ状剥離を呈する 全体に粗いつくりである 	
国版34 408	D-5 —— 暗黄灰色砂質土層	20.5 15.3(残存) 3.7 1.1		三角形	<ul style="list-style-type: none"> 小型 先端は鋭い方で片方基端欠損 A面左下側辺が欠損し、右側辺は中央で大きくふくらみをもつ A面は周辺に調整剥離が施され中央に大剥離面が残存するが、B面は粗くステップ状剥離を呈し未調整 	未製品 金山産

石器（円基無茎式）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 重)	中央断面	特徴	備考
図版34 409	E-4 — 黑色粘質土層 (下層)	24.0(残存) 19.0 4.0 1.3	扁平な菱形		<ul style="list-style-type: none"> 先端部一部欠損 A面中央部から基部にかけて大剥離面残存 両側辺先端部及び左基辺にステップ状剥離を呈す 基端部は剥離は施されず、B面左側辺にステップ状を呈する剥離が若干混在する 先端部付近に自然縫面が残存 両面とも先端に鈎が通る 全体に粗いつくりである 	
図版34 410	E-6 — 暗黄灰色砂質土層 (粘土まじり)	23.0 18.5(残存) 3.5 1.8	六角形		<ul style="list-style-type: none"> 先端は鈎く、一方の基端欠損 両面とも中央に大剥離面が残存し、周辺には調整剥離が施され、ステップ状剥離が若干混在する A面先端に鈎が通る 	
図版34 411	E-5 — 黒色粘質土層 (上層)	24.0 17.0 4.5 2.0	菱形		<ul style="list-style-type: none"> 先端は鈎く A面基部中央に大剥離面残存 先端左に段をもつ 右側辺、右基辺にステップ状を呈した調整剥離を施す B面基部左方に小さな大剥離面を留め、全体に剥離が施され、ステップ状剥離が混在する 全体に粗いつくりである 	
図版34 412	D-5 — 灰黒色粘質土層 (砂まじり)	30.0 21.0 3.5 2.4	不整な菱形		<ul style="list-style-type: none"> 薄手で幅広 A面では先端部から基端部にかけて大剥離面が残存 基部左方に打点をもつ主要剥離面でステップ状を呈する 右側辺から基端にかけて剥離を施す B面では先端部に大剥離面残存 基部中央右方に打点をもつ主要剥離面が残り、両側辺に剥離が施され、右側辺にはステップ状剥離が混在する 全体に粗いつくりである 	
図版34 413	E-6 — 暗黄灰色砂層	20.0(残存) 14.1 3.1 0.9	扁平		<ul style="list-style-type: none"> 小型で幅広く薄い柳葉形 先端を欠損する 両面ともうすい調整剥離 B面中央には大剥離面が残存し、右側方に打点がある 端はA面左側辺に彎曲する 基部はふくらみをもち鈎く A面左側辺基部は一部折れ欠く 両辺ともエッジはうすく鋭い 	未製品
図版34 414	C-4 — 黒色粘質土層 (上層)	32.0 19.0 3.5 1.8	不整形		<ul style="list-style-type: none"> 幅広で薄身である 両面とも大剥離面が残存 両側辺に若干ではあるが剥離が認められる 	未製品
図版34 415	F-7 — 南側觀察用断面 Pit 825 灰黒色粘質土層	33.0 19.5 4.0 2.8	不整三角形		<ul style="list-style-type: none"> 基端に厚く、先端にむかって薄くなる 両面とも中央に大剥離面が残存 両面、両側辺ともステップ状剥離が若干混在する A面右側辺に原石面あり 全体に粗いつくりである 	未製品

石錐（円基無茎式）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考
図版34 416	D-3 — 黑色粘質土層 (上層)	24.0 — 4.0 1.4	菱形		<ul style="list-style-type: none"> 先端は鋭い 先端部に厚く、基部に薄くなる A面先端部に小さな剥離を施す B面基部中央に大剥離面が残存し、左側辺にステップ状剥離が混在する 両面基部に鋸歯状剥離を施す 	
図版34 417	F-8 — 暗黃灰色砂質土層 (粘土まじり)	23.0 — 5.5 1.7	菱形		<ul style="list-style-type: none"> 両基辺欠損 幅広で先端は鋭い 両面とも粗い調整剥離を施しステップ状剥離が混在する B面基部に大剥離面が残存 	金山産
図版34 418	E-5 — 黑色粘質土層 (上層)	24.5(残存) — 18.0 3.0 1.7	扁平な杏仁形		<ul style="list-style-type: none"> 薄身で先端わずかに欠損 両面とも周囲に調整がみられる 中央に大剥離面が大きく残っている 	未製品
図版34 419	F-8 — 暗黃灰色砂質土層 (粘土まじり)	19.0 — 13.5(残存) — 2.6 0.5	扁平		<ul style="list-style-type: none"> 小型で薄身 先端は鋸く突出する 先端及び両側辺は両面、両側辺より調整剥離を施す 両面とも中央より基辺にかけては大剥離面残存 基辺は未調整だが丸みを帯びる 鏡はA面中央上半を通る 片基端欠損 	未製品
図版34 420	F-8 — 暗黃灰色砂質土層 (粘土まじり)	20.0(残存) — 10.0 — 3.5 0.8	扇形		<ul style="list-style-type: none"> 小型で先端欠損 両面ともていねいな調整剥離を施し、ステップ状剥離を若干混在する B面中央に大剥離面残存 A面先端に鏡が通る 	
図版34 421	E-6 — 灰黒色粘質土層 (粘土まじり)	17.0(残存) — 10.0 — 3.0 0.4	扇形		<ul style="list-style-type: none"> 小型で先端欠損 両面とも剥離が施され大剥離面を留めず A面、右側辺及び基部にステップ状剥離を呈し、中央に厚みを残すが、先端部は薄身である 	
図版34 422	E-5 — 黑色粘質土層 (上層)	19.0 — 13.0 — 4.5 1.0	不整三角形		<ul style="list-style-type: none"> 小型で先端は鋭い 両面とも中央に大剥離面残存 A面、両側辺、基辺に調整剥離を施している B面左基辺にステップ状剥離がみられる 全体に粗いつくりである 	
図版34 423	E-3 — 黑色粘質土層 (上層)	20.0 — 11.9 — 4.1 0.8	菱形		<ul style="list-style-type: none"> 幅広で小型 基端は鈍角をなす 両面、両側辺より調整剥離を施し、A面では左側辺、B面では右側辺はステップ状を呈す 先端部は細部調整が施されていない 鏡はB面中央を通るがA面では明確でない エッジは両辺ともうすく鋭い 	
図版34 424	E-6 — 暗黃灰色砂層	22.0 — 12.0 — 4.0 1.2	不整な台形		<ul style="list-style-type: none"> 小型で先端は鋭い A面基部左下方に打点をもつ主要剥離面及び、基部中央に基端から打点をもつ主要剥離面が残存 両面とも周囲に小さな剥離を施す B面基部中央左下方に打点をもつ主要剥離面が残る 左先端部は磨滅 A面に鏡が通る 	

石鎚(円基無茎式)

圆版番号	出土地区分名 遺構名 層位名	法量 (m) (s)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考
岡版34 425	E-5 — 黑色粘質土層 (上層)	24.5 — 14.9 3.1 1.2		扁平	<ul style="list-style-type: none"> 比較的幅広である 両面、両側辺からの調整剥離を施すが大まかである 両面ともに主要剥離面が残り、特にB面には大剥離面が残る A面左側辺の先端部と、両基辺部はステップ状剥離がみられる 先端部は細かい調整は施されていない 基端部は欠損している 	木製品
岡版34 426	E-5 溝238 黑色粘質土層	25.0 — 13.0 5.0 1.8		不整な半円形	<ul style="list-style-type: none"> 先端は鋭い A面では先端から基端にかけて自然剥離面が残存し、内側辺には調整剥離が施され基辺にステップ状剥離を呈する B面ではほぼ全体に大剥離面を留め打点は基端方向にあたり基辺には若干であるが剥離が施されている 全体に粗いつくりである 	
岡版34 427	E-7 — 暗黃灰色砂質土層 (粘土まじり)	27.0 — 13.0 7.0 1.8		三角形	<ul style="list-style-type: none"> 先端は鋭い 線身中央部で最大厚を測る 両面とも剥離が施されている A面全体にステップ状を呈する剥離が混在する B面基部左方に大剥離面を留め、右側辺にステップ状剥離を若干呈する A面先端部に鍋が通る 	
岡版34 428	E-7 溝24 暗黃灰色砂層	22.0 — 13.5 3.0 0.9		扁平な菱形	<ul style="list-style-type: none"> 小型でやや幅広 両面とも中央に大剥離面が残存し周辺には剥離が施されている A面では両側辺にステップ状剥離が若干混在する 	金山産
岡版34 429	E-7 — 暗黃灰色砂質土層 (粘土まじり)	27.0 — 14.0 5.0 1.5		三角形	<ul style="list-style-type: none"> 先端は鋭い A面全体に調整剥離を施す B面では中央部に大剥離面が残存しA面よりも粗い剥離が施されている 両面ともステップ状剥離が若干混在する A面先端から中央部まで鍋が通る 	
岡版34 430	E-6 — 灰黒色粘質土層 (砂まじり)	27.0 — 13.5 4.0 1.4		不整六角形	<ul style="list-style-type: none"> 先端は鋭い A面は右方に打点をもつ主要剥離面である 基部は厚く、先端部は薄い A面はB面より平坦である 両面とも調整剥離は粗い 全体に粗いつくりである A面先端部に鍋が通る 	
岡版2-34 431	E-4 — 黑色粘質土層 (上層)	27.0 — 14.0 3.0 1.2		六角形	<ul style="list-style-type: none"> 両面とも基部中央に大剥離面が残存 両側辺ともステップ状剥離が混在する A面に鍋が通る 	
岡版34 432	E-3 溝238 黑灰色粘質土層	28.0(残存) — 13.5 5.5 2.1		菱形	<ul style="list-style-type: none"> 先端欠損 両面とも全体に剥離がおよんでおりA面では中央にステップ状剥離がみられ、B面中央には大剥離面が残存する 両面とも両側辺及び基端にステップ状剥離が若干であるが混在する 	

石鏃（円基無茎式）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 重層	中央断面	特徴	備考
図版34 433	D-5 — 黒色粘質土層 (下層)	29.5 19.3 3.0 1.2	扁平な三角形	● A面は上下を大きく打ち欠き、周辺には小さな調整がわずかに見られる ● B面は右上方に打点をもつ大剥離面があり、左側邊に小さな調整がわずかに施されている		未製品
図版34 434	D-3 — 黒色粘質土層 (上層)	32.0 15.0 5.0 1.9	菱形	● 先端は鋭い ● 両面とも調整剥離を施す ● A面右側邊に細かい剥離が見られる ● 両面ともステップ状剥離が混在する ● 両面に鏽が通る		
図版34 435	E-6 — 灰黒色砂質土層	32.0(残存) 16.0 5.0 2.3	菱形	● 先端が欠損していると思われる ● 両面とも剥離が施され大剥離面を留めず ● A面両側邊に細かい調整剥離がみられる ● B面はA面に比べて調整剥離は粗い ● 両面ともにステップ状を呈する剥離が若干であるが混在する ● 両面先端に鏽が通る		
図版34 436	F-8 — 黒灰色粘質土層 (砂利まじり)	36.0 16.5 5.0 2.4	不整菱形	● 先端は鋭い ● 両面とも、ていねいな調整剥離を施している ● A面は中央に大剥離面が残存し、内側邊にステップ状剥離が若干混在する ● B面基部中央に大剥離面を留め、左側邊にステップ状を呈する ● 先端部に鏽が通る		
図版34 437	F-8 — 暗黄灰色砂質土層 (粘土まじり)	31.0 15.0 2.5 1.1	扁平な菱形	● 薄手 ● 側邊は内嚙して先端に至り、先端は細く鋭く突出している ● 先端はB面に反っている ● 両面とも中央に大剥離面が残存 ● 両面、両側邊に調整剥離を施している ● A面右側邊、B面右側邊にステップ状を呈する剥離が若干混在する		
図版34 438	D-4 溝105 黒灰色粘質土層 (砂まじり)	32.0 18.0 6.5 3.7	不整六角形	● 先端は鋭い ● 両面とも中央に大剥離面残存 ● A面基部に主要剥離面を留め、打点は右下方にある ● B面先端部の剥離は中央までのびている ● 両面ともに剥離の部分はステップ状を呈する ● 全体に粗いつくりで厚みをもつ		
図版34 439	F-7・F-8 間観察用断面 — 黒色粘質土層 (上層)	32.0 17.5 6.0 3.6	扁平な菱形	● 先端は鋭い ● 基部に厚みをもつ ● 両面とも中央に大剥離面残存 ● A面、両側邊基部に調整剥離が施されている ● B面、周辺からは粗い剥離が施されている ● 両面ともにステップ状剥離が混在する		
図版3-34 440	F-7 — 黒色粘質土層 (上層)	45.0 17.0 6.0 2.9	菱形	● 側邊は先端から直線的にのびる ● 両面ともに基部中央に大剥離面が残る ● 両面両側邊には細かな調整剥離を施している ● 両面ともに鏽が通っている		

石鐵（円基無茎式）

岡版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特 徴	備 考
岡版34 441	E-6 溝237 灰黒色粘質土層 (砂まじり)	28.5 15.5 7.0 2.3		先端部は 扁平な台 形 基部は三 角形	<ul style="list-style-type: none"> 先端は薄くて鋭く、中央に厚みをもつ 片側辺は凸基無基式さま A面、中央左寄りに大剥離面がわずかに残存し、大部分の剥離はステップ状を呈する B面も中央に大剥離面を残し、先端に鈎が通り、周辺にいねいな調整剥離を施し、若干ステップ状剥離が混在する 	
岡版34 442	E-5 —— 黒色粘質土層 (上層)	35.0 15.5(残存) 3.0 1.8		六角形	<ul style="list-style-type: none"> 先端は鋭い 両面とも中央に大剥離を留め、両側辺に調整剥離を施す A面は基部に段をもち、右基部は欠損 B面左側辺には粗い剥離を施し、右側辺には細かい調整を施している。又、左先端部、右側辺は鋸歯状を呈する 両面ともにステップ状を呈する剥離が若干混在する 	
岡版34 443	Z Z —— ——	34.5(残存) 25.0 9.0 8.8		杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> 先端部を欠損 基端はきれいな半円形で、両側辺は直線的である 基部に最大厚を有する 両面中央に大剥離面を残す 両面とも、両側辺、基辺から調整剥離をていねいに施す A面右側辺にステップ状剥離 A面基部中央から左側辺に彎曲しながら(残存部では直線) 鈎が通る 	
岡版34 444	E-3 —— 黒色粘質土層 (上層)	23.0 12.5 3.0 0.8		扁平な菱 形	<ul style="list-style-type: none"> 先端は細く鋭く突出している 両面ともに調整剥離が施され、両側辺に鋸歯状剥離が施されている A面では中央に大剥離面が残存し、左基辺及び基端にステップ状剥離が混在する B面先端部中央、右側辺ではステップ状を呈す 両面先端に鈎が通る 	
岡版2-34 445	E-6 溝25 暗黄灰色砂層	21.0 13.0 3.0 0.7		扁平な五 角形	<ul style="list-style-type: none"> 先端部の比が大きい B面中央部に大剥離面残る A面左側辺にはステップ状剥離がみられる 側辺は鋸歯状に調整したため、基辺に比べ調整が小さく細かい 鈎は中央からA面右側辺へ彎曲する 	
岡版34 446	E-3 溝238 黒灰色粘質土層	29.0 14.0 4.0 1.5		不整六角 形	<ul style="list-style-type: none"> 先端は鋭い 両面ともに調整剥離を施し、全体にステップ状剥離が混在する 両側辺には不規則の鋸歯状を呈する B面中央に大剥離面残存 	
岡版3-35 447	F-6 北側観察用断面 —— 灰黒色粘質土層	38.0 16.0 3.0 1.2		六角形	<ul style="list-style-type: none"> 両面ともに大剥離面残存 両側辺に若干ではあるがステップ状剥離が施され、又側辺全体に鋸歯状剥離を呈する 	

石鎚(円基無茎式)

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (m) (n)	長さ 幅厚 重量	中央断面	特徴	備考
国版3・35 448	E-5 溝238 黒灰色粘質土層	21.0(残存) 14.5 3.5 1.2	菱形		<ul style="list-style-type: none"> 先端部は欠損で薄手のもの 両面とも剥離は全体におよぶ A面左側はステップ状剥離を呈し、他の部分にも混在 B面基部中央に小さく大剥離面を留め、左側辺にステップ状剥離を呈し、他の部分にも若干混在する 両側辺には不揃いの鋸歯状剥離を呈する 	
国版35 449	D-5 — 灰黑色粘質土層 (木片多し)	30.0 17.0 5.5 2.5	菱形		<ul style="list-style-type: none"> 先端は鋭い 錐身中央部で最大厚を測る 両面とも調整剥離を施す A面先端部中央に小さな大剥離面残存 B面中央に大剥離面を留める 両面ともにステップ状を呈する剥離が若干混在する 両側辺に不揃いの鋸歯状を呈する 両面に鏽が通る 	
国版3・35 ! 450	D-3 — 黒色粘質土層 (上層)	34.5(残存) 18.0(最大) 3.5(最大) 2.1	不整な六角形		<ul style="list-style-type: none"> 先端部を欠損 両面中央に大剥離面を残す 両面とも左側にステップ状剥離が多くみられる 基辺の剥離は側辺に比べ小さい 調整剥離の角度は一般に穏やか 側辺は鋸歯状に剥離しており、基辺は円形状 表面は一部磨滅している 4箇所に新しい剥離 	金山産
国版35 451	F-8 — 黒色粘質土層 (上層)	38.0(残存) 19.0 4.0 2.6(残存)	菱形		<ul style="list-style-type: none"> 先端欠損で、薄手で幅広 両面ともにうすくていねいな調整剥離 両側辺には鋸歯状剥離が施され、ともにステップ状剥離が若干混在する 両面両基辺に細かな剥離がみられる B面中央に大剥離面残存 鍋は両面に通る 	
国版35 452	D-3 — 黒色粘質土層 (上層)	25.0 9.5 3.0 0.7	扁平な菱形		<ul style="list-style-type: none"> 側辺は内彎して先端に至り、先端は細く突出している 両面ともていねいな調整剥離を施している A面基部中央に大剥離面を留め、左側辺にステップ状剥離が若干混在する B面先端部から基部にかけて大剥離面が残存 両側辺ではステップ状を呈する剥離がみられる 	
国版35 453	F-7・F-8 間觀察用断面 — 黒色粘質土層 (上層)	25.6 10.9 3.0 0.8	扁平な台形		<ul style="list-style-type: none"> 幅狭で薄い 先端部は鋭く突出して、側辺はふくらみをもつ 基辺は丸くて鈍い 両面両側辺より調整剥離 B面には大剥離面が残り、左下方に打点がある 鍋はA面中央から左側辺に彎曲する エッジは鋭いが両端部において磨耗している 	

石鎚(円基無茎式)

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (m) (t)	長さ 幅厚 重量	中央断面	特徴	備考
図版35 454	D-4 — 黒色粘質土層 (上層)	26.5(残存) 11.5 3.5 1.2		扇形	<ul style="list-style-type: none"> 先端は欠損 両面とも細かな調整剥離が施されている A面基部中央に大剥離面を留め、両側辺にステップ状剥離が若干混在する 右側辺先端部から中央にかけての剥離は急角度に入り、ステップ状を呈する B面中央に大剥離面残存 左基辺にステップ状剥離を施している 	金山産
図版35 455	E-7 — 黒色粘質土層 (上層)	28.1 12.7 3.8 1.4		扁平な扇形	<ul style="list-style-type: none"> 細身で先端部は長く突出し、基辺は丸みを帯びる 先端はやや鈍い 基辺は一部直線を呈す 両面両側辺より調整剥離 両面とも中央に大剥離面が残り、B面右斜下方に打点がある 先端の調整は、特に細かい剥離は施されていない 基部の調整は厚さを減らすため大きく深い エッジは側辺とも鈍い 	
図版35 456	E-7 — 黒色粘質土層 (下層)	28.9 12.1 5.0 1.8		扇形	<ul style="list-style-type: none"> 幅狭で厚い 先端部は長く突出するが、先端は鈍い 基辺は平基ぎみ 両面両側辺より調整剥離 両面両側辺には一部ステップ状剥離がみられる B面中央には大剥離面が残り、左下方に打点がある A面の剥離はB面より急角度に入る 先端部の剥離は細かいが鋭く突出していない 基端部の剥離はA面が深い A面中央先端部には鍋が通る 両辺ともエッジは鈍い 	
図版35 457	F-6 — 北側觀察用断面 灰黑色粘質土層	33.0 12.0 5.0 1.6		扇形	<ul style="list-style-type: none"> 先端や丸みがある 両端部は薄く、縫合中央で最大厚を測る 両端部に大剥離面残存 両面両側辺に調整剥離を施し、A面中央に左方からの打点をもつ主要剥離面を留める 両側辺にステップ状剥離が混在する 	
図版35 458	E-7 溝24 暗灰色砂層	30.3 13.1 2.7 1.1		扁平	<ul style="list-style-type: none"> 幅狭で薄い柳葉形 先端部において厚くなる A面左側辺の一箇所をのぞいて両面両側辺からの調整剥離 A面左側辺には左上方からの主要剥離面、B面中央には右上方からの大剥離面が残る A面中央には鍋が通る エッジはうすく鋭く仕上げられているが先端部においては磨耗する 	

石鎚（円基無蓋式）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅厚 重量	中央断面	特徴	備考
図版35 459	D-3 — 黑色粘質土層 (上層)	29.9(残存) 13.7 4.3 1.7		扇形	<ul style="list-style-type: none"> ・幅狭で厚みがある ・先端部が長く基辺部にはふくらみをもつ ・先端欠損 ・両面両側辺より調整剥離 ・A面左側辺、B面両側辺の剥離は一部ステップ状を呈す ・B面には大剥離面が残り、左下方に打点がある。そのため、B面左基辺部の剥離は厚さを減らすために大きく急角度に剥離されている ・鍋はA面左側辺に彎曲する ・両側辺ともエッジはうすく鋭い 	
図版35 460	E-8 西側觀察用断面 — 淡黄灰色砂質土層	29.0 12.5 4.0 1.8		菱形	<ul style="list-style-type: none"> ・先端は鋭い ・両面とも先端部から基部にかけて大剥離面が残る ・両面ともに周辺に剥離を施し、ステップ状剥離が若干混在する 	
図版35 461	E-4 — 黑色粘質土層 (上層)	37.0 13.0 5.0 1.9		杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> ・先端は鋭い ・両面とも、ていねいな調整剥離を施し、基辺にも細かい剥離が認められる ・A面左側辺中央にステップ状剥離を呈し、中央に厚みを残す ・先端部は薄身である ・両面ともステップ状剥離が若干混在する ・鍋は両面に通る 	
図版3-35 462	D-3 — 黑色粘質土層 (上層)	40.0 17.0 4.5 3.1		不整な菱形	<ul style="list-style-type: none"> ・細身 ・先端はやや鈍く、先端部で急に細くなっている ・A面中央に大剥離面を残しB面は剥離面を中央に4つ残す ・両面ともステップ状剥離がみられるがB面中央上側が、特に顕著である 	未製品
図版35 463	F-8 — 暗黄灰色砂質土層	36.0 15.0 4.5 1.2		三角形	<ul style="list-style-type: none"> ・先端は鋭い ・A面先端部・基部中央左寄りには大剥離面、又B面にもほぼ全体に大剥離面が残存し、打点は左下方にある ・B面はA面よりも平坦な面をなす ・両面ともに周辺に小さな剥離を施す ・A面右側辺にステップ状剥離が混在する ・全体に粗いつくりである 	基端に基状のものが若干認められる
図版35 464	E-5 溝238 黑灰色粘質土層	25.0 12.0 3.5 1.0		菱形	<ul style="list-style-type: none"> ・B面先端剥離 ・両面ともに剥離は全体におよぶ ・両面にステップ状剥離が若干混在する ・B面先端部中央に大剥離面が残存し、左側辺に細かな剥離 ・A面左側辺に若干ではあるが鋸歯状剥離が認められる ・A面先端部に鍋が通る 	

石鎚(円基無基式)

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (m) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特 徴	備 考
図版3-35 465	E-3 — 黒色粘質土層	29.0 12.0 4.0 1.3	不整六角 形		<ul style="list-style-type: none"> ・縦長 ・A面中央に大剥離面が残る ・両側辺、特に左側辺には鋸歯状の調整剥離がみられる ・基辺には剥離がみられない ・基辺の形態は円形状 ・左側の端に小さいステップ状剥離が確認できる ・鍋は左右に先端より彎曲してかすかに基辺に続いている ・B面中央から基辺にかけて大剥離面が残る ・先端部分に鍋が通る ・中央より基辺にかけて側辺の角度はゆるくなり基辺には剥離がみられない 	
図版35 466	E-5 — 淡黄灰色砂質土層	34.0 12.0 3.5 1.2	菱形		<ul style="list-style-type: none"> ・先端は細く鋭く突出している ・両面ともに調整剥離 ・両側辺は、更に細かい鋸歯状剥離を施し、ステップ状剥離が着生混在する ・基部に厚みを残し、先端部は薄身である 	
図版35 467	D-4 — 黒色粘質土層 (上層)	28.5 12.5 4.0 1.3	扁平な杏仁形		<ul style="list-style-type: none"> ・細長で側辺もほぼ直線的だが基辺において形がくずれる ・両面に大剥離面を残し、それらが面の大半を占めるが、特にA面においては、大剥離面のなだらかな盛り上がりをそのまま留める ・両面両側辺、基辺から調整剥離が施されるが、A面では比較的ていねいなのに対し、B面ではやや粗い ・B面右側辺にステップ状剥離 	
図版35 468	D-4 — 黒色粘質土層 (上層)	21.0(残存) 9.0 3.0 0.7	不整六角 形		<ul style="list-style-type: none"> ・小型で先端は鋭い ・基端は欠損している ・両面とも中央に大剥離面残存 ・両面とも周辺より調整剥離を施す 	尖基の可能性あり
図版35 469	F-8 — 淡黄灰色砂質土層 (粘土まじり)	22.0(残存) 13.0 3.5 1.0	扇形		<ul style="list-style-type: none"> ・小型で基端欠損 ・両面ともに剥離が全体におよび大部分はステップ状剥離を呈する ・粗いつくりである 	
図版35 470	D-7 — 暗黄灰色砂質土層 (粘土まじり)	23.5(残存) 14.5(残存) 3.5 1.4	不整台形		<ul style="list-style-type: none"> ・両端部欠損 ・右方に厚みをもつ ・A面基部中央に大剥離面残存 ・B面全体に大剥離面がおよぶ ・両面とも周辺に剥離を施し、ステップ状剥離が若干混在する 	尖基の可能性あり
図版35 471	D-4 溝213 黒灰色粘質土層 (砂利まじり)	34.0 15.5 4.0 2.3	先端部は 扇形 基部は扁平な菱形		<ul style="list-style-type: none"> ・両端部欠損 ・両面とも大剥離面残存 ・両面両側辺に調整剥離が施され、ステップ状剥離が若干混在する ・A面先端部に鍋が通る 	尖基の可能性あり

石鎚（凸基無茎式）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) 幅 (g)	長さ (mm) 厚 重	中央断面	特徴	備考
図版35 472	F-7 — 黑色粘質土層 (上層)	16.7(残存) 10.6 3.3 0.7		台形	<ul style="list-style-type: none"> 幅狭の薄い小型で基端は鋭い 先端部の5分の2を欠損する 側辺は丸みを帯び柳葉形を呈す 両面両側辺より調整 A面・B面とも大剥離面を残し、B面右下方に打点がある A面左側辺・B面左側辺の剥離は他の二辺に比べ小さい 両辺ともにエッジは鋭い 	
図版35 473	D-5 西側觀察用断面 — 暗黃灰色砂層	21.0 9.6 2.5 0.6		扁平な杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> 小型で幅狭の薄い柳葉形 両端部とともに未調整 両面両側辺より調整剥離 両面ともに大剥離面を残し、B面右側方に打点がある A面右側辺基部の剥離はステップ状を呈す 	
図版35 474	D-5 西側觀察用断面 — 灰黒色粘質土層	23.0 10.0 2.7 0.7		扁平な六角形	<ul style="list-style-type: none"> 細身 両面ともに大剥離面が残存し、両側辺沿いにやや粗い調整剥離を施す A面先端部左側辺に深いステップ状剥離を呈す 	
図版35 475	E-5 — 黑色粘質土層 (上層)	20.3 10.7 4.4 0.9		不整五角形	<ul style="list-style-type: none"> 小型で厚い 両面両側辺より調整剥離 B面は大剥離面が残り、左下方に打点がある A面の剥離はB面に比べ急角度で特に基部において著しい A面左側辺に一部ステップ状剥離がみられる 先端はB面の剥離で抉られている 鍔はA面中央や右側邊寄りを通る 全体に若干磨耗している 	
図版35 476	D-4 — 黑色粘質土層 (上層)	24.6(残存) 11.0 2.7 0.8		扁平な不整平行四辺形	<ul style="list-style-type: none"> 幅狭でうすい形の整った柳葉形 先端は鋭い 基端を欠損 両面両側辺より調整剥離 A面左側辺基部、左側辺先端部の剥離はステップ状を呈す A面中央には右上方から主要剥離面、B面基部には右側方からの大剥離面がみられる エッジはうすく鋭い 	金山産
図版35 477	E-8 — 暗黃灰色砂質土層 (粘土まじり)	26.2(残存) 12.7 3.1 1.0		扁平な杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> うすい柳葉形 先端を欠損 両面両側辺から浅い調整剥離面を施しA面左側辺、B面基部にはステップ状剥離がみられる A面中央には鍔が通る エッジは両辺とも鋭い 	
図版35 478	F-7 — 黑色粘質土層 (上層)	27.4 11.7 3.2 1.0		扁平な五角形	<ul style="list-style-type: none"> 幅狭のうすい柳葉形 先端は突出する 両面両側辺より調整剥離を施す A面には主要剥離面、B面には大剥離面が残る B面右側辺にはステップ状剥離がみられる 鍔はA面中央に通る エッジはうすく鋭いが、先端部においては磨耗している 	

石鏃（凸基無茎式）

国版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考
国版35 479	E-5 — 黑色粘質土層 (上層)	26.3 13.9 2.3 0.9		扁平	<ul style="list-style-type: none"> 比較的幅の広い柳葉形で形は整っている 両面ともうすくていねいな調整剥離 A面右側辺、B面両側辺に小さいステップ状剥離がみられる B面には大剥離面が残り、左側方に打点がある 鍋はA面左側辺に弯曲するが鋭い エッジはうすく鋭い 	
国版3-35 480	E-6 落ち込み218 —	28.0(残存) 14.0 4.0 1.7		扇形	<ul style="list-style-type: none"> 細身で先端は鈍く、基端は欠損のため不明、逆刃も不明瞭 両面とも大剥離面を残すが、特にB面では調整が少ないと 両面にステップ状剥離がみられるが特にA面が非常に目立つ 	未製品
国版35 481	E-8 — 暗黄灰色砂層	29.2 13.9 3.7 1.2		扁平な扇形	<ul style="list-style-type: none"> うすく形は整っている 先端は突出する 両面ともうすくていねいな調整剥離 A面右側辺、B面左側辺から中央にかけてはステップ状剥離を呈す 両端部とも鋸角に仕上げられている 鍋はA面中央を通る エッジはうすく鋭いか、基端部は若干磨耗している 	
国版35 482	F-6 北側觀察用断面 — 灰黒色砂質土層	28.4 13.4 3.6 1.4		扁平な五角形	<ul style="list-style-type: none"> 形の整ったうすい柳葉形 両端部とも鋭い 両面両側辺より調整剥離 B面左側辺の剥離のうち一つは側辺を若干抉っている B面中央には大剥離面残り左下方に打点がある A面右側辺寄りには鈍い鍋が通る エッジは若干磨耗ぎみであるが、先端部において著しい 	
国版3-35 483	F-8 — 暗黄灰色砂質土層 (粒子あらい)	31.0 13.0 4.5 1.9		扇形	<ul style="list-style-type: none"> 両平面とも大剥離面残存 A面、大剥離面の中に鍋が先端から基端にむかって通る 両面両側辺に調整剥離が施される 両面にステップ状剥離が混在する 	
国版3-35 484	E-7 — 黑色粘質土層 (上層)	32.5 16.0 4.5 2.0		不整形	<ul style="list-style-type: none"> B面中央に大剥離面が残存 両面にステップ状剥離がみられる 先端・基端とも鋭く、逆刃もやや鋭い A面では左側辺より調整剥離は大きく、右側辺は細かく急角度に入る B面の左基部は細かく急角度に入る 	
国版35 485	F-5 北側觀察用断面 — 青灰色粘質土層	30.0 14.1 3.9 1.7		扁平な杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> 薄い柳葉形 先端を欠損して鈍く、基端も鈍く丸みを帯びる 両面両側辺より調整剥離 A面左側辺、B面両側辺の剥離の一部はステップ状を呈す 先端部は欠損したものを再加工している A面右基部の剥離のうち一つは側辺を若干抉っている 両辺とも、エッジはうすく鋭いが先端部においては磨耗している 	

石鏡（凸基無茎式）

国版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考
国版35 486	D-3 西側觀察用断面 — 黑色粘質土層 (上層)	29.0 20.5 6.0 3.2		扇形	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広 ・A面全体に剥離がおよんでおり、先端部はステップ状剥離を呈する ・B面先端部から基部中央にかけて大剥離面が残る ・左側辺先端部から基部にかけて調整剥離が施されている ・右側辺ではステップ状剥離を呈し、基端にうすく先端にむかって厚くなる 	
国版3-35 487	E-6 — 暗黃灰色砂質土層 (粘土まじり)	37.0 19.0 6.0 3.2		菱形	<ul style="list-style-type: none"> ・両面ともに剥離は全体におよぶが、わずかにステップ状の剥離が混在する ・両面両側沿いには、不揃いではあるが、細かな調整が施されている 	
国版3-35 488	D-4 — 黑色粘質土層 (上層)	47.0 18.0 5.0 3.9		杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> ・両面ともに剥離は全体におよぶが、わずかにステップ状の剥離が混在する ・両面両側辺沿いには細かな調整が施されている 	
国版35 489	F-6 北側觀察用断面 — 灰黑色砂質土層	34.2 15.3 3.3 1.7		扁平	<ul style="list-style-type: none"> ・幅狭で薄い ・先端は鋭く突出するが、基端は細部調整が施されていない ・両面両側辺より調整剥離 ・A面には左上方、B面にも左上方に打点をもつ大剥離面が残る ・先端部の調整はうすく細かい ・基端部の調整はB面のみ細かい剥離がみられる ・エッジはうすく鋭い 	未製品
国版3-35 490	E-6 溝216 黑色粘質土層 (上層)	41.0 20.0 6.0 4.7		不整六角形	<ul style="list-style-type: none"> ・先端は鋭いが、それに比べ基端はもっと鋭くなる ・逆滲は丸みをもつ ・両面中央部に大剥離面残存 ・内面側辺基辺沿いに調整剥離が施されるが、A面基辺右、B面基辺右に施されない所もある ・両面にステップ状剥離がわずかに混在 ・錫は通らず 	
国版35 491	F-8 — 暗黃灰色砂質土層 (粘土まじり)	32.7(残存) 14.2 4.6 2.3		平行四辺形	<ul style="list-style-type: none"> ・幅狭の柳葉形 ・先端を欠損 ・先端部はふくらみをなし、基部は鋭角に抉れぎみである ・両面とも内側辺より調整剥離 ・A面左側辺、B面左側辺の剥離はステップ状を呈す ・錫はA面中央とB面中央左側辺寄りを通る ・両辺ともエッジは鋭い ・A面左側辺先端部は磨耗し、横方向の傷がみられる ・基端部においてもエッジは磨耗している 	石鏡に転用したものと思われる
国版35 492	D-3 — 黑色粘質土層 (下層)	39.0 21.0 6.9 5.8		五角形	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広で厚みがある ・両面両側辺より調整剥離を施す ・A面には主要剥離面と原石面、B面には大剥離面が残る ・A面左側辺、B面右側辺には厚さを減らすため急角度に入る剥離を行っている ・先端は完全に調整されておらず鋭い ・A面中央には鋭い錫が通る 	未製品

石鏡（凸基無蓋式）

國版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (s)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考
國版35 493	E-5 溝238 黒灰色粘質土層	34.0 17.5 9.5 5.1		不整六角形	<ul style="list-style-type: none"> 幅狭の橢円形状 厚みがあり基部中央で最大厚を測る 両面とも粗い調整剥離 両面ともに大剥離面を留めず B面中央に自然隕面残存、先端部右側に主要剥離面を留め、打点は右方にある 基部中央に主要剥離面を留め、打点は右下方にある 両面ともにステップ状を呈する剥離が多く混在する 	未製品
國版35 494	D-4 — 黑色粘質土層 (上層)	25.5(残存) 12.5 4.5 1.7		杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> 先端部欠損で基端は鋭い 細長で柳葉形を呈する B面中央に細長く大剥離面を残す 調整剥離を乱雑に施す 	
國版35 495	E-5 — 黑色粘質土層 (上層)	23.0(残存) 11.0 4.0 1.2		三角形	<ul style="list-style-type: none"> 両端欠損 細身 両側刃が先端部から基端部にかけて外彌する 両面とも全体に細かな調整が施されている 	
國版35 496	D-4 — 黑色粘質土層 (上層)	27.6 14.4 4.1 1.4		扁平な扇形	<ul style="list-style-type: none"> 比較的幅広で全体に薄い 先端は突出 両面とも調整剥離を施す A面中央と左側刃、B面左側刃の剥離はステップ状を呈す B面には大剥離面がのこり左上方に打点がある 先端部は、細部調整は施されていないがうすく鋭い 両刃ともにエッジはうすく鋭い 	未製品
國版3-35 497	E-5 — 黑色粘質土層 (上層)	33.0 14.0 3.0 1.8		扁平な六角形	<ul style="list-style-type: none"> 先端はやや鋭く、基端は刃を成す 逆刃は丸みをおびる 両面ともに大剥離面が残る A面の基刃と両面側刃にステップ状剥離がみられる B面左側刃に調整剥離を施していない部分がある 	未製品
國版3-35 498	E-5 — 黑色粘質土層 (上層)	31.5 12.5 3.0 1.2		不整六角形	<ul style="list-style-type: none"> 両面ともに大剥離面が残存 両面にステップ状剥離が混在 両面側刃に調整剥離が施される 	
國版35 499	E-4 — 黑色粘質土層 (上層)	36.0 17.4 7.0 4.5		扇形	<ul style="list-style-type: none"> 先端はやや鋭い A面基部に主要剥離面を留め、打点は右方向にある 両側刃に調整剥離を施し、ステップ状剥離が先端部右側刃に混在する 基端に段をもつ B面基部中央に小さく大剥離面残存 左側刃に調整剥離 左基刃にステップ状剥離を施す 全体にやや粗いつくりである 	

石錠(凸基無茎式)

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (m) (g)	長さ 幅厚 重量	中央断面	特徴	備考
図版35 500	E-5 — 黑色粘質土層 (上層)	35.3 18.0 5.0 2.9	平行四辺形	●先端部はふくらみをもち、先端は鈍い ●基部は鋸角で突出する ●両面とも両側辺からの調整剝離 ●A面基部左側辺には打ち欠きによる剥離面がみられる ●A面左側辺、B面左側辺の剥離はステップ状を呈す ●B面には大剥離面が残り、上方に打点がある ●端はA面中央より右側辺に彎曲する ●両辺ともエッジはうすく鋭い		
図版35 501	E-7 — 灰黒色粘質土層 (木片多し)	33.0 18.2 4.2 2.4	扁平な扇形	●先端部は突出するが先端は丸みを帯びる ●基部にふくらみをもつ ●両面ともうすくていねいな調整剝離 ●各側辺ともステップ状剥離がみられる ●基部の調整には細かい剝離が施されている ●A面中央に鍋が通る ●エッジはうすく鋭い		
図版3-35 502	E-5 — 黑色粘質土層 (上層)	51.0 24.0 5.0 5.2	扁平な杏仁形	●大型で先端・基端は鈍く、逆刺は丸みをもつ ●両面中央に剥離面残存 ●ステップ状剥離が基部に集中してみられる ●側辺・基辺に細かな調整剝離が施されるが鍋が通らず		
図版36 503	E-5 — 暗黄灰色砂層	23.0 16.5 4.0 2.0	不整六角形	●両端欠損 ●両面ともに周辺より細かな剥離を施す ●A面基部中央に大剥離面を留める ●B面先端から基端にかけて大剥離面を留め、打点は右下方にある ●両面ともにステップ状を呈する剥離が若干混在する	金山産	
図版36 504	D-5 西側観察用断面 — 黑色粘質土層 (上層)	23.0 13.5 3.0 0.9	扁平な菱形	●先端わずかに欠損 ●基部から基端にかけて欠損 ●両面とも調整面よりなる ●A面先端部に鍋が通る ●両面ともステップ状剥離が混在する ●調整剝離は部分的に混在する	金山産	
図版36 505	Z Z — —	23.5 13.5 2.5 1.2	扁平な杏仁形	●扁平で木の葉形を呈する ●先端・基端とも鈍い ●両面とも大剥離面が大部分を占める ●各辺から調整剝離が細かく施されるが、B面右側辺の一部は施されない		
図版36 506	D-4 — 黑色粘質土層 (上層)	13.0(残存) 9.0(残存) 3.0 0.3	菱形	●先端及び基部を欠損 ●側辺はほぼ直線的 ●調整剝離を全面に施す ●両面中央に鍋が通る		
図版36 507	D-3 南側観察用断面 — 黑色粘質土層 (上層)	13.5(残存) 9.5(残存) 2.5 0.4	杏仁形	●薄身で先端部欠損 ●両面とも調整面よりなり、周辺は小さい調整が部分的に混在する ●基端は鈍い		

石鎚(凸基無基式)

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (w) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考
図版3-36 508	D-6 溝23 暗黄灰色砂層	49.5 17.0 4.0 2.9		鍔状突起 断面はレンズ状・ 逆剣部断面は扁平 な六角形	<ul style="list-style-type: none"> 両面ともに基部中央に大剥離面を残す 両側辺先端付近に鍔状突起を有す 両面内側辺沿いには粗い剥離の後、細かな調整を施す 	
図版36 509	D-3 — 黑色粘質土層 (下層)	31.2(残存) 11.0 4.4 1.6		不整五角形	<ul style="list-style-type: none"> 幅狭 先端部はエッジが磨耗している 基端を欠損 両面とも内側辺からの調整剥離 A面には左上方からの主要剥離面が残る B面には左上方からの大剥離面が残る A面中央先端部に鍋が通る 	
図版36 510	D-4 — 黑色粘質土層 (下層)	28.2 10.1 4.9 1.2		不整五角形	<ul style="list-style-type: none"> 細身で厚みがある 基部にふくらみをもつ 両面とも内側辺より調整剥離 A面左側辺とB面右側辺基部にはステップ状剥離がみられる B面基部には大剥離面が残る A面中央に鍋が通る 先端はエッジが磨耗している 	
図版36 511	E-4 — 黑色粘質土層 (上層)	35.9(残存) 11.1 4.3 1.6		菱形	<ul style="list-style-type: none"> 幅狭で若干風化している 中央部両側辺は平行して伸び、両端で鋭角になる 基端を欠損 両面とも内側辺に調整剥離 両端部は特に丁寧な調整を施す 両面とも中央に鍋が通る 両辺ともエッジはうすく鋭い 	
図版36 512	D-3 — 黑色粘質土層 (上層)	41.8 13.5 4.1 2.4		扁平な菱形	<ul style="list-style-type: none"> 幅狭でうすく、形が整っている 両面両側辺より調整剥離を施し、両面両側辺にステップ状剥離がみられる 両端部は特に細かな剥離を施す 鍋は両辺中央を通る 両側辺ともエッジはうすく鋭い 先端部は磨耗、風化が著しい 	
図版36 513	E-7 Pit 497 黑色粘質土層 (下層)	47.5(残存) 16.3 6.4 4.7		菱形	<ul style="list-style-type: none"> 細身 両面に調整剥離を施し、両面とも中央に鍋が通る A面基辺、B面右側辺にはステップ状剥離を呈す 内側辺とともに鋭い 先端は欠損するも再加工がみられる 	
図版36 514	試掘第1トレンチ — 黑色粘質土層 (上層)	62.5(残存) 21.5 8.1 10.1		扇形	<ul style="list-style-type: none"> 先端を欠損 両面とも両側辺より調整剥離 A面右側辺、B面右側辺にはステップ状剥離を施す B面中央から基部にかけて大剥離面が残る 鍋はA面中央から左側辺に彎曲して通る A面左側辺に一部細かい調整剥離がみられる エッジは鋭い 	

石鎚（凸基無茎式）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (m) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考
図版36 515	D-3 — 黑色粘質土層 (上層)	38.5 11.5 4.5 1.6	扁平な扇形	● 幅狭 ● 先端部はかなり突出する ● 両面とも両側辺よりていねいな調整剥離 ● 先端部は特に細かい調整剥離 ● A面左側辺、B面基部・右側辺にステップ状剥離がみられる ● 鍋はA面やや左側辺に彎曲して通る		
図版36 516	D-3 南側観察用断面 — 灰黒色粘質土層	33.5 12.5 7.2 2.5	不整五角形	● 幅狭でかなり厚い ● 先端は突出する ● 両面向側辺から大まかな調整剥離が施され、A面左側辺と先端基部にはステップ状剥離がみられる ● B面中央には大剥離面が残る ● 先端および突出部のエッジは磨耗している ● A面中央とB面やや左側辺により鍋が通る		
図版36 517	D-6 溝23 暗黄灰色砂層	35.0 12.0 4.0 1.6	杏仁形	● 幅狭でやや厚い ● 表面は風化のため白色化している ● 先端は突出する ● 両面とも両側辺より調整剥離を施す ● 細い鍋が両面中央に通る ● 両面両側辺に細かいステップ状剥離がみられる ● エッジは鋭いが先端部は磨耗している		金山産 両面中央に鉄分付着
図版3-36 518	F-6 — 黑色粘質土層 (上層)	30.0 10.0 4.0 1.0	扇形	● 先端鋭く、逆側は丸みをおびる ● A面左中央、B面右中央にステップ状剥離が混在 ● 全体に調整剥離を施し、A面先端に鍋が通る ● 逆側の下がわずかにくぼむ ● 先端部は鋸歯状を呈する		
図版36 519	D-4 西側観察用断面	46.0(残存) 14.0 4.0 2.4	扁平な菱形	● 先端鋭く、幅狭で薄身 ● 両面ともていねいな調整剥離、更に両側辺は小さな調整剥離が施され、鋸歯状を呈す ● A面中央にかすかに鍋が通る ● 基辺には調整なし ● 両先端とも調整が難である ● 基端欠損		
図版36 520	D-4 北側観察用断面 — 黑色粘質土層 (上層)	18.0 4.1 1.1	扁平な扇形	● 基部のみ残存し、先端部は欠損する ● 比較的幅広で薄い ● 両側辺は鋸歯状を呈し、基辺は若干平基を呈す ● 両側辺とも両面より調整剥離を施す ● 両辺とも一部にステップ状剥離がみられる ● 鍋は残存部上半で、A面中央を通る ● エッジはうすく鋭い		
図版36 521	E-5 — 黑色粘質土層 (上層)	21.2 12.8 2.5 0.7	扁平	● 薄くて比較的幅広い菱形を呈す ● 小型 ● 先端は鋭くつくり出されており、基部はやや鋭い ● 両面とも両側辺からのうすくていねいな調整剥離 ● B面には大剥離面が残り、左側方に打点がある ● A面右基辺、B面基部中央にステップ状剥離がみられる ● 先端の細部調整は両辺より剥離して抉っている ● エッジはうすく鋭いが、基端では、やや磨耗する		

石鎚(凸基無茎式)

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (m) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考
図版36 522	D-4 黑色粘質土層 (上層)	26.3 13.0 4.0 1.3		不整扇形	<ul style="list-style-type: none"> 比較的幅広である 先端部は丸く、辺は丸みを帯びる 基端は鋭い 両面両側辺より調整剥離 側辺部の剥離は浅く薄い A面右側辺、B面両側辺の剥離はステップ状を呈す 基端部の調整は側辺に比べて急で深い 両側辺ともエッジは鋭いが先端はやや磨耗する 	
図版36 523	D-3 黑色粘質土層 (下層)	26.5 — 15.9 5.1 1.8		不整五角形	<ul style="list-style-type: none"> 長さの割に幅広で厚い 両面両側辺より調整剥離を施し、A面左側辺にはステップ状剥離がみられる B面には大剥離面が残り左下方に打点がある 鍔はA面右側辺に彎曲する エッジは鋭く、先端は鋸利に仕上げられている 	
図版36 524	E-6 黑色粘質土層 (上層)	22.8 — 12.0 2.3 0.6		扁平な杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> 薄い 先端を欠損し基端はうすく鋭い 両面両側辺より調整剥離 B面には大剥離面が残り、左側方に打点がある 先端部の調整は比較的深く細かい A面右側辺の調整は一部ステップ状剥離を呈す 両側辺ともエッジはうすく鋭い 	
図版36 525	E-5 黑色粘質土層 (上層)	30.8 — 17.3 3.3 1.5		扁平	<ul style="list-style-type: none"> 比較的幅広で薄い 先端は鋭く、基端は鈍い 両面両側辺より調整剥離 A面右側辺、B面左側辺の剥離はステップ状を呈す B面には大剥離面が残り、左側上方に打点がある 鍔はA面右側辺にやや彎曲する 両側辺ともエッジはうすく鋭いが基端部は磨耗している 	
図版336 526	E-6 黑色粘質土層 (上層)	32.0 — 13.0 3.5 1.3		不整六角形	<ul style="list-style-type: none"> 先端は鋭く、逆刺は鋭い 両面とも中央付近に大剥離面が残存する A面の左側辺と基部は細い調整剥離を施し、右側辺はそれに比べて大きい A面に小さなステップ状剥離がみられる B面の調整剥離は細く、左基部は急角度に入る 基端近くに大きな割れ目がみられる 先端に鍔が通り、大剥離面と調整剥離面の間も鍔状を呈す 	
図版36 527	C-5 暗黄灰色砂質土層 (粘土まじり)	37.9(残存) — 14.5 5.1 2.3		三角形	<ul style="list-style-type: none"> 幅狭で厚みがある 先端部は長く、鋸利である 両面とも両側辺からの調整剥離を施す B面右側辺にはステップ状剥離がみられる B面右基辺は急角度に入る細かい調整剥離を施す 鍔はA面中央を通る エッジはうすく鋭いが、先端部において磨耗している 基端は直線を呈し、基端をわずかに欠損する 	A面中央右側辺寄り とB面中央先端部寄りに鉄分付着

石錐（凸基有茎式）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考
図版36 528	D-4 西側觀察用断面 — 黑色粘質土層 (上層)	37.6 17.4 6.5 3.7	扁平な不整五角形		<ul style="list-style-type: none"> 先端は突出し、基部にふくらみをもつ 両面とも両側辺より調整剥離 A面基部は大きな剥離で厚さを減らしており、左下方に打点がある B面には大剥離面が残る A面とB面の左側辺にはステップ状剥離がみられる 先端部、基部とも細い剥離が施されるが鋭い 錫はA面中央先端部を通る 両側辺ともエッジは若干磨耗している 	
図版36 529	E-6 — 黑色粘質土層 (上層)	42.2 16.7 6.3 4.2	不整六角形		<ul style="list-style-type: none"> 比較的幅狭で厚みがある 両面とも両側辺より粗い調整剥離 A面右基辺には、打ち欠きによる主要剥離面がみられる B面右側辺にも厚さをへらす為の打ち欠きがみられる 両端とも細部調整は施されていない 錫はA面右側辺寄りに彎曲するが整っていない 	未製品 表面は若干風化している 金山産
図版36 530	D-4 — 黑色粘質土層 (下層)	46.8(残存) 20.0 6.4 5.8	不整五角形		<ul style="list-style-type: none"> 幅狭である 先端部は細長くつくり出されているが欠損する 基部は短く鋭い 両面とも両側辺より調整剥離 A面先端部中央には大ステップ状剥離があり、その剥離により、先端部を欠損する B面右側辺には大ステップ状剥離がみられる B面には大剥離面が残り、右側方に打点がある 錫は両面とも中央より右側辺に彎曲する 両側辺ともエッジは鋭い 	未整品
図版36 531	D-5 — 暗黄灰色砂層	16.5(残存) 21.5 2.5 1.0	扁平な台形		<ul style="list-style-type: none"> 全体に扁平ぎみ 先端部欠損 両面とも中央に大剥離面を残し、両側辺より調整剥離を施す 調整は不揃いである 	金山産
図版336 532	E-5 — 黑色粘質土層 (上層)	32.0(残存) 12.0 3.0 1.2	扁平な扇形		<ul style="list-style-type: none"> 先端は鋭く、逆刺も鋭い 先端部は鋸歯状を呈する 両面とも側辺沿いに細かな調整剥離がなだらかな角度で施される 中央部に大剥離面を残す 基端はわずかに欠けて不明 	

石錐（凸基有茎式）

国版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特 徴	備 考
国版3.36 533	E-7 —— 暗黄灰色砂質土層 (粘土まじり)	24.0(残存) 13.0 3.0 0.7		不整形	<ul style="list-style-type: none"> 先端が破損し、逆刺左は丸みを帯びる A面全体に大きさがいびつな調整剥離が施され、錫は通らず、右基部にステップ状剥離がみられる B面は左側辺と基辺に調整が施されるが右側辺には調整が施されない 中央から右に大剥離面残存 	未製品
国版3.36 534	D-3 —— 黑色粘質土層 (上層)	28.5 15.0 4.0 1.6		杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> 先端は鈍く、逆刺も鈍い 両平面とも、中央に大剥離面が残存 A面左側、B面は右側にステップ状剥離がみられる 基部、側辺とも調整剥離はA面は比較的大きく、B面の方は細かい 角度においては、A面よりB面の方が緩やか 	
国版3.36 535	D-3-D-4 間観察用断面 —— 黑色粘質土層 (下層)	25.5 14.0 5.5 1.9		杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> 全体的に丸みを帯び、逆刺は鈍くやや不明瞭 抉りは浅い 先端、基端とも丸みを帯びる 両面に大剥離面を残し、調整剥離はやや難である A面右側辺、B面右基辺沿いにステップ状剥離が認められる 	
国版3.36 536	D-3 —— 黑色粘質土層 (上層)	30.5(残存) 13.0 7.0 2.4		菱形	<ul style="list-style-type: none"> 先端を欠損で基端は鈍い 側辺は直線的で逆刺はやや鈍い A面、上より3分の2ほどどの所で一番高く盛り上がる 両面中央（上より3分の2ほど）に大剥離面が小さく残る A面左側辺にステップ状剥離が認められる 錫は不明瞭 	
国版3.36 537	E-7 西側観察用断面 —— 黑色粘質土層 (上層)	27.0(残存) 12.0 4.0 1.3		扁平な菱形	<ul style="list-style-type: none"> 先端を欠損で、基端はやや鈍い 側辺は直線的で、逆刺はやや鈍く抉りは浅い B面中央に大剥離面を残す A面左基辺、B面両側辺沿いにステップ状剥離が認められる A面中央に錫が通るが、やや不明瞭 	
国版3.36 538	D-4 西側観察用断面 —— 黑色粘質土層 (上層)	30.0(残存) 13.0 6.0 2.3		菱形	<ul style="list-style-type: none"> 先端、基端とも欠損 両側辺は丸みを帯び、逆刺も鈍く基辺はゆるやかに内彎する 調整剥離面は大まかで、細かいものはあまり見られない 錫はA面では中央を、B面ではわずかに左側辺に彎曲しながら通るが不明瞭な箇所がある 	
国版3.36 539	D-3 西側観察用断面 —— 黑色粘質土層 (下層)	32.5 11.0 4.0 1.3		不整六角形	<ul style="list-style-type: none"> 逆刺はやや丸みをもつ 基の抉りが明瞭である 全体に調整剥離が施され、ステップ状を呈する B面中央に大剥離面が残存するか、左基辺は一部破損 両面の先端部に錫が通る 	

石錐（凸基有茎式）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (m) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考
図版3.36 540	E-6 灰黑色粘質土層 (砂まじり)	36.0 11.0 6.0 1.7		不整形	<ul style="list-style-type: none"> 全体の形態は縦長で全体に大きな調整剥離を施す B面中央にわずかに大剥離面が残存 角度は中央部が一番急に入る A面にステップ状剥離を呈す 逆刺はなだらかである 	
図版3.36 541	F-8 西側観察用断面 灰黑色粘質土層	31.5 12.0 4.5 1.5		台形	<ul style="list-style-type: none"> A面において、先端から中央にかけて鍋が通り、又、急角度に大きな調整剥離が施され、右側辺の逆刺は鋭い 先端は段がついて角張り、基端は丸い B面中央に大剥離面が残存し、左側辺・右基より右側辺・左茎の方に調整剥離が比較的大きい A面にステップ状剥離がみられる 	
図版3.36 542	D-8 落ち込み12 黒灰色粘質土層	40.0 17.0 8.0 5.6		不整形	<ul style="list-style-type: none"> 逆刺も明瞭につくられておらず、抉りも片方のみである 先端、基端ともやや鈍い 両面ともに、大剥離面が残り、両面の四辺にはステップ状剥離が認められる 調整剥離は大まかである A面左側辺に彎曲して鍋が通る 	未製品
図版3.36 543	F-7・F-8 間観察用断面 灰黑色粘質土層	39.0 17.0 8.0 5.1		不整形	<ul style="list-style-type: none"> やや細身 先端はやや鋭く、基端は鈍い 逆刺はやや鋭い 両面とも中央に大剥離面を残す 鍋は両面とも大剥離面沿いに2本に分かれて通っているが、A面はやや不明瞭、ただし、B面左基辺には調整剥離が認められない ステップ状剥離は両面ともに認められる 茎を成す抉りは完全に行なわれていないため不明瞭である 	未製品
図版3.36 544	E-5 黒色粘質土層 (上層)	28.0 14.0 3.7 1.3		不整六角形	<ul style="list-style-type: none"> 逆刺はやや丸みをもつ 両面中央部に大剥離面を留め、両側辺にステップ状剥離が混在する A面茎の部分に風化面が認められる 鍋はA面先端部に通る 	
図版3.36 545	F-7 黒色粘質土層 (上層)	28.5 15.5 3.5 1.0		不整六角形	<ul style="list-style-type: none"> 逆刺は鋭く、先端も鋭い 両面に大剥離面を残し、基辺においては、A面に調整剥離がみられるがB面左側辺はほとんどみられない 抉りは右は浅く、左側は明瞭である 基端は平坦である 鍋は茎に通る 	未製品
図版3.36 546	D-4 黒色粘質土層 (上層)	32.0 13.0 6.0 2.0		三角形 (底辺に丸みをもつ)	<ul style="list-style-type: none"> 逆刺は鋭く、先端も鋭い方だといえる A面基部に原石面らしきものがみられる 左側辺にステップ状剥離がみられる 全体に調整剥離が施され、基部に下がるほど角度は急になる B面は、A面に比べ粗い調整剥離が側辺に施される 中央部から基部にかけて大剥離面が残る 	

石鎚（凸基有茎式）

岡版番号	出土地名 遺構名 層位名	法盤 (m) (x)	長さ 幅 厚 重	中央断面	特 徴	備 考
岡版36 547	E-8 灰黒色粘質土層 (本片多し)	41.0(残存) 13.0 6.0 2.9		杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> 先端、基端とも欠損し、逆刺はやや鋭い 先端は使用による割れか? 側辺はわずかに丸みを帯びる 両基辺に抉りが入るが、特に片方が深い 両面に大剥離面を残すが、特にB面はその占める割合が大きい。 A面左側辺沿いにステップ状剥離が認められる 調整剥離は大まかである 	未製品
岡版36 548	E-7 黑色粘質土層 (下層)	41.0(残存) 13.0 6.5 2.7		菱形	<ul style="list-style-type: none"> 細長で先端はわずかに欠損 両側辺の逆刺の位置は平行でなく、片側辺にのみ抉りが入る 基端は丸く取める A面中央ややドで一番高く盛り上がる 両面ほぼ中央に大剥離面を小さく残す A面四辺、B面両側辺にステップ状剥離がみられる 調整剥離は大まかである 鍋が両面中央を通る 	
岡版3.36 549	E-5 黑色粘質土層 (上層)	49.0 19.0 5.0 5.0		扇形	<ul style="list-style-type: none"> 大型で逆刺は丸みをもち、先端はやや鋭い A・B面とも中央に大剥離面が認められる A面にステップ状剥離面がみられ、調整剥離が不順い箇所がある 先端中央部を鍋が通り、右に彎曲しながら茎の中央を通る B面は鍋が中央を通らず、周辺から調整剥離が施されている 	
岡版4.36 550	D-3 黑色粘質土層 (上層)	52.5 17.0 8.0 6.7		不整六角形	<ul style="list-style-type: none"> 大型でやや幅広で厚みがあり、基部中央で最大厚を測る A面中央に大剥離面を留め、全体に調整剥離が施され、先端部に鍋が通る A面基部から茎にかけての左側辺、及びB面両側辺沿いの剥離はステップ状を呈する 	
岡版36 551	D-4 土壤204 黑色粘質土層 (上層)	42.5 25.0 9.0 9.6		不整六角形	<ul style="list-style-type: none"> 両面とも細やかなステップを呈する粗い剥離が施されている 先端は先をつくらず横に広がる 両側辺は先端部ではふくらみをもち、基端部でやや段をもち基部のように凹む 基辺は厚みをもち原石面のままである 	未製品

石鎚（特殊形態）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特 徴	備 考
図版36 552	B-4 —— 暗黄灰色砂質土層	32.0(残存) 26.0 4.5 3.2	扁平な杏仁形		<ul style="list-style-type: none"> 先端欠損 基端、逆刺ともやや鋭い 側辺はほぼ直線的で鋭角の逆刺をもち、逆刺以下は急にすばまり基端を成す、側辺鋸歯状 両面とも大剥離面を残すがA面では非常に小さく、B面では中央ほとんどを占める A面、両基辺沿いにステップ状剥離が認められる、調整剥離は薄である 	
図版36 553	D-4 —— 黒色粘質土層 (上層)	57.0 28.0(残存) 9.0 8.3	不整形		<ul style="list-style-type: none"> 大型 片逆刺をわずかに欠損 両逆刺の大きさに著しい差がある 先端、基端とも丸く收める 側辺はほぼ直線的だが、上より3分の2ほどの所で幅が広くなる A面中央に小さく、B面下手に大剥離面が残る、A面各辺及びB面両側辺沿いに明瞭なステップ状剥離、調整剥離は各辺より乱雑に施されている、B面基辺には施されていない 基辺は三角形状に深く凹む 	風化著しい
図版36 554	F-7・8間 観察用断面 —— 灰黑色粘質土層	28.0 10.0 6.0 2.2	橢円形		<ul style="list-style-type: none"> 先端および基端を欠損 縫長で凸基底を呈する 逆刺は鈍く両方の位置は離れている 側辺は直線的 両側中央に大剥離面を残す 両面両側辺から丁寧な調整剥離を施す 両側辺を縱方向に研磨し、研磨された箇所は面を成す 	
図版 555	E-5 —— 黒色粘質土層 (上層)	42.0 28.5 4.5 6.3	扁平な杏仁形		<ul style="list-style-type: none"> 石窓丁の端部をそのまま利用 二等辺三角形を呈するが、3つの角は丸みを含む A面は石窓丁時の面をとどめ、B面は大剥離面が残る A面では両側辺の一部と基辺からB面では両側辺、基辺から調整剥離が施される A面基辺沿いに顯著なステップ状剥離 	石窓丁からの再利用 粘板岩

石鏡（形式不明）

図版番号	出土地区名、 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特 徴	備 考
E-4 — 黑色粘質土層 (上層)	15.5(残存) 10.0(〃) 2.5 0.3		菱形		<ul style="list-style-type: none"> 先端部のみ残存し、その先端もわずかに欠損する 両面とも側辺から切り合う調整によって中央に鍋が通る 	金山産
E-7 — 灰黒色粘質土層 (木片多し)	11.0(残存) 10.5(〃) 3.0 0.3		杏仁形		<ul style="list-style-type: none"> 先端のみ残存。先端は鋭い B面中央に大剥離面を残す 調整剥離は比較的丁寧に細かく施す 鍋はA面で右側辺に彎曲しながら通る 	
E-5 — 黑色粘質土層 (上層)	16.0(残存) 11.0(〃) 1.5 0.3		不整台形		<ul style="list-style-type: none"> 先端部破片、薄手で先端は鋭い 両側とも全体に大剥離面残存 両側辺に細かな剥離を施している 	
D-3 南側觀察用断面 — 黑色粘質土層 (上層)	17.0(残存) 12.5(〃) 3.5 0.7		菱形		<ul style="list-style-type: none"> 先端部破片 両面ともに調整剥離を施す、更にA面には細かい剥離が認められる A面に鍋が通る 	
D-3 — 黑色粘質土層 (下層)	16.0(残存) 8.0(〃) 3.0 0.4		杏仁形		<ul style="list-style-type: none"> 先端のみ残存。細長。両側辺はほぼ直線的で先端は鋭い B面中央に大剥離面が小さく残る A面両側辺及びB面左側辺にステップ状剥離 鍋が内面はほぼ中央を通る 調整剥離は比較的丁寧である 	
E-8 西側觀察用断面 — 黑色粘質土層 (上層)	16.0(残存) 10.5(〃) 4.0 0.5		菱形		<ul style="list-style-type: none"> 先端のみ残存。先端は鋭い 両面ともに調整剥離を施す A面右側辺にステップ状剥離が混在し、B面両側辺もステップ状を呈する 	
E-5 — 淡黄灰色砂質土層	18.0(残存) 12.5(〃) 3.0 0.8		杏仁形		<ul style="list-style-type: none"> 基部及び先端を欠損、細長になると考えられる B面中央に大剥離面を残す 調整剥離はやや難である 鍋はA面中央を通るが不明瞭な箇所もある 	
E-4 — —	21.0(残存) 13.0(〃) 4.0 1.0		杏仁形		<ul style="list-style-type: none"> 基部欠損、先端もわずかに欠損 両面とも調整面よりなり両側辺は直線的で鋸歯状を呈する A面にステップ状剥離が混在 B面においてはわずかであるが左側辺に自然面が残る 	
E-6 — 黑色粘質土層 (上層)	19.5(残存) 15.0(〃) 2.8 0.7		菱形		<ul style="list-style-type: none"> 先端は鋭い 基部大きく欠損 A面は中央に鍋が通るていねいな調整剥離を施す B面は先端部に鍋が通り、中央には大剥離面が残り、側辺沿いには細かな調整が施されている 側辺は鋸歯状を呈している 	
F-6 北側觀察用断面 — 灰黒色砂質土層	28.0(残存) 12.0 4.0 1.4		菱形		<ul style="list-style-type: none"> 先端はやや丸みをもち、すぼまる 基部欠損 両面とも先端部に鍋が通る 両面とも両側辺から切り合う調整面よりなり、両側辺は鋸歯状を呈する 両面ともステップ状剥離が混在する 	

石鏡（形式不明）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) 幅 (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考
	E-5 — 黒灰色粘質土層 (上層)	27.0(残存) 14.0 7.0 2.5		菱形	<ul style="list-style-type: none"> 先端部欠損 基部中央凝長に厚みが見られる 両側辺より中央で切り合う調整面よりなり中央に鏡が通る 側辺沿いにステップ状剥離が混在する 	
	B-4 — 灰黑色粘質土層 (上層)	29.0(残存) 25.4(〃) 4.2 3.2		扁平な杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> 先端部のみ残存 先端はA面右側が欠損しており丸く鈍い 先端部両側辺は両面より薄い調整剥離 両面とも左側辺の剥離は一部ステップ状を呈す 両面中央には大剥離面が残存する 	
	E-5 — 黒色粘質土層 (上層)	19.0(残存) 10.0(〃) 3.5 0.7		杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> 先端をわずかに欠損 基部を欠損 細長いものになると思われる 両面両側辺から調整剥離が丁寧に施されている 両面中央に鏡が通る 	
	F-6 — 黒色粘質土層 (上層)	34.5(残存) 16.0(〃) 5.0(〃) 2.2		不整形	<ul style="list-style-type: none"> やや細長で側辺は中ほどで凹む 基部欠損 両面中央に大剥離面を残す 両面両側辺から、粗い調整剥離が施される A面中央にステップ状剥離が顯著に認められる 	未製品
	E-5 — 暗黄灰色砂層	13.0(残存) 14.5(〃) 3.5 0.6		不整形	<ul style="list-style-type: none"> 基部欠損 先端から右側辺の一部欠損 左側辺寄りに厚みが見られる 両面とも調整面よりなりA面左側辺においては、ステップ状を呈する調整剥離が施され自然面もわずかにみられる 	未製品 金山産
	D-4 — 黒色粘質土層 (上層)	17.0(残存) 11.0 2.0 0.4		扁平な三角形	<ul style="list-style-type: none"> 先端を欠損 小型 扁平で五角形を呈する A面で2つ、B面で1つの大剥離面によって大部分がしめられる B面左側辺に3つの調整剥離 	未製品 金山産
	E-6 — 灰黑色粘質土層 (砂まじり)	20.0 14.0 4.0 1.0		三角形状	<ul style="list-style-type: none"> たまご型 A面の左半分には大きめの剥離 右側辺には細かな調整剥離が見られる 	未製品
	E-4 — 黒色粘質土層 (下層)	22.0 14.0 4.5 1.6		不整五角形	<ul style="list-style-type: none"> やや小型で、厚みがある A面では右側辺に小さめの調整、左側辺には粗い大きめの剥離がある B面で右側辺と基辺から左基端部にかけて大きめの剥離が施されている 	未製品
	E-4 溝238 黒灰色粘質土層	20.5 15.5 2.5 0.9		不整形	<ul style="list-style-type: none"> A面では右側辺と左側辺の基端部よりに細かな調整剥離が見られる B面では基辺にわずかに剥離が見られ左側辺には原石面が残る 基端の片方が角をつくらず丸くなっている 	未製品

石鐵（形式不明）

國版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) 重量 (g)	長さ 幅 厚	中央断面	特 徴	備 考
E-7	23.5(残存) 14.0(〃)	不整形	●先端やや鋭い ●細長 ●両側辺は先端付近でやや丸みを帯びる ●両面に大剝離面を大きく残す ●A面左側辺沿いにステップ状剥離、調整剝離はA面右側辺では大まかだがそれ以外では細かく施す ●基部欠損	未製品		
E-5	19.0(残存) 15.0(〃)	不整形	●先端やや鈍い ●基部を欠損 ●片側辺はほぼ直線的だが、もう片側辺は丸みをもつ ●両面中央に大剝離面を大きく残す ●B面左側辺は他に比して大きな調整剝離を施しステップ状剥離が認められる ●それ以外の側辺では細かい調整剝離が比較的丁寧に施されている	未製品		
E-6	24.8 14.0 3.5 1.3	不整四辺形	●A面左側に大きく原石面残存。左側辺には調整剝離が施されている ●B面は大部分が大剝離面で右下側辺と左側辺にわずかに調整剝離が見られるが難である	未製品		
D-3	28.0(残存) 16.5(〃)	不整形	●先端及び基部を欠損 ●両側辺とも丸みを帯び、中程に最大幅をもつものと考えられる ●A面に左側辺から施された2つの大きな明瞭な調整剝離が並んでいる。A面右下に細長く大剝離面が残る。細かい調整剝離が両面両側辺から比較的丁寧に施されている ●B面に3つの大剝離面をもつが調整剝離の可能性あり	未製品		
F-8	23.0 南側觀察用断面 20.0 4.0 明黄色砂質土層 1.8	不整台形	●先端は丸みをもつ ●基部中央両面に大剝離面が残り、左側辺沿いにやや粗い調整剝離を施す ●基辺沿いに段を持ち、両側辺とも調整剝離は施されていない ●両側辺は左右対称ではない	未製品		
E-7	26.0(残存) 17.0(〃)	厚手の杏仁形	●先端少し曲がっている ●基部欠損 ●両側辺はほぼ直線的 ●A面下半及びB面中央に大剝離面を残す。調整剝離は両面両側辺から施すが大まかである	未製品		
E-3	29.0 南側觀察用断面 13.0 4.0 黒色粘質土層 1.7	不整形	●先端やや鈍い ●A面は周囲を少し調整されているがほとんど大剝離面である ●B面は未調整である ●側辺は先端部で少し段をもつ	未製品		
E-6	28.0 19.0 黒色粘質土層 3.3 (上層) 1.7	不整台形状	●側辺はそれぞれふくらみをもつ ●A面の左先端のみ細かな調整 ●B面は先端部を除き原石面で左下に大きな気孔があいている	未製品		

石鑿（形式不明）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特 徴	備 考
	F-8 西側觀察用断面 — 黒色粘質土層 (上層)	26.0(残存) 16.5 3.0 1.5		不整形	<ul style="list-style-type: none"> 先端欠損 左側辺寄りに比べて右側辺側に厚みがある 基部中央に両面とも大剥離面を残し、両側辺沿いに小さい調整剥離が部分的に施されている 左先端部に凹みがみられる 両面にステップ状剥離が混在する 	未製品
	E-7 — 黒色粘質土層 (下層)	36.0 21.0 5.0 3.0		扁平な五 角形	<ul style="list-style-type: none"> 縱長の変形を呈する 調整剥離の施されている方を先端部、そうでない方を基部としたがその逆もありうる 先端部の方が著しく厚い A面では左右に分けるがごとく2つの大剥離面が、B面では1つの大剥離面が残る A面左基辺沿いには自然面が残る 両面とも両側辺に調整剥離を集中的に施すが、両基辺にも細かい調整剥離が少し施されている 端は、A面中央を2つの大剥離面の境として、まっすぐ通る 	未製品
	E-3 — 黒色粘質土層 (下層)	23.5(残存) 21.5(〃) 2.5 1.2		扁平な杏 仁形	<ul style="list-style-type: none"> 扁平で、先端及び下半分を欠損 両側辺は丸みをおびる 両面中央に大剥離面を大きく残す 両面とも側辺から調整剥離を施すが、B面では施さない箇所もある A面右側辺にステップ状剥離 	未製品
	E-7 溝28 暗黃灰色砂質土 層	30.0 18.5 4.0 2.5		扇形	<ul style="list-style-type: none"> 先端欠損 A面基部左側に大剥離面残存 両側辺にやや粗い調整剥離を施し、基端には細かな剥離が施される B面中央に大剥離面を留め、打点は上方にある 両面ともステップ状を呈する剥離が混在 	未製品
	D-6 E-6 間觀察用断面 — 灰黑色粘質土層	29.5(残存) 21.0(〃) 7.0 4.0		不整形	<ul style="list-style-type: none"> 厚みがある A面はステップ状を呈する粗い剥離の調整だけである B面は右下方に打点をもつ主要剥離面で、周辺にはA面に比べ小さめの剥離が施されている 基辺は大きく欠損 	未製品
	D-3 — 黒色粘質土層 (上層)	28.0 23.0 4.5 2.6		台形	<ul style="list-style-type: none"> 先端部に厚みあり 両面とも大剥離面を残し、A面右側辺と、左側辺の一部に調整剥離を施す 右基端に自然面を残し、基部中央と基辺に2つの段をもつ B面の周辺にも部分的に調整剥離がわざかにみられる 	未製品
	D-5 — 黒色粘質土層 (下層)	30.0 15.0 4.0 1.5		不整四辺 形	<ul style="list-style-type: none"> 先端は鋭く、基部欠損 A面は全体的に剥離が施され右側辺に鋸歯状剥離を呈し、左側辺にはステップ状剥離が混在する B面全体に大剥離面を留め、右側辺には鋸歯状の剥離を施す 	未製品

石器（形式不明）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考
E-7 溝24 暗黄灰色砂層	14.5(残存) 12.0(×) 3.2 0.7			杏仁形	●先端部及び基部大きく欠損 ●両面とも側辺沿いに調整剥離が施され、中央には縦長に大剥離面が残存する	未製品 金山産
E-4 — 黑色粘質土層 (上層)	16.0(残存) 14.0(×) 3.0 0.6			扁平な台形	●薄身、基部欠損 ●先端部丸みがあり、両面とも中央に大剥離面を残し、両側辺より調整剥離を施す ●左側辺に比べて右側辺はやや粗い	未製品 金山産
E-4 — 明黄灰色砂質土層	22.8 15.2 2.8 1.1			扁平な平行四辺形	●基部は折れ欠いている ●先端部は厚く未調整である ●側辺は丸みを帯びている ●両側辺とも調整剥離を施す ●B面には大剥離面がのこる ●両辺ともにエッジはうすく鋭い ●基辺は打ち欠きのみで調整剥離が施されていない	未製品 金山産
D-3 — 黑色粘質土層 (上層)	30.0(残存) 17.5 3.5 1.9			扁平六角形	●基部欠損 ●全体に粗いつくりである ●両平面とともに全体に大剥離面残存 ●A面両側辺に細かく剥離を施している ●両面ともにステップ状を呈する剥離が若干混在する	未製品 金山産
D-3-E-3 北側觀察用断面 — 暗茶褐色砂質土層	25.0(残存) 20.0(×) 4.5 2.5			不整五角形	●先端は鈍い ●基辺部大きく欠損 ●A面は右上方に打点をもつ大剥離面で周囲に大きめの調整剥離が施されている ●B面は粗い調整面で左側辺には大きなステップ状剥離が見られる	未製品 金山産
D-5 — 黑色粘質土層 (下層)	26.0(残存) 20.5 5.5 3.0			扁平な菱形	●先端部、両面ともにやや粗い調整剥離、両先端に段をもつ ●A面中央に小さく大剥離面残存 ●B面中央に大剥離面を留め、打点は左下方にあたる ●両面ともステップ状剥離が混在する	未製品 金山産
D-4 — 暗黄灰色砂層	37.0 21.5 6.0 3.3			菱形	●全体にゆるやかに彎曲している ●両面ともやや粗い調整剥離を施す ●A面基部中央右側辺基端にステップ状を呈する剥離が混在する ●B面中央に小さく大剥離面を留める ●基辺にステップ状を呈する剥離が若干混在する	未製品 金山産
E-7 西側觀察用断面 — 灰黒色粘質土層	37.0 16.5 5.5 2.9			菱形	●先端は鈍い ●基部欠損 ●左側辺、左方に打点をもつ主要剥離面が残る ●A面先端部右側に主要剥離面を留め、打点は右方にあたる ●B面基部表面欠損 ●A面に鏽が通る ●両面ともに粗い剥離を施し、ステップ状を呈する剥離が若干混在する	未製品 金山産

石器（形式不明）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (m) (t)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考
	E-5 西侧觀察用断面 ... 黒色粘質土層 (上層)	32.0 18.5 5.0 3.0	不整三角形		<ul style="list-style-type: none"> 先端は丸く基辺に厚みをもつ A面は粗い調整面よりなりステップ状剥離が混在し、基辺に段をもつ B面では大剥離面が残存し、左側辺に粗い調整がみられる 基辺は素材をそのまま残し、わずかに自然縁面も残存 	未製品
	E-5 溝238 黒灰色粘質土層	34.5 15.5 7.0 4.6	部厚い杏仁形		<ul style="list-style-type: none"> 細長で先端部欠損 A面右側辺は直線的だが、左側辺は途中で凹む 両側辺は鈍い逆刺を成した後、基端に向って幅を減じ、さらに横方向の基辺と交わり基端を成す 両面中央の上、及びA面基部中央に大剥離面を残す 両面とも両側辺から調整剥離を施す A面基部に顕著なステップ状剥離 	未製品
	D-3 ... 黒色粘質土層 (上層)	51.8 21.1 7.5 7.5	不整扇形		<ul style="list-style-type: none"> 現状はひずんだ柳葉形 先端は、細かい調整は施されていないが鈍く尖る 両面とも大きい剥離面から成り、B面中央には大剥離面が残存 側辺は、B面左側辺を除く三辺に調整剥離が施されている A面右側辺に、基部へ先細り大きく抉れた剥離がみられる 基部は未調整のため、形式不明 	未製品

第2節 石槍（図版18・55～57－1～54）

本遺跡から出土している石槍は59点である。

出土した石槍は、（1～3・5・56（図及び写真掲載していない））以外は全て欠損しており、全体の形状については不明な点が多い。

所謂「石槍」については槍・劍・戈等の機能があることが指摘されている⁽¹⁾。また、槍の背後（鷲）や基部付近にみられる使用痕的な擦れ、ないしはつやに注目して、実験データーなどから木工具としての割りノミ・穿孔用丸ノミ等の機能も指摘されている⁽²⁾。

短剣としての好資料として、八尾市恩智遺跡出土の全長16.8cmの内先端より8.4cmのところから基部までの柄部に接する樹皮を2～3重に巻きつけた打製石剣がある。また唐古・鍵遺跡出土の木製の鞘入り石剣が知られている。

従来このように異なった機能（用途）をもったいくつかの石器を総称して「石槍」と呼んでおり、今後の資料の増加に伴い具体的な用途・機能が確定され、適切な名称が与えられることを期待するものである。

本遺跡出土の石槍については、先述のごとくほとんどが欠損品である。完形品で出土している（1・56）は、旧石器時代から縄文時代草創期まで存在する木葉形の「尖頭器」に形状は似ており、実槍等の機能が考えられる。（2）についても有茎のものであるが、（1・56）同様の機能が考えられる。

欠損品については、石槍の幅・厚さ・断面の形状および調整加工によって分類した『田能遺跡発掘調査報告書』を基本として次の3形態に分類した。

I類一幅2～2.5cmの小型のもの

II類一幅2.5cm以上、断面菱形、杏仁形（凸レンズ状）の中型のもの

III類一幅3.5cm以上、扁平な杏仁形の大型のもの

さらに、幅と厚さの関係から幅と厚さの比が2対1以上の大きく厚いものを（a）とし、その比が2対1より小さく薄いものを（b）として分類した。

結果として、

I a類（10・24～28・33・38・45・52・53・58・59）－13点（23.2%）

I b類（20・32・39）－3点（5.4%）

II a類（3・5・12～15・17・19・21～23・29～31・42～44・46・51・57）－20点（35.7%）

II b類（9・11・16・37・40・41）－6点（10.7%）

III a類（1・2・6～8・18・35・36・47・49・56）－11点（19.6%）

III b類（4・34・55）－3点（5.4%）

不明－3点

となった。

本遺跡出土の石槍は、中型と小型のものが全体の75%を占め、中でも中型で比較的肉厚細身のものが多く、小型で肉厚細身のものがこれに次いで出土している。

扁平で幅広のものは全体の5.4%を占めるにすぎない。

本遺跡出土の石槍の平面形態は、十分には判明していないが、先端が丸みをもつもの、二等辺三角形のもの、正三角形に近いものなどがあり、側辺は、直線状にのびるもの、やや彎曲するものがあり、

基部も、それぞれ尖基式のもの、有基式のもの、平基式のもの、斜基式のものがありさまざまである。

石槍の鏃や基部付近にみられる擦痕（研磨）が認められるものは、3点（28・31・44）出土している。（28）は、先端部の欠損品であり、両側辺と両平面にみられ、平基面における擦痕は、長軸に対して斜めに交わる線状痕であり、先端を上に向けて見ると、両面とも左上り右下りの方向である。（31）は、胸部の欠損品であり、両平面に擦痕がみられる。両面とも、長軸に対して平行なものと斜めに交わる（左上り右下り）線状痕が混在している。（44）は、基部の欠損品であり、やはり両平面に擦痕がみられる。両面とも長軸に対して斜めに交わる線状痕であり、基端を下に向けて見ると、両面とも左上り右下りの方向を示している。

これらの擦痕（研磨）がみられる所は石槍も剥離面の最も尖出した部分であり、穂の部分でもある。これが木工具として使用されたのか、あるいは柄ずれ・紐ずれによるのか、研磨による調整なのかについてでは、もう少し検討していく必要がある。

註

- (1) 蜂屋晴美「終末期石器の性格とその社会」『藤澤一夫先生古稀記念 古文化論叢』1983 東大阪市郷土博物館『弥生人のくらし』 1983
- (2) 松沢並生「弥生時代の石槍と呼ばれる石器」(上)(下)『考古学ジャーナル』122・124 1976
- (3) 森田孝一「石器・その他の遺物」『恩智遺跡 I』 1980 阿部幸一「恩智遺跡出土の木戈・打製石劍について」『考古学雑誌』第63巻第2号 1977
- (4) 田原本町教育委員会『唐古・鍵遺跡 第13・14・15次発掘調査概報』 1983
- (5) 福井英治「石器」『田能遺跡発掘調査報告書』尼崎市教育委員会 1982
- (6) 増田一裕「大福遺跡の石器」「大福遺跡」奈良県立橿原考古学研究所 1978

石槍

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (m) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考 (石材)
図版55 1 1	D-4 — 黑色粘質土層 (上層)	10.5 6.6 2.8 165.4	杏仁形	●大型、幅広の木の葉形を呈する ●両側辺は丸みをもち、そのまま基端に至り、やや鈍い基端を成す。また先端近くではほぼ直線的に鈍い先端を成す ●部厚く、中央や片側辺(A面で右)よりに最大厚を有す ●A面中央から右側辺上半に自然縫面を大きく残す ●A面の盛りあがりは自然縫面のカーブをそのまま利用 ●両面両側辺から調整剥離が施され、B面では全面に施される ●両面両側辺沿いにステップ状剥離が顕著に認められる	サスカイト	
図版55 2	E-4 — 暗黄灰色砂層	8.0 4.9 1.8 62.0	菱形	●大型、部厚い、幅広で基部をもつ ●基部をつくり出す抉りは片側辺(A面で右)では明瞭だが片側辺では不明瞭である ●A面右側辺中程及び基部基辺に自然縫面を残す ●A面中央に鈎が通る ●B面右上半に大剥離面を残す ●両面両側辺、B面基辺から粗雑に調整剥離を施す ●両面両側辺、B面基辺にステップ状剥離が見られるが、B面基辺では細かく数多い	サスカイト	
図版18-55 3	D-4 — 黑色粘質土層 (上層)	8.5 3.4 1.4 38.2	菱形	●大型 ●先端部はわずかに角をもつが大きく丸みをもち断面がうすく扁平になっている ●基辺は丸みをもつ ●A面は全体に大きな調整剥離で横模様を整えている ●B面は中央に大きな調整剥離を施す ●側辺は細かな調整剥離を施す ●左側辺の中央は重にもなるステップで側辺部を形成、細かな調整剥離(中央にステップ)で形成される ●右側辺は粗い調整剥離と原石面を残す	サスカイト	
図版55 4	C-4 — 黑色粘質土層 (上層)	8.0 3.5 1.8 52.9	扇形	●粗雑なつくり ●部厚く大型 ●長方形に近い形態を呈し、わずかに先端をつくり出す ●A面では先端部基部中央に大剥離面を残す ●B面は側部中央に大剥離面を残す ●両面両側辺から粗雑な調整剥離を施す ●両面両側辺にステップ状剥離が認められる	サスカイト	

石槍

石版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 重	中央断面	特徴	備考 (石材)
岡版55 5	D-4 — 黑色粘質土層 (上層)	8.0 2.9 1.3 30.6		不整形	<ul style="list-style-type: none"> 細長、先端部と胴部の境に最大幅を有する B面左上及び下に大剥離面を残す 両面両側辺（B面左側辺は上のみ）に粗雑な調整剥離を施す 両面両側辺にステップ状剥離が認められ、特にA面左側辺、B面右側辺のそれは大きい 片側辺（A面で右、下4分の3ほど）に垂直に近く自然縫面を残す 片側辺（A面で右、下4分の1ほど）と先端に磨滅痕が見られ刃器としても使用の可能性 	サスカイト
岡版55 6	D-6 落ち込み216 灰黒色粘質土層	10.4 4.9 1.4 43.8		不整形	<ul style="list-style-type: none"> 横長の大きい剥片を素材とするため全体はやや彎曲 先端部はつくり出されておらず、わずかにB面右側辺に調整剥離がみられる 両面とも大きく粗い剥離面から成り、B面には左側方に打点をもつ大剥離面残存 鎌はA面中央右側辺寄りを通る 基部にはA面右側辺に調整剥離がみられ、他は大きい剥離面 基部は自然縫面 	サスカイト
岡版55 7	D-4 西側観察用断面 — 黑色粘質土層 (上層)	7.9(残存) 4.0 1.6 50.9		不整形	<ul style="list-style-type: none"> 先端欠損 基部はやや尖る 片側面（A面で左）及びB面右上に自然縫面を残す 両面両側辺から大まかな調整剥離を施す B面両側辺に顕著なステップ状剥離 部厚く胴部と基部の境に最大幅を有し、先端部と胴部の境で側辺は屈曲する 基部はほぼまっすぐほぼまる 	サスカイト
岡版55 8	D-3 西側観察用断面 — 黑色粘質土層 (上層)	7.2 3.8 1.8 52.8		不整形	<ul style="list-style-type: none"> ほぼ素材のままでほとんど加工が施されていない B面に大剥離面を大きく残す 両面両側辺から難に調整剥離を施す 両面両側辺にステップ状剥離が見られ、A面では大きく切り立っており顕著である 	サスカイト 未製品
岡版18-55 9	E-5 — 暗黃灰色砂質土層	8.0(残存) 2.6 1.5 25.8		不整五角形	<ul style="list-style-type: none"> 先端部欠損 両面ともに大剥離面を残し、急角度の剥離が胴部下半に多くみられ、大小のステップ状剥離が両面ともに多くみられる 	サスカイト
岡版55 10	F-7 西側観察用断面 — 黑色粘質土層 (上層)	6.1 2.4 1.0 14.8		不整菱形	<ul style="list-style-type: none"> 細長の素材を利用 両面とも大剥離面は全て風化 両面とも風化面が大半を占めており、長年風雨にさらされていた剥片を手頃な大きさであったため石槍に加工したものと思われる 両面両側辺から調整剥離を施すが、特にA面右側辺では丁寧に施す 	サスカイト

石塊

国版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (m) (t)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特 徴	備 考 (石材)
国版55 II	D-4 — 黑色粘質土層 (上層)	5.9 3.2 1.7 28.3	菱形		<ul style="list-style-type: none"> 全般的にやや彎曲している 先端部、胴部はほぼ同じ長さ、基部は急にすぼまる 両面に大剥離面を残す 両面両側邊から大まかな調整剥離を施す A面左側辺、B面左側辺に顕著なステップ状剥離 	サスカイト
国版55 12	E-6 北側観察用断面 — 黑色粘質土層 (上層)	5.8 3.1 1.1 18.4	不整形		<ul style="list-style-type: none"> やや弓なりに彎曲する B面中央に大剥離面を残す 両面両側邊から乱雑で大まかな調整剥離を施す 両面両側邊にステップ状剥離が見られ、特にA面左側辺が顕著 	サスカイト
国版55 13	D-4 — 黒灰色粘質土層 (砂利まじり)	5.3 3.2 1.2 19.7	不整形		<ul style="list-style-type: none"> 小型 やや短く幅がやや広いもの 胸部と基部の境に最大幅を有する 片側辺（A面で右）はほとんど調整が加えられておらず、素材時の剥離面をそのままとめている B面左側辺に自然縫面が残る 両面中央に大剥離面を残す 両面、両側辺（但しA面右、B面左側辺は一部のみ）基辺から調整剥離を施す 両面両側辺、A面基辺にステップ状剥離を残すが特にA面右、B面左側辺、A面基辺では大きく顕著 基部は丸みをもつものだが途中、両側辺が屈曲して直線の基辺を成す 	サスカイト
国版18-55 14	E-5 — 灰黒色砂質土層	5.5(残存) 2.9 1.0 16.0	不整五角形		<ul style="list-style-type: none"> 先端部欠損 A面においては中央部、基部に大剥離面を残し、B面には基部にみられる A面両辺はやや大きな調整加工で概形を整え、ステップ状剥離が多く認められる A面側辺の急角度な剥離に対して、B面側辺はならかである 	サスカイト
国版55 15	D-3 — —	5.8(残存) 3.3 1.0 15.6	扁平で不整な杏仁形		<ul style="list-style-type: none"> 先端を欠損 縱長の菱形を呈し、片側辺（下半）を凹ますことにより基を成している 逆剥はやや鈍く、基端は丸みを帯びる A面右上半に、B面ほぼ全体及び右側辺（下半）に大剥離面を残す 両面両側辺（但しB面左側辺（下半）を除く）から粗雑に調整剥離を施すが、A面両側辺（下半）B面両側辺（下半）では大まかに施した後、細かく施す A面左側辺、B面両側辺（下半）にステップ状剥離が認められ、B面では大きい A面、上半に鏽が通る 	サスカイト

石棺

石棺番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (m) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考
岡版18-55 16	E-6 北側觀察用断面 — 黑色粘質土層 (上層)	8.0(残存) 2.7 1.4 34.7	杏仁形		●凸基有茎 ●先端部と基部端を欠損 ●片面はあらい剥離調整を施し、大剥離面を残す ●他面は自然面を残し、その側辺を剥離調整 ●逆刺はなだらかで、抉りは明確	サスカイト
岡版56 17	E-7 — 灰黑色砂質土層	4.4 2.9 1.2 14.1	杏仁形		●小型 ●不整で菱形に近い形を呈する ●両側辺中ほどで凹み、抉りの可能性 ●A面中央に大剥離面を残す ●両面両側辺から調整剥離を施すが、B面が比較的ていねいなのに対し、A面は粗雑で大まかである ●両面にステップ状剥離が認められ、特にA面では顕著である	未製品 泥岩
岡版18-56 18	D-6 — 灰黑色粘質土層	6.9(残存) 3.6 1.6 39.7	菱形		●A面中央部に研磨痕が認められる ●B面はほぼ中央に大剥離面が残存 ●両面に調整剥離が施され、又両側辺にはステップ状剥離が混在する	サスカイト
岡版56 19	C-3 — 明灰黑色砂質土層	6.2(残存) 3.0 1.3 25.7	杏仁形		●先端部から胴部上半の破片だが、先端を欠損する ●全体的に少し彎曲する ●両面両側辺から難に調整剥離を施す ●両面両側辺に大きなステップ状剥離 ●両側辺21mm以内に磨滅痕 ●欠損面も一部磨滅	サスカイト 破損後石錠として再利用
岡版56 20	F-8 — 黑灰色粘質土層	5.5(残存) 2.0 1.2 13.8	不整扇形		●小型で先端と基部を欠損する ●全体にやや彎曲しており、側辺は丸みをおびる ●先端部はゆるやかに先細り、両面より調整剥離を施すが、B面左側辺は大きい剥離を残す ●胴部も両面両側辺より調整剥離を施し、エッジは刃削れし白色化する ●A面右側辺には一部大きい剥離が残存 ●鎬はA面中央を通るが鈍い	サスカイト
岡版18-56 21	E-6 — 黑色粘質土層 (下層)	6.9(残存) 2.7 1.2 23.3	菱形		●基部欠損 ●先端でわずかに彎曲 ●両面ともあらく大きな剥離面よりなる ●両面両側辺ともステップ状剥離面	サスカイト
岡版18-56 22	D-3 — 黑色粘質土層 (上層)	6.9(残存) 2.7 1.0 23.2	菱形		●基部欠損 ●両面ともあらい剥離調整 ●片面には大剥離面を残し、その側辺沿いに剥離調整を施す	サスカイト
岡版56 23	D-6 — 暗黄灰色砂質土層 (粘土まじり)	4.5(残存) 2.9 1.3 13.7	不整菱形		●先端部及び胴部のごく一部が残存 ●先端は丸みをおび薄く仕上げられ、側辺はゆるやかに幅広くなる ●両面とも大きい剥離面よりなり、特にA面左側辺、B面左側辺は大きい ●両側辺とも両面より調整剥離を施す ●胴部側辺はわずかに残存するが直線を呈す	サスカイト

石槍

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特 徴	備 考 (石 材)
図版56 24	E-4 黑色粘質土層 (上層)	4.8(残存) 2.4 0.9 11.3		菱形	●下半を欠損 ●先端はやや鈍い ●両面とも中央に大剥離面を残す ●両面両側辺から乱雑な調整剥離を施す ●両面両側辺沿いにステップ状剥離が認められ、特にB面左下のものは大きい ●A面先端部中央は研磨されている ●両面とも中央に鍋が蛇行しながら通る	サスカイト (金山産)
図版18-56 25	E-7 黑色粘質土層 (上層)	4.2(残存) 2.4 1.1 8.5		菱形	●先端部のみ残存 ●両面ともステップ状剥離がみられ、大剥離面も残存する ●鍋は両面ともぼやけているか、A面がやや明瞭	サスカイト
図版56 26	Z Z —	4.1(残存) 2.2 1.1 7.1		扇形	●先端部のみ残存 ●側辺は丸みをおびる ●両面両側辺より粗い剥離調整 ●A面左側辺、B面左側と右側辺の一部の剥離はステップ状を呈する ●先端の細部調整はB面のみ剥離がみられる ●先端部には刃こぼれと思われる細かい剥離がみられる	サスカイト
図版56 27	F-8 黑色粘質土層 (上層)	3.8(残存) 2.3(〃) 0.9(〃) 6.7		杏仁形	●先端部の破片 ●全体的に粗雑なつくりである ●両面に大剥離面を残す ●両面両側辺から調整剥離を大まかに施す ●A面左側辺にステップ状剥離 ●先端が著しく磨滅	サスカイト
図版56 28	D-4 黑色粘質土層 (上層)	3.4(残存) 2.5 0.9 7.1		杏仁形	●先端部のみ残存 ●先端は丸みをおびるが両側辺とも直線を呈し、鋭利なつくり ●両面両側辺より、ていねいな調整剥離を施す ●鍋はA面中央を通る ●A面後部エッジ、両側辺とB面長軸に対して斜めの研磨痕がみられる	サスカイト
図版56 29	D-3 北側観察用断面 黑色粘質土層 (上層)	2.9(残存) 3.1(〃) 1.2(〃) 13.9		杏仁形	●胴部の破片 ●両端の厚さが著しく違う ●両面中央に大剥離面を残す ●両面両側辺から乱雑な調整剥離を施す ●両面両側辺沿いにステップ状剥離	サスカイト
図版56 30	D-4 南側観察用断面 黑色粘質土層 (上層)	3.9(残存) 2.6(〃) 1.0(〃) 12.0		杏仁形	●胴部の破片 ●両面とも中央に大剥離面が残る ●両面両側辺から調整剥離を大まかに施す ●両面両側辺にステップ状剥離が認められる	サスカイト (金山産)
図版56 31	試掘第1トレンド 黑色粘質土層 (上層)	3.5(残存) 2.7(〃) 1.1(〃) 10.9		扇形	●胴部の破片 ●両面両側辺からの調整剥離を大まかに施す ●両面両側辺及びA面上部にステップ状剥離 ●A面中央及びB面中央の一部(左側辺に達する)に斜方向の研磨を施す	サスカイト

国版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (m) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考 (石材)
国版18-56 32	D-4 北側觀察用断面 — 黒色粘質土層 (上層)	4.5(残存) 2.1 1.2 13.2		菱形	●先端部欠損 ●全体に調整剥離があらく、A面左基部には急角度で大きな調整剥離がみられ両側辺にステップ状を呈する調整剥離が施される ●B面は右側辺がステップ状剥離で形成されている	サスカイト
国版56 33	D-3 — 黒色粘質土層 (上層)	3.1(残存) 2.2(×) 1.0(×) 6.6		菱形	●胴部の破片 ●両面とも中央に自然縫面を残す ●両面両側辺から調整剥離が大まかに施されるが、細部は未調整 ●両面両側辺沿いにステップ状剥離 ●側辺とも磨滅している	サスカイト
国版56 34	E-6 — 暗黒色砂質土層	6.4(残存) 3.7 1.9 51.7		杏仁形	●基部を含む胴部が残存し、先端部は欠損する ●胴部側辺は若干先細る傾向がある ●胴部両面とも大きな剥離面からなり、A面左側辺の剥離はステップ状を呈す ●基部は丸みをおび、両側辺までのびる剥離により調整される	サスカイト
国版56 35	D-5 — 暗黄灰色砂質土層	6.9(残存) 3.9 2.0 56.7		杏仁形	●胴部と未調整の基部が残存 ●胴部両側辺は平行する ●両面とも大きい剥離面からなり、側辺部はさらに調整剥離を施す ●基部はB面側が大きく打ち欠けているが厚みがあり未調整である	サスカイト
国版56 36	D-5 溝214 — 暗黄灰色砂質土層	5.1(残存) 5.0 2.0 43.5		杏仁形	●基部と若干の胴部のみ残存 ●胴部は両側辺が平行する ●両面とも大きい剥離面からなり、A面左側辺の剥離はステップ状を呈す ●基部は両側辺がくびれて尖る ●基部の調整も大きく粗い剥離のみ施される	サスカイト
国版18-56 37	E-5 — 黒色粘質土層 (上層)	6.2(残存) 2.8 1.7 43.0		不整菱形	●先端欠損 ●A面左下部と、B面基端に原石面が残存 ●A面左側辺部は大きな剥離で、右側辺部は何重にもなるステップ状剥離で形成されている ●B面は全体に大きなステップ状剥離で形成されている	サスカイト
国版56 38	E-3 — 黒色粘質土層 (上層)	5.2(残存) 3.4 1.7 29.9		扇形	●基部及び胴部の一部が残存 ●両側辺はほぼ平行する ●両面とも大きい剥離面からなり、両側辺とも両面より調整剥離を施す ●鏡はA面中央を通る ●基部は丸みをおびるが基端はやや平基ぎみである ●基部の調整も両面より調整剥離を施す	サスカイト
国版18-56 39	C-3 — 黒色粘質土層 (上層)	6.4(残存) 2.5 1.4 22.7		不整菱形	●先端部欠損 ●両面とも大きな剥離で鏡形を整え、部分的に調整剥離を呈しているが、全体に鏡である ●A面基端においては研磨されたようにならかになっている ●両面とも大小のステップ状剥離が多数認められる	サスカイト (金山産)

石塀

国版番号	出土地名 遺構名 層位名	法量 (m) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考 (石材)
国版56 40	F-7 — 黑色粘質土層 (上層)	5.8(残存) 2.7 1.5 28.9		菱形	<ul style="list-style-type: none"> 下半部のみ 両側辺は胴部上半に最大幅をもち、先端へむかって幅を減じる 先端の位置は中心よりずれていて、先端部は急にすぼまる 両面とも左右にそれぞれ大剥離面を残し、基端は大剥離面によってなされる（素材の尖りを先端として利用） 胴部両面両側辺（ただし、A面左側辺では先端まで及ぶ）から複雑な調整剝離を施す 両面左側辺、B面先端部に大きなステップ状剥離 両面とも中央に縫が通る（A面では素材の縫をそのまま利用） 	木製品 角柱の素材をそのまま利用 サスカイト (金山産)
国版56 41	F-7 — 暗黄灰色砂質土層	4.4(残存) 3.1 1.8 27.6		杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> 基部の破片である 両側辺に明瞭な抉りを有する、又、両面とも抉りとほぼ同位置で急に厚さを減じる 基部中央（抉りより下）に最大厚をもつ 素材時の剥離面又は破損面を、そのまま基面としている 両側辺に刃剥しを施す、又、基辺（基面の周囲）にも刃剥しを施す B面中央上に自然剥離面を残す 両面中央に大剥離面を残す 両面両側辺、基辺から調整剝離を施すが、大まかに施した後、非常に細かく施す 両面両側辺、基辺に多くのステップ状剥離が認められる 	サスカイト
国版56 42	E-6 — —	4.2(残存) 3.3 1.2 17.9		不整形	<ul style="list-style-type: none"> 胴部の破片 両面に大剥離面を残す 両面両側辺から調整剝離を施すが大きい剥離を施した後、小さい剥離を施す 両面両側辺にステップ状剥離が多数認められる 	サスカイト
国版18-56 43	D-6 — 黑色粘質土層 (上層)	4.9(残存) 2.9 1.1 18.1		菱形	<ul style="list-style-type: none"> 先端部欠損 A面は全体に調整剝離がみられ、左側辺部は多くのステップによって形成されている B面は両側辺ともA面に比べて大きなステップ状剥離で形成されている 基部にわずかに原石面が残存 	サスカイト
国版18-56 44	E-3 溝223 黒灰色粘質土層	4.7(残存) 2.6 1.3 17.3		不整形	<ul style="list-style-type: none"> 基部欠損 両面中央に研磨された線状痕が白く変色してみられる 両側辺から中央にむけ、大きなあらい調整が施され、中央には縫が通る 両面にステップが状剥離が混在 	サスカイト

石棺

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (w) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考 (石材)
図版56 45	E-6 —— 暗黃灰色砂質土層 (粘土まじり)	3.7(残存) 2.5 0.9 8.3		杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> 胴部下半から基部の破片 胴部と基部の境に最大幅をもつ 基部はまっすぐ基端にむかひ、基端は鈍い A面左下に小さく自然縫面を残す B面中央に大剥離面を残す 両面両側辺から乱雑に調整剥離を施す 内面両側辺にステップ状剥離がみられる 両側辺やや磨滅 	サスカイト
図版56 46	D-3 —— 西側觀察用断面 灰黒色粘質土層	3.4(残存) 2.6 0.6 5.8		杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> 厚みの薄い小型 基部及び胴部の一部のみ残存 両側辺とも直線的だがやや先細る傾向がある 両面両側辺より薄いていねいな調整剥離を施す 基端は平基を呈し、A面側に大きい剥離、B面には細かい調整剥離がみられる 	サスカイト
図版56 47	C-4-D-4 間觀察用断面 —— 灰黒色粘質土層 (木片多し)	2.7(残存) 3.5 0.8 9.4		扁平な杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> 胴部下半から基部の破片である 扁平で基端に最大厚をもつ 基部はあまりふくらまず、両側辺は先端に向かうにつれ幅が狭くなる 基辺は面をなし、自然縫面を残し、基辺の形態は波形の凹凸を呈する 逆刺は鋭い 両面中央に大剥離面を残し、B面では基辺まで達する 両面両側辺から調整剥離を施す 内面両側辺にステップ状剥離が認められ、特にA面左側辺では大きなものがみられる 	サスカイト
図版56 48	D-5 —— 黒色粘質土層 (下層)	3.5(残存) 4.0(×) 0.9(×) 9.8		不整形	<ul style="list-style-type: none"> 基部の破片 基端は鈍い A面右側辺に自然縫面を残す A面大剥離面を残すが、特にB面では大半を占める A面左側辺、B面右側辺から調整剥離を施す A面左側辺、B面右側辺にステップ状剥離 A面中央に鎌が通る 	サスカイト
図版56 49	E-6 溝24 暗黃灰色砂層	3.5(残存) 3.8(×) 1.2(×) 19.0		杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> 基部の破片 基部は半円形状を呈する 両面中央に大剥離面を残す 両面両側辺から大まかに調整剥離を施すがB面片側辺の一部ではていねいに施す A面中央、B面両側辺に大きなステップ状剥離 	サスカイト
図版56 50	F-8 —— 暗黃灰色砂層 (粘土粗い)	4.3(残存) 3.0 1.1 10.5		杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> 基部のみ残存 基端は鈍い B面中央に大剥離面を残す 両面両側辺から調整剥離を施すが、まず大きい剥離を施してから小さい剥離を施す 両面両側辺沿いにステップ状剥離が多数認められる 	サスカイト

石槍

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (m) (kg)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考 (石材)
図版56 51	誠摶第1トレンチ 黑色粘質土層 (上層)	3.3(残存) 2.9(マ) 0.5(タ) 3.8	扁平な杏仁形		●先端部のみ、但し先端もわずかに欠損 ●両面ほぼ中央に大剥離面を残すが、A面で小さく、B面では大きい ●両面両側辺からやや難な調整剥離を施す	サスカイト
図版56 52	E-6 — —	3.5(残存) 1.9(マ) 0.7(タ) 4.3	半円形		●胸部下半から基部の破片 ●胸部ほどに最大幅をもち、両側辺はそこから先端・基端へ向かって幅を徐々に減じる ●基部は片側辺のみ丸みをおび、基端も丸い ●両面中央に大剥離面を残す ●両面両側辺から調整剥離を施すが、B面では大まかに少ししか施さない ●A面左側辺、B面右側辺にステップ状剥離が認められ、特にB面右側辺では大きい ●A面中央を弱い鎌が通る	サスカイト
図版57 53	D-5 西側觀察用断面 灰黑色粘質土層	2.7(残存) 2.4(マ) 0.8(タ) 4.5	杏仁形		●基部の破片 ●両側辺は三角形をなすようにすぼまり、基端は丸くおさめる ●胸部と基部の境の逆刺は鈍い ●B面中央に大剥離面を残す ●両面両側辺から調整剥離を施すが、大まかに施した後、細かいものを施す ●両面両側辺にステップ状剥離	サスカイト
図版57 54	E-5 — 黑色粘質土層 (上層)	2.5(残存) 2.5(マ) 0.5(タ) 3.1	扁平な半円形		●扁平な基部の破片 ●側辺はやや丸みをもち、基端も丸くおさめる ●両面に大剥離面を大きく残し、特にA面左側辺では調整剥離のかわりに大剥離面のカーブをそのまま利用する ●A面両側辺(但し左側辺は一部のみ)、B面左側辺に調整剥離を施す ●B面左側辺沿いにステップ状剥離がみられる	サスカイト
	E-7 — 灰黑色粘質土層	3.2(残存) 3.7 1.9 24.2	杏仁形		●基端部の破片 ●両面ともやや粗雑な調整剥離を施し、ステップ状剥離が若干混在する ●A面左側辺のエッジはやや潰れている ●B面中央及び基端に原石面を残す	サスカイト
	C-5 — 暗黄灰色砂質土層 (粘土まじり)	8.7 5.4 1.8 88.0	菱形		●大型で、幅広の木の葉形を呈する ●先端は鈍く、基端は小さな面が残存 ●周囲から全面に、両面とも調整剥離を施す。調整剥離は大きい剥離を施してから、細かい剥離を施している ●両面両側辺沿にステップ状剥離が見られる ●A面上半において中央に鎌を成す	サスカイト
	E-8 溝100 暗黄灰色粘質土層 (粘土まじり)	5.0 2.6 0.6 9.3	扁平な杏仁形		●小型で薄い ●先端は鈍く、基辺をもつ ●両面に剥離面を大きく残す ●両面両側辺から調整剥離を粗く施すが、施されない箇所もある ●A面右側辺下半にステップ状剥離	未製品 サスカイト

石槍

國版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (m) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特 徴	備 考 (石 材)
	B-4・B-5 問観察用断面 —— 灰黒色粘質土層	2.2(残存) 2.5() 1.0()	杏仁形 杏仁形 杏仁形		<ul style="list-style-type: none"> ・胸部の破片 ・両側辺はほぼ平行 ・B面に大剥離面を残す ・両面両側辺から調整剥離を施すが、B面片側辺の剥離は粗く、ステップ状剥離を呈する ・A面に不明瞭だが鍋を成す 	泥岩
	E-7 —— 灰黒色粘質土層 (木片多し)	2.5(残存) 2.1 6.0 4.4	扁平な杏 仁形 杏仁形		<ul style="list-style-type: none"> ・基部の破片 ・両側辺は先端に向かうにつれ幅を減じる ・斜めの基辺をもつ ・B面に大剥離面を残す ・両面両側辺・基辺より調整剥離を施す ・両面両側辺・基辺沿にステップ状剥離 	サスカイト

第3節 石剣（図版19・57-1～14）

本遺跡出土の石剣は総数16点である。

内訳は、磨製石剣8点（1～8）と打製石剣8点（9～14、観察表のみ記載2点）であり、完形品は1点も出土しておらず、全て欠損している。

磨製石剣の用途としては、儀器、祭祀用具として使用していた可能性もあるが、今回の報告においては、遺構に伴って出土しておらず、全て遺物包含層からの出土であるため、一応武器の章において報告する。しかし、磨製石剣の性格については、今後十分な検討を行う必要があると思われる。

a) 磨製石剣（図版19・57-1～8）

(1)は、有茎式のもので、身と茎が明確に区別され、茎幅は闊幅の1/2以上の数値を示す。身の中央断面は杏仁形を呈し、両面とも丁寧な研磨が施されておりながらであります。頭部の断面は長方形を呈している。石材は、綠泥片岩である。(2)は細身の石剣であり、両面ともていねいな研磨が施されており、身の中間に鏽を有し、明確な茎は認められない。基部端部は斜めに切断され、基部端から約8cmの両側縁は研磨により面をもつ。断面は菱形を呈し、石材は粘板岩（高島石）である。

(3)は、有茎式の石剣であるが、茎というよりも柄に近い形態をなし、わずかに段によって身と茎が区別されている。身部は欠損し、基部のみ残存であり、大型の石剣の一部である。(4・5)は、中型の石剣の一部であり、(5)は茎につながるわずかな段を有している。(6)は、先端部付近の片面のみである。(7・8)はそれぞれ身の破片であり、(7)は全体に丁寧な研磨が施されて中央に鏽を有している。

b) 打製石剣（図版19・57-9～14）

全て身部の破片で、石材は全てサスカイトである。調整剥離を両面全体に施しており、(14)は残存する側縁部は研磨が施され平坦面を呈している。他に図版掲載はしていないが、基部と身幅の破片がそれぞれ1点づつ出土している。

第4表 磨製石剣使用石材割合表

種類	点数	%
綠泥片岩	1	12.5
粘板岩	5	62.5
真岩	2	25.0
計	8	100

石剣(磨製)

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (cm) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考 (石材)
図版19-57 1	E-7 — 黑色粘質土層 (上層)	9.0(残存) 3.6 1.0 51.7	杏仁形	●有茎 ●区と茎はほぼ直角をなす ●両面ともなだらかで鏽はない ●両側辺のエッジはうすく鋭い ●両面ともていねいな研磨 ●先端部欠損	砾泥片岩	
図版19-57 2	F-8 — 灰黑色砂質土層 (上層)	10.4(残存) 3.4 1.0 42.2	菱形	●基部破片 ●細身 ●鈎は両面中央を通る ●基部端部は斜めに切断し研磨 ●基部端から8.0cmの内側縁は研磨により面をもつ ●両面ともていねいな研磨	粘板岩 (高島石)	
図版57 3	E-7 — 灰黑色粘質土層 (砂まじり)	11.0(残存) 5.5(×) 1.3(×) 109.5	扁平な杏仁形	●上半を欠損した茎の可能性 ●残存部分は長方形を呈し、先端に向かうにつれ鈎を広げる ●扁平な石材で鈎をなさず、両側面をもつ ●基端にも面を有する ●両平面、両側面、基端面全体にわたり研磨を施す。両平面には研磨が及ばない敲打痕が数多く残る	粘板岩	
図版19-57 4	D-9 — 黑色粘質土層 (上層)	8.6(残存) 4.0 1.3(残存) 61.1	不整形	●先端と基端が欠損 ●全体に風化している ●両面とも全体にていねいな研磨痕がみられる (破損部には認められない) ●A面右側の刃は鋭く、刃こぼれらしきものがみられる	粘板岩	
図版57 5	E-7 — 灰黑色粘質土層 (木片多し)	5.2(残存) 4.3(×) 0.9(×) 34.5	不明	●胴部片面のみの破片 ●片側邊に茎部につながる抉りを有する ●片側面は丸みを帯びているのに対して、他側面は垂直に近いフラットな面である ●抉り付近に敲打痕を残す ●頭部では斜方向に、側面では縱(上下)方向に研磨を施す	粘板岩	
図版57 6	試掘第1トレンチ — —	5.4(残存) 2.4(×) 0.3(×) 6.3	不明	●先端部及び胴部上半の片面のみの破片 ●中央にゆるやかな鈎をなし、その鈎の先端近くで2手に分かれれる ●研磨は胴部では横方向の後斜方向に、先端付近ではほぼ横方向に施される ●研磨は胴部側面では縱(上下)方向に、先端付近側面では斜方向に施される ●先端と胴部の破損面も研磨されており、再利用の可能性	粘板岩	
図版19-57 7	E-6 — 暗黄灰色砂層	2.7 3.2 1.1 14.3	杏仁形	●両面とも鈎が通り、研磨の線状痕は全面に斜方向に上向き走っているのが多くみられる ●基端が欠損した後、先端部分を打ち欠いて再加工。	頁岩	
図版57 8	E-4 西側観察用断面 — 青灰色粘質土層	2.1 3.2 0.6 6.9	扁平な杏仁形	●胴部の破片 ●石庖丁からの再利用と思われ、まだ加工途中だったためか、B面には研磨は及んでいない ●A面では片側邊、B面では両側邊からの調整剥離が残存し、ステップ状剥離を呈する ●B面中央に大剥離面が残る	頁岩 石庖丁からの再利用の可能性	

石剣(打製)

石版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考 (石材)
国版57 9	D-4 — 黑色粘質土層 (上層)	4.3(残存) 4.9(×) 1.3(×) 33.0	杏仁形	● 脊部の破片 ● 両面とも大剝離面を残す ● 調整剥離は粗雑で大まかである ● 向面両側辺沿い、又、両面中央にもステップ状剥離が認められる	サスカイト	
国版57 10	F-7 南側観察用断面 — 灰黒色粘質土層	4.3(残存) 4.1 1.8 35.3	扁形	● 脊部の一部残存 ● 両側辺はほぼ平行する ● 両面とも大きい剝離面から成り、両側辺とも両面より調整剥離 ● A面中央の剥離のエッジには、刃縁と直交する方向の研磨が、B面のエッジには右斜方向の研磨がみられる ● 両辺ともエッジは鈍い	サスカイト	
国版57 11	D-5 — 暗黃灰色砂質土層	3.6(残存) 4.1 1.0 17.6	扁形	● 脊部の一部のみ残存 ● 脊部両側辺は平行する ● 両面とも中央は大剝離面残存 ● A面右側辺は両面に、A面左側辺は片面に調整剥離を施すが、左側辺のは小さく、細かい ● 鋸はA面中央を通る ● A面右側辺のエッジがやや潰れる	サスカイト	
国版57 12	F-7 構 225 黒灰色粘質土層	3.3(残存) 4.1 1.1 15.9	扁形	● 脊部の一部のみ残存 ● 両側辺は平行するが、ややすぼまる傾向がある ● 両面とも大きい剝離面からなり、両側辺とも両面より調整剥離 ● 鋸はA面中央右側辺寄りを通る ● エッジはやや磨耗する	サスカイト	
国版57 13	E-6 — 灰黒色粘質土層	2.6(残存) 3.6 0.9 10.2	杏仁形	● 脊部の一部のみ残存 ● 両側辺はほぼ平行し、両面より薄いていねいな調整剥離 ● 両側辺ともエッジは磨耗して鈍い	サスカイト	
国版19-57 14	D-5 西側観察用断面 — 黒灰色粘質土層	3.4 3.4 0.9 17.1	扁平な不規五角形	● 残存部は扁平な直方体を呈するが長端部を欠損しており、全体の形状は不明 ● 欠損した端部の一端には再加工が施されている ● 両面ともに調整剥離がみられるが片面には自然剥離面が残る ● 残存する側縁部は研磨されており、平坦面を有する	サスカイト 破損後再加工	
	E-4 構 238 黒色粘質土層 (上層)	3.8(残存) 4.3(×) 2.2(×) 41.2	不整な杏仁形	● 基部の破片 ● 残存部は方形に近い形を呈する ● A面に明瞭な鋸をなす ● 片側辺及び基辺に刃溝を施している ● B面中央に大剝離面と自然剥離面を残す ● 両面とも両側辺・基辺から調整剥離を粗く施し、ステップ状剥離が見られる	サスカイト	
	D-3・D-4 間観察用断面 — 暗黃灰色砂質土層 (粘土まじり)	3.9(残存) 3.3(×) 0.9(×) 15.6	扁平な杏仁形	● 脊部の破片 ● 比較的扁平である ● 片側辺は直線的だが、もう片側辺はくの字形を呈する ● 両面中央に大剝離面を残す ● 両面両側辺から調整剥離を施すが、A面右側辺・B面左側辺のものは粗く、ステップ状剥離が見られる	サスカイト	

第4節 石匙（図版4・36-1）

本遺跡からの石匙の出土は1点である。

平面形は正三角形を呈し、背顶部につまみが付く横長タイプのものである。長さ2.9cm、最大幅3.5cm、厚さ0.5cm、重さ4.1gを測る。全体を剥離調整し、体部とつまみの境に抉りを入れている。刃部は両面加工により両刃の直線に近い内彎刃を呈している。石材は、サスカイトを使用している。

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考 (石材)
図版4・36 1 1	E-5 淡黃灰色砂質土 層	2.9 3.5 0.5 4.1	—	—	● 平面形は正三角形を呈し、背顶部につまみあり ● 全体に調整剥離 ● 刃部は両面加工により、両刃の内彎刃を呈す	サスカイト

第5節 投弾（図版6・42・43-1~38）

本遺跡からの石製投弾は38点出土している。他に土製投弾も数点出土しているが、現在整理作業中でありその数量は増加するものと考えられる。

投弾は、円球ないしはフットボール状の椭円球を呈した自然礫を利用したものであり、長径6.5cm ~2.7cm、短径3.7~1.3cm、重さ118~9.6g（平均35.6g）を測り、横断面は円形あるいは椭円形で長径・短径・重量において若干のばらつきがみられる。

本遺跡から出土した投弾の多くが砂岩系の自然礫を利用しているが、（1）の石材はサスカイトであり、自然礫面が残存しているものの周縁を打ち欠いて形を整えたものである。重量も118gあり、出土している投弾の中では最も重いものである。

その他、一部分に研磨（？）を施したもの（5・7・18）や、敲打痕の残るもの（21・22・37）、また一部に二次的に火があたっているもの（2・7・14）がある。

第5表 出土投弾重量別点数

重 量(g)	0 ↓ 10	10 ↓ 20	20 ↓ 30	30 ↓ 40	40 ↓ 50	50 ↓ 60	60 ↓ 70	70 ↓ 80	80 ↓ 90	90 ↓ 100	100 ↓ 110	110 ↓ 120	計
点 数	1	8	8	4	8	1	1	1	0	0	1		34

（欠損品は除く）

第6表 投弾使用石材割合表

種 類	点 数	%
砂 岩	20	52.7
石英質砂岩	6	15.8
花崗質砂岩	3	7.9
石英粗面岩	1	2.6
珪 岩	1	2.6
サスカイト	1	2.6
チャート	3	7.9
不 明	3	7.9
計	38	100

投彈

投擲

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長径 中径 短径 重量	中央断面	特徴	備考 (石材)
図版42 13	Z Z — —	4.2 3.6 2.2 43.0	椭円形			砂岩
図版42 14	E - 3 — 黑色粘質土層 (上層)	4.0 3.1 1.9 28.7	不整な円形	●一部に火を受けて変色		砂岩
図版42 15	E - 7 — 灰黒色粘質土層 (木片多し)	3.9 3.1 1.6 27.3	椭円形			砂岩
図版6・42 16	E - 5 — 暗黃灰色砂質土層	3.2 2.9 2.9 33.0	台形	●円形、片面に凹み		砂岩
図版42 17	D - 4 — 灰黒色粘質土層 (木片多し)	4.6 2.7 2.6 42.5	円形			砂岩
図版42 18	C - 3 落ち込み214 —	4.5 3.2 2.5 42.5	椭円形	●一部に研磨が認められる		花崗質砂岩
図版42 19	E - 6 — 暗黃灰色砂質土層 (砂まじり)	3.6 3.1 2.7 41.9	円形			チャート
図版42 20	E - 3 — 黑色粘質土層 (下層)	3.3 3.0 2.1 23.6	卵形			砂岩
図版42 21	E - 4 — 淡黃灰色砂質土層	4.0 3.0 2.0 31.7	卵形	●表面に敲打痕あり		砂岩
図版42 22	D - 3 土括210 黑色粘質土層 (下層)	4.3(残存) 2.6(残存) 2.4 31.2	—	●わずかに敲打痕が認められる		石英質砂岩
図版42 23	C - 3・C - 4 間観察用断面 — 灰黒色粘質土層 (木片多し)	4.0 2.4 1.9 25.5	三角形			砂岩
図版6・42 24	F - 9 落ち込み 206 —	3.4 2.8 2.3 22.4	椭円形	●腰円錐		不明

投彈

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (m) (g)	長径 中径 短径 重量	中央断面	特 徴	備考 (石材)
図版42 25	E-7 西側觀察用断面 黑色粘質土層	4.0 2.6 1.4 23.1		橢円形		不明
図版42 26	C-4 落ち込み 214 黑色粘質土層 (上層)	4.0 2.1 1.5 19.9		橢円形		砂岩
図版42 27	E-4 青灰色砂層	3.1 2.7 2.3 25.5		橢円形		珪岩
図版43 28	E-7 暗黃灰色砂質土 層 (粘土まじり)	2.7 2.4 1.8 16.2		台形		花崗質砂岩
図版43 29	C-4 灰黒色粘質土層	3.3 2.5(残存) 2.2 22.7		不整な円 形		チャート
図版43 30	E-5 黑色粘質土層 (上層)	3.3 2.7(残存) 2.7 28.5		——		石英質砂岩
図版43 31	E-4 黑色粘質土層 (上層)	3.1 2.3 1.5 15.1		卵形		チャート
図版43 32	E-7 黑色粘質土層 (下層)	3.4 2.0 1.7 15.2		不整な円 形		砂岩
図版43 33	D-4 溝105 暗黃灰色砂質土 層 (粘土まじり)	3.1 2.0 1.5 12.2		不整な円 形		不明
図版6-43 34	E-6 黑色粘質土層 (下層)	3.4 2.5 2.1 22.7		円形		砂岩
図版43 35	E-4 黑色粘質土層 (上層)	3.6 1.9 1.5 15.0		橢円形		花崗質砂岩

投弾

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (m)	長径 中径 短径 重量 (g)	中央断面	特 徴	鑑 考 (石材)
図版43 1 36	E - 6 —— 暗黄灰色砂質土層 (粘土まじり)	3.1 2.2 1.5 13.4		橢円形		砂岩
図版43 37	E - 4 —— 黒色粘質土層 (上層)	3.2 2.3 1.7 16.6		橢円形	• わずかに敲打痕が認められる	砂岩
図版43 38	E - 3 —— 黒色粘質土層 (上層)	2.9 1.8 1.3 9.6		橢円形		砂岩

第3章 収穫具

本遺跡出土の収穫具としては、石庖丁、大型石庖丁、打製石庖丁などがある。

第1節 石庖丁（図版7～16・44～50-1～82）

本遺跡出土の石庖丁は、形態の判明しているもの、形態不明のもの、破片を含めて総数199点である。

石庖丁の使用石材は、粘板岩、緑泥片岩、泥岩、頁岩、花崗質砂岩、砂岩、石英粗面岩があり、割合については第7表石庖丁使用石材割合表(1)のとおりである。粘板岩、緑泥片岩を使用石材とするものが大部分であり、全体の75.9%を占める（粘板岩46.7%、緑泥片岩29.2%）。

石庖丁の形態分類については、はやく森本六爾氏により形態分類（I～刃部外彎式（庖丁型）、II～刃部直線式（中間型）、III～刃部内彎式（鎌型））がおこなわれ、以来小林行雄氏、石毛直道氏等多くの研究者によって行われてきた。

本報告においては、森本氏の形態分類を基本に背部と刃部の形から5形態に分類した。

I類-外彎刃半月形態

II類-長方形態

III類-杏仁形態

IV類-直線刃半月形態

V類-内彎刃半月形態

a) I類・外彎刃半月形態（図版7・44-1・2）

外彎刃半月形態の石庖丁の出土は、2点であり完形品ではなく全体の法量は不明である。（1）は、背部はやや丸みをもつ直線であり、刃部は両刃である。石材は泥岩。（2）は、背部は直線的であり、刃部は片刃である。紐孔は、半損した1孔が認められ、紐孔の横に未貫通の紐孔痕が残されている。石材は、粘板岩である。

b) II類・長方形態（図版7・8・9・44・45・46-3～22）

長方形態の石庖丁は、20点出土しており、内未製品3点を含んでいる。

この形態は、背部と刃部が直線的（やや彎曲するものもある）であり、両端部において側刃をつくり出したもの（II a類）と、背部と刃部が直線的ではあるがやや彎曲するものであり、端部が丸味をもつもの（II b類）に区分される。

i) II a類（図版7・8・44・45-3～17）

この形態は、未製品も合わせて14点出土している。

この形態の基本形は短冊形で、背部・刃部ともに直線的であり、両端部は研磨により面をもった側刃をつくり出している。ただし背部・刃部については、わずかに彎曲がみられるものもある。刃部は、両刃2点（13.3%）、片刃7点（46.7%）不明5点（40%－未製品を含む）である。

法量は、長さ及び重量については全てが欠損しているため不明であるが、幅3.6～5.2cm（平均4.4cm）、厚さ0.5～1.3cm（平均0.7cm）、紐孔間距離2.6～3.1cm（平均2.5cm）を測る。

未製品（15～17）については後述する。

ii) II b類（図版8・9・45・46-18～22）

この形態は、5点出土しており、完形品はない。

この形態は、橢円形に近い長方形であり、背部・刃部は直線的であるがわずかに彎曲するものがそのほとんどであって、両端部が丸みをもつものである。

刃部は、両刃3点(60.0%)、片刃2点(40.0%)である。

法量の長さ、及び重量については全て欠損しているため不明であるが、幅4.0~5.3cm(平均4.6cm)、厚さ0.6~0.7cm(平均0.7cm)、紐孔間距離1.9~2.6cm(平均2.3cm)を測る。火にあたっている石庖丁(18)もあり、これは表面の荒れが著しく調査等は不明である。

c) III類・杏仁形態(図版9~11・47~23~43)

杏仁形態の石庖丁は、21点出土しており完形品ではなく、未製品1点、再利用品1点がある。

杏仁形態の石庖丁は、背部・刃部が外彎し、両端部はとがりぎみのものが多い。この形態は、背部・刃部の彎曲の程度及び幅の広狭によりさらにもう少し細分が可能である。

刃部は、両刃3点(14.3%)、片刃17点(80.9%)である。

法量は、(43)を除き全て欠損しているため長さ及び重量については不明であるが、幅3.9~5.6cm(平均4.7cm)、厚さ0.6~1.2cm(平均0.8cm)、紐孔間距離1.5~2.7cm(平均2.1cm)を測る。

(43)は、片刃の石庖丁の再加工品と考えられる。体部は、縱方向に両面から擦り切により切断されており、現存長6.5cm、幅5.6cm、厚さ1.0cm、重さ61.7gを測る。全体の研磨は丁寧に施されている。背部は数回の研磨がみられ、段をもっており、刃部は研ぎ直しも認められる。

d) IV類・直線刃半月形態(図版12~15・47~50~44~77)

この形態の石庖丁は、34点出土しており、完形品1点、未製品1点が含まれる。出土数量では、本遺跡出土の石庖丁の内最多である。

直線刃半月形態は、刃部が直線的であり、背部が外彎するものである。この形態は、身幅の広狭により、さらに細分が可能である。

刃部は、両刃5点(14.7%)、片刃29点(85.3%)である。

法量は、(44・45)を除き全て欠損しているため長さ及び重量は不明であるが、幅3.6~6.0cm(平均4.5cm)、厚さ0.4~1.0cm(平均0.6cm)、紐孔間距離1.3~3.2cm(平均2.2cm)を測る。(44)は、長さ13.8cm、(45)は、15.4cmを測る。二次的に火を受けているもの(71)もある。

e) V類・内彎刃半月形態(図版15・16・50~78~82)

この形態の石庖丁は、5点出土しており完形品はない。

内彎刃半月形態は、背部が外彎し、刃部が内彎するものである。全体に身幅は狭く、(78)は刃部全体が大きく内彎するが、他の(79~82)の刃部はゆるやかな彎曲を呈している。刃部は、両刃1点(20.0%)、片刃4点(80.0%)である。

法量は、全て欠損しているため長さ及び重量については不明であるが、幅3.0~4.7cm(平均4.0cm)、厚さ0.4~0.9cm(平均0.6cm)、紐孔間距離1.3~6.0cm(平均2.8cm)を測る。

以上の他に、残存している部位は判るが、形態分類までに至らない破片が72点、残存している部位が不明なもの、研磨された面をもつ剥離片が45点出土している。

未製品については、5点出土している。形態別にみると、長方形態(II b類)3点、杏仁形態(III類)1点、直線刃半月形態(IV類)1点である。

(15)は、背部及び両端の側辺には一部研磨が加えられており、体部においても粗い研磨がみられ

る。刃部は横方向の研磨により両方に研ぎ出されている。(42) は、すでに背部、体部は研磨されており、刃つけの一階前のものである。

(16・17) は、原材から打撃によって大体の大きさに概形を整えたものである。
しかし、加工は粗く周辺のみであり、ステップ状剥離が認められ、体部には片理面が残されている。
(77) は(16・17) の一階後のもので周辺や体部両面を細かく加工調整したものである。

註

- (1) 森本六爾「石泡丁の諸形態と分布」『日本原始農業新論』 1934
- (2) 小林行雄「石泡丁」『考古学』第8巻第7号 1937
- (3) 石毛直道「日本植作の系譜」(上)(下)『史林』第51巻第5号・第6号 1968

第7表 石磨丁使用石材割合表(1)

種類	点数	%
粘板岩	93	46.7
緑泥片岩	58	29.2
泥岩	40	20.1
砂岩	3	1.5
頁岩	2	1.0
凝灰岩	2	1.0
石英粗面岩	1	0.5
計	199	100

第8表 石磨丁使用石材割合表(2)

種類	形式								計
	I類	IIa類	IIb類	III類	IV類	V類	形式不明	破片	
粘板岩	1	10	1	6	17	2	36	20	93点
	1.1	10.8	1.1	6.5	18.2	2.2	38.6	21.5	100%
緑泥片岩	0	4	2	10	12	1	12	17	58点
	0	6.9	3.5	17.2	20.7	1.7	20.7	29.3	100%
泥岩	1	0	2	4	3	1	22	7	40点
	2.5	0	5.0	10.0	7.5	2.5	55.0	17.5	100%
砂岩 (花崗質砂岩を含む)	0	0	0	1	1	0	1	0	3点
	0	0	0	33.3	33.3	0	33.3	0	100%
頁岩	0	1	0	0	1	0	0	0	2点
	0	50.0	0	0	50.0	0	0	0	100%
凝灰岩	0	0	0	0	0	0	1	1	2点
	0	0	0	0	0	0	50.0	50.0	100%
石英粗面岩	0	0	0	0	0	1	0	0	1点
	0	0	0	0	0	100	0	0	100%
合計	2	15	5	21	34	5	72	45	199点

石庖丁（外彎刃半月形態）・（長方形態）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (m) (g)	長さ 幅 穿孔間 隔 重量	石 材	特 徴	備 考
図版44 1	E-5 ... 黑色粘質土層 (下層)	4.6(残存) 4.5(×) 0.6 — 15.2	泥岩		<ul style="list-style-type: none"> 両刃で端部欠損 背面はやや丸みをもつ A面左下→右上、左右方向の研磨が認められる B面は縱方向の研磨が施されている 刃部は両面とも左右方向の研磨 刃先は若干磨滅 刃部横はやや不明瞭 	
図版7-44 2	D-7 ... 灰黒色粘質土層 (砂まじり)	6.8(残存) 4.4 0.9 — 34.7	粘板岩		<ul style="list-style-type: none"> 背部は直線的で刃線は外彎している片刃 A面は破損している部分をのぞいてはでていない研磨痕が全面にみられる B面の穿孔の上部にていねいな研磨痕がみられる 穿孔(半損)の横に末貫通の穿孔痕(0.15cm)が認められる 	
図版7-44 3	E-7 ... 灰黒色粘質土層 (木片多し)	9.7(残存) 4.7 0.8 2.5 64.0	頁岩		<ul style="list-style-type: none"> 片刃で刃部はやや彎曲ぎみ 両面に研磨のおよばない剥離面あり 刃部端部は研ぎ直しがみられる 刃先の一部に刃流れあり A・B両面とも全体に磨滅している 	
図版7-44 4	F-6 西側観察用断面 ... 黑色粘質土層 (上層)	8.6(残存) 5.1 0.5 — 36.5	粘板岩		<ul style="list-style-type: none"> 背面はほぼ平坦で、研磨されている 刃部は直線で、刃先には使用痕が認められる 片刃で、刃部横は明確である 端部は欠損 A・B両面ともに磨製ではあるが、両面に研磨が及ばない原石面がある 両面に剥離痕が認められる 穿孔1(欠損) 	
図版7-44 5	E-7 ... 黑色粘質土層 (下層)	8.4(残存) 4.6 0.6 2.0-2.3 48.5	練泥片岩		<ul style="list-style-type: none"> 片刃 背部が残存していないので不明だが、丸みをおびた長方形になる可能性あり 両面とも研磨によるが、研磨の及ばない敲打痕を残す箇所がある 背潰れで、刃部は刃こぼれあり A面に方向性をもつ磨滅痕 穿孔1(欠損) 	
図版7-44 6	E-7 ... 灰黒色粘質土層	8.1(残存) 3.6 0.5 2.5 25.6	粘板岩		<ul style="list-style-type: none"> 片刃で身幅が狭い長方形 背部はやや彎曲ぎみ B面右孔に粗擦れ痕あり 刃部は左右の研磨痕 刃先は細かな剥離により潰れ、そのエッジに背潰れ痕が著しい B面斜め方向の研磨痕 	
図版7-44 7	E-6 ... 淡灰黄色砂質土層	7.4(残存) 4.2(×) 0.7 — 31.2	粘板岩		<ul style="list-style-type: none"> 両面磨製 A面は研磨が及んでいない原石面がある B面には磨滅して見えにくくなった研磨痕がある 刃は破損しているが、わずかに外彎しているようである 背部は外彎し、中央はV型で端に行くほど丸みをおびている 背面に研磨痕と背潰れ痕あり 穿孔は半損1 	

石庖丁（長方形態）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (cm) 縦幅 横幅 厚さ (cm) 穿孔 数 重 量 (g)	長さ (cm) 縦幅 横幅 厚さ (cm) 穿孔 数 重 量 (g)	石 材	特 徴	備 考
図版7-44 8	D-5 西側觀察用断面 — 黑色粘質土層 (上層)	7.9(残存) 5.2 0.7 2.6 45.0	粘板岩		<ul style="list-style-type: none"> 両刃で刃部・背部はやや彎曲ぎみ A面に右上→左下、左上→右下、上下の研磨痕 A面左孔の右下及び右孔の左上に未貫通の穿孔痕あり B面に右上→左下の研磨痕 B面右孔の右に未貫通の穿孔痕あり B面右孔に経擦れ痕あり 	
図版8-44 9	E-8 — 灰黒色粘質土層 (砂まじり)	5.9(残存) 4.5 0.8 — 28.7	緑泥片岩		<ul style="list-style-type: none"> ていねいな磨製で研磨痕がみられるが、A・B両面に研磨の及ばない原石面がみられる 全体にわたって光沢をおびている 背面にも研磨痕がみられる 穿孔1 刃部に刃こぼれと使用痕が認められる片刃 わずかに粗擦れの痕跡がみられる 	
図版8-45 10	E-8 — 黑色粘質土層 (上層)	6.0(残存) 3.7 0.6 — 19.0	粘板岩		<ul style="list-style-type: none"> 背部・刃部が直線的 片刃 穿孔1(半損) A面は体部に敲打痕のため凹んでいるが研磨痕もみられる B面にも体部に敲打痕のため凹みがみられ、研磨も少しだがみられる 背部においては背張れが、刃部には刃こぼれが認められる 	
図版45 11	C-4 — 灰黒色砂質土層	6.0(残存) 3.5(〃) 0.5(〃) — 19.0	粘板岩		<ul style="list-style-type: none"> 完形で長方形を呈する 平面・側面はいずれもていねいに研磨が施されている 破損面も研磨 	再利用
図版8-45 12	C-3 — 黑色粘質土層 (上層)	6.6(残存) 4.4 0.6 3.1 26.1	緑泥片岩		<ul style="list-style-type: none"> 直線刃半月形態の可能性あり 刃部の形態は直線に近い片刃で刃こぼれがみられる 刃部縁は明確 背部の断面は丸みをおびているが、B面寄りがわずかに角張っている 背部はていねいに研磨されていて、研磨痕が残されている A・B両面とも、いろいろな方向からていねいに研磨されていて、全体に研磨痕がみられる 継輪の中央部(継輪の中央部)に完存した穿孔と、欠損した穿孔が一つづつあり、その間に3mmの未貫通の穿孔痕が2つ、1mmの未貫通の穿孔痕が1つある 	
図版45 13	E-8 溝100 暗黄灰色砂質土層 (粘土まじり)	4.7(残存) 5.0(〃) 0.8 — 29.6	粘板岩		<ul style="list-style-type: none"> 両面とも研磨が施されているが、研磨の及ばない片理面と剥離面が残存 背面、端部に研磨が施されている 刃先は純く、丸みをおびている 	
図版8-45 14	E-7 — 灰黒色粘質土層 (木片多し)	5.3(残存) 4.8(〃) 0.8 — 22.4	粘板岩		<ul style="list-style-type: none"> 背部は丸みがあり、刃も丸く研磨されている 両面磨削で、研磨方向はB面は特にさまざまである 研磨痕は全体に明確に残っている A面には研磨の及ばない剥離面もある 	

石磨丁（長方形態）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (cm) (g)	長さ 幅 厚 細孔間 距離 重量	石 材	特 徴	備 考
図版8-45 15	E-6 落ち込み 218 灰黒色粘質土層	12.7 4.6 0.7 — 70.0	粘板岩		<ul style="list-style-type: none"> ・背部は直線的で、刃部は浅く外彎している ・細孔はみられない ・両刃 ・A面においては破損している部分にも研磨痕が認められる ・B面もていねいな研磨痕 ・刃部には使用痕らしい痕跡がみられない 	未製品
図版45 16	D-5 — 黑色粘質土層 (上層)	10.4(残存) 4.1 1.3 — 78.4	練泥片岩		<ul style="list-style-type: none"> ・背部・刃部ともゆるやかに外彎する ・短い側邊をもち、角はゆるやかなカーブを描く ・両面とも凹凸を残すが、全面に研磨されている ・研磨痕は不明 	未製品
図版45 17	E-5 — 灰黒色砂質土層 (砂まじり)	8.0(残存) 4.3 1.0 — 57.4	粘板岩		<ul style="list-style-type: none"> ・背部・刃部ともまっすぐ ・端部は丸く收まるが、他方の端部は欠損 ・両平面とも片理面よりなる板状 ・周縁より打ち欠きを施す ・研磨されていない 	未製品
図版8-45 18	D-6 — 暗黃灰色砂質土層 (粘土まじり)	7.4(残存) 4.3 0.6 1.9 — 28.9	泥岩		<ul style="list-style-type: none"> ・両刃で刃部は彎曲ぎみ ・火にあたっている為、調整等不明 	
図版9-45 19	D-3 — 黑色粘質土層 (上層)	8.3(残存) 5.3 0.7 2.3 — 36.9	練泥片岩		<ul style="list-style-type: none"> ・背部は全体的に丸みをおび、断面はU形を呈する ・刃部もわずかに丸みをおびる ・両面に刃面をもつが、幅の広い方をA面とする、両刃 ・端部は比較的まっすぐになると思われる ・研磨痕は、背面とA面は一部、B面は全体的に認められるが、A面体部中央斜めに走る状線は石理か？ ・穿孔は、両面より穿っている ・孔は計3つ残っているが、完存2つが対をなし、さらにもう1つ（半損）と対をなす孔が欠損部分にあつたと思われる 	
図版9-46 20	D-4 — 灰黒色粘質土層 (砂まじり)	8.6(残存) 4.9 0.7 2.3 — 50.8	粘板岩		<ul style="list-style-type: none"> ・両刃で、刃部・背部ともやや彎曲 ・4ヶ所の穿孔あり ・刃部は研ぎ直しがみられる ・刃先からB面にかけての磨滅あり ・B面左2ヶ所の穿孔に紐擦れ痕あり ・A面左下→右上、左右方向の研磨がみとめられる ・B面全体に磨滅 	
図版9-46 21	D-5 — 黑色粘質土層 (上層)	9.3(残存) 4.4 0.7 2.6 — 49.9	泥岩		<ul style="list-style-type: none"> ・片刃で、刃部・背部ともやや彎曲ぎみ ・刃面は研ぎ直しがみられる ・刃先に刃潰れあり ・両面とも磨滅している 	

石庖丁（長方形態）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) 幅 厚 孔間 距 重量 (g)	長さ (mm) 厚 孔間 距 重量 (g)	石材	特 徴	備 考
図版9-46 1 22	E-8 — 灰黒色砂質土層	5.6(残存) 4.0 0.7 2.6 25.3	4.0 0.7 2.6	砾泥片岩	<ul style="list-style-type: none"> 片刃で背部は彎曲ぎみ 刃部は左右の研磨がみられる B面に左上→右下、左右の研磨痕あり 刃先からB面にかけての磨滅あり 	

石庵丁（杏仁形態）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) 重量 (g)	長さ 幅 厚 穿孔間 隔 差 重量	石　材	特　徴	備　考
図版9・46 23	E - 6 — 灰黒色砂質土層 (砂まじり)	9.4(残存) — 4.1 0.6 2.7 35.7	縫泥片岩		<ul style="list-style-type: none"> 片刃で身幅は狭く、刃部は直刃に近い外彎刃 刃部は研ぎ直しがみられる 刃先からB面にかけて研磨あり B面左下→右上方向の研磨あり 	
図版9・46 24	D - 5 — 黑色粘質土層 (上層)	8.2(残存) — 5.3 0.8 2.5 56.9	縫泥片岩		<ul style="list-style-type: none"> 片刃で両面とも研磨のおよばない剥離面あり 両面とも磨滅あり 刃先からB面にかけて磨滅あり B面右縫孔の上に末貫通の穿孔痕あり 身幅は広い 	
図版9・46 25	B - 4 — 灰黒色粘質土層	9.4(残存) — 5.6 0.7 2.1 58.9	縫泥片岩		<ul style="list-style-type: none"> 片刃で両面とも研磨のおよばない剥離面あり 刃先からB面にかけて磨滅あり 両面とも磨滅あり B面右縫孔に紐擦れ痕あり 身幅は広い 	
図版9・46 26	F - 6 — 黑色粘質土層 (上層)	10.4(残存) — 4.7 0.9 1.9 63.9	粘板岩		<ul style="list-style-type: none"> 片刃で背部に背潰れ痕あり 両面とも乱方向の研磨あり 刃部に研ぎ直しがある 片理を多く残す 	
図版10・46 27	D - 5 — 黑色粘質土層 (下層)	7.8(残存) — 4.8(〃) 0.7(〃) 2.0 36.9	粘板岩		<ul style="list-style-type: none"> 両刃で刃部はなだらかである 刃部は使用痕あり 背部は外彎し、断面は丸みを帯び、研がれている 内面磨製 A面は色々な方向から研磨し、B面は右上→左下方向の一方向である A面においては剥離面が残り、一部に研磨痕がみられる A面に縫孔、右側に紐擦れ痕あり 穿孔2 	
図版10・46 28	E - 7 西側觀察用断面 — 黑色粘質土層 (上層)	11.0(残存) — 5.2 1.2 — 72.9	花崗質砂岩		<ul style="list-style-type: none"> 両刃で穿孔なし 刃部と背部に背潰れ痕あり、特に背部で著しい 両面とも磨滅あり 	
図版10・46 29	F - 6 — 青灰色砂層 (黒ブチまじり)	11.9(残存) — 5.5 0.8 2.6 89.6	泥岩		<ul style="list-style-type: none"> 片刃で背部に背潰れ痕あり 両面に磨滅あり 刃先からB面にかけて磨滅あり B面右孔に紐擦れ痕あり 	

石磨丁（杏仁形態）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) — —	長さ 幅 厚 (mm) — —	石材	特徴	備考
図版10・46 30	C-4 — 黑色粘質土層 (上層)	5.4(残存) — 3.4(×) 0.8 — 30.8	粘板岩		<ul style="list-style-type: none"> 片刃 背部には剥離を伴う背溝れ痕が認められる 刃部は破損のため不明である 刃部には使用痕および刃部稜が明確である A・B両面とも磨製であるが、研磨がおよばない原石面がある 両面とも穿孔付近に敲打痕らしきものが認められる 穿孔1、A面に末貫通の穿孔痕 	
図版10・46 31	D-4 — 黑色粘質土層 (上層)	9.2(残存) — 4.2 0.7 1.7 31.3	粘板岩		<ul style="list-style-type: none"> 片刃 A面には大きな剥離があり組孔穿孔の後剥離 刃先からB面にかけて磨滅あり A面左下→右上、上下方向の研磨痕あり 	
図版10・47 32	D-5 — 黑色粘質土層 (下層)	7.5(残存) — 4.0(×) 0.6(×) — 29.0	粘板岩		<ul style="list-style-type: none"> 背部、刃部とともに外彫し、端部が尖っている 両面とも研磨されているが、磨滅している部分がみられる 背部にはていねいな研磨痕がみられ、使用痕も認められる 刃部にも使用痕がみられ、刃部稜には再加工したと思われる棱線が認められる 片刃 穿孔なし 	
図版10・47 33	C-4 — 灰黑色粘質土層	10.5(残存) — 4.7 0.7 1.9 56.2	練泥片岩		<ul style="list-style-type: none"> 片刃で身幅は広く、浅い外彫刀で組孔は背寄りにある A面左組孔右に未貫通の穿孔痕あり 両面とも磨滅あり 刃先の一部に刃溝れあり 両面とも研磨のおよばない剥離面あり 	
図版11・47 34	F-7 南側觀察用断面 — 黑色粘質土層 (下層)	8.8(残存) — 4.7 0.6 1.5 42.7	練泥片岩		<ul style="list-style-type: none"> 両面とも磨製で片刃 刃部はA面のみ研ぎ直し 背面は丸みをもつが、端部で一部平坦面をもつ 両面とも磨耗して背部では光沢をもち、B面は著しい A面背部には研磨のおよばない原石面 刃部縁には磨耗痕と刃こぼれがある 穿孔2(欠損) 	
図版11・47 35	C-6 — —	7.8(残存) — 4.9(×) 0.8(×) — 41.2	練泥片岩		<ul style="list-style-type: none"> 片刃で刃は鋭く、刃こぼれと刃に直角の磨滅痕がみられる 背部は外彫、刃部は直線ぎみ 両面とも研磨されているが、研磨痕はあまり認められない 背部もていねいにU型に研磨されている 穿孔なし 	
図版11・47 36	D-5 — 黑色粘質土層 (上層)	6.4(残存) — 3.9 0.6 — 22.8	練泥片岩		<ul style="list-style-type: none"> 片刃で端部は鋭さがなく、端部にいくにつれてすくくなる 刃先に刃溝れ痕あり A面は上下、左下→右上方向の研磨痕あり 刃部に研ぎ直しあり 	

石庵丁(杏仁形態)

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (m) 長さ 幅 厚 細孔開 露 重量 (g)	材 石	特 徴	備 考
図版11-47 37	D-8 落ち込み 12 黒灰色粘質土層	5.2(残存) 3.8(〃) 0.4(〃) — 10.0	粘板岩	<ul style="list-style-type: none"> ・端部のみ ・A面は剥離しているが片刃 ・両面磨製、但し研磨痕は不明 ・刃部にわずかな凹みが見られるか、使用によるものかどうかは不明 ・B面にわずかな凹み ・穿孔なし 	
図版47 38	C-5 — 黒色粘質土層 (上層)	3.8(残存) 3.8(〃) 0.8(〃) — 14.7	練泥片岩	<ul style="list-style-type: none"> ・片刃 ・背部は彎曲し、刃部はやや外彎き ・端部は欠損後削減している ・両面とも研磨を施す ・背面に研磨が認められる ・刃部に左下→右上の方向性をもつ研磨痕が認められる ・刃先は丸く磨滅する ・刃部棱は明確に認められる ・穿孔なし 	
図版47 39	E-5 構 238 黒灰色粘質土層	5.5(残存) 3.7(〃) 0.6(〃) — 14.9	練泥片岩	<ul style="list-style-type: none"> ・片刃 ・背部は彎曲して端部に至る ・細孔は背寄りに位置する ・端部先端に若干の打ち欠き痕あり ・両面とも研磨を施す ・背面に研磨あり ・刃部棱は明確 ・刃先に若干の刃潰れ ・穿孔1(欠損) 	
図版11-47 40	C-4・D-4 間観察用断面 — 白灰色砂層	5.3(残存) 5.0(〃) 0.5(〃) — 14.0	泥岩	<ul style="list-style-type: none"> ・端部のみが杏仁形になると思われる ・両面とも研磨による調整だが、研磨痕は不明瞭 ・B面上面にわずかな凹みがみられる ・穿孔不明 ・刃部は丸みをおびる 	
図版11-47 41	E-7・E-8 間観察用断面 — 暗黃灰色砂質土層 (粘土まじり)	8.5(残存) 4.6(〃) 1.2 — 50.7	泥岩	<ul style="list-style-type: none"> ・楕円、杏仁形態と思われる ・端部・背部は破損のため不明であるが、肩部刃部が同じ位に外彎している ・肩部はやや平坦な面をなしている ・刃部は両刃ぎみて刃部棱は比較的明確である ・刃面には何度も研ぎ直しを施した痕跡があり、刃先には使用によるものと思われる刃こぼれと磨滅痕が残る ・A・B両面とも研磨痕及び端部付近に敲打痕が認められる ・穿孔なし 	
図版47 42	E-6 落ち込み 218 灰黑色粘質土層	6.2(残存) 3.9 0.7 — 20.0	泥岩	<ul style="list-style-type: none"> ・片刃 ・2分の1欠損 ・端部をつまみ状につくり出す ・両面の背部・刃部に調整剥離 ・穿孔なし 	未製品
図版11-47 43	F-8 — 灰黑色砂質土層 (砂まじり)	6.5(残存) 5.6 1.0 — 61.7	練泥片岩	<ul style="list-style-type: none"> ・片刃の石庵丁の再加工品 ・体部半分をすり切りにより切断 ・元の刃部には左下→右上方の研磨痕あり ・刃部は研ぎ直しがみられる ・B面に乱方向の研磨痕あり ・背部にも研磨痕がみられる 	

石刀丁(直線刃半月形態)

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 距離 孔距 重量	石 材	特 徴	備 考
図版12-47 44	E-4 西側観察用断面 — 黑色粘質土層 (上層)	13.8 3.7(残存) 0.7 2.3 56.0	泥岩		<ul style="list-style-type: none"> 片刃 調整は両面とも研磨により、一部研磨痕を残す 背潰れ、刃潰れが著しい A面に研磨痕を残す浅い凹みと道具による傷跡のようなものがある 両面とも一部敲打痕が残る 穿孔2 	
図版12-48 45	E-9 — 灰黒色砂質土層 (砂まじり)	15.4 4.0 0.7 1.3 59.6	粘板岩		<ul style="list-style-type: none"> 片刃 身幅の狭い形態 両面とも研磨の及ばない剥離面あり 刃部は研ぎ直しがみられる 刃部は左右方向の研磨痕あり 刃先は刃潰れ痕、背部は背潰れ痕がある A面左孔の左に未貫通の穿孔痕あり B面左孔に絆擦痕あり 	
図版12-48 46	E-6 — 灰黒色粘質土層 (砂まじり)	14.9(残存) 4.1 0.9 2.1 89.9	頁岩		<ul style="list-style-type: none"> 片刃 身幅の狭いタイプ 刃部後明瞭 両面とも研磨のおよばない剥離面あり 火にあたっている 両面の孔に粗擦れ痕あり 	
図版12-48 47	ZZ — —	10.5(残存) 4.2 0.9 2.5 55.5	縁泥片岩		<ul style="list-style-type: none"> 片刃 背部は全体的に丸みを帯びている 刃部はやや内彎きであり刃こぼれがみられる。刃部後は明瞭であり、刃面において若干の研ぎ直しが認められる 背部には若干の研磨及び背潰れ痕が認められる A・B面ともに磨製ではあるが両面研磨が及ばない原石面か、あるいは製作時における敲打痕らしきものが認められる 穿孔1(完存) ヶ1(欠損) B面に未貫通孔1 	
図版48 48	C-5 西側観察用断面 — 灰黒色粘質土層	8.9(残存) 3.5(ヶ) 0.8 — 31.3	粘板岩		<ul style="list-style-type: none"> 両刃ぎみ片刃で身幅の狭い形態 紐孔は背寄りでA面より敲打後、穿孔されている 背面に背潰れ痕の後、研磨が施され丸みを帯びている 刃先には刃潰れが認められ刃部の潰れ痕に研磨がみられる A面右端部付近に右上-左下方向に研磨痕がみられ、ヶ所に敲打痕が残る 刃部後は明瞭であり、刃面には横方向の研磨痕が残る B面左端部に横方向の研磨痕が残存し中央部に敲打痕が残る 刃部後はほぼ明瞭であり、刃面には横方向と右上-左下方向に研磨が施されている 穿孔1(欠損) 	

石庖丁（直線刃半月形態）

国版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (m) — —	長さ 幅厚 縦孔距 離重量 — — — 22.2	石 材	特 徴	備 考
国版12-48 49	D-10 — 黑灰色粘質土層	8.0(残存) 3.8 0.5 —	粘板岩		<ul style="list-style-type: none"> 片刃、稜線はほぼ明確 刃部は直線、背部はわずかに外彎しているので身幅の狭い形態 刃部には使用痕があり、背部の断面は丸みをおび、使用痕または研磨痕がある 端部は破損して不明 両面研磨痕がみられる 穿孔2 完存1 欠損1 (わずかに残るぐら) 	
国版12-48 50	C-3 北側觀察用断面 — 黑色粘質土層 (上層)	9.3(残存) 5.3 0.5 2.0 31.1	粘板岩		<ul style="list-style-type: none"> 両刃で身幅の広い形態 縦孔はごく背寄りの左側に寄った左下かりに位置する A面は全体に研磨痕が明確であり、右上→左下方向、体部下方では左右方向、刃面は上下方向の研磨と若干の左右方向の研磨痕がみられる B面は刃面に右上、左下の研磨がみられる 	
国版13-48 51	D-9・E-9 間觀察用断面 — 暗黄灰色砂層	9.0(残存) 5.3 0.7 2.0 55.0	粘板岩		<ul style="list-style-type: none"> 両刃 身幅の広い形態 刃部に左右方向の研磨痕あり 刃先には刃潰れ痕あり B面両孔に縦擦れ痕あり 背部に研磨痕あり B面に研磨の及ばない剥離面あり 	
国版13-48 52	D-3 — 黑色粘質土層 (上層)	8.0(残存) 4.9 0.5 2.7 35.1	粘板岩		<ul style="list-style-type: none"> 片刃で刃部左右方向のあらい研磨痕あり B面に左下→右上方向の研磨痕あり 両面とも研磨のおよばない剥離面あり 	
国版13-48 53	E-7 溝 24 暗黄灰色砂層	8.0(残存) 4.8 0.8 2.0 51.9	綠泥片岩		<ul style="list-style-type: none"> 片刃で両面とも研磨のおよばない剥離面あり 刃部後明確 B面両孔とともに縦擦れ痕あり B面上下方向の研磨痕あり 	
国版13-48 54	C-4 — 黑色粘質土層 (上層)	7.6(残存) 6.0() 0.6 1.8 36.1	綠泥片岩		<ul style="list-style-type: none"> 片刃 背部は全体的に丸みがある A面・B面・背部とも風化のために、A面一部分のみに研磨痕がみられる 穿孔は両面より穿っている 穿孔2 (完存1、半損1) 	
国版13-48 55	D-6 — 明灰黑色砂質土層	7.1(残存) 4.9 0.6 — 31.9	粘板岩		<ul style="list-style-type: none"> 両刃 背部には若干の背潰れ及び研磨痕が認められる A面は端部付近に敲打痕 B面中央部に原石面が認められる 両面とも磨製であるが、両面に研磨が及ばない箇所がある 刃部には使用痕、研磨痕が認められ刃部縁は明確であり、A面においては研ぎ直しが認められる 穿孔は不明である 	

石磨丁（直線刃半月形態）

図版番号	出上地区名 遺構名 層位名	法量 (m) — —	長さ 幅厚 — — 30.8	石 材	特 徴	備 考
図版13-49 56	E-10	5.6(残存) — 5.1 0.8 —	縫泥片岩		<ul style="list-style-type: none"> • A・B面とも研磨 • 両面に研磨の及ばない原石面がある。端部は欠けているが摩耗の為欠損したのかは不明 • 両面に磨耗によると思われる傷がある • B面に著しい背潰れ痕と刃潰れ痕がある • 背面は平坦だが端部において丸みを帯び光沢をもつ • 刃先からB面にわたる磨滅痕残る • B面には研ぎ直しによる横方向の傷がある • 穿孔1(欠損) • やや両刃っぽい片刃 	
図版13-49 57	D-3	6.3(残存) — 4.7 0.7 — 30.8	粘板岩		<ul style="list-style-type: none"> • 片刃 • 両面とも研磨のおよばない剥離面あり • 身幅の広いタイプ • 刃先からB面にかけて磨滅あり • 刃部に刃潰れ痕あり 	
図版14-49 58	D-3	10.1(残存) — 4.2 0.7 — 2.6 — 44.8	粘板岩		<ul style="list-style-type: none"> • 片刃 • 身幅の狭いタイプ • 刃部に刃潰れ痕あり • 両面とも研磨のおよばない剥離面あり • 体部中央で斜めにすり切りがおこなわれている • 刃部に左右方向のあらい研磨痕あり • B面に左下→右上方向の研磨痕あり • B面の孔に紐擦れ痕あり 	
図版14-49 59	C-3	8.7(残存) — 3.7(タ) 1.0 — 37.4	泥岩		<ul style="list-style-type: none"> • 片刃 • 刃部及び背部とその周辺のみ研磨痕あり • 刃部は左右方向のあらい研磨痕あり • 刃先からB面にかけて磨滅あり 	
図版14-49 60	F-8	7.5(残存) — 4.6(タ) 0.6 — 2.0 — 42.7	粘板岩		<ul style="list-style-type: none"> • A・B面とも丁寧な磨製 • 両面とも研磨の及ばない原石面または敲打痕がある • 端部にフラットな面があり研磨の可能性があり、破損面も同様にフラットである • 背潰れ痕と刃潰れ痕が著しく、背部では穿孔箇所まで達している • 穿孔2(うち欠損1) • B面に未貫通の穿孔痕2 	
図版14-49 61	E-7	8.4(残存) — 4.0(タ) 0.7(タ) 2.0 — 25.2	粘板岩		<ul style="list-style-type: none"> • 両刃ぎみの片刃で綾はなだらかである • 背部は平坦面をもち端部において丸みを帯びる • 両面研磨され、ともに研磨下の敲打痕をもつ • 刃部には使用による刃こぼれ、磨滅痕が残る • 細孔B面には紐擦れ痕のこる • 穿孔2(完存) 	

石庖丁（直線刃半月形態）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 孔間 厚 重 量	石 材	特 徴	備 考
図版14・49 62	F - 6 Pit 235 黒色粘質土層 (上層)	10.2(残存) 2.7(×) 0.5(×) — 17.1	粘板岩		<ul style="list-style-type: none"> ● 背部は端部の一部分しか残存していないが、研磨がほどこされており研磨痕が認められる。断面はやや角ばっている ● B面は全体に光沢をおびている ● 両刃ぎみで刃部縁は端部ほどならか ● A・B両面ともに敲打痕、あるいは原石面と思われるものがある ● 刃部に刃こぼれ及び使用痕が残されている ● 穿孔なし 	
図版14・49 63	C - 4 落ち込み 214 灰黑色粘質土層	4.4(残存) 5.1 0.9 3.2 22.8	泥岩		<ul style="list-style-type: none"> ● 片刃 ● 身幅の広い形態 ● 刃部に左右方向の研磨痕あり ● 両面とも上下、左ドーライト方向の研磨痕あり ● 刃先よりB面にかけての磨滅あり ● 刃先に刃潰れ痕あり 	
図版14・49 64	F - 8 西側觀察用断面 溝 240 灰黑色粘質土層 (木片多し)	5.9(残存) 4.4 0.7 — 24.1	粘板岩		<ul style="list-style-type: none"> ● 片刃で刃部縁は明確 ● 背部は残存部全面、平坦部をもち光沢をおびる ● A・B面とも研磨 ● A面は刃面の一部を除いて剥離しているが使用により磨耗している ● B面はA面より面のこりはよい ● 刃部においては使用による磨滅、刃潰れ、擦り切れ痕のこる ● 背部にも背潰れ痕、磨滅痕のこる ● 穿孔1(欠損) 	
図版14・49 65	E - 8 — 暗黃灰色砂層	7.7(残存) 4.9 0.7 2.1 24.6	粘板岩		<ul style="list-style-type: none"> ● 片刃 ● 背部は丸みを帯び、断面は円形を呈し、刃先もわずかに丸みがみられる ● 刃部はまっすぐで彎曲しない ● 端部は欠損し剥がれ易くなっている ● A面・B面とも磨製、A面の一部に製作時の敲打痕がみられる ● 粗孔は両面より穿っている ● 穿孔2(内1つは半損) ● 未貫通の穿孔痕1(B面) 	
図版15・49 66	F - 8 西側觀察用断面 — 暗黃灰色砂層	6.0(残存) 4.3(×) 0.6(×) — 22.8	綠泥片岩		<ul style="list-style-type: none"> ● 背部は丸みを呈し、上部はフラットな面 ● 刃部は端で丸みをおびると思われるが、直線的な片刃 ● 端部は破損 ● 両面とも研磨されているが、研磨のおよばない所もある ● 刃部の刃こぼれと磨耗が著しい ● 穿孔1(両面より) + 未貫通の穿孔痕(A面) 	
図版49 67	E - 6 — 黒色粘質土層 (上層)	5.7(残存) 4.1(×) 0.6(×) — 21.4	綠泥片岩		<ul style="list-style-type: none"> ● 片刃で身幅の狭い形態 ● 背部はやや彎曲ぎみでわずかに背潰れ痕あり ● 両面とも研磨を施しているが、研磨のおよばない片理面が残存 ● 背・刃面に研磨が認められる ● 刃部縁は明確である ● 刃先に若干の刃こぼれ ● 穿孔1(欠損)あり、背寄りに位置する 	

石磨丁(直線刃半月形態)

国版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) 長 幅 厚 組孔 重 量 (g)	長 さ 幅 厚 組孔 重 量 (g)	石材	特徴	備考
国版15-49 68	D-3 黒色粘質土層 (上層)	5.9(残存) 3.8(×) 0.7(×) — 25.1	緑泥片岩		<ul style="list-style-type: none"> 身幅の狭い形態 組孔は身幅の中央よりやや下にある 刃部はまっすぐで彎曲しない片刃 背部は外彎 両面とも研磨が施されているが、一部研磨の及ばない原石面がみられる 刃部は鋭い 背面の断面は丸みをおびていて、端部にむかうほど薄くなり尖りぎみになる 背面にも研磨痕があり、刃こぼれのような使用痕がある 刃部にも刃こぼれがみられる 穿孔1(欠損) 	
国版15-49 69	E-6 — 灰黑色粘質土層	6.4(残存) 3.5(×) 0.6(×) — 18.5	緑泥片岩		<ul style="list-style-type: none"> 片刃で刃先からB面にかけて磨滅あり 刃先に刃流れ痕あり A面に左右方向の研磨痕あり B面に左下→右上方向の研磨痕あり 	
国版15-49 70	E-6 — 灰黒色砂質土層 (砂まじり)	7.3(残存) 4.6 0.7 — 41.8	緑泥片岩		<ul style="list-style-type: none"> 片面で身幅の広いタイプ 両面とも研磨のおよばない剥離面あり 刃部は左下→右上方向の研磨痕あり B面刃部付近左右方向の粗い研磨度あり 刃先に刃流れ痕あり B面孔に粗擦れ痕あり 	
国版15-49 71	D-3 — 暗黄灰色砂質土層 (粘土まじり)	6.1(残存) 3.6 0.5 2.4 22.9	緑泥片岩		<ul style="list-style-type: none"> 磨製 両面とも研磨痕が認められる 穿孔2(欠損)、火を受けている 片刃 	
国版15-50 72	B-5 — 暗黄灰色砂質土層 (粘土まじり)	5.9(残存) 3.4(×) 0.7 18.4	緑泥片岩		<ul style="list-style-type: none"> 片刃で刃部後はなだらかでやや直線刃ぎみ 背部、端部は破損して不明 刃こぼれがみられる 両面とも磨製だが研磨痕は刃部に少々あるだけではなくみられない 両面に敲打痕と思われる所がある 穿孔1(完存) 	
国版15-50 73	C-6 — —	5.1(残存) 3.6 0.5 — 10.9	粘板岩		<ul style="list-style-type: none"> 片刃で刃部は鋭さを保っている 刃こぼれがみられる 刃部縁は比較的明確 全体に光沢をおびている 背側が少しめらか 両面とも様々な方向からていねいに研磨されている 背部は丸みをおび、ていねいに研磨されているが研磨痕は認められない 刃部に研ぎ直しがみられる 穿孔なし 	

石庖丁(直線刃半月形態)

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅厚 孔間 直角 度	石 材	特 數	備 考
図版15-50 74	D-3 黒色粘質土層 (上層)	4.5(残存) 3.6 0.4 — 11.1		粘板岩	<ul style="list-style-type: none"> ・背部は丸みをおび、端部は両側とも破損している ・片面磨製で片刃 ・刃部には研磨痕が残っている ・A面上部は剥離しているが再度磨かれている ・B面は平らになっている ・刃部後は明確 ・穿孔1(欠損) 	
図版15-50 75	F-8 西側観察用断面 — 暗黄灰色砂層	5.2(残存) 3.5(〃) 0.6 — 18.5		粘板岩	<ul style="list-style-type: none"> ・背部は外彫し、端部は破損 ・片刃で刃は鋭く一部分のみ残存 ・刃部稜様は明確 ・研磨痕もきれいに残っている ・両面磨製で背部断面山型でていねいに研磨されている 	
図版15-50 76	F-8 西側観察用断面 溝240 灰黒色粘質土層 (木片多し)	7.4(残存) 3.8(〃) 0.7 — 26.3		綠泥片岩	<ul style="list-style-type: none"> ・背部は外彫し、端部は破損している ・両刃で刃部後は明確 ・刃部には研磨痕が残っている ・刃全体に使用痕(刃こぼれ)がみられる ・背部断面は丸みをおび、ていねいに研磨されていて両面磨製である ・B面体部に敲打痕がみられる ・穿孔1(半損) 	
図版50 77	C-4 — 黒色粘質土層 (上層)	6.4(残存) 5.0 0.8 — 33.9		砂岩	<ul style="list-style-type: none"> ・2分の1欠損 ・片刃で0.9cm幅の刃面 ・背部に2ヶ所凹みがある 	未製品

石唐丁(内層刃形態)

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (m) (g)	長さ 幅 孔間 距離 重量	石 材	特 徴	備 考
国版15・50 78	B-5 灰黑色粘質土層	8.9(残存) 4.2 0.6 2.1 41.1	石英粗面 岩		<ul style="list-style-type: none"> 片刃で身幅の狭い形態 両面ともに研磨の及ばない剥離面あり 刃先は全て刃流れ痕あり 刃先には研ぎ直しによる狭い軸の面がつくられている B面両孔に紐擦れ痕あり 	
国版16・50 79	E-6 淡灰黄色砂質土層	6.8(残存) — 3.9 0.8 2.3 30.2	綠泥片岩		<ul style="list-style-type: none"> 身幅の狭い形態 紐孔は身幅の中央よりやや下にある 刃部はやや内彎ぎみで背部は外彎ぎみ 両面とも全体にわたって研磨痕が認められ、光沢をおびている 背面は丸い 刃部後は明瞭 やや両刃ぎみ 背部に研磨痕がある B面に紐擦れのあとが認められる 刃部に刃こぼれあり 敲打痕がある 穿孔1(欠損) 	
国版16・50 80	D-4 南側観察用断面 — 淡黄灰色砂質土層	9.4(残存) 4.7 0.7 2.5-6.0 50.4	粘板岩		<ul style="list-style-type: none"> 片刃 刃部後線は明確 穿孔は扁平な円形 刃先に刃流れ痕あり A面に研磨の及ばない剥離面あり B面に末貫通の穿孔痕あり 両面とも磨滅により光沢をもつ 	
国版16・50 81	D-5・D-6 間観察用断面 — 暗黄灰色砂層	7.4(残存) 3.0 0.9 1.3 29.9	泥岩		<ul style="list-style-type: none"> 片刃で身幅が狭い 両面ともていねいに研磨されている 背部に背流れ痕が認められる 刃部は刃こぼれが激しい 紐孔は両面より直接穿孔 紐孔の位置は背寄り 背部は丸みをおびている 穿孔1(完存) 〃1(半損) 	
国版16・50 82	D-3 — 黒色粘質土層 (上層)	4.0(残存) — 4.6 0.4 — 11.1	粘板岩		<ul style="list-style-type: none"> 片刃で身幅は狭い 刃は内彎、背部は直線ぎみ 背部はV型でていねいに研磨されている。研磨痕も認められる 刃部後は明確 A面半分は剥離している 厚みが比較的うすい方 	

石庖丁（形式不明）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (w) (g)	長さ 幅厚 縫孔間 距離	石 材	特 微	備 考
岡版50 83	D-7 — 灰黒色粘質土層	5.0 3.9 0.7 — 20.7	縫泥片岩		<ul style="list-style-type: none"> ● 背部が左側面にあたり、肩部に刃部がある ● 基端、左側面寄りに穿孔を留め、穿孔製作時ににおける敲打痕が認められる ● 破損後、若干ではあるが研磨を施し、整形したものであり、左側面の隅の角が落され丸みをおびている ● 平面はほぼ台形で、断面は左側面がやや丸みをもつ扁平な長方形状を呈する ● 両側面とも研磨痕が認められる ● 基端右寄りが一番厚く、刃部にむかって薄くなる ● 刃部彼は明確であり、刃面には研磨、刃先には使用による刃こぼれがあり、先端は丸く磨滅している ● 両面とも磨製 	扁平片刃石斧に転用
岡版50 84	D-4 — 黑色粘質土層 (上層)	7.4(残存) 5.3(〃) 0.6(〃) 2.0 36.7	縫泥片岩		<ul style="list-style-type: none"> ● 両刃で刃部後はなだらか ● 端部・背部・刃部の周囲が破損 ● 両面とも磨製であり、敲打痕もみられる ● 研磨痕が、B面左下方向にみられ、B面左側面が再加工されているので、再使用されたと思われる ● 再加工の部分で1.2cmほどの凹みができる ● 穿孔2(完存) 〃1(破損) 	
岡版50 85	B-4 — 灰黒色粘質土層	7.3(残存) 3.7(〃) 0.9(〃) — 29.9	粘板岩		<ul style="list-style-type: none"> ● 両面ともに研磨の及ばない剥離面あり ● A面に左下→右上方向の研磨痕あり 	
岡版50 86	D-6・E-6 間観察用断面 — 灰黒色砂質土層	3.6(残存) 5.5(〃) 1.0(〃) — 25.6	粘板岩		<ul style="list-style-type: none"> ● 両面とも磨製 ● B面はていねいな研磨が施されているが、A面には研磨の及ばない原石面がみられる ● 背面に研磨痕あり ● 刃部B面に大きな刃こぼれがある ● 穿孔1(完存) 末貫通の穿孔痕1 	
岡版50 87	D-9 — 黑色粘質土層 (上層)	5.9(残存) 4.2(〃) 5.5(〃) 1.7 18.0	粘板岩		<ul style="list-style-type: none"> ● 背部は平坦ぎみで断面はW形を呈する ● 刃先は残存率が少ないが両刃ぎみである ● A面は全体に研磨痕が認められる ● 背面においては背済れ痕がみられ、研磨もされている ● B面には製作時の敲打痕がみられ、研磨されていない所もある ● B面の左端の縫孔には縫擦れが認められる ● B面は使用中に剥離した所を再加工し、再利用している ● 穿孔2(完存) 〃1(半損) 	

石磨丁(形式不明)

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 孔間距離 重量	石 材	特 徴	備 考
図版50 88	E-3 — 黑色粘質土層 (上層)	3.9(残存) 3.5(×) 0.7(×) — 10.9	粘板岩		<ul style="list-style-type: none"> 端部は破損のため不明であるが、背部は外彎し、刃部がほぼ直線的である 片刃ぎみで刃部後は比較的明確である 刃先には使用による刃こぼれが認められる 両面には研磨痕(B面は若干の研磨、原石面)及び破損面か剥離痕が認められる 穿孔1(半損) 	
図版50 89	E-5 — 黑色粘質土層 (上層)	4.7(残存) 2.9(×) 0.6(×) 1.7 9.8	泥岩		<ul style="list-style-type: none"> タイプは幅狭直線刃又は杏仁形態の可能性あり 刃部およびB面残存せず A面研磨され背部には背潰れ痕残る 片刃と思われる 穿孔1(完存) × 1(欠損) 	
図版50 90	D-3 — 暗黄灰色砂質土層 (粘土まじり)	10.6(残存) 4.3 0.6 — 30.4	綠泥片岩		<ul style="list-style-type: none"> 両面とも片理面からなる薄い板材の周縁に打ち欠きを施して成形 背部、刃部にわずかに研磨が施されている 	未製品
図版51 91	D-6 — 暗黄灰色砂質土層 (粘土まじり)	5.4(残存) 2.7(×) 0.7(×) 1.7-1.2 14.0	粘板岩		<ul style="list-style-type: none"> 直線刃 両面とも研磨度を明瞭に残すが研磨が及ばず、敲打痕を残す所もある 刃が一部すりへっている(凹んでいる) 穿孔1(完存) × 2(半損) 未貫通の穿孔痕1(A面、B面) 	
図版51 92	E-7 — 灰黒色粘質土層 (木片多し)	5.0(残存) 3.3(×) 0.8(×) — 13.7	泥岩		<ul style="list-style-type: none"> 刃部は直線的であるが、背部が残存していないので不明 両刃 両面とも火にあたっている痕跡がみられる A面はていねいな研磨痕がみられ、刃先より左上方へのびる磨滅痕が若干みられる B面の中央部あたりに研磨痕が認められない所がある 刃先には刃縁とやや直交して磨滅痕がある(原石面) 孔の欠損している方に組擦れらしい痕跡あり 穿孔1(完存) × 1(欠損) 	
図版51 93	D-4 — 黑色粘質土層 (上層)	6.4(残存) 2.5(×) 0.8(×) 1.6 13.2	泥岩		<ul style="list-style-type: none"> 背部のみ残存 研磨による調整で、研磨時と思われる傷跡を両面に残す 研磨の及ばない敲打痕を残す 背縁に使用のためかわずかな凹みがみられる 穿孔1(完存)著しい組擦れ痕がある × 1(欠損) 	
図版51 94	E-6 落ち込み 218 灰黒色粘質土層	6.6(残存) 1.5(×) 5.5(×) 1.8 8.1	泥岩		<ul style="list-style-type: none"> 背部の一部残存 背部はゆるやかにカーブし両面、背部ともていねいに研磨されている 研磨痕も残っている 穿孔1(完存) × 1(半損) 	

石砲丁 (形式不明)

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (m) (g)	長さ 幅 厚 孔間 距離 重量	石 材	特 故	備 考
図版51 95	D-3 — 黒色粘質土層 (上層)	5.9(残存) 1.3(〃) 0.5(〃) — 1.5 5.6	泥岩		<ul style="list-style-type: none"> ●背部の一部残存 ●背部においては、ゆるやかにカーブし、若干背溝も認められる ●片面は研磨されているが、他面は破損のため不明 ●火に当っている部分あり ●穿孔2(半損)未貫通の穿孔痕1 	
図版51 96	D-3 — 黒色粘質土層 (上層)	4.1(残存) 3.2(〃) 0.7(〃) — 12.8	膠泥片岩		<ul style="list-style-type: none"> ●背部の一部残存 ●背部及び両面とも、ていねいに研磨され背部に研ぎ直しの面が残る ●片面には敲打痕が認められる ●穿孔1(半損) 	
図版51 97	C-3 溝6 暗黄灰色砂層	4.9(残存) 3.6(〃) 0.7(〃) — 2.3 20.0	膠泥片岩		<ul style="list-style-type: none"> ●刃は直線で両刃 ●端部・背部とも破損 ●刃全体に粗い刃こぼれがある ●両面磨製でA面は粗孔のまわり、B面は粗孔の右側に敲打痕らしきものがある ●粗孔は身幅の中央(以下)に位置する ●B面粗孔に粗擦れ痕が認められる ●穿孔1(完存) 〃1(破損) ●未貫通の穿孔痕3 	
図版51 98	D-4・D-5 間観察用断面 — 黒色粘質土層 (上層)	3.1(残存) 5.1(〃) 0.5(〃) — 8.7	粘板岩		<ul style="list-style-type: none"> ●刃部、肩部とも破損あるいは剥離のため不明 ●体部においては破損のため研磨の及ばない部分もある ●穿孔に経擦れなし ●割れた側面を研いで2次加工している ●穿孔1(完存) 	
図版51 99	E-6 — 青灰色砂質土層	4.3(残存) 4.2(〃) 0.5(〃) — 11.5	粘板岩		<ul style="list-style-type: none"> ●A面及び刃部に研磨痕が残る ●B面欠損のため不明 ●穿孔1(欠損) 	
図版51 100	D-3 — 黒色粘質土層 (上層)	4.4(残存) 3.0(〃) 0.6(〃) — 11.8	泥岩		<ul style="list-style-type: none"> ●両面にわずかに研磨痕が認められる ●穿孔1(欠損) 	
図版51 101	Z Z — —	4.7(残存) 2.2(〃) 0.6 — 8.3	泥岩		<ul style="list-style-type: none"> ●両面ともに研磨を施す ●背面に研磨あり、平面と背面の境は角をなす ●粗孔の一部を含む背部板片 	
図版51 102	E-5 — 黒色粘質土層 (上層)	3.4(残存) 3.5(〃) 0.2 — 3.4	膠泥片岩		<ul style="list-style-type: none"> ●背部の一部が残存 ●両面とも研磨を施す ●穿孔1(半損) 	

石庵丁(形式不明)

国版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (m) (g)	長さ 幅 厚 孔間 距離 重量	石 材	特 徴	備 考
国版51 103	E-7 黑色粘質土層 (上層)	2.7(残存) 2.1(×) 0.3(×) — 1.3	粘板岩	● 背部の一部が残存 ● 穿孔1		
国版51 104	E-7 溝 24 暗黄灰色砂層	2.0(残存) 2.4(×) 0.8(×) — 4.6	粘板岩	● 背部残存し、断面は山型をなす ● 背部・体部とも、ていねいに研磨され、研磨痕もみられる ● 穿孔1(欠損)		
国版51 105	D-3 黑色粘質土層 (上層)	3.1(残存) 2.8(×) 0.5(×) 1.9 3.9	粘板岩	● 背部の一部が残存 ● 背部は平坦でU字形、わずかにカーブがみられる ● 両面・背部とも、ていねいに研磨されている ● 片面においては研磨痕が縦間にみられる ● 穿孔2(半損)		
国版51 106	E-8 暗黄灰色砂層	1.7(残存) 2.6(×) 0.6(×) — 3.0	泥岩	● 破片 ● 片面には研磨痕がみられ、他面は破損 ● 穿孔1(半損)		
国版51 107	D-4 黑色粘質土層 (上層)	4.0(残存) 2.0(×) 0.4(×) — 3.4	粘板岩	● 肩部の一部が残存 ● 片面は研磨されているが、他面は破損のため不明 ● 穿孔1(半損)		
国版51 108	D-4 西側観察用断面 黑色粘質土層 (上層)	2.2(残存) 1.2(×) 0.4(×) — 1.0	粘板岩	● 背部の一部が残存 ● 背部は直線的 ● 背部・体部の一部に研磨痕 ● 片面は破損のため不明 ● 穿孔1(半損)		
国版51 109	E-3 黑色粘質土層 (上層)	1.4(残存) 1.9(×) 0.4(×) — 1.4	粘板岩	● 縫孔の一部を含む背部破片 ● 背面に研磨が施され平面と背面の境は角をなす ● A面研磨を施し、B面は欠損		
国版51 110	F-7 黑色粘質土層 (上層)	3.6(残存) 1.1(×) 0.3(×) — 1.6	粘板岩	● 両面とも片埋面 ● 縫孔の一部を含む体部破片		
国版51 111	E-5 溝 238 黒灰色粘質土層	2.1(残存) 4.8(×) 0.6(×) — 7.3	粘板岩	● 背部・刃部・側面の一部残存 ● 片刃、背部は外彎し、刃部はやや直線的でわずかに使用痕もみられる ● 背部はU字形 ● 背部、両面とも研磨痕がみられる ● 穿孔不明		

石庵丁（形式不明）

国版番号	出土地名 遺構名 層位名	法量 (g)	長さ 幅 厚 孔 深 重 量 (g)	石 材	特 徴	備 考
国版51 112	E-6 落ち込み 218 灰黒色粘質土層 (紗まじり)	2.3(残存) 4.1(〃) 0.3(〃) — 3.7	粘板岩		<ul style="list-style-type: none"> 端部に側刃がみられ、刃部は両刃、体部は扁平 両面ともいねいに研磨されている 片面には研磨痕もみられる 肩部は破損しているが、肩らしき部分はわずかに認められる 穿孔不明 	
国版51 113	D-3 — 黑色粘質土層 (上層)	2.6 3.6 0.6 — 6.4	泥岩		<ul style="list-style-type: none"> 端部の破片である わずかに側刃を有する 片刃で外鷲刃 両面及び側面に乱方向の研磨痕 片面に研磨のおよばない片理面を残す 	
国版51 114	C-5 — 灰黒色粘質土層	4.4(残存) 4.2(〃) 0.7(〃) — 15.5	泥岩		<ul style="list-style-type: none"> 片刃で端部欠損 背部彎曲している 両面とも研磨 背面・刃面に研磨を施している 刃部稜はなだらかである 刃先は丸く磨滅し、若干、刃こぼれが認められる 	
国版51 115	E-6 — 灰黒色粘質土層 (紗まじり)	3.7(残存) 4.0(〃) 0.7(〃) — 10.3	凝灰岩		<ul style="list-style-type: none"> 片刃で端部破片 両面とも研磨を施している 刃部後は不明瞭である 刃先は磨滅している 	
国版51 116	D-5 溝 214 暗黄灰色砂層	3.3(残存) 2.9(〃) 0.5 — 5.4	粘板岩		<ul style="list-style-type: none"> 片刃 両面とも研磨の及ばない片理面が残存 背面に研磨が施され、平面と背面の境は角をなす 刃部稜は明確である 刃面に左右方向の研磨が施されているが、擦り切られている B面刃部付近に擦り切り技法の痕跡を残す 	
国版51 117	E-6 — —	3.6(残存) 1.9(〃) 0.4 — 4.5	粘板岩		<ul style="list-style-type: none"> 体部破片 両面は片理面よりなり、平面形は半円形を呈する 片面には若干の研磨が認められる 周縁には研磨が施されている 	
国版51 118	D-7 — 暗黄灰色砂層	6.2(残存) 4.2(〃) 0.6(〃) — 19.8	粘板岩		<ul style="list-style-type: none"> 背部・端部は破損しているが、刃部が外鷲などの杏仁形態か長方形態 両刃で刃部稜はなだらかであるが、刃は鋭い 両面とも磨製 研磨痕がはっきりしている 刃全体に刃こぼれがみられる 穿孔なし 	
国版51 119	D-5 — 黑色粘質土層 (上層)	6.3(残存) 2.6(〃) 0.6(〃) — 12.3	泥岩		<ul style="list-style-type: none"> 背部残存 背部は外鷲し、断面は丸みをおびる 研磨痕もかすかにみられる 穿孔不明 	

石庵丁(形式不明)

国版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (m) 長さ 幅厚 断面 面積 重さ kg 孔 数 kg 重 量	石 材	特 徴	備 考
図版51 120	D-4 — 黑色粘質土層 (上層)	4.8(残存) 2.0(×) 0.6(×) — 7.5	粘板岩	● 背部のみ残存 ● 背部は直線でないに研磨されてフラットな面をなしている、研磨痕もみられる ● 片面は研磨され、他面は全体にはかれており、又、背部にとぎ直しもみられる	
図版51 121	E-6 — 暗黄灰色砂質土層	3.6(残存) 4.6(×) 0.5(×) — 11.4	粘板岩	● 右端部破片 ● 両刃ぎみの片刃 ● 両面とも研磨を施し、研磨の及ばない片理面が残存 ● 刃部縁は明確 ● 刃面は左右方向の研磨痕が施され、B面には研ぎ直された部分が認められる ● 刃先に若干の刃こぼれ	
図版51 122	E-6 — 灰黒色砂質土層	5.0(残存) 2.4(×) 0.4(×) — 17.0	粘板岩	● 刃部が外彎し、端部は丸みをもつが、背部が破損 ● 両刃で鋸く、刃全体に刃こぼれが認められる ● ていねいな研磨痕がA面は左右方向、B面には左上→右下方向にみられる ● A面には研磨の及ばない破損面がある ● 穿孔不明	
図版51 123	E-5 — 黑色粘質土層 (上層)	3.6(残存) 2.9(×) 0.4(×) — 4.4	粘板岩	● 刃部の一部残存 ● 両面とも研磨されているが、破損のため研磨の及ばない所もある ● 穿孔不明	
図版51 124	C-4 — 黑色粘質土層 (上層)	3.7(残存) 2.7(×) 0.7(×) — 8.5	泥岩	● 両刃ぎみの片刃 ● 上端縁に縫孔の一部が残存 ● A面は、片理面で刃部には左右方向の研磨を施す ● B面は、全体に研磨を施す ● 刃先に使用痕あり	
図版51 125	E-7 — 黑色粘質土層 (下層)	3.5(残存) 2.7(×) 0.3(×) — 3.6	粘板岩	● 刃部・肩部の一部が残存 ● 片刃 ● A面ではていねいな研磨がみられ、一部に敲打痕もみられる ● B面にもわずかに研磨がみられる ● 穿孔不明	
図版51 126	E-8 — —	3.5(残存) 2.3(×) 0.7(×) — 8.9	泥岩	● 背部は破損、片面の刃部後的一部分のみ残存の破片 ● 刃部縁は研ぎ直しのため2木みられる ● 斜め方向のていねいな研磨痕がみられ、刃部にもわずかに使用痕がみられる ● 穿孔不明	
図版51 127	F-7 — 黑色粘質土層 (上層)	2.5(残存) 2.2(×) 0.7(×) — 4.0	砾泥片岩	● 片刃 ● 両面とも研磨を施す ● 刃先に使用痕あり	
図版51 128	E-4 — 黑色粘質土層 (上層)	2.0(残存) 2.6(×) 0.6(×) — 2.3	粘板岩	● 刃部の一部が残存 ● 両面及び刃部に研磨痕が認められる ● 両刃ぎみ ● 穿孔不明	

石庖丁（形式不明）

国版番号	出土地名 遺構名 層位名	法量 (m) 長さ 幅 厚さ 孔間 距離 重量 (kg)	石 材	特 徴	備 考
国版51 129	Z Z — —	2.8(残存) 1.2(〃) 0.5(〃) — 1.4	粘板岩	●刃部に使用痕あり	
国版51 130	E - 3 — 黒色粘質土層 (上層)	2.2(残存) 1.7(〃) 0.5(〃) — 1.7	粘板岩	●両刃 ●A面わずかに研磨が残る ●B面は研磨の及ばない片理面が残存 ●両面とも刃部稜明確 ●刃先の一部に刃溝れがみられる	
国版51 131	B - 3 — 灰黒色粘質土層 (木片多し)	2.0(残存) 2.6(〃) 0.4(〃) — 1.7	粘板岩	●片刃で刃部の一部が残存 ●両面とも研磨痕がみられ、破損のため研磨の及ばない所もある ●穿孔不明	
国版51 132	F - 7 溝 240 灰黒色粘質土層 (木片多し)	3.6(残存) 1.7(〃) 0.4(〃) — 1.9	粘板岩	●刃部破片 ●両面とも研磨を施す ●刃部に使用痕あり	
国版51 133	D - 3 Pit 773 灰黒色粘質土層	2.1(残存) 2.5(〃) 0.4(〃) — 2.2	粘板岩	●刃部破片 ●両面とも研磨の及ばない剥離面が残存 ●刃先は丸く磨滅	
国版51 134	E - 10 — 暗黄灰色砂層	8.2(残存) 4.1(〃) 4.0 — 17.5	碌泥片岩	●背部の一部が残存 ●背部と片面はていねいに研磨されているが、他面は破損のため研磨の及ばない所もある ●穿孔なし	
国版51 135	F - 7 — 黑色粘質土層 (上層)	5.6(残存) 4.7(〃) 1.5 — 47.7	泥岩	●背部の一部が残存 ●背部はやや外彫している ●片面に研磨が認められ、他面にはわずかに研磨痕が残る ●穿孔不明	
国版51 136	C - 3 — 黑色粘質土層 (上層)	8.0(残存) 4.1(〃) 0.6 — 24.0	碌泥片岩	●背部の一部が残存 ●両面とも磨滅している ●穿孔 1 (欠損)	
国版51 137	E - 6 — 灰黒色粘質土層	4.8(残存) 3.0(〃) 5.5(〃) — 8.9	泥岩	●半月形態の可能性あり ●背部はならかにカーブして、刃部は破損のため不明 ●片面に研磨面がみられ、他面は破損のため不明 ●背部は研磨されている ●紐孔には擦れはなし ●穿孔 1 (半損)	

石底丁 (形式不明)

国版番号	出土地名 遺構名 層位名	法量 (kg) 長さ (mm) 幅 (mm) 厚 (mm) 重 量 (g)	石 材	特 徴	考 察
国版51 138	F-8 西側観察用断面 溝 240 灰黑色粘質土層 (木片多し)	4.4(残存) 3.1(〃) 0.5 13.0	凝泥片岩	<ul style="list-style-type: none"> ● 背部は外彫りみだが、刃部、端部は破損で全体形は不明 ● 背部断面はU型であるが、端部にいくほど丸みをおびる ● 体部は扁平、研磨はみられないが背部に背潰れがある ● 穿孔1(欠損) 	
国版51 139	E-6 —— 灰黑色粘質土層	4.3(残存) 4.7(〃) 0.4 —— 9.8	粘板岩	<ul style="list-style-type: none"> ● 片刃で身幅が広く浅い外彫り ● 端部先端、わずかに欠損 ● 背面はほぼ平坦な面で左下方へ屈折して端部に直線的にのびる ● A面は全体に片理面で、刃面は刃先に沿った方向性をもつ研磨痕が認められる ● B面は研磨を施しているが、研磨の及ばない片理・剥離面が残存する ● 刃部棱は明確に認められる ● 刀先はやや丸く磨滅し、刃先の一部はB面へ剥離欠損 	
国版51 140	D-4 —— 黑色粘質土層 (上層)	5.7(残存) 6.0(〃) 0.7(〃) —— 17.9	粘板岩	<ul style="list-style-type: none"> ● 背部の一部が残存 ● A面わずかに研磨された部分がある ● B面は欠損 ● 穿孔不明 	
国版51 141	D-4 —— 黑色粘質土層 (上層)	8.0(残存) 3.0(〃) 0.5(〃) —— 18.9	粘板岩	<ul style="list-style-type: none"> ● A面は刃部後線が残存し研磨痕もみられる ● 端部、背部と刃部の破損面に研ぎ直しがみられる ● B面は全体にはがれているが研磨痕が認められる ● 穿孔不明 	
国版51 142	D-5 落ち込み 214 灰黑色粘質土層	6.2(残存) 4.1 0.7(残存) —— 22.9	泥岩	<ul style="list-style-type: none"> ● 背部と刃部がわずかに残存 ● 刃部には刃こぼれらしきものがみられる ● 研磨痕がわずかに認められる ● 片面体部は全面はがれている ● 穿孔不明 	
国版51 143	D-4 —— 黑色粘質土層 (上層)	4.8(残存) 3.9(〃) 0.4(〃) —— 7.5	粘板岩	<ul style="list-style-type: none"> ● 背部の一部が残存 ● 片面に研磨された部分がある ● 穿孔1(欠損) 	
国版51 144	F-6 —— ——	4.4(残存) 2.6(〃) 0.5 —— 8.0	泥岩	<ul style="list-style-type: none"> ● 背部破片 ● 両面とも研磨の及ばない片理面残存 ● 背面に研磨を施し、平面と背面の境に角をなす ● 背面に背潰れ痕が若干認められる 	
国版51 145	F-7 —— 黑色粘質土層 (上層)	4.1(残存) 4.1(〃) 0.6(〃) —— 8.4	泥岩	<ul style="list-style-type: none"> ● 背部破片 ● 両面とも研磨の及ばない剥離面が残存 ● 背面に研磨が施され、平面と背面の境に角をなす 	

石庖丁(形式不明)

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚さ 孔間 距離 重量	石 材	特 故	備 考
国版51 + 146	E-5 — 黑色粘質土層 (下層)	2.2(残存) 2.4(〃) 0.9(〃) — 5.6	泥岩	● 背部わずかに残存 ● 片面は研磨されているが、他面は破損のため不明 ● 穿孔不明		
国版51 + 147	B-3 — —	2.2(残存) 2.9(〃) 0.4 — 5.2	泥岩	● 背部残存 ● 背部・体部ともいねいな研磨痕がみられる ● 背部断面は△型になっている ● 体部は扁平 ● 穿孔不明		
国版51 + 148	Z Z — —	4.1(残存) 2.5(〃) 0.6(〃) — 7.9	綠泥片岩	● 両面の荒れが著しい ● 穿孔1(欠損)		
国版51 + 149	E-5 — —	3.3(残存) 2.0(〃) 0.4(〃) — 2.7	綠泥片岩	● 刃部破片 ● A面は欠損でB面は研磨を施す ● 刃先には若干の刃瀬れ		
国版51 + 150	F-8 — 黑色粘質土層 (上層)	3.5(残存) 2.1(〃) 0.5 — 5.1	粘板岩	● 背部破片 ● 両面とも研磨の及ばない片理面が残存 ● 背面に研磨を施す		
国版51 + 151	F-7 溝 238 暗黒色粘質土層 (上層)	2.0(残存) 1.8(〃) 0.6(〃) — 2.7	綠泥片岩	● 両面とも研磨を施す ● 背面は丸みをおびている ● 線孔の一部を含む背部破片		
国版51 + 152	E-6 — 灰黒色粘質土層 (砂まじり)	2.6(残存) 2.0(〃) 0.4(〃) — 2.0	泥岩	● 両面とも研磨の及ばない剥離面が残存 ● 背面に研磨が施され、平面と背面の境は角をなす ● A面、下端縁に再研磨を施して刃面をつくりだし、さらに下端左寄りに擦り切りを施す ● 線孔の一部を含む背部破片		
国版51 + 153	F-6 — 黑色粘質土層 (上層)	2.0(残存) 1.7(〃) 0.4(〃) — 1.5	粘板岩	● 端部破片 ● A面のみ研磨、B面は欠損		
国版51 + 154	E-6 — 黑色粘質土層 (上層)	3.8(残存) 3.9(〃) 0.9(〃) — 16.4	砂岩	● 両刃らしい ● 背部にわずかに研磨された痕跡がみられる ● 穿孔なし	未製品	

石庖丁(破片)

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (x)	長さ 幅 厚 孔間 距離 重量	石 材	特 徴	備 考
	D-5 — 黑色粘質土層 (下層)	5.7(残存) 6.5(〃) 0.8(〃) — 42.9	縞泥片岩		●両面とも磨製 ●片面には研磨痕もはっきり認められる ●穿孔不明	
	E-5 — 黑色粘質土層 (上層)	8.0(残存) 4.8(〃) 0.7(〃) — 33.0	粘板岩		●穿孔不明	
	Z Z — —	5.2(残存) 4.4(〃) 0.9(〃) — 33.7	縞泥片岩		●製作工程 ●穿孔なし	
	D-3 — 黑色粘質土層 (上層)	7.4(残存) 4.8(〃) 0.9(〃) — 41.9	縞泥片岩		●両面とも研磨されているが研磨の及ばない破損 面がある ●穿孔不明	
	D-5 溝 41 —	5.6(残存) 4.9(〃) 0.7(〃) — 24.7	縞灰岩		●片面は研磨されているが、他面は破損して不明 ●穿孔不明	
	E-7 — 灰黒色砂質土層	6.0(残存) 3.3(〃) 0.4 — 8.2	粘板岩		●両面とも片理面よりなり、わずかに研磨面が認められる ●上端縁は打ち欠きを施す ●下端縁にはわずかに磨滅が認められる ●体部破片	
	F-8 南側観察用断面 — 白黄色砂質土層 (粒子粗い)	4.3(残存) 5.0(〃) 0.6 — 18.4	粘板岩		●両面とも片理面が残存	
	F-8 — 灰黒色砂質土層	4.2(残存) 3.4(〃) 0.7(〃) — 12.2	縞泥片岩		●両面とも片理面よりなる ●周縁を打ち欠いている	
	C-3・D-3 間観察用断面 — 黑色粘質土層 (下層)	2.8(残存) 3.4(〃) 0.4(〃) — 5.1	縞泥片岩		●背部らしきものがみられる ●穿孔不明	
	E-3 — 黑色粘質土層 (上層)	4.3(残存) 3.0 0.4(残存) — 5.7	粘板岩		●両面とも研磨の及ばない片理面が残存	

石庵丁(破片)

調査番号	出土地地区名 遺構名 層位名	法量 (ml) (g)	長さ 幅 厚 孔間 距離 重量	石 材	特 徴	備 考
E-4	— 黑色粘質土層 (上層)	6.3(残存) 1.3(〃) 0.7(〃) — 7.8	泥岩		<ul style="list-style-type: none"> ・肩部と細孔の半欠が残存 ・研磨痕を残す面と研磨され光沢をおびている面がある ・背部側破損面には2次使用されたらしい刃こぼれがみられる ・穿孔1(欠損) 	
E-3	— 黑色粘質土層 (上層)	2.9(残存) 5.7(〃) 0.5(〃) — 9.8	粘板岩		<ul style="list-style-type: none"> ・背部の一部が残存 ・表面欠損 ・穿孔不明 	
D-3	— 黑色粘質土層 (上層)	6.8(残存) 3.4(〃) 0.7 — 15.2	粘板岩		<ul style="list-style-type: none"> ・刃部の一部が残存 ・両面とも研磨され、刃先はわずかに刃こぼれしており、先端は丸く磨滅している ・両刃 ・穿孔不明 	
F-8	— 暗黄灰色砂質土層 (粘土まじり)	5.0(残存) 3.4(〃) 0.5(〃) — 12.2	粘板岩		<ul style="list-style-type: none"> ・体部の片面のみの破片 ・表面は研磨痕を留める ・裏面は片理面がみられる 	
D-3	— 暗黄灰色砂質土層 (粘土まじり)	4.9(残存) 2.7(〃) 0.8(〃) — 15.7	綠泥片岩		<ul style="list-style-type: none"> ・端部破片 ・両面とも片理面よりなる薄い板材の周縁に打ち欠きを施して成形 	
D-5	溝214 — 暗黄灰色砂層	4.6(残存) 2.7(〃) 0.3(〃) — 3.9	粘板岩		<ul style="list-style-type: none"> ・A面、左右方向の研磨が施されている ・B面は欠損 	
D-5	西側観察用断面 — 灰黒色粘質土層	3.9(残存) 2.8(〃) 0.6(〃) — 9.4	泥岩		<ul style="list-style-type: none"> ・背部破片 ・両面とも片理面よりなる板材の周縁に打ち欠きを施して成形 ・背面わずかに研磨 	
F-7	— 黑色粘質土層 (下層)	3.7(残存) 3.4(〃) 0.2(〃) — 3.6	粘板岩			
E-6	— 灰黒色粘質土層 (砂まじり)	3.1(残存) 2.8(〃) 0.4(〃) — 4.2	泥岩		<ul style="list-style-type: none"> ・体部破片 ・両面とも片理面 ・下端縁は片面より擦り切ってうすくし、折っている 	未製品

石泡丁(破片)

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 孔間 距離 重量	石 材	特 徴	備 考
	F-8 溝 240 灰黒色粘質土層 (砂まじり)	5.3(残存) 2.1(×) 0.4(×) — 5.0	縫泥片岩		●片面はていねいな研磨痕がみられる ●他面は破損しているが、わずかに研磨された痕跡がある ●穿孔不明	
	E-4 南側観察用断面 — 黒色粘質土層 (下層)	3.2(残存) 2.4(×) 0.5(×) — 4.2	泥岩		●A面わずかに研磨を施す ●B面は欠損	
	E-4 — 黒色粘質土層 (上層)	— — — — 13.5	粘板岩		●縫孔の一部を含む体部破片 ●両面とも研磨を施す	
	E-6 — 黒色粘質土層 (下層)	1.9(残存) 1.6(×) 0.6(×) — 2.0	縫泥片岩		●片面は研磨痕が見られるが、他面は破損し不明 ●穿孔不明	
	E-4 溝 238 黒灰色粘質土層	3.6(残存) 1.8(×) 1.5(×) — 9.4	縫泥片岩			
	F-7 — 黒色粘質土層 (上層)	3.6(残存) 1.4(×) 0.4(×) — 2.8	縫泥片岩		●縫孔の一部を含む背部破片 ●A面は研磨を施し、B面は欠損	
	E-4 溝 238 黒灰色粘質土層	5.2(残存) 1.6(×) 0.5(×) — 6.2	縫泥片岩			
	D-5 — 黒色粘質土層 (下層)	3.4(残存) 2.7(×) 0.4(×) — 3.2	縫泥片岩		●A面は研磨を施される ●B面は欠損	
	E-6 — 青灰色砂質土層	2.1(残存) 2.1(×) 0.5(×) — 2.2	縫泥片岩		●片面表面にはわずかに研磨痕がみられる ●穿孔 I (半損)	
	E-5 — 黒色粘質土層 (上層)	3.4 2.8(残存) 0.3(残存) — 3.0	粘板岩		●体部破片 ●両面とも研磨痕がみられる ●穿孔不明	

石庵丁(破片)

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (m) (g)	長さ 幅 穿孔間 距離 重量	石材	特徴	備考
	D-5 — 黒色粘質土層 (下層)	3.5(残存) 1.9(〃) 0.2(〃) — 1.6		粘板岩	• A面、研磨を施す • B面は欠損	
	E-3 — 黒色粘質土層 (上層)	2.6(残存) 2.5(〃) 0.4(〃) — 3.0		綠泥片岩		
	D-6・E-6 間観察用断面 — 灰黒色粘質土層 (木片多し)	2.0(残存) 2.1(〃) 0.2 — 1.1		泥岩	• 表面わずかに研磨された部分がある • 穿孔不明	
	E-4 — 黒色粘質土層 (上層)	2.2(残存) 2.3(〃) 0.4(〃) — 2.2		粘板岩	• A面に研磨を施し、片理面がわずかに残存 • B面は片理面よりなる	
	E-6 — 暗黄灰色砂質土層 (上層)	4.4(残存) 0.9(〃) 0.2(〃) — 1.4		綠泥片岩	• 表面わずかに研磨された部分がある • 穿孔不明	
	E-4 — 黒色粘質土層 (上層)	1.9(残存) 1.3(〃) 0.2(〃) — 0.4		綠泥片岩	• A面は研磨を施す • B面は欠損	
	C-4 — 灰黒色粘質土層	4.9(残存) 4.3(〃) 0.7(〃) — 17.5		綠泥片岩	• 線孔の一部を含む体部破片 • 両面とも全体に風化が著しい	
	E-6 — 青灰色砂質土層	4.2(残存) 2.8(〃) 0.4(〃) — 5.3		泥岩	• 片面表面は研磨されている部分がある • 穿孔不明	
	D-5 東側観察用断面 — 黒色粘質土層 (上層)	4.6(残存) 2.8(〃) 0.5(〃) — 8.5		粘板岩	• 穿孔不明	
	F-7 — 黒色粘質土層 (上層)	2.6(残存) 2.1(〃) 0.5(〃) — 3.4		粘板岩		

石庵丁(破片)

国版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) 長さ 幅 厚 孔間 距離 重量 (g)	長さ 幅 厚 孔間 距離 重量 (g)	石材	特徴	備考
	F-8 — 灰黒色粘質土層 (砂まじり)	4.9(残存) 1.6(〃) 0.7(〃) — 5.1	泥岩		● 両部破片 ● 両面とも風化	
	E-6 溝 237 灰黒色粘質土層 (砂まじり)	4.5(残存) 1.1(〃) 0.2(〃) — 1.3	粘板岩			
	E-4 — 黑色粘質土層 (下層)	1.8(残存) 1.7(〃) 0.3(〃) — 0.8	粘板岩		● 背面わずかに研磨が施される	
	D-4 — 黑色粘質土層 (上層)	4.2(残存) 2.9(〃) 0.7 — 6.9	粘板岩		● 背部破片 ● 両面ともわずかに研磨面残存 ● 背面研磨を施す	
	E-4 — 黑色粘質土層 (下層)	1.2(残存) 1.4(〃) 0.3(〃) — 0.3	粘板岩			
	D-3 西側観察用断面 — 灰黒色粘質土層	1.9(残存) 0.9(〃) 0.3(〃) — 0.4	粘板岩			

第2節 大型石庖丁（図版16・17・52・53・54—1～11）

本遺跡出土の大型石庖丁は、11点である。全て破片であり完形品は出土していない。

各部分の名称については『池上遺跡』に準ずるものである。

本遺跡出土の大型石庖丁は、刃部の直線的なもの（1・2・4・5）と、外彫するもの（3・7・8・9）があり、（6・10・11）については不明である。

（5）は背部が直線状をなし、一部には研磨を施しており、形状は長方形態を呈している。体部中央付近に2孔穿孔している。（1）の背部中央部は直線状にのびているが、一方の肩部については欠損の為不明であるが、他方は欠損後再研磨されており、大きく屈折して外方向へ開いて下り、端部に至っている。しかし、再研磨されているのは背部中央部と肩部との境の一部のみである。背部よりに2孔を穿孔しているが、内1孔は欠損前（再利用前）に穿孔されていたと考えられる。（3）は、全体に丁寧な研磨が施されている。背部中央部は欠損のため不明であるが、半円形状に丸く彎曲している。背部中央部背寄りに1孔穿孔されている。（4）は、背部中央部は欠損のため（3）と同様に不明であるが、肩部は端部に向けて斜めにまっすぐに下っている。背寄りに肩部に平行して2孔が穿孔されている。（8）は大型石庖丁の未製品であり、両面とも体部中央部には片理面よりなり、周辺には細かな打ち欠き調整を施しており、刃部と背部中央付近には顕著に認められる。（9）は杏仁形態を呈している大型石庖丁である。

註

- （1）石神幸子、村上富貴子、池北孝男「大型石庖丁」『池上遺跡 石器編 第3分冊の2』財团法人大阪文化財センター 1979

第9表 大型石庖丁使用石材割合表

種類	点数	%
粘板岩	4	36.4
練泥片岩	4	36.4
泥岩	3	27.2
合計	11	100

大型石磨丁

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 孔径 重量	石材	特徴	備考
図版16-52 1	D-5 南側観察用断面 —— 暗黄灰色砂層	15.1(残存) 8.8 1.2 5.9 197.4	粘泥片岩		<ul style="list-style-type: none"> 両刃 直線刃 両端部欠損 背部寄りに2孔を穿孔 両面に研磨の及ばない剥離面あり 背面は平坦面を呈し、両面との境で角をもつ A面(圓面左側)の欠損面は、欠損後再研磨し、両面との境で角をもつ 両面とも全面に光沢があり、左右方向の研磨がみられる 刃部において左右方向の研磨 刃先は刃こぼれ状の剥離痕 	
図版52 2	F-8 —— 灰黒色粘質土層	10.4(残存) 8.0(残存) 0.8(残存) —— 102.0	泥岩		<ul style="list-style-type: none"> 片刃、直線刃 背面は浅く彎曲し、背面には剥離を作った背潰れ痕が残存し、わずかに研磨が施されている 中央背面寄りに1孔あり、その直下に最大厚があり、刃部に下るにつれて、やや薄くなる 両面とも研磨の及ばない剥離面残存 刃部端部寄りに大きな打ち欠き痕あり 刃先は丸く磨滅 	
図版16-53 3	C-3 落ち込み214 灰黒色粘質土層	12.2(残存) 7.9(残存) 0.8 —— 110.0	粘泥片岩		<ul style="list-style-type: none"> 両刃 刃部は外彎し、背部は半円形状に丸く彎曲する 背面は平坦面を呈し、両面との境で角をもつ 刃部は両面とも細かな左右方向の研磨痕 体部は右下—右上方向の研磨 刃先は刃こぼれ痕がみられる 両面とも研磨の及ばない剥離面が残っている 中央部背面寄りに1孔が穿孔されている 	
図版17-53 4	D-4 —— 黒色粘質土層 (上層)	12.8(残存) 6.9(残存) 0.8(残存) 4.5 76.6	泥岩		<ul style="list-style-type: none"> 両刃、直線刃 中央部背面寄りに1孔、端部付近に1孔を穿っている 孔を切って背顶部は欠損 孔は両面から穿孔されている 背面は平坦面を呈し、両面との境で角をもつ 背部付近に一部左上—右下方向の研磨痕あり 刃部から体部下半にかけて火にあたっているため研磨等は不明 	
図版53 5	E-5 —— 暗黄灰色砂質土層	10.0(残存) 5.5(残存) 0.7(残存) 2.4 47.5	粘板岩		<ul style="list-style-type: none"> 長方形態 両刃ぎみ片刃 背部は直線状を呈し、研磨を施している 両面とも研磨の及ばない片理面が残存 刃部中央に大きな背潰れ痕 刃先には磨滅痕があり、光沢を有する A面左端部欠損後、研磨を施し刃部には左右方向の研磨痕 B面刃部付近に右上—左下方向及び左右方向の研磨痕が認め 穿孔は2つで、内1つは欠損 	

大型石庖丁

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (m) (g)	長さ 幅 厚 縦孔距 離 重 量	石 材	特 徴	備 考
図版17-53 6	E-7 — 灰黑色粘質土層 (木片多し)	7.0(残存) 6.5(残存) 0.7(残存) — 60.6	粘板岩		<ul style="list-style-type: none"> 両端部欠損 刃部が破損のため使用されていたかは不明 背部は背溝れが著しく、更にその上に研磨痕が認められ再加工の痕跡がみられる 穿孔は2つで半損 未貫通の穿孔痕がA・B両面に1箇所ずつ認められる 	
図版17-53 7	Z Z — —	4.0(残存) 9.2(残存) 0.8(残存) — 43.5	綠泥片岩		<ul style="list-style-type: none"> 背部は破損 刃部棱はなだらかで両刃 A面は全面ていねいに研磨され、刃部綫上部に研ぐ時にできたと思われる条線が4本認められる B面においては研磨の及ばない部分があり、刃部には刃こぼれがみられる 両面とも刃部にやや直角に磨滅痕が認められる 穿孔は両面より穿っていて1つは半損 B面に未貫通の穿孔らしき痕跡が1箇所わずかに認められる 	
図版54 8	D-4 — 暗黄灰色砂質土層 (粘土まじり)	6.1(残存) 7.7(残存) 1.0(残存) — 56.5	綠泥片岩		<ul style="list-style-type: none"> 破片 大型石庖丁の未製品 両面とも片理面を残している 	
図版17-54 9	F-6 — 黒色粘質土層 (上層)	8.2(残存) 5.9(残存) 0.6(残存) — 29.6	粘板岩		<ul style="list-style-type: none"> 両面磨製 両刃で刃部は外彎で鋭い 刃こぼれがみられる 端部・背部ともに破損し形は不明 B面刃部は2度研磨されている 石理の出ているところに研磨の及んでいない箇所がある 	
図版54 10	E-6 — 黒色粘質土層 (上層)	7.4(残存) 5.3(残存) 1.0(残存) — 59.7	泥岩		<ul style="list-style-type: none"> 体部破片 両面とも研磨が施されている B面に研磨時と思われる傷跡を残す 両面とも研磨が及ばず敲打痕を残す箇所がある 穿孔は1つで欠損 	
図版54 11	B-5 — 灰黑色粘質土層	6.2(残存) 5.4(残存) 0.8(残存) — 40.5	粘板岩		<ul style="list-style-type: none"> 肩部破片 両面とも片理面で背面は打ち欠き成形を施している 穿孔は1つで欠損 	

第3節 打製石庖丁（図版54-1・2）

本遺跡出土の打製石庖丁は、2点出土している。石材は、2点ともサスカイトで横長剥片を利用しておらず、（1）は上山周辺産ではなく他地域（金山産）のものである。打製石庖丁の分布は、瀬戸内海沿岸地域であり、特に香川県と岡山県南部を中心とした地域で多く出土している。

（1）は長さ6.0cm、幅3.9cmの小型のものであり、刃部は外彎して全体形は杏仁形態に近い形を呈し、端部は調整によるくり込みは認められないが、側刃をもっている。両面とも体部には大剥離面を残しているが、背部・刃部・側刃には調整剥離を両面より施しており、両刃の刃縁には若干の磨滅が認められる。

（2）は長さ8.3cm、幅5.2cmの長方形に近い杏仁形を呈しており、片端部にはくり込みが認められる。刃部以外の調整は粗く、大剥離面を両面に残している。直線的な刃部については、両面からの調整剥離が施されているものの、一面はステップ状剥離がみられる。打製石庖丁の未製品であろう。

打製（石庖丁）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (m) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考 (石材)
図版54 1 1	C-4 落ち込み214 灰黒色粘質土層	6.0(残存) 3.9 0.6 21.7		サスカイト	<ul style="list-style-type: none"> • 小型 • 両刃 • 全体的に杏仁形態を呈するが端部に斜めに側刃をもつ • 片端部欠損 • 両面とも大剥離面が大部分を占める • 両面とも背部・刃部・側刃に調整剥離を施す • 調整剥離は、大まかに施した後、細かく施す • 両面とも背部・刃部・側刃にステップ状剥離が認められる • 刃縁には若干磨滅が認められる 	金山産
図版54 1 2	E-9 —— 暗黄灰色砂質土層	8.3 5.2 1.8 64.9		サスカイト	<ul style="list-style-type: none"> • 両刃 • 幅広の杏仁形態に近いが、片端部は大きく凹む側刃を有し、もう片端も短い側刃を有す • 体部上方に最大厚をもつ • 両面に大剥離面を大きく残す • 両面とも背部・刃部に大まかな調整剥離 • A面刃部においては、B面に比べより体部中央へと調整剥離を施していく、B面よりA面の方が刃面が広い • 両面背部、A面刃部にステップ状剥離 	未製品

第4章 工 具

本遺跡出土の工具としては、石錐、扁平片刃石斧、柱状片刃石斧、大型始刃石斧、打製石斧、石小刃、砥石（玉砥石を含む）、台石、凹石があげられる。

第7章で述べる用途不明石製品及び刃器の中にも工具としての機能を有し、また使用された石器もあると考えられるが、本章においては製品として分類可能なものについて報告する。

第1節 石 锥（図版4・5・37～42-1～328）

本遺跡出土の石錐は総数331点である。

刃器を除いて、石錐に次ぐ出土点数である。

石材は全てサスカイトであり、二上山周辺産のサスカイトが全体の90.3%を占め、残り9.7%が他地域産（金山産）と考えられるものである。

石錐は、回転による穿孔のための道具すなわちdrillとして用いられる石器である。

石錐の基本形態は、錐の刃部としてのための錐部と、それにつづく手持ち又は着柄のための頭部とからなっている。

石錐の形態は、錐部と頭部の形状の組合せにより分類が可能であり、池上遺跡では細かく分類して、12タイプに分類している。

本遺跡出土の石錐については、『田能遺跡発掘調査報告書』における石錐の分類を基本として大きく次の3形態に分類した。

I類（図版4・5・37・41・42-1～64・315～328）

頭部と錐部は明確に区別されない全体が棒状の錐で、64点（出土石錐総数の19.4%）出土している。

これらの中、細身のものは、自然礫面や大剥離面を残すことなく両面からの丁寧な剥離加工が加えられているのに対して、全体がやや丸みをもつものは、上端や両面あるいは片面に自然礫面や大剥離面を残すものもあり前者に比べて剥離は粗雑である。

錐部の横断面は、菱形及び三角形が多く占める。

このタイプの平面形は、基本的には棒状を呈するものであるが、長椭円形のもの、全体に屈曲し両端に同規模あるいは明確に異なる錐部を有するものなど、その形態はバラエティーに富んでいる。

石材は全てサスカイトの剥片を使用しており、二上山周辺産のものは84.6%、他地域産のものは15.4%の割合である。

II類（図版4・37～40・65～206）

このタイプの平面形は多種多様であり、総数142点（出土石錐総数の42.9%）出土しており、本遺跡で出土した石錐の約半分を占めている。平面形は縦長で（84）のように約8cmのものもある大型のもの、逆三角形のもの、扇形のもの、台形のもの、椭円形のものなどがあり、それぞれ頭部先端の形の大小はみられるものの、明確には錐部をつくり出すではなく、先細りしてそのまま錐部として使用しているものが多い。錐部横断面も体部において多くのバリエイションがあるのと同様に、四角形、三角形、椭円形、菱形、台形、扇形、杏仁形、長方形、半円形、多角形と一定した形はない。

全体に剥離は粗く、自然礫面や大剥離面が残されており、特に頭部上端面に自然礫面を残すものが

多くみられる。

(84) は、全長7.98cmを測り、全体に細長く彎曲している。錐部の断面は平行四辺形を呈し、頭部下端より一担逆刺状に突出しており、先端から両側約8mmにわたり使用痕が認められる。特異な例である。

このタイプにおける二上山周辺産サスカイトと他地域産サスカイトの割合は、前者が91.8%、後者が9.2%である。

Ⅲ類（図版4・5～40・41-207～314）

頭部と錐部を明確につくりだしたタイプであり、総数108点（出土錐部総数の32.6%）出土している。

平面形は、不定形な大きい頭部に体して細長い錐部を有するものと、「T字形」あるいは「Y字形」に近い形を有するものがある。全体に、頭部と錐部の境の部分には細かな剥離が施されて明確に境をつくり出している。

錐部は細長くつくり出されているためか、欠損して出土するものが他のタイプに比べ多く完形なもののは約半分である。（完形率55.6）

錐部の調整は、両面から細かく施されている例が多く、その断面は菱形、四辺形、三角形などである。錐長は、最小0.4cm、最大2.8cm、平均1.48cmを測る。

頭部における調整は、全体的に粗雑であり、単に概形をつくるだけで大剥離面を残しているものが多くみられる。

このタイプにおける二上山周辺産サスカイトと他地域産サスカイトの割合は、前者が93.5%と後者が6.5%である。

註

- (1) 石神幸子・増田富喜子・村上年生・池北孝男・酒井龍一「石錐」『池上遺跡 第3分冊の1 石器編』財團法人大阪文化財センター 1979
- (2) 福井英治「石器」『田能遺跡発掘調査報告書』尼崎市教育委員会 1982

石錐（1類）

石錐（I類）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 錐部 長径 重量	錐部断面	特徴	備考 (使用痕跡)
図版37 9	E-6 溝24 暗黄灰色砂層	28.5(残存) 8.5 4.5 4.0 4.0×2.0 1.2	扁平なレンズ状	● 中ほどで最大幅をもつ棒状錐 ● 頭部を欠損 ● A面中央に小さく大剥離面を残す ● 他は両面ともいねいに調整剥離	明確には認められず	
図版37 10	F-8 — 暗黄灰色砂質土層 (粘土まじり)	31.0(残存) 9.0 5.5 4.0 6.0×4.0 1.7	レンズ状	● 棒状の錐、先端がやや曲がっている ● 頭部欠損 ● A面各辺沿いにステップ状剥離 ● B面右半分に自然縫面を残す ● 他は両面とも難に調整剥離	先端から側辺4mmに 漸減	
図版37 11	F-8 西側観察用断面 — 灰黒色粘土層 (砂まじり)	33.0(残存) 10.0 6.0 — 2.1	レンズ状	● 錐部先端は欠損 ● ややずんぐりした棒状で、頭部、錐部の区別なし ● 両面とも中央に縫を形成 ● 両面ともに調整剥離を施し、ステップ状剥離が若干混在	明確には認められず	
図版37 12	ZZ — — 先端 — 1.7	34.0 9.5 5.0 — —	菱形	● ややずんぐりした棒状で、全体にやや扁平 ● A面中央縦方向に縫線を作りだす ● B面中央に綫長の大剥離面残存 ● 両面ともに調整剥離	明確には認められず	
図版37 13	E-6 土壤209 黒色粘土層 (下層)	11.5(残存) 7.5(残存) 4.5(残存) 8.0(残存) 4.5×2.5 1.1	欠損部断面は菱形	● 棒状で、先端及び頭部を欠損 ● 両面とも全面に調整剥離 ● 縫は、A面では明瞭で、B面ではやや不明瞭である	金山産 現存部には認められず	
図版37 14	E-6 — 黑色粘土層 (上層)	35.0(残存) 6.5(残存) 4.0(残存) 先端 — 1.2	扁平なレンズ状	● 棒状で頭部欠損 ● 両面とも全面に調整剥離 ● B面左側辺にステップ状剥離 ● 両面に縫を成す	明確には認められず	
図版37 15	E-6 — 暗黒色粘土層	31.0(残存) 7.0(残存) 4.0(残存) — — 1.1	欠損部断面は菱形	● 上方に最大幅のある棒状の錐 ● 先端をわずかに、また頭部も欠損 ● A面左半分をフラットな大剥離面がほとんどを占め、又A面中央に2つの大剥離面を残す ● 他は両面ともいねいな調整剥離 ● A面では先のフラットな面に沿って明確な縫をなす	現存部には認められず	
図版4.37 16	E-6 — 暗黄灰砂質土層	36.5 9.0 5.5 6.0 3.0×5.0 1.7	菱形	● 頭部中央側辺部が突き出ている形状 ● 頭部から錐部にかけて全体を細かな調整剥離で形成 ● 両面中央に縫が通る	明確には認められず	

石錐（Ⅰ類）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 鉛部断面	特徴	備考 (使用痕跡)
図版37 17	E-7 — 灰黑色砂質土層	35.0(残存) 8.5 3.5 6.5 6.5×3.0 1.4	不整形	<ul style="list-style-type: none"> 棒状で、頭部を欠損 両面左半分に大剥離面を残す 両面とも、両側辺から調整剥離を施すが、左側辺からは一部しか施さない 頭部は先細りになっており、錐部の可能性もある 	先端から側辺6.5mmに明瞭な同軸痕
図版4-37 18	E-6 — 灰黑色砂質土層	37.5(残存) 11.0 4.0 — 1.4	扁平な菱形	<ul style="list-style-type: none"> 錐部欠損 全体的に棒状を呈する 両面とも、中央に縫が通り、大剥離面が残らず、やや扁平で側辺からでない調整剥離が施されている A面に若干ステップ状剥離が認められる 	現存部には認められず
図版37 19	E-7 — 南側観察用断面 — 黑色粘質土層 (上層)	35.0 8.0 6.5 5.0 5.0×5.0 2.4	不整な菱形	<ul style="list-style-type: none"> 不整な五角柱を呈する棒状錐 5面のうち、2面に自然縫面を残し、他の3面は大剥離面 先端部と頂部のみ調整剥離を施す 	先端から側辺4mmに磨滅
図版37 20	F-8 — 灰黑色砂質土層	37.0 7.5 4.5 先端 — 1.4	三角形	<ul style="list-style-type: none"> 棒状で頭頂部に自然面 A面左側辺に明瞭なステップ状剥離 B面中央に大剥離面を残す 両面とも難な調整剥離 A面中央に明瞭な棱を成す 	金山産 先端わずかに丸み
図版37 21	E-4 — 黑色粘質土層 (上層)	40.0(残存) 9.0(残存) 6.0(残存) — 2.6	欠損部断面は菱形	<ul style="list-style-type: none"> 棒状で先端欠損 頭頂部に自然縫面を残す 両面ともでないに調整剥離 両面にやや不明瞭な棱を成す 	現存部には認められず
図版37 22	E-7 — 黑色粘質土層 (上層)	50.0 10.5 6.0 16.0 7.5×3.0 3.4	三角形	<ul style="list-style-type: none"> 中ほどに最大幅を有し、中央断面は四角形を呈する棒状錐 上端は尖っている 両面中央、及び内側辺上方に大剥離面を残す 両面とも難な調整剥離 	金山産 先端にわずかに丸み
図版4-37 23	D-5 — 黑色粘質土層 (上層)	55.0 10.0 6.0 30.0 8.0×5.0 2.7	菱形	<ul style="list-style-type: none"> 完形 全体の形状は上3分の1は太身で下3分の2は細くなっている 両面に成形前の剥離面をわずかに残す高まった箇所がある 両面にステップ状剥離 B面に大剥離面を残す 	顯著な磨滅は認められず

石錐（I類）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長 幅 厚 長 径 徑 重 量	錐部断面	特徴	備考 (使用痕跡)
図版4-37 24	E-6 — 暗黄灰色砂質土層	22.0 9.0 5.5 — 1.1	扇形	● ずんぐりした楕円形で厚さはほぼ同一 ● 全体に調整剥離 ● 頭部に錐部の区別なし	錐部下端に白く変色した使用痕あり	
図版37 25	E-6 — 青灰色砂層	22.0 11.0 5.0 8.0 4.0×2.0 1.2	扁平な菱形	● ずんぐりした小型の錐 ● 最大幅が頭部上端で錐部方向に狭まる ● 頭部端面に自然縫面を留める ● 両面中央に大剥離面残存 ● 両面ともに調整剥離を施し、ステップ状剥離が若干混在する ● B面は、A面に比べてほぼ平坦	明確には認められず	
図版37 26	F-8 西側観察用断面 — 暗黄灰色砂層	24.5 13.0 5.5 9.0 6.0×2.0 1.6	四辺形	● 中央部両側が突出、そのまま下端が錐部となる ● A面両側辺に調整剥離 ● B面中央に大剥離面が残存 ● 錐部に、左方に打点をもつ主要剥離面残存	金山産 先端は丸みをもつ 明確には認められず	
図版37 27	E-7 — 黒色粘質土層 (上層)	27.0(残存) 11.0 5.0 15.0 4.0×2.0 1.5	半円形	● 頭部上端欠損 ● 頭部下端尖頭部がそのまま錐部となる ● A面両側辺に調整剥離 ● B面に大剥離面残存し、錐部左側辺にやや粗い調整剥離を留める	明確には認められず	
図版37 28	E-4 — 黒色粘質土層 (上層)	27.5(残存) 10.0 4.0 5.0×4.0 (残存) 1.3	欠損断面は菱形	● ずんぐりした棒状 ● 下端左右に狭まり、それが錐部となる ● 両面ともに調整剥離を施す ● B面中央に大剥離面残存 ● 錐先端を欠損	現存部には認められず	
図版37 29	F-7・F-8 間観察用断面 — 黒色粘質土層 (下層)	30.0(残存) 13.0(残存) 7.2 6.0(残存) 6.9×5.5 3.5	欠損断面は四辺形	● 頭部上端の右側面は打ち落し面 ● A面一部中央に大剥離面を留める ● B面中央に自然縫面残存 ● 両面ともに素材の片側のみに調整剥離 ● 錐先端は欠損	現存部には認められず	
図版37 30	E-6 落ち込み218	30.0 12.0 5.5 19.5 4.0×3.0 1.7	四辺形	● ずんぐりした棒状 ● 上端も錐状の尖頭だが使用は反対端部 ● A面全体に粗い調整剥離 ● B面ほぼ全面に大剥離面残存 ● B面錐部の右側辺に調整が施されている	金山産 先端は丸みをもち、若干の磨滅が認められる	
図版37 31	D-5 西側観察用断面 — 灰黑色粘質土層	32.0 11.5 5.0 先端 6.3×3.1 1.6	レンズ状	● やや幅広の頭部とその下端尖頭部がそのまま錐部となる ● 両面ともに大剥離面と自然縫面が残存 ● 全体的にやや粗い調整剥離	先端から側辺6mmに明確な水平方向の磨滅痕	

石錐（I類）

国版番号	出土地名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅厚 等長径 等重量	錐部断面	特徴	備考 (使用痕跡)
国版37 32	D-5 — 淡黄灰色砂質土層	31.0 12.0 5.6 23.0 4.0×3.0 2.0		菱形	●扁平幅広の頭部がそのまま錐部へと移行 ●B面頭部中央に大剥離面残存 ●両面ともにやや粗い調整剥離を施しステップ状剥離が若干混在する	先端面は使用の為平坦
国版37 33	E-7 — 黑色粘質土層 (上層)	27.0 11.0 5.5 先端 5.0×3.0 1.7		半円形	●ずんぐりした棒状 ●下端へ徐々に狭まりそれが錐部となる ●両面にステップ状剥離が若干混在する ●B面中央に小さく大剥離面を留め、両面ともに調整剥離を施す	金山産 先端わずかに丸み
国版37 34	E-6 — 西側觀察用断面 — 暗黄灰色砂質土層 (粘土まじり)	31.5 10.0 7.0 両端 6.0×4.0 3.0×1.0 2.1		四辺形と 菱形	●ずんぐりした大型棒状 ●平面は柳葉形で、その上下両端が錐部となる ●上端は短く、丸みをもった錐部 ●下端は尖頭部がそのまま錐となる ●両面ともに調整剥離を施し、ステップ状を若干呈する ●両面中央に棱線を作り出す	上端は先端部側辺に磨滅。下端は明確には認められず
国版37 35	E-4 — 黑色粘質土層 (上層)	31.0 10.0 7.0 先端 — 2.2		不整形	●ずんぐりした棒状 ●A面右側辺は自然縫面を残し、左側辺は大剥離面を留め、さらに粗い調整を施す ●B面は全体に大剥離面が残存	先端部わずかに磨滅
国版37 36	D-5 溝214 暗黄灰色砂層	28.0(残存) 13.0 6.5 6.0(残存) 4.0×3.0 2.6		欠損部断面は四辺形	●中央に最大幅を有し、全体にずんぐりした棒状 ●A面中央に小さく大剥離面を留める ●B面は大きな人剥離面のため平坦 ●両面ともに調整剥離を施しステップ状剥離が若干混在 ●錐先端は欠損	現存部には認められず
国版37 37	E-5 — 黑色粘質土層 (上層)	30.0 15.5 8.5 15.0 4.5×4.0 3.7		四辺形	●やや幅広の頭部と先細りの錐部からなる ●頭部と錐部の区別は明確ではない ●A面左側面には打ち割った面を留め、両面全体に調整剥離 ●両面ともに大剥離面残存	明確には認められず
国版37 38	E-4 西側觀察用断面 — 黑色粘質土層 (上層)	32.0 14.0 6.0 先端 — 6.0		四辺形	●とりわけ錐部を作らず、尖頭部分がそのまま錐部になる ●両面は粗く剥離し、B面に大剥離面残存	先端部側辺に磨滅
国版37 39	E-6 溝24 暗黄灰色砂質土層	33.0(残存) 10.5 5.5 先端 2.3		四辺形	●上端は欠損し、頭部と錐部の区別は明確ではない ●A面は調整剥離を施し、左側面はエッジを形成せず厚みをもっている ●B面に大剥離面残存 ●両面ともにステップ状剥離が混在	金山産 先端から側辺9mmに水平方向の磨滅条痕

石錐（I類）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (m) (g)	長さ 幅 厚 離 鉛 重量	錐部断面	特徴	備考 (使用痕跡)
図版4-37 40	E-7 溝24 暗灰色砂質土層 (粘土まじり)	36.0(残存) 11.0 6.0 4.5(残存) 6.0×4.0 2.7	やや扁平な不整平行四辺形	●先端は欠損し、頭部は丸みをおびる ●両面とも全縁に調整 ●B面中央部には大剥離面残存し、側辺調整は全体に大まかで粗雑 ●B面左側辺には大ステップ状剥離がみられ、錐部基辺には急角度に入る調整剥離が施されている ●穂は錐部でA面左側辺に彎曲する	現存部には認められず	
図版37 41	E-8 溝105 灰黒色粘質土層 (木片多し)	35.5(残存) 11.0 5.5 先端 — 2.2	菱形	●両端錐の可能性がある ●上端は難と思われる部分が折れて欠損 ●A面中央に大剥離面残存 ●両面ともに調整剥離が施されステップ状剥離が若干混在する	明確には認められず	
図版37 42	E-4 溝201 灰黒色粘質土層	38.0 11.0 5.5 先端 — 2.7	菱形	●すんぐりした棒状で平面は柳葉形 ●両面とも中央に縱長の大剥離面を留め、ていねいな調整剥離を施す ●両面とも先端部中央に棱を形成	金山産 明確には認められず	
図版37 43	F-8 西側観察用断面 暗灰色砂質	35.0 13.0 7.0 先端 6.0×4.0 3.2	レンズ状	●すんぐりした大型棒状 ●下端は序々に狭まりそれが錐部となる ●両面とも中央に縱長の大剥離面残存 ●全面に調整剥離を施しステップ状剥離が若干混在	明確には認められず	
図版37 44	E-3 黑色粘質土層 (上層)	35.0 16.5 6.0 先端 — 3.0	菱形	●縱長で逆三角形 ●上下両端が厚く、中央が薄い ●下端がそのまま錐部となる ●両面ともに大剥離面を留め、全体的に粗い調整を施し、ステップ状剥離を呈する	金山産 明確には認められず	
図版37 45	E-5 — 淡黄色砂質土層	35.0(残存) 12.0 5.1 2.0(残存) 4.0×3.2 2.5	四辺形	●縱長の頭部で、A面右側辺は先細りになる ●頭部上端は打ち欠き面が、両面は大剥離面が残る ●頭部側辺の調整は、両面とも左側辺のみに調整剥離がみられる ●錐部は先端をやや欠損しているがA面右側辺にも一部調整剥離がみられる	明確には認められず	
図版37 46	E-4 — 黑色粘質土層 (上層)	49.0(残存) 12.0 7.5 先端 6.5×2.5 (残存) 3.5	欠損部断面はレンズ状	●中央に最大幅を有し、全体に棒状を呈するがやや屈曲する ●両面ともに調整剥離を施し、ステップ状剥離が若干混在する ●錐部先端を欠損	現存部には認められず	

石錐（I類）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 鍔長 鍔径 重量	鍔部断面	特徴	備考 (使用痕跡)
図版37 + 47	D-3 — 黑色粘質土層 (上層)	36.0(残存) 14.5 6.5 24.0(残存) 5.0×3.5 3.2		欠損部断面は半円形に近い	<ul style="list-style-type: none"> ・すんぐりした棒状 ・上半梢円形の頭部でそのまま下端が錐部となる ・両面ともに入剥離面残存 ・A面両側辺に調整剥離面を施し、ステップ状剥離が混在する ・B面はA面に比べてほぼ平坦 	現存部には認められず
図版37 + 48	E-7 南側観察用断面 — 黑色粘質土層 (上層)	40.5 15.5 9.0 両端 5.0×3.0 7.0×4.5 5.8		四辺形と円形	<ul style="list-style-type: none"> ・上端に最大幅をもち、上下内端がそのまま、錐部となる ・両面ともに入剥離面をもち、調整剥離を施し、ステップ状を呈する ・A面右側面に若干自然縫面が認められる ・B面下端部に段をもつ ・下端錐部に厚みをもつ 	上端はわずかに認められる。下端は先端から側辺5mmに明確な水平方向の磨滅条痕
図版37 + 49	E-6 溝24 暗黄灰色砂質土層	37.0 16.0 8.4 14.0 5.0×5.0 5.8		三角形	<ul style="list-style-type: none"> ・すんぐりした太型棒状 ・上半は不整梢円形の頭部でそのまま下端が錐部となる ・A面は中央に大剥離面が残存し、全面に調整剥離を施し、ステップ状剥離が混在 ・B面は頭部から錐部中央にかけて大剥離面が残存 ・B面錐部左側辺に打ち割った面がみられる 	明確には認められず
図版37 + 50	Z Z — — 先端	35.0 16.0 8.0 — 4.8		三角形に近い	<ul style="list-style-type: none"> ・頭部はすんぐりした、不整梢円形を呈する錐で、そのまま下端が錐部となる ・上端面に自然縫面 ・B面に大剥離面残存 ・全体に粗い剥離を施し、ステップ状を呈する 	明確には認められず
図版37 + 51	E-6 — 暗黄灰色砂質土層	36.5 16.5 8.5 先端 — 5.8		四辺形	<ul style="list-style-type: none"> ・頭部はすんぐりした不整梢円形 ・両面ともにやや粗い剥離を施し、ステップ状剥離が若干混在 ・A面の中央と左側面に自然縫面 ・B面の中央に大剥離面残存 ・B面は比較的平坦面をなす 	先端わずかに磨滅
図版37 + 52	F-6 — 黑色粘質土層 (上層)	38.0 16.0 6.5 15.0 3.0×2.0 3.6		四辺形	<ul style="list-style-type: none"> ・全体を粗く打ち欠いて頭部概形を作り、その下端尖頭を調整してそのまま錐部となす ・上端面に自然縫面を残す ・A面錐部に大剥離面残存する ・A面にステップ状剥離が混在 ・B面は、全体に大剥離面を留め、打点は右上方にある 	先端はやや丸み
図版37 + 53	F-8 西側観察用断面 — 暗黄灰色砂層	42.0 15.0 8.0 先端 — 4.7		レンズ状	<ul style="list-style-type: none"> ・すんぐりした太型棒状で、下端へ序々に狭まり、それが錐部となる ・両面中央に大剥離面が残存し、共に調整剥離を施し、ステップ状剥離が若干混在 ・全体に風化 	先端に明確な磨滅

石錐（I類）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	持さ 幅 厚 錐部 重量	錐部断面	特 徴	備 考 (使用痕跡)
図版4-37 54	E-4 — 灰黑色砂質土層	42.5 — 14.5 7.0 7.0 6.0×4.0 4.5		菱形	<ul style="list-style-type: none"> 全体にすんぐりしたタイプで、頭部と錐部の区別はつきにくい 頭部上端面に原石面 A面の錐部にも0.5×0.4ぐらいの原石面がみられる 使は、A面は中央部に、B面はやや側辺寄りに通っている 全体に大きな調整剥離で整えられ、錐部は細かい調整が認められる 	認められず
図版37 55	E-5 — 黑色粘質土層 (上層)	40.5(残存) — 17.0 9.0 — 5.3		扁平なレンズ状 先端	<ul style="list-style-type: none"> 木の葉形を呈し、厚い。 頭頂端をわずかに欠損するが、両端とも錐的可能性 両面左側邊でそれぞれ面をなす。つまり中央断面は、ほぼ平行四辺形を呈する。 調整剥離を両面両側邊から施すが粗加工まとめており、そのためステップ状剥離がA面左側邊で多く認められる B面左側邊上半に自然縫面を残すが凹凸が激しく、径5mmの凹みが縦に通る 	明確には認められず
図版37 56	D-3・D-4 間観察用断面 — 黑色粘質土層 (下層)	40.0(残存) — 16.5 6.5 — 18.0(残存) 5.5×4.0 3.5		不整三角形	<ul style="list-style-type: none"> 頭部扁平でA面にスティック状剥離 B面は頭部から錐部にかけて大剥離面を残す 上端面は打ち割ったまま 頭部下端を調整しそのまま錐部となす 頭部下半から錐部にかけて、両側邊に粗い調整剥離 頭部に比べて錐部に厚みがみられる 錐部先端わずかに欠損 	錐部残存部5mmにわたり磨滅がみられる
図版37 57	E-8 — 青灰色砂層	44.0 — 12.0 8.5 先端 8.7×5.0 5.2		三角形	<ul style="list-style-type: none"> すんぐりした棒状の錐 頭部・錐部の区別はなし A面左側面に主要剥離面をもち打点は左方にあたる B面上端に大剥離面残存 両面ともにやや粗い調整剥離 ステップ状剥離が若干混在 	先端わずかに丸み
図版37 58	E-4 — 黑色粘質土層	45.5 — 17.5 9.0 16.5 4.0×3.0 7.5		四辺形	<ul style="list-style-type: none"> 片側邊中央が突出し、右側面は打ち割った大剥離面が残存 両面ともに大剥離面を留め、全体に粗い剥離を施し、ステップ状を呈す 	金山産 明確に認められず
図版37 59	D-4 溝105 灰黑色粘質土層 (木片多し)	43.0(残存) — 18.0 10.0 先端 5.3×5.9 (残存)		欠損部断面は三角形	<ul style="list-style-type: none"> すんぐりした太型棒錐 上半横円形の頭部、そのまま下端が錐部となる A面左側面に打ち割った面が残る 両面ともにやや粗い調整剥離を施し、ステップ状剥離が混在する 錐部先端欠損 	現存部には認められず

石錐（I類）

図版番号	出土地名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅厚 鉢径 錐重量	錐部断面	特 徴	備 考 (使用痕跡)
図版37 60	E-4 — 黑色粘質土層 (上層)	47.0(残存) 15.0(残存) 9.0(残存) — 7.1	欠損部断面は薄い、レンズ状	●大型の棒状錐 ●先端部を欠損 ●B面中央に凹みがある自然縫面を残す ●A面上方中央には大剝離面を残す ●A面下方中央にステップ状剥離 ●他は両面とも調整剥離	現存部には認められず	
図版4-37 61	D-3 — 黑色粘質土層 (上層)	54.0 14.0 8.0 11.0 8.0×5.5 6.6	半円形	●すんぐりした大型棒状の錐 ●平面上に柳葉形を呈す ●上端面には自然縫面 ●A・B両面とも剥離調整	先端から左側邊に7.0mm、右側邊に10.0mmの所まで使用痕(横方向に磨滅条痕)	
図版37 62	E-5 — 暗黃灰色砂層	34.0(残存) 19.0 12.5 7.5 4.0×2.0 9.0	四辺形	●幅広ですんぐりした大型の錐 ●上端欠損 ●下端がそのまま錐部となる ●A面頭部中央に自然縫面が残る ●両面ともに剥離が施されステップ状剥離が混在する	明確には認められず	
図版37 63	E-4 — 灰黑色砂質土層	37.0(残存) 19.0 10.0 7.0(残存) 6.5×6.0 (残存) 7.5	欠損部断面は四辺形	●縦長の頭部下端を調整してそのまま錐部となす ●両面ともに大剝離面を留め、ほぼ全面を粗く剥離しステップ状を呈する ●B面左側に自然縫面が残る ●錐部先端部欠損	現存部には認められず	
図版37 64	D-4 落ち込み214 灰黑色粘質土層	28.0(残存) 13.8 6.0 — — 2.9	菱形	●縦長の頭部下半が大きく欠損 ●頭部境界にわずかに調整剥離が見られる	残存部には認められない 未製品	
図版41 315	E-7 — 黑色粘質土層 (上層)	26.5(残存) 8.0 5.5 4.0(残存) 2.0(〃) 5.0×3.0 (残存) 5.0×2.0 (残存) 1.1	扁平なレンズ状	●片先端を欠損でやや弓なりの棒状錐 ●A面中央に1つ、B面に2つ剝離面を残す ●調整剥離はA面では両側邊から比較的ていねいに施し、B面では大まかに少しだけ施されている ●B面上部に大きなステップ状剥離	明確には認められず	
図版41 316	F-7 — 黑色粘質土層 (上層)	32.0(残存) 13.0 7.0 2.0(残存) — 3.5×2.5 (残存) — 2.6	欠損部断面は菱形とレンズ状	●片側邊が彎曲し、他方はほぼ直線的 ●A面下半中央に自然縫面を残す ●片先端部は明確につくりだしていない ●両面とも調整剥離はやや雑な所もある ●A面で左側邊に彎曲しながら後が通る	現存部には認められず	

石錐（1類）

国版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 鉛長 鉛径 重量	錐部断面	特徴	備考 (使用痕跡)
図版41 317	D-3 — 黒色粘質土層 (下層)	36.0 10.0 6.5 1.0 1.7 8.0×5.0 8.0×4.5 2.6	不整形 (両錐とも)		<ul style="list-style-type: none"> ・ゆがんだ棒状でふ厚く、両端に錐部 ・両面とも大まかな調整剥離の後細かいものを施すが、乱雑である ・A面にやや不明瞭な継をなす 	明確には認められず
図版41 318	E-4 — 黒色粘質土層 (上層)	34.5(残存) 8.5 3.5 — — 1.3	欠損部断面は扁平なレンズ状		<ul style="list-style-type: none"> ・両端を欠損するが弓なりに曲がった棒状を呈する ・両面とも中央に小さく大剥離面を残し、B面右側辺中央には自然縫面を残す ・両面とも雑な調整剥離である 	現存部には認められず
図版5-41 319	E-6 溝24 暗黄灰色砂層	37.0(残存) 11.0 5.7 12.5(残存) 15.8 4.5×2.2 4.5×1.5 1.5	(上)四邊形 (下)扁平な扇形		<ul style="list-style-type: none"> ・両先端が錐部となり中央に最大厚をなし、全体に細かな調整剥離が施される ・中央片側が突出した細長の形状 	明確には認められず
図版41 320	D-5 — 黒色粘質土層 (上層)	39.0 13.0 10.5 9.0 11.5 7.0×5.0 8.0×6.5 4.9	レンズ状 (両錐とも)		<ul style="list-style-type: none"> ・体部中位に最大幅をもち、弓なりを呈する ・A面中央に自然縫面を残し、B面中央に大剥離面を残す ・調整剥離は両面ともやや雑である ・両側辺沿いにステップ状剥離 	両錐とも先端磨滅
図版41 321	E-7 — 暗黄灰色砂質土層 (粘土まじり)	47.0 15.0 7.0 8.0 — 10.0 6.0×3.5 7.0×4.5 4.1	レンズ状 (両錐とも)		<ul style="list-style-type: none"> ・片側辺が大きく丸く突出する ・両面とも全体に雑な調整剥離を施す ・両側辺沿いにステップ状剥離が認められる 	先端から側辺8mmに磨滅と2mmに磨滅
図版41 322	F-7 西側観察用断面 — 黒色粘質土層 (下層)	35.5(残存) 20.0(残存) 6.5(残存) — 9.0 17.0 5.5×3.0 6.5×3.5 3.7	レンズ状 (両錐とも)		<ul style="list-style-type: none"> ・錐部が2つ現存するが、計3つか4つはあったと思われる ・不整形の大きな頸部から錐部が突出する ・両面に大剥離面を大きく残す ・両面とも各辺から調整剥離が大まかに施される 	金山産 明確には認められず 先端から側辺6.5mmに磨滅

石錐（I類）

国版番号	出土地名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 鍾 長 距 重量	鍾部断面	特 徴	備 考 (使用痕跡)
岡版41 323	D-3 — 黑色粘質土層 (上層)	47.0(残存) 22.0(残存) 10.0 7.5(残存) 8.0(残存) 7.0×6.0 (残存) 8.0×5.0 (残存) 7.6		欠損部断面は三角形	<ul style="list-style-type: none"> 両端および片側辺中央を欠損 全体的に不整な平行四辺形を呈する 片側辺に自然縫面を大きく残す 両面に大剥離面を2~3カ所残し、A面中央に明瞭な棱をなす 自然縫面を残す部分を除いて、両面とも両側辺から調整剝離を施す 	未製品
岡版5-42 324	E-5 — 黑色粘質土層 (上層)	33.0 14.0 4.0 11.8 2.5 3.0×1.8 2.0×1.3 1.8		扁平な五角形と四辺形	<ul style="list-style-type: none"> 上下の両端に錐部の可能性あり 両面の周囲全体に細かな調整剝離が施されている 両面とも大剥離面を残す 最大厚は片側辺中央の突出している所 	明確には認められず
岡版42 325	D-5 — 黑色粘質土層 (下層)	37.0(残存) 16.0 6.5 11.0(残存) 5.0 10.0×6.0 7.0×3.0 3.9		欠損部断面は厚いレンズ状と扁平なレンズ状	<ul style="list-style-type: none"> 片側辺中央が凸形状に大きく突出する 片先端を欠損し、他方は丸みを帯びる 両面とも中央に大剥離面を残す 調整剝離は両面にやや難に施す 両側辺沿いにステップ状剥離 	現存部には認められず
岡版5-42 326	D-5 西側観察用断面 — 暗黄灰色砂層	38.5 17.0 10.0 13.0 7.5 4.6×3.5 4.0×2.9 5.6		不整五角形	<ul style="list-style-type: none"> 全体に菱形を呈し、素材全体を調整剝離 上下両端に近い錐部 頭部先端の錐部欠損 A面中央に後が通り、最大幅が中央部にみられる B面中央に大剥離面が残存する 両側辺は急角度で比較的ていねいな調整剝離がみられる 	明確には認められず
岡版42 327	E-5 — 黑色粘質土層 (上層)	41.0(残存) 13.5 8.0 6.0(残存) 2.0 3.5×5.0 (残存) 2.0×2.5 4.1		欠損部断面は継長のレンズ状と半円形	<ul style="list-style-type: none"> 片先端をわずかに欠損 片側辺は大きく突出するが、他方はA・B面に対し垂直で、下半に大剥離面を残し、上半ではステップ状剥離が認められる B面はフラットな面で、大部分に自然縫面が残る 詳な調整剝離を両面に施す 	片先端では明確に認められず 現存部には認められず
岡版42 328	F-7 — 明黄灰色砂質土層	36.5(残存) 28.0(残存) 5.0 8.0(残存) 6.5(残存) 6.0×3.0 (残存) 10.0×4.0 (残存) 5.7		欠損部断面はレンズ状と三角形	<ul style="list-style-type: none"> 両先端を欠損 中位に逆削をもつ錐部に、その上下に錐部がついたもの A面に2つ、B面に1つの大剥離面を残す 片側辺上半分にも大剥離面を残す B面左側辺上半分以外の他の内面の辺に調整剝離を施すが大まかである 	未製品

石錐(Ⅱ類)

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 長径 短径 重	錐部断面	特 徴	備 考 (使用痕跡)
図版37 65	D-4 — 黑色粘質土層 (上層)	35.5 10.0 5.5 21.0 4.5×1.5 1.7	菱形	●上方に最大幅である棒状の錐 ●内面頭部に大剥離面残存 ●錐部全面極めて丁寧な調整剥離を施す ●両面中央に明確な縫隙をもつ	先端や丸みをもつ	
図版37 66	E-8 構100 暗黃灰色砂質土層 (粘土まじり)	49.0 10.5 6.5 11.5 3.5×2.0 3.6	不整合形	●継長で素材時の大剥離面を頭部に四面もつ ●錐部は三面からなりわずかに調整が部分的に施されている ●頭部から錐部にかけて一辺のみに不揃いな調整がみられるだけで他では調整が施されず ●頭部断面は不整合形状 ●錐部側刃欠損	先端わずかに磨滅	
図版37 67	E-3 — 黑色粘質土層 (上層)	42.0 12.0 6.0 19.0 4.2×3.7 3.2	三角形	●継長の頭部下端がそのまま錐部となる ●A面頭部右側に自然面残存 ●A面錐部には調整剥離 ●B面左側に大剥離面を留め、打点は頭部上端中央にあたる ●全体的に粗いつくりである	明確には認められず	
図版37 68	C-4 落ち込み214 灰黒色粘質土層	42.0 18.0 10.0 12.0 3.7×2.8 8.3	不整形	●継長の頭部 ●頭部上端と片側面には自然剥離 ●A面中央継長に大剥離面を留め頭部左側辺と頭錐部境界にやや粗い剥離を施す ●B面はA面に比べやや平坦ぎみである ●両面ともにステップ状剥離が混在する	明確には認められず	
図版4-37 69	E-5 — 黑色粘質土層 (上層)	42.0(残存) 18.5 7.0 0.45 6.2×3.6 5.2	不整菱形	●両面ともに扁平な頭部でA面には自然剥離を残す ●B面には大剥離面を残す ●片側縁のみ両面からの剥離 ●片側縁は研磨されている ●錐部は先端を欠損する	残存錐部に使用痕みられる	
図版37 70	Z Z — —	40.2 18.0 5.0 5.0 6.5×2.5 4.3	菱形に近い	●継長の頭部下端が錐部となる ●上端片面側は打ち割ったままである ●A面は両側辺からB面は左側辺に調整剥離が施される	先端から4.5mmのところに磨滅が見られる	
図版37 71	F-7・F-8 間観察用断面 — 灰黒色粘質土層	47.0(残存) 23.0 7.0 34.0(残存) 5.5×4.0 (残存) 6.1	不整四辺形	●継長の錐、上半広がって頭部となる ●上端面は自然剥離面、両面とも中央に大剥離面残存 ●両側辺に調整剥離 ●錐部先端欠損	現存部には認められず	
図版38 72	E-6 — 暗黃灰色砂質土層 (粘土まじり)	52.5(残存) 19.5 8.0 37.0(残存) 5.0×3.0 7.9	扇形	●継長の錐 ●A面の一部に大剥離を留め、頭部右側辺に主要剥離面が見られ打点は右方にあたる ●B面頭部に主要剥離面を留め、打点は右上方にあたる ●中央に大剥離面残存 ●両面とも両側辺より調整剥離 ●錐部先端欠損	現存部には認められず	

石錐（Ⅱ類）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 高 錐 長 径 重量	錐部断面	特 徴	備 考 (使用痕跡)
図版38 + 73	E-5 西側觀察用断面 — 黒色粘質土層 (上層)	50.5 17.0 9.0 30.5 5.5×2.5 7.2		三角形	<ul style="list-style-type: none"> ・錐長の錐 ・右側面は打ちわった大剥離面で構成し、頭部上端欠損面 ・A面左側辺に調整剥離が施されている ・錐部先端は丸みをもち回転痕が認められる ・両面ともに大剥離面残存 	金山産 認められる
図版38 + 74	D-4 溝105 暗黃灰色砂質土層 — (粘土まじり)	51.0(残存) 17.0 13.0 8.0×4.2 10.1		環形	<ul style="list-style-type: none"> ・錐尖の錐 ・A面全体に調整剥離を施すステップ状剥離を呈する ・B面両側に大剥離面を留め頭部中央に打点をもつ ・中央に稜線をつくる ・全体に厚みをもっている 	明確に認められず
図版38 + 75	D-4 — 黒色粘質土層 (上層)	47.0(残存) 20.0 7.0 35.0 7.0×3.0 6.4		菱形	<ul style="list-style-type: none"> ・錐長の錐 ・幅広の頭部上面左側を打ち削っている。上面右側に自然剥離面を残す ・A面錐部に明確な稜線をつくる ・B面中央に大剥離面残存 ・錐部両側とともに調整剥離を施す ・錐部先端は欠損 	現存部に認められず
図版38 + 76	E-5 溝238 黒灰色粘質土層	50.0 15.5 10.5 19.5(残存) 5.5×5.0 (残存) 9.1		三角形に 近い四邊形	<ul style="list-style-type: none"> ・素材を打ち削って錐としての概形をつくった大型の錐 ・両面両側ともに大剥離面を留める ・錐部は両側辺より調整剥離 ・全体に粗いつくりである ・錐部先端欠損 	現存部に認められず
図版38 + 77	E-5 溝238 黒灰色粘質土層	52.0(残存) 21.0 9.0 先端 7.0×3.0 (残存) 8.8		欠損部断面は三角形	<ul style="list-style-type: none"> ・錐長 ・幅広の頭部 ・両面ともに調整剥離を施すステップ状剥離が若干混在する ・B面の上面に自然面を残す ・錐先端欠損 	金山産 現存部には認められず
図版38 + 78	F-6 — 黒色粘質土層 (上層)	54.0(残存) 17.5 14.0 先端 8.0×4.5 (残存) 15.5		欠損部断面は菱形	<ul style="list-style-type: none"> ・錐長で厚みあり ・上端は欠損し、錐部の区別は明確ならず ・両面ともに全面剥離でステップ状剥離が若干混在 ・錐部先端欠損 	金山産 現存部には認められず
図版4-38 + 79	Z Z — —	61.0 14.0 11.0 14.0 6.7×4.9 8.9		菱形	<ul style="list-style-type: none"> ・錐長で大型 ・A面上端及び中央部に自然面を残す ・B面上端の中央部に大剥離面を残す ・ほぼ全体的に調整剥離を施している 	明確には認められず

石錐（Ⅱ類）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 総重量	錐部断面	特徴	備考 (使用痕跡)
図版4-38 80	F-6 — 黑色粘質土層 (上層)	59.0 25.0 10.0 上端 — 15.2	扇形に近い	● 縦長で、中央に最大幅と最大厚をもつ ● 頂部下端から片側をわずかに抉り錐部をなす ● 頂部は粗く、錐部は細かく調整 ● A面左側辺にステップが集中して見られる ● B面中央に原石面残存	明確には認められず	
図版38 81	C-3 — 灰黒色粘質土層 (木片多し)	72.0 28.0 15.5 46.0 8.0×6.0 27.2	菱形	● 面厚く総長で、きわめて大型の錐 ● 上半広がって頭となる ● 頂部の左側と錐部の左側の一部に自然碌面があり、右側面は打ち削った大剥離面である ● A面は、上端中央に打点をもつ大剥離面を留める ● B面上位に大剥離面残存 ● 錐部には粗い調整	明確には認められず	
図版38 82	D-4 — 黑色粘質土層 (上層)	34.0(残存) 23.0 9.4 先端 — 8.8	菱形	● 扁平で逆三角形に近い ● 上端欠損 ● 両面ともに大剥離面を留め周囲は調整剥離を施し、若干ステップ状を呈する ● 下端がそのまま錐部となる	やや丸みをもつ	
図版38 83	D-5 西側観察用断面 — 黑色粘質土層 (上層)	45.0(残存) 22.0 7.0 15.0(残存) 13.0×5.0 (残存) 8.4	欠損部断面は菱形	● 縦長で幅広 ● 下端がそのまま錐部 ● A面に自然碌面残存 ● B面はほぼ全体に大剥離面を留める ● 両面ともに粗い調整剥離でステップ状剥離が若干混在する ● 錐部先端欠損	金山産 現存部には認められず	
図版38 84	E-6 — 黑色粘質土層 (上層)	79.8 29.0 13.0 21.5 13.0×5.0 30.9	平行四辺形	● 特殊形態 ● 全体に細長く彎曲している ● 頂部は、上端は丸く仕上げられ両面とも両側辺より調整剥離が施され、エッジは刃剥れがみられる ● 錐部は頭部下端よりいったん逆刺状に突出し、側辺は直線を呈す ● 錐部は両面とも両側辺より調整剥離を施し、先端は鈍く尖る	先端から両側辺8mm にわたり磨耗痕みられる	
図版38 85	D-3 南側観察用断面 — 黑色粘質土層 (上層)	56.0 30.2 9.3 14.5 16.5×7.0 15.3	杏仁形	● 横長のうすい剥片を利用 ● 頂部A面上半から下半中央、左側辺にかけて自然碌面が残存し、B面頭部上半には大剥離面が残存 ● 頂部調整は両面とも大きい剥離が主でB面左側辺に細かい調整剥離 ● 錐部は頭部下半A面左側辺が丸く抉った後、両辺が直線的に先細る ● 錐部はA面両側辺のうすい細かい剥離と、B面両側辺の深い剥離で調整	明確には認められず	

石錐(Ⅱ類)

国版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) 幅 (mm) 長 (mm) 重量 (g)	長さ 幅 高さ 錐部 断面	特 徴	備考 (使用痕跡)
国版38 86	E-3 — —	41.0(残存) 25.0 7.0 8.0 13.0×4.0 8.6	扁平な長方形	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広のすんぐりした錐 ・A面縱方向に大剥離面残存 ・片側下半に抉りをいれ、錐部を作りだす ・上端及び右側辺のエッジはやや磨滅ぎみ ・B面中央に自然縫面残存 ・両面ともに粗い調整剥離を施し、ステップ状剥離が混在 ・錐部先端欠損 	明確には認められず
国版38 87	E-4 南側觀察用断面 — — 黑色粘質土層 (上層)	16.5 6.5 3.0 2.5 2.5×1.0 0.3	三角形	<ul style="list-style-type: none"> ・小型で全体的に不整な逆二等辺三角形 ・素材をそのまま利用のため、両面に大剥離面を残す ・A面左上にステップ状剥離 ・B面両側辺にのみ調整剥離 	明確には認められず
国版38 88	E-6 — 暗黄灰色砂質土層	19.0 9.0 2.3 12.0 3.0×1.4 0.3	三角形	<ul style="list-style-type: none"> ・小型 ・わずかに幅をもつ小さな頭部 ・A面は、全体に粗い剥離を施し、錐部右側辺に段をもつ ・B面は、全体に大剥離面を留め、錐部左側辺に細かい剥離を施す 	先端やや丸み
国版38 89	E-5 溝238 黑灰色粘質土層	21.0(残存) 11.5 6.0 7.0(残存) 6.5×5.0 (残存) 1.6	欠損部断面は三角形	<ul style="list-style-type: none"> ・上端片方へ突出する頭部をもつ ・錐部の大半を欠損 ・両面とも頭部中央に大剥離面を残すが、A面では小さい ・両面とも両側辺より調整剥離を大まかに施し、ステップ状剥離が混在 	金山産 現存部には認められず
国版38 90	Z Z — —	23.0 8.0 5.5 6.0 3.5×2.9 1.1	三角形	<ul style="list-style-type: none"> ・わずかに幅をもつ小さな頭部 ・頭部上端に自然縫面 ・頭部、錐部とも両面に大剥離面残存 ・A面左側辺は打ち落し、右側辺に調整剥離 	先端やや丸み
国版38 91	E-7 — 暗黄灰色砂質土層 (粘土まじり)	24.0 9.0 2.6 先端 1.5×0.4 0.5	台形	<ul style="list-style-type: none"> ・最大幅が頭部上端で、錐部方向に狭まる ・両面ともに大剥離面が残存し両側辺に細かく剥離を施し、整形 ・明確には錐部を作り出さず 	明確には認められず
国版38 92	E-5 — 黒色粘質土層 (上層)	24.0 8.5 4.0 9.0 4.0×2.5 0.8	平行四辺形	<ul style="list-style-type: none"> ・小型で菱形の頭部をもつ ・両面中央に大剥離面を残す ・A面右側辺以外の両面各辺から調整剥離をていねいに施す 	先端はわずかに磨滅

石錐(Ⅱ類)

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 解 長 距 重量	錐部断面	特徴	備考 (使用痕跡)
図版38 93	D-4 — 黑色粘質土層 (下層)	25.0 — 7.0 4.0 先端 — 0.7		三角形	●最大幅が頭部にあたり、錐部方向に狭まる ●A面中央に大剥離面を留め、両側に調整剥離を施す ●B面は全面的に大剥離面ではほぼ平坦である	明確には認められず
図版38 94	E-4 — 黑色粘質土層 (上層)	23.0(残存) — 7.5 4.0 先端 5.5×4.0 0.7		欠損部断面は菱形	●最大幅が頭部上端で錐部方向に狭まる ●両面は両側辺より細かく調整剥離 ●B面は中央に大剥離面残存 ●錐部先端は欠損	現存部には認められず
図版38 95	E-4 南側觀察用断面 — 灰黒色粘質土層	26.0 — 9.0 6.0 先端 4.8×3.0 1.4		四辺形	●最大幅が頭部上端で錐部方向に狭まる ●A面右側面には自然剥離面が残り、一部に大剥離面残存 ●B面全体に大剥離面が残り、右側辺にはやや粗い剥離を施す ●A面錐部左側辺に抉り状の剥離が認められる	金山産 先端や丸み
図版38 96	ZZ — —	25.0(残存) — 11.0 5.0 6.0(残存) 5.0×3.0 1.2		欠損部断面は長方形	●棒状で錐部大半を欠損 ●両面に大剥離面を残すが、特にA面では中央と右側辺沿いに2ヶ所残す ●A面右側辺以外の両面各辺から調整剥離を施す	現存部には認められず
図版38 97	F-7 — 黑色粘質土層 (上層)	24.0 — 9.0 4.3 10.3 4.2×2.1 1.0		三角形	●比較的小さな頭部 ●A面頭部、錐部右側辺にそれぞれ主要剥離面を残し、中央に段をもつ ●B面中央に大剥離面を残す ●錐部両面ともにやや粗い調整剥離	明確には認められず
図版38 98	F-7 — 黑色粘質土層 (上層)	28.0 — 9.0 7.0 6.0 3.0×4.0 1.7		レンズ状	●縦長で中央断面がほぼ正三角形を呈する頭部をもつ ●三面とも大剥離面を残し、特に三面は大きく残す ●三面とも調整剥離を施し、大剥離面をわずかしか残さない面は特に顯著で、他の三面は錐部に施される ●頭部と錐部の境にステップ状剥離が認められる	先端わずかに磨滅
図版38 99	E-5 — 黑色粘質土層 (下層)	27.0 — 10.0 3.5 11.0 3.0×1.2 1.0		三角形	●わずかに幅をもつ小さな頭部で、錐部方向に狭まる ●A面頭部中央に一部大剥離面を留め、全体に剥離が施されている ●B面全体に大剥離面残存し、両側辺には細かい剥離が施されている	明確には認められず
図版38 100	D-4 — 黑色粘質土層 (上層)	25.0(残存) — 13.0(残存) 5.2 先端 4.6×3.0 1.7		不整四辺形	●頭部上端・錐部先端とも欠損 ●上端に最大幅をもち序々に狭まり、稍曲している ●両面とも大剥離面を留め、両側辺に粗い剥離を施す	現存部には認められず

石錐（Ⅱ類）

石錐（Ⅱ類）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) 幅 厚 長 重 量 (g)	長さ (mm) 幅 厚 長 重 量 (g)	錐部断面	特徴	備考 (使用痕跡)
図版38 109	D-6 —— 暗黃灰色砂層	36.5 14.0 7.0 5.0 3.5×2.0 4.0	長さ (mm) 幅 厚 長 重 量 (g)	扁平な台形	<ul style="list-style-type: none"> ・錐部を尖らしていない ・上端近くで最大幅を有し、頭頂端でやや突出する ・片側辺に自然面をほぼ垂直に残す ・両面とも大剥離面を大きく残す ・調整剥離は、A面左側辺とB面右側辺からていねいに施されるが、B面左側辺でも1ヶ所のみ施されている 	未製品
図版38 110	E-3 —— 明黒灰色粘質土層	34.0 12.0 4.0 7.0 4.0×2.7 1.7	長さ (mm) 幅 厚 長 重 量 (g)	不整四辺形	<ul style="list-style-type: none"> ・頭部上半兩側面は打ち落とし、下半には調整剥離を施す ・頭部全体に大剥離面残存 ・錐部両面とも調整剥離が施され、先端には棱線をつくり出す 	明確には認められず
図版38 111	E-5 —— 青黒色砂質土層	37.0 12.0 15.8 15.0 2.4×1.2 2.7	長さ (mm) 幅 厚 長 重 量 (g)	半円形	<ul style="list-style-type: none"> ・縦長で頭部上端面、右側面は打ち落とす ・A面、全面に剥離を施す ・B面中央に大剥離面を留める ・両面とも、ステップ状剥離が若干混在する ・錐部両面とも調整剥離を施す 	明確には認められず
図版38 112	D-5 —— 西側觀察用断面 黑色粘質土層 (上層)	27.0(残存) 13.0 6.5 9.0 2.0×1.0 2.2	長さ (mm) 幅 厚 長 重 量 (g)	菱形	<ul style="list-style-type: none"> ・頭部上端は欠損 ・楕円形の頭部下端を調整し、錐部となる ・両面とも調整剥離を施し、ステップ状剥離を呈する ・B面中央部に大剥離面が残存 	明確には認められず
図版38 113	E-4 —— 黑色粘質土層 (上層)	16.0(残存) 10.0(残存) 2.0(残存) 3.5(残存) 3.0×1.0 0.4	長さ (mm) 幅 厚 長 重 量 (g)	欠損部断面は扁平なシングル状	<ul style="list-style-type: none"> ・扁平で小型 ・頭部上半および錐部先端を欠損 ・両面とも両側辺から調整剥離を施すが特にA面錐部では細かいものをしていねいに施されている ・B面に大剥離面を残す 	現存部には認められず
図版38 114	Z.Z ——	19.0 12.0 4.0 7.0 2.7×2.1 0.7	長さ (mm) 幅 厚 長 重 量 (g)	三角形	<ul style="list-style-type: none"> ・比較的小型で全体にやや粗いつくりである ・不整円形の頭部下端に錐部が続く ・A面中央に主要剥離面 ・B面中央に大剥離面を留め、頭部右側下半に抉りをいれ錐部をつくり出す 	明確には認められず
図版38 115	F-7 —— 黑色粘質土層 (上層)	19.0(残存) 12.0(残存) 3.5(残存) 4.0 4.0×2.5 1.0	長さ (mm) 幅 厚 長 重 量 (g)	レンズ状	<ul style="list-style-type: none"> ・頭部上半を欠損 ・現存部は逆三角形状を呈する ・両面とも両側辺から調整剥離を施し、中央には大剥離面が残存 	先端から側辺4mmに磨滅
図版38 116	E-7 —— 灰黑色粘質土層 (木片多し)	23.0(残存) 11.5 4.0 先端 3.0×1.0 (残存) 1.0	長さ (mm) 幅 厚 長 重 量 (g)	欠損部断面は三角形	<ul style="list-style-type: none"> ・わずかに幅をもつ小さな頭部下端に錐部がつづく ・錐部先端は欠損 ・両面とも大剥離面が残存し、全体に粗い剥離を施し、ステップ状剥離が混在する ・B面右側辺にやや小さな剥離がみられる 	現存部には認められず

石錐(II類)

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅厚 鉛距 重量	錐部断面	特徴	備考 (使用痕跡)
図版38 117	E-3 溝238 黒灰色粘質土層	23.0(残存) 16.0 3.5 11.0(残存) 3.9×2.5 1.1		欠損部断面は菱形	<ul style="list-style-type: none"> やや幅広の頭部上端の一部欠損 錐部先端は欠損 頭部、錐部とも両側辺に調整剥離を施し、ステップ状剥離が若干混在する 両面とも中央に大剥離面が残存 	明確には認められず
図版38 118	E-7 溝24 暗黄灰色砂層	25.5 15.0 4.3 10.0 5.3×1.8 1.3		扁平な菱形	<ul style="list-style-type: none"> 最大幅が頭部にあたり、錐部方向に狭まる 両面削離辺より細かい調整剥離 A面頭部に大剥離面が残存 B面頭部中央に主要剥離面を留め、打点は上端にあたる 	明確には認められず
図版38 119	E-3 — 黒色粘質土層 (上層)	26.0 13.0 8.0 11.5 3.5×2.5 2.3		三角形	<ul style="list-style-type: none"> 幅広な頭部は粗い剥離面よりなる 頭部は3面となり、厚みをもつて、上端面は打ち割ったまま 頭部と錐部の境に抉り状の剥離を施し、錐部をつくり出す 錐部の調整剥離は粗い 	金山産 錐部先端から2mmにかけて磨滅
図版4-38 120	D-3 南側觀察用断面 — 黒色粘質土層 (上層)	24.5 15.0 5.0 — — 1.9		菱形	<ul style="list-style-type: none"> 扇形の頭部をもち下半がそのまま錐部へつなぐ 頭部両面に大剥離面が残存 側辺は調整剥離を施している 	明確には認められず
図版38 121	D-4 西側觀察用断面 — 灰黒色粘質土層	28.0 16.0 6.0 先端 — 2.4		台形	<ul style="list-style-type: none"> 縱長で逆三角形を尾し、下端がそのまま錐部となる A面中央に大剥離面を留め、左側辺にやや粗い調整剥離を施し、右側辺は打ち割った面 B面はほとんど平坦で、中央には大剥離面が残存し、上端右方向に大きな剥離を残し段をもつ 	明確には認められず
図版38 122	E-5 — 黒灰色粘質土層	26.0 15.0 6.4 先端 5.6×4.1 2.6		半円形	<ul style="list-style-type: none"> 縱長で逆三角形 頭部下端がそのまま錐部となる 両面ともていねいな調整剥離を施し、ステップ状剥離が若干混在する 	先端から側辺6mmに横方向に研減条痕
図版38 123	D-3 — 黒色粘質土層 (上層)	32.0(残存) 15.0 5.8 15.0 5.5×3.1 2.8		三角形	<ul style="list-style-type: none"> やや幅広の頭部下端に錐部がつづく 頭部上端は欠損 両面とも大剥離面が残存 頭部、錐部ともやや粗い調整剥離を施し、ステップ状剥離が若干混在する 	金山産 明確には認められず
図版38 124	E-4 — 黒色粘質土層 (下層)	25.0 18.5 4.1 8.0 5.0×2.3 1.8		不整形	<ul style="list-style-type: none"> 幅広の頭部下端がそのまま錐部となる 両面とも中央に大剥離面を留める 頭部、錐部ともやや粗い調整剥離を施す 	明確には認められず

石錐（Ⅱ類）

図版番号	出土地名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 高さ 総長 総幅 重量	錐部断面	特 徴	備 考 (使用痕跡)
図版38 — 125	E-7 — 黑色粘質土層 (下層)	29.0 17.0 8.3 14.0 4.7×2.8 3.3	台形	●扇形の頭部下端に錐部がつづく ●頭部上端面には自然縫面 ●両面ともやや粗い調整剥離を施す ●A面中央に大剥離面が残存し、右側辺には打ち割った面をもち、左側辺には抉りをいわれ錐部をつくり出す	先端わずかに磨滅	
図版38 — 126	E-6 — 暗黃灰色砂層	30.0 16.0 5.5 15.0 5.1×2.9 1.8	扇形	●やや幅広の頭部下端に錐部がつづく ●両面中央に一部大剥離面が残存 ●全体的にやや粗い調整剥離を施す	先端両側辺に磨滅	
図版39 — 127	Z Z — —	30.0(残存) 14.0 5.0 9.0(残存) 3.2×2.5 (残存) 1.9	不整形	●縦長の頭部下端に短い錐部 ●頭部上端、左側面は打ち落とし面 ●両面とも大剥離面が残存 ●錐部右側辺にやや粗い調整剥離を施し、ステップ状が両面に混在する	現存部には認められず	
図版39 — 128	E-6 構238 黒灰色粘質土層	32.0 14.0 5.0 7.0 3.0×2.0 2.0	レンズ状	●縦長の頭部下端がそのまま短い錐部 ●錐部両面とも調整剥離 ●A面頭部上半に自然縫面を残し、全体に粗い剥離を施す ●B面頭部ほぼ全体に大剥離面を留める	先端から側辺5mm程度に水平方向の磨滅 条痕	
図版39 — 129	E-4 — —	29.0 15.0 6.0 10.0 3.5×2.0 1.2	三角形	●不整形の頭部をもつ ●素材をそのまま利用しているので両面に大剥離面を残し、片側辺にも大剥離面を垂直に残す ●A面左側辺、B面両側辺から調整剥離を施す	明確には認められず	
図版39 — 130	F-8 — 暗黃灰色砂質土層	28.5 21.3 5.3 10.0 6.5×3.5 2.9	菱形	●全体に扇形に近い頭部 ●頭部A面右側辺上半は欠損面で左側辺上半は自然縫面 ●頭部下半内側辺は両面より調整剥離を施す ●B面に大剥離面が残り、左側方に打点がある ●錐部先端は丸く鈍く、両面両側辺より調整剥離を施す	明確には認められず	
図版4.39 — 131	D-4 — 黑色粘質土層 (下層)	30.0 18.0 4.0 11.0 2.0×3.0 1.7	平行四邊形	●逆三角形に近い形状 ●頭部は斜めて、上端近くが最大幅 ●A面左側辺と頭部の右側、B面は錐部と頭部上端に急角度で細かな調整剥離が施される ●両面とも中央に大剥離面が残存 ●錐部の片側は頭部からそのまま錐部に、他方は錐部に入るところからわずかに内彎している	認められず	

石錐(Ⅱ類)

国版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 長 錐部重量	錐部断面	特 徴	備 考 (使用痕跡)
国版39 132	E-7 —— 灰黒色粘質土層 (木片多し)	33.0(残存) 15.0(残存) 6.5 12.0(残存) 5.5×3.5 2.9	欠損部断面は半円形	●上方片方へ突出する頭部 ●頭頂端および錐部下半を欠損 ●頭部上端面およびB面右側辺に自然面を残す ●両面とも頭部中央に大剥離面を残し、両側辺から調整剥離を難に施す ●B面頭部右上に細かなステップ状剥離が多く認められる ●A面錐部中央に稜をなす	現存部には認められず	
国版39 133	F-7 —— 南側觀察用断面 —— 灰黒色粘質土層	36.0 18.5 7.0 20.0 5.5×3.0 3.3	菱形	●右側辺中央が突出している ●両面とも大剥離面が残存 ●錐部両面とも調整剥離を施す ●全体に粗いづくりである	明確には認められず	
国版39 134	D-5 —— 暗黒色砂質土層	35.0 19.0 4.6 18.0 4.5×4.3 2.4	三角形	●頭部下半右方向に突出する ●両面とも大剥離面を残し、素材片側辺のみ調整剥離を施す ●厚みは頭部より錐部の方が大	先端や丸みをもつ	
国版39 135	E-6 —— 暗黒色砂質土層	30.0(残存) 18.0 6.0 13.5 8.0×3.0 2.1	菱形	●錐部に比べて頭部に厚みがみられ頭部下半からそのまま錐部となる ●頭部両面にステップ状剥離が混在する ●両面とも両側辺からの大きな剥離で調整され頭下半から錐部にかけては棱が通る ●錐部は鋸曲する ●先端わずかに欠損	明確には認められず	
国版4-39 136	E-5 —— 黒色粘質土層 (上層)	25.0 19.0 5.5 —— 2.8	菱形	●小型 ●やや逆三角形を呈す ●頭部上端面には自然面を残す ●両面とも中央に大剥離面を残し、頭部上端にはステップ状剥離が多く残る(非常に細かい剥離) ●A面基沿いに急角度に調整剥離が入る	錐先がわずかに磨滅	
国版39 137	E-6 —— ——	28.5 17.8 6.8 5.0 6.0×2.8 2.8	不整形	●概形を剥離し、周開をステップ状剥離により粗い調整を施す ●長軸側辺中央あたりから先端にかけ細くなり錐部となる ●B面中央に大剥離面が残り最大厚となる	明確には認められず	
国版39 138	E-5 —— 黒色粘質土層 (上層)	31.0(残存) 21.0 9.2 15.0(残存) 5.0×8.1 (残存) 5.4	欠損部断面は菱形	●扇形の頭部上端面に一部自然剥離面が残存 ●両面とも大剥離面を留め、全体に粗い剥離を施し、概形をつくっている ●A面右側辺に段をもつていてる ●ステップ状剥離が若干混在する ●錐部先端欠損	現存部には認められず	
国版39 139	D-4 構232 —— 黒色粘質土層	35.0 17.0 5.1 7.0 7.5×2.3 3.1	レンズ状	●最大幅が頭部上端で錐部方向に狭まる ●両面とも両側辺よりやや粗い調整剥離を施し、ステップ状剥離が混在する ●A面中央に大剥離面が残存	明確には認められず	

石錐（II類）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (a)	長さ 幅厚 高さ 錐部重量	錐部断面	特徴	備考 (使用痕跡)
図版39 140	E-5 — 黑色粘質土層 (上層)	30.0 — 17.0 4.0 9.0 8.0×3.0 1.9	台形		<ul style="list-style-type: none"> 上端片方へ突出する頭部 全体的に扁平である 頭部片側辺上半（A面では左）は垂直な面をなす A面右側辺、B面左側辺から調整剥離が施され、A面左側辺からもわずかに施される B面に大剥離面を大きく残し、右側辺下半では丸みを帯びる 	先端から側辺7mmに水平方向の回転痕
図版39 141	D-5 — 黑色粘質土層 (上層)	31.5 — 19.0 3.5 7.0 6.0×2.5 2.0	台形		<ul style="list-style-type: none"> 全体的に菱形を呈する 両面とも大剥離面を残し、特にB面ではフラットで大半を占める A面各辺およびB面右側辺から調整剥離が施され、特に錐部では大きな剥離の後、小さな剥離を施す A面頭頂部に小さな自然縫面を残す 	未製品
図版39 142	E-6 溝25 暗黄灰色砂質 層	30.0(残存) 16.5 6.0 8.0(残存) 5.5×2.0 (残存) 3.2	欠損部断面は菱形		<ul style="list-style-type: none"> 梢円形の頭部下端に短い錐部をもつずんぐりした錐 A面にやや粗い調整剥離を施し、ステップ状剥離が混在する B面中央に大剥離面を留め、打点は上端中央にあたる 左側辺は調整を施し、右側辺には自然面が残る 錐部両側辺とともに調整剥離 	現存部に認められず
図版39 143	E-5 — 暗黄灰色砂質土 層	30.0 — 17.0 7.0 12.0 4.2×2.5 2.7	扁平な三 角形		<ul style="list-style-type: none"> 最大幅が頭部上端で錐部方向に狭まる 頭部上端に自然縫面を残す 両面ともに大剥離面を留め、両側辺に細かな調整剥離を施す 	明確には認められず
図版39 144	D-4 南側觀察用断面 — 黒灰色粘質土層	30.5(残存) 15.0(残存) 4.5(残存) 2.5(残存) 4.0×3.0 2.2	欠損部断面は三角 形		<ul style="list-style-type: none"> 上端片方へ突出する頭部 先端を欠損 片側辺は面をなし、自然縫面を残す 両面とも左側辺から調整剥離が施される 	現存部には認められ ず
図版39 145	E-4 — 淡黄灰色砂質土 層	25.0 — 27.5 5.0 3.0 2.0×1.0 2.4	扁平な半 円形		<ul style="list-style-type: none"> 両面とも扁平な素材時の剥離がそのまま残存する 錐部は中心より片側寄りで、抉りを入れてつくられる 調整剥離はわずかに頭部下端から錐部の境にみられるのみ 	未製品
図版4-39 146	E-5 — 黒灰色粘質土層	31.5(残存) — 13.5 5.0 — 3.6×1.5 1.9	菱形		<ul style="list-style-type: none"> 逆三角形を呈し、その下端が錐部となる 両側辺は調整剥離を施している B面中央部と錐部付近に原石面を残す 錐部先端欠損 	現存部には認められ ず

石錐（Ⅱ類）

國版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長 幅 厚 鉛 径 重量	錐部断面	特 徴	備 考 (使用痕跡)
国版39 147	D-7-E-7 間觀察用断面 — 白灰色砂層 (粘土まじり)	29.5 13.8 6.0 4.0 5.0×3.0 2.4		六角形	●逆三角形を呈す頭部 ●頭部上面は原石面を残す ●両面とも両側辺より調整剥離 ●A面左側辺の剥離はステップ状を呈す	錐先端から両側辺5mmにわたり磨耗面をもつ
国版39 148	E-7 — 黑色粘質土層 (上層)	34.2(残存) 15.0 4.9 3.5 2.8×1.9 2.1		扇形	●全体は逆三角形を呈す ●頭部はA面のみ調整を施し、B面には右斜め上方に打点をもつ大剥離面が残る ●頭部から錐部にかけての調整は両面両側辺より施し、深くていねいに剥離している ●錐部先端は若干損壊している	明確には認められず
国版39 149	F-7 — 黑色粘質土層 (上層)	31.5 18.0 6.0 6.0 5.5×4.5 3.4		不整四边形	●逆三角形の頭部 ●頭部上面には自然縫面が残る ●頭部A面左側辺上半は打ち欠き面、右側辺は両面とも調整剥離が施されている ●頭部下半及び錐部は両側辺両面により調整剥離 ●錐部は若干突出する ●錐部の調整はB面の方が深い	金山産 錐部から両側辺7mmにわたり磨減、白色化がみられる
国版39 150	E-7 — 黑色粘質土層 (下層)	34.5 19.0 4.5 14.0 0.8×0.4 2.3		不整菱形	●全体が逆三角形を呈し、先端部が扁平 ●両面とも大剥離面を残し、上端は打ち割ったままで、右寄りに棱線が通る ●両側辺A面はB面に比べて細かい調整が施されている	先端から3.5mmにかけ磨減
国版39 151	F-7 — 黑色粘質土層 (上層)	36.5(残存) 19.5 7.2 4.5 5.0×3.5 (残存) 4.2		扇形	●逆三角形を呈す頭部 ●錐部先端は欠損 ●頭部は両面とも大まかな剥離面によりなりB面には上辺左側に打点をもつ大剥離面が残存 ●頭部側辺は両面とも両側辺より調整剥離 ●欠損面はA面右側辺からの力で欠く	錐部から残存側線1mmにわたり線条痕
国版39 152	E-6 — 灰黒色粘質土層 (砂まじり)	34.0 20.5 10.1 2.0 4.0×3.0 5.5		三角形	●縱長の扇形を呈す ●頭部は両面ともていねいな調整剥離 ●A面右側辺はわずかに屈曲する ●頭部上面はB面側の剥離が深く、A面右側辺に主要剥離面がみられる ●錐部は両側辺とも両面より調整剥離を施す	錐部からA面右側辺3mmにわたり磨滅面のこる
国版39 153	E-4 — 黑色粘質土層 (下層)	36.8 15.5 6.2 9.0 4.0×2.0 3.8		台形	●頭部上端と側辺に自然縫面を残す ●頭部は大きな調整が施され、一部に細かな調整もみられる ●頭部下半がわずかに屈曲し、錐部をつくる ●錐部A面は細かな調整が周辺に施される ●錐部先端は鋭い	先端にわずかに磨滅
国版39 154	E-6 溝201 灰黒色粘質土層	36.8 17.0 7.8 6.0 5.0×4.3 4.1		不整六角形	●橢円形を呈する ●A面は全体に調整剥離が施されるが、頭部中央右下に自然縫面を残す ●B面では右側辺は頭部上端から、左側辺は頭部中央あたりから錐部にかけ調整剥離が施される ●頭部と錐部の境はわずかに屈曲	先端から5mmにかけて使用痕が認められる

石錐（Ⅱ類）

石錐(Ⅱ類)

国版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 鍾 長 径 重 量	錐部断面	特 徴	備 考 (使用痕跡)
国版39 162	E-7 溝24 暗黃灰色砂層	23.5 16.0 5.0 0.9 2.0×2.0 1.5		三角形	●最大幅が頭部上端近くにあり、頭部中央に最大厚みをもつ ●両面とも中央に人剥離面を残存し、A面では丁寧な調整剥離が上端両側辺に施されている ●B面は上端、左側辺に不規則な調整がみられるが、右側辺には調整がみられない	明確には認められず
国版39 163	E-7 — 灰黒色粘質土層 (本片多し)	24.5 14.5 4.8 2.0 2.7×1.0 1.7		扁平な台形	●全面調整剥離され、大剥離面は頭部上端に一部残すのみ ●先端に小さな調整がわずかに見られ錐部をつくる	明確には認められず
国版39 164	E-4 — 黑色粘質土層 (上層)	27.3(残存) 19.5 8.4 6.0(残存) 8.0×4.0 4.0		扇形	●全体は逆三角形を呈す ●頭部上側辺は直線を呈し、下半が先細りになる ●A面右上端面は自然縫合面を残す ●頭部B面には上端に打点をもつ大剥離面がみられる ●頭部両側辺上半は両面調整、下半はA面のみ調整 ●錐部は先端を欠損する ●錐部両側辺とも両面より調整剥離	錐部5.5mmにわたり磨滅面のこる
国版39 165	E-7 溝24 暗黃灰色砂層	27.5(残存) 18.5 6.0 3.5(残存) 4.5×1.5 2.8		扁平な杏仁形に近い	●両面とも周囲にわずかに調整剥離が見られる ●A面右側に頭部から錐部にかけての大きなステップが見られる ●錐部わずかに欠損	明確には認められず
国版39 166	D-4 東側観察用断面 — 黑色粘質土層 (上層)	29.0 17.5 5.7 6.0 9.5×3.5 3.2		不整四辺形	●丸みを帯びる頭部上端にゆるやかに細くなる側辺 ●全体に屈曲する ●頭部各辺は両面とも剥離調整を施し、A面側の方が急角度で細かい ●B面中央には大剥離面が残り、頭部上方に打点がある ●錐部は突出せず鈍い	錐部側縁6.5mmにわたり磨耗する
国版39 167	Z Z — —	30.0 23.0 4.5 2.0 3.0×2.5 3.6		三角形	●全体が円形ぎみで厚みが一定で扁平 ●頭部下端がそのまま錐部となり両面とも中央に人剥離面が残存する ●両面とも調整剥離は不規則で錐部の調整も粗い ●B面にステップ状剥離が混在する	先端から1.5mmにかけて磨滅
国版39 168	E-6・E-7 間観察用断面 — 暗黃灰色砂層	33.5 27.5 8.0 3.5 8.0×3.0 6.4		扁平な三角形	●全体が扇形を呈し、中央左側辺寄りに厚みをもつ ●頭部下端が先細りして錐部となり先端は鈍い ●A面は素材のまま利用され、頭部上端先端にステップ状剥離が混在する、又右側辺には不規則な調整がみられる ●B面では中央にわずかに大剥離面が残るだけで大部分は調整面よりなり左側辺に調整剥離を施し、又頭部上端右側辺にも部分的にみられる	認められず

石錐(Ⅱ類)

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (m) (g)	長さ 幅 厚 鉛 錐 重量	錐部断面	特徴	備考 (使用痕跡)
図版39 169	F-7 溝226 黒灰色粘質土層	32.5 21.5 5.4 4.0 4.0×2.0 2.8	三角形		<ul style="list-style-type: none"> A面右側辺に一角をもつ三角形の頭部 A面左側辺は大きな折れ欠き面 頭部はA面右側辺を両面から調整剥離を施す A面中央には左側面に打点をもつ剥離がみられ B面下半から錐部にかけて大剥離面がのこる 錐部はやや突出気味で銳利である 錐部の調整は頭部下端から達なるA面右側辺の 剥離のみみられる B面下半から錐部にかけて大剥離面がのこる 	未製品
図版39 170	D-4 溝105 暗黄灰色砂質土 層 (粘土混じり)	28.5(残存) 21.0 3.2 9.0 6.5×1.5 1.5	扁平		<ul style="list-style-type: none"> 頭部上半は欠損 頭部残存部は逆三角状を呈し、下端に錐部がつ く 頭部下端の調整は薄い大きな剥離を内側辺両面 より施す B面中央から錐部にかけて大剥離面が残る 錐部は頭部下端に達なっており突出しない 錐部の調整なB面左側辺を除いて剥離がみら れ、B面右側辺のは深い 	
図版39 171	E-7 Pit28 暗黄灰色砂質土 層 先端(残存)	27.0(残存) 21.0(残存) 7.0 2.8×1.7 2.9	欠損部断 面は三角 形		<ul style="list-style-type: none"> 逆三角形を呈し、下端がそのまま錐部となる 上端打ち落している 両面ともにやや粗い調整剥離 A面に稜線をつくり出す 錐部先端欠損 	現存部には認められ ず
図版4.39 172	D-4 — 黒色粘質土層 (上層)	33.0(残存) 19.0 5.0 6.5(残存) 3.6×2.0 1.4	不整形扇形		<ul style="list-style-type: none"> 逆三角形を呈する 両面に大剥離面 A面の周囲は調整剥離 B面は粗い大きな剥離 錐部は、わずかに細くなる 	認められず
図版39 173	D-5 — 暗黒色砂質土層	30.5 26.5 4.5 17.0 4.0×2.2 3.8	不整形		<ul style="list-style-type: none"> 逆三角形を呈し、下端がそのまま錐部となる 両面とも大剥離面を残し、頭部から錐部にかけ て側辺を調整剥離 厚みはほぼ一定 	金山産 先端3mmの所に磨滅 痕
図版4.39 174	D-3 — 黒色粘質土層 (上層)	32.0(残存) 23.0 5.0 5.0 4.0×2.0 2.9	不整四辺 形		<ul style="list-style-type: none"> 頭部の一部欠損 最大幅は頭部上端 逆三角形を呈し、頭部がそのまま錐部になる 側辺は細かな調整剥離を施され両面とも中央に 大剥離面残存 両面ステップが混在 	明確には認められず
図版39 175	E-4 南側觀察用断面 — 黒色粘質土層 (上層)	34.0 27.0 7.0 7.5 2.5×1.5 5.4	菱形		<ul style="list-style-type: none"> 頭部は逆三角形を呈し、先端がそのまま錐部と なる 頭部両面に大剥離面を残しA面頭部上半ではス テップ状剥離で調整され、側面は打ち割ったま ま 頭部下半から錐部にかけて両面とも粗い調整で 片側に抉り状の剥離を施す 錐部両面にわずかに稜が通る 	金山産 錐部先端に磨滅

石錐(Ⅱ類)

国版番号	出土地名 遺構名 層位名	法量 (m) <small>幅 厚 深長 延長 重量</small>	長さ (m) <small>幅 厚 深長 延長 重量</small>	錐部断面	特徴	備考 (使用痕跡)
国版39 176	E-4 溝238 黒色粘質土層 (上層)	38.0(残存) 28.0 12.0 先端 9.0×6.0 11.9	38.0(残存) 28.0 12.0 先端 9.0×6.0 11.9	菱形	● 菱形の頭部下端がそのまま錐部となる ● 頭部上端は打ち欠いている ● A面中央に大剥離面が残存 ● 両面ともやや粗い調整剥離を施し、ステップ状剥離が若干混在する	明確には認められず
国版39 177	D-4 — 黒色粘質土層 (上層)	26.0 — 37.0 7.0 5.0 13.0×3.0 6.0	26.0 — 37.0 7.0 5.0 13.0×3.0 6.0	三角形	● 逆三角形を呈し、下端がそのまま錐部となる ● 両面とも大剥離面を留める ● A面の両側辺にやや粗い調整剥離を施す	若干ではあるが認められる
国版39 178	D-4 — 黒色粘質土層 (上層)	45.0(残存) — 31.0 11.0 先端 4.0×3.5 11.9	45.0(残存) — 31.0 11.0 先端 4.0×3.5 11.9	菱形	● 逆三角形を呈し、頭部下端がそのまま錐部となる ● A面に大剥離面を留める ● 両面ともやや粗い調整剥離を施し、ステップ状剥離が若干混在	明確には認められず
国版39 179	D-4 — 灰黑色粘質土層	38.0 — 34.0 6.5 先端 — 5.6	38.0 — 34.0 6.5 先端 — 5.6	三角形	● 逆三角形を呈し、下端がそのまま錐部となる ● A面粗く剥離による整形 ● B面大剥離面を留め右側辺に調整剥離	未製品
国版39 180	F-7・F-8 問観察用断面 — 黒色粘質土層 (上層)	44.0(残存) — 27.8 8.3 11.0(残存) 8.5×4.5 7.0	44.0(残存) — 27.8 8.3 11.0(残存) 8.5×4.5 7.0	三角形に近い	● 不整形の大きな素材を利用 ● A面右上半側辺とB面左側辺に小さく粗い剥離が施される ● A面下半左側辺とB面右側辺に集中して細かい調整剥離が施され、逆三角形の錐部をつくり出す ● 錐部先端わずかに欠損	未製品
国版39 181	D-4 — 黒色粘質土層 (上層)	35.0 — 31.0 4.4 7.0 9.0×3.0 4.8	35.0 — 31.0 4.4 7.0 9.0×3.0 4.8	不整扇形	● 素材の両側辺を打ち落とし楔形をつくる ● 両面ともに大剥離面を留める ● 頭錐部境界に細かい剥離が集中	未製品
国版4-39 182	E-6 — 暗黄灰色砂質土層 (粘土まじり)	31.0(残存) — 13.0 5.0 12.3(残存) 5.5×3.5 1.6	31.0(残存) — 13.0 5.0 12.3(残存) 5.5×3.5 1.6	不整扇形	● 頭部は上半片方へ突出し、最大幅は頭部下半 ● 頭部下半にわずかに抉りを入れ、錐部をなす ● A面頭部に原石面残存 ● 頭部に大剥離面を残し、錐部のみ細かな調整剥離を施す ● 両面とも棱が通り、A面の調整は急角度である	明確には認められず
国版39 183	F-8 — 黒灰色粘質土層 (砂利まじり)	35.0 — 13.0 6.0 2.0 3.0×2.0 2.5	35.0 — 13.0 6.0 2.0 3.0×2.0 2.5	三角形	● 体部中位に最大幅をもち彎曲する ● 各面に大剥離面を残す ● A面左側辺下半のみ調整剥離	未製品

石錐(Ⅱ類)

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 鉛部 重量	錐部断面	特徴	備考 (使用痕跡)
図版4-39 184	E-6 黑色粘質土層 (下層)	41.2 11.0 9.4 25.1 3.3×2.8 4.3		三角形	<ul style="list-style-type: none"> 完形品 全体に綿長の形状を呈し、錐部軸と頭部が屈曲している A面頭部上端に一部自然碌面をのこし、錐部は大まかな剥離によって整形されている B面には大剥離面がのこり、錐部のみ調整剥離をほどこす 	錐部先端がやや磨耗している
図版39 185	E-6 灰黑色粘質土層 (砂まじり)	39.0(残存) 18.5 9.0 9.5(残存) 6.0×3.5 6.1		不整形	<ul style="list-style-type: none"> 大きな厚みのある頭部の両側辺中央が大きな剥離によって抉られている 頭部上端に自然碌面を残す 頭部下半錐部にかけ集中的に調整剥離が施され、先細りの錐部をつくり出す 錐部先端欠損 錐部両面に後線が通る 	現存部には認められず
図版39 ! 186	E-7 灰黑色粘質土層 (木片多し)	39.5 17.8 8.5 10.0 4.5×2.0 4.8		不整五角形	<ul style="list-style-type: none"> 菱形に近い形を呈し、すんぐりしている 頭部先端先細りし、わずかに欠損 頭部A面右側面は大きく打ち削ったままの状態である 左側辺は細かな調整を施し、頭錐部境界は屈曲し先細りの錐部をつくる A面錐部に棱線が通る B面全体に小さいが粗い調整である 	明確には認められず
図版40 187	E-5 黑色粘質土層 (上層)	22.8 14.5 2.7 9.5 1.8×1.0 0.7		台形に近い	<ul style="list-style-type: none"> 頭部は片側に大きく突出する A面右側は頭部下半から錐部にかけて細かな調整が施され左側は錐部に粗い調整 B面頭部は大きなステップ混じりの粗い調整 右側に頭部から錐部境界まで側辺沿いの調整が見られる 	先端-0.8mmまでわずかな磨滅痕
図版40 188	E-4 黑色粘質土層 (上層)	27.5 17.5 4.0 6.5 3.8×1.5 1.5		不整四辺形	<ul style="list-style-type: none"> 頭部上端面片側に自然碌面残存 A面は頭部下半～錐部にかけて両側辺に粗いが調整剥離を施されている B面は右側辺に調整剥離を施されて鋭い先細りの錐部をつくる 	明確には認められず
図版40 189	E-4 黑色粘質土層 (上層)	27.5(残存) 14.5 3.3 3.0(残存) 4.0×1.5 1.5		不整形	<ul style="list-style-type: none"> 薄みの頭部周辺は粗い調整が施されている 左頭部下半～錐部にかけ細かな調整が施され錐部をつくる B面は調整が施されず大剥離面のままである 錐部先端わずかに欠損 	明確には認められず
図版4-40 190	E-7 黑色粘質土層 (上層)	31.5 19.0 3.0 5.2 2.6×1.0 1.7		菱形	<ul style="list-style-type: none"> 両面とも大剥離面の扁平な頭部でA面においては周開をていねいな調整剥離を施し、短い錐部をなす B面においては頭部はていねいな調整剥離を施されているが、錐部は雑で調整が少ない 頭部左寄りに大きなステップ状剥離が認められる 	明確には認められず
図版40 191	E-4 黑色粘質土層 (上層)	33.3 14.5 8.0 11.0 4.5×3.5 3.0		三角形	<ul style="list-style-type: none"> 大きな頭部は大剥離面のままである 全体が三面からなりそのうちA面は両側辺にB面は右側辺に頭部下半から錐部にかけて小さな調整剥離が施され、先細りの短い錐部をつくり出す 	金山産 先端から7mmまで使用痕が認められる

石錐（Ⅱ類）

国版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) 重量 (g)	長さ 厚 鍔長 鍔径 重量	鍔部断面	特 徴	備 考 (使用痕跡)
国版40 192	D-3 西側観察用断面 — 灰黒色粘質土層	27.0(残存) 24.0 4.5 6.0(残存) 6.5×4.0 2.3		四辺形	●底辺が突出した逆三角形の頭部 ●頭部上端の二辺は両辺とも折れ欠き ●頭部内側辺は両面より調整剥離を施すがA面の方方が薄く丁寧な剥離 ●頭部両面に大剝離面が残り下方に打点がある ●頭部下端はA面右側辺が屈曲する ●錐部先端は欠損するが錐部は突出する ●頭部下端から錐部にかけての調整はA面左側辺、B面左側辺の剥離が大きく深い	残存部には認められず
国版40 193	F-6 — 黑色粘質土層 (上層)	26.0(残存) 30.0 5.5 3.5(残存) 3.0×2.0 2.9		不整菱形	●逆三角形を呈する扁平で大きな頭部 ●A面では、頭部にステップ状剥離が施され、頭部下端は調整剥離 ●B面頭部は中央に大剝離面を残し、三辺に部分的に調整剥離を施す ●錐部付近にも、両面とも調整剥離が残る ●錐部は欠損し、わずかに残存するのみ	現存部には認められない
国版40 194	D-4 — 黑色粘質土層 (上層)	32.1(残存) 27.0 5.3 7.5(残存) 6.5×2.0 3.7		扁平な扇形	●扁平な不整形の頭部と屈曲した錐部 ●頭部上端は打ち欠き面を呈し、頭部A面は人まかな剥離面より成る ●頭部B面は大剝離面で、右上側方に打点がある ●A面頭部下半側辺は大きく屈曲し、錐部が突出するが先端を欠損する ●錐部はA面が頭部から連なる大まかな剝離のみでB面は未調整である	残存部には認められず
国版40 195	E-7 — 暗黄灰色砂質土層 (粘土まじり)	35.0 23.0 6.9 11.6 6.2×2.8 4.4		扁平	●不整の逆三角形を呈する頭部と細く突出した錐部 ●頭部A面は粗い剥離面、B面は大剝離面より成り、調整剥離は施されていない ●頭部下半から錐部にかけて、A面左側辺は大きく、「く」の字状に屈曲する ●錐部の調整はA面左側辺とB面左側辺のみ剥離がみられる ●錐部先端は未調整で鈍い	認められず
国版40 196	E-6 — 黑色粘質土層 (上層)	34.3(残存) 20.5 6.5 6.5(残存) 5.5×3.0 3.6		杏仁形に 近い	●いびつな形の素材をそのまま頭部に残す ●A面右側辺寄りと左側面一部に自然剥離面残存 ●頭部下半から錐部にかけ、集中して細かな調整剥離を施し、先端の錐部をつくり出す ●錐部先端欠損	現存部には認められず
国版40 197	E-6 — 灰黒色粘質土層 (砂まじり)	39.0(残存) 22.7 4.1 13.6(残存) 5.1×2.0 3.3		扁平な三角形	●縦長の頭部の右下方に錐部がつくり出される ●錐部下半は欠損 ●頭部は薄い剥片の楕形をとどめる ●頭部上端及びA面左側辺の抉りの部分のみ内面調整剥離 ●A面右側辺に打点をもつ大剝離面が両面にみられる ●B面は両面剥離の部分以外は未調整	現存部には認められず
国版40 198	E-4 南側観察用断面 — 黑色粘質土層 (上層)	27.0(残存) 12.8 4.5 6.0(残存) 4.0×2.0 1.5		菱形	●頭部上端と錐部先端欠損 ●頭部と錐部はそれぞれ尖りしている ●A面頭部右寄りに自然剥離面を残す ●A面は全面に粗い調整が施され、一部大剝離面を残す ●B面は、右側辺は頭部から錐部にかけて、左は錐部側辺のみ調整が施され、大剝離面を残す	現存部には認められず

石錐（Ⅲ類）

國版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 鉛 錠 重量	錐部断面	特 徴	備 考 (使用痕跡)
國版40 199	D-5 西側觀察用断面 暗黄色砂質土層	41.0 19.5(残存) 3.0 5.0 3.5×2.5 2.5	菱形	● いびつな形の素材をそのまま頭部にしているため、全体がそっている ● 円面とも先端にわずかに調整剥離がみられる ● 片側辺が欠損 ● A面上面と側辺に自然礫面が残存	先端わずかに磨滅	
國版40 200	E-4 南側觀察用断面 黑色粘質土層 (上層)	40.5(残存) 21.0 6.2 7.8(残存) 2.5 5.4	扇形	● 錐部欠損 ● 楕円形を呈する頭部下端がそのまま錐部となる ● A面の頭部周辺には粗い調整がみられる ● 錐部は頭部に比べ小さな調整剥離がわずかに見られる ● B面は全体が大剥離面のままで錐部の一部に小さな調整剥離が見られる	現存部には認められず	
國版40 201	E-5 黑色粘質土層 (上層)	38.0(残存) 19.5 5.4 10.0(残存) 5.0×2.2 4.3	扁平な扇形	● 逆三角形を呈する頭部 ● 頭部両側辺はA面のみ調整剥離を施す ● 頭部B面は大剥離面が残存し頭部上端に打点がある ● 頭部A面には主要剥離の背面が残存し、右側方に打点がある ● 錐部はA面内側辺とB面左側辺に調整剥離を施す ● 錐部先端はA面中央左側辺寄りからの力で欠損	現存部には明確に認められず	
國版40 202	Z Z — —	48.5 23.5 7.0 0.8 6.0×3.0 6.9	不整五角形	● 頭部下端からそのまま錐部となり、頭部と錐部の輪が彎曲ぎみ ● 両面とも扁平な素材時の大さな剥離もって概形をつくる ● 上端部に細かな調整剥離が部分的にみられる ● A面頭部下端の右片側に調整剥離を施して短い錐部を作る ● 頭部の断面は不整菱形	明確には認められず	
國版40 203	F-7 — 青黒色砂質土層	40.5 20.5 6.9 7.0 6.5×2.9 4.5	三角形	● 不整形の頭部の下端に頭部輪とは屈曲した錐部がつく ● 頭部は両面とも大きな剥離面よりなり、B面には右側方に打点がある大剥離面が残る ● A面左側辺には一部調整剥離がみられる ● 錐部は未整形であるがやや突出 ● 錐部の調整はA面左側辺の一部とB面右側辺に調整剥離がみられ、A面右側辺とB面左側辺は粗い打ち欠き面のみがみられる	未製品	
國版40 204	F-7 満226 黒灰色粘質土層 (砂利まじり)	33.0 21.0 7.4 5.0 6.0×2.4 4.3	不整形	● やや縦長で、幅広の頭部で下端に短い錐部 ● 全体に粗い剥離をもって整形 ● B面は大剥離面残存	未製品	
國版40 205	E-5 — 黑色粘質土層 (上層)	25.5(残存) 15.3 5.5 2.5(残存) 5.3×2.0 1.1	三角形	● 上下両端欠損し、又先細りしているため、両端に錐部の可能性あり ● A面両側辺に調整剥離がみられる	未製品	

石錐（Ⅱ類）

國版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 鉛錠重量	錐部断面	特 徴	備 考 (使用痕跡)
國版40 — 206	D-5 — 黑色粘質土層 (上層)	33.5 28.5 6.5 4.5 4.3×2.3 5.1		不整四刃 形	●片方へ突出する大きな頭部 ●頭部上端に自然礫面残存 ●頭部と錐部の境界がわずかに屈曲	未製品

石錐(Ⅲ類)

国版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅厚 高さ 錐部重量	錐部断面	特徴	備考 (使用痕跡)
国版40 207	D-4 — 黑色粘質土層 (上層)	37.5 23.8 7.7 7.0 7.5×3.2 5.1	扇形		<ul style="list-style-type: none"> 不整逆五角形の頭部下端に小さな錐部がつく 頭部両面は粗い剥離面となる 頭部の調整はB面右側辺のみ剥離がみられる 錐部は先端が突出する 頭部下半から錐部にかけては、両側辺とも両面より調整剥離を施す 	錐部側線4mmにわたり若干磨耗
国版40 208	E-6 — 暗黃灰色砂質土層 (粘土まじり)	39.2(残存) 23.0 9.8 4.5(残存) 10.0×4.8 10.3	平行四辺形		<ul style="list-style-type: none"> 綫長の頭部 錐部はB面左側方からの力により欠損 頭部A面は自然剥離面、B面は左下方に打点をもつ大剥離面 錐部の調整はB面頭部下半、錐部両面とも両側辺に施す 錐部大きく欠損 	残存部には認められず
国版40 209	D-4 — 黑色粘質土層 (上層)	34.5(残存) 29.7 8.7 5.4(残存) 9.3×6.7 7.3	扇形		<ul style="list-style-type: none"> 不整の円形を呈す頭部 頭部はほぼ楕形をとどめ、A面は大きな剥離面と右半の自然剥離面となる B面は大剥離面であり、左側方に打点がある 頭部下端を大きく抉り、錐部が突出するが先端を欠損 頭部下端及び錐部は両面より調整剥離 錐部先端は、B面後部からの力で欠損 	残存部には認められず
国版4-40 210	D-5 — 黑色粘質土層 (上層)	41.0(残存) 20.0 5.0 17.0(残存) 2.3×1.5 2.1	不整四辺形		<ul style="list-style-type: none"> 頭部は粗く大きな調整で形をつくり、又中央の左右端に細かな調整を施されたくぼみがある A面に穂が先端から基端まで右寄りでまっすぐ通っている 錐部は両面とも右側辺に細かい調整剥離 	認められず
国版40 211	F-7 — 青灰色砂層	52.6 21.8 9.5 9.0 4.2×3.5 8.5	不整四辺形		<ul style="list-style-type: none"> 綫長の上端の鋸い頭部に長い錐部 頭部は両面とも粗い調整 A面右側辺には刃剥しの深い剥離(抉り) 左側辺は打ち欠き面でその面からの細かい剥離がB面右上方に見られる 錐部は両面とも両側辺からの調整剥離 A面左側辺はゆるやかに大きく抉っている A面右側辺とB面両側辺の剥離はステップ状を呈す 錐部A面右側には自然剥離面が残る 	認められず
国版5-40 212	E-7 溝227	60.0 24.0 7.0 22.5 3.3×3.0 8.4	不整菱形		<ul style="list-style-type: none"> 不整形の大きな頭部は両面とも大きな剥離で概形をつくる 頭部左側辺は自然剥離面を残す 錐部においても自然剥離面の部分をそのまま使い、他の側面は小さな剥離で調整し、抉りを作り出している 	現存部には認められず
国版40 213	E-7 — 暗黃灰色砂質土層 (粘土まじり)	46.2 24.1 5.0 8.0(残存) 2.2×0.8 4.6	扁平な三角形		<ul style="list-style-type: none"> 綫長の薄い頭部に先細りの長い錐部 両面に大剥離面残り、B面左側方に打点がある 頭部上端には自然剥離面がのこりA面右側辺のみ調整剥離 錐部A面右側辺は打ち欠いて抉っている 錐部は、A面左側辺はA面のみ片面剥離で、B面左側辺にはステップ状剥離 先端は欠損 	現存部には認められず

石錐（Ⅲ類）

図版番号	出土地名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅厚 頭部 重量	錐部断面	特徴	備考 (使用痕跡)
図版40 214	E-5 溝238 黒灰色粘質土層	41.2 35.3 8.2 14.8(残存) 3.6×1.7 9.1		不整四辺形	<ul style="list-style-type: none"> 横長の厚い扇形の頭部に長い錐部で先端は欠損 頭部上端には自然縫面残る 頭部両面には大剥離面が残るが両面とも大きな粗い打ち欠きにより整形 錐部はまっすぐ先細り 錐部は両面とも両側縁より調整剥離 	現存部には認められず
図版40 215	D-4 灰黒色粘質土層 (木片多し)	38.0(残存) 49.6 11.0 5.2(残存) 6.2×4.0 15.6		扇形	<ul style="list-style-type: none"> 横長の頭部に大きく抉って突出する錐部 頭部は両面とも大きい剥離面で構成され、両側端には自然縫面が残る 頭部上辺には細かい背済しの剥離がA面にみられる 錐部はA面中央を始点に折れている 錐部は両辺に大きく抉りを入れた後、両面から調整剥離で整形する 	残存部2mm弱ほど縫部磨耗
図版5-40 216	Z Z — —	42.5(残存) 36.0 7.0 5.0(残存) — 10.9		扇形	<ul style="list-style-type: none"> 頭部は両面ともに大剥離面を残す不整四角形 頭部A面上半には大ステップ状剥離 錐部は両側から細かく調整剥離を施してつくり出し、極めて細い 錐部先端は折れて欠損 	側縁がわずかに丸みをおびる
図版40 217	F-6 — 黑色粘質土層 (上層)	38.3 36.5 10.0 8.5(残存) 7.0×4.0 12.6		菱形	<ul style="list-style-type: none"> 頭部は大きな逆三角形を呈す 頭部は橢形をとどめ、上端には自然縫面残存 頭部B面には大剥離面が残り、自然縫面に打点がある 頭部両側辺は両面より調整剥離を施す 錐部は先端を若干欠損し鋭い 錐部は両面より調整剥離を施す 錐部先端はA面中央左側辺寄りの稜線部からの力により欠損 	錐部A面右側辺残存部2mmにわたり磨滅がみられる
図版40 218	D-5 — 黑色粘質土層 (上層)	47.2 36.5 7.5 8.5 5.2×3.0 10.1		不整五角形	<ul style="list-style-type: none"> 縱長の平行四辺形の頭部の一角に太く短い錐部 頭部は両面とも粗い打ち欠きのみで整形 B面中央から錐部にかけて左下方に打点をもつ大剥離面が残る 頭部A面左側は割り欠いている 錐部は両面両側辺からの粗い調整剥離を施す 頭部A面右側辺と錐部右側辺には自然縫面がのこる 	金山産 錐部若干磨耗
図版40 219	F-8 — 暗黄灰色砂質土層 (粘土まじり)	48.7 32.3 12.8 3.0(残存) 6.8×6.0 16.5		不整四辺形	<ul style="list-style-type: none"> 大きく厚い頭部から錐部が突出する 錐部は欠損 頭部上端には自然縫面が残る B面には右上方の自然縫面に打点をもつ大剥離面とステップ状剥離がみられる B面上辺には背済しの細かいステップ状剥離がみられる 錐部は両面両側辺からの調整剥離により先細りに整形される 	現存部には認められず

石錐（Ⅲ類）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 高さ 総長 重積	錐部断面	特徴	備考 (使用痕跡)
図版40 220	F-8 暗黄灰色砂質土層 (粒子粗い)	49.0 25.6 23.6 10.0 6.7×4.8 23.1	扇形		<ul style="list-style-type: none"> 3面からなる不整体の厚い頭部に先端末調整の錐部 A面右半面は自然縫面 頭部上面はA面後線方向に打点をもつ剥離面がある A面左側辺とB面両側辺には調整剝離 B面には、左上方に打点をもつ大剥離面 錐部先端は未調整で丸く鈍い A面左側辺、B面両側辺より調整剝離 	錐部B面右側辺3mmにわたり縫糸痕
図版40 221	D-4 黑色粘質土層 (上層)	54.6 32.4 13.8 4.1(残存) 6.1×6.4 20.5	四辺形		<ul style="list-style-type: none"> 厚い多面体の大型の頭部 錐部は根本近くまで欠損 頭部は大きく粗い不定剥離面による 錐部A面左側辺は頭部上面からの剥離面、右側辺は両面調整剝離を施す 	残存部には認められず
図版40 222	E-3 南側觀察用断面 黑色粘質土層 (上層)	43.2(残存) 37.0 7.9 6.5(残存) 9.7×3.9 10.9	扁平な扇形		<ul style="list-style-type: none"> 大型 不整形の頭部に、頭部下半が先細りになった錐部 頭部は概形などとめ、A面は大きな剥離面、B面は大剥離面より成り、調整剝離はみられない 頭部下半はA面を大きく抉っており、側辺がゆるやかに彎曲する 錐部は先端を欠損 錐部は頭部下半から進なる大きな剥離でつくり出されており調整剝離は施されていない 	未製品
図版5-40 223	E-7・E-8 間觀察用断面 暗黄灰色砂質土層 (粘土まじり)	68.0(残存) 33.0 7.0 5.0(残存) 6.0×5.0 19.5	菱形		<ul style="list-style-type: none"> 錐部欠損 片上端が突出 頭部上端面に自然縫面を残す B面に大剥離面を残す 両面とも両側辺から調整剝離 	現存部には認められず
図版4-40 224	D-5 落ち込みII 灰黒色粘質土層	32.5 10.0 3.7 5.3 2.0×1.3 1.2	不整五角形		<ul style="list-style-type: none"> 縱長の扁平な頭部に先細りの錐部 全面的に剥離調整して中高を呈す A面に特にステップ状剥離がみられる 錐部はとりわけ細かな調整剝離 	錐部下半が磨滅
図版40 225	F-8 黑色粘質土層 (上層)	36.5 16.8 4.0 14.8 3.8×1.2 2.3	不整形		<ul style="list-style-type: none"> 縱長の大きな頭部に先細りの錐部 頭部上端から錐部先端にかけて側辺沿いに細かな調整 頭部錐部は片側だけ屈曲 両面には大剥離面が残る 	明確には認められず
図版40 226	E-4 Pit 203 黑色粘質土層 (上層)	23.2 16.5 4.0 15.5 3.0×2.7 1.3	四辺形		<ul style="list-style-type: none"> 不整形の頭部下間に抉りを入れ錐部をつくり出す 頭部は粗く、B面には大剥離面が残存 錐部は細かな調整で片面には縫糸線をつくる 	金山産 錐部側辺5mmに磨滅

石錐(Ⅲ類)

国版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (x)	長さ 幅 厚 鉢部 断面 重量	錐部断面	特徴	備考 (使用痕跡)
国版4-40 227	E-5 溝238 黒灰色粘質土層	24.0 20.0 4.5 9.0 4.5×3.0 1.6		不整頭形	<ul style="list-style-type: none"> 最大厚は錐部中央にある 頭部両面に大剥離面 頭部上端は粗い剥離で、頭部下半から錐部にかけて細かな調整を施し錐部をなす A面は急角度な剥離で綫が通る 	明確には認められず
国版4-40 228	D-3 西側觀察用断面 — 灰黑色粘質土層	20.0(残存) 15.5 4.0 8.0(残存) 2.2×2.0 1.1		台形	<ul style="list-style-type: none"> 両面とも大剥離面を残す A面では上側面に自然面を残し、左右側面では急角度に調整がはいる B面は半面で左上半分に調整剥離が集中するが、非常に緩角度で一見しただけでは大剥離面と区別つかない 錐部下半は欠損 	現存部には認められず
国版40 229	F-6 — 黒色粘質土層 (下層)	24.0 18.5 6.2 4.5 3.5×2.0 2.4		不定形四辺形	<ul style="list-style-type: none"> 全体は逆V角形を呈し、錐部は細く突出する 頭部上面は打ち欠き面 錐部両面中央には大剥離面 頭部A面両側辺には調整剥離 錐部は突出するが先端は丸く鈍い 錐部両側辺は両面に調整剥離 	金山産 明確には認められず
国版4-40 230	F-6 西側觀察用断面 — 明黃灰色砂質土層	34.0 18.0 5.5 10.0 4.6×3.0 2.7		不整形	<ul style="list-style-type: none"> 頭部は大きな台形状 頭部側辺は大きな粗い剥離 頭部と錐部の境を集中して調整している 錐部は先細り 	先端わずかに磨滅
国版40 231	E-4 — 黒色粘質土層 (上層)	32.5(残存) 20.8 7.0 12.5 4.0×1.9 4.4		菱形	<ul style="list-style-type: none"> 頭部上端欠損 両面全体が調整面からなり細かなステップ状剥離も混在 頭部下端でふくらみをもち、錐部にかけてやや屈曲し、短い錐部をつくり出す 頭部片面に自然剥離面残存 	金山産 先端に磨滅
国版40 232	D-4 — 黒色粘質土層 (上層)	36.3 27.0 10.0 25.0 3.3×2.2 7.4		平行四辺形	<ul style="list-style-type: none"> 部厚い大きな頭部に極めて小さい先細りの錐部 頭部片側面に自然剥離面 周囲に調整剥離を施し、錐部には集中して細かな調整がみられる 	明確には認められず
国版40 233	D-5 — 黒色粘質土層 (下層)	24.0(残存) 24.5 5.5 6.0 5.0×0.1 2.7		扁平な台形	<ul style="list-style-type: none"> 全体に扁平で、頭部上端に不規則の調整 両側辺に調整なし 頭部下端を抉り状の大きな剥離によって錐の原型をつくる A面に大剥離面が残存し、B面中央に段をもつ 	金山産 未製品

石鍔（四類）

石錐（Ⅲ類）

国版番号	出土地地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅厚 鉛長 鉛厚 重量	錐部断面	特徴	備考 (使用痕跡)
国版40 241	D-6 暗黄灰色砂質土層 (粘土まじり)	27.0 11.0 15.1 12.0 3.6×3.2 1.2		三角形	● 縦長の頭部 ● A面中央に稜線をつくり、両側面に大剥離面を留める ● B面中央に自然縫面を残す ● 頭部・錐部とも粗い剥離である	先端やや磨滅
国版40 242	D-4 黑色粘質土層 (下層)	30.0(残存) 10.0 4.3 18.0 4.1×3.5 0.9		菱形	● 頭部上端、左側面欠損で両面とも大剥離面が残存 ● 頭部下半、右側面には調整剥離を施す ● 錐部は側辺よりていねいな調整剥離を施し、両面中央に稜線をつくりだす	先端やや丸みをもつ
国版40 243	E-5 黒色粘質土層 (上層)	29.0(残存) 14.0 4.5 13.0(残存) 3.5×2.0 1.1		四辺形	● 逆三角形を呈する頭部 ● 両面とも大剥離面が残存 ● A面、頭部・錐部右側面にやや粗い調整剥離を施す ● 片側辺は大きく打ち削ったまま二次調整は施されず	明確には認められず
国版40 244	F-8 西側観察用断面 暗黄灰色砂層	30.0(残存) 13.0 4.0 14.0(残存) 4.0×4.0 1.3		三角形	● 頭部は扁平で、A面にはステップ状剥離、B面は自然縫面を残す ● 頭部上端沿いに調整剥離を施す ● A面頭部左側面は打ち削ったまま ● 頭部下半から錐部にかけ三面に調整剥離 ● 錐部に稜線が通る ● 錐部先端近くで欠損	現存部には認められず
国版40 245	F-7 黑色粘質土層 (下層)	39.0 12.5 5.6 19.0 2.0×1.0 2.0		菱形	● 縦長三角形の頭部、ていねいな剥離により整形 ● 大剥離面遺存せず ● 先細りの錐部もていねいに両面加工 ● 最大厚は頭部下半に位置し、段をもつ ● 錐部両面に稜線をつくりだす	明確には認められず
国版40 246	E-6 上層209 黑色粘質土層 (下層)	37.0 14.0 6.5 13.0 2.6×2.0 2.2		半円形	● 縦長の頭部、両面ともに大剥離面が残存 ● A面頭部はやや粗い剥離を施し、ステップ状剥離が若干混在する ● 錐部はていねいな調整剥離 ● A面の錐部のみ棱をもつ	明確には認められず
国版4-40 247	D-4 黑色粘質土層 (上層)	36.0 13.0 7.0 13.3 4.6×2.5 2.8		不整三角形	● 機械的の厚みのある頭部に細い錐部 ● 全体の錐辺部に細かな調整剥離を施し、A面錐部が比較的急角度な剥離であって棱をなす ● 頭部先端と錐部の軸との側辺と中央のくぼみた所が白く変色し、丸みをおびる	先端やや丸みをもつ
国版41 248	D-4 西側観察用断面 黑色粘質土層 (下層)	37.0(残存) 13.0 6.1 13.0(残存) 2.3×2.2 (残存) 3.0		菱形	● 縦長、両面ともに大剥離面を留める ● 錐部はよりていねいな調整剥離を施す ● 錐部両面に明確な稜線 ● 錐先端欠損 ● 全体に風化	明確には認められず

石錐（Ⅲ類）

國版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) 幅 厚 総長 総重量 (g)	長さ (mm) 頭部 総長 頭部 重量 (g)	錐部断面	特徴	備考 (使用痕跡)
国版41 249	F-7 南側觀察用断面 溝254 灰黒色粘質土層	36.0(残存) 12.0 5.0 17.0 3.1×1.2 2.0	半円形		<ul style="list-style-type: none"> 縦長の頭部、上端は打ち落とし面 両面とも大剥離面を残し、頭部・錐部にやや粗い調整剥離を施し、ステップ状剥離を若干呈する 錐部先端欠損 	明確には認められず
国版41 250	E-5 — 黑色粘質土層 (上層)	40.0 15.0 5.6 20.0 3.7×1.9 2.4	菱形		<ul style="list-style-type: none"> 不整円形の頭部、A面中央に大剥離面が残存 頭部・錐部ともにいねいに調整剥離を施し、ステップ状を呈する剥離が若干混在する A面錐部中央に棱線が通る 	明確には認められず
国版41 251	D-4 — 黑色粘質土層 (上層)	43.0 16.0 8.0 13.0 2.8×2.3 4.4	菱形		<ul style="list-style-type: none"> 縦長の頭部 両面ともに調整剥離を施し、ステップ状を呈する剥離が若干混在する A面錐部右側辺に抉り状の剥離がみられる B面中央に棱線をつくりだす 	先端や丸みをもつ
国版41 252	E-5 — 黑色粘質土層 (下層)	42.0 16.0 7.5 13.0 4.3×3.2 4.8	三角形		<ul style="list-style-type: none"> 長円形を呈する頭部 A面、全体に調整剥離を施し、B面全体は大剥離面が残存し、右側辺に頭部と錐部を区別する抉り状の剥離がみられる 両面ともにステップ状剥離が混在 錐部はいねいな調整剥離 A面中央に棱線をつくる 	錐部先端の側辺2mm程度にわずかに磨減
国版5-41 — 253	E-6 — 灰黒色粘質土層 (砂まじり)	20.0(残存) 11.5 4.5 8.5(残存) 4.0×4.0 0.8	菱形		<ul style="list-style-type: none"> 頭部に両面とも大剥離面を残し、頭部の調整剥離は粗雑に形成 錐部においてはやや細かな調整剥離が施される 錐部には両面ともに後が通る 錐部先端欠損 	現存部には認められず
国版41 254	E-3 — 黑色粘質土層 (上層)	23.0(残存) 12.0 3.7 11.0 4.4×3.7 0.8	菱形		<ul style="list-style-type: none"> 頭部上端欠損 両面とも頭部中央に大剥離面が残存 錐部はやや細かな調整剥離を施す 錐部中央に明瞭な棱線 	先端から側辺6mmに水平方向の磨減痕 丸みをもつ
国版41 — 255	E-5 — 黑色粘質土層 (上層)	23.0(残存) 13.0 2.8 10.0(残存) 3.0×1.3 (残存) 0.9	四辺形		<ul style="list-style-type: none"> 円形の扁平な頭部 頭部・錐部両面とも全体に大剥離面を留め、周囲を調整剥離 錐部先端は欠損 	明確には認められず

石錐（Ⅲ類）

國版番号	出土地名 遺構名 層位名	法量 (m) 幅 (m) 厚 (m) 鉛 長 (m) 鉛 径 (m)	長さ (m) 高 (m) 鉛 長 (m) 鉛 径 (m)	錐部断面	特徴	備考 (使用痕跡)
国版41 + 256	E-5 —— 暗灰色砂質土層	20.0(残存) 21.5(残存) 3.8 3.0(残存) 6.5×2.5 (残存) 1.4	レンズ状	● 横広がりの頭部、両面は大剥離面のまま ● 頭部・錐部境界に調整剥離を施す ● 錐部先端は欠損		明確には認められず
国版41 + 257	E-5 溝222 黒灰色粘質土層	22.0(残存) 17.0 4.7 7.0(残存) 4.5×3.0 1.6	五角形	● 不整円形の頭部、上端面わずかに研磨が施されている ● 頭部両面とも大きな剥離によって調整 ● 錐部片側のみ細かい調整剥離を施す ● 錐部先端欠損		現存部には認められず
国版41 + 258	E-7 —— 黑色粘質土層 (上層)	22.0 14.0 3.7 13.0 3.7×1.2 0.9	菱形	● 横広がりの頭部、上端は直線で細かく剥離 ● 両面中央に斜め方向の研磨痕が認められる ● 錐部はていねいに調整剥離		先端から側辺に若干認められる
国版41 + 259	E-5 —— 黒色粘質土層 (上層)	27.0 16.0 14.0 12.0 4.2×1.3 1.4	菱形	● やや幅広の頭部、左側面に打ち落とし面 ● 両面とも中央に大剥離面 ● 頭部下半に細かい剥離 ● 錐部は調整剥離を施し、ステップ状剥離が若干混在する ● 全体に風化		先端やや磨滅
国版41 + 260	D-4 西侧観察用断面 —— 黒色粘質土層 (下層)	28.0(残存) 17.0 4.5 15.0(残存) 5.1×4.0 (残存) 1.6	欠損部断面は四辺形	● 幅広の頭部、両面とも大剥離面を留める ● 頭部・錐部境界に抉り状の大きな剥離により錐をつくりだす ● 錐部にも大剥離面が残存 ● 全体に粗いつくり		現存部には認められず
国版41 + 261	E-6 —— —— 落ち込み218 灰黒色粘質土層	27.5(残存) 17.0 4.2 18.0(残存) 5.8×3.2 1.5	不整五角形	● 錐部先端欠損 ● B面頭部は粗く調整 ● 上端に自然礫面が残存 ● 頭部下半から錐部にかけて周辺を細かく調整剥離を施し、わずかに屈曲		現存部には認められず
国版41 + 262	E-6 落ち込み218 灰黒色粘質土層	29.5 14.5 8.8 12.5 5.0×2.5 2.9	扁平な三角形	● 厚みのある不整體の頭部に継ぐ突出する錐部 ● 頭部上端には自然礫面が残る ● 頭部両側辺は両面とも粗い剥離面よりなる ● 錐部は大きな剥離で抉ったのち、A面両側辺、B面右側辺に細かい調整剥離を施す ● 錐部先端は細かい調整剥離を施すが鈍い		明確には認められず
国版41 + 263	D-3 西侧観察用断面 —— 黒色粘質土層 (下層)	28.0 22.0 6.1 12.0 2.9×1.9 2.8	菱形	● 横広がりの頭部、上端は打ち落とす ● 頭部右側面には自然礫面を留め中央に大剥離面が残存 ● 頭部・錐部ともやや粗い調整剥離を施し、ステップ状を若干混在する		明確には認められず

石錐（Ⅲ類）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (m) (g)	長さ 幅 厚 総重量 (mm)	錐部断面	特徴	備考 (使用痕跡)
図版41 264	E-6 — 暗黄色砂質土層	30.0 17.5 6.2 15.0 4.1×1.4 1.9		菱形	<ul style="list-style-type: none"> △三角形状の頭部、左側辺には自然縫面を残す 両面とも中央に大剥離を留め、ステップ状剥離が若干観察する 錐部両側辺に調整剥離を施す 	明確には認められず
図版41 265	E-3 — 黑色粘質土層 (下層)	30.0 22.0 6.6 15.0 3.4×1.3 2.1		レンズ状	<ul style="list-style-type: none"> 横広がりの頭部 A面右側に大剥離面が残り、B面右側にも一部大剥離面を残し左側には主要剥離面を留め、打点は頭部上端にあたる 頭部上端面に自然縫面 錐部はていねいな調整剥離 	明確には認められず
図版41 266	E-5 溝238 黒灰色粘質土層	32.5(残存) 20.0 7.2 1.8(残存) 3.2×1.4 3.0		三角形	<ul style="list-style-type: none"> 頭部上端欠損、錐部先端欠損 幅広の頭部で両面に粗いが調整がみられる 下半側辺から錐部にかけて細かく調整し、先細りの長い錐をつくる 錐部片面には明確な稜線がみられる 	現存部には認められず
図版41 267	D-4 — 黑色粘質土層 (上層)	37.0(残存) 17.0(残存) 7.1 16.0 4.0×3.0 3.4		菱形	<ul style="list-style-type: none"> 頭部上端は打ち落とす 両面とも中央に大剥離面が残存 錐部・頭部境界に抉り状の大きな剥離により錐をつくりだす 錐部両面に後線をつくりだす 全体に粗いつくり 	明確には認められず
図版41 268	D-4 — 暗黄色砂質土層 (粘土まじり)	33.5(残存) 17.0 6.5 19.3(残存) 6.5×4.0 2.5		不整三角形	<ul style="list-style-type: none"> 頭部上端側辺に自然縫面を残す 頭部と錐部輪はわずかに屈曲する 錐部周辺には細かな調整が施され、細長い錐部をつくりだす 錐部先端わずかに欠損 	明確には認められず
図版41 — 269	D-4 落ち込み214 灰黑色粘質土層	33.0(残存) 24.0 4.1 12.0(残存) 7.1×3.1 (残存) 2.7		レンズ状	<ul style="list-style-type: none"> 不整三角形状の頭部、左側面に自然縫面を残す 両面とも中央に大剥離面が残存 頭部・錐部境界に調整剥離 錐部に細かな剥離を施す 	現存部には認められず
図版41 270	D-4 — 黑色粘質土層 (上層)	33.0 26.5 8.0 15.0 2.3×1.8 4.7		扁平な菱形	<ul style="list-style-type: none"> 横長の頭部 頭部上端に打ち落とし面、左側面に自然縫面を残す 両面とも中央に大剥離面が残存 錐部は両側辺よりていねいな調整剥離 	錐部先端や丸み

石錐(Ⅲ類)

図版番号	出土地区名、遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 高さ 厚さ 長径 短径 軸量	錐部断面	特徴	備考 (使用痕跡)
図版41 271	E-6 —— 暗黄灰色砂質土層	34.0(残存) 21.8 5.7 11.5(残存) 5.0×3.0 3.2	扇形	●三角形を呈する頭部 ●頭部A面は大きな剥離面からなり、細かい調整剥離を施されていない ●頭部B面には大剥離面が残存し、右上方に打点がある ●頭部ではB面右側辺下半にのみ調整剥離がみられる ●錐部は頭部A面右下端から下方に細長く突出する ●錐部は両面とも両側辺より調整剥離を施し、A面の剥離の方が深い	現存部には認められず	
図版41 272	E-6 —— 暗黄灰色砂質土層 (粘土まじり)	35.0(残存) 24.0(残存) 6.0 10.0(残存) 5.1×2.0 3.9	欠損部断面は菱形	●頭部上端欠損 ●両面とも中央に大剥離面を留め、B面の一端には自然剥離面を残す ●頭部・錐部とともに周囲より調整剥離 ●錐部に棱線をつくりだす ●錐部先端欠損	現存部には認められず	
図版41 273	D-4 北側觀察用断面 —— 黒色粘質土層 (上層)	34.8 24.0 8.2 2.0 3.0×2.0 6.0	扇形	●全体は一辺を大きく抉った逆三角形を呈す ●頭部は大きな剥離面よりなり、A面両側端部には自然剥離面が残る ●頭部B面上部には右側方に打点をもつ大剥離面がみられる ●錐部は両面両側辺より調整剥離を施し、A面左側辺は大きく抉る	錐部若干磨耗	
図版41 274	E-6 —— 灰黒色粘質土層 (砂まじり)	34.4 23.0 6.8 10.0 4.0×1.5 4.2	三角形	●不整四角形の頭部下端に短い錐部 ●頭部・錐部ともに粗い剥離を施し、ステップ状剥離が若干混在する ●B面全体に大剥離面残存	明確には認められず	
図版41 275	D-3 土壤206 黑色粘質土層 (下層)	36.0 20.0 7.0 19.0 3.0×1.3 3.8	台形	●不整円形の頭部 ●頭部右側面に自然剥離面、両面とも小さな大剥離面を留める ●A面、大きめの剥離により調整 ●B面中央に主要剥離面を留める、打点は上端にあたる ●錐部にやや粗い調整剥離を施し、ステップ状剥離を若干混在する	明確には認められず	
図版41 276	E-5 構238 黒灰色粘質土層	33.1(残存) 26.0 9.3 9.0(残存) 6.0×3.5 4.8	扇形	●扇形に近い頭部 ●頭部両面とも粗い剥離面から成る ●頭部A面左側辺上半には両面に調整剥離を施し、右側辺上半は主要剥離のエッジ残存 ●頭部両側辺下半は両面より調整剥離を施す ●錐部は先端を欠損する ●錐部は両面両側辺より調整剥離	現存部には認められず	

石錐（Ⅲ類）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) — —	長さ 幅 厚 雄 錐 径 存 重 量	錐部断面	特徴	備考 (使用痕跡)
図版41 277	D-5 — 黑色粘質土層 (下層)	32.0 — 6.8 16.0 3.0×1.5 4.5		菱形	● 横広がりの頭部、上端は打ち落とす ● 両面、頸部中央に大剥離面残存 ● 頭部・錐部ともに粗雑な調整剥離 ● 両面ともステップ状剥離が混在する	錐部先端側面がわずかに磨滅
図版41 278	D-4 — 明黄灰色砂質土層	43.0(残存) — 6.1 18.0 3.1×3.8 5.0		三角形	● 頭部上半欠損 ● 両面とも大剥離面 ● 頭部錐部とも左側面は打ち落し、右側面には丁寧な調整剥離を施し、ステップ状を呈する剥離が若干混在する	現存部には認められず
図版41 279	E-5 西側觀察用断面 — 黑色粘質土層 (下層)	40.0 — 23.0 7.5 18.0 6.0×4.1 4.6		菱形	● 不定形の頭部上半で両側から抉り状の剥離を施し、頭部下半が左右に突出 ● 両面中央に大剥離面残存 ● 頭部や粗く剥離 ● 錐部は調整剥離を施し、ステップ状剥離が若干混在する ● 両面とも錐部に棱線を作りだす ● 錐部先端一部欠損	明確には認められず
図版41 280	D-3 — 黑色粘質土層 (上層)	26.0 — 15.0 5.5 15.0 4.3×2.0 1.1		菱形	● Y字状を呈する錐 ● 両面ともに丁寧な調整剥離を施し、大剥離面を留めず ● 先端向側面からの剥離によりやや尖る ● 両面とも錐部に後が通る	明確には認められず
図版41 281	E-3 — 黑色粘質土層 (上層)	25.0(残存) — 14.0 4.0 18.0 5.1×2.1 8.0		菱形	● Y字状を呈する錐 ● 頭部・錐部は丁寧な調整剥離を施す ● 锥としては丹念な加工 ● 粗大厚は頭部下半 ● 錐部両面ともに棱線を作り出す	先端部とその側面がやや丸み
図版5-41 282	D-4 — 黑色粘質土層 (下層)	28.0 — 19.0(残存) 3.5 15.6 4.6×2.5 1.2		四辺形	● 頭部一部欠損、Y字状を呈する ● 頭部の調整は粗雑で片面には大剥離面を残す ● 錐部は丁寧に調整されている ● 錐部片面にかすかに縫が通る	認められず
図版41 283	F-8 — —	27.0 — 23.0 6.0 14.0 6.0×4.0 2.4		不整四辺形	● 全体Y字状を呈する錐 ● 全面に丁寧に調整剥離を施し、大剥離面は遺存せず ● ステップ状剥離が若干認められる ● 先端は両側からの剥離により尖る	明確には認められず
図版41 284	E-6 — 灰黒色粘質土層 (鉛まじり)	27.5(残存) 9.0(残存) 2.5(残存) 22.0 5.0×2.0 0.6		台形	● 頭部を欠損 ● 錐部は少し反り、細長い ● 両面に大剥離面を残すがB面ではほとんどを占める ● B面左側面では1箇所のみ調整剥離を施し、それ以外の両面各辺からは丁寧に調整剥離が施される	明確には認められず

石錐（Ⅲ類）

図版番号	出土地名 遺構名 層位名	法量 (m) (g)	長さ 幅厚 鉛錐長 錐底重量	錐部断面	特 徴	備 考 (使用痕跡)
図版41 285	E-5 — 黑色粘質土層 (上層)	29.0 11.0 4.0 2.0 5.5×3.5 1.1	菱形	● 不整形の小さな頭部をもつ ● B面右半分に自然面を残す ● 頭部上端面とA面頭部全面及びB面頭部中央左側に大剥離面を残す ● A面錐部左側及びB面左側に調整剥離を施す ● A面では両側面からの調整剥離によって、B面では自然面と大剥離面の境によって棱をなす	明確には認められず	
図版41 286	E-4 溝238 黒灰色粘質土層	29.5 13.0 4.0 22.0 6.0×4.0 1.2	五角形	● 不整形の頭部をもつ ● 頭部上端面、両面中央（特にB面では先端近くまで）、B面錐部左側に大剥離面を残す ● 調整剥離はB面錐部、左側以外の各辺から施すが特にA面錐部の調整剥離は丁寧で綾をなす ● B面錐部左側の調整剥離は錐で凹凸をなす	先端わずかに磨滅	
図版41 287	F-8 — 暗黄灰色砂質土層 (粘土まじり)	35.5 11.8 6.5 21.5 3.0×3.0 1.5	三角形	● 小さな三角形に近い頭部下がわざかに屈曲し、細長い錐部を作る ● 3面のうち2面が錐部に細かな調整（ステップ状剥離も混在）が施されるが1面は大きく打ち削っただけの面で錐部先端8mmぐらいのみ調整がみられる	先端3mmから5mmに磨滅が見られる	
図版41 288	E-7 溝24 暗黄灰色砂層	38.5(残存) 10.0 5.0 17.0(残存) 4.5×4.0 (残存) 1.6	欠損部断面は五角形	● 頭部と錐部の区別がつく棒状錐 ● 頭頂部と先端部を欠損 ● B面頭部中央に自然面を小さく残す ● 調整剥離を両面両側邊から丁寧に施す ● B面頭部右下に明瞭なステップ状剥離 ● A面頭部、錐部の中央、B面錐部中央に棱を成す	現存部には認められず	
図版41 289	E-5 — 暗黄灰色砂層	37.5 13.5 5.5 28.0 8.5×5.0 2.8	厚いレンズ状	● 不整形の小さな頭部をもち棒状錐に近い ● 両面中央に大剥離面を残す ● 両面各辺から調整剥離を施すがA面ではB面より急角度に入る ● A面錐部下において調整剥離によるやや不明瞭な棱を成す	先端わずかに磨滅	
図版41 290	E-5 — 黑色粘質土層 (上層)	41.0 16.5 7.0 21.5 5.5×3.0 3.6	菱形	● 不整な橢円形の頭部をもつ ● 全体的に部厚く頭部中央に最大厚をもつ ● A面頭部右半分、錐部中央及びB面頭部中央に大剥離面を残す ● A面頭部右側以外の両面各辺から調整剥離を施すがやや難である	明確には認められず	
図版41 291	E-4 — 黑色粘質土層 (下層)	40.5 18.0 6.5 18.0 8.0×5.5 4.6	レンズ状 (不整で 部厚い)	● 不整形の頭部をもつ ● 全体的に部厚く、先端付近で急にすぼまる ● B面頭部中央およびA面錐部中央に大剥離面を残す ● 両面とも各辺から調整剥離を施すが錐でB面頭部にステップ状剥離が認められる	先端から側辺5mmに水平方向の磨滅程度	

石錐(Ⅲ類)

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 鉛 錐 頭 部 断 面 重 量	錐部断面	特 徴	備 考 (使用痕跡)
図版5-41 292	E-4 — 青灰色砂層 (黒チマじり)	41.0 — 16.0 4.0 26.0 3.0×2.0 1.8	41.0 — 16.0 4.0 26.0 3.0×2.0 1.8	菱形	<ul style="list-style-type: none"> 円形状の頭部に長い錐部 錐部は両面とも細かい調整剥離で形成 頭部、錐部の境の片側が大きく屈曲している 頭部上端に自然礫面をわずかに残す 錐部はやや彎曲している 	認められず
図版41 293	E-3 — 明黒灰色粘質土層	40.5 — 24.0 7.5 25.0 3.5×2.0 4.9	40.5 — 24.0 7.5 25.0 3.5×2.0 4.9	三角形	<ul style="list-style-type: none"> 縦長の錐、上半広がって頭部となる 上端は打ち落とし面 両面とも大削離面が残存 A面錐部はやや粗い削離でB面錐部は調整削離を施し、ステップ状を呈する削離が若干混在する 	先端や丸みをもつ 明確には認められず
図版41 294	D-3 — 黒色粘質土層 (上層)	28.5 — 16.0 4.0 20.5 5.5×3.5 1.2	28.5 — 16.0 4.0 20.5 5.5×3.5 1.2	菱形	<ul style="list-style-type: none"> 不整な横円形を呈する頭部をもつ錐 B面頭部中央に大削離面を残す 調整削離は両面とも各辺から施すが、錐で、A面頭部および右側辺にステップ状削離が認められる 	先端から側辺6mmに 磨滅
図版5-41 295	F-8 — 暗灰黑色砂質土層 (粘土まじり)	34.0 — 12.0 5.0 22.5 4.6×2.5 1.4	34.0 — 12.0 5.0 22.5 4.6×2.5 1.4	四辺形	<ul style="list-style-type: none"> 頭部上端は凹む 幅広の頭部に極めて細い錐部 最大厚は頭部下端 錐部は両側辺よりていねいな調整削離が施され、頭部にも細かな調整がみられる A面中央沿いに自然礫面が残存し、それに沿って上端から下端まで縦が通る 	認められず
図版41 296	E-4 — 西側觀察用断面 — 黒色粘質土層 (上層)	35.0(残存) 21.0 5.5 25.0 5.5×4.5 2.2	35.0(残存) 21.0 5.5 25.0 5.5×4.5 2.2	欠損部断面は三角形	<ul style="list-style-type: none"> 逆L字状を呈する 先端わずかに欠損 片側辺(L字の外側)は素材時の削離をそのまま利用 頭部上端面に自然礫面を残す 両面とも大削離面を全面にわたって大きく残す A面右側辺、B面左側辺からのみ調整削離を施す 	現存部には認められず
図版41 297	E-5 溝238 黒灰色粘質土層	36.5 — 26.0 6.0 21.5 6.0×4.0 2.8	36.5 — 26.0 6.0 21.5 6.0×4.0 2.8	菱形	<ul style="list-style-type: none"> Y字状を呈する 全体的に部厚いが錐部中ほどで先端に向かって急に薄くなる A面頭部中央に大削離面を残す 調整削離は両面とも各辺からていねいに施す 両面錐部に縦をなす 	明確には認められず
図版41 298	F-7 溝238 暗黒色粘質土層	18.0(残存) 11.0(残存) 6.5(残存) 8.0(残存) 5.0×5.5 (残存) 1.1	18.0(残存) 11.0(残存) 6.5(残存) 8.0(残存) 5.0×5.5 (残存) 1.1	欠損部断面は三角形	<ul style="list-style-type: none"> 素材をそのまま利用したもので小さな不整形の頭部をもつ 錐部の大半を欠損 片側辺に素材時の削離をそのまま留め垂直な面をなす 両面に大削離面を大きく残すが、B面では調整削離が施されず、フラットな面である A面右側辺にのみ調整削離を施す 	現存部には認められず

石錐（Ⅲ類）

図版番号	出土地名 遺構名 層位名	法量 (cm) (g)	長さ 幅厚 鉛筆 筆跡 筆痕	錐部断面	特徴	備考 (使用痕跡)
図版41 299	E-5 — 黑色粘質土層 (上層)	18.5(残存) 11.5(残存) 2.5(残存) 6.0(残存) 6.5×2.5 (残存) 0.8	欠損部断面はレンズ状	●円形(多角形)の頭部をもつ ●錐部の大半を欠損 ●両面とも大剥離面を大きく残す ●両面とも各辺から調整剥離を施すが頭部では垂直に近い面をなす所や、ステップ状剥離がみられる		現存部には認められず
図版41 300	E-5 構238 墨灰色粘質土層	24.0(残存) 11.5 4.5 錐部6.0 (残存) 頭部4.5 錐部 6.0×3.5 (残存) 頭部 5.0×3.0 1.3	欠損部断面は五角形 錐部6.0 (残存) 頭部4.5 錐部 6.0×3.5 (残存) 頭部 5.0×3.0 1.3	●梢円形の頭部をもつ ●錐部の大半を欠損 ●頭頂端も錐として利用 ●B面中央に大剥離面を残す ●調整剥離を両面各辺から施すが、A面ではB面に比べてまだである ●A面頭部左下にステップ状剥離 ●A面中央にジグザグに走る線をなす		錐部 現存部には認められず 頭部 頭頂部から側辺4.5cmに磨滅
図版41 301	E-5 — 黑色粘質土層 (上層)	23.0(残存) 14.0(残存) 6.0(残存) 2.0(残存) 5.0×3.5 (残存) 2.0	欠損部断面は菱形	●梢円形を呈すると思われる頭部をもつ ●頭部上半および錐部の大半を欠損 ●両面とも調整剥離を全体に施す ●両面右側辺にステップ状剥離		現存部には認められず
図版41 302	E-5 — 黑色粘質土層 (上層)	27.0(残存) 21.0 5.5 — — 2.8	欠損部断面はレンズ状	●小整な綫長の梢円形の頭部をもつ ●錐部欠損 ●両面に大剥離面(A面1つ、B面2つ)を残す ●両面とも各辺から調整剥離がていねいに施されるが、B面右側辺、上辺では、ほとんど施されない ●B面右側辺下半、左側辺上半にステップ状剥離		現存部には認められず
図版41 303	F-8 — 暗黃灰色砂層 (粒子あらい)	50.0(残存) 20.0 8.5 4.5(残存) 3.0×2.5 7.5	四辺形	●全体がやや柳葉形でそりぎみ ●A面は調整面よりなり、頭部上端から左側辺にかけて段をもち、ステップ状剥離が混在する ●B面では大きな3つの剥離から成り立ち、右側辺にステップ状剥離が混在する ●頭部下端から錐部にかけて、調整剥離を部分的に施し、稜線が通る ●錐部先端欠損		欠損のため、明確には認められず
図版41 304	F-8 — 暗黃灰色砂層	19.0(残存) 15.5(残存) 5.0(残存) 5.0(残存) 6.0×4.0 (残存) 1.3	欠損部断面はレンズ状	●頭部および錐部の大半を欠損 ●A面頭部左半分およびB面中央に大剥離面を残す ●B面左側辺にステップ状剥離が認められる ●両面両側辺より調整剥離を施す ●A面に右側辺に彎曲する線をなす		現存部には認められず

石錐(Ⅲ類)

国版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 高 重量	錐部断面	特徴	備考 (使用痕跡)
国版41 305	D-4 — 黑色粘質土層 (上層)	21.0(残存) 22.0(残存) 5.0 8.0(残存) 4.0×3.0 (残存) 2.7		四辺形	<ul style="list-style-type: none"> 片方に突出する幅広の頭部 両面とも大剝離面が残存 側辺から錐部にかけて調整剝離 頭部上端および左側面は欠損 錐部先端欠損 	明確には認められず
国版41 306	D-3 — 黑色粘質土層 (上層)	21.5(残存) 20.0(残存) 5.0(残存) 7.0(残存) 6.0×3.0 (残存) 1.6		欠損部断面は菱形	<ul style="list-style-type: none"> 横長の橿円形の頭部をもつ 錐部下半を欠損 B面中央に大剝離面を小さく残す 両面各辺から調整剝離を施す B面左側辺にステップ状剝離が認められる 両面の錐部に縦をなす 	現存部には認められず
国版5-41 307	E-5 溝260 明黒灰色粘質土層	27.0(残存) 20.0 4.5 10.0(残存) 5.7×3.0 (残存) 1.7		菱形	<ul style="list-style-type: none"> 頭部と錐部が明確に区別して作られており、不整円形の扁平な頭部に錐部はやや組み 両面とも頭部上端をのぞき、周囲を調整剝離を施し、頭部には大剝離面が残存 錐部先端は欠損 	現存部には認められず
国版41 308	E-6 — 暗黄灰色砂質土層 (粘土まじり)	21.5(残存) 21.0(残存) 5.5(残存) 5.0(残存) 6.0×3.5 (残存) 2.4		欠損部断面はレンズ状	<ul style="list-style-type: none"> 台形の頭部をもつ 錐部の大半を欠損 頭部上端面に自然縁面を残す 両面頭部中央に大剝離面を残す 頭頂部以外の両面各辺から、調整剝離を錐に施す 	現存部には認められず
国版41 309	E-3 — 明黒灰色粘質土層	28.0(残存) 17.0(残存) 3.0(残存) 8.0(残存) 5.0×2.5 (残存) 1.4		欠損部断面は不整形	<ul style="list-style-type: none"> 不整形の頭部をもつ扁平な錐 錐部下半を欠損 両面とも大剝離面を大きく残す 両側辺に素材時の剥離をそのまま留め、ほぼ垂直に切り立っている 両面頭頂部、A面右側辺で頭部下半以下、B面左側辺で頭部下半以下にのみ調整剝離を施す 	現存部には認められず
国版41 310	E-5 — 黑色粘質土層 (上層)	30.0(残存) 20.0 9.0 5.0(残存) 6.5×4.0 (残存) 4.5		欠損部断面はレンズ状	<ul style="list-style-type: none"> 不整な橿円形で大きめの頭部をもつ 錐部の大半を欠損 両面とも大剝離面を大きく残す 両面とも調整剝離を施すが、細かなものは施さず、粗加工のまままでとめている 両面各所でステップ状剝離が認められる 	現存部には認められず
国版41 311	E-5 — 黑灰色粘質土層	29.0(残存) 25.5(残存) 5.0(残存) 10.0(残存) 5.0×3.0 (残存) 3.2		欠損部断面はレンズ状	<ul style="list-style-type: none"> 三角形の頭部をもつ大型錐 錐部の大半を欠損 A面に2つ、B面に1つの大剝離面を残す 片側辺に素材時のステップ状剝離が残る 両面各辺から調整剝離が施されるが、A面左側辺では一方所だけである 	現存部には認められず

石錐（Ⅲ類）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅厚 鍾乳 重量 重筆	錐部断面	特 徴	備 考 (使用痕跡)
図版41 312	E-6 — 黒色粘質土層 (上層)	29.8(残存) 30.5 6.1 2.4(残存) 4.5×4.0 4.8	菱形(半 損)	● 半月形の頭部の弧の部分に錐部 ● 錐部は先端およびA面右側辺を欠損する ● 頭部は大まかに剥離を施した剥片の上半を半割 している ● 側辺は両面からの調整剥離 ● 錐部も両面からの調整剥離 ● 頭部A面左側辺上部には石英、その他不純物を 含む箇所あり	現存部には認められ ず	
図版41 313	E-5 — 黒色粘質土層 (上層)	35.5(残存) 26.5 9.0 15.0(残存) 6.5×4.0 (残存) 5.7	欠損部断 面は菱形	● 楕円形で厚い頭部をもつ ● 錐部下半を欠損 ● 両面頭部中央に大割離面を残す ● 両面各辺からやや難な調整剥離を施す ● 両面頭部各辺にはステップ状剥離が認められ、 特に頭部右上では凹凸をなす ● 両面とも錐部中央に稜をなす	金山產 現存部には認められ ず	
図版41 314	D-4 — 黒色粘質土層 (上層)	35.0(残存) 25.0 5.5 10.0(残存) 5.0×3.0 (残存) 3.5	欠損部断 面は菱形	● 不整な円形で扁平な頭部をもつ ● 錐部下半を欠損 ● 頭部と錐部の境に最大厚を有する ● 両面とも頭部に大割離面を大きく残し、A面頭 部右側辺に自然破面を残す ● 両面とも各辺から調整剥離を施すが、頭部では 部分的に施されない所がある ● 両面左側辺にステップ状剥離 ● 両面とも錐部中央に稜をなす	現存部には認められ ず	

石錐（形式不明）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) 幅 (g)	長さ 幅 厚 錐部 重量 重筆	錐部断面	特徴	備考 (使用痕跡)
D-3	13.5(残存) 西側觀察用断面 6.0(残存) 3.0(残存) 黑色粘質土層 (上層)	13.5(残存) 6.0(残存) 3.0(残存) 先端 —— 0.2	欠損部断面は菱形	●先端のみ ●調整剥離を全面に施す ●両面とも中央に綫をなす		明確には認められず
E-7	20.0(残存) 溝24 昭黃灰色砂層	20.0(残存) 12.5(残存) 4.3 10.0 6.0×2.5 1.0	扇形	●錐部と頭部下端のみ残存 ●頭部の大部分は欠損 ●錐部は頭部下端に達なり、極めて鋭利 ●錐部および頭部下端の調整は内面より調整剥離を施し、A面の剥離は深く、B面の剥離は薄く、一部はステップ状を呈する		明確には認められず
D-3	24.5(残存) 北側觀察用断面 —— 黑色粘質土層 (上層)	24.5(残存) 27.5 7.5 4.0(残存) 7.8×4.2 4.6	平行四辺形	●逆三角形を呈す ●頭部上端は欠損面 ●頭部はB面右側辺を除く三辺に調整剥離を施す ●頭部下端がそのまま錐部となり、錐部は先端を欠損する ●錐部A面左側辺は大きな剥離面があり、右側辺は両面より調整剥離を施す		現存部には認められず

第2節 扁平片刃石斧（図版5・6・43-60～90）

本遺跡から出土している扁平片刃石斧は34点である。

その大部分は破損して出土しているが完形品は5点あり、扁平片刃石斧・大型蛤刃石斧・柱状片刃石斧・石槍の再加工も4点出土し、未製品も2点みられる。出土している扁平片刃石斧の平面形は、長方形・台形・橢円形等を呈し、断面は長方形・杏仁形・橢円形・三角形・不整形で、刃部は片刃、両刃ぎみ、両刃のものがみられる。刃部刃縁は、直刃（60・65・68・72・73・77・82～85・87・88・90）、円刃（61・63・66・69・71）、そして刃の損耗とつけなおしが繰りかえされることの結果としての偏刃（64）に大別される。

扁平片刃石斧の使用石材については、第10表扁平片刃石斧使用石材割合表のとおりである。

本遺跡出土の扁平片刃石斧には、磨製品と半磨製品（局部磨製—打製により形を整えた後、主に刃部の一部分に研磨を加えたもの）とがみられる。局部磨製の扁平片刃石斧の石材は、すべてサスカイトであり、このことは石材のもつ性質によるものと考えられる。

(60)は、平面形が基端より刃部の方に広がる台形状で、断面は扁平な長方形を呈する薄手のものであり、扁平片刃石斧としては中型の部類に属するものである。平面は、両面とも丁寧な研磨が施されているが、側面は自然面を残している。石材は、砂岩である。(61)は、平面形は基端より刃部の方へ広がる台形状で、断面は杏仁形を呈し、全体は丁寧に研磨されている。両刃ぎみの片刃であり、一面では刃部後端が明確に認められる。刃部は刃縁全体に刃溝がみられ、かなり使用されたものと考えられる。石材は、泥岩である。(62)は、平面形は長方形でやや刃部に向かって広がりをもち、断面は扁平な長方形を呈している。基端、両側辺の一部に欠損部分がみられるが、欠損後再研磨されている。全体に非常に丁寧な研磨が施されており、光沢を有している。石材は頁岩である。(84)は、平面形が基部より刃部の幅が広い“撥型”で、基部と刃部の境に最大厚を有している。両面全体にわたって大剥離面を残し、刃縁には調整剝離を施しており、刃面一部に研磨が行われている半磨製のものである。石材はサスカイトである。(85)は、平面形は基部と刃部の幅がほぼ等しい長方形で、断面は不整形を呈している。両面とも大剥離面を残し、刃縁は直刃の片刃である。基部の一部に研磨が認められる。

註

(1) 佐原真「石斧論—横斧から縱斧へ—」『考古論集—松崎寿和先生六十三歳論文集』1977

第10表 扁平片刃石斧使用石材割合表

種類	頁岩	粘板岩	サスカイト	砂質片岩	砂岩	泥岩	黒色頁岩	珪質頁岩	花崗質砂岩	チャート	不明	計
点数	11	6	6	3	2	1	1	1	1	1	1	34
%	32.4	17.7	17.7	8.9	5.9	2.9	2.9	2.9	2.9	2.9	2.9	100

石斧（扁平片刃）

國版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考 (石材)
國版5-43 60	C-4 落ち込み214 黒色粘質土層 (上層)	5.7 3.5 1.3 49.8		長方形	<ul style="list-style-type: none"> 完形品 平面は基部より刃部の方へ広がる台形状 平面は両面とも丁寧な研磨を施しているが両側面は自然面を残す 	砂岩
國版5-43 61	C-3・C-4 間観察用断面	4.4 3.1 — 1.0		杏仁形	<ul style="list-style-type: none"> 全体に丁寧に研磨されており光沢を帯びている A面では刃部後が明確でB面でもわずかに刃部後が認められる 刃部には全体にわたって刃こぼれが認められる 横方向の研磨痕が全体にみられる 	泥岩
國版5-43 62	E-6 暗黄灰色砂層	3.8 2.4 0.8 16.7		扁平な長方形	<ul style="list-style-type: none"> 完形品 平面は長方形でやや刃部に向かい広がる 刃部は片刃の直線刃 A上面端に横方向の線状痕があり光沢を有する、左側面破損後再研磨され光沢をもつ B面基端左の角が落され丸みを帯びている、右上端破損後再研磨され光沢を有する 基端はやや丸みをもつ 全面光沢を有する 	頁岩
國版5-43 63	E-6 — 淡黒色砂質土層 (砂層含む)	2.2(残存) 2.0 0.7 5.2		橢円形	<ul style="list-style-type: none"> 基部のなかほどで真横にわれて欠損している 内刃ぎみ 全体に丁寧に研磨されており光沢を帯びている 平面は長方形であったと思われるが刃部にかけてはやや先ずほまりになっている 刃部には刃こぼれと使用痕らしきものがみとめられる 	砂岩
國版43 64	E-7 — 暗黄灰色砂質土層 (粘土まじり)	3.9(残存) 2.3(残存) 1.0 12.9		長方形	<ul style="list-style-type: none"> 刃部～基部の左角の破片である 側辺は少し丸みを帯びる 片刃で外脛刃である 側面はフラットな面だがややゆがむ 両面側面の全面に研磨を施すがA面では研磨が及ばない調整剥離が多く残っている B面でも研磨面の下に剥離の凹面をとどめる 	頁岩
國版43 65	F-7 — 黒色粘質土層 (下層)	6.1(残存) 2.5(残存) 1.1 18.3		—	<ul style="list-style-type: none"> 刃部～基部の右角の破片である 側辺は直線とはならず波うっている 両刃で外脣刃である 刃縁には刃こぼれが認められる 刃面と基部の面との境は不明瞭 側面は一部では丸みを帯びる 両面側面の全面に研磨を施す A面では研磨面の下に剥離の凹面をとどめる 	頁岩
國版43 66	E-6 — 暗黄灰色砂質土層 (粘土まじり)	7.5(残存) 2.3(残存) 1.0(残存) 22.9		—	<ul style="list-style-type: none"> 両刃 A面左側面欠損 基端の右角が落され丸みを帯びている、左角は欠損後研磨されている 両面及び右側面に研磨を施しているが研磨の及ばない片理面や剥離が残存 刃先には若干の磨滅 	頁岩

石斧(扁平片刃)

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (cm) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考 (石材)
図版5・43 67	D-6 —— 暗黃灰色砂層	6.1(残存) 0.6 1.3 7.4	6.1(残存)	長方形	<ul style="list-style-type: none"> 柱状片刃石斧を再利用したものと思われる 先端三面の刃の部分には使用痕がみられる 左側面を除く三面は丁寧に研磨されている 先端と下端が欠損している 	粘板岩
図版5・43 68	E-4 —— 黑色粘質土層 (上層)	5.2(残存) 1.7(残存) 1.1 17.8	5.2(残存)	長方形	<ul style="list-style-type: none"> 長軸方向に欠損した2分の1個体 平面も長方形を呈すると思われるが基端が凸形に彎曲して成形されており面を成す 刃部にかけて細くなりぎみである 両刃の直線刃である 表面には研磨痕が顕著にみられる 	頁岩
図版5・43 69	E-8 西側觀察用断面 —— 灰黒色粘質土層 (砂まじり)	3.7 1.4 0.8 7.2	3.7	四辺形	<ul style="list-style-type: none"> 長軸方向に欠損した2分の1個体だが破損面を更に研磨して再び使用している 平面は細長い隅丸長方形を呈している A面右側辺全体に火が当っている痕跡がみられ、左側辺基端の破損面の上に研磨を施している A・B面右側においても丁寧に研磨されている、又、刃面は火に当ってから砥きなおされたと思われる 	頁岩
図版43 70	D-4 —— 灰黒色粘質土層	4.6(残存) 1.0(残存) 1.5(残存) 10.5	4.6(残存)	——	<ul style="list-style-type: none"> 刃部～基部で長軸方向に割れた破片、側面、基端も欠損 片刃で外彎刃である 刃面は急角度で刃縁は尖らず丸みをもつ 両面全面に研磨を施す 両面中央にわずかに敲打痕を残す 	粘板岩
図版43 71	D-5 —— 暗黃灰色砂層	3.5(残存) 1.8(残存) 0.8(残存) 4.3	3.5(残存)	——	<ul style="list-style-type: none"> 基部～刃部の2分の1の破片 片刃の外彎刃で側辺も丸みをもつ 刃面の幅は1.5mmと狭い A面と側面の境は角を有するがB面と側面の境は丸みをおびている A面では斜及び横方向の研磨痕が明瞭にみられる 表面は全面に研磨を施す 	頁岩
図版5・43 72	F-7 —— 黑色粘質土層 (上層)	3.3(残存) 1.5(残存) 0.8 4.3	3.3(残存)	台形	<ul style="list-style-type: none"> 刃部のみ。しかも2分の1欠損 A面において刃部は途中稜を成し丸みをもって落ちていく B面左側辺には平坦な部分がみられる B面先端においては無数の縱方向の磨きがみられる 体部では縦又は斜方向の研磨痕 A面刃部は斜又は横方向の研磨痕 	頁岩
図版43 73	E-5 —— 黑色粘質土層 (上層)	3.0(残存) 1.2(残存) 0.8(残存) 2.6	3.0(残存)	長方形	<ul style="list-style-type: none"> 刃部～基部の左角の破片である 片刃の直線刃である 刃面と基部の面との境はやや不明瞭 両面側面の全面に研磨を施す A面刃部の左上に研磨の及ばない剥離が残る 	頁岩
図版43 74	E-4 Pit 973 黑色粘質土層 (上層)	3.0(残存) 1.4(残存) 0.6(残存) 3.6	3.0(残存)	——	<ul style="list-style-type: none"> 小型 基端を欠損 両側辺は刃部に近づくにつれ幅狭になる 両面とも片刃面をとどめている 両側面及び刃部に研磨を施すが刃面において研磨の及ばない凹みがある 	未製品 粘板岩

石斧（扁平片刃）

岡版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) 幅 (s)	長さ (a) 厚 (t) 重量	中央断面	特徴	備考 (石材)
岡版43 75	D-7・E-7 間観察用断面 灰黒色粘質土層	3.6(残存) 0.6(残存) 1.3(残存) 3.9	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 基端の一部及び側面部のみ残存 平面は縱割れ欠損のため全体は不明 側面部は縱横斜め方向の研磨痕がみられ光沢を有する 両平面には縱横方向の研磨痕がみられ光沢を有する 基端は平面から連なる面を含め四面からなりそれぞれ横方向の研磨痕がみられ光沢を有する 欠損面にも再利用時の縱方向の研磨痕がみられ光沢を有する部分がある 	粘板岩
岡版43 76	E-5 — 黑色粘質土層 (上層)	2.8(残存) 1.6 0.4 3.2	扁平な台形	—	<ul style="list-style-type: none"> 刃部及び基端部欠損 両側辺は刃部に向かうにつれ幅を広げる 表面は全面に研磨を施す A面では縱及び斜方向の側面では縱方向の研磨痕 B面では斜め方向の研磨痕が明瞭にみられる 	粘板岩
岡版43 77	E-6 北側観察用断面 — 黑色粘質土層 (下層)	2.9(残存) 0.9(残存) 0.8(残存) 2.5	長方形	—	<ul style="list-style-type: none"> 刃部～基部の左角の破片である 側辺は直線である 片刃で直線刃 両面側面の全面に研磨を施す 	頁岩
岡版43 78	F-8 — — — 1.0(残存) 7.3	3.0(残存) 2.3(残存) 1.0(残存) — — —	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 基底を含む基部の破片 両側辺は刃部へ向かって幅を広げると思われる 両面、両側辺、基端面の全面に研磨を施す 破損面にも研磨を施す 	頁岩
岡版43 79	E-7 西側観察用断面 — 黑色粘質土層 (下層)	2.0(残存) 1.3(残存) 1.3(残存) 4.3	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 側面部破片 側面は丸みを帯び接線なし 残存部全面研磨がみられる 	花崗質砂岩
岡版43 80	D-4 — 黑色粘質土層 (上層)	2.8(残存) 0.4(残存) 0.8(残存) 1.4	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 側面を含む刃部の一部のみ残存 平面はB面残存部を除いて縱割れ欠損のため不明 側面部には縱斜め方向の研磨痕がみられる 刃部は両刃ぎみの片刃をなし、刃面残存部には縱斜め方向の研磨痕がみられ刃縁部では刃こぼれがあり光沢を有する 欠損面は研磨はみられないか磨耗する 	不明
岡版43 81	F-8 暗黃灰色砂質土層 (粘土混じり)	0.7(残存) 1.7(残存) 0.5(残存) 1.8	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 平面及び側面部の破片 平面と側面との接線は明瞭 平面には一部の研磨の及ばない面を有する 側面は斜め方向の研磨痕がみられ光沢を有する 	砂質片岩
岡版43 82	D-4 — 黑色粘質土層 (上層)	4.0(残存) 4.8 1.1(残存) 31.6	—	—	<ul style="list-style-type: none"> 継われた石斧片の再利用 継われ欠損のため片面不明 残存する平面は縱方向の丁寧な研磨痕がみられる 側辺部には一部研磨の及ばない面残存 再加工した刃面は斜め方向の研磨痕がみられ接線はゆるやかな弧状を呈す 刃部B面は加工痕ないし、使用痕がみられる 刃縁は使用によりエッジは鈍い 	砂質片岩

石斧（扁平片刃）

岡版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考 (石材)
岡版6-43 83	F-6 — 黑色粘質土層 (上層)	4.2 2.9 1.2 22.5	扁平な椭円形		<ul style="list-style-type: none"> 基部端穴 平面は基部中央付近に最大幅をもち、刃部に向かって幅が狭まる長方形状 刃部は両刃ぎみで刃先には小さな刃こぼれがみられる 両側面は打ち欠きを行った後研磨して整形している 全体にいねいな研磨が施されているが、剥離が深く研磨の及ばない部分がある 	サスカイト
岡版43 84	C-3・D-3 間觀察用断面 — 黑色粘質土層 (下層)	4.2 2.7 1.0 11.7	不整形		<ul style="list-style-type: none"> 基部より刃部の幅が広い幅広がりの形態 基部と刃部の境に最大厚を有する 基端は面をなさず、両面の剥離が鋭角に交わる 全体において、刃部の占める割合が3分の1～5分の2と比較的大きい 両刃の直線刃 両面とも、基部・刃部・両側面に大剥離面を残す 両面刃縁からとA面右側辺から調整剥離を施す A面左側辺に顕著なステップ状剥離 両面刃の一部に研磨 	サスカイト
岡版6-43 85	E-6 土壤209 暗黃灰色砂層	4.5 2.2 0.8 10.6	不整形		<ul style="list-style-type: none"> 両面とも中央に大剥離面を残す ステップ状剥離も両面に多くみられる 細かな調整剥離がみられる 	サスカイト
岡版43 86	D-4 — 黑色粘質土層 (上層)	2.9 2.5 1.1 12.8	長方形		<ul style="list-style-type: none"> 基端を含む基部の破片 基辺はほぼ直線で、両側辺はやや丸みを帯びながら刃部に向って幅が広がる 両面に大剥離面をとどめる A面・左側面・基端面に調整剥離 A面・左側面・基端面では、一部に研磨 A面の右側面では全面に研磨が施されるが、研磨が及ばない凹みがある 破損面に調整剥離を加えている 	サスカイト 木製品
岡版43 87	E-4 西側觀察用断面 — 青灰色粘質土層	4.1 1.9 0.9 8.9	不整形		<ul style="list-style-type: none"> 下半は長方形に近いが、上端片方が上方向に突出し、片側辺はカーブを描いてその上端に窄まる 基部上位に最大幅と最大厚を有し、刃部に向かうにつれて幅・厚を減じる 片刃でわずかに円刃 基端面に自然礫面を残す 両面に大剥離面を大きく残す 両面両側辺から調整剥離 両面刃部を、縱方向後、横方向に研磨を施す 	サスカイト(金山産)
岡版43 88	E-6 — 灰黒色粘質土層 (砂まじり)	3.2 1.5 1.0 8.1	—		<ul style="list-style-type: none"> 縱長の長方形を呈する 両側面は石槍の破損面をそのまま利用 基端には石槍時の刃潰し痕をとどめる B面に大剥離面を大きく残す 両面に、石槍時の調整剥離がみられるが、刃部では新たに調整剥離を施している 刃部および基端付近にステップ状剥離 刃縁には使用による磨滅がみられる 	サスカイト(2.5mm 以下の長石含む) 石槍破片の再利用

石斧(扁平片刃)

国版番号	出土地名 遺構名 層位名	法量 (m) (g)	長さ 幅 厚 重量	中尖断面	特徴	備考 (石材)
図版43 89	F-7 溝238 灰黒色粘質土層 (木片多し)	3.0(残存) 1.8(残存) 0.5(残存) 3.9		扁平な椭円形	<ul style="list-style-type: none"> ・小型 ・刃部および基端部欠損 ・両側辺は平行 ・両面両側辺から調整剥離 ・長面全面に研磨を施すが、凹凸が激しいために研磨の及ばない浅い凹みが多く残る 	粘板岩
図版6-43 90	C-3 —— 灰黒色粘質土層 (木片多し)	2.7 1.2 0.7 3.7		台形	<ul style="list-style-type: none"> ・刃部左端がわずかに欠損 ・平面はほぼ長方形 ・断面はA面よりB面が若干広い台形である ・基端は四隅の角が落され、やや丸みをもち、破損後再研磨が施されている ・刃部は片刃の直線刃 ・刃先には刃こぼれあり ・B面右側面に剥離 ・全面に研磨 	硅質真岩
	B-5 —— 青黒色砂質土層	4.6 2.7 0.7 10.8		三角形	<ul style="list-style-type: none"> ・片側辺はほぼ直線的だが、もう片側辺は大きくふくらむ。基辺は斜めである ・片刃で、少し外彎気味である ・A面は平面だが、B面は盛りあがっており、盛りあがりの高い箇所に研磨を施している ・片側面、基端面を小さく、研磨により成形している ・側辺で面を成さない箇所も、研磨により丸く仕上げられている ・研磨痕は確認できないが、全体的に研磨を施していると思われる。但し、研磨が及ばない剥離が大部分残る 	硅質真岩
	D-3 —— 黒色粘質土層 (上層)	4.7(残存) 0.6(残存) 1.1(残存) 4.6		長方形の可能性	<ul style="list-style-type: none"> ・長軸方向に欠損した片側面の破片 ・基端は面を成す ・刃部は欠損のため不明 ・両平面・側面・基端面に研磨を施しており、縱方向の研磨痕が確認できる。但し、研磨が及ばない凹みが見られる ・欠損後も、破損面を研磨している。破損面をA面として、鈍い片刃を研磨により再成形している 	黒色真岩 柱状片刃石斧に転用
	Z Z —— ——	3.9(残存) 0.5(残存) 1.0(残存) 4.0		——	<ul style="list-style-type: none"> ・長軸方向に欠損した破片 ・基端と刃縁を欠損する ・片刃で、刃面と基面との境の縁は斜めである ・両平面とも研磨を施しているが、研磨痕は不明 ・両破損面とも研磨を施しており、柱状片刃石斧に再利用している。さらに刃縁欠損後、長軸方向と直交する形で、刃縁破損面にU字の溝を研磨により成形して、再々利用している 	チャート 柱状片刃石斧に転用

第3節 柱状片刃石斧（図版6・43-91・92）

本遺跡から出土している柱状片刃石斧は2点である。

(1) は、片理にそって破損した2点を接合すると完形品になるものである。長さ2.8cm、幅1.2cm、厚さ0.8cm、重さ4.7g、断面横長の長方形を呈する小型のものである。全体に丁寧な研磨を施し、基端部は一度欠損した後再研磨しているが、刃面の両側面には及んでいない。刃縁は直線をなし、それと直交する小さな線状痕がみられる。(2)は全体に欠損しており、柱状片刃石斧の一部である。やや彎曲した棒状を呈しており、全面に研磨を施していたと思われるが、(1)と同様に両側面には研磨は及んでいない。

第11表 柱状片刃石斧使用石材割合表

種類	点数	%
頁岩	1	50.0
粘板岩	1	50.0
計	2	100

石斧（柱状片刃）

図版番号	出土地名 遺構名 層位名	法量 (mm) (ε)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考 (石材)
図版6・43 91	E-7 — 暗黄灰色砂質土層 (粘土まじり)	2.8 1.2 0.8 4.7	横長の長方形	横長の長方形	<ul style="list-style-type: none"> 片理にそって破損した2点の接合完形品 長さは非常に短い 刃面は丸みをおびて、刃縁は直線を呈す 基端部は折れ欠損後、再研磨 刃面には刃部調整の際の剥離縁が残り、刃縁には直交する小さな線状痕と刃こぼれがみられる 抉りはない 刃面側面には研磨は及んでいない 	頁岩
図版43 92	E-5 溝238 灰黒色粘質土層	3.9(残存) 0.6(残存) 0.6(残存) 1.7	逆台形	逆台形	<ul style="list-style-type: none"> 小型 弱い弓なりに曲がった棒状 長軸方向(少し斜め)に欠損した2分の1個体で、残存部の片側面の刃部の一部も欠損 全面に研磨を施すが、片側面では研磨の及ばない調整剝離をとどめる箇所もある 片刃で、少し外彎する 刃面はやや急角度である 	粘板岩

第4節 太型蛤刃石斧（図版19-21・58-63-1-59）

本遺跡から出土している大型蛤刃石斧は59点である。全て破損しており、完形品は1点も出土していない。

伐採石斧としての大型蛤刃石斧は、側面形は両刃面をほぼ左右相称にかたちづくり研磨（研磨）し、刃部が蛤を2枚重ねたようにすんぐりとした膨みをもった厚手の両刃石斧である。

大型蛤刃石斧の使用石材については、第12表大型蛤刃石斧使用石材割合表のとおりである。

出土した大型蛤刃石斧は全て破損品であるため平面形全体は不明であるが、最大幅が刃部にあるもの（1・2・13-15・18-20・22・25・29・35-48）と、石斧全体がややふくらみをもち最大幅が基部中央付近にあるもの（3・4・6・7・10・12）に大別できる。（前出図版番別以外は不明）

断面については、橢円形を呈するもの（1-3・6・7・12-14・16-20・22・23・25・28・30・31・35-38・40-42・44・45・49・55・57）がその大半を占め（断面の判明しているもの68%）、扁平な橢円形を呈するもの（4・26・29）、円形に近い橢円形を呈するもの（5・43・48）、隅丸方形を呈するもの（15・21・24・27・32・39・46）があり、半円形を呈するもの（47）、台形を呈するもの（52）もある。

小型のものもみられる（10・24・25・29・42-44・48・52・57）。

刃部が残存しているもの（1-10）の刃縁は、円刃（1-8）が大半であり、直刃も2点（9・10）みられる。刃縁は、使用痕が残されており、ほとんどが石斧の主軸に対して斜め方向の線状痕がみられる。

出土した大型蛤刃石斧の中には、折損して石斧としての本来の機能を失った後も敲石あるいは植として再利用されていたものがある（1・4・7・15・44）。（1）の両正面、両側面の中央付近のはば同位には握りやすいように打撃による凹みが4箇所みられる。（7・15・44）にも同様な凹みが1-2箇所みられる。

（1・4・7）は転用使用による打撃によって刃縁は失われ、3-5mmの幅をもった打撃面をなしている。

本遺跡出土の大型蛤刃石斧の使用石材は、第12表大型蛤刃石斧使用石材割合表のとおりであり、花崗質砂岩・安山岩・黒雲母花崗岩等の重い石材を利用しておらず、このことはこの石器の機能的特徴を表わしているといえる。

第12表 大型蛤刃使用石材割合表

種類	点数	%	種類	点数	%
花崗質砂岩	18	30.5	花崗岩	2	3.4
安山岩	12	20.3	石英質砂岩	2	3.4
黒雲母花崗岩	8	13.5	緑石砂岩	1	1.7
砂岩	6	10.2	玄武岩	1	1.7
プロビライト	4	6.8	不明	1	1.7
泥岩	3	5.1	計	59	100

石斧(大型蛤刃)

図版番号	出土地名 遺構名 層位名	法量 (mm) 幅 (g)	長さ (mm) 厚 重量	中央断面	特徴	備考 (石材)
図版19-58 1 1	F-8 南側觀察用断面 —— 灰黒色粘質土層	6.5(残存) 5.6 4.0 230.0	6.5(残存) 5.6 4.0 230.0	橢円形	●最大幅は刃部 ●基部中央部付近で真横に破損 ●基部四面には、打撃による凹みがあり、4箇所ともほぼ同位にある ●刃部先端には打撃痕がある(幅3mm)	泥岩 敲石に転用
図版19-58 1 2	F-8 —— ——	6.5(残存) 7.4 4.4 284.0	6.5(残存) 7.4 4.4 284.0	橢円形	●最大幅は基部中央部 ●刃部は丸みをもつ ●刃部全体に磨滅がある ●刃先には両面とも再研磨された痕跡がある ●表面は両面とも全体にていねいに研磨されている ●刃先中央部に打撃痕あり	輝石安山岩(生駒産)
図版20-58 1 3	C-3 —— 灰黒色粘質土層	5.3(残存) 6.6 4.7(残存) 152.0	5.3(残存) 6.6 4.7(残存) 152.0	橢円形	●全体にていねいに研磨されており、表面はなめらかで光沢をおびている ●基部中央部付近で真横に大きく破損 ●刃部は丸みをおびて若干の刃こぼれと使用痕がみられる	黒雲母花崗岩
図版20-58 1 4	C-3 —— 黑色粘質土層 (上層)	9.2(残存) 6.3 2.9(残存) 221.0	9.2(残存) 6.3 2.9(残存) 221.0	扁平な橢円形	●全体にていねいな研磨で光沢をおびている ●両側刃はほぼ平行で刃部でやや細くなっている ●基部で大きく破損し、破損の先端部は打ち欠きがみられ2次使用の為の調整とも考えられる ●残存している基部中央部にはやや平らな部分があるが、これは2次使用の際に握りやすくする為、指のあたる部分を平らにとぎ直した可能性あり ●刃こぼれは刃部全体と側面にも及んでいて使用痕が認められる ●基部に帯状の磨滅がみられ、この部分は他より黒みがかったりしている ●長径約1.0cm、短径約0.7cmの橢円状の黒道がみられる	綠石砂岩 敲石に転用
図版58 1 5	F-8 —— 灰黒色粘質土層 (砂まじり)	6.2(残存) 5.0(残存) 4.4(残存) 119.0	6.2(残存) 5.0(残存) 4.4(残存) 119.0	円形に近い橢円形	●刃部破片 ●両面ともていねいな研磨 ●A面右上方に敲打痕 ●刃縁は若干磨滅	花崗質砂岩
図版58 1 6	D-5 —— 黑色粘質土層 (上層)	7.0(残存) 4.3(残存) 4.2(残存) 125.0	7.0(残存) 4.3(残存) 4.2(残存) 125.0	橢円形	●刃部破片 ●両面ともていねいな研磨 ●刃縁に磨滅痕	花崗質砂岩
図版58 1 7	D-7 —— 暗黄灰色砂層	7.9(残存) 6.6(残存) 3.2(残存) 238.0	7.9(残存) 6.6(残存) 3.2(残存) 238.0	橢円形	●基部中央で真横に破損 ●片面剥離欠損 ●A面は研磨 ●基端及びA面の一部に打撃痕と剥離がみられる ●欠損面の角に、石庖丁の背渕れに似た使用痕が認められ、丸みをおびている	安山岩 敲石に転用
図版58 1 8	F-6 —— 青灰色砂層	7.3(残存) 6.0(残存) 1.4(残存) 77.4	7.3(残存) 6.0(残存) 1.4(残存) 77.4	——	●刃部破片 ●片面は欠損 ●表面は斜方向の研磨 ●刃縁は磨滅し、破損部分右角に打撃痕あり	砂岩

石斧（大型蛤刃）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) 幅 (mm) 厚 (mm) 重量	長さ (mm)	中央断面	特徴	備考 (石材)
図版58 9	F - 8 南側観察用断面 — 白黄色砂質土層 (粒子粗い)	6.8(残存) 4.1(残存) 3.9(残存) 59.0	— — — —	—	● 刃部破片 ● 両面とも研磨を施し、光沢あり ● B面一部欠損 ● 刃縁に刃彫れあり	砂岩
図版58 10	E - 4 — 灰黑色粘質土層	3.5(残存) 2.3(残存) 1.7(残存) 15.3	— — — —	—	● 刃部左側面の破片 ● 刃縁の形状は円刀と思われる ● 刃縁には使用痕なし ● 表面に研磨を施すが、B面には研磨の及ばない割れがある	砂岩
図版59 11	D - 3 北側観察用断面 — 黒色粘質土層 (上層)	6.0(残存) 4.9(残存) 2.5(残存) 93.7	— — — —	—	● 基部破片で基端近くと思われる ● 表面に研磨	花崗岩
図版20-59 12	D - 4 溝105 灰黑色粘質土層 (木片多し)	14.7(残存) 6.4 4.8 541.0	— — — —	楕円形	● 最大幅は刃部 ● A面で刃部、B面で基部が大きく剥離欠損 ● 両側面に凹みがある ● 表面は両面とも全体にていねいに研磨	泥岩
図版59 13	E - 6 — 黒色粘質土層 (下層)	7.3(残存) 6.9 4.8 452.0	— — — —	楕円形	● 基部中央残存 ● 上下両端とも、横彫れ破損 ● 両面ともていねいに研磨 ● A面左側面に打撃による凹み ● 上下端破損面の角にそれぞれ打撃痕	花崗質砂岩
図版59 14	E - 3 西側観察用断面 — 黒色粘質土層 (下層)	7.4(残存) 6.5 4.3 303.0	— — — —	楕円形	● 基部中央残存 ● 上下両端とも斜め方向に破損 ● A面はていねいな研磨 ● B面はほぼ全体に打撃の凹みあり ● 下端破損面の突出部に打撃痕	花崗質砂岩
図版59 15	F - 6 西側観察用断面 — 黒色粘質土層 (上層)	6.4(残存) 6.8 4.6 327.0	— — — —	隅丸方形	● 基部中央残存 ● A面は研磨 ● 上下両端破損面の周囲の角及び、両側面に打撃痕 ● 上端破損面中央、両面中央にそれぞれ打撃による凹み ● B面下半は剥離欠損	安山岩 敲石に転用
図版59 16	E - 6 — 暗黄灰色砂質土層 (粘土まじり)	7.5(残存) 5.6(残存) 4.8(残存) 234.0	— — — —	楕円形	● 基部破片 ● A面及び右側面に研磨を施し、右上方向に敲打痕あり ● B面には剥離面	花崗質砂岩
図版59 17	C - 4 落ち込み214 灰黑色粘質土層	4.3(残存) 5.2(残存) 5.0 180.0	— — — —	楕円形	● 基部左側のみ残存 ● 両面とも研磨 ● A面中央に敲打痕 ● 下端破損の角に打撃痕	花崗質砂岩
図版59 18	Z Z — —	6.9(残存) 6.2 3.8 163.0	— — — —	楕円形	● 基部中央残存 ● 上下両端とも斜方向の破損 ● A面は研磨 ● 下端破損面の突出部に打撃痕 ● B面欠損	玄武岩

石斧(大型蛤刃)

国版番号	出土地名 遺構名 層位名	法量 (m) 幅厚 (g)	長さ (m)	中央断面	特徴	備考 (石材)
国版59 19	E-3 溝238 灰黒色粘質土層	4.2(残存) 6.9 4.7 176.0		橢円形	<ul style="list-style-type: none"> 基部中央のみ残存 上端は横方向、下端はV字状に破損 両面とも研磨 A面左側寄りに打撃による凹み 上下両端破損面の角には打撃痕 	20と接合 黒雲母花崗岩
国版59 20	E-5 溝238 黒灰色粘質土層	3.5(残存) 6.5 4.5 148.0		橢円形	<ul style="list-style-type: none"> 基部残存 上下両端とも直横に破損 両面とも研磨 A面中央に敲打痕あり 破損面の角は丸みをおびている 基端に打撃痕 	19と接合 黒雲母花崗岩
国版60 21	E-7 — 灰黒色粘質土層 (木片多し)	4.7(残存) 5.8(残存) 4.5(残存) 103.6		隅丸方形	<ul style="list-style-type: none"> 基部破片 片側面～両面中央残存 側面わずかに凹む 表面に研磨を施す A面中央に打撃痕を有する 	花崗質砂岩
国版60 22	F-8 — 暗黄灰色砂層	4.9(残存) 5.6(残存) 3.7(残存) 103.0		橢円形	<ul style="list-style-type: none"> 基部破片 両面とも研磨を施す 上下両端破損面の角に打撃痕がみられる 	砂岩
国版60 23	D-5 — 黑色粘質土層 (下層)	4.0(残存) 5.5 3.9 129.0		橢円形	<ul style="list-style-type: none"> 基部中央の上位で直横に破損し右側面一部欠損 両面とも研磨を施す 基端及びA面左側面に打撃による凹みがある 下端破損面の周囲の角に打撃痕がみられる 	黒雲母花崗岩
国版60 24	D-5 西側観察用断面 — 暗黄灰色砂質土層	3.2(残存) 4.7(残存) 2.5 64.4		隅丸方形	<ul style="list-style-type: none"> 基部中央のみ残存 両面ともに研磨のおよばない敲打痕が認められる 上下破損面の角は丸みを帯びている 	花崗質砂岩
国版60 25	E-8 — 灰黒色粘質土層 (砂まじり)	6.2(残存) 5.8 3.8 156.0		不整形な 橢円形	<ul style="list-style-type: none"> 基部残存 上下両端とも、横割れ破損 片面に打撃痕あり 全体にやや風化気味 	花崗質砂岩
国版60 26	D-6 D-7 間観察用断面 — 灰黒色粘質土層 (木片多し)	7.8(残存) 5.3(残存) 3.8 147.0		扁平な橢円形	<ul style="list-style-type: none"> 基部残存 上下両端とも斜め方向に破損 両面とも研磨を施す 	花崗質砂岩
国版60 27	D-4 溝105 灰黒色粘質土層 (木片多し)	5.2(残存) 5.6(残存) 5.1(残存) 190.0		隅丸方形	<ul style="list-style-type: none"> 基部破片 A面と右側面に研磨を施し右側面には打撃による凹みがみられる 	黒雲母花崗岩
国版60 28	D-4 — 黑色粘質土層 (下層)	3.7(残存) 5.7(残存) 4.6(残存) 77.2		橢円形	<ul style="list-style-type: none"> 基部破片 両面とも、丁寧な研磨を施す 	砂岩

石斧(大型蛤刃)

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (cm) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考 (石材)
図版60 29	Z Z — —	6.8(残存) 5.1 2.4 120.9	偏半梢 円形		<ul style="list-style-type: none"> 両端部を欠損する 全面研磨痕はほとんど見られない 側辺の一部に浅い抉り 刃部側の欠損面は基端側の欠損面にくらべエッジは鈍く面全体が磨耗する 刃部は欠損のため不明 	石英質砂岩
図版60 30	D - 4 東側觀察用断面 — 黒色粘質土層 (上層)	4.5(残存) 2.6(残存) 5.8(残存) 45.7	梢円形		<ul style="list-style-type: none"> 基部側面の破片 表面に研磨を施すが、研磨が及ばない凹みを有する 	花崗岩
図版60 31	C - 5 溝13 —	3.2(残存) 1.8(残存) 4.9(残存) 38.0	梢円形		<ul style="list-style-type: none"> 基部側面の破片 表面に研磨を施す 表面の一部に打撃痕を有する 	黒雲母花崗岩
図版60 32	E - 6 — 灰黑色粘質土層 (砂まじり)	5.2(残存) 4.3(残存) 3.0(残存) 70.0	隅丸方形		<ul style="list-style-type: none"> 基部破片 片面のみ研磨を施し光沢がみられる 左側面に若干敲打痕が認められる 	安山岩
図版61 33	E - 7 — 灰黑色粘質土層 (木片多し)	4.5(残存) 4.7(残存) 3.5(残存) 58.0	隅丸方形		<ul style="list-style-type: none"> 基部破片 表面は研磨を施す 	安山岩
図版61 34	E - 8 — 灰黑色粘質土層 (木片多し)	5.1(残存) 6.4(残存) 1.8(残存) 63.5	—		<ul style="list-style-type: none"> 基部表面の破片 表面に研磨を施す 下端破損面の角に打撃痕あり 	黒雲母花崗岩
図版61 35	E - 5 溝238 黑灰色粘質土層	9.9(残存) 6.5 4.7 532.0	梢円形		<ul style="list-style-type: none"> 基部中央で直横に破損 基端はやえんをもつ左上がりの斜基 基端には敲石に転用された打撃痕あり 基部四面は研磨を施し、光沢がみられるがそれの面の中央は荒れている 下端破損面の角は打撃により丸くなっている 	プロビライト 敲石に転用
図版21-61 36	D - 4 — 灰黑色粘質土層 (木片多し)	9.2(残存) 5.6 3.3 344.0	梢円形		<ul style="list-style-type: none"> 丁寧に研磨されているが石材の性質により表面がざらざらとしていて研磨痕が不明確な点が多い 基部のなかほどで大きく欠損しているため最大幅の位置は不明 基端が一番細く刃部に向ってだんだん太くなっていく形態と思われる A、B両面及び両側面にこすれてできたような磨滅のみられるやや平らになった部分がある、この部分が柄と接触していたためにによるものか 	プロビライト
図版21-61 37	E - 4 — 黑色粘質土層 (上層)	7.0(残存) 6.6 4.5 362.0	梢円形		<ul style="list-style-type: none"> 全体に丁寧に研磨されていて光沢を帯びている 基部のなかほどで大きく欠損しているが刃部にかけて太くなしていく形態と思われる A、B両面ともに見られる磨滅はその部分が柄との接触部分だったためのものか 	プロビライト

石斧(大型蛤刃)

国版番号	出土地名 遺構名 層位名	法量 (m) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考 (石材)
国版21-61 38	E-8 — 灰黒色粘質土層 (木片多し)	8.3(残存) 6.9 4.3 346.0		椭円形	<ul style="list-style-type: none"> 基部はほぼ同じ太さだが刃部にかけては先すぼまりになっていくと思われる 丁寧に研磨されている A面の表面は比較的なめらかで光沢をもっているがB面の方はザラザラしている、これは用いられた石材が堆積岩でB面の表面にでている部分と他の部分の石の質が異なるため風化の度合いが異なったためとも考えられる、A面には磨滅(あるいは敲打痕)が見られる 頭部又は研磨のおよばない整形時の敲打痕で占められている B面には研磨痕らしきものが見られる 	安山岩
国版61 39	E-8 西側觀察用断面 — 灰黒色粘質土層 (木片多し)	8.0(残存) 4.7(残存) 5.3(残存) 238.0		隅丸方形	<ul style="list-style-type: none"> 基端左側のみ残存 基端に打撃痕がある 左側面に打撃による凹みが認められる 全体に風化が著しい 	安山岩
国版61 40	D-6 — 暗黄灰色砂質土層 (粘土まじり)	4.8(残存) 6.2 4.5 165.0		椭円形	<ul style="list-style-type: none"> 基部中央で真横に欠損 基端は円錐で一部剥離している 全体に丁寧な研磨を施す 	花崗質砂岩
国版61 41	F-8 — — — — 258.0	6.4(残存) 6.2 4.8 258.0		椭円形	<ul style="list-style-type: none"> 基部中央で真横に欠損 両面とも研磨を施す 基端には敲石に転用された打撃痕が著しく下端破損面突出部にも認められる 両面中央及びA面基端寄りに打撃による凹みがある B面右上方に剥離面残存 	花崗質砂岩 敲石に転用
国版61 42	E-7 溝26 — — — 143.0	4.7(残存) 5.5 3.7		椭円形	<ul style="list-style-type: none"> 基部中央で真横に破損 基端は敲打後研磨を施し、やや斜基ぎみである 両面とも斜め方向の研磨を施す 	花崗質砂岩
国版21-62 43	E-5 溝238 黑灰色粘質土層	7.4(残存) 5.3 4.3 253.0		円形に近い椭円形	<ul style="list-style-type: none"> 丁寧に研磨されているが表面がザラザラしているため研磨痕については不明確な点が多い 基端は丸く成形されており刃部にかけて太くなっている形態 A・B両面及び片方の側面に縞目状の磨滅が石斧の表面を骨状にとりまいている、これは石斧の柄が接触していた部分であったためか 	花崗質砂岩
国版62 44	C-3・D-3 間觀察用断面 — 暗黄灰色砂質土層 (粘土まじり)	7.7(残存) 4.4(残存) 4.2(残存) 223.0		椭円形	<ul style="list-style-type: none"> 基部左側のみ残存 両面ともに研磨を施す 上下端破損面の周囲の角に打撃痕あり A面中央及び左側面に打撃による凹みが残存 B面中央に敲打痕あり 下端破損面の突出部に打撃痕がみられる 	花崗質砂岩 敲石に転用
国版62 45	D-3 — 黑色粘質土層 (下層)	7.4(残存) 4.7(残存) 4.5(残存) 135.0		椭円形	<ul style="list-style-type: none"> 基端を含む破片 基端に敲打痕あり 両面とも全体に敲打痕をうけている A面左側面に斜め方向の研磨を施す 	砂岩

石斧(大型蛤刃)

國版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考 (石材)
国版62 46	D-5 西側觀察用断面 —— 灰黑色粘質土層	6.4(残存) 6.1(残存) 2.1(残存) 128.0		隅丸方形	●基部表面の破片 ●表面と基端に研磨を施している ●下端破損面の角に打撃痕あり	花崗質砂岩
国版62 47	D-3 西側觀察用断面 —— 灰黑色粘質土層	8.3(残存) 5.2 3.6 195.0		半円形	●細長い縦で半分欠損 ●残存部中央には敲打痕及び研磨痕がかすかにみられ、直線状の側辺にもごく一部のみ斜め方向の研磨痕がみられる ●中央から端部にかけて若干煤付着	安山岩(角閃しそ輝 石安山岩) 未製品
国版62 48	F-8 —— 暗黃灰色砂質土層 (粘土まじり)	5.5(残存) 4.6 3.7 112.0		円形に近い梢円形	●基部中央で真横に破損 ●基端は斜基であり打撃痕を留める ●A面に研磨を施す ●B面及び両側面に敲打痕あり	石英質砂岩
国版62 49	E-6 —— 黒色粘質土層 (下層)	8.0(残存) 4.5(残存) 1.7(残存) 81.5		梢円形	●基部破片 ●表面は研磨を施す ●下端破損面の角には打撃痕が認められる	黒雲母花崗岩
国版62 50	E-7 —— 白灰色砂層 (粘土まじり)	5.4(残存) 3.9(残存) 0.6(残存) 15.3		——	●基部表面の破片 ●表面は丁寧な研磨を施す	プロピライト
国版62 51	C-3 —— 灰黑色砂層	6.4(残存) 3.2(残存) 0.8 21.4		——	●基部破片 ●表面に研磨を施すが研磨が及ばない敲打痕を残す ●再利用を目的として破損面の一部にも研磨を施している	泥岩
国版62 52	C-3 北側觀察用断面 —— 黑色粘質土層 (上層)	4.4(残存) 2.9(残存) 3.0(残存) 42.0		台形	●基部破片 ●両面とも研磨を施す ●右側面に敲打痕あり	花崗質砂岩
国版62 53	D-6 溝23 暗黃灰色砂質土層	5.2(残存) 3.6(残存) 1.6(残存) 34.6		——	●基端部の破片 ●側辺残存部は直線を呈し、基端残存部は丸みを帯びる ●平面部は斜方向の研磨痕がのこる ●基端及び側面部は側面の一部分をのぞいて研磨が及んでいない	不明
国版62 54	E-4 —— 灰黑色粘質土層	4.3(残存) 3.0(残存) 1.4(残存) 19.1		——	●基部破片 ●表面に研磨を施すが平面中央に研磨が及ばない、敲打痕を残す	安山岩
国版62 55	E-6 —— 暗黒色砂質土層	3.8(残存) 2.8(残存) 4.0(残存) 31.1		梢円形	●刃部～基部の側面の破片 ●側辺はゆるいカーブをもつ ●表面に研磨を施すが研磨の及ばない敲打痕を残す ●研磨方向は両平面とも横方向である	安山岩

石斧（大型鉈刃）

国版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (w) (z)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特 徴	備 考 (石 材)
国版62 56	B-4 —— 暗黃灰色砂質土層	4.4(残存) 3.6(残存) 1.2(残存) 20.0	—	—	● 基部破片 ● 表面に研磨を施すが研磨の及ばない凹みを有する	花崗質砂岩
国版63 57	C-4 落ち込み214 灰黒色粘質土層	1.3(残存) 2.5(残存) 2.9(残存) 9.7	——	橢円形	● 基部破片 ● 内面とも研磨を施す	安山岩
国版63 58	E-4 —— 黑色粘質土層 (下層)	2.8(残存) 3.9(残存) 0.7(残存) 5.7	—	—	● 基部破片 ● 表面に研磨を横方向に施す	安山岩
国版63 59	C-5 —— 暗黃灰色砂層	3.1(残存) 2.4(残存) 0.8(残存) 8.5	—	—	● 刃部破片 ● 平坦な側面をもつ ● 表面は平滑である	安山岩

第5節 打製石斧（図版22・63-93～99）

本遺跡出土の打製石斧は7点である。

(93) は、不整形な釣鐘状を呈し、刃縁は刃潰れが著しく、これは石材の片理によるものと考えられる。石材は頁岩である。(94) は、全体に大剥離面を残し、一面には自然礫面を残している。刃部は薄く使用による磨滅が認められる。(95) は、長方形を呈し、基部を欠損している。刃縁には使用による磨滅が認められる。(96) は、刃部が欠損している。基端は丸みをおび、側辺は直線的に刃部に向って延びている。(97) は、釣鐘状を呈し、両面とも大剥離面及び自然礫面を残している。刃縁は細かい調整剥離が施され、一部使用による磨減痕が認められる。小型の石斧である。(98) は、梢円形を呈し、両面とも粗い剥離面からなり一部に自然礫面も残している。石材はサスカイトで二上山以外の他地域（金山産）のものである。(97) 同様小型の石斧である。(99) は、扁平片刃で極めて薄手に製作されている。刃縁はやや弧をえがき、基辺は直線的である。調整は基辺及び刃縁のみであり基部中央には及んでいない。刃部に一部磨減痕が認められる。

打製石斧の使用石材については、第13表打製石斧使用石材割合表のとおりである。

第13表 打製石斧使用石材割合表

種類	点数	%
サスカイト	3	42.9
砂質頁岩	3	42.9
頁岩	1	14.2
合計	7	100

石斧（打製）

国版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特徴	備考 (石材)
国版63 93	E-7 西側觀察用断面 — 黑色粘質土層 (上層)	12.6 6.5 2.8 269.0		半円形	<ul style="list-style-type: none"> 不整な釣鐘状 刃部の片方の角は丸みをおびているが、他方の角を含む刃部の大半は使用のためか、その形状をとどめていない。 基端面は存在せず、A面、B面が鋭角に交わる A面基部上方に割れ面が残り内面基部大半に片面面が残る 両面刃部および両側刃に調整剥離 刃部の残存する角は平滑な面で、また両面には平滑な部分があり一部に研磨を施す 両面各所にステップ状剥離 	頁岩
国版22-63 94	C-6 — 暗黄灰色砂層	10.7 5.3 3.1 200.0		—	<ul style="list-style-type: none"> 平面は長方形に近い形態だが刃部は丸く形成されている 基部の中ほどがややくびれている B面に原石面がみられる 	サスカイト
国版63 95	D-5 西側觀察用断面 — 暗黄灰色砂層	6.3(残存) 5.2(残存) 2.4(残存) 113.0		横長の梢円形	<ul style="list-style-type: none"> 基部欠損 両側刃は上半分では平行だが途中で屈曲し、刃部に向かうにつれ幅を減じる 刃縁はふくらみ中ほどで屈曲 基部前面において調整剥離を施し、成形している A面右下、B面刃部および基部左半分にステップ状剥離 刃部で両面及び両側面、基部で片側面に研磨 A面基部中央で縦に割れが走っている 刃縁には刃こぼれ 	砂質頁岩
国版63 96	D-5 — 黑色粘質土層 (上層)	7.4(残存) 5.7 2.3 131.9		—	<ul style="list-style-type: none"> 基部の一部残存 基部は丸みをおび、側刃は直線を呈す 基部の調整は全て両面より調整剥離 研磨は表面磨耗のため不明 刃部は欠損 	砂質頁岩
国版63 97	E-3 南側觀察用断面 — —	6.5 3.5 1.7 40.7		不整なレンズ状	<ul style="list-style-type: none"> 釣鐘状 刃部は直線で、その角は尖らず一つの角を丸く取める 上端は尖らず凸凹をなす A面中央～A面左側面～B面右側面と自然礫面残存 A面右半分・左下とB面のほぼ全体（上半分から左下・右下）に大剥離面残存 両面刃部とA面左側刃の上4分の1調整剥離 刃部では非常に細かい調整剥離で、又ステップ状剥離となるものが多い 刃部では使用のための剥離も含まれると思われる B面中ほどに大きなステップ状剥離 刃部右側に磨滅痕 	サスカイト

石斧(打製)

図版番号	出土地区名 遺 墓 名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 重量	中央断面	特 徴	備 考 (石 材)
図版63 98	C-3 北側觀察用断面 — 灰黑色粘質土層	6.6 3.5 1.8 44.5	— — — —	—	<ul style="list-style-type: none"> ●全体は橢円形を呈す ●両面とも粗い剥離面からなり、B面端部にわずかに自然礫面残存 ●側辺部は両側辺両面より調整剥離を施し、A面左側辺上半、B面左側辺の剥離は細かい ●基端・刃部とも粗い調整のみ ●使用痕は認められず 	サスカイト(金山産)
図版63 — 99	E-4 西側觀察用断面 — 黑色粘質土層 (下層)	4.4(残存) 3.4 0.9 19.7	— — — —	—	<ul style="list-style-type: none"> ●刃部及び基部半分残存 ●刃縁はやや外彎しており、基辺は直線を呈す ●極めて扁平で、刃部に向かうほど薄くなる ●両面とも両基辺部に調整剥離が施され、中央部には大きい剥離面が見られる ●刃部は片刃で、刃面には磨滅痕と刃こぼれがみられるが、B面には調整や使用痕は見られない 	砂質頁岩

第6節 石小刀（図版19・57-1～4）

本遺跡から石小刀は4点出土している。厚形のもの（1・2）と、薄形のもの（3・4）に分けられる。

（1）は、長さ8.0cm、最大幅1.7cm、最大厚0.7cm、重さ9.8gを測る。全体がゆるやかに彎曲し、先端で大きく弧をえがいている。断面は先端に向かって薄くなる菱形を呈し、先端は鋭い。両面とも両側辺からの丁寧な剥離調整を施している。基部は斜めに欠損している。（2）は、先端が欠損しているが、全体にゆるやかに彎曲している。両面とも大剥離面を残しているが、両面の両側辺は丁寧な調整剥離が施されている。基部はやや丸みをもった調整が施されている。（3）は、先端を欠損、全体調整は粗く、両面とも大剥離面を残し一面には自然縫面も残している。刃部は外刃のみ調整剥離が両面より施され、内辺は打ち欠き面をそのまま残している。基部は、調整剥離で丸みをもって仕上げられている。（4）は、先端・基部ともに欠損しているが、全体に弧状に彎曲している。両面ともに大剥離面を残し、それぞれ内外辺からの調整剥離を施しているものの、中央部にまでは至っていない。内外辺には着柄に際して施されたと考えられる刃潰しの磨滅が認められる。

石材は、（4）を除き二上山周辺産サスカイトを使用しており、（4）は他地域（金山産）のサスカイトを用いている。

石小刃

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 質量	中央断面	特徴	備考 (石材)
図版19-57 1	E-5 黒色粘質土層 (上層)	8.0 1.7 0.7 9.8	菱形		<ul style="list-style-type: none"> 全体がゆるやかに彎曲し、先端で大きく弧を描く 先端は鋭い 両面とも両側辺からていねいな調整剥離を施している 基部は斜めに欠損 	サスカイト
図版19-57 2	F-7・F-8 問観察用断面 — 黒色粘質土層 (上層)	5.8(残存) 1.8 0.9 8.3	不整菱形		<ul style="list-style-type: none"> 先端部欠損 全体にゆるやかに彎曲している A面においては左寄り中央に鏽が通り、左側辺はていねいな調整剥離を施し、右側辺は粗雑でわざかに調整されている B面両側辺ともていねいな調整剥離が施され、基端も調整されている 	サスカイト
図版57 1 3	F-7・F-8 問観察用断面 — 灰黑色粘質土層	4.6(残存) 2.4 0.7 8.6	—		<ul style="list-style-type: none"> 先端部を欠損するが弧形に彎曲する 刃部調整は外刃のみ調整剥離が内面から施されており、内刃は打ち欠き面を呈す B面は調整剥離を除いて、自然縫合が残存 基部は調整剥離で丸く仕上げられており、特別な加工はみられない 	サスカイト(石英の小石を含む)
図版57 1 4	B-5 — 灰黑色粘質土層	6.0(残存) 2.7(残存) 1.0(残存) 18.6	扁平な杏仁形		<ul style="list-style-type: none"> 先端部、基部とも欠損 弧形に彎曲する 両面に大剥離面を残すが、特にB面では大部分を占める B面中央に剥離が及ばず、とり残された盛りあがりがある 両面、内外刃から調整剥離を施す 両面内側辺沿いに、又、B面ではとり残された盛りあがりの周囲にステップ状剥離が認められる 内外刃には磨滅が認められる 	サスカイト(金山産)

第7節 敲石（図版25・74～78-1～39）

本遺跡出土の敲石は39点出土している。敲石使用石材については、第14表敲石使用石材割合表のとおりであり、花崗質砂岩・砂岩・チャート・石英質砂岩・石英粗面岩・黒雲母花崗岩・砂質頁岩・層灰岩・サスカイトを素材とした礫を使用している。この内、花崗質砂岩（30.7%）・砂岩（25.6%）・石英質砂岩（12.8%）が多く、砂岩系の礫が全体の69.1%を占め次にチャート（17.9%）が多く出土している。形状としては、扁平な球状のもの（18～23・26・38）と、長梢円状（棒状を含む）（1～17・24・25・27～37・39）に大別できる。

扁平な球状を呈したものは、周縁に敲打痕が多数みられ、長梢円状（棒状を含む）のものは、片端あるいは両端に敲打痕（使用痕）がみられる。

(6) は、長さ0.9cm、最大幅4.9cm、厚さ2.9cm、重さ200gを測る扁平な梢円形を呈している。両端及び側辺は敲打により形を整えられており、先端は使用によるものと思われる割れがみられる。石材は、砂岩である。

(12) は、やや幅広がりの棒状を呈しており、先端部には著しい使用痕が認められ、一部欠損している。法量は、長さ11.3cm、最大幅3.2cm、最大厚2.2cm、重さ100gを測り、断面は角の丸い三角形を呈し、その一面は擦られたためか平滑になっている。石材は、砂岩である。

(18) は、長さ（直徑）9cm前後、厚み6.5cm、重さ690gを測る球形に近いものである。周縁には、敲打痕が一周し、やや平坦になった両面の中央部付近には敲打による凹みがみられる。石材は、花崗質砂岩である。

第14表 敲石使用石材割合表

種類	点数	%
花崗質砂岩	12	30.7
砂岩	10	25.6
チャート	7	19.9
石英質砂岩	5	12.8
石英粗面岩	1	2.6
黒雲母花崗岩	1	2.6
砂質頁岩	1	2.6
層灰岩	1	2.6
サスカイト	1	2.6
計	39	100

敲石

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (m) (g)	長さ 幅 厚 重量	断面	特徴	備考 (石材)
図版74 1	E-8 溝100 暗黄灰色砂質土層 (粘土まじり)	16.2 8.0 6.8 1050.0		不整形	● 部厚い長方形を呈する ● 先端に打撃痕を認める ● 一部欠損	石英粗面岩
図版74 2	D-5 落ち込み214 黒色粘質土層 (上層)	12.7 6.2 4.2 363.0		三角形	● 平面は斧形を呈する ● 両端に打撃痕	層灰岩
図版74 3	E-6 —— 黒色粘質土層 (上層)	11.3 6.1 4.7 454.0		不整四面体	● 部厚い不整長方形 ● 両面とも一部に研磨痕が残る ● 四面とも敲打による握り状の凹みが数ヶ所認められる ● 両端に打撃痕が著しい	花崗質砂岩
図版74 4	F-8 溝240 灰黑色粘質土層 (木片多し)	10.4 6.1 4.5 442.0		四面体	● 部厚い長方形を呈する ● 両面ともわずかに研磨痕が認められる ● 表面の上下両端、左右は打撃によって角を落している ● 四面に敲打による握り状の凹みが数ヶ所認められる ● 両端に打撃痕を有する	砂岩
図版74 5	D-3 土礫206 黒色粘質土層 (下層)	11.0 4.9 3.6 254.0		不整四面体	● 棒状を呈する ● 一部欠損 ● 片側辺に打撃痕を認める ● 下端に若干の打撃痕を有し、上端には打撃による凹みを留める	砂岩
図版25-74 6	E-8 —— 灰黑色粘質土層 (木片多し)	9.9 4.9 2.9 200.0		卵形	● 扁平な橢円形を呈する ● 両側縁上半分を握りやすいように加工している。握る側の端でも顯著な割れがあるが使用によるものかどうかは不明 ● 片面には15、6個の小さな凹みが見られ、これも使用によるものかどうかは不明 ● 片面に著しい使用による割れ	砂岩
図版75 7	D-3 —— 黒色粘質土層 (上層)	9.9 5.6 4.4 316.0		円形に近い橢円形	● 部厚い橢円形 ● 全体に敲打痕を留める ● 両端に打撃痕を有する ● 表面、一部に火を受けて変色	石英質砂岩
図版75 8	E-6 溝24 暗黄灰色砂層	7.8 5.4 3.1 206.0		橢円形	● 扁平な橢円形 ● 表面ほぼ全体に打撃痕を有する	砂岩
図版75 9	C-5 —— 灰黑色粘質土層 (木片多し)	9.6 4.6 2.9 198.0		台形	● 幅広の棒状を呈する ● 両端は残存するが両面とも両端近くの一部を欠損 ● 片側面(A面で右)は削面をとめる ● 片側面(A面で左)中ほどに握りやすいように敲打により抉りをつくりだしている ● 両面及び側面には数多く敲打痕をとどめる ● A面端部では研磨を施す ● 両端に打撃痕を有する	砂質頁岩

敲石

図版番号	出土地名 遺構名 層位名	法量 (mm) (g)	長さ 幅 厚 重量	断面	特徴	備考 (石材)
国版75 10	D-4 西側観察用断面 — 灰黑色粘質土層	10.4(残存) 5.0 2.8 170.0		椭円形	●扁平な不整方形 ●上端は欠損 ●内側辺及び先端に敲打痕を有する	砂岩
国版75 11	E-6 — 暗黃灰色砂質土層 (粘土まじり)	9.8 4.5 1.8 120.0		長方形	●扁平な長方形を呈する ●表面及び片側辺に若干の敲打を施す ●先端に打撃痕を留める	砂岩
国版25-74 12	E-5 — 黑色粘質土層 (上層)	11.3 3.2 2.2 100.0		三角形	●棒状 ●A面に鶲が真ん中を通る ●A面右側の表面は平滑だが、その他の表面はやや荒れている ●A面右側面下方も一部破損 ●B面においては小穴を多く有する ●片側は使用のため破損 ●片端に著しい破損痕 ●使用のため破損	砂岩
国版75 13	C-4 落ち込み214 灰黑色粘質土層	9.9 3.6 2.6 134.0		卵形	●棒状を呈し、片端がやや広い ●片側辺(A面で左)は全体的に小さな打撃痕が認められるが、中ほどにおいて敲打により凹みを成して握りやすいように加工されている ●両端には使用による著しい打撃痕が認められる	花崗質砂岩
国版75 14	F-8 — 灰黑色粘質土層	7.8 3.5 2.6 104.0		椭円形	●棒状 ●片側辺に敲打による凹みが認められる ●両端に打撃痕を有する	花崗質砂岩
国版75 15	E-6 — 黑色粘質土層 (上層)	7.1(残存) 3.3 2.4 68.0		椭円形	●棒状を呈し、上端破損 ●上端破損面の角は打撃によって丸みをおびている ●下端に打撃痕を留める ●表面中央に幅2mm長さ2.5mm深さ1mmの溝を有する ●表面は火を受けて一部変色	砂岩
国版75 16	D-5 — 灰黑色粘質土層	8.8 3.6 2.6 102.0		不整四面体	●棒状で、上半分破損 ●両側辺わずかに打撃痕を認める ●先端に打撃痕を留める	砂岩
国版75 17	D-3 — 黑色粘質土層 (上層)	6.5(残存) 3.7 3.2 114.0		円形	●棒状で、上端破損 ●上端破損面の中央及び破損面角に打撃痕が認められ、角の一部には研磨が施されている ●全体にわずかではあるが敲打による凹みが認められる ●下端に打撃痕あり	砂岩
国版25-76 18	F-6 — 黄灰色砂質土層	9.2 8.4 6.5 690.0		椭円形に 近い円形	●部厚い円形 ●周縁に打撃痕を留める ●両面とも中央部が多く敲打され内擣する ●一部野藏している	花崗質砂岩
国版76 19	E-6 西側観察用断面 — — — — 420.0	7.7 7.5 4.3 — — 420.0		椭円形	●球状に近い ●両面とも研磨を施し敲打痕を有する ●A面左側面は打撃のため平坦である ●内端に打撃痕あり ●A面上下両端付近に打撃による凹みを有する	石鐘の可能性あり

敲石

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (cm) (g)	長さ 幅 厚 重量	断面	特徴	備考 (石材)
図版76 20	D-3 — 黑色粘質土層 (上層)	6.8 5.6 4.5	273.0	橢円形	●球状に近い ●両面とも研磨を施し、敲打痕を有する ●A面左側面は打撃のため平坦である ●A面上下両端付近に打撃による凹みを有する ●両端に打撃痕あり	石錐の可能性あり 花崗質砂岩
図版76 21	C-6・C-7 間觀察用断面 — 灰黑色粘質土層 (木片多し)	6.9 5.8 3.7	194.0	橢円形	●球状に近い ●全体に粗く打ち欠いて概形を整える ●周縁に打撃痕を有する	サスカイト
図版76 22	E-7 — 灰黑色粘質土層 (木片多し)	5.5 5.6 5.3	228.0	円形	●球状に近い ●全体に敲打痕が認められる ●一部に研磨痕を有する	花崗質砂岩
図版76 23	E-5 — 黑色粘質土層 (上層)	7.3 5.6 3.5	180.0	橢円形	●橢円形を呈する ●両端に打撃痕を留め、両側辺にも若干認められる ●片面に敲打による凹みが認められる	花崗質砂岩
図版76 24	E-3 — — 150.0	7.2 4.7 3.7		不整形	●橢円形で一部欠損 ●両端わずかに打撃痕を認める	チャート
図版76 25	E-5 — 黑色粘質土層 (上層)	7.1 4.4 2.7	114.0	橢円形	●扁平な橢円形を呈する ●両端および両側辺の一部に弱い打撃痕を認める	花崗質砂岩
図版76 26	E-6 落ち込み7 黑色粘質土層 (上層)	6.6(残存) 5.0(〃) 3.4(〃)	154.0	半円形	●円錐の半分で、自然縫面と削面2面からなる ●周縁に敲打痕が認められる	花崗質砂岩
図版77 27	E-5 — 暗黃灰色砂巣	8.7 8.6 3.0	292.0	扁平な橢円形	●扁平な円形を呈する ●周縁に敲打痕が認められる	花崗質砂岩
図版77 28	F-7 西側觀察用断面 溝238 灰黑色粘質土層 (木片多し)	9.4 5.4 3.2	244.0	レンズ状	●扁平な方形を呈する ●両面とも敲打による浅い凹みを有する ●両側辺には敲打による握り手状の凹みが認められる ●両端に打撃痕を留める	石英質砂岩
図版77 29	E-6 — 暗黒色砂質土層	7.9(残存) 3.9(〃) 3.1(〃)	154.0	不整四面体	●不整橢円形の敲石の破片 ●表面に研磨を施し、敲打痕を有する ●両端に打撃痕を有する	黒雲母花崗岩
図版77 30	E-3 — 黑色粘質土層 (上層)	10.7 5.5 5.4	393.0	不整形	●部厚い半月形を呈する ●両端に打撃痕を留める ●表面中央部に敲打による凹みを有する	チャート
図版77 31	C-4・D-4 間觀察用断面 — 灰黑色粘質土層 (木片多し)	8.9 6.8 5.7	410.0	不整四面体	●部厚い不整橢円形を呈する ●両端および両側辺に打撃痕を有する	チャート

敲石

国版番号	出土地名 遺構名 層位名	法量 (m) (g)	長さ 幅 厚 重量	断面	特徴	備考 (石材)
国版77 32	E-7 —— 灰黒色粘質土層 (木片多し)	9.2(残存) 6.1 4.7 324.0		不整形	● 部厚い不整方形を呈し、一部欠損 ● 各面ともわずかであるが敲打による凹みが認められる ● 先端に打撃痕が認められる	チャート
国版77 33	E-5 溝260 端黑色砂質土層	7.2 6.2 4.0 282.0		卵形	● 上半分を欠損 ● 部厚い橢円形を呈すると思われるが不明 ● 端部に著しい打撃痕を有する ● 片側面(A面で右)にも打撃痕を有する	石英質砂岩
国版77 34	F-7 南側観察用断面 —— 灰黒色粘質土層	8.4(残存) 5.6 4.4 220.0		不整四面体	● 部厚い方形を呈し、一部欠損 ● 両面ともわずかに敲打を施す ● 上端欠損面わずかに打撃痕を留める ● 下端に打撃痕が著しい	石英質砂岩
国版77 35	F-8 —— 暗黄灰色砂層 (粒子粗い)	6.7(残存) 7.6(〃) 4.3 274.0		不整四面体	● 三角形を呈し、一部欠損 ● 先端に打撃痕を有する	チャート
国版78 36	D-5 —— 黑色粘質土層 (下層)	9.1 5.0 3.9 222.0		不整形	● 部厚い半月形を呈する ● 両端に打撃痕を有する	チャート
国版78 37	D-8 E-8 間観察用断面 —— 暗黄灰色砂質土層 (粘土まじり)	7.5 4.9 5.1 264.0		不整四面体	● 部厚い不整橢円形を呈する ● 下端に打撃痕が著しい	チャート
国版78 38	E-5 溝260 明黒灰色粘質土層	6.6(残存) 5.0 4.5 250.0		円形	● 上半分を欠損 ● 部厚い橢円形と思われる ● 表面に敲打による浅い凹みを有する ● 下端に打撃痕を留める	石英質砂岩
国版78 39	E-5 —— 黑色粘質土層 (上層)	10.0 5.0 3.8 256.0		丸みをおびた三角形	● 縦長の橢円形を呈する ● 片端を先端から24mm以内で研磨を施している。但し、研磨が及ばず、小さく浅い凹みを残す ● すり石として機能	花崗質砂岩

第8節 砥石 (6・63・64-1~10, 22~24・65~73-1~102)

本遺跡出土の砥石は総数112点である。この内玉作りに使用されたとみられる砥石が16点で、他の96点が荒砥から仕上げまでの各段階の砥石である。

砥石使用石材については、第15表・第16表砥石使用石材割合表（1）・（2）のとおりであり、砂岩・花崗質砂岩・花崗岩・プロビライト・泥岩・石英粗面岩・火成岩を素材としており、砂岩製（51%）と花崗質砂岩製（37.2%）が圧倒的に多く両種類で全体の88.2%を占める。

砥石は使用された砥面の状態等から、作業によって使い分けされていたことは明らかであり、本遺跡出土の砥石についても荒砥・中砥・仕上げの3種類に区分することができる。

砥石における荒砥・中砥・仕上げの区分については、岩石学的見地によるものではなく、出土した全砥石を観察して肉眼等により砥石面の状態などを比較検討して区分したものである。

a) 荒砥（図版22・65~68-1~31）

31点出土している。（17）については玉砥石の可能性がある。（3）は平面形が長方形状のものの欠損品であり使用面は3面みられる。面は線状痕が多くみられ、反対面（裏面）は乱方向の砥痕がみられるが、表面ほどは使用されていない。側面にも使用による磨滅痕が左右方向にみられる。また側辺は二次的に火を受けている。石材は、花崗質砂岩である。

（4）は、平面形は長方形状に打ち欠き形を整えたものの欠損品であり、使用面は2面みられる。砥ぎ方向は一定方向を示している。石材は、花崗質砂岩である。

（16）は欠損品で全体形は不明であるが、使用面は3面みられる。一面はカーブをえがいて中央へ向い、反対面（裏面）は比較的平坦であり、2箇所の敲打痕がみられる。二次的に火を受けており、煤の付着がみられる。石材は、花崗質砂岩である。

b) 中砥（図版23・68~70-32~69）

38点出土している。（53）については、玉砥石の可能性がある。

（32）は、平面形は長方形状のものの欠損品であり、断面は扁平な台形を呈している。使用面は2面で、両面とも平坦であり凹みはみられない。両面には敲打痕がみられ、砥石として使用後台石に使用されたものと考えられる。石材は、花崗質砂岩である。

c) 仕上げ（図版23・24・71~73-70~102）

33点出土している。この内（81・84・95・101）については、玉砥石の可能性がある。

（70）は、部厚い長方形状を呈し、断面は台形を呈している。端面以外の使用度の差はあるが4面使用している。石材は、プロビライトである。（71）は、欠損しているが平面形は長方形状を呈するものと思われる。使用面は5面あり、特に平面と側面は凹面となっている。石材は、火成岩である。

（75）は、欠損品のため全体形状は不明であるが、使用面は2面みられる。使用面の1面はよく使用されて磨耗しており、他の1面は削面を使用している。石材は砂岩である。（76）は、使用面は4面みられ、4面ともかなり使用された凹面を呈している。石材は、砂岩である。（79）は、一部欠損しているが、断面台形の長方形状を呈するものと思われる。使用面は3面みられ、砥方向は一定方向を示している。石材は、花崗質砂岩である。（81）は、欠損のため全体形状は不明であるが、四角柱状の形状を呈するものと思われる。残存するものの使用面は2面で他は削面からなっている。両面ともよく使用されておりゆるやかな凹面となっており、一面には細かな一定方向の線状痕がみられる。他

面（側面）には、幅3mm前後のU字形を呈した浅い擦溝がみられ、玉作りに使用された可能性がある。石材は、砂岩である。

第15表 砥石使用石材割合表(1)

種類	点数	%
砂 岩	52	51.0
花崗質砂岩	38	37.2
花 崗 岩	6	5.8
プロビライト	2	2.0
泥 岩	1	1.0
石英粗面岩	1	1.0
火 成 岩	1	1.0
不 明	1	1.0
計	102	100

第16表 砥石使用石材割合表(2)

種類	形式	割合			計
		荒砥	中砥	仕上	
砂 岩	5	22	25	52点	52点
	9.6	42.3	48.1	100%	
花 崗 質 砂 岩	20	16	2	38点	
	52.7	42.1	5.2	100%	
花 崗 岩	4	0	2	6点	
	66.7	0	33.3	100%	
プロビライト	0	0	2	2点	
	0	0	100	100%	
泥 岩	0	0	1	1点	
	0	0	100	100%	
石 英 粗 面 岩	1	0	0	1点	
	100	0	0	100%	
火 成 岩	0	0	1	1点	
	0	0	100	100%	
不 明	1	0	0	1点	
	100	0	0	100%	
合 計	31	38	33	102	

第17表 玉砥石使用石材割合表

種類	点数	%
花崗質砂岩	8	50.0
砂 岩	5	31.2
石英質砂岩	1	6.3
緑泥片岩	1	6.3
頁 岩	1	6.3
計	16	100

d) 玉砥石（図版6・63・64-1~10）

本遺跡出土の砥石112点の内、玉類を研磨する際にできた擦り痕の深い溝が認められる玉砥石は16点出上している。玉砥石利用石材については、第17表のとおりであり、花崗質砂岩等の砂岩系の石材を多く利用している。玉砥石は（4）以外全て破損しているが、研磨溝は、幅12~2.5mm、深さ4~0.5mmを測り、底面に1~数条認められる。

（1）は、円錐を利用したもので、使用面は1面のみで他は自然縫面と割面である。使用面には幅6mm、深さ2mm、幅8mm、深さ2mm、幅3.5mm、深さ0.5mmのU字形の研磨溝がそれぞれ1本づつ認められる。（2）の現状形は欠損のため不整形な角柱状を呈している。欠損面以外は全て使用されており、一面には、幅8.5mm、深さ2mmの研磨溝1本、他面には幅6mm、深さ1mm、欠損のため規模の不明な溝が各1本認められ、残りの使用面は平坦面を呈している。（3）は、扁平な三角柱状の破片である。使用面は4面みられ、研磨溝が認められるのはその内2面で、それぞれ幅9mm、深さ1.5mm、幅9mm、深さ2.5mmを測るU字形の溝1本である。（4）は、縦長の扁平な礫を利用している。使用面は2面あり、一面には幅11mm、深さ2mmのU字形を呈した研磨溝が縦方向に、他面には非常に浅い溝が認められる。両長側面には打撃痕がみられる。（5）は、2面のみの破片である。残存する2面には使用痕が認められ、その内一面には幅9mmと7mm、深さ1mmを測る研磨溝が2本通っている。（6）は、使用面4面残存の破片である。使用面の内三面は全体に浅くゆるいカーブで凹んでおり、一面には極細の深い溝が認められる。他の一面は割面であるが、その面に幅12mm、深さ3mmのU字形の研磨溝が1本認められる。（7）は、四角柱状を呈し、その内使用面は4面で他面とは欠損面と自然縫面である。使用面のうち二面に研磨溝が認められ、一面では斜め方向に幅2.5mm、深さ0.5mmの溝が1本、もう一面には幅9mm、深さ2mmの溝が十字にみられる。溝の断面は、U字形を呈している。（8）は、全体に風化が著しいが、2面の使用面がみられ、それぞれの面に幅10.5mm、深さ2.5mm、幅6mm、深さ0.5mmの研磨溝が1本づつみられる。（9）は、扁平な不整形を呈しており、使用面は4面認められ、一面だけに研磨溝がみられる。溝は幅4mm、深さ2mmで断面U字形のものと、幅7mm、深さ4mmの断面V字形に近いものの2本が並行している。（10）は、一部欠損しており全体形は不明であるが、長方形形状で断面台形のものと考えられる。残存している4面は全体に丁寧な研磨が施されており、使用により磨滅したのではなく、他の石器の再利用が考えられる。研磨溝が認められる面は二面あり、幅6.5mm、深さ2.5mm、幅5mm、深さ1mmのU字形を呈した溝が1本づつみられる。

本遺跡で出土した砥石は総数112点であり、石鎌、石錐、石庖丁につぐ出土量である。その内、玉類の研磨工程の際にできた擦り痕の溝がみられる砥石は16点あり、出土した砥石の14.3%にあたる。しかし、研磨溝のみられない他の砥石についても、その大多数が欠損品及び破片であるため、全体形や使用痕など不明な点は多くあるが、個々の使用面のカーブなどをさらに細かく観察すれば、ただ単に、他の磨製石器や金属器を底ぐための砥石だけでなく、玉類を研磨するのに使用された玉砥石となるものの数量は増すものと考えられる。

砥石(荒砥)

国版番号	出土地区分 遺構名 層位名	法量 (cm)	長さ 幅厚	断面	特徴	備考 (石材)
国版65 1	D-3 灰黑色粘質土層 (木片多し)	12.4 7.9 6.6		不整形	<ul style="list-style-type: none"> 不整な卵形を呈する 両面、一側面のそれぞれ一部を使用面とする。他は割れおよび剥離のため不明 側面の使用部分は割れ面を利用しておらず、フラットな面を呈する 使用部分は平滑だが、明瞭な擦痕は認められず A面及び、一側面(先の側面の反対側)には、深さ5mmに達するものも含め、多数の打撃痕が認められる 	花崗岩 (黒雲母)
国版65 2	E-5 溝238 黑灰色粘質土層	9.8 10.5 8.3		台形	<ul style="list-style-type: none"> 不整円形の縁 使用面は三面にみられ、各面に研磨痕が残り、二面は光沢をおびる 底面を除く大部分の面に鉄分が付着 各面に打撃痕がみられ、凹状になる面もある 	花崗質砂岩
国版22-65 3	F-7 青黑色砂質土層	11.3 5.9 5.0		不整台形	<ul style="list-style-type: none"> 不整な石材を用いている 砸き面は三面にみられる。一面は線状模様らしいものが多くみられ、側面は砸ぎによる磨滅痕が左→右へみられる。裏面は上→下、左→右へ見られる 	花崗質砂岩
国版22-65 4	D-5 黑色粘質土層 (下層)	9.9(残存) 7.4(×) 5.5(×)		台形	<ul style="list-style-type: none"> 欠損しているため全体の形状は不明であるが、ほぼ長方形状のものと思われる 使用面は二面である 	花崗質砂岩
国版65 5	D-5 淡黃灰色砂質土層	8.1(残存) 7.7(×) 6.2(×)		不整四角形	<ul style="list-style-type: none"> 礫の破片で三角柱状を呈す 使用面は一面あり、他はすべて割面 使用面は一部欠損するがよく磨耗しており、浅く凹んで斜め方向の擦痕がみられ、若干光沢をおびる 使用面の反対面と一側面には打撃痕が認められる 	花崗質砂岩
国版65 6	D-6 溝108 灰黑色粘質土層	9.8(残存) 7.1(×) 4.3(×)		—	<ul style="list-style-type: none"> 礫の大きい破片 使用面は一部欠損しており、他はすべて割面 使用面は平坦でよく磨耗しているが若干の凹凸はある 	石英粗面岩
国版66 7	C-3 灰黑色粘質土層	11.3 6.6 4.1		—	<ul style="list-style-type: none"> 不整な四角形を呈する A、B面を使用面として、各側面は割面 使用面は起伏を有し、明瞭な擦痕は認められず 	花崗質砂岩
国版66 8	D-4 溝105 暗黄灰色砂質土層 (粘土まじり)	8.9 6.3 4.3		三角形	<ul style="list-style-type: none"> 一端に打撃痕がみられる完形礫 両長辺部の自然縫面に使用面 使用面は他の自然縫面より、やや磨耗している程度である 一部縫の表面に黒くススが付着 	花崗質砂岩
国版66 9	D-4 — 暗黒色粘質土層	8.7 6.6 4.4		不整形	<ul style="list-style-type: none"> 不整形の割礫 使用面は一面だけで、残りは自然縫面と割面 使用面は自然縫面を使い、平坦で一端部に擦痕がみられ、やや光沢をおびる 	不明
国版66 10	E-8 — 灰黑色粘質土層 (木片多し)	6.9(残存) 5.1(×) 6.4		台形	<ul style="list-style-type: none"> 礫の一部 使用面は残存自然縫面に二面あり 使用面は対の面で、一面は平風で若干磨耗して、一面は残存部中央で一段下がった底の方が使われている 一側面には打撃痕が残る 	花崗岩 (黒雲母)

砾石（荒砥）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (cm)	長さ 幅 厚	断面	特徴	備考 (石材)
図版66 11	E-8 —— 暗黄灰色砂質土層	7.7(残存) 6.2(タ) 5.3		台形	●縁の一部 ●使用面を含めた自然縫面が一部残存 ●使用面は平坦で若干磨耗しており、磨滅底以下の打撃痕が浅くみられる	花崗岩 (黒雲母)
図版66 12	E-4 西側観察用断面 —— 黒色粘質土層 (上層)	9.9 7.3(残存) 3.0		扁平な柳葉形	●扁平な円錐の半分 ●自然縫面の一平面が使用面 ●使用面は中央がやや浅く凹み、若干磨耗する	花崗質砂岩
図版66 13	D-5 —— 青灰色砂層	7.5 6.4 3.5		平行四辺形	●不整な四角形を呈するが、厚はほぼ均等である ●片平面および一側面を使用面とする。他は削面 ●使用面は平滑だが擦痕は認められず ●使用面には磨滅が及ばない浅い凹みを有する ●全体的に火を受けており、黒く変色した部分も認められる。特に割面の一側面は炭が付着している	花崗質砂岩
図版66 14	C-5・D-5 間観察用断面 —— 灰黑色粘質土層	6.8 6.7 3.2		長方形	●いびつな正方形を呈する ●一側面のみ平滑で砥石としての使用面である ●各面には打撃痕が認められ、特にA面中央のものは大きく、深さ7mmに達する ●A面中央の打撃痕には放射状に幾つもの溝状の凹みがみられ、凹みに限り平滑である	花崗質砂岩
図版66 15	E-6 —— 暗黒色砂質土層	9.1 7.7(残存) 2.5(タ)		扁平な不整形	●扁平 ●使用面は大きい凹みの深い面と、その面に接する三側面がみられる ●大きい使用面は中央が一番深く、両側端部に一一条ずつ浅い溝をもつ ●側面の使用面のうち、二面はよく磨耗しているが、左側面のものは比較的磨耗が進んでいない ●裏面は未使用の削面	砂岩
図版22-67 16	C-3 —— 灰黑色粘質土層	7.5(残存) 6.8(タ) 2.9		丸みをおびた長方形	●平らな不整形を呈する ●片面に打撃痕らしい凹みがみられる ●火を受けて黒く変色している箇所がみられる	花崗質砂岩
図版67 17	D-3 —— 黒色粘質土層 (上層)	9.1(残存) 6.2(タ) 2.1(タ)		——	●欠損のため形は不明だが扁平な石材を利用 ●一面平および一側面を使用面とする。他は欠損のため不明 ●使用面は平滑だが擦痕は不明瞭である ●平面および側面にかけては直径1cm内外の浅い打撃痕が多数ある	花崗質砂岩 玉礫石の可能性あり
図版67 18	F-7 —— 黒色粘質土層 (上層)	8.4 6.0(残存) 2.6		長方形	●扁平な縁の一部 ●平面残存部に使用面あり ●使用面は平坦で中央部には斜め方向の段が一條みられる ●対面の平面も平坦面をもち、やや磨耗が進んでいない使用面	花崗質砂岩
図版67 19	E-8 —— 灰黑色粘質土層 (砂まじり)	7.2(残存) 6.0(タ) 2.0(タ)		長方形	●不整な四角形を呈すると思われる ●扁平である ●剥離、割れが著しく、使用面は三面（両平面、一側面）しか残っていない ●使用面は平滑だが、B面では打撃痕と思われる小さい凹みがある ●使用面には明瞭な擦痕は認められず	砂岩

砥石(荒砥)

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm)	長さ 幅厚	断面	特徴	備考 (石材)
図版67 20	D-4 — 灰黑色粘質土層 (木片多し)	7.3(残存) 4.4(〃) 2.9(〃)	—	—	● 砕の破片 ● 使用面は自然縫面に一部残存 ● 使用面には二面あり、両面とも平坦でよく磨耗している	砂岩
図版67 21	E-5 溝238 黑灰色粘質土層	8.3(残存) 4.5(〃) 2.3(〃)	—	—	● 破片のため全体の形状は不明 ● 平坦な縫面と使用面のみ残存 ● 使用面は浅い弧状を呈する	花崗質砂岩
図版67 22	E-8 溝100 暗黃灰色砂質土層 (粘土まじり)	6.2 4.6 2.7	四角形	—	● 砕の破片 ● 使用面は残存自然縫面と、一部割面にもみられる ● 側面のものは比較的磨耗しており、最長側面のものには縱方向の擦痕がみられる ● 平面のものは、一面は自然縫面の凹凸を残しており、一面は割面であり磨耗せず	花崗質砂岩
図版67 23	E-7 溝238 暗黒色粘質土層	5.1(残存) 3.4(〃) 3.0	—	—	● 円錐の一部破片 ● 残存自然縫面の一部使用面 ● 使用面は平坦で若干磨耗する	花崗質砂岩
図版67 24	D-5 — 暗黃灰色砂質土層	6.5(残存) 4.2(〃) 2.6(〃)	—	—	● 円錐の破片 ● 使用面は残存自然縫面に一部みられる ● 使用面には二面あり、一面は平坦で磨耗しており、一面は一段凹んだ面で磨耗する	花崗質砂岩
図版67 25	C-3 — —	5.2(残存) 3.6(〃) 2.9(〃)	不整星形	—	● 不整形の割れ ● 半損した割面と使用面を含めた自然縫面からなる ● 使用面は二面あり、両面とも半損している ● 使用面のうち一面は平坦でやや自然縫面の様相が残り、もう一面は浅く凹む溝状を呈し、若干光沢をおびる ● 自然縫面には一部打撃痕あり	砂岩
図版67 26	D-3 — 黑色粘質土層 (上層)	4.3(残存) 3.4(〃) 3.0	不整五角形	—	● 砕の破片 ● 使用面は二面残存し、一面は平坦、一面はごく浅く凹み、両面ともによく磨耗している ● 使用面には斜め方向の擦痕が残る	花崗質砂岩
図版67 27	F-7 — 黑色粘質土層 (上層)	6.3(残存) 3.3(〃) 2.5(〃)	—	—	● 三角錐状の破片 ● 使用面は一面のみで一部欠損する ● 使用面は平坦でよく磨耗しており、やや光沢をおびる	花崗岩
図版67 28	E-4 南側觀察用断面 — 淡黄灰色砂質土層	7.7(残存) 4.2(〃) 1.4(〃)	—	—	● 砕のうすい破片 ● 自然縫面の一部が使用面 ● 使用面は半損しており、やや浅く凹み若干光沢をおびる	花崗質砂岩
図版67 29	D-4 — 黑色粘質土層 (上層)	4.4(残存) 4.0(〃) 1.1	隅丸の長方形	—	● 扁平な円錐の破片 ● 残存部平面上に使用面 ● 使用面は平坦でやや磨耗ぎみ	砂岩

砥石（荒砥）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (m)	長さ 幅 厚	断面	特徴	備考 (石材)
図版68 30	E-4 —— 青灰色砂質土層	4.2(残存) 3.8(タ) 1.0(タ)		——	● 縮のうすい破片で長方形を呈す ● 使用面は一平面と二側面にみられる ● 平面の使用面はよく磨耗しているが、剖面の様相を残し、側面のものは両面とも面は不整だが磨耗している	花崗質砂岩
図版68 31	E-5 溝238 黒灰色粘質土層	3.1(残存) 2.8(タ) 1.2(タ)		隅丸の長方形	● 破片のため全体の形状は不明 ● 残存部は扁平な円錐の一部 ● 片面のみ、平面部に使用による傷がみられる	花崗質砂岩

砥石(中砥)

国版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm)	長さ 幅厚	断面	特徴	備考 (石材)
国版23-68 32	D-4 — 黑色粘質土層 (上層)	8.6(残存) 9.2 3.0		扁平台形	●長方体状を呈する ●使用面は二面あるが、各面に打撃痕が認められる	花崗質砂岩
国版68 33	F-7 — 黑色粘質土層 (上層)	4.9(残存) 4.9(〃) 2.9(〃)		—	●平面と側面の一部の破片 ●平面は平滑で、側面は割面 ●平面および破損面に打撃痕を有する ●使用面での擦痕は不明瞭	花崗質砂岩
国版68 34	D-4 — 灰黑色粘質土層	7.8 5.9(残存) 5.3		不整な四角形	●不整な六面体を呈する ●一面のみを使用面とし、他は割面 ●使用面は起伏を有するが平滑であり、擦痕は認められない ●使用面には磨耗が及ばず、小さな浅い凹みを有する ●使用面の一部および、他の三面に打撃痕を有する。深さ3mmに達するものもある ●打撃痕のうち、一つに溝状で平滑なものがあり、何かを研磨した可能性あり	砂岩
国版68 35	F-8 溝240 灰黑色粘質土層 (木片多し)	7.0(残存) 5.8(〃) 4.1		長方形	●縦の一部 ●割面以外の各面に打撃痕(一面を除いて全て使用痕下)がみられる ●使用面は両平面と一側面があり、平面の一面はよく磨耗して浅く凹み、斜め方向の擦痕が残り、光沢をおびる ●側面の使用面は打撃痕が目立つものの、よく磨耗し、縱方向の擦痕が残り、光沢をおびる ●裏面のものは、さほど磨耗は進んでいない	花崗質砂岩
国版68 36	E-6 北側観察用断面 — 黑色粘質土層 (上層)	8.0(残存) 4.9(〃) 5.3(〃)		四角形	●四角形を呈するものの角と思われる ●一面は平滑な使用面だが擦痕は認められない。又、使用面には磨耗以前の浅い凹みが残る ●側面は割面もしくは欠損している。但し、一側面はわずかに平滑な部分を残す	砂岩
国版68 37	D-4 — 黑色粘質土層 (上層)	10.1(残存) 6.4 4.9		不整四角形	●三角形の縦で一部欠損する ●使用面は二側面にあり、共に一部が残存する ●使用面のうち、一面は中央が浅く凹み、磨耗は比較的進んでおらず、もう一面はごく一部のみ残存するが、平坦でよく磨耗している	砂岩
国版68 38	E-4 南側観察用断面 — 黑色粘質土層 (上層)	8.5(残存) 7.6(〃) 3.6(〃)		平行四辺形	●2分の1欠損し、全体の形状は不明 ●両平面、一側面が使用面で他は自然縦面 ●使用面は平滑だが、明瞭な擦痕は認められず	花崗質砂岩
国版68 39	F-6 — 黑色粘質土層 (上層)	9.8 5.6 3.7		逆台形	●長方形を呈する ●A面と一側面を使用、他面は割面 ●使用面は平滑だが、起伏を残し、明瞭な擦痕は認められず	花崗質砂岩

砥石(中砥)

国版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm)	長さ 幅厚	断面	特徴	備考 (石材)
国版69 40	F-7・F-8 間觀察用断面 溝239 灰黑色粘質土層 (木片多し)	10.3 3.3 3.1		四角形	<ul style="list-style-type: none"> 長い不整角柱状 一方の端部は使用面で、一方は非使用面 使用面は端部を含めて四面あり、一側面は割面 鈍い棱で接する二面は比較的磨耗が進んでおり、もう片面はやや割面の様相を残す 	砂岩
国版69 41	E-3 溝238 黒灰色粘質土層	7.7 4.0 4.6		台形	<ul style="list-style-type: none"> 多面体の礫 使用面は四面あり、他は自然縁面 使用面は平坦でよく磨耗しており、光沢をおびる面と、一端部のみ摩耗して光沢をおびる面、面積の狭い上面で磨耗が比較的進んでいる面と、側面下端部で表面磨耗する面がある 	花崗岩
国版69 42	F-7 溝238 青黑色砂質土層	6.9(残存) 5.2(×) 4.0(×)		不整形	<ul style="list-style-type: none"> 蝶の大きな破片 使用面は自然縁面にあり、一部破損する 使用面は浅く凹み、比較的磨耗が進んでいる 	砂岩
国版69 43	D-4 北側觀察用断面 —— 黑色粘質土層 (上層)	5.8(残存) 6.4(×) 4.5(×)		椭円形	<ul style="list-style-type: none"> 4分の1のみ残存 棒石状を呈する可能性 両面・側面とも平滑だが、B面・側面には明瞭な擦痕は認められず A面中央は研磨により凹んでいる。さらに2本の平行に走る線状の凹みが認められ、片方はやや不明瞭である B面中央およびA面の端に著しい打撃痕が認められる 	砂岩
国版69 44	B-4 —— 黑色粘質土層 (上層)	5.1(残存) 5.7(×) 4.5(×)		---	<ul style="list-style-type: none"> 側面を含む破片 棒石状を呈すると思われるが欠損のため不明 両平面・側面は平滑であるが、明瞭な擦痕は認められず 両平面の一部、側面、破損面には打撃痕を有する 	砂岩
国版69 45	E-5 —— 黑色粘質土層 (上層)	8.1 5.2 4.1		不整四角形	<ul style="list-style-type: none"> 丸みをおびた角をもつ三角形を呈する 部厚い 両平面および側面が使用面 使用面は平滑だが起伏をもつ。又、明瞭な擦痕は認められず、齊滅の及ばない浅い凹みを残す 片平面には幅5mm以下の浅い溝状の凹みが存在する 	砂岩
国版69 46	C-3・D-3 間觀察用断面 —— 黑色粘質土層 (下層)	5.4 5.3 4.6		不整円形	<ul style="list-style-type: none"> 円礫 自然縁面の一部が使用面 使用面は平坦面をもち、斜め方向の擦痕が残り、やや光沢をおびる 大きい使用面以外にも、一部磨いた不整面が残存 	砂岩
国版69 47	F-7 —— 黑色粘質土層 (上層)	6.7 7.4 3.3		不整四角形	<ul style="list-style-type: none"> 平面は丸みをおびた三角形を呈する A面は盛りあがって四面からなる A面のうち二面、B面は平滑で、それぞれに溝状の凹みがみられる A面のうち一面とB面は鋭角に交わり片刃状をなしている 刃縁状の所は凹みや細かな剥離などの刃こぼれのようなものがみられる 	砂岩

砥石（中砥）

国版番号	出土地名 遺構名 層位名	法量 (mm)	長さ 幅厚	断面	特徴	備考 (石材)
国版69 48	E-6 — 黄灰色砂質土層	5.8 6.1 3.1(残存)	—	—	●円礫の破片 ●使用面は一面のみで半損しており、他は割面 ●使用面は端部がゆるやかに丸まった平坦面であり、非常に磨耗して光沢をおびる	砂岩
国版69 49	E-7 — 灰黑色粘質土層	6.4 7.7(残存) 2.6(〃)	—	—	●破片のため全体の形は不明 ●中央の浅く凹んだ面が使用面 ●裏面は割れのため不明 ●側面部は焼けて赤色化している	砂岩
国版69 50	C-5 — 暗黃灰色砂質土層 (粘土まじり)	7.9 4.9 2.2	台形	—	●不整な四角形を呈する ●片平面のみ使用面とする、他は割面 ●使用面は半損だが擦痕は認められず ●使用面には小さな浅い凹みが集中する箇所がある。打撃痕の可能性 ●全体的に磨滅が著しい	砂岩
国版69 51	E-6 — 灰黑色粘質土層	8.5 4.5(残存) 3.0(〃)	不整な扁平の橢円形	—	●2分の1欠損 ●不整な円形を呈す ●両平面、側面とも平滑である ●片平面には幅2mm以下の浅く細長い溝状の凹みを多く有する。もう片平面では明瞭に擦痕は認められず ●両平面に磨滅が及ばない小さな浅い凹みを残す ●側面に打撃痕を有する	砂岩
国版70 52	D-4 — 暗黃灰色砂質土層	8.2 5.1(残存) 3.0	長方形	—	●扁平な礫の一部 ●使用面は一平面にあり、他は自然縫面と割面 ●使用面は半損しており、残存部は磨耗しているが凹凸は残る ●側面に一部黒く煤が付着	砂岩
国版70 53	E-5 — 黒色粘質土層 (上層)	6.9(残存) 5.3(〃) 2.6	長方形	—	●礫の破片 ●使用面は二面あり、あと割面に一部使用面が残存する ●使用面のうち、一面は平坦で残存する側縁部では浅く凹み、もう一面も平坦で側縁部では比較的深く凹み、深い溝が1条通る ●わずかに残存する一使用面は浅く凹む	砂岩 玉砥石の可能性あり
国版70 54	E-4 溝238 — 黑灰色粘質土層	5.2(残存) 5.8(〃) 3.8(〃)	—	—	●礫の破片 ●使用面は残存自然縫面に一面(一部残存)、割面に一面残存 ●使用面のうち自然縫面のものは浅く凹む面でよく磨耗しており、擦痕は弱く光沢をおびる ●割面の使用面はエッジが磨耗し、横方向の擦痕が顕著にみられる	花崗質砂岩
国版70 55	D-4 溝105 — 暗黃灰色砂質土層 (粘土まじり)	7.7 4.5 2.5	不整四角形	—	●扁平な礫の破片 ●使用面は残存自然と一部割面にもみられる ●使用面は四面あり、そのうち一面は平坦で斜め方向の擦痕が残るよく磨耗した面、その面に接する側面でやや磨耗した面と、裏面でよく磨耗しているが自然縫面の凹凸を残す面、割面の端にわずかにみられる面とがある	砂岩

砥石（中砥）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm)	長さ 幅厚	断面	特徴	備考 (石材)
図版70 56	E-6 — —	7.2(残存) 5.6(×) 4.0(×)		不整三角形	<ul style="list-style-type: none"> 礫の破片 使用面は残存自然縫面二面にあり、一部欠損する 使用面のうち一面はやや浅く凹み、よく磨耗して斜め方向の擦痕がみられ光沢をおびる 残存側面の使用面は自然縫面の凸凹を残すものの、よく磨耗して光沢をおびる 	花崗質砂岩
図版70 57	E-4 溝238 黒灰色粘質土層	6.5(残存) 6.3(×) 2.8(×)		—	<ul style="list-style-type: none"> 礫の破片 使用面は一部残存し、残りはすべて割面 使用面は平坦で斜め方向の擦痕が残る 	砂岩
図版70 58	D-4 — 暗黄灰色砂質土層 (木片多し)	6.2(残存) 6.7(×) 1.7(×)		扁平な精円形	<ul style="list-style-type: none"> 2分の1を欠損。全体の形は不明だが、現状は丸みをおびた三角形を呈する 扁平 両平面とも平滑で使用面である。どちらも中央で浅く凹む 側面は明確には面をなさず丸みをおびる。平滑とそうでない部分がある 片平面中央には、幅3mm以下の浅く細長い溝状の凹みが不定方向にある 	砂岩
図版70 59	C-3 — 黒色粘質土層 (上層)	6.7(残存) 4.1(×) 1.5		扁平な隅丸の長方形	<ul style="list-style-type: none"> 扁平な礫の一部 二側面が割面の他はすべて使用面を含む自然縫面 使用面は一平面と一側面の二面があり、平面のものは縦・斜め方向の擦痕がみられ、側面のものは平坦で縦方向の擦痕がみられる 	砂岩
図版70 60	D-5 溝19 暗黄灰色砂質土層	4.7 4.0 2.0(残存)		三角形	<ul style="list-style-type: none"> 礫の破片 使用面は三面あり、残りは自然縫面および割面 使用面は、平坦だが中央部のみや浅く凹む面と、平坦で磨耗はあまり進んでいない面と、一面はごく一部だけが平坦面を呈する所がある 	砂岩
図版70 61	C-4 — 黒色粘質土層 (上層)	3.7(残存) 3.6(×) 2.1(×)		—	<ul style="list-style-type: none"> 礫のごく小さな破片 使用面は残存自然縫面の各面にみられ計三面残存 使用面は、平坦でよく磨耗した面と、一部のみ残存だが平坦でよく磨耗して光沢をおびる面があり、残り一面は若干磨耗する 	花崗質砂岩
図版70 62	C-4 落ち込み214 灰黑色粘質土層	5.1(残存) 3.6(×) 1.5(×)		—	<ul style="list-style-type: none"> 礫の破片 使用面は一部のみ残存し、他はすべて割面 使用面は平坦でよく磨耗しており、光沢をおびる 	花崗質砂岩
図版70 63	E-4 溝238 黒灰色粘質土層	3.7(残存) 3.1(×) 1.4		隅丸の長方形	<ul style="list-style-type: none"> 小さい扁平な礫の破片 使用面は残存平面に残る 使用面は一面あり、両面とも平坦な面で一面には縦方向の擦痕がみられる 	花崗質砂岩
図版70 64	D-4 — 白灰色砂層	4.6(残存) 3.1(×) 0.5(×)		—	<ul style="list-style-type: none"> 礫のごく一部のうすい破片 使用面以外はすべて割面 使用面も一部欠損しており、平坦でよく磨耗して光沢をおびる 	花崗質砂岩

砥石（中砥）

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm)	長さ 幅 厚	断面	特徴	備考 (石材)
図版70 65	E-6 —— 暗黄灰褐色砂質土層 (粘土まじり)	5.2 2.8 1.1	扁平な不整形	● 扁平な鐘の小片 ● 使用面は一側面にみられ、残りは剖面 ● 使用面は平坦で縦方向の擦痕がみられる	砂岩（石英・白雲母のみ）	
図版70 66	F-6 —— 黑色粘質土層 (上層)	5.6(残存) 3.2(〃) 0.8(〃)	——	● 碓のうすい破片 ● 使用面は中央に一部残存し、他はすべて剖面 ● 使用面は平坦でよく磨耗している	花崗質砂岩	
図版70 67	F-7 —— 黑色粘質土層 (上層)	3.7 3.3(残存) 1.7	扁平な三角形	● 小さな鐘で一部欠損 ● 使用面は一面のみみられ、一部欠損 ● 使用面は平坦でやや磨耗する	花崗質砂岩	
図版70 68	D-4 —— 灰黑色粘質土層	2.9(残存) 2.1 1.1(残存)	——	● 扁平な板状の小さな破片 ● 使用面は二長側面に一部残存し、残りはすべて剖面 ● 使用面のうち1面は平坦面をもち、やや光沢をおび、もう1面はごく一部のみ残存するがやや光沢をおびる	花崗質砂岩	
図版70 69	E-3 北側觀察用断面 溝238 青黒色砂質土層	2.9(残存) 2.2(〃) 2.0(〃)	——	● 扁平のごく小さな破片 ● 自然礫面の一面が使用面 ● 使用面は平坦で、若干磨耗する	花崗質砂岩	

砥石(仕上)

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm)	長さ 幅厚	断面	特徴	備考 (石材)
図版24-71 70	E-8 —— 暗黃灰色砂質土層 (粘土まじり)	13.2 5.9 5.2	台形		●部厚い長方形 ●一部破損しているが、各面とも使用していると思われる	プロビライト
図版23-71 71	D-6 —— 暗黃灰色砂質土層 (粘土まじり)	6.7(残存) 5.6(×) 3.5(×)	四角形		●欠損しており、長方形状のものと思われる ●使用面は、剖面以外の五面を使用しており、特に平面と側面は凹面となっている ●他面では擦痕は弱い	火成岩
図版71 72	E-3 —— 黒色粘質土層 (上層)	9.0 8.1 3.7	不整な五角形		●平面は平行四辺形を呈し、A面の真ん中に棱を有す ●一側辺のみ使用、他面は剖面および自然縫面 ●使用面の一部は黒く変色しており、火気を受けた可能性がある ●使用面は平滑だが、明瞭な擦痕は認められず	花崗質砂岩
図版71 73	F-8 —— 灰黑色砂質土層 (砂まじり)	9.5(残存) 6.6(×) 4.3	長方形		●四角い礫で一部欠損 ●使用面は一面で自然縫面が裏面と一長側面に残る ●使用面は一部欠損し、中央が浅く凹む	花崗岩
図版71 74	E-5 溝238 黒灰色粘質土層	9.2 10.0(残存) 2.3(×)	不整形		●腰の一平面を欠いた扁平な破片 ●側面残存部に使用面がみられる ●使用面はよく磨耗しており、剖面とのエッジが磨耗している	プロビライト
図版23-71 75	D-3 —— 黒色粘質土層 (上層)	8.5(残存) 6.1(×) 5.8	不整五角形		●破片で全体の形状は不明である ●使用面は二面あり、一面は平坦で、他の一面は剖面を使用している	砂岩
図版24-71 76	D-6 落ち込み216 灰黑色粘質土層	10.8 4.3 4.3	不整四角形		●一部欠損しているが長方形状である ●四面とも全面が使用されている	砂岩
図版71 77	D-5 溝41 暗黄灰色砂質土層	7.0 5.9 4.9	不整菱形		●不整体の割縫 ●平坦な使用面と、それに連なる自然縫面、剖面よりなる ●使用面には擦痕がわずかに残る	砂岩
図版72 78	C-3 —— 白灰色砂層	8.0(残存) 6.5(×) 4.1(×)	不整形		●礫の破片 ●使用面は残存自然縫面に一部残る ●使用面はよく磨耗して、やや光沢をおびる ●使用面を含めた自然縫面には黒く煤が付着	砂岩
図版24-72 79	D-5 西側觀察用断面 —— 暗黒色粘質土層	9.4(残存) 5.0 3.5	台形		●一部欠損していて長方形状である ●底面は三面にみられる	花崗質砂岩
図版72 80	E-5 溝260 暗黒色砂質土層	5.3(残存) 4.4(×) 4.2(×)	——		●側面をともなわない破片であり、形は不明 ●片面は平滑な使用面で、擦痕は不明瞭で磨滅の及ばない小さな浅い凹みを残す ●反対側の片面は打撃痕が全体にあり著しい。しかし、平滑な部分が残る ●破損面にも打撃痕を有し、深さ6mmに達するものもある	砂岩

砥石(仕上)

図版番号	出土地名 遺構名 層位名	法量 (mm)	長さ 幅厚	断面	特徴	備考 (石材)
図版72 81	D-4 — 黑色粘質土層 (上層)	6.7(残存) 3.2(〃) 3.2(〃)	台形		●破片のため全体の形状は不明 ●使用面は上面と側面の二面で四面となっている ●裏面は剥離面を残している	砂岩 玉砾石の可能性あり
図版72 82	E-7 — 暗黃灰色砂質土層 (粘土まじり)	5.0 4.3 3.5	台形		●礫の破片で多面体を呈す ●使用面は三面にみられ残りはすべて削面 ●使用面のうち一面は平坦面、一面は浅く凹む面、一面は一部残存するが平坦面をもつ	砂岩
図版72 83	D-6 — 灰黒色粘質土層 (紗まじり)	7.8(残存) 5.5(〃) 2.9	長方形		●扁平な礫の一部で側面一部残存 ●使用面は内平面に残存 ●使用面は共に平坦で、よく磨耗しており光沢をおびる ●使用面には擦痕下の打撃痕が一部みられる	砂岩
図版72 84	D-4 西側觀察用断面 — 灰黒色粘質土層	6.2(残存) 5.1(〃) 3.5(〃)	—		●側面を含む破片 ●片平面および側面を使用面とする。他は欠損のため不明 ●平面と側面の角は、やや丸みを有する ●両使用面とも幅2mm以下の浅く網目状の溝が平行に数多く存在する。又、側面の使用面には先の溝状の凹みとは方向を連れて斜めに幅3mm、長さ10mm、深さ1.5mmを最大とする、やや深く太く短い溝状の凹みが5つ存在する ●平面の使用面には、磨滅が及ばないやや深い凹み(径6mm以下)を有する	砂岩 玉砾石の可能性あり
図版72 85	E-3 — 黑色粘質土層 (上層)	6.7(残存) 4.7(〃) 3.8(〃)	—		●礫の破片 ●使用面は残存自然縫面に一部残る ●使用面は平坦で擦痕はみられないが磨耗する ●削面の一面は黒く煤が付着	砂岩
図版72 86	D-3 北側觀察用断面 — 黑色粘質土層 (上層)	7.6(残存) 4.2(〃) 2.8(〃)	—		●礫の破片 ●使用面は自然縫面に二面あり一部欠損する ●使用面は平坦でよく磨耗しており、やや光沢を帯び、もう一面はやや磨耗が進んでいない	砂岩
図版72 87	D-4 — 灰黒色砂質土層	4.3(残存) 4.2 4.0(〃)	五角形		●不整多面体 ●使用面は中央が浅く凹む面が一面みられる ●使用面の一つは鋸い縁で自然縫面につらなる ●使用面以外は削面及び自然縫面	砂岩
図版72 88	B-4-C-4 側觀察用断面 — 灰黒色粘質土層	6.8(残存) 4.6 2.0	橢円形		●細長い礫の一部分 ●使用面は内平面と側面の一部にみられる ●使用面のうち一面のものは中央が浅く凹んでよく磨耗しており、若干光沢を帯びる ●それ以外の使用面は表面がやや磨耗している程度	砂岩
図版72 89	D-4 — 暗黃灰色砂質土層 (粘土まじり)	6.8 5.4(残存) 1.7	扁平な隅 丸長方形		●扁平な破片で両平面残存 ●使用面は内平面と短側面にみられる ●短側面の使用面は平坦でよく磨耗しており、一方の擦痕がみられやや光沢を帯びる ●内平面の使用面は自然縫面に比べやや磨耗する(手触れ)	砂岩

砥石(仕上)

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (cm)	長さ 幅 厚	断面	特徴	備考 (石材)
図版72 90	C-4 落ち込み214 灰黒色粘質土層	6.6(残存) 4.8(〃) 2.3(〃)	— — —	— — —	● 縫の破片 ● 使用面は自然縫面残存部にあり一部分のこころ ● 使用面は平坦で磨耗は比較的すんでいない	砂岩
図版72 91	D-4 — 黑色粘質土層 (上層)	6.9(残存) 4.3(〃) 1.6(〃)	— — —	— — —	● 縫のうすい破片 ● 残存部の平面のみ使用面 ● 使用面は中央が浅く凹み、斜め方向の擦痕がみられよく磨耗している	砂岩
図版72 92	D-4 — 白灰色砂層	8.3 2.9(残存) 1.9	— — —	平行四辺形	● 長い角柱状 ● 使用面は二面あり、一面は凹凸はあるがよく磨耗しており、一面は平坦で比較的磨耗している ● 使用面以外は全て削面だが、一側面のみエッジが磨耗しており、使用面の可能性あり	砂岩
図版73 93	C-3・C-4 間観察用断面	7.8(残存) 2.4 —	— — —	平行四辺形	● 両端を欠損した角柱状 ● 使用面は各四面あり、全て平坦面をもつ ● 使用面のうち一面はよく磨耗し、二面は比較的磨耗し、一面は未研磨の状況を残す	泥岩
図版73 94	E-7 — 灰黒色粘質土層 (木片多し)	6.6(残存) 1.9(〃) 3.8(〃)	— — —	— — —	● 縫の破片 ● 残存部自然縫面に一部使用面残る ● 使用面は一部残存し、削面の一部も含んで黒い煤が付着 ● 使用面はよく磨耗しており光沢を帯びる	砂岩
図版73 95	D-5 — 黑色粘質土層 (上層)	4.9 3.5 3.2	— — —	不整五角形	● 小さい縫の一部 ● 使用面は三面あり、それぞれ一部のみ残存 ● 使用面のうち一面は平坦でよく磨耗しており側縫寄りに幅3mm、深さ1mmの溝が通り一面は平坦で同様によく磨耗しており、一面は平坦だが他の二面に比べ磨耗がすんでいない	砂岩 玉抵石の可能性あり
図版73 96	E-4 — 黑色粘質土層 (下層)	4.6(残存) 4.0(〃) 2.0	— — —	台形	● 台形の板状 ● 使用面は二面あり、他は全て削面 ● 使用面のうち一面は平坦な面をもち、一面は中央が浅く凹む面で斜め方向の細い溝二条と斜め方向の後一条が片端部にみられる	砂岩
図版73 97	D-4 南側観察用断面	4.1 4.0 2.0	— — —	半円	● 小さな縫で一部欠損する ● 使用面は自然縫面にあり外彎しており、あまり磨耗は進んでいない	砂岩
図版73 98	E-7 溝24 暗黄灰色砂質土層	4.5 3.8 2.1	— — —	薄い台形	● やや扁平な不整の板状 ● 使用面は三面あり、中央が浅く凹む一面、側面の平坦な面一面、ひずんだ面の計三面 ● 使用面のうち正面のものは三分の二ほど若干黒く煤付着 ● 裏面及び残り二側面は削面で、裏面は一部黒く煤が付着	砂岩
図版73 99	D-3 土壤205 黑色粘質土層 (下層)	5.2(残存) 5.6(〃) 1.2(〃)	— — —	— — —	● 縫の薄い破片 ● 使用面は一部のみ残存し他は全て削面 ● 使用面は平坦でよく磨耗しており光沢を帯びる	砂岩
図版73 100	D-3・D-4 間観察用断面	4.2(残存) 5.6(〃) 1.3(〃)	— — —	— — —	● 縫の薄い破片 ● 一部残存する使用面をぞいて全て削面 ● 使用面は平坦でよく磨耗しており、斜め方向の擦痕がみられ若干光沢を帯びる	砂岩

砥石(仕上)

閲覧番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (mm)	長さ 幅 厚	断面	特徴	備考 (石材)
図版73 1 101	E-6 溝24 暗黄灰色砂質土層	3.8 2.8 1.8		三角形	<ul style="list-style-type: none"> 歪んだ三角錐状 使用面は二面 使用面のうち一面は平坦な面で、一面は平坦な面の中央に幅4mm、深さ0.8mmの溝通る 三角錐の底面にあたる使用面には円柱状の物を斜めに研磨した二段の凹みをもつ 	砂岩 玉砥石の可能性あり
図版73 1 102	D-4 南側觀察用断面 — 黑色粘質土層 (上層)	3.3(残存) 3.9(〃) 0.6(〃)		—	<ul style="list-style-type: none"> 疊の薄い破片 使用面は残存平面と一長側面の二面みられ、ともに一部のみ残存 平面の使用面は外彎しており、長側辺部につながるV字形の深い溝が長辺4条通る 長側面の使用面は平坦でよく磨耗している 	花崗岩

玉礫石

国版番号	出土地区分名 遺構名 層位名	法量 (cm)	長さ 幅 厚	断面	特徴	備考 (石材)
国版63 1	D-4 — 黑色粘質土層 (上層)	7.5(残存) 7.2 3.4 192.0	— — — —	—	<ul style="list-style-type: none"> 円錐 使用面は一面のみで残りは自然縁面と割面 使用面は自然縁面と通なり幅6mm、深さ2mmの深い溝が、幅8mm、深さ2mmの深い溝、幅3.5mm、深さ0.5mmの浅い溝がそれぞれ通る 石質は細かく、仕上用 	花崗質砂岩
国版63 2	E-7・E-8 F-8・E-8 間観察用断面 溝240 灰黒色粘質土層 (木片多し)	8.5 3.5 2.7(残存) 105.5	— — — —	—	<ul style="list-style-type: none"> 不整の角柱状 使用面は三面あり、他は全て割れ面 使用面のうち、一面は平坦面たが一面は幅8.5mm、深さ2mmの深い溝 残りの一面は幅6mm、深さ1mmの溝と割れたため半損した同様の溝をもつ 石質は硬く、仕上用 	花崗質砂岩
国版64 3	F-7・E-8 間観察用断面 — 黑色粘質土層 (上層)	6.5 6.3 3.2 93.5	— — — —	—	<ul style="list-style-type: none"> 扁平な三角柱状の塊の破片で一部欠損 使用面は各残存面にみられ計4面 使用面のうち一面は平坦で比較的磨耗しており、一面は両脇で一段下がって平坦面をなし、一面は原石面の中に幅9mm、深さ1.5mmの溝を有し、一面はごく一部のみ残存するが幅9mm、深さ2.5mmの溝を有する 石質は粗く、荒砥用 	花崗質砂岩
国版64 4	E-4 — 黑色粘質土層 (下層)	9.1 3.6 1.8 84.7	— — — —	—	<ul style="list-style-type: none"> 細長い扁平な形で割面なし 使用面は二平面にあり、一面は幅11mm、深さ2mmの縱方向の溝が通り、もう一面は浅い溝の痕跡がみられる 両長側面には打撃痕と一部平坦な使用面 石質は硬く、荒砥用 	花崗質砂岩
国版64 5	F-7 西側観察用断面 — 黑色粘質土層 (上層)	3.4(残存) 3.1(×) 2.6(×) 34.2	— — — —	—	<ul style="list-style-type: none"> 平面～側辺の破片である。 側辺は直線的、平面と側面の境は90度に近い鈍角でありやや丸みを帯びる、おそらく直方体を呈していたと思われる 平面には幅約7mmと約9mmで2条の線状の浅い凹みが平行して並んでおり、それらは側辺に対して平行である 平面及び破損面の一部は黒っぽく変色しており、火を受けた可能性がある 	花崗質砂岩
国版64 6	D-4 西側観察用断面 — 黑色粘質土層 (上層)	5.0 5.4 4.1 105.0	— — — —	—	<ul style="list-style-type: none"> 不整の三角柱状 使用面は三面と溝一条で残りは全て割面 使用面のうち一面は全体に浅く凹み鈍い棱が2本通り、一面は浅く凹む面、一面は平坦で部分的にごく細い溝が通る 割面の中に幅12mm、深さ3mmの深い溝が一部残存 石質は細かく、仕上用 	花崗質砂岩
国版64 7	D-5 — 黑色粘質土層 (下層)	4.3 3.6(残存) 3.0 53.7	— — — —	—	<ul style="list-style-type: none"> ほぼ六面体を呈す 使用面は四面あり、残りは割面及び自然縁面 使用面のうち二面は若干浅く凹む面。一面は浅く凹み斜め方向の幅2.5mm、深さ0.5mmの溝とその両脇に段が2本みられ、一面は幅9mm深さ2mmの溝が十字にみられる 石質は細かく、仕上用 	花崗質砂岩

玉抵石

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (m)	長さ 幅 厚	断面	特徴	備考 (石材)
図版64 8	C-4 — 黒色粘質土層 (上層)	4.1(残存) 3.9(×) 2.3(×) 37.3		—	<ul style="list-style-type: none"> 縁の破片 使用面は二面あり、他は全て削面 使用面のうち平面のものには幅10.5mm、深さ2.5mmの溝が通っており、あと短側面の残存部にも幅6mm、深さ0.5mmの浅い溝の一部がみられる 石質はやや細かく、仕上用 	石英質砂岩
図版6・64 9	C-5 — 暗黄灰色砂質土層 (粘土まじり)	8.0(残存) 3.4 1.7 59.2		不整形	<ul style="list-style-type: none"> 扁平な不整形の筋抵石 A面に(幅4mm、深さ2mm)(幅7mm、深さ4mm)の溝が浅く丸いものとV字形の2本の長い凹溝を並列している 四面共表面がなめらかな部分が多い 左側面においてくぼみ状の線が何ヶ所か認められる 石質はややもろい 	膠泥片岩
図版6・64 10	C-5 — 暗黄灰色砂質土層 (粘土まじり)	3.8(残存) 3.3(×) 1.4 20.7		台形	<ul style="list-style-type: none"> 一部欠損しており全体の型は不明であるが長方形のものと思われる A面に幅6.5mm、深さ2.5mmのU字状の溝を有する B面にも幅5mm、深さ1mmの浅い溝を有する 各面に研磨痕が明確に認められる 	頁岩

第9節 台 石（図版26・79～81－1～9）

本遺跡出土の台石は9点である。使用石材については、第18表台石使用石材割合表のとおりである。

(1) は、最大長15.3cm、最大幅11.4cm、最大厚6.5cmを測り、断面は台形に近い不整形な四角形を呈するものである。一面には直徑約2cm大の敲打痕が5箇所、それよりも小さな敲打痕が数箇所みられる。反対面は、使用により大きく内彎した凹面を呈しており、擦り痕の方向は彎曲した凹面に対して直交している。砥石としても使用されていたと考えられる。

(2) は、直徑約18cm位の碁石状を呈したもの2分の1欠損のものである。一面は、平坦であるが数箇所の敲打痕が認められる。反対面は、敲打により全体が中心に向って凹んでいる。側辺は、平滑であるが、敲打により全体を丸く仕上げている。

(3) は、直方体を呈するものの欠損したものである。使用両面には、数箇所の敲打痕が認められ、浅い凹みを残している。

(4) は、平面形は扁平な橢円形を呈している。一面には、深さ1cm前後の大小の凹みが多数みられ、かなり使用されていたものと思われる。反対面はゆるやかなカーブをもった凹面を呈しており、砥石として使用されていたと考えられる。凹面には、多くの敲打痕が認められる。側辺は、打ち欠いて全体の形を整えている。

(5) は、扁平な円板状を呈している。一面中央付近に浅い敲打痕と乱方向の線状痕がみられる。二次的に火にあたっており煤の付着が認められる。反対面は自然縫面を残している。

(6) は、円錐を使用したものの欠損品である。一面に直徑2cm大の敲打による凹みがみられ、反対面(底面)は外彎する自然縫面である。

(7) は、現状は断面が角の丸い三角形を呈した欠損品である。3面の内、2面は平滑であり敲打による凹みが認められ、他の1面は打ち欠きによる剥離面が残っている。

(8) は、平面形が扁平な台形状に整えられたものである。一面は使用によりゆるやかなカーブをもった凹面をなし、凹面中央付近に敲打痕が認められる。反対面は、自然縫面を残している。側辺は打ち欠いて形を整えており、側辺の2面は二次的に火を受けて煤の付着が認められる。

(9) は、平面形が不整形な約8cm角の四角形で、断面は扁平な橢円形を呈している。一面は平滑な面に多くの敲打痕が認められ、反対面の一部には擦痕が認められるが、全体の器表面は荒れている。手に持って使用するのに適当な大きさのものである。

第18表 台石使用石材割合表

種類	点数	%
石英質砂岩	5	55.6
砂岩	2	22.2
花崗質砂岩	1	11.1
黒雲母花崗岩	1	11.1
計	9	100

台石

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (m)	長さ 幅厚	断面	特徴	備考 (石材)
図版26-79 1 1	E-6 —— 暗黃灰色砂質土層 (粘土まじり)	15.3 11.4 6.5	不整四角形		● A面は敲打痕とともに研磨が施されている ● B面は磨滅により、かなりの凹面となるが、敲打痕は残っていない	石英質砂岩
図版79 1 2	D-5 —— 黑色粘質土層 (上層)	17.5(残存) 9.7(〃) 7.6(〃)	横長の稍円形		● 部厚い幕石状を呈すると思われるが、2分の1欠損 ● A面～側面～B面とカーブを描いている ● A面は平滑でフラットな面だが、打撃による浅い凹みを所々に有する ● 側面も平滑だが、打撃による浅い凹みを所々に有する ● 表面は全体的に磨滅している	黒雲母花崗岩
図版80 1 3	E-6 —— 暗黒色砂質土層	12.0(残存) 9.9(〃) 7.4(〃)	長方形		● 立方体を呈すると思われるものの角の破片である ● A面は半分はフラットな面と思われるが、途中で屈曲しながら傾斜する ● B面、側面はそれぞれフラットな面を呈する ● 各面の塊は少し丸みをおびる ● A面各所に打撃による浅い凹みを有する。ただ1ヶ所、深さ5mmに達する凹みがある ● B面にも数ヶ所打撃による浅い凹みを所々に有する	砥石の再利用の可能性有 石英質砂岩
図版26-80 1 4	D-5 溝19 暗黃灰色砂層	12.3 8.5 4.6	不整な長方形		● 不整形だが、もとは丸みをもった長方形だったと思われる ● A面では深さ1cm以下の大小の穴がみられ、表面は荒れている ● B面は全体を平滑に磨いており、上半分に軽い稜をなし、深さ3mm以下の大小の穴が認められ、両面とも叩き痕かと思われる ● 側面においても一条の溝がみられ、研磨によるものかもしれない ● B面、側面の溝とも砥石の役割も担っていたと思われる	石英質砂岩
図版26-80 1 5	E-5 —— 黑色粘質土層 (下層)	10.4 10.3 1.0	——		● 全体は扁平な板状を呈す ● 片面は自然縦面が残り、片面中央部に敲打痕と不整方向の磨滅状痕がみられる ● 火にあつたのか黒く煤けた部分がある	石英質砂岩
図版80 1 6	E-5・E-6 問観察用断面 —— 灰黒色砂質土層 (砂まじり)	11.8(残存) 7.9(〃) 4.9(〃)	——		● 内縫の半分欠損 ● 側面部に一部打撃痕がみられる ● 半分欠損のため中央部は不明だが残存部に一部打撃痕がみられる ● 底面は調整なしの自然縦面	石英質砂岩

台石

図版番号	出土地区名 遺構名 層位名	法量 (m)	長さ 幅厚	断面	特徴	備考 (石材)
図版81 1 7	D-9 — 黒灰色粘質土層	7.9(残存) 6.4(〃) 4.4(〃)	角の丸い 三角形		<ul style="list-style-type: none"> 側・平面が三面からなり、最も広い面をA面とする。他の二面のうち、一面は欠損しており、残りの面をB面とする 両端を欠損 A・B面とも平滑である 各面の境は丸みをおびている A面中央に打撃による凹みがある。又、全体が黒く変色しており、火気を受けた可能性 B面および欠損した面には、打ち欠きによる剥離面が存在する A・B面境に細かな打撃痕が數多くある 	石英質砂岩
図版81 8	C-3 — 明灰褐色砂質土層	14.6(残存) 13.4 5.2	長方形		<ul style="list-style-type: none"> 扁平な四角い礫で裏面は一部自然縁面残存 自然縁面、平面部は中央が5mm凹んでおり、中央部には打撃痕が残る 側面にも一部打撃痕がみられ、黒く煤が付着 	砂岩
図版81 1 9	E-5 溝238 黒灰色粘質土層	8.3 8.2 3.4	扁平な梢 円形		<ul style="list-style-type: none"> 不整な四角形を呈する 側面のうち一方は明確に面をなさず、他方はフラットな面である 表面は平滑である A面は、やや丸みをもち、中央にやや深い打撃痕が集中している B面は、やや起伏を有し、全体に小さな打撃痕を有する 片側面(A面で右)には、やや深い打撃痕が1つと、研磨により生じた溝状の凹み(縫)がある 片側面(A面で左)には、やや深い打撃痕が1つある 片側面(A面で前)には、研磨により生じた溝状の凹みがある A面の右角、B面の左角に剥離を有する 	砂岩

第10節 凹 石（図版81-1）

本遺跡から出土している凹石は2点である。

(1) は、凹石の半成品である。全体の形は椭円形を呈し、両面に直径約25mm、深さ約5mm、直径約35mm、深さ約8mmの敲打による凹みがそれぞれ認められる。石材は石英質砂岩である。

他の1点は、敲石に転用されている。（図版25・76-18・第4章工具第7節敲石の項参照）

凹石

図版番号	出土地名 遺構名 層位名	法量 (mm)	長さ 幅 厚	断 面	特 微	備 考 (石 材)
図版81 1 1	D-3 — 暗黄灰色砂質土 層 (粘土まじり)	6.4(残存) 6.7(〃) 6.1	—		● 椭円形と思われる破片 ● 両面に敲打による凹みが認められる ● 先端に弱い敲打痕あり	石英質砂岩

第5章 漁 撈 具

本遺跡出土の漁撈具としては、石錘がある。

第1節 石 錘 (図版78-1~5)

本遺跡からの石錘の出土は5点である。

出土している石錘は、長さ10.1~6.8cm、幅6.3~3.9cm、厚さ3.3~1.6cm、重さ176.0~48.0gを測る。

(1) は、部厚い長方形態で断面不整形を呈するものである。長さ10.1cm、幅4.7cm、厚さ3.3cm、重さ17.6gを測り、長側面の一面には横方向に2ヶ所の敲打による浅い凹みを留め、紐擦れ痕もみられる。他の長側面には縦方向に浅い溝状の凹みもみられる。(2~5) は扁平な梢円形の断面を呈し、(2) の一側辺には、敲打により抉りを入れ、他側辺は自然の凹みを利用して紐掛けとしている。(3) は周縁を打ち欠いて形を整え、周縁には十字の位置(長径と短径方向)に紐掛けの打ち欠きを残している。(4) は、短径の両周縁を打ち欠き、1ヶ所ずつの紐掛け用の凹みが認められる。(5) は平面な扁平な不整形を呈するが一側辺は打ち欠きにより紐掛けをつくり、他側辺は浅いU字形の凹みが認められる。

第19表 石錘使用石材割合表

種類	点数	%
黒雲母片岩	1	20.0
花崗質砂岩	3	60.0
砂岩	1	20.0
計	5	100

石錠

図版番号	出土地名 遺構名 層位名	法量 (m) (g)	長さ (m) (g)	断面	特徴	備考 (石材)
図版78 1 1	D-5 南側觀察用断面 — 青灰色砂層	10.1 4.7 3.3 176.0		不整形	● 部厚い長方形を呈する ● 対辺する側辺に粗擦れによる浅い凹みを留め、表面にも敲打によって凹みをつくり、組掛けとする	黒雲母片岩
図版78 1 2	D-5 溝108 灰黒色粘質土層 (紗まじり)	8.5 6.3 1.8 140.0		扁平な長方形	● 扁平な不整長方形で屈曲している ● A面、左側辺には敲打によって抉りを入れ、右側辺には自然の凹みが認められ組掛けとする	砂岩
図版78 3	D-3・D-4 間觀察用断面 — 黒色粘質土層 (下層)	7.2 5.0 1.7 97.1		扁平な梢円形	● 扁平 ● 梢円形を呈する ● 周縁には十字の位置(長軸と短軸)に計4ヶ所の打ち欠きがある	花崗質砂岩
図版78 4	D-7, E-7 間觀察用断面 — 灰黒色粘質土層	7.3 4.4 1.9 76.8		扁平な梢円形	● 扁平 ● 梢円形を呈する ● 短軸方向に打ち欠きが計2ヶ所ある	花崗質砂岩
図版78 5	E-4 — 明黄灰色粘質土層	6.8 3.9 1.6 48.0		扁平な不整形	● 扁平な不整形を呈する ● 両面および両側辺の上半に粗擦れによる浅い凹みを認める	花崗質砂岩

第6章 装身具

本遺跡出土の装身具としては、勾玉と管玉が出土している。

第1節 勾玉（図版6・82-1）

勾玉は1点出土しており硬玉（ヒスイ）製のもので、淡緑色をしている。長さ3.3cm、幅2.0cm、厚さ0.8cm、重さ10.6gを測り、全体は幅広く扁平な形を呈している。背部は半月形の弧状を呈し、腹部には2つのU字形の浅い切り込みの凹みと1つの突起を有しており、頭部には背部寄りに一孔を穿っている。孔は両面からの穿孔である。

本遺跡出土の勾玉は、所謂獸形勾玉あるいは櫛形勾玉と呼ばれるもので、構文的要素の強い勾玉であり、その分布としては北部九州が中心で、他に山口県、石川県にそれぞれ出土例がある。

第2節 管玉（図版6・82-2）

碧玉製のものが1点出土している。（2）は、長さ20mm、直径8.2mm、孔径2.5mmと2.9mm、重さ2.2gを測る。孔は、両面からの穿孔で、一方から約17mm、他方から約3mm穿っている。

本遺跡からは、管玉の製品の他に未製品と碧石の原石（石核）もそれぞれ2点ずつ出土している（図版82-3～5）。

（3）は、一辺6.0～8.0mm、長さ23.5mmを測り、管玉の原形となる四角柱状の碧玉の形割品である。この形割品の側面及び端面の稜線上には幅1～2mmの浅いU字形の溝痕を有し、施溝打削法による横長剥片である。一側面の半分は丁寧な研磨がみられ、その面の半分は押圧剥離による調整が施されている。他の三側面は切断したままの状態である。

（4）は、淡緑色をした碧玉で（3）と同様に形割未製品である。形割りのための施溝痕が縦と横にそれぞれ1条認められる。四側面とも切断したままの状態であり、その内の二側面は大きく剥離している。

（5）は、管玉原石にあたる石核で淡緑色の碧玉で大剥離面を残しているものであり、他に数点剥片も出土している。

その他、第4章第2節砥石の項で述べたごとく管玉未製品を研磨するために用いたと考えられる擦り痕の溝を残している玉砥石類が16点出土していることや、石鋸として使用された紅麻片岩が多数出土していることなどから、本遺跡での玉作り遺構は未確認であるが小規模ながら管玉の製作が行われていたことが考えられる。しかし、現時点では玉作りに必要な原石・形割未製品・玉砥石・石鋸に使用された紅麻片岩等の工具類が出土しているもののその数量は多くなく、また製作遺構（工房）が検出されていないことなどから、今後解明していくなければならない課題が多く残されている。周辺では、守口市八雲遺跡において弥生時代中期初頭の玉作り工房址と推測される堅穴式住居址が検出されたことが報告されている。

註

（1）森貞次郎「弥生勾玉考」『鏡山猛先生古稀記念古文化論叢』1980

（2）大阪府教育委員会「八雲遺跡現地説明会資料」1987

西口陽一・浜田延充・津田美智子「守口市八雲遺跡の調査」大阪府下埋蔵文化財研究会（16回）資料 1987

第7章 その他の

第1節 用途不明石器（図版25・82-5～9）

いずれの石製品のタイプにも属さないけれども、明らかに人为的加工が加えられさらに使用痕の認められる石器が、本遺跡からは20点以上出土している。この内1点について図化し、5点について写真掲載している。

(5)は、現存長10.4cm、最大幅2.4cm、最大厚0.7cm、重さ34.9gを測る粘板岩製の石器である。欠損している辺以外の三辺を擦り切りにより切断した溝痕が残り、長方形を呈している。一辺に3ヶ所の半円形の抉りがあり、抉りの部分は粗い研磨を施すが研磨のおよばない剥離面が残り、裏面には自然面が残っている。(6)は、中央断面が長方形を呈し、長さ2.0cm、幅2.2cm、厚さ0.9cm、重さ5.5gを測る正方形態で、一辺に刃部をつくり出し、他の三辺は割れ面である。刃部は両刃ぎみの片刃で、両面よりの調整剥離が加えられており、刃縁には使用痕が認められる。石材は、他地域産（金山産）のサスカイトである。(7)は、長さ3.7cm、幅は両端部が1.2cm、中央部が0.9cm、厚さ0.5cm、重さ1.8gを測り、中央断面は扁平な菱形で両側辺が中央で一旦すぼまる不整長方形を呈する。両面とも大剥離面が残っているが、一面では全体に研磨が施されている。石材はサスカイトである。(8)は、欠損のため扇形を呈しており、現存最大長9.0cm、最大幅4.6cm、厚さ0.7cm、重さ34.8gを測る粘板岩製のものである。3孔を両側より穿孔しており、一面では貫通している孔に接して未貫通の穿孔痕が2ヶ所認められる。両面とも研磨は施されておらず、弧状に残存している側辺の一部に研磨が残されている。石庖丁の破片とも考えられる。先の『高宮八丁遺跡』の概報では石庖丁の項で報告している。(9)は、現存長5.8cm、幅1.5cm、厚さ1.0cm、重さ15.7gを測るサスカイト製である。一端を欠損しており、側辺は欠損箇所から一旦細くすぼまり、もう一方の端部に向ってゆるやかに広くなり、端部から約2cmのところに刺状にわずかに突出して段をもって、丸味をもつた端部に至っている。両面とも両側辺から丁寧な調整剥離が施されている。丸味をもつ端部先端には、一部磨滅が認められる。

その他、長さ4.1cm、幅3.1cm、厚さ1.0cm、重さ19.3gを測り涙滴形を呈し、その側辺の約半分を平面に対して直に打ち欠いて円板形にした、断面横長の橢円形を呈する砂岩系の石製品や、方形刃器として取り扱っても良い一部研磨が施されたサスカイト製の石製品などがある。

今回用途不明石製品として分類した石製品（石器）は、欠損しているものや、欠損した元の石器の一部を再利用したものと考えられる石製品（石器）であり、細かな検討は行い得なく、石器に分類することはできなかったけれども今後の検討課題として考えていきたい。

註

(1) 寝屋川市教育委員会『高宮八丁遺跡 寝屋川郵便局舎建設に伴う発掘調査概要報告書』1987

第2節 刃 器（図版83—1～26）

本遺跡出土の刃器は240点+ α である。

本遺跡において「刃器」と呼称するものは、従来剥片石器、不定形刃器、刃器等さまざまな名称で呼ばれている打製石器で、既成の石器に分類できないものを括して扱うこととする。整理作業は現在進行中であり、この種の石器の数量は今後増加するものと考えられ、今後細かく検討する必要があると思われる。

本遺跡出土の刃器は、すべてサスカイトの横長及び縦長剥片を利用しておらず、調整加工を加えずに利用したもの、一辺あるいは二辺以上（四辺に調整を加え方形を呈するものもみられる）に調整剥離による刃部をつくり出して使用したものがみられ、形状は橢円形、長方形、台形、四角形、円形、半刀形、三角形等があり一定せず、使用する剥片によって左右されている。一部体部に研磨が施されているものもみられる。ほとんどの刃器には両面あるいは片面に大剥離面が残されており、中には両面、片面、側面、端面に自然縫面を残すものもある。

刃部の形状は、直線状のもの、外彎するもの、やや内彎するもの等がみられ、刃部の形態により細分も可能である。刃部における磨滅痕は、観察できるものもあるけれども磨滅の方向については不明である。

この種の刃器の出土数は、現時点では240点であるけれども、今後整理の進行に伴い数量は増加し、本遺跡出土の石器類の中で最大の数量となると考えられる。

平面形及び刃部の形状は、大小さまざまなものがみられることから、その使用目的、用途、対象物の別、手に持って直接使用するのか、あるいは柄を着柄して使用するのか等の機能の点などについても今後検討を加えていく必要のある石器である。

高宮八丁遺跡発掘調査の成果から

瀬川芳則

高宮八丁遺跡の北東方向への広がりに関する考古学的知見のひとつは、昭和43年頃におこなわれた府立寝屋川高等学校敷地内の体育館建設に伴う出土遺物である。それは高宮八丁遺跡の発掘調査地から北北東約250メートルの地点で、地表下1メートル以上に広がる小礫が混入した砂の層があり、その中から数点の須恵器が採集されたものである。発見当時は第二阪和国道内遺跡調査会へ出向中であり、本校に復帰した昭和45年頃、同僚の岡校定時制課程教諭横井邦彦氏（社会科歴史）から、採集遺物を提示しての出土状況の説明を受けた。須恵器はとりあげたままの状態で水洗いせずに、新聞紙で包んで保管されており、砂粒がその内外に付着した様子からも、横井教諭の説明が正確であることがよくわかったことを記憶している。その後も寝屋川高等学校では、給食場や校舎増築がおこなわれたが、遺物・遺構は発見されていない。

唯一の発見遺物であるところの須恵器数点の破片は、河川による堆積土中に含まれていたもので、古墳時代後半頃に流出堆積したものである。高宮八丁遺跡の層序でみると、第Ⅲ層白橙色砂質土層～Ⅵ層淡灰色砂層（砂粒大）のいずれかの形成時に伴うものであろう。ともあれ高宮八丁遺跡で検出された弥生集落は、その北々東及び北東に位置する寝屋川高等学校敷地には及んでいない。

高宮八丁弥生遺跡は、寝屋川高等学校敷地で認められた堆積状況と同様に、基本層序で4層からなる砂層または砂質土層に覆われていた。第Ⅲ層上面には中世以降の耕作痕などの遺構が検出されており、これらの河川堆積層が高宮八丁弥生集落移動後の弥生中期後葉以後、中世までの間の河川氾濫によるものであることがわかる。

調査地の一帯を覆うこれらの堆積は、寝屋川水系によって形成されたものであろう。この川の源流は星田山にあり、伊豆郡南部の水を集め寝屋川を西へくだり、北谷川・宇谷川・打上川・宮ノ谷川・寺川などを合流して丘陵地の間を通り秦の旧集落の北、秦山の南をすぎると見とおしの良い平野部へでるが、遠い昔にはこの辺りから南西方行に流路をとっていたものであろう。そして高宮八丁弥生集落が、この水系の生みだした微高地で営まれはじめた頃には、遺跡調査地の西約250メートル付近が寝屋川の左岸をなしていたものと思われ、寝屋川市立中央小学校・寝屋川高等学校の西で地形がさがり、その約550メートルに天井川となつた慶長五年の川達工事以来の寝屋川が南流している。それはともあれ高宮八丁弥生遺跡が、弥生前期中葉という早い時期に、寝屋川河口に近い左岸の安定した微高地に発見されたことの意義は大きい。

弥生中期中葉までおそらく200年以上も営まれたこの集落は、その間に大きな氾濫の被害を受けておらず、その消滅の原因も河川氾濫によるものではない。また弥生遺構が検出された遺構面は南西方へゆるい傾斜で低くなり、遺構はO.P.約1.8メートルの低地に立地するなど、堀山彦太郎・市原実両氏の復原する河内潟に南面する潟畔の集落遺跡であり、当時の寝屋川が河内潟に注ぐ鴨北に出現した最初の弥生遺跡として位置づけることができるものである。また溝内出土の木製品の中には、両端に水かきのある櫛状木製品が出土して、潟湖の足ともいべき船が軽量なカヌー状のものであったことを示唆した。

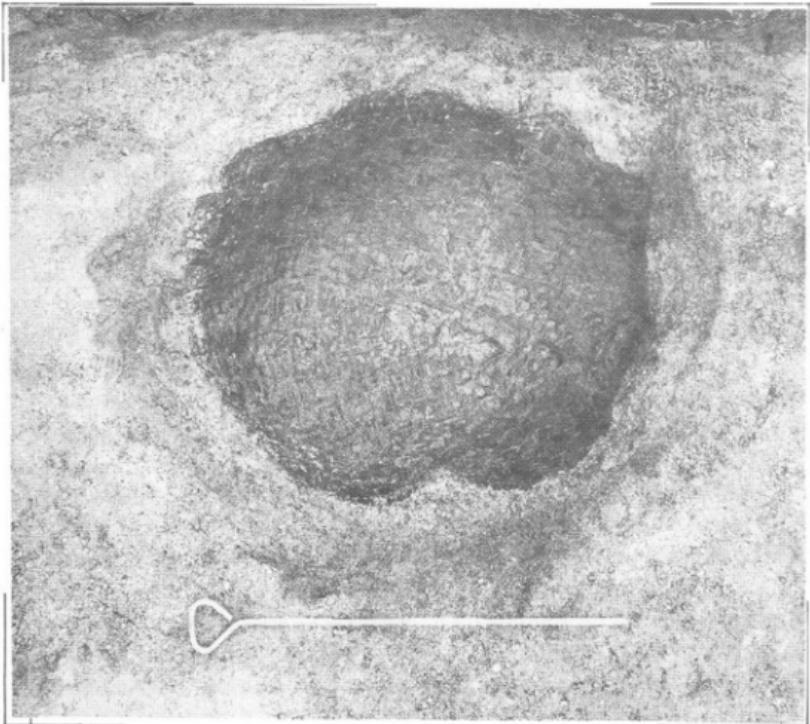
溝内出土の大量の木製品は、鍔・鋤などの農耕具、漁撈用のヤス、紡織具、弓・矢柄、石斧の柄、鉢・高杯・匙、杭など多岐にわたるが、それらの中には精巧に製作されていながら他の遺跡に出土例

かなく、直ちにはその用途が推考できないものが含まれている。また溝240では溝底を深さ約50センチ、幅約10メートルにわたって掘り込んだ中に、木製品とその未製品が多く出土し、水中の貯蔵場となっていた。この溝内貯木施設は弥生前期中葉～後葉に利用したものであって、弥生時代における木製品の加工・製作に関する技術史上の重要な資料である。

溝240の溝内貯木遺構と同時期の遺構に、二ヵ所のドングリ貯蔵穴がある。直径約90センチ、深さ約50センチのD-3区貯蔵穴では、底に大きなカゴ状の編物を敷いた上に、多量のクスギの実を貯蔵した状態が検出され、直径約120センチ、深さ約50センチのE-5区貯蔵穴は少量のクスギの実を残すのみで、編物も発見されていない。カゴごと引きあげたものであろう。クスギはドングリ類の中でもっともタンニンの多い実種である。保存する場合、採取後の日数が増すとタンニンを抜くことがいっそう難しくなる。したがって採取後直ちに、このような湧水のある貯蔵穴に保存することは、これを食用にするうえで極めて合理的であって、常時湧水が認められる低湿地に設けた井戸状の貯蔵穴で、クスギの実のあく（タンニン）抜きと保存という二つの機能を同時に果したこの遺構は、今後弥生時代食物史を考察するうえからも注目していきたい。とともに今回の限られた調査地で複数のドングリ貯蔵穴を検出していることは、当時においてクスギが重要な保存食料のひとつであったことをも考古学的に示唆したものである。

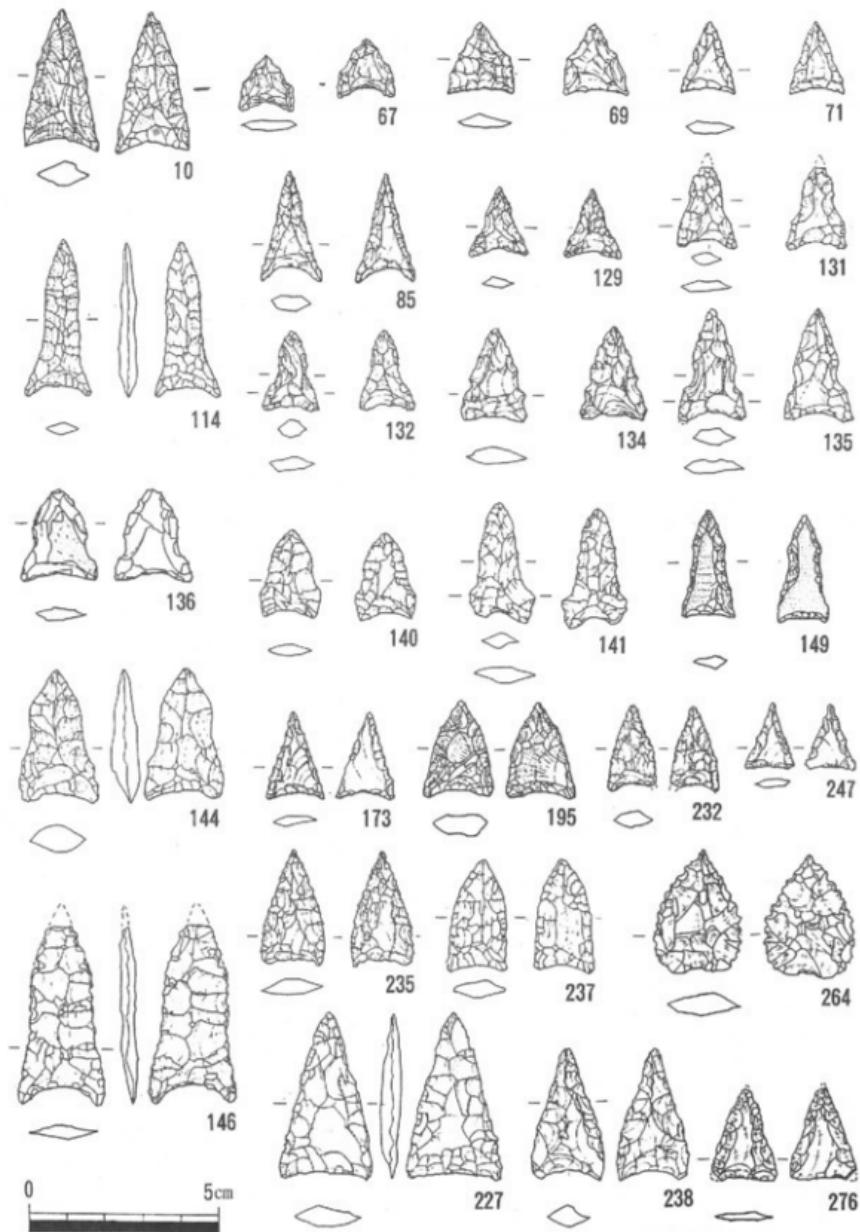
高宮八丁弥生集落の消滅は出土土器から判断して弥生中期中葉とみられるが、その盛時というか出土遺物は主として前期～中期前葉に偏っている。畿内に原石産地がないヒスイ製勾玉を所有し、木器・石器の加工・製作をおこなっていた鴻北を代表する大集落は、洪水の被害によらずこの場所での居住をやめている。この点は当時における淀川水系弥生社会の動向として、注目すべきことである。この遺跡の場合、東約1キロに太秦の丘陵があり、比高45メートル前後の丘陵頂上部の一帯に武器石器類の散布が多く認められた太秦遺跡が、河内（大阪）で最初に出現した弥生系高地性集落遺跡として存在している。既に宅地化を含む早い時期以来の開発等によって太秦遺跡は、大規模な高地性集落といわれつつほぼ失われてしまった状態であるが、学界では周知され注目されている。この太秦遺跡出現の時期が弥生中期前半であり、中期前葉（第Ⅱ様式）のカメを含む中期の土器破片が採集されている。これが高宮八丁遺跡に連動する高地性集落であることは、地理的にもじゅうぶんに考えられる。中期前葉に有事の際の逃城的・見晴し場性格をもつ場所として營まれていたものが、中期後半には高宮八丁のひと人が大舉移住するに至った可能性が強い。これに類似の例が、枚方市交北城ノ山遺跡と田ノ口山遺跡との関係で、中期後半に交北城ノ山の弥生人は集落をそっくり丘陵上の田ノ口上へ移動させている。少くともこの頃の淀川水系には、水田経営に不利な丘陵上に集落を移してしまうような動きが確実にあったことが、高宮八丁遺跡の調査によりいっそう明白になってきたといえよう。

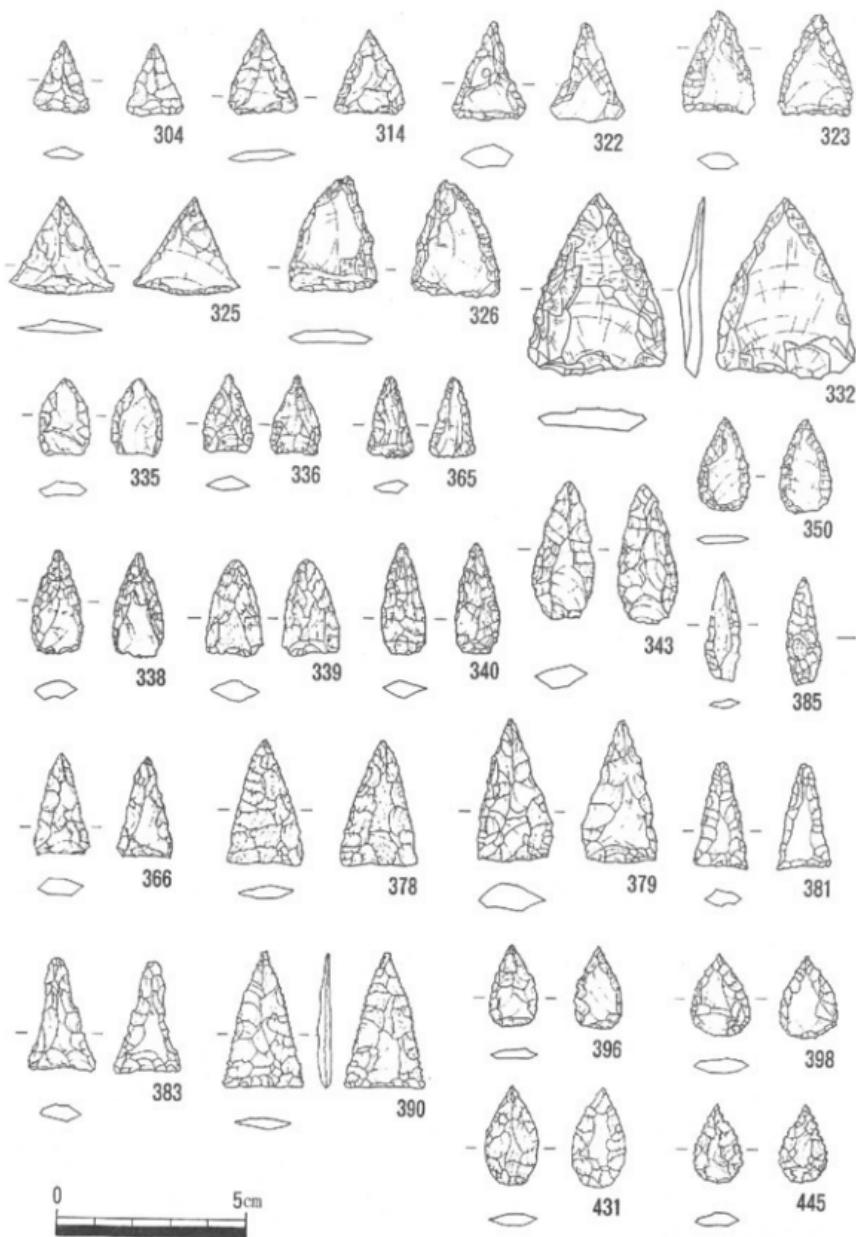
当遺跡については、現在継続的に検討・整理中であり、以上はとりあえず発掘調査の成果の一部から二・三を述べたものである。

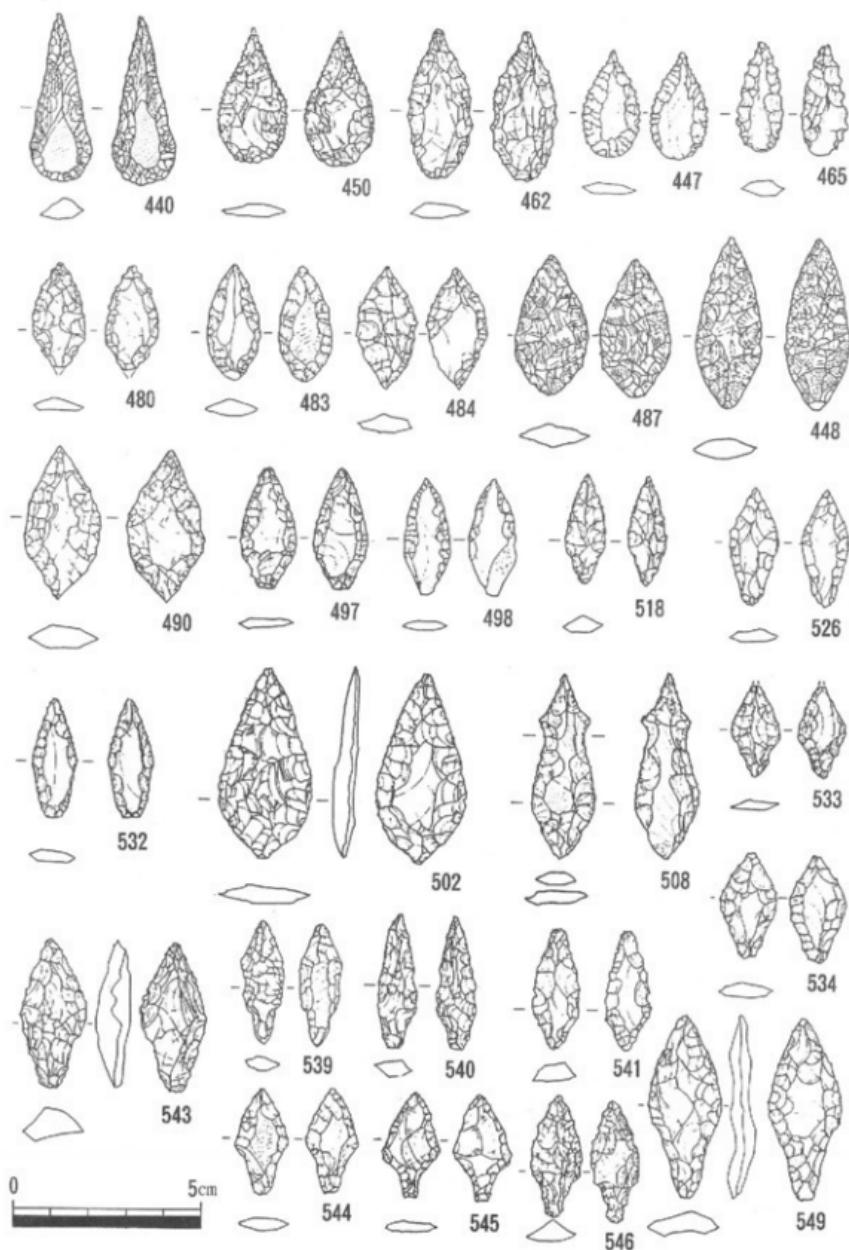


挿図3 D-3地区検出のドングリの貯蔵穴

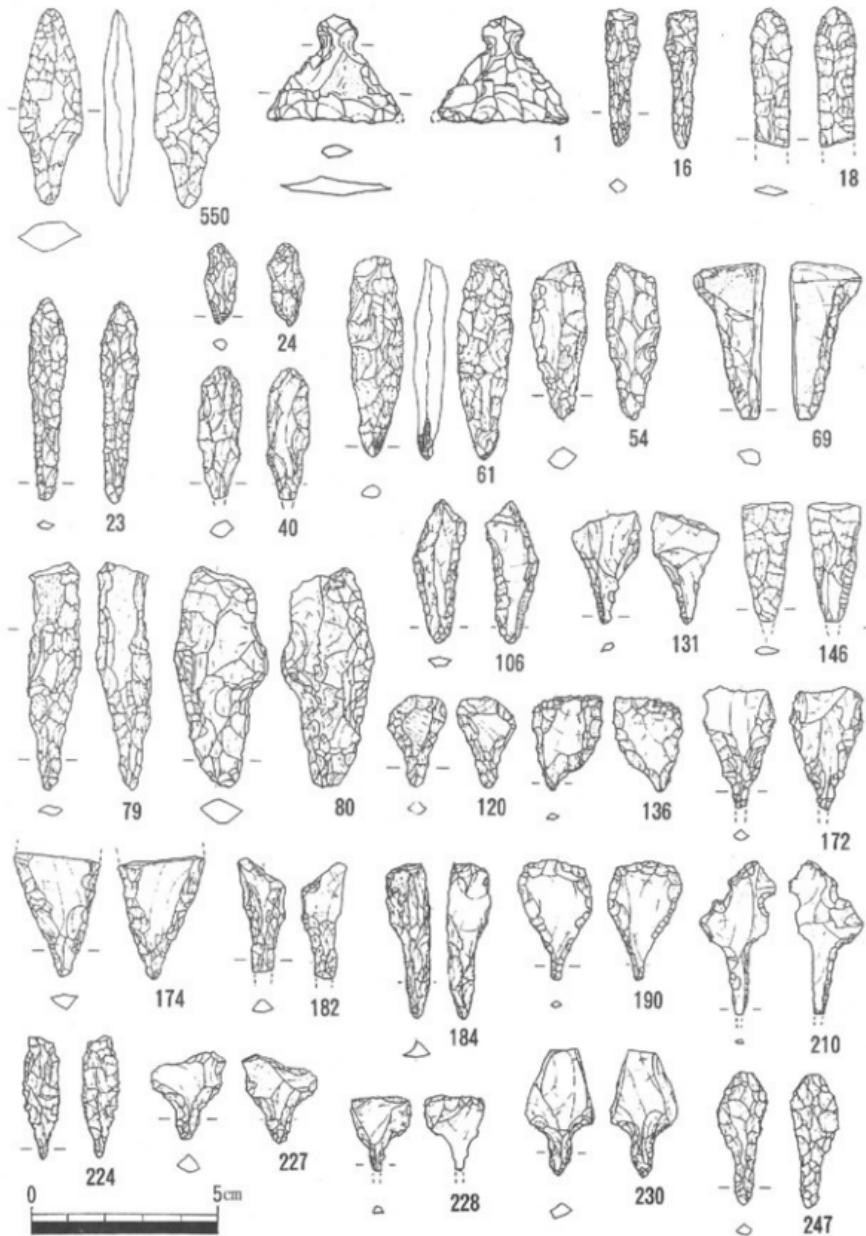
図 版

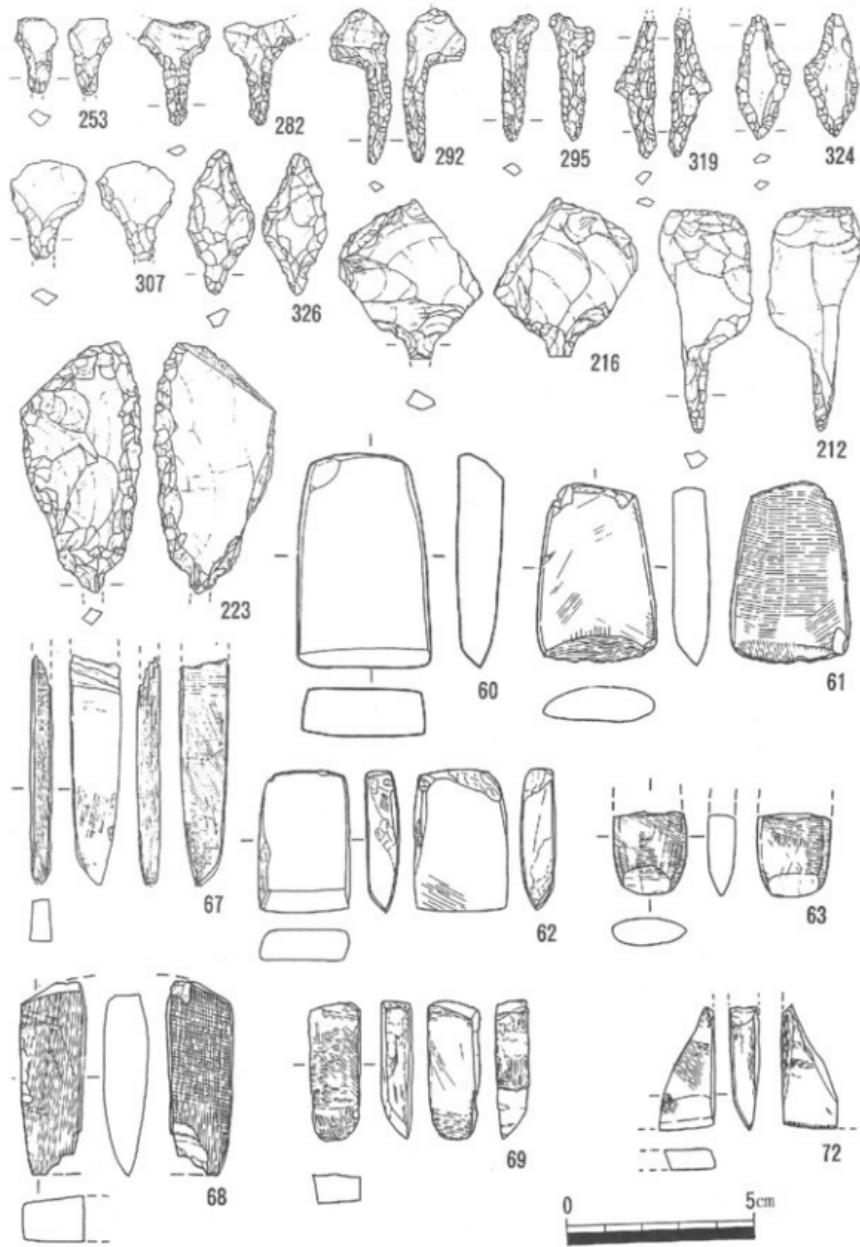




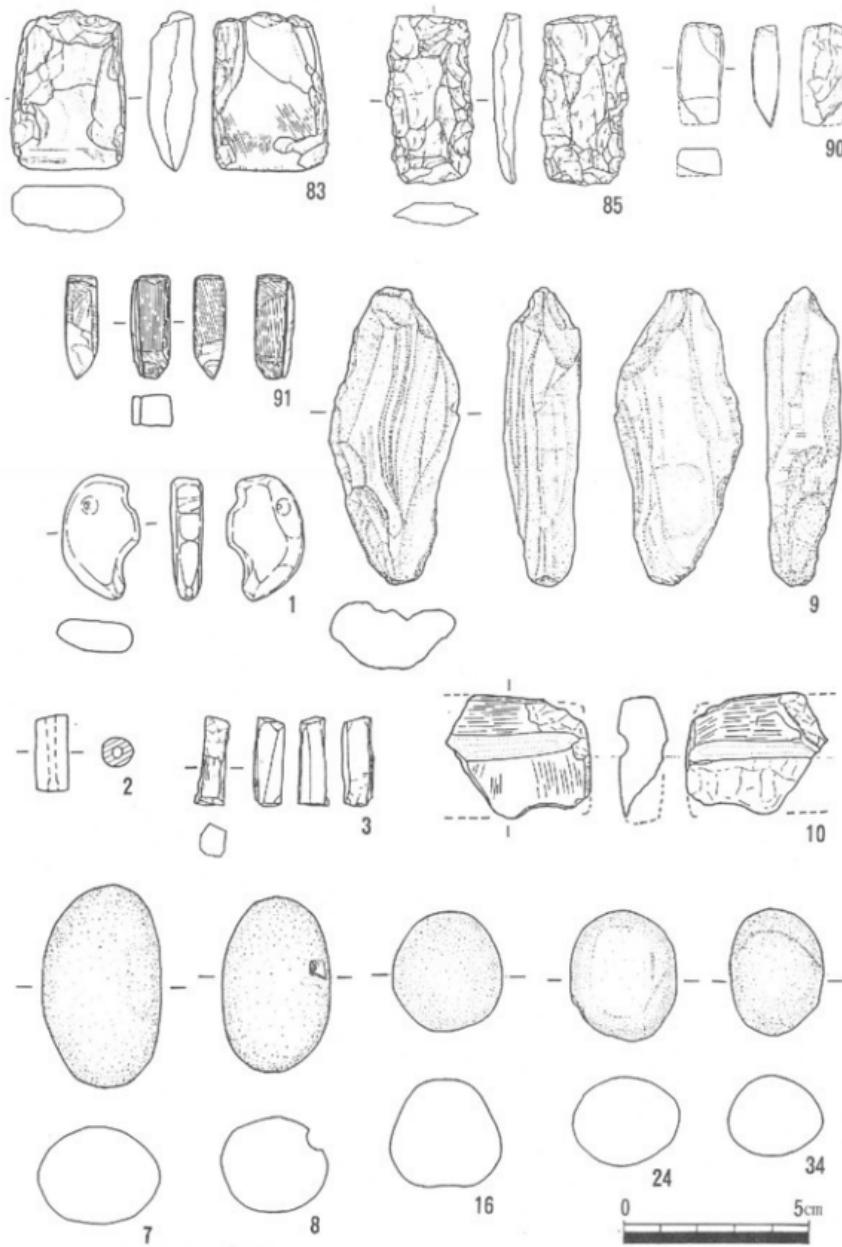


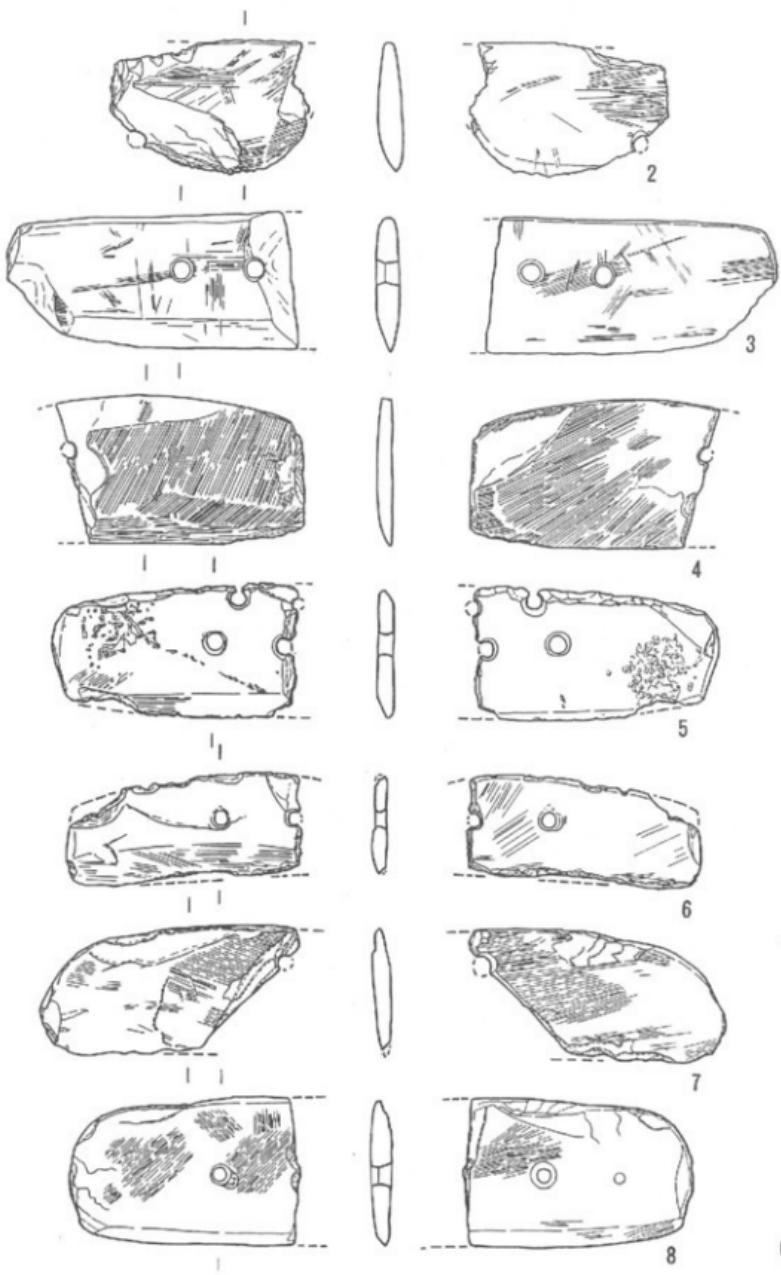
圖版 4 石鑽、石匙、石錐

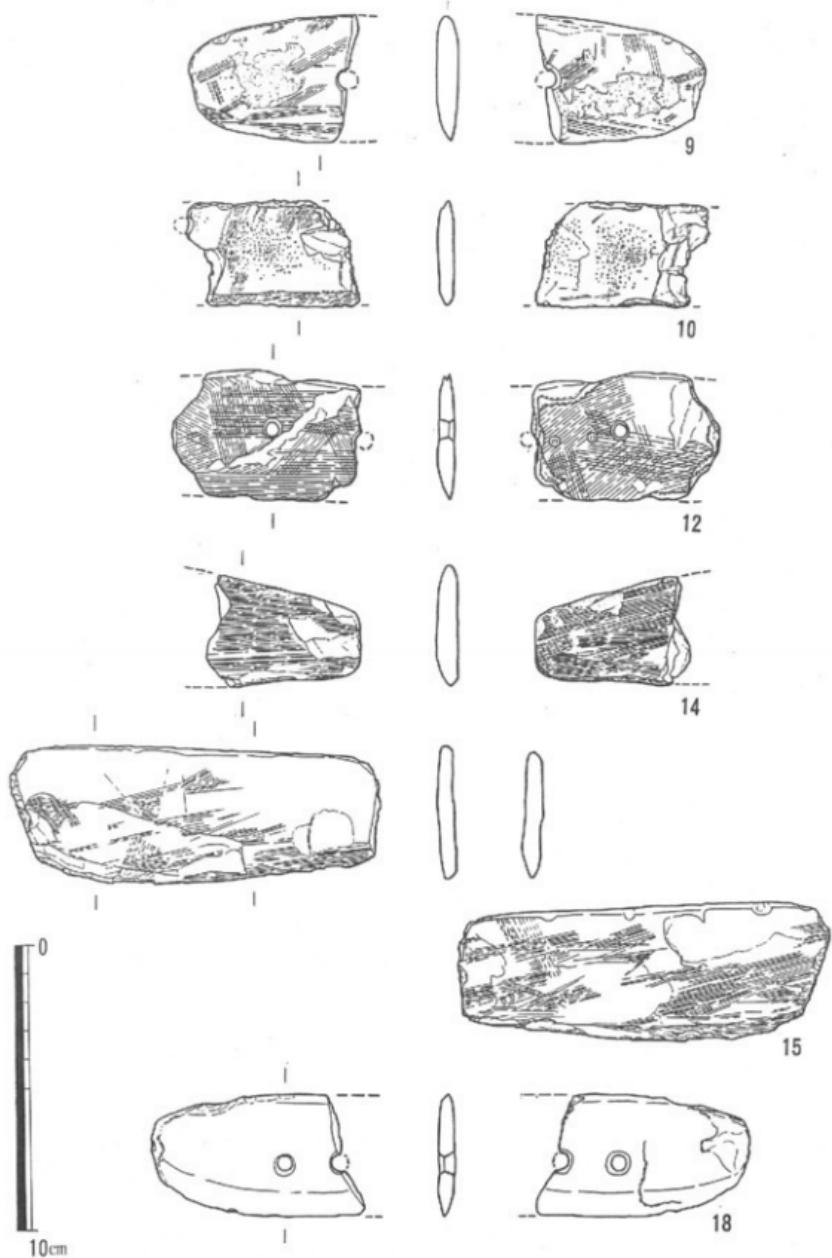


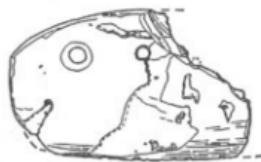


圖版 6 石斧、勾玉、管玉、玉砾石、投彈





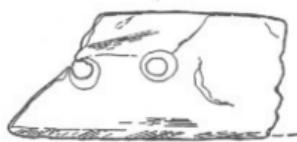




1



19



1



21



1



22



1



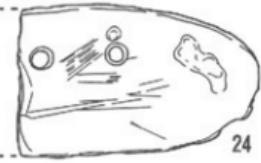
23



1



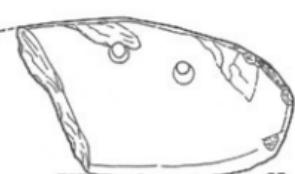
24



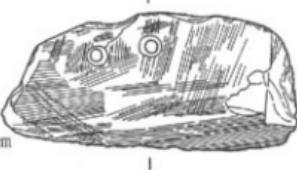
1



25



10cm



1



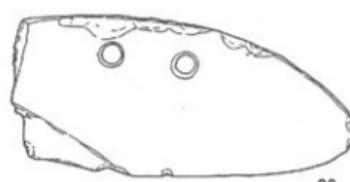
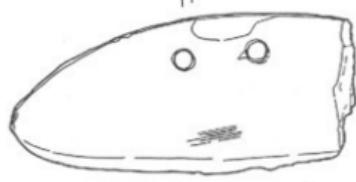
26



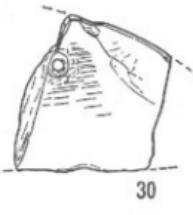
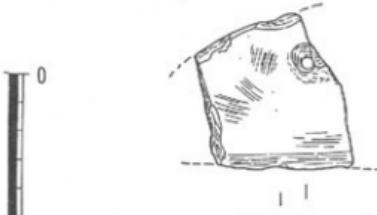
27



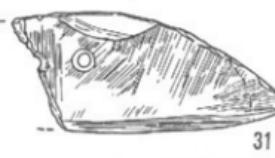
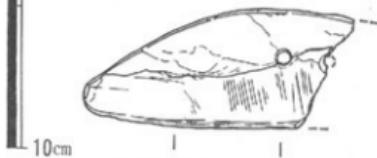
28



29



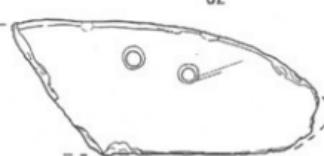
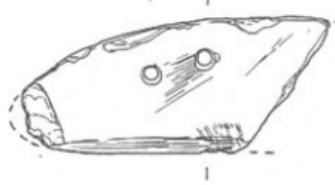
30



31

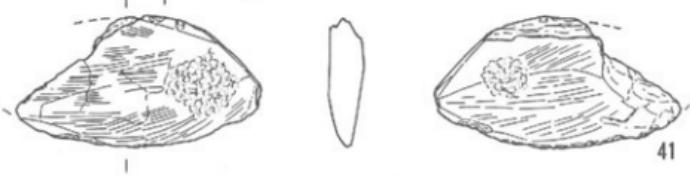
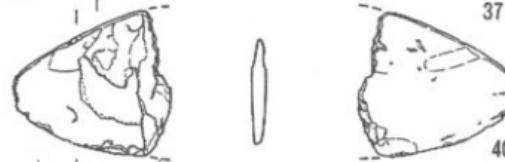


32



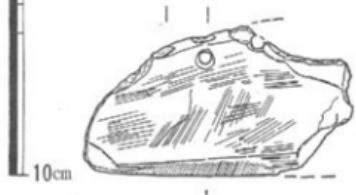
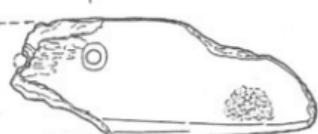
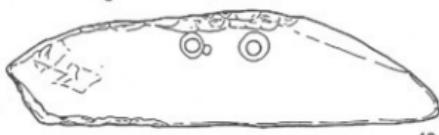
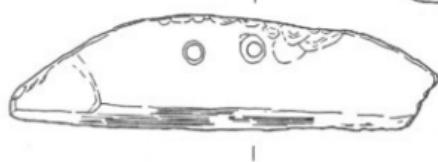
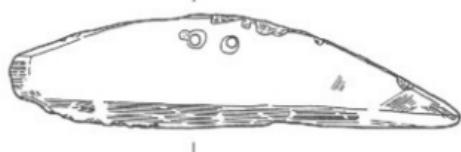
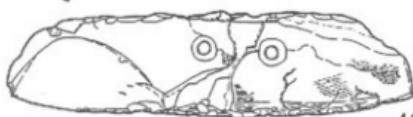
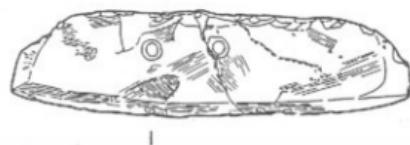
33





0
10cm

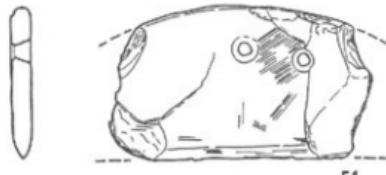




10cm



1



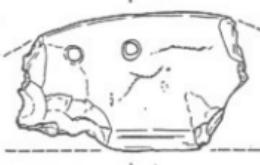
51



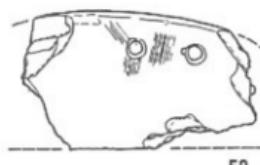
1



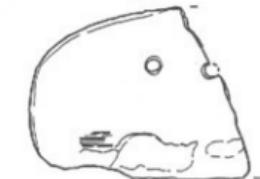
52



1



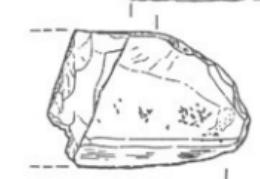
53



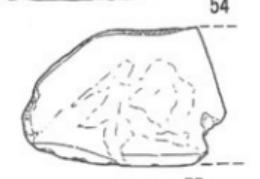
1



54



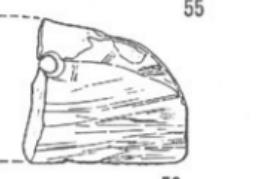
1



55



1



56

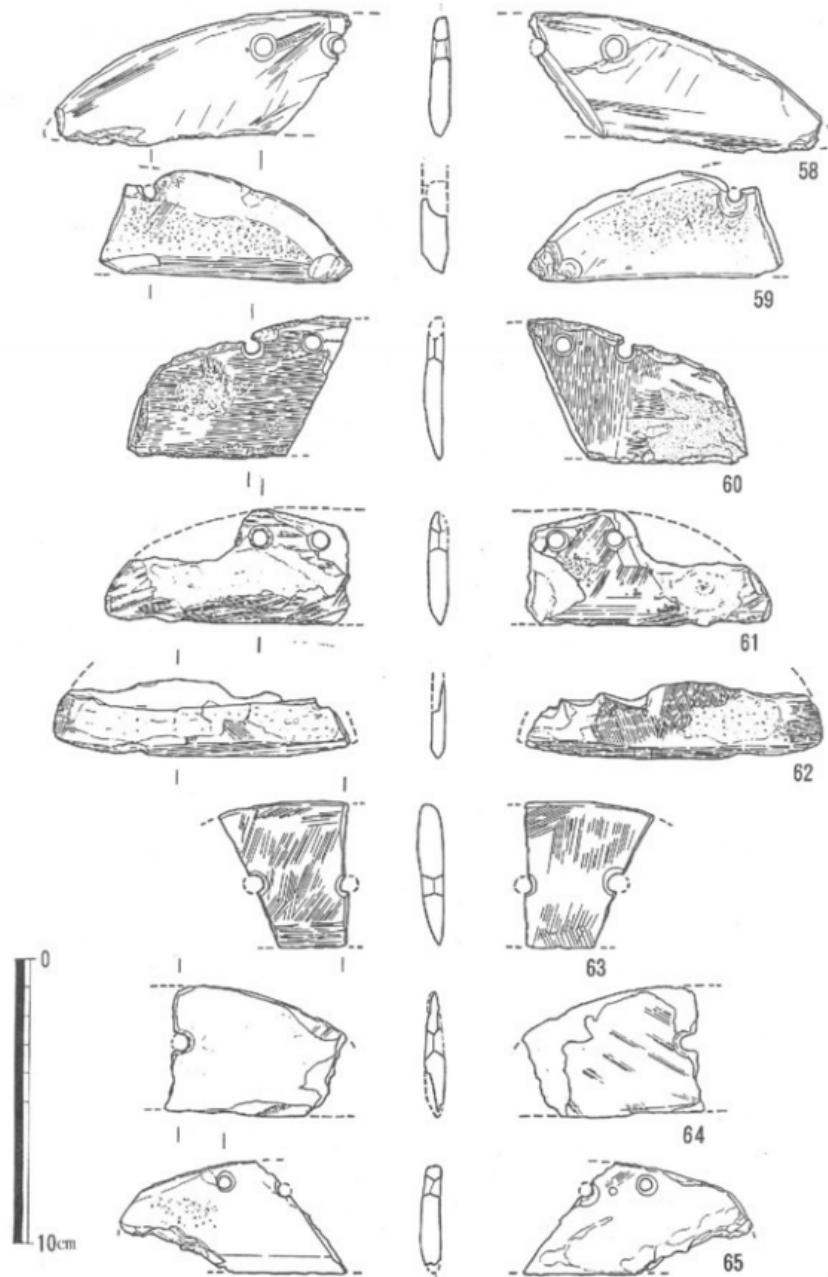


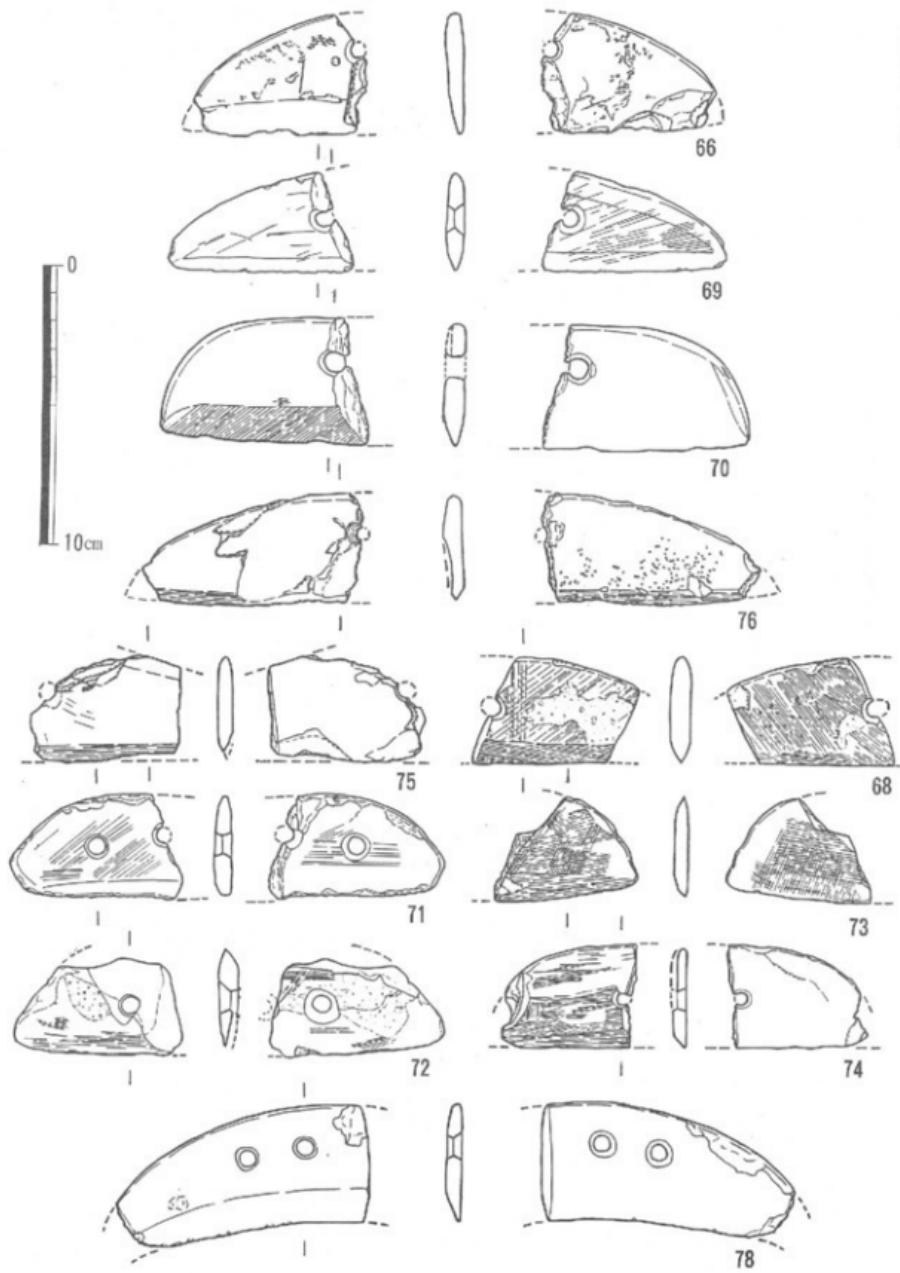
1

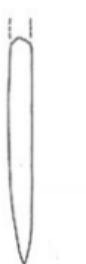
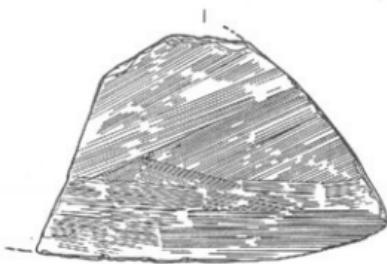
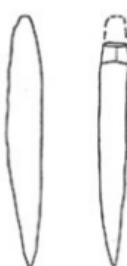
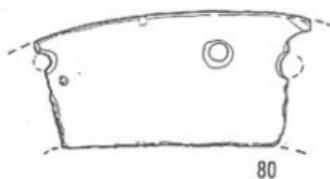
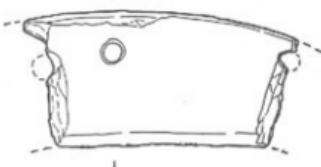
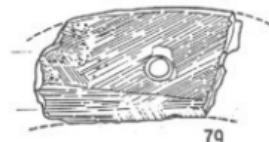
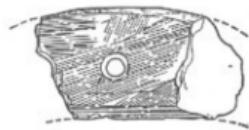


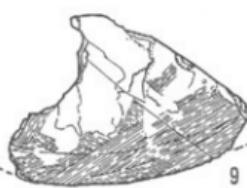
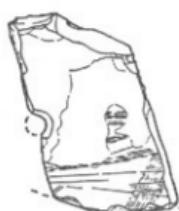
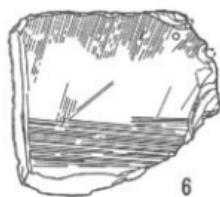
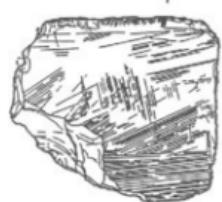
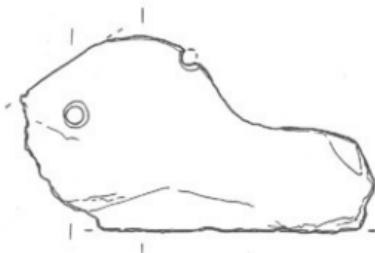
57

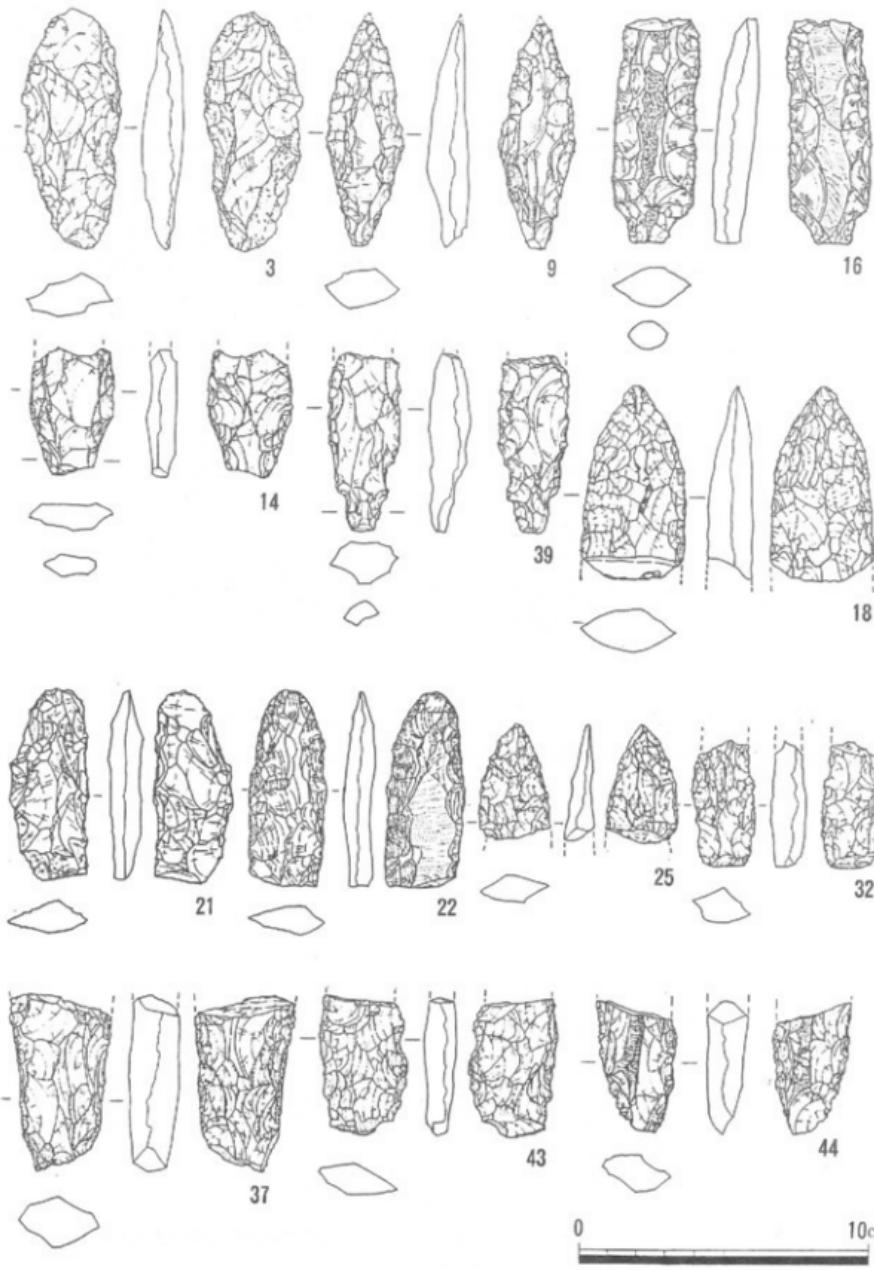
0
10cm

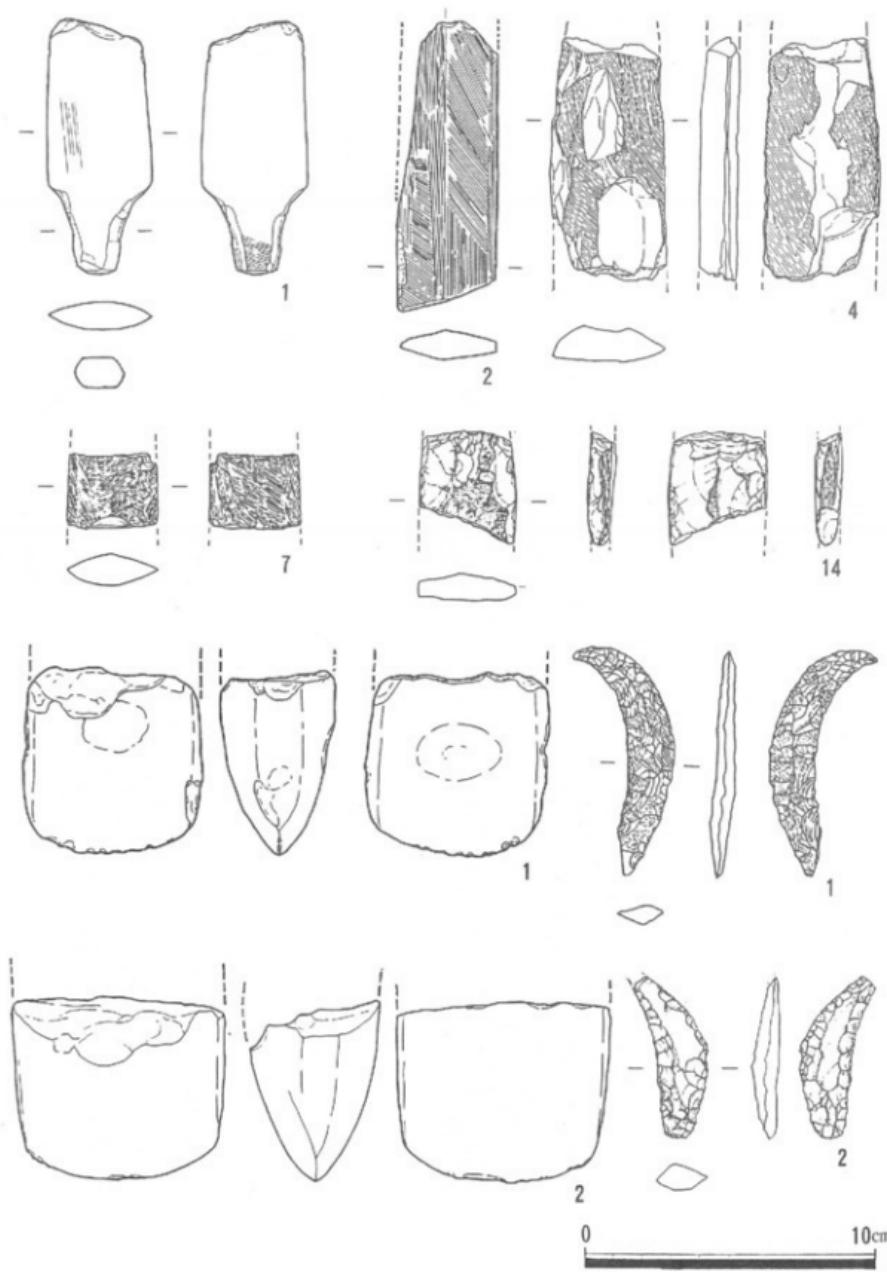


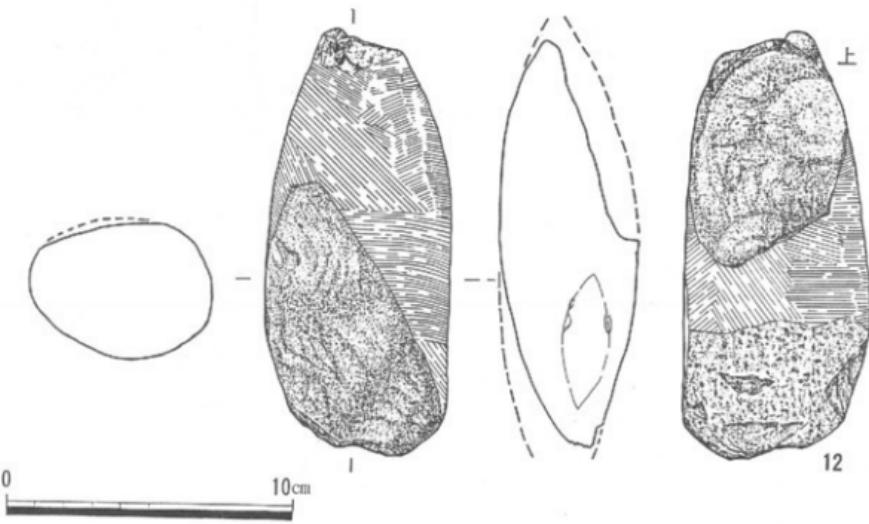
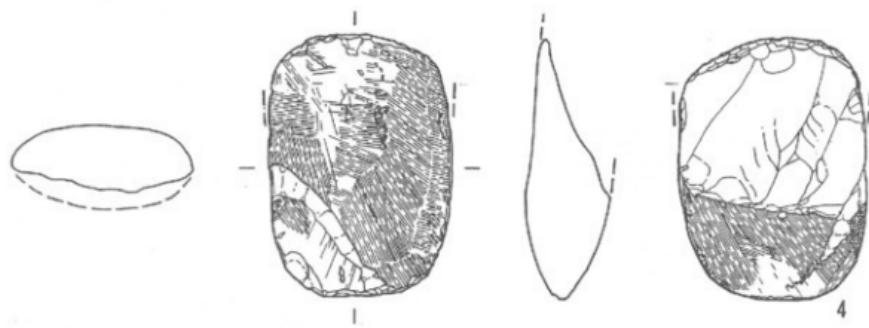
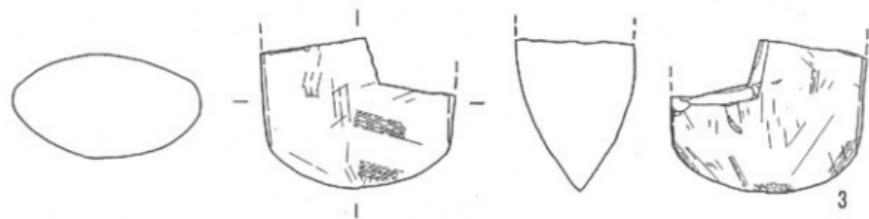




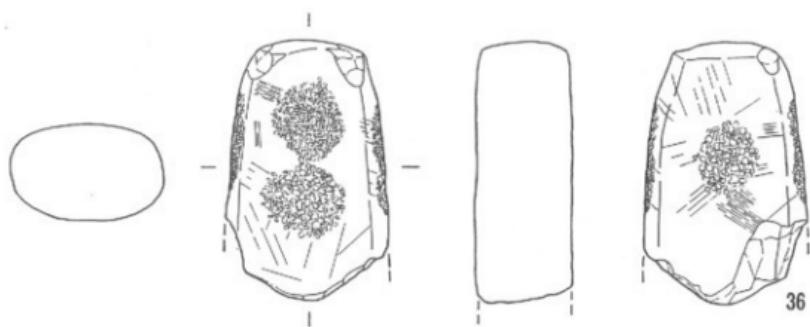




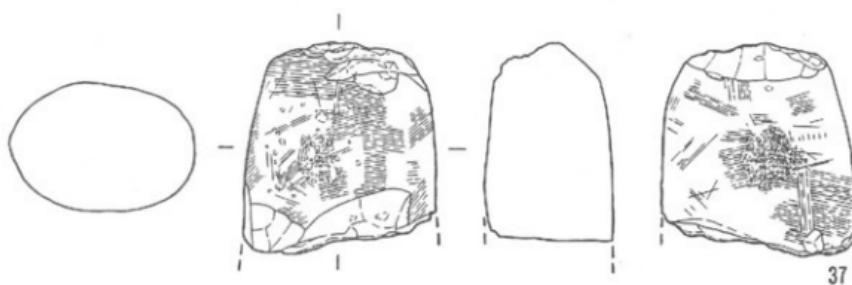




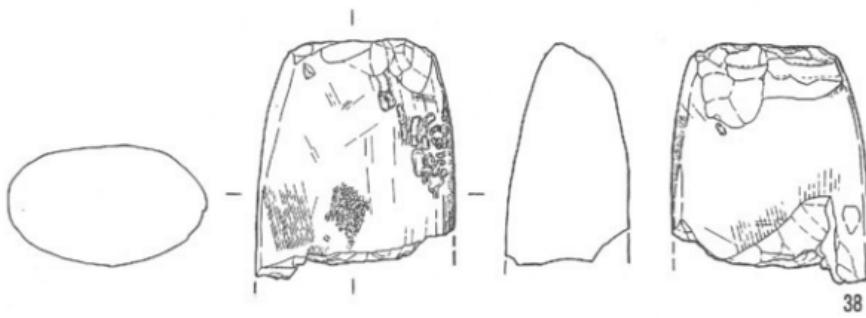
0 10cm



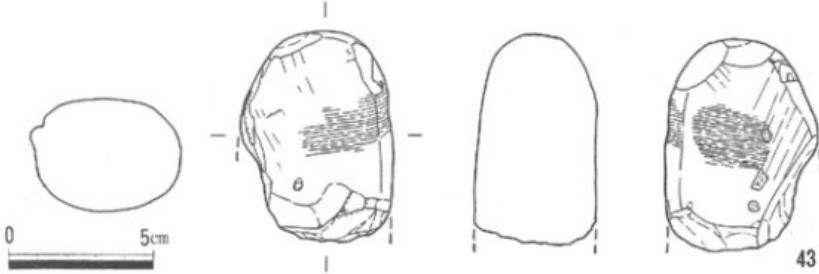
36



37

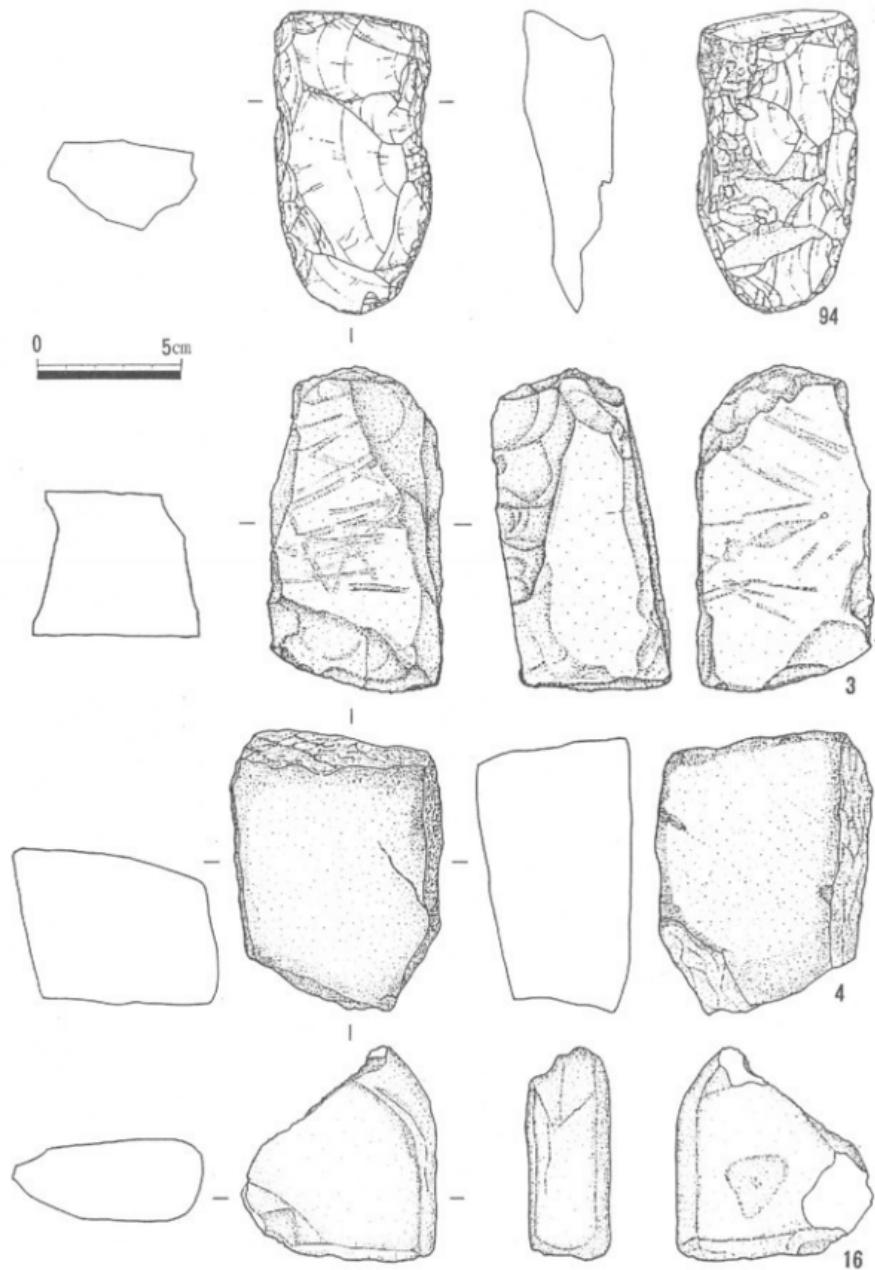


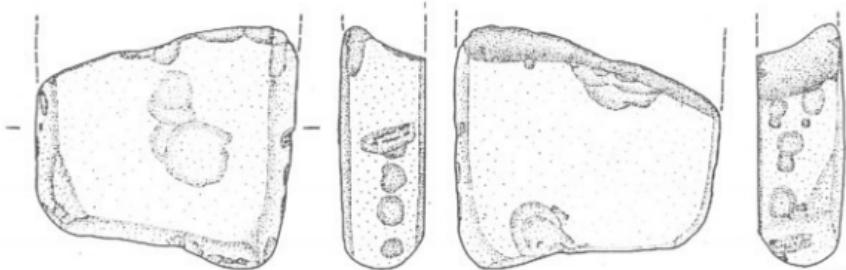
38



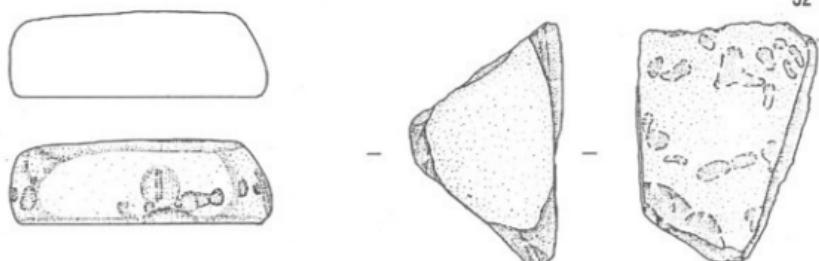
43

0 5cm

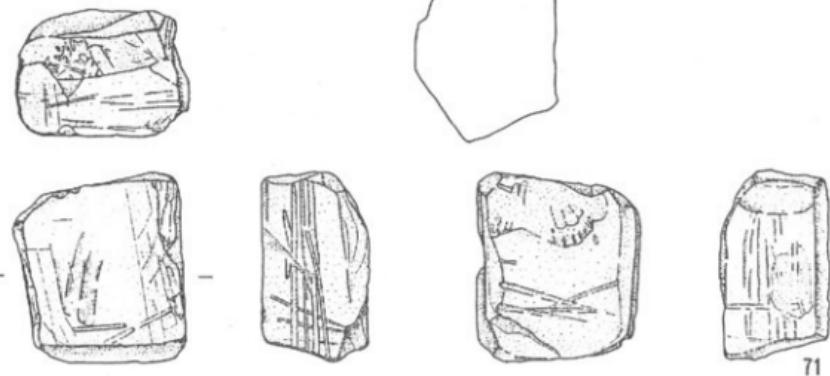




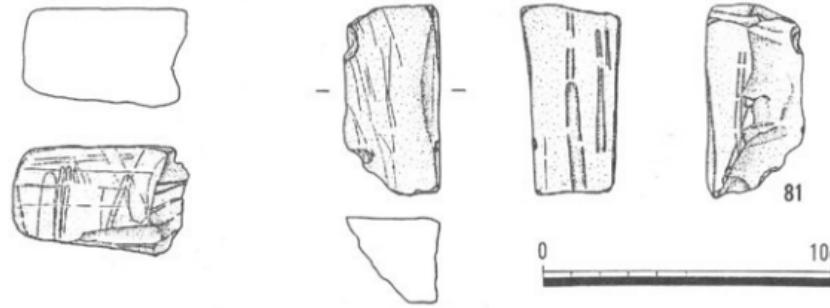
32



75

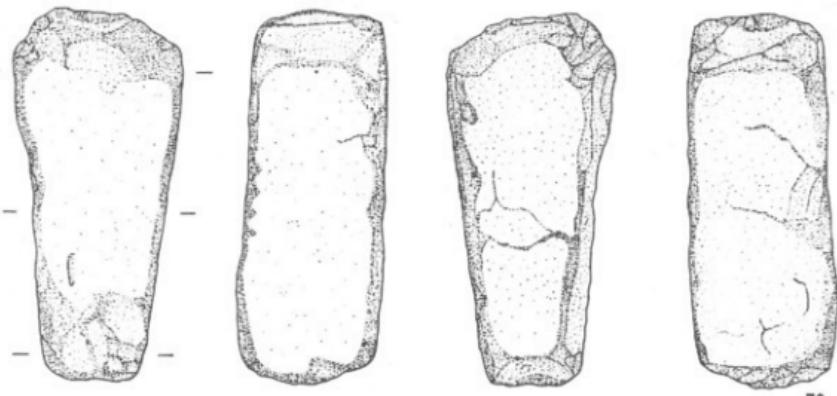


71



0

10cm



70



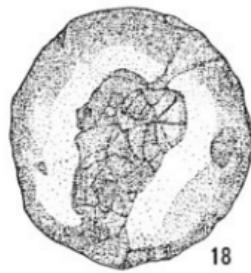
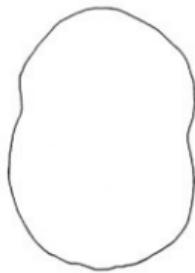
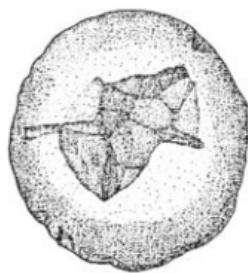
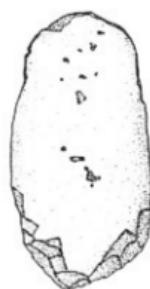
76



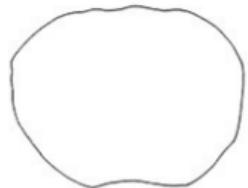
79

0 10 cm

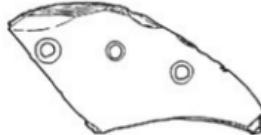
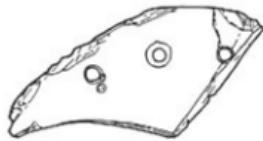




18



5

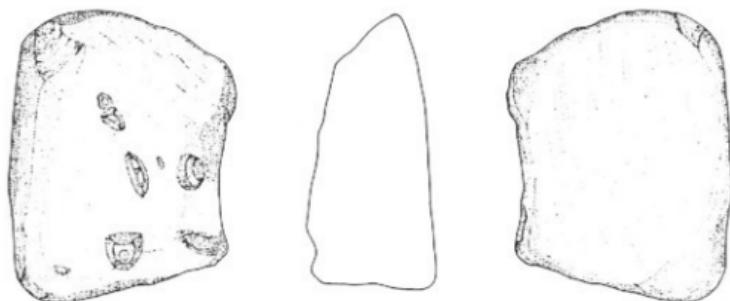


8

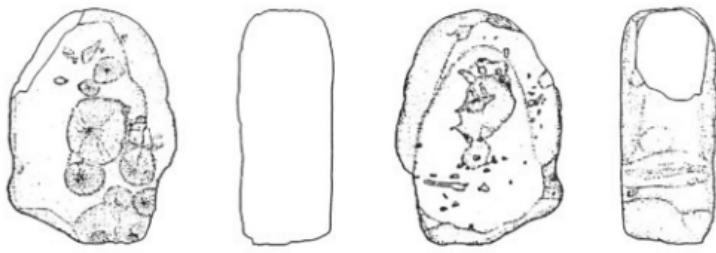
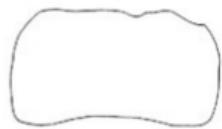
0

10cm

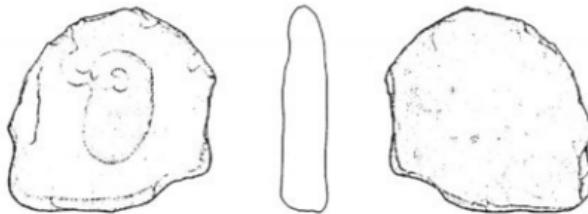
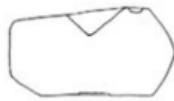




1



4

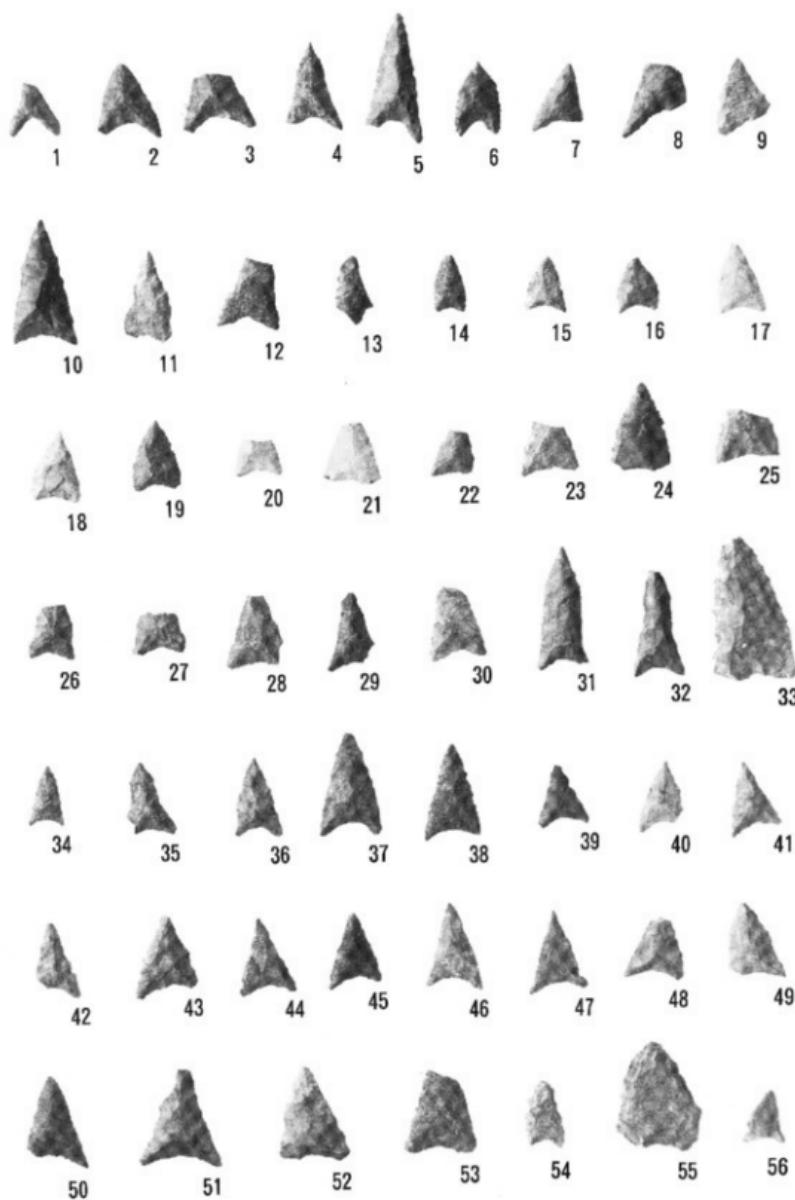


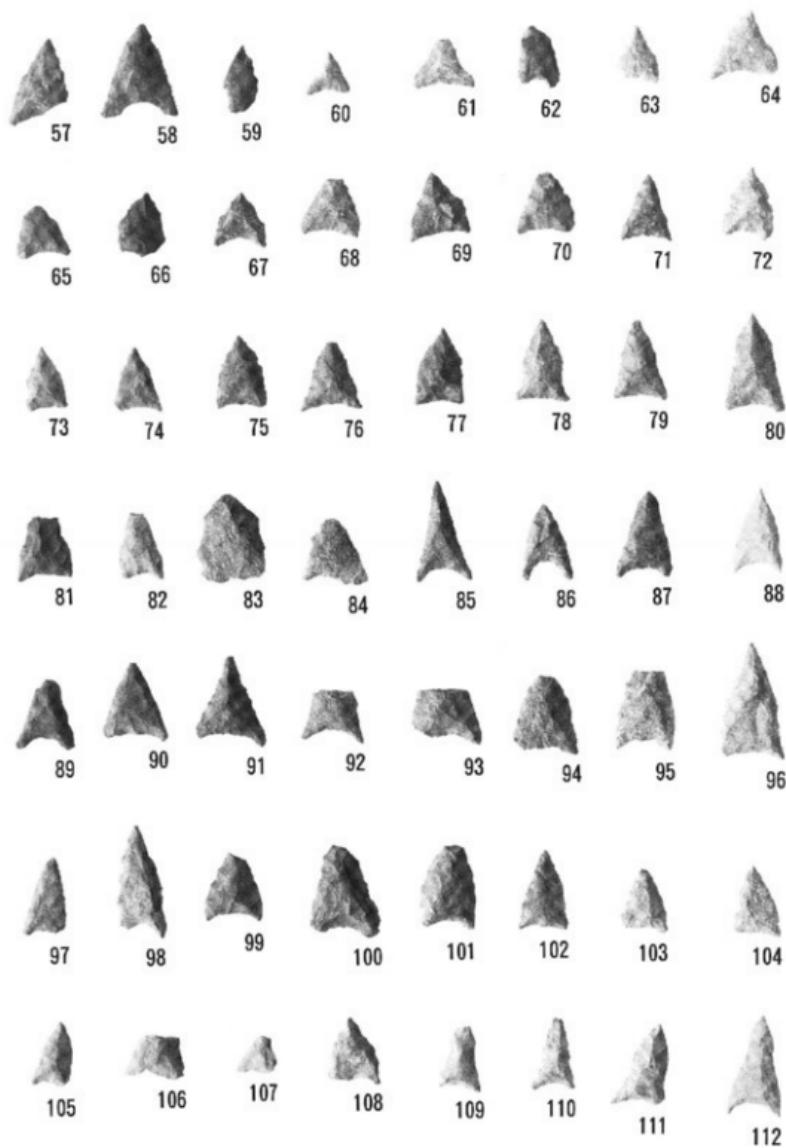
5

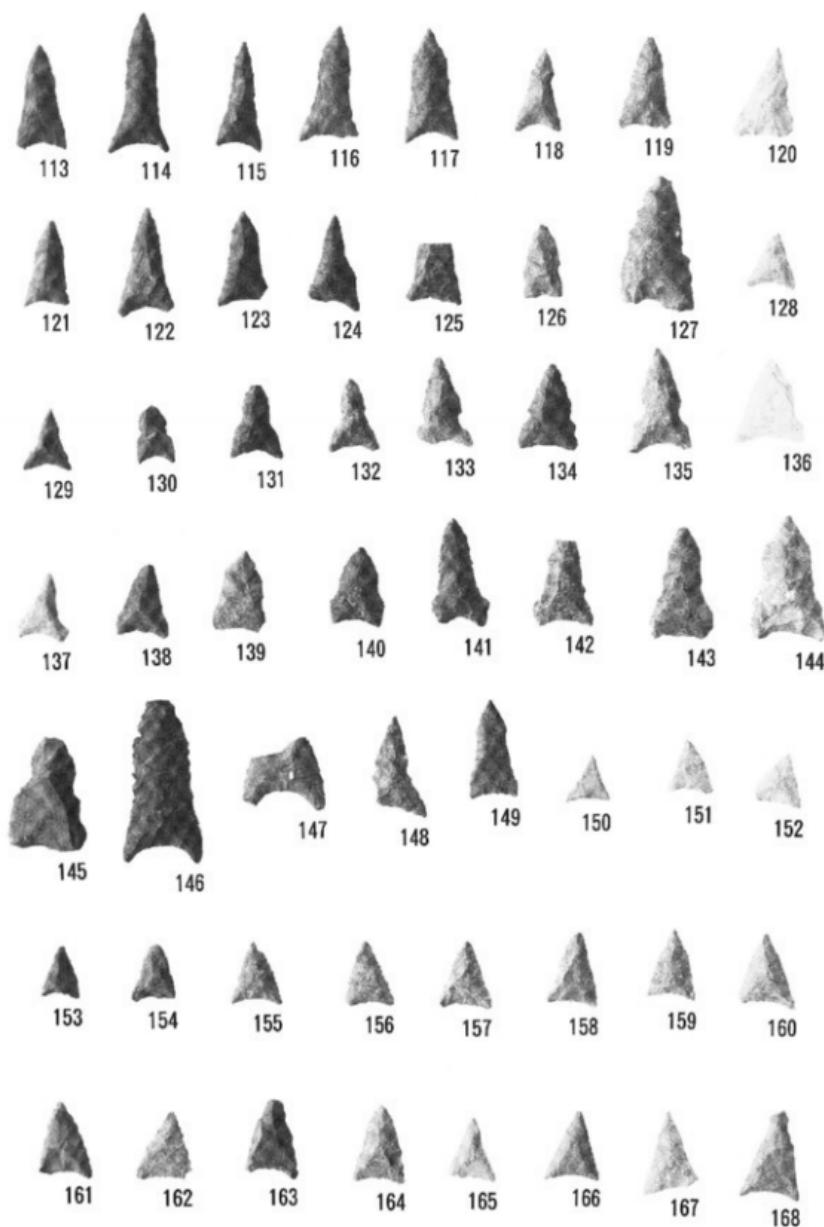


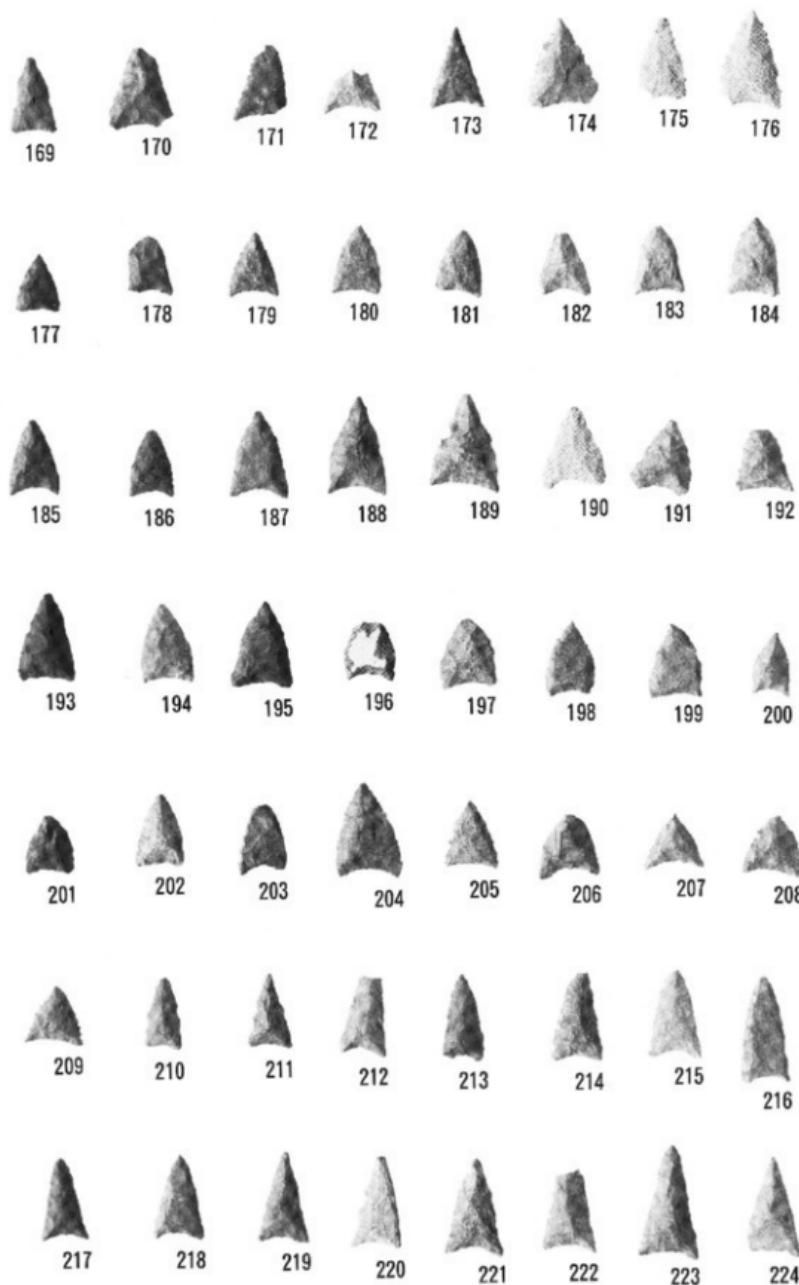
0

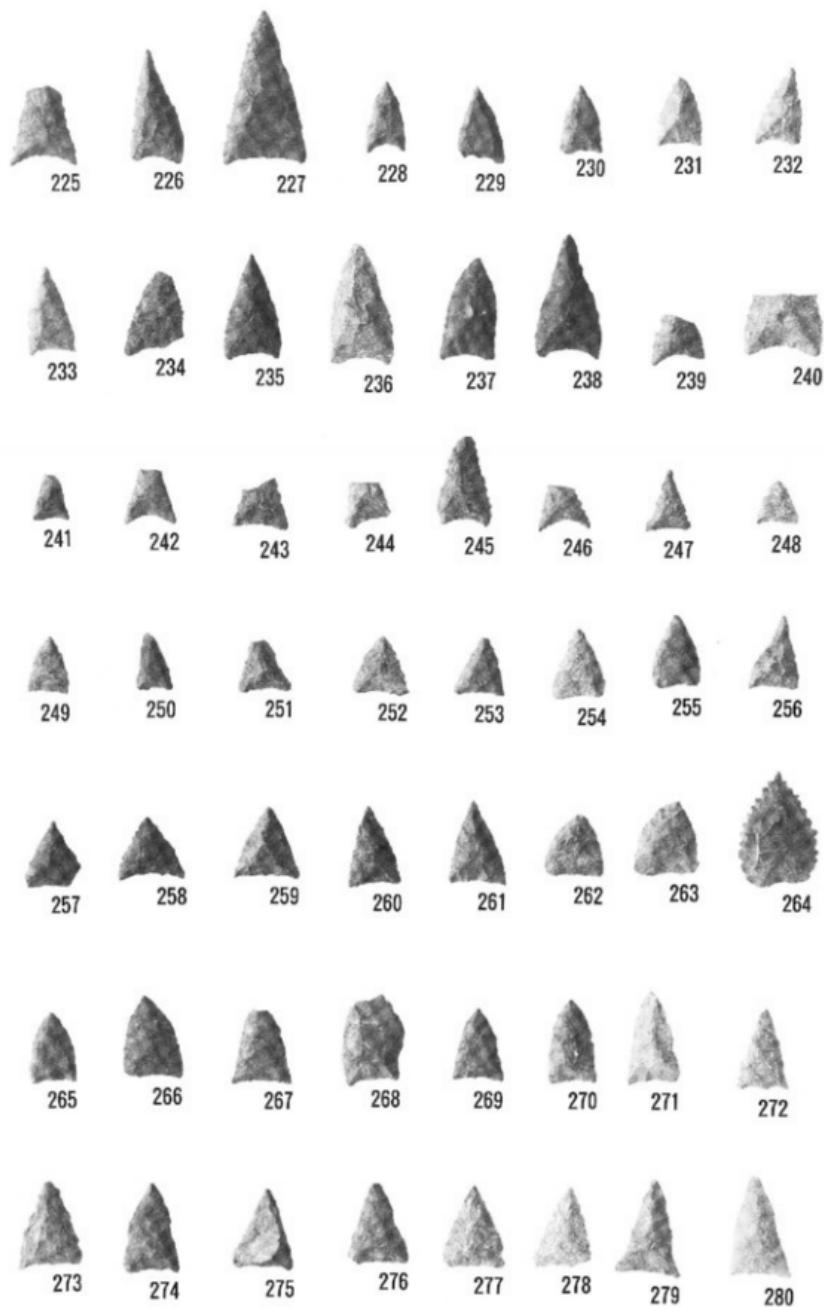
10cm

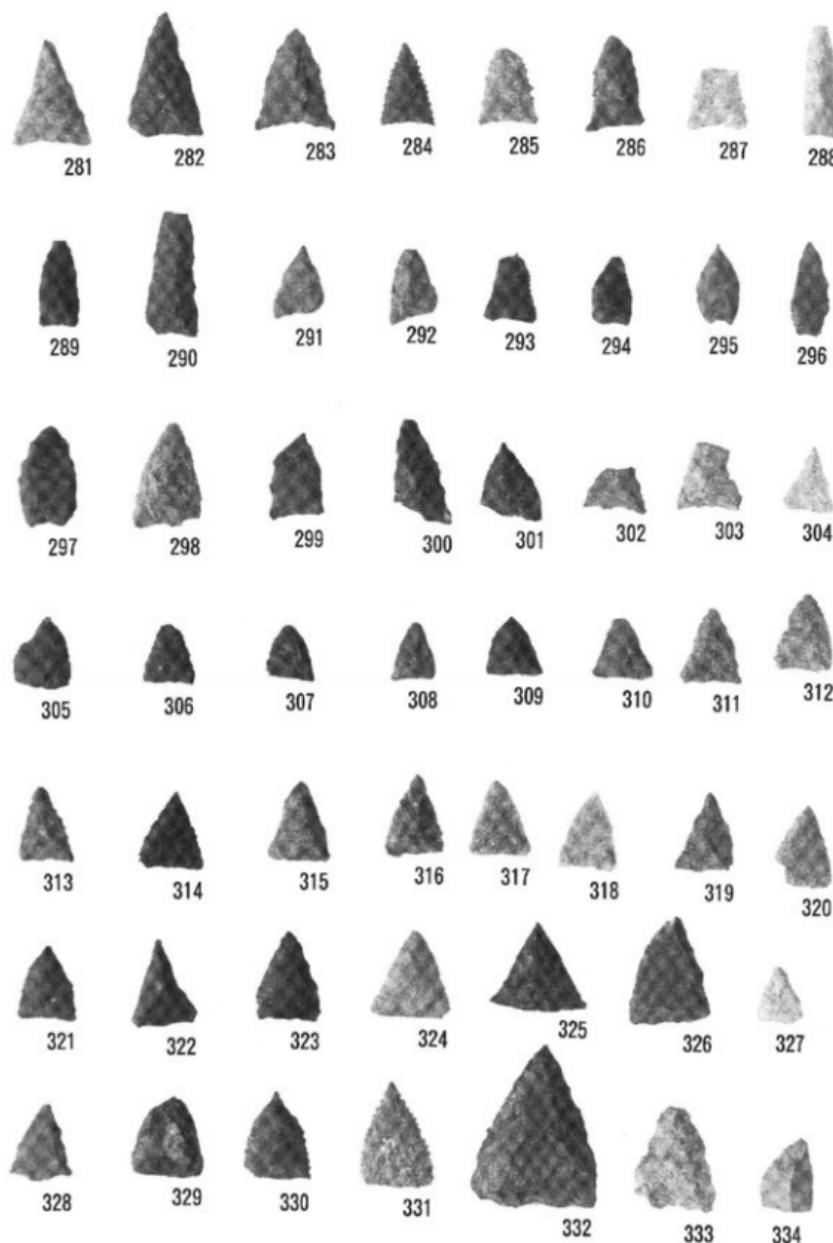


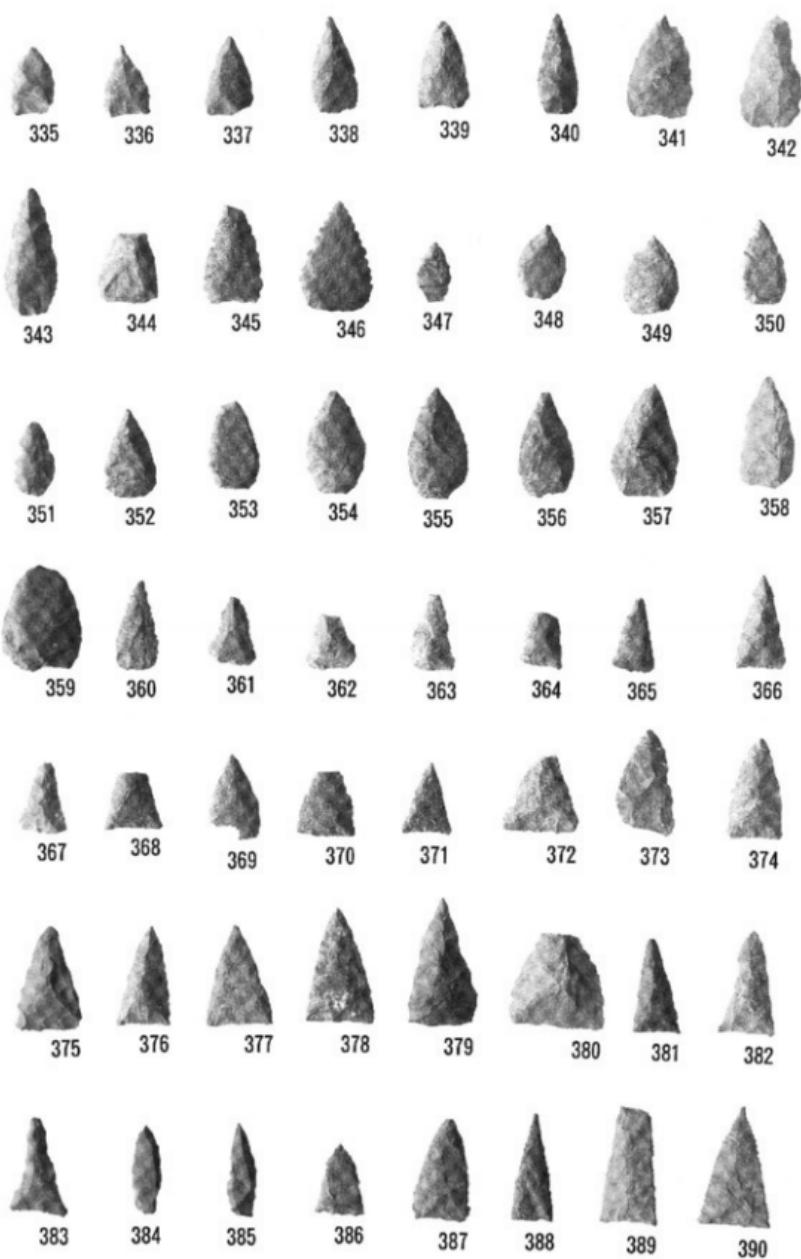


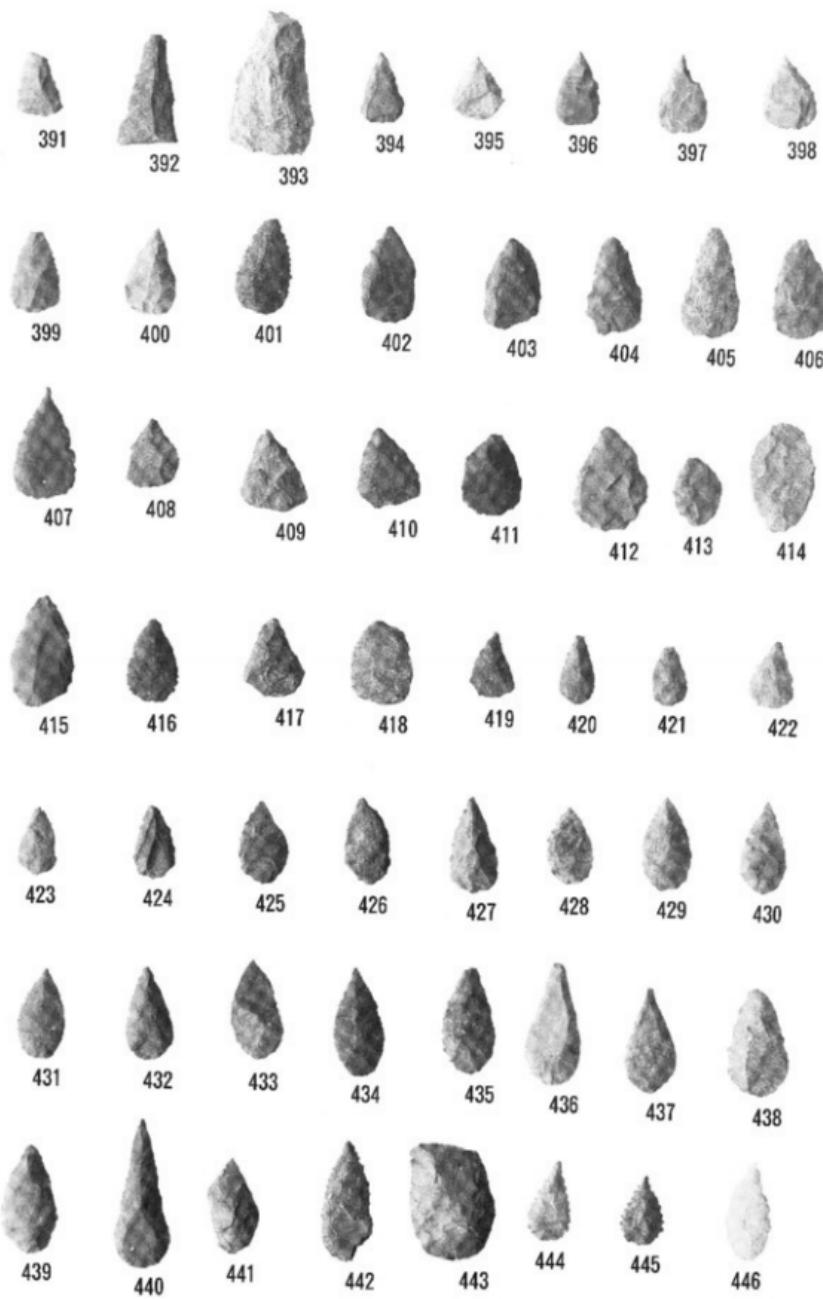


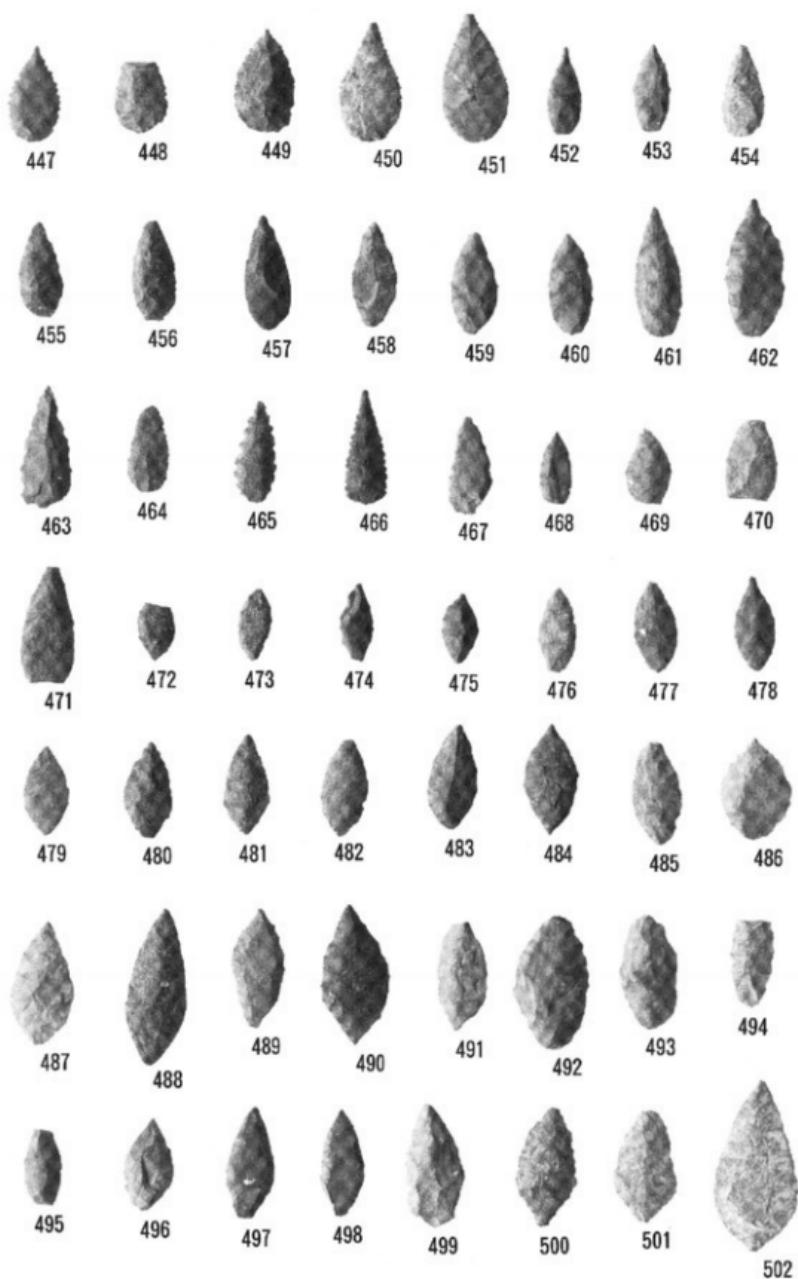


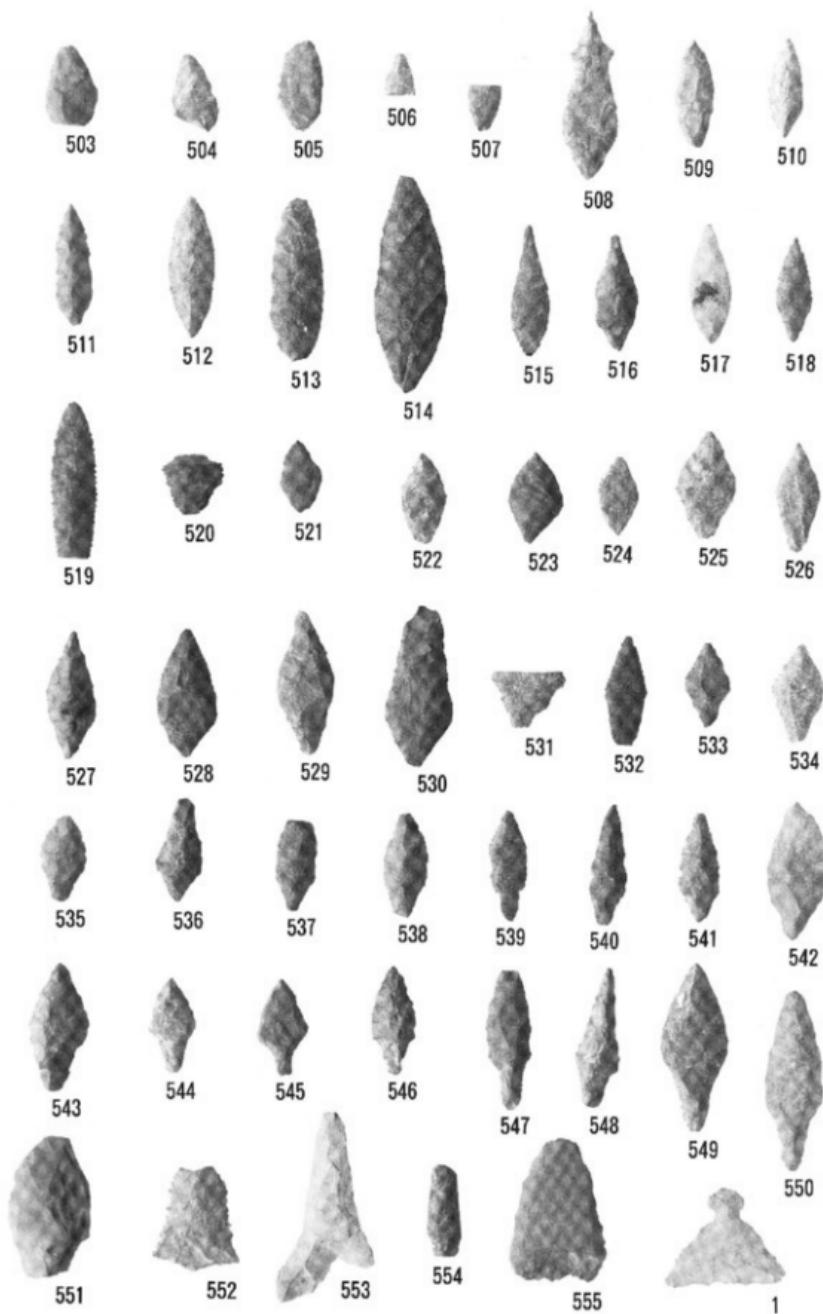


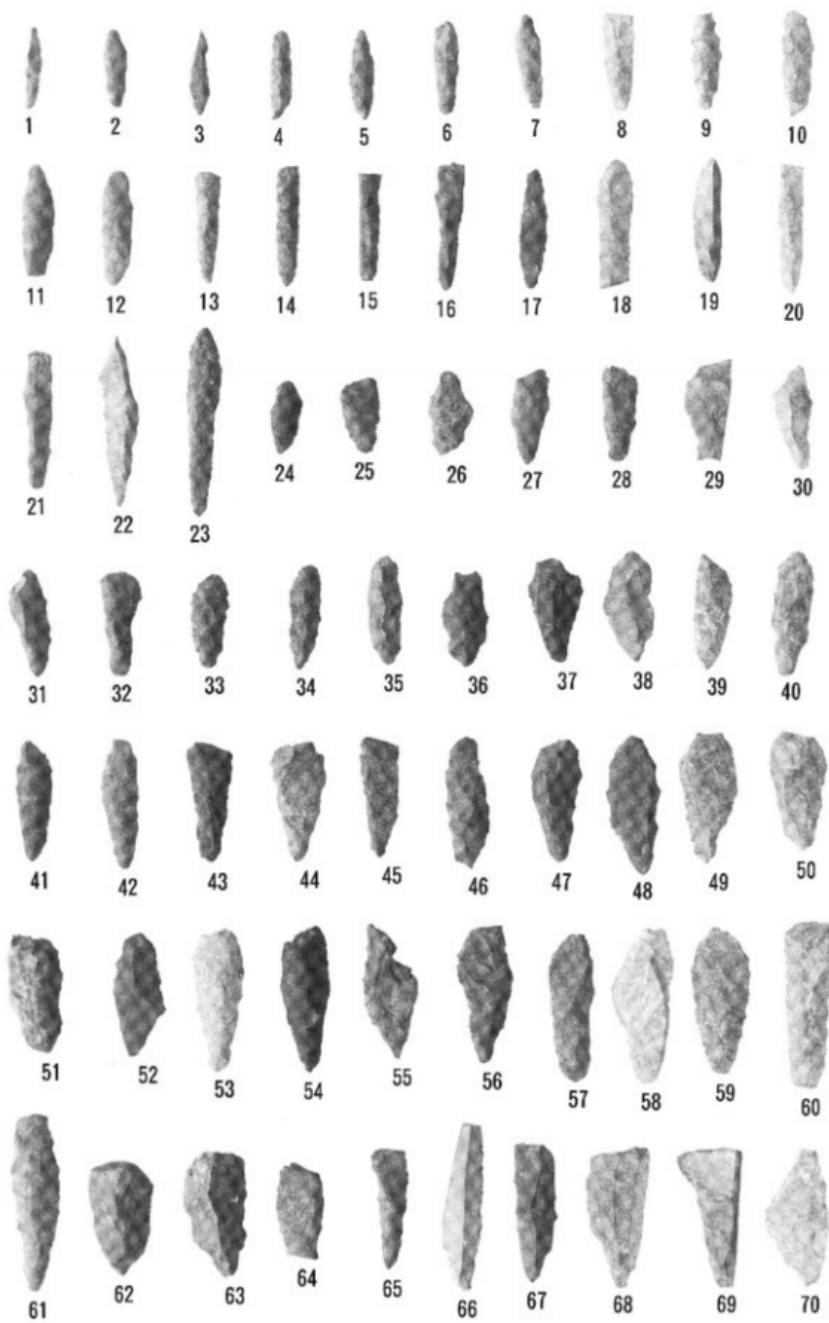


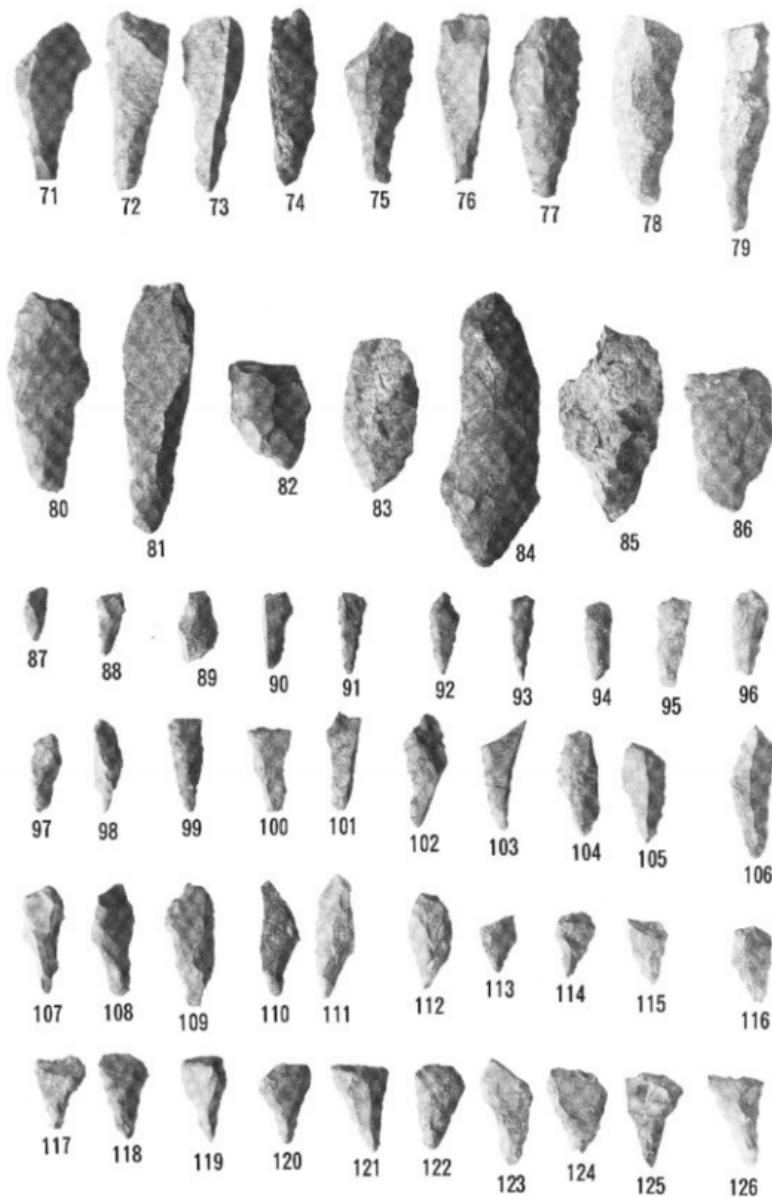


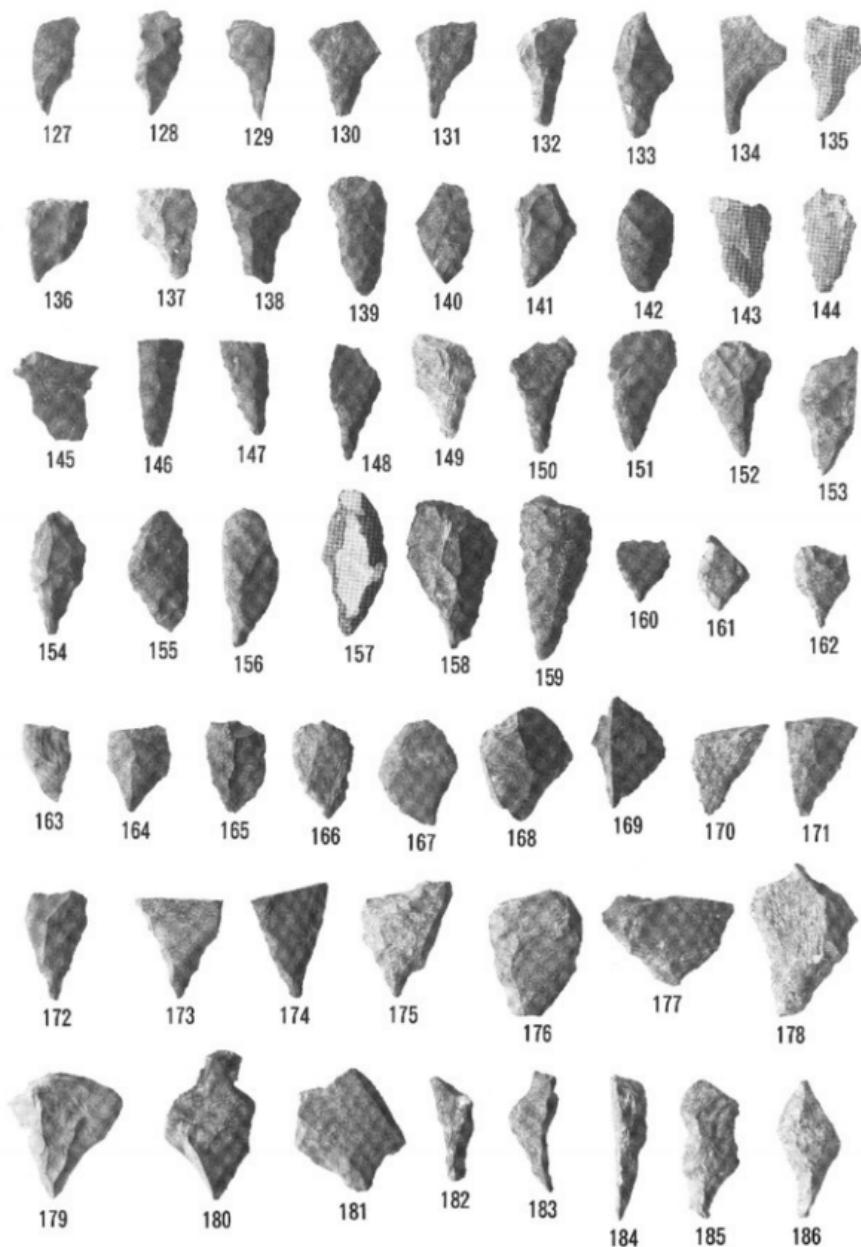


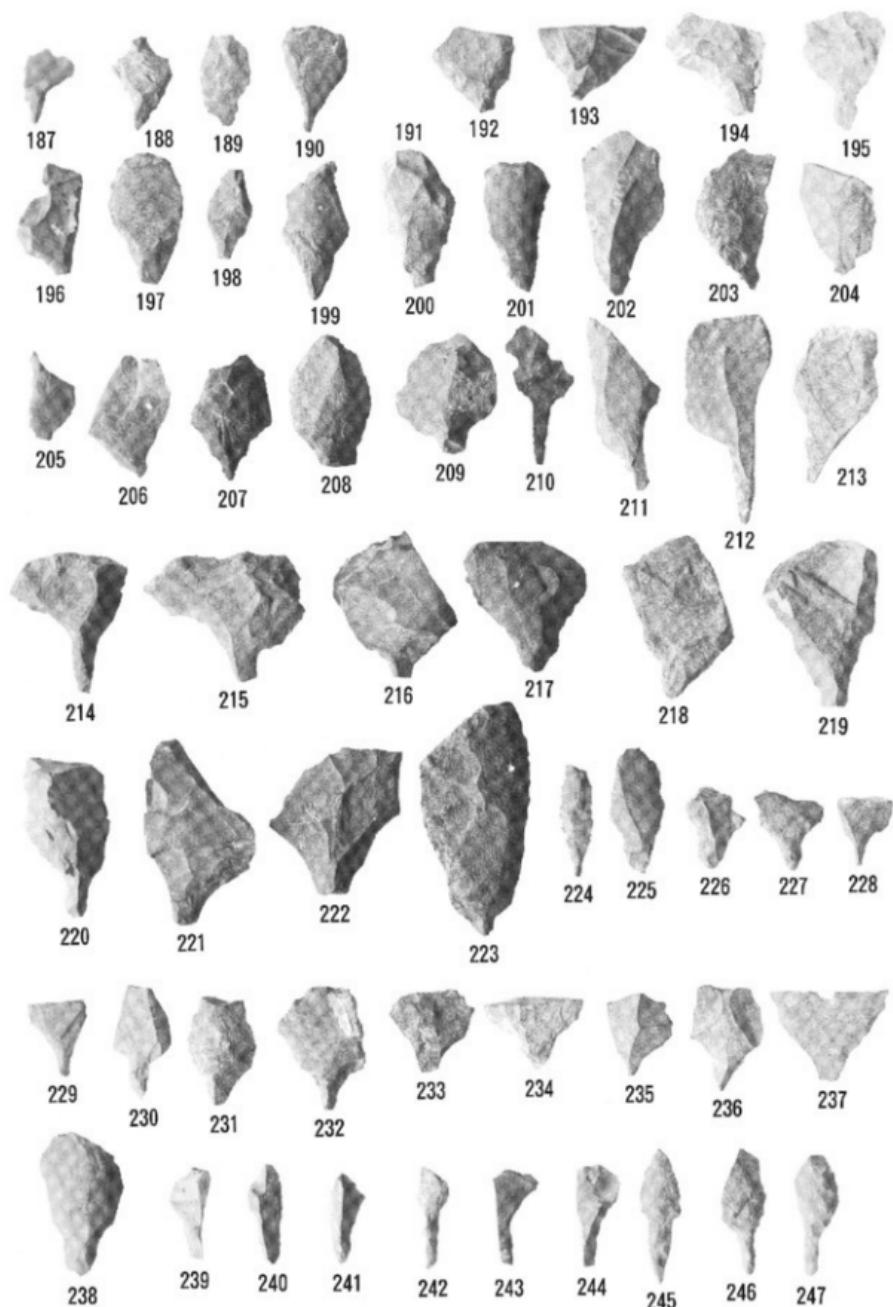


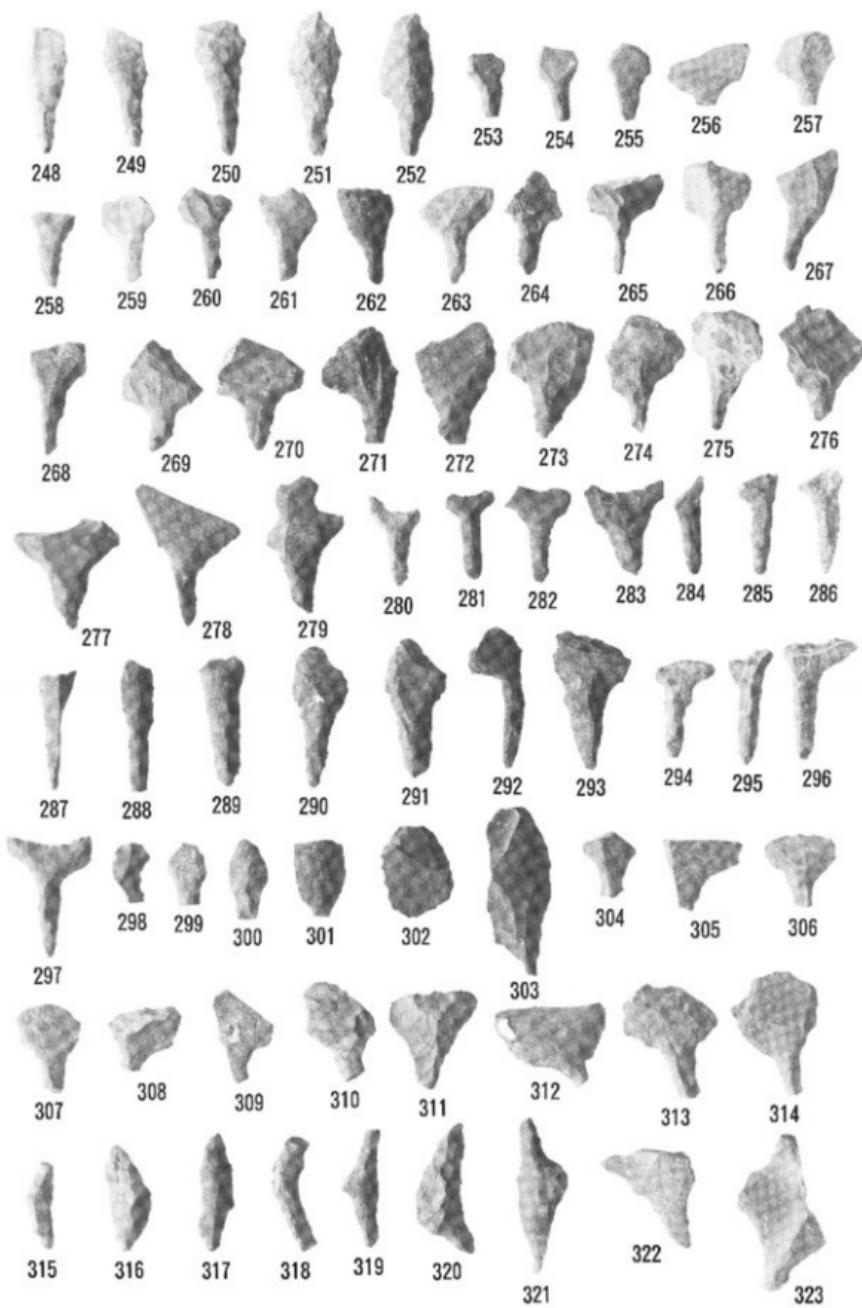


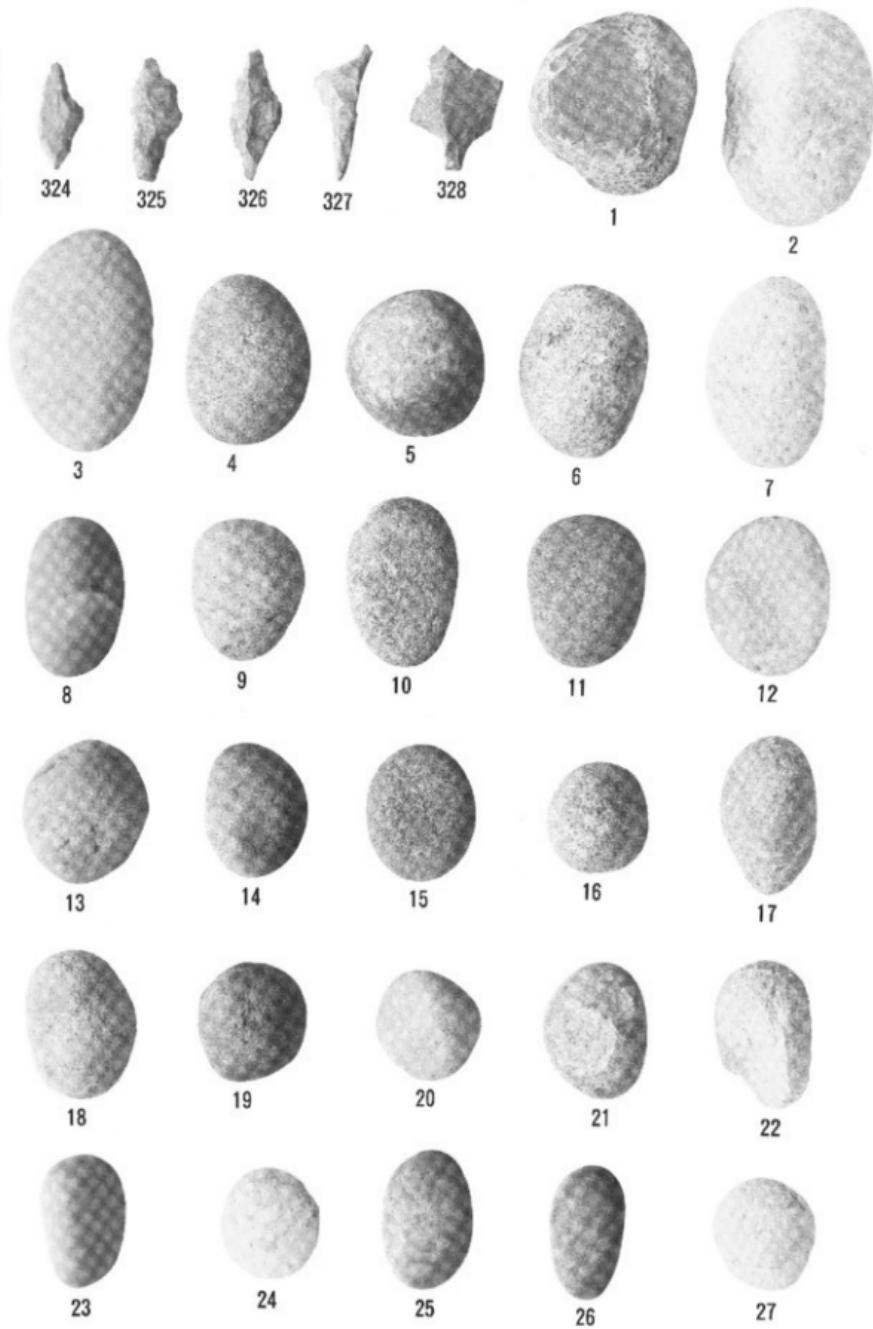


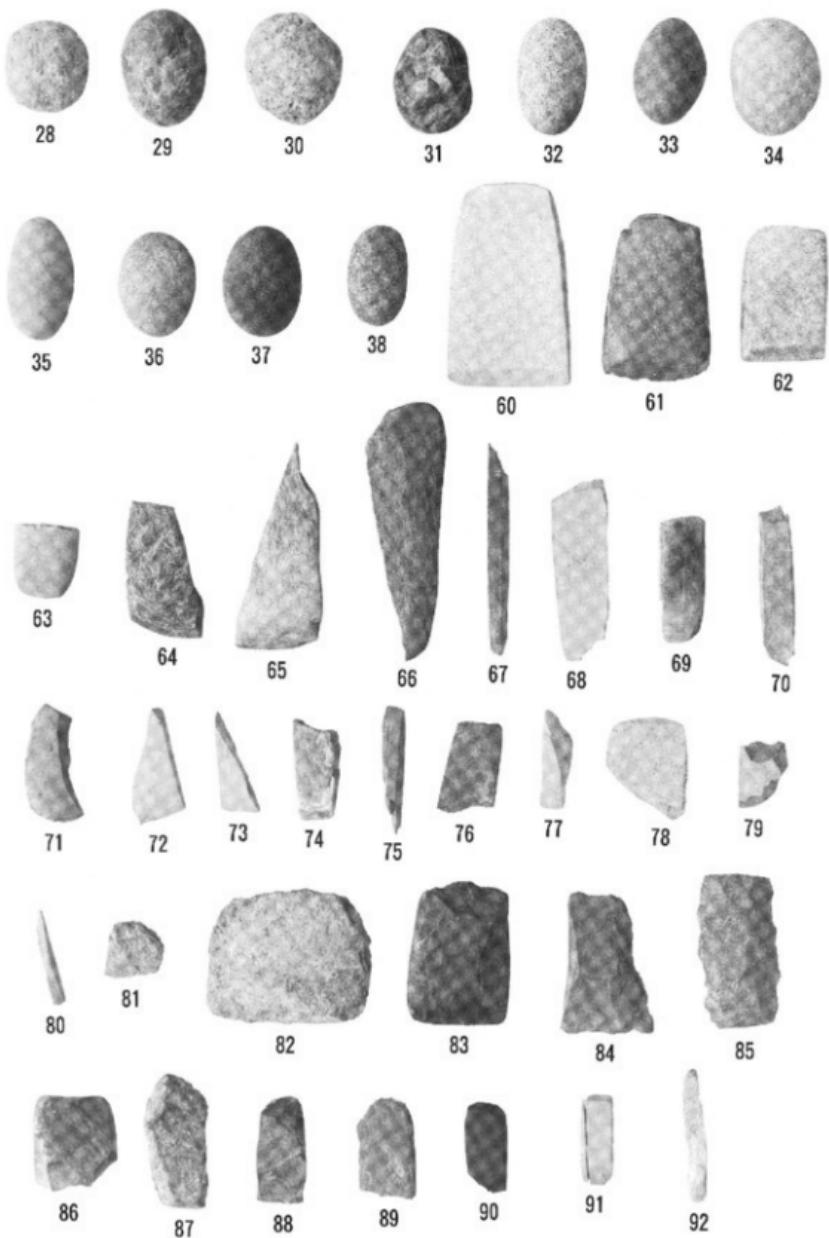


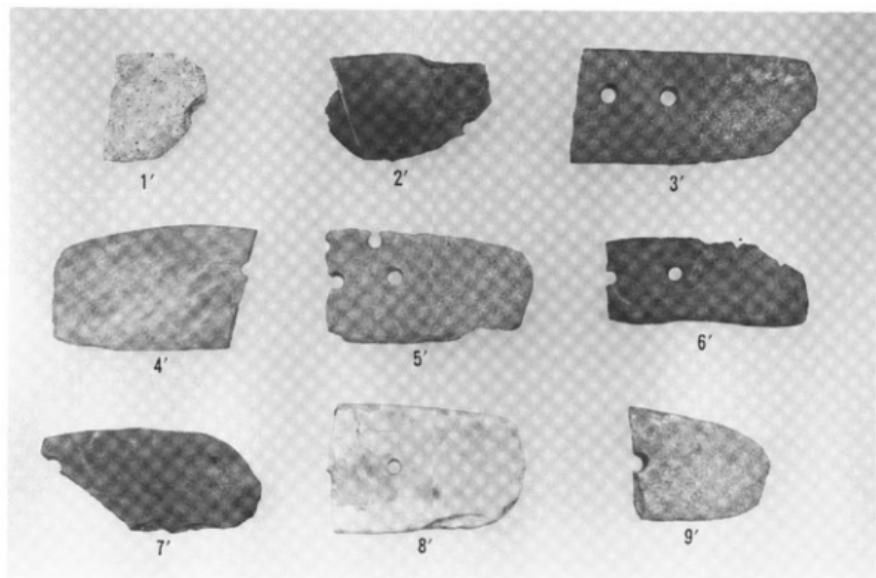
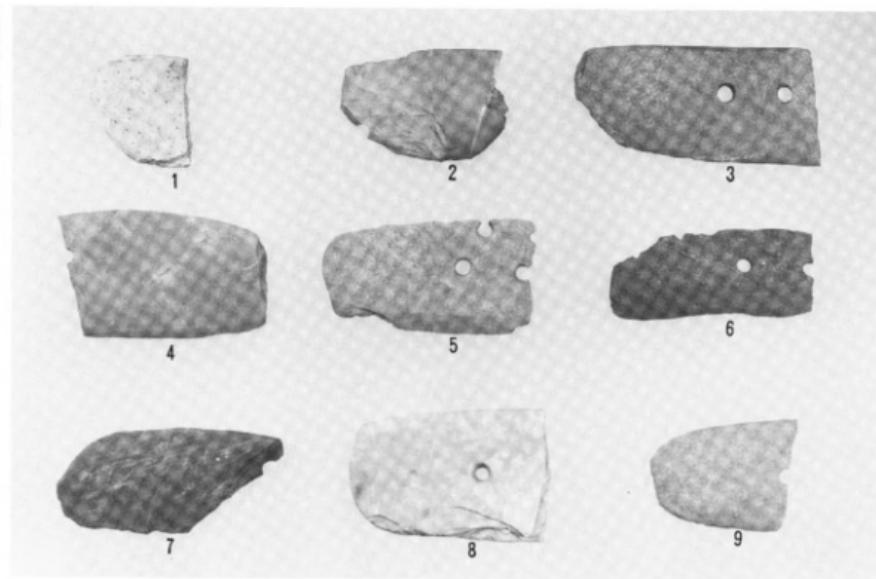


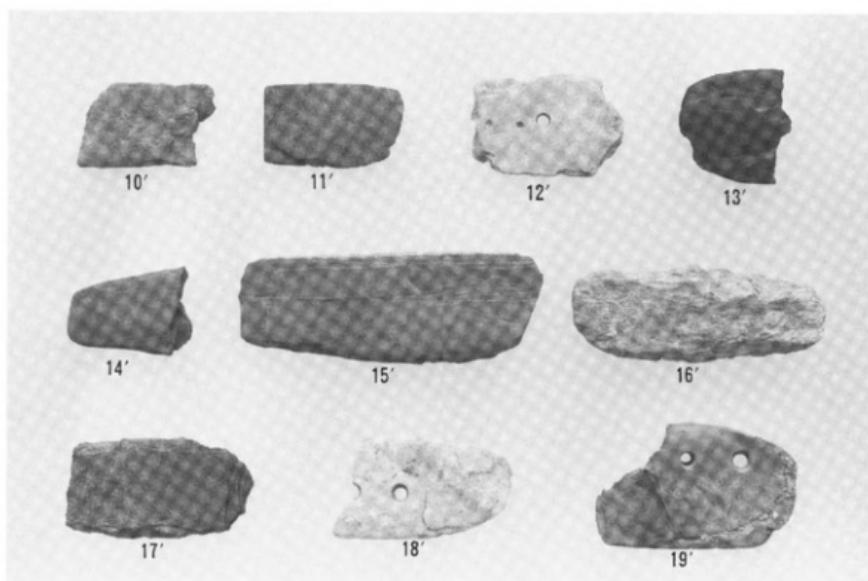
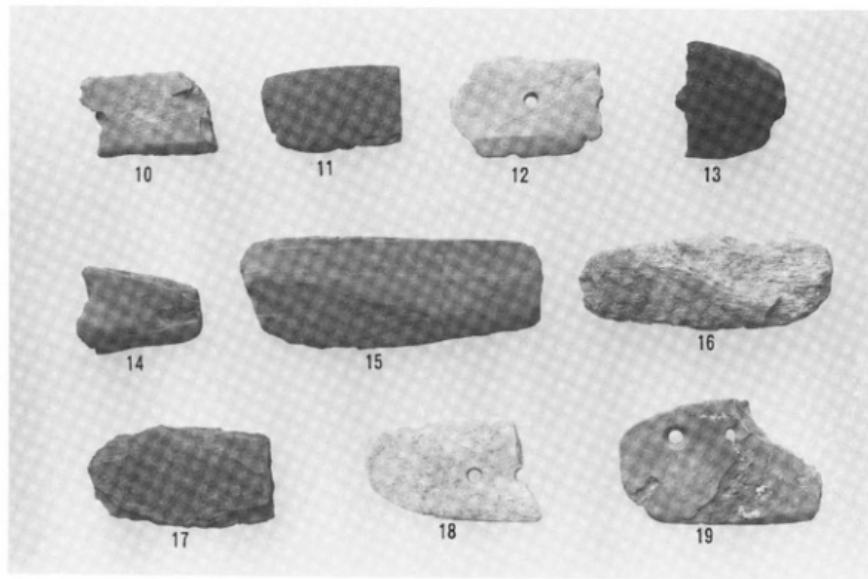


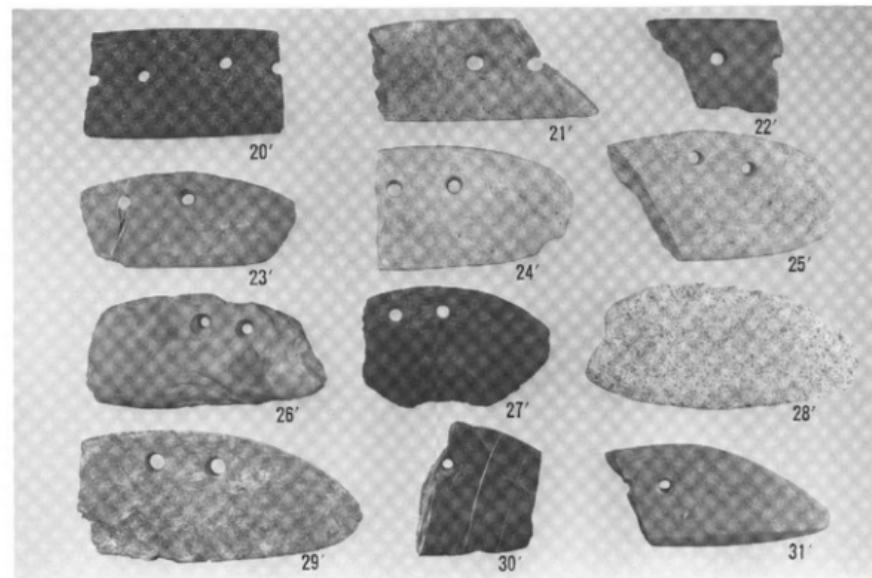
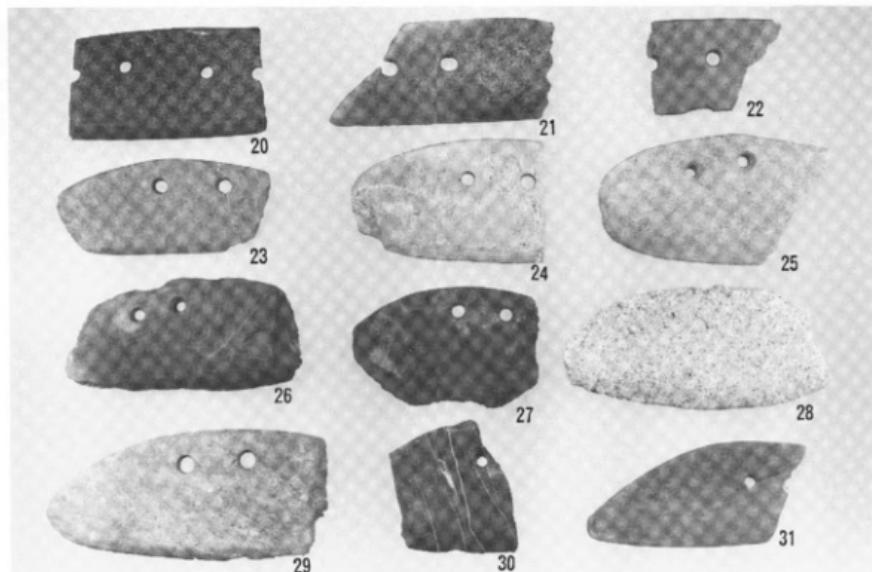


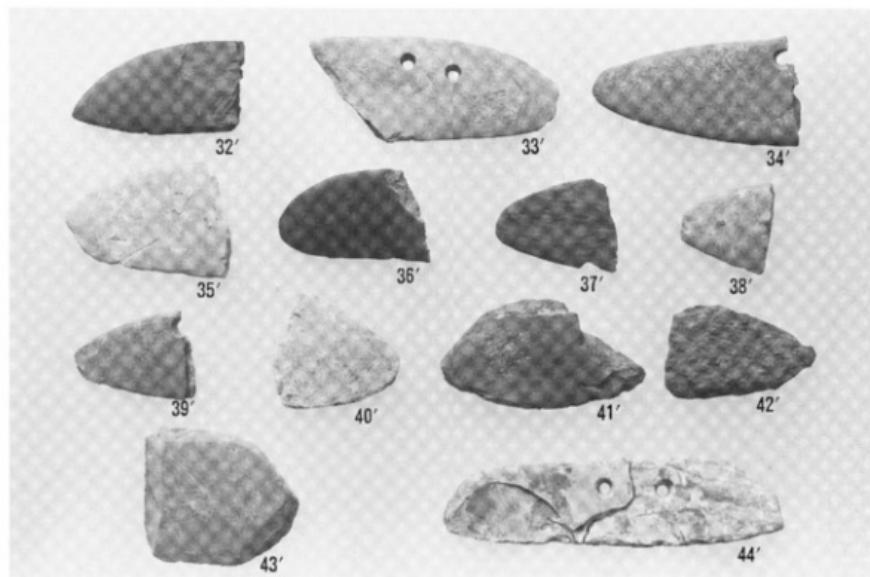
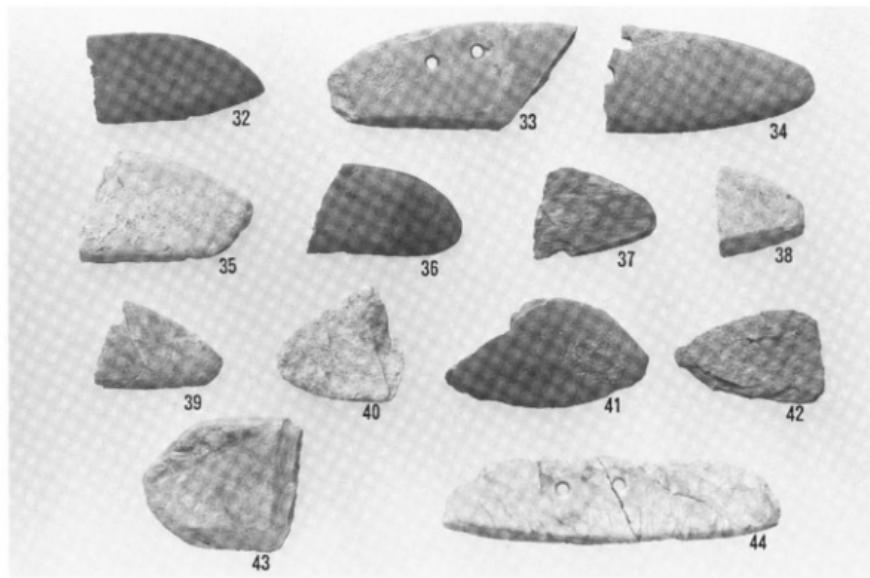


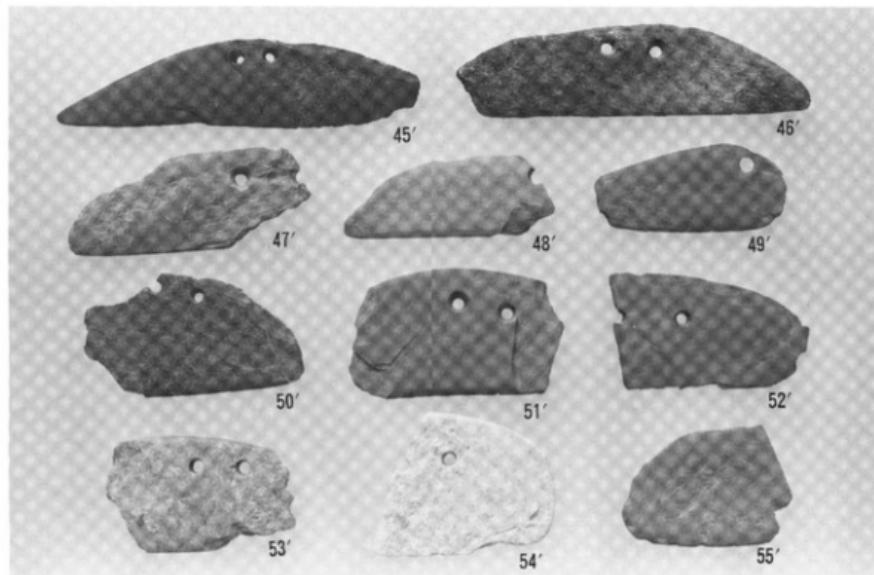
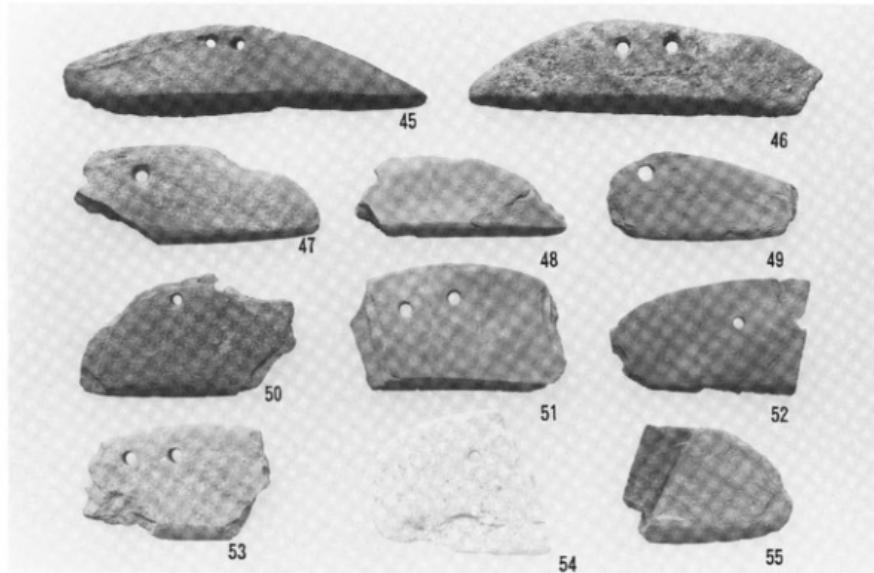


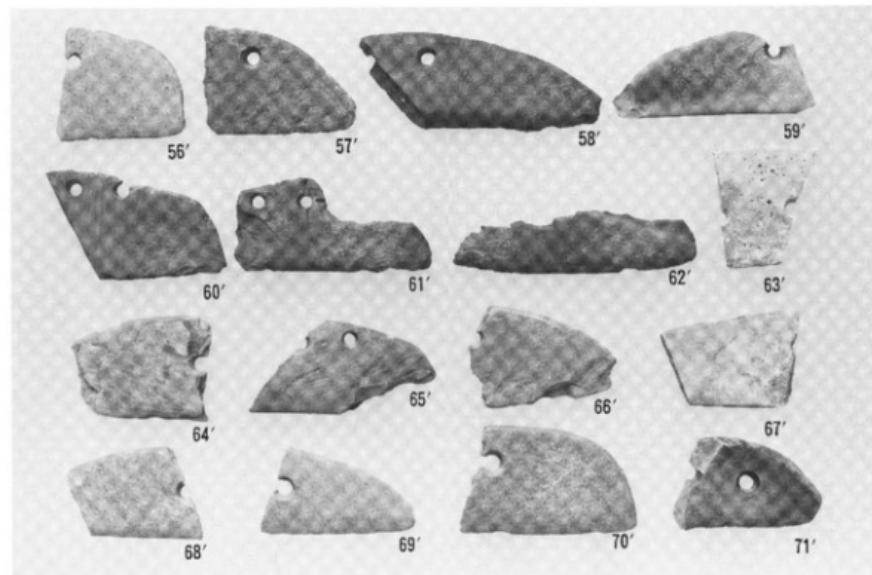
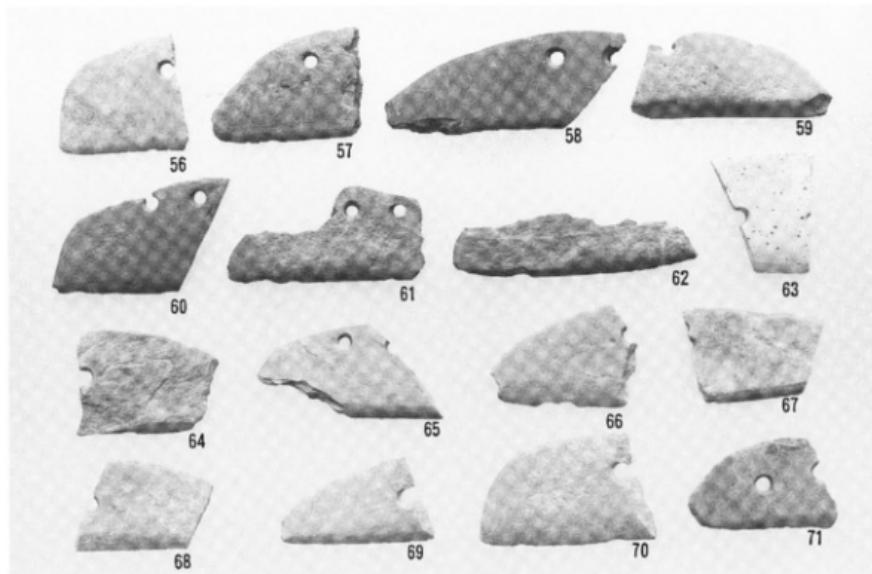


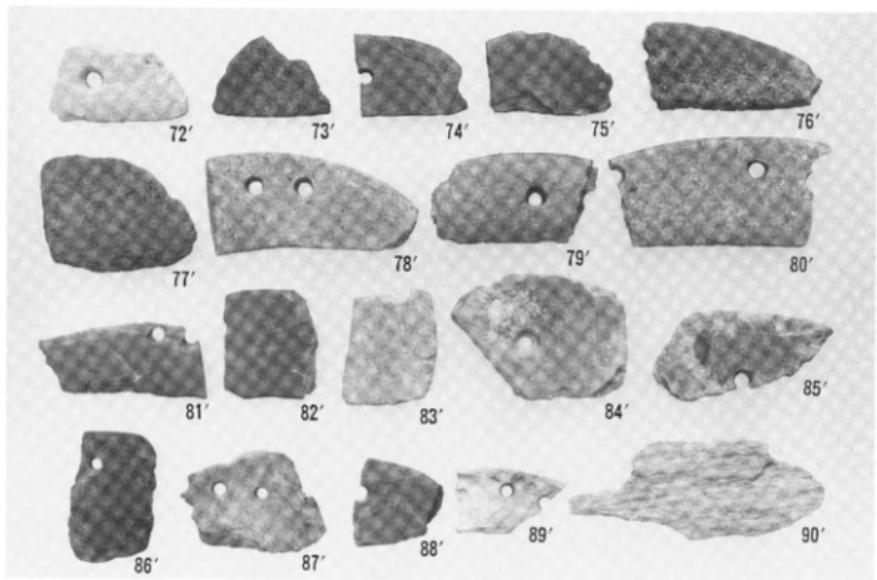
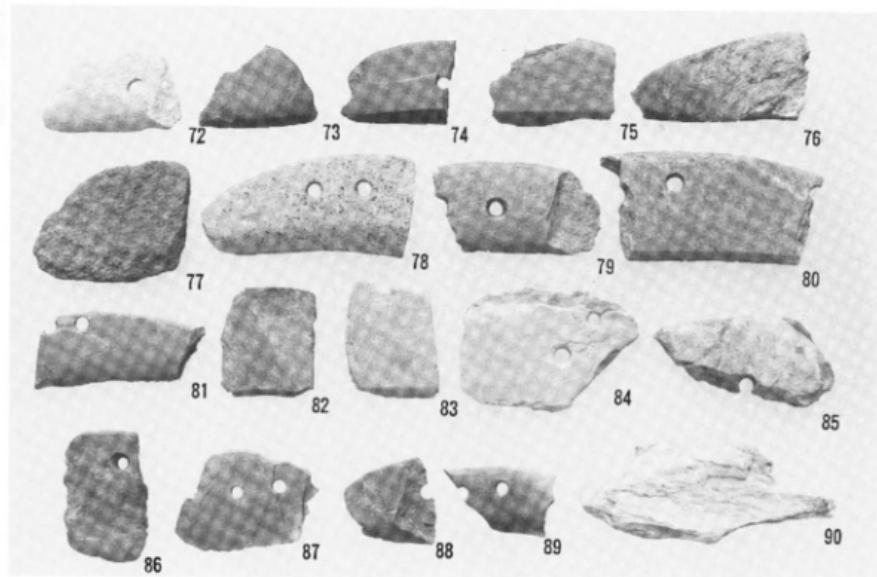


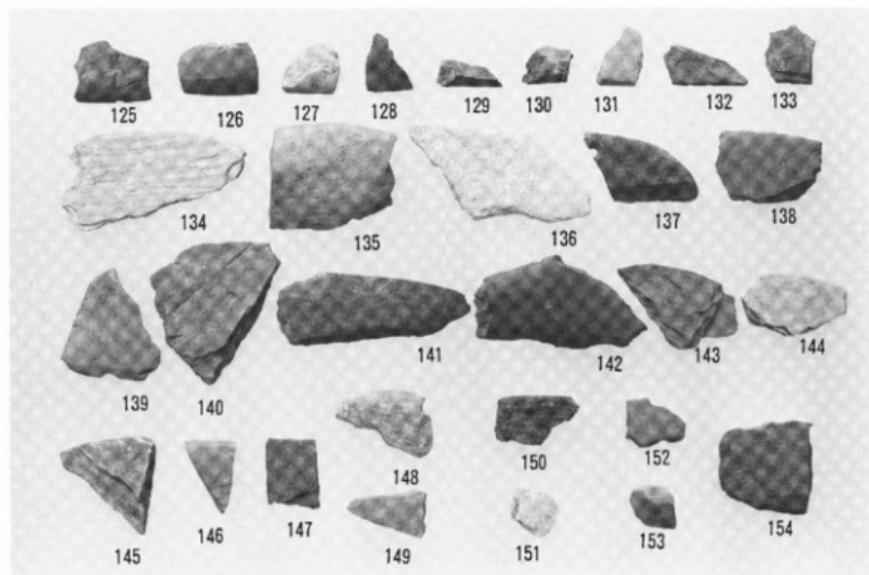
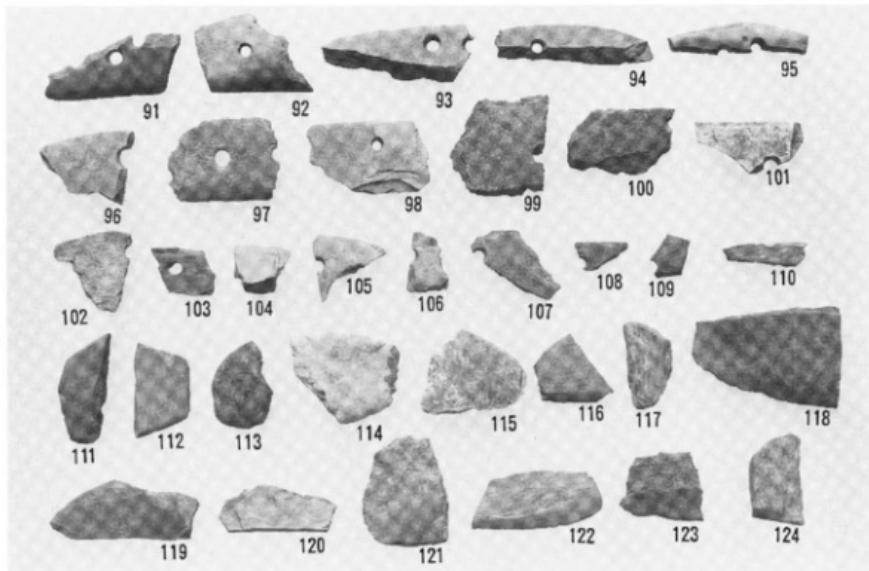


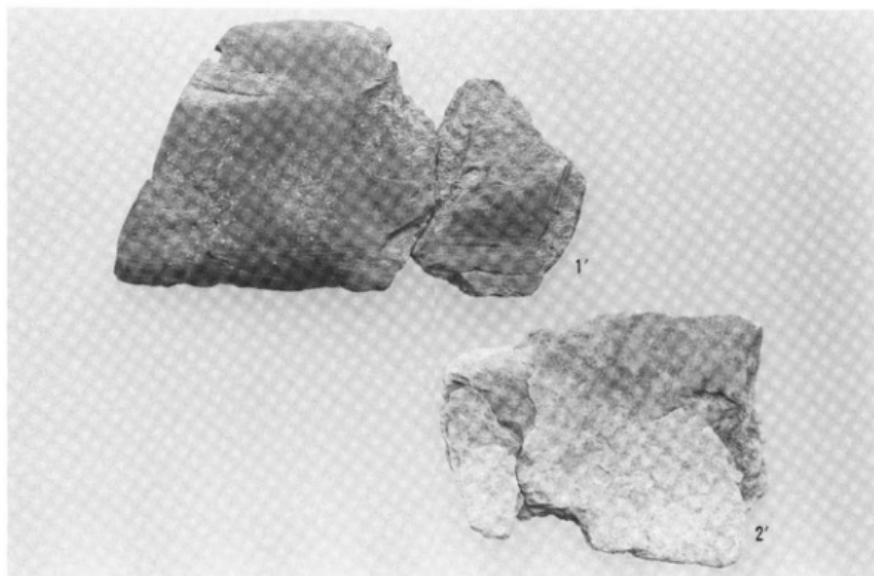
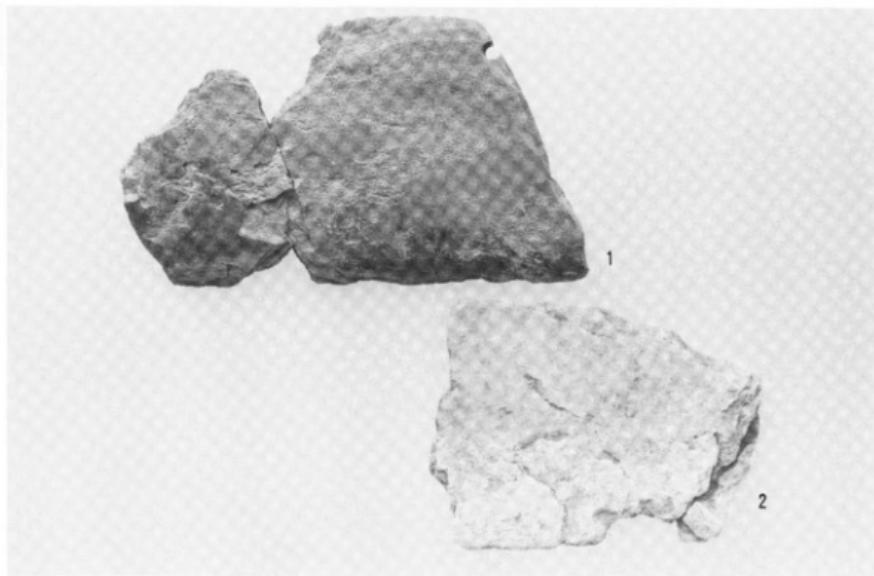


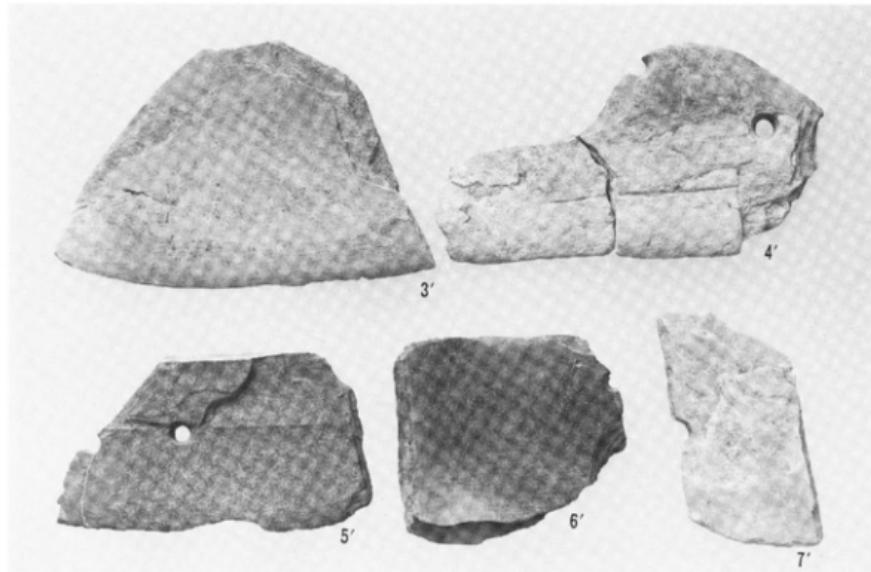
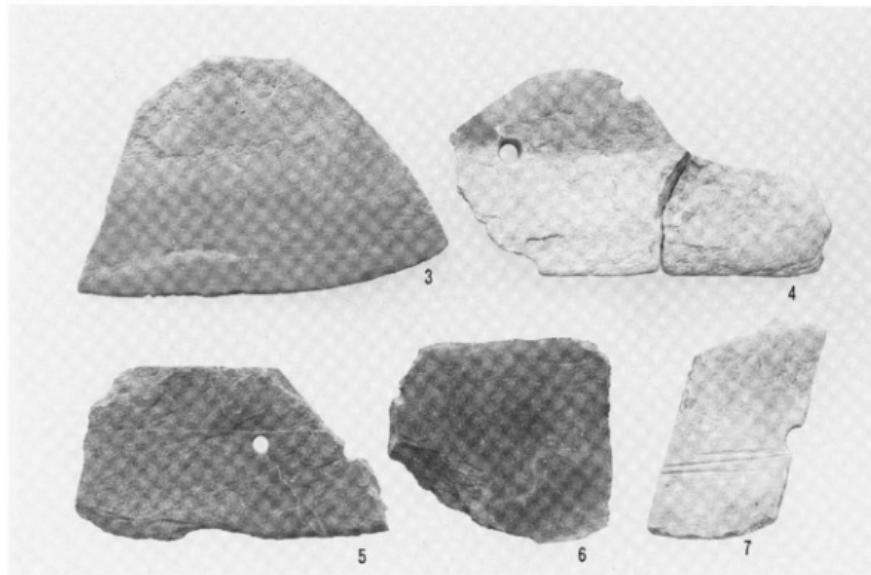


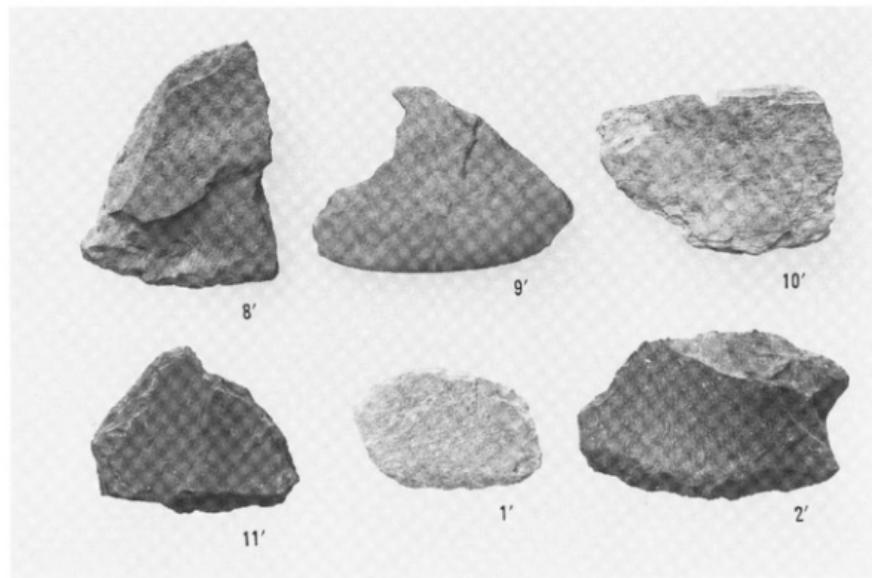
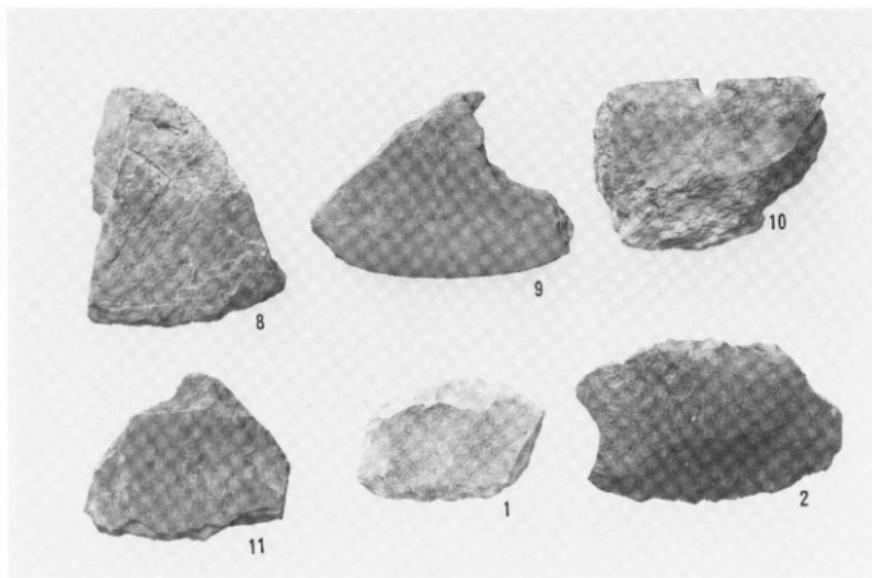


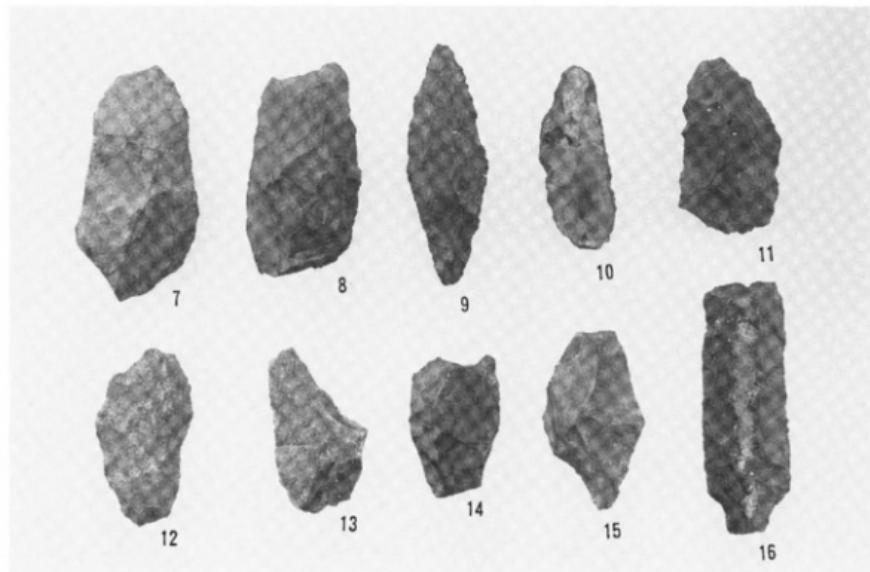
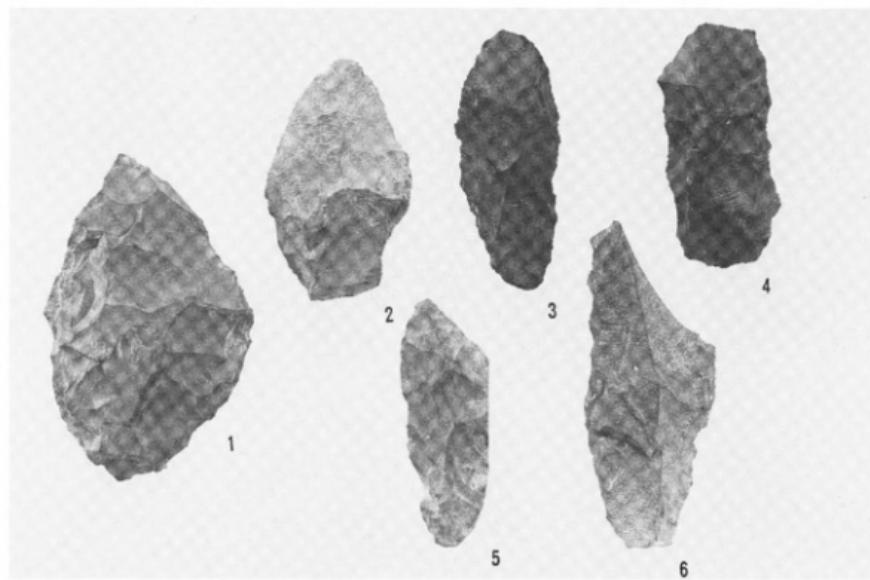


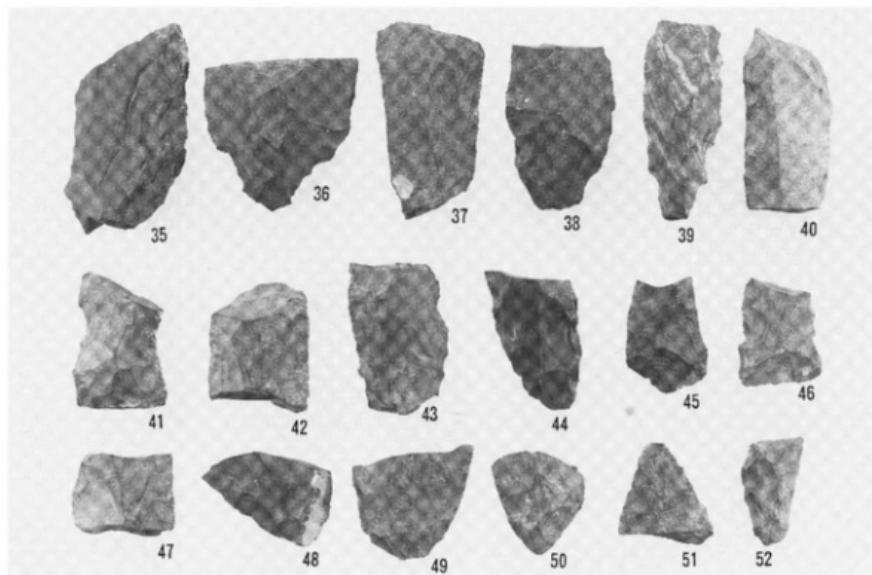
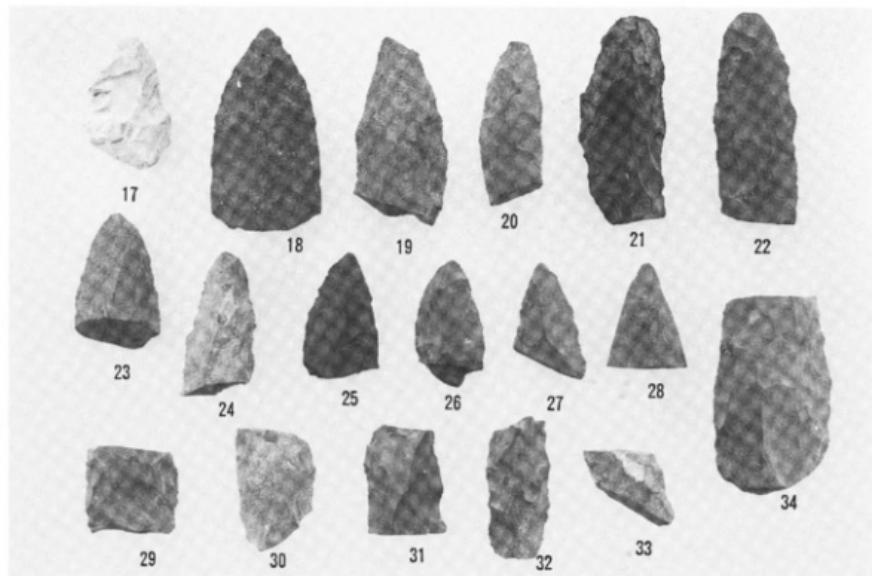


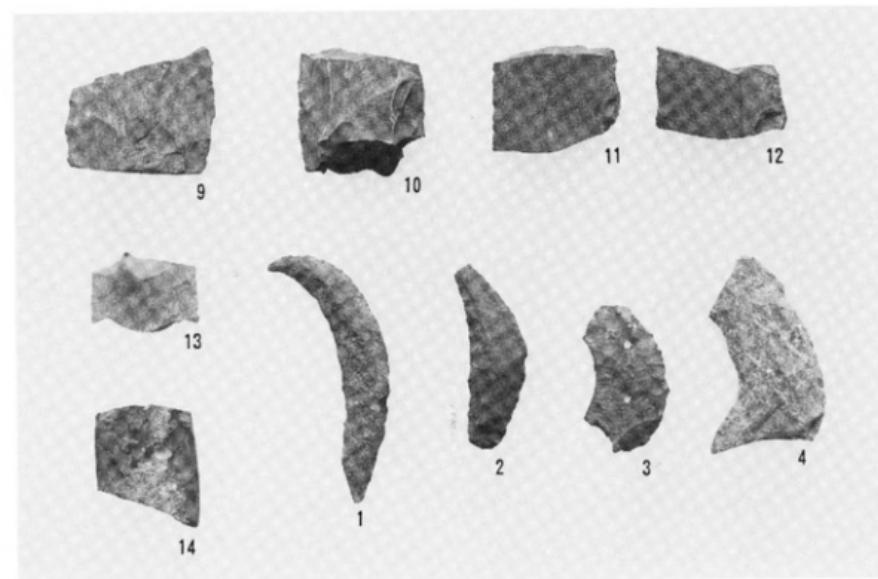
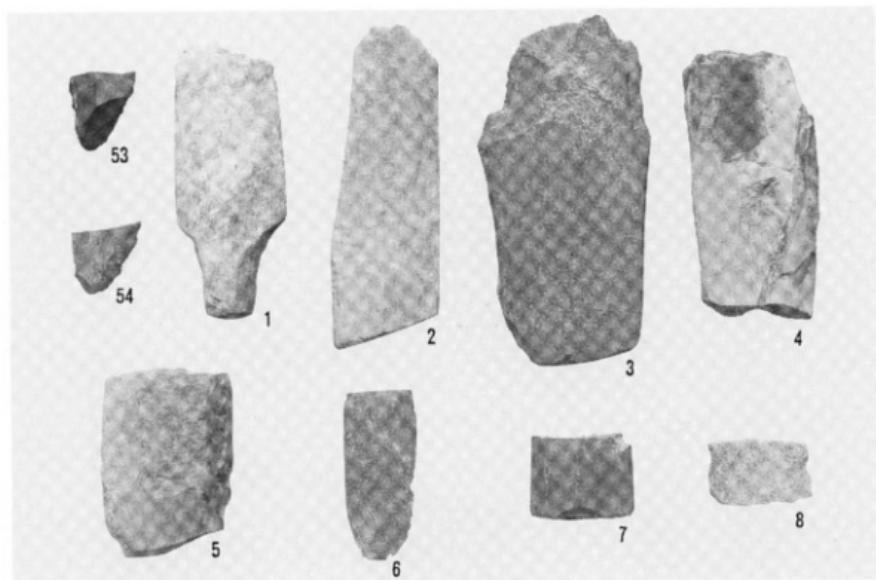






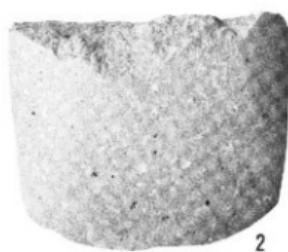




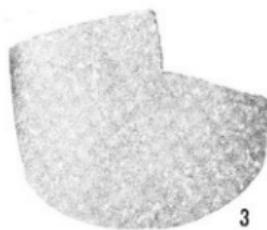




1



2



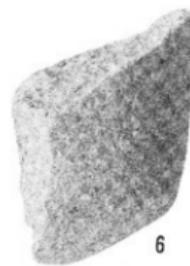
3



4



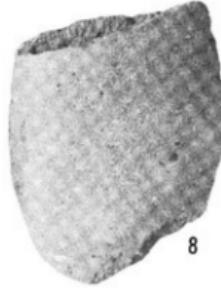
5



6



7



8



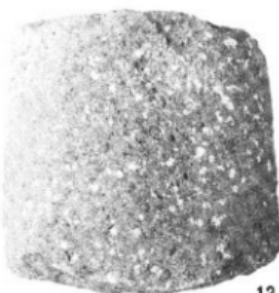
9



10



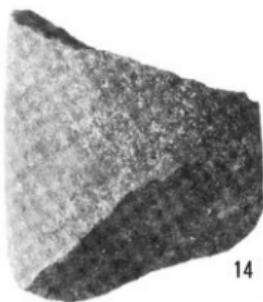
11



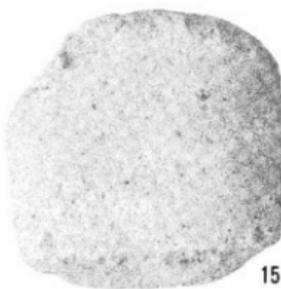
13



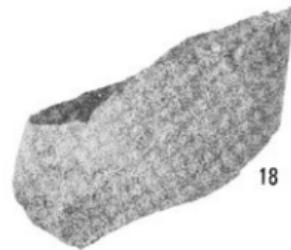
12



14



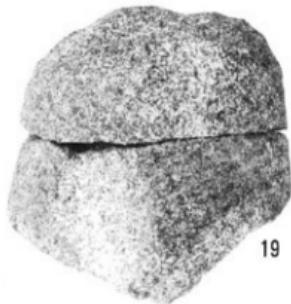
15



18

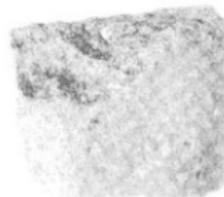


16

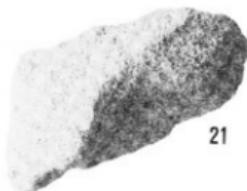


20

19



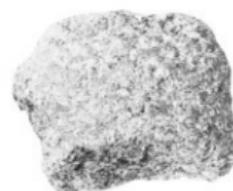
17



21



22



23



24



25



26



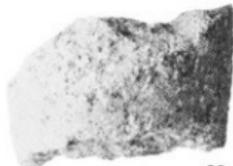
27



28



29



30



31



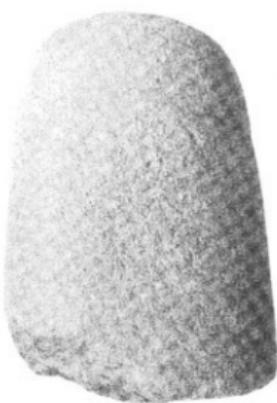
32



33



34



35



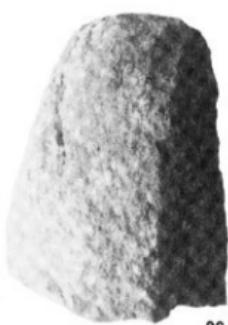
36



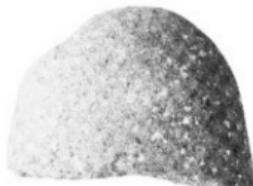
37



38



39



40



42



41



43



44



45



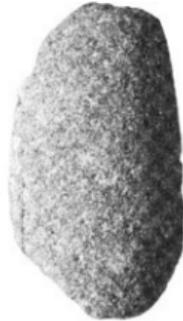
46



47



48



49



50



51



52



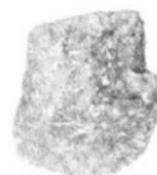
53



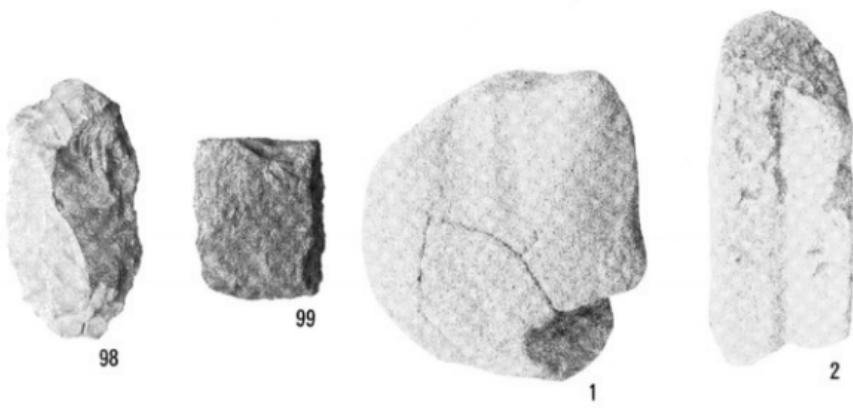
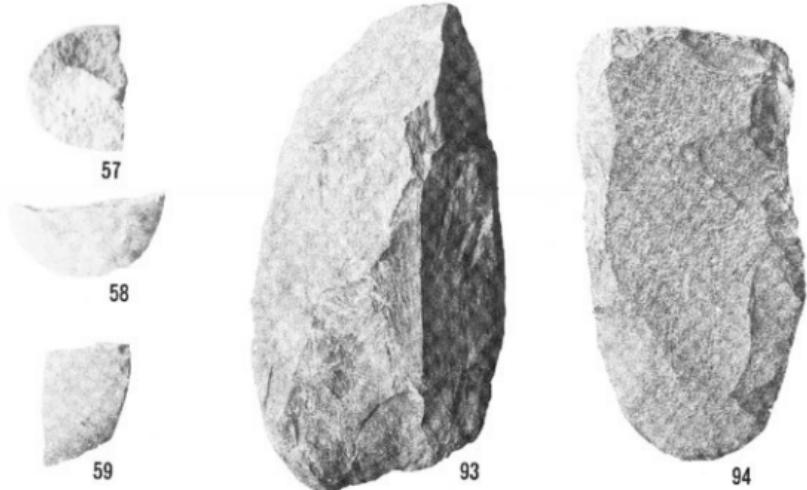
54



55



56





3



4



5



6



7



8



9



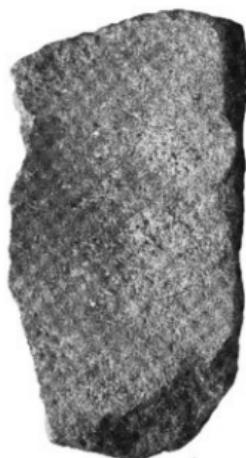
10



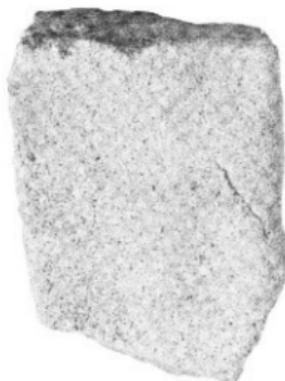
1



2



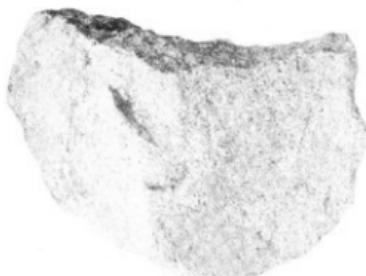
3



4



5



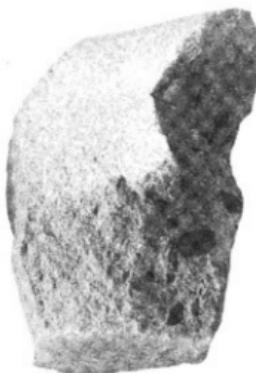
6



7



8



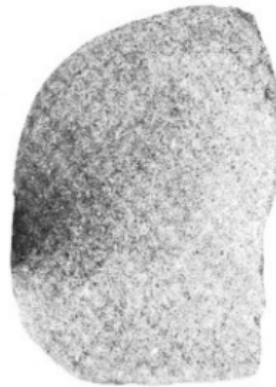
9



10



11



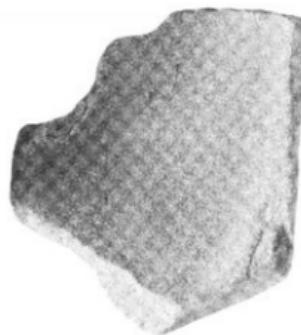
12



13



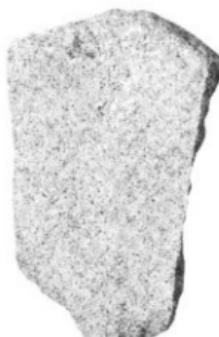
14



15



16



17



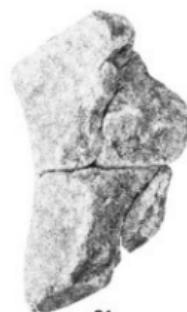
18



19



20



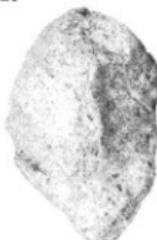
21



22



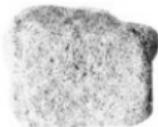
23



24



25



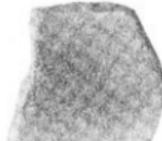
26



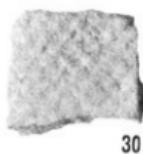
27



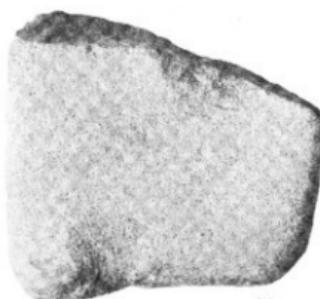
28



29



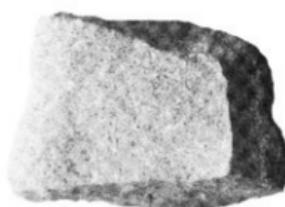
30



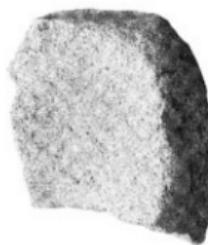
32



33



34



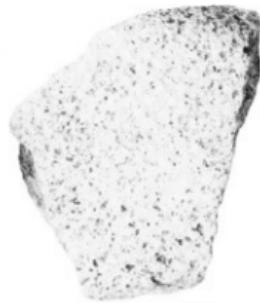
35



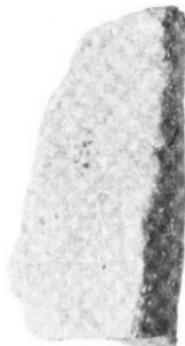
36



37



38



39



40



41



42



43



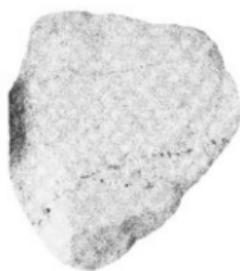
44



45



46



47



48



49



50



51



52



53



54



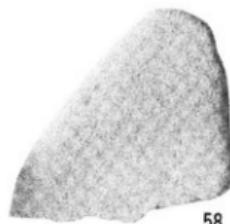
55



56



57



58



59



60



61



62



63



64



65



66



67



68



69



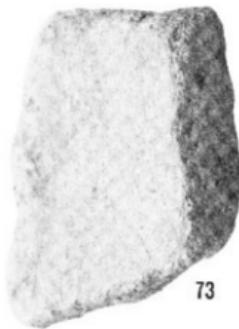
70



71



72



73



74



75



76



77



78



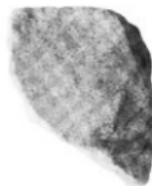
79



80



81



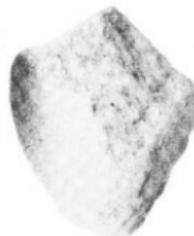
82



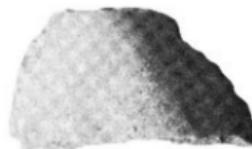
83



84



85



86



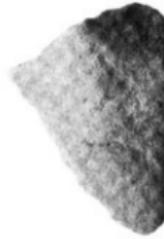
87



88



89



90



91



92



93



94



95



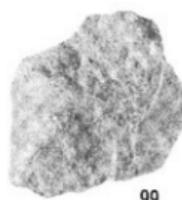
96



97



98



99



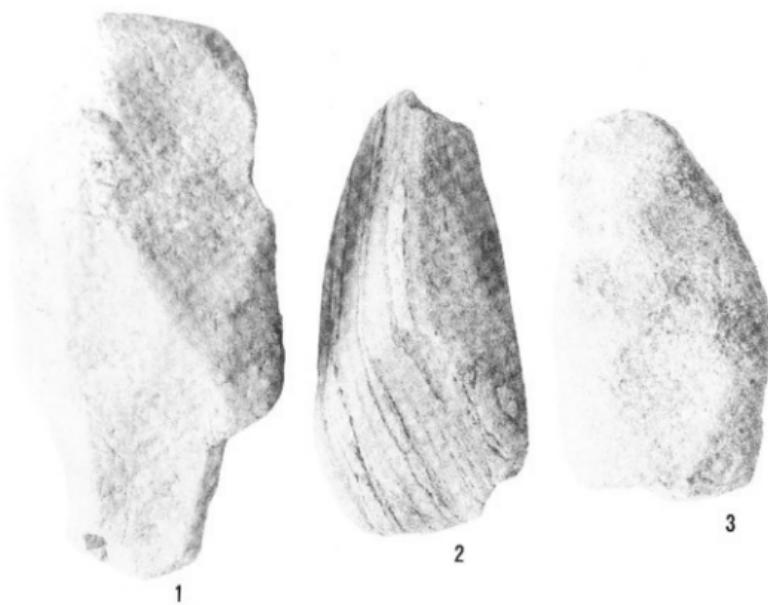
100



101



102



1

2

3



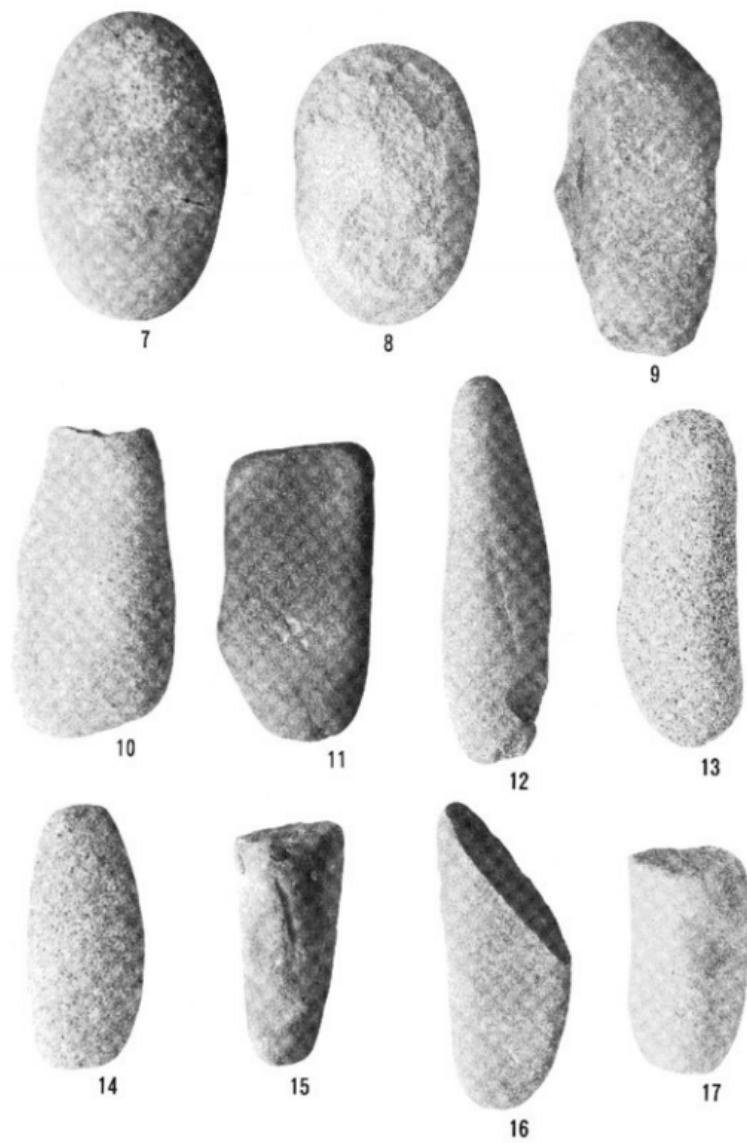
4



5



6





18



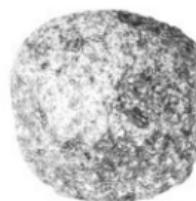
19



20



21



22



23



24



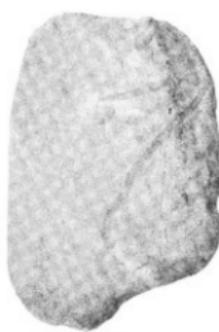
25



26



27



28



29



30



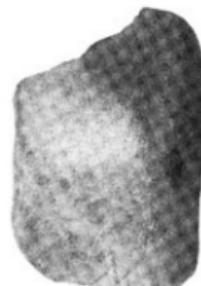
31



32



33



34



35



36



37



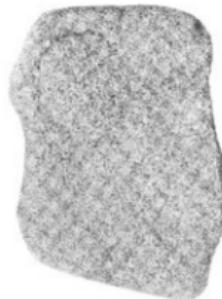
38



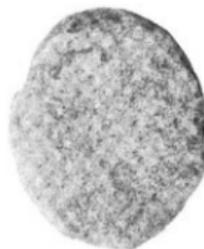
39



1



2



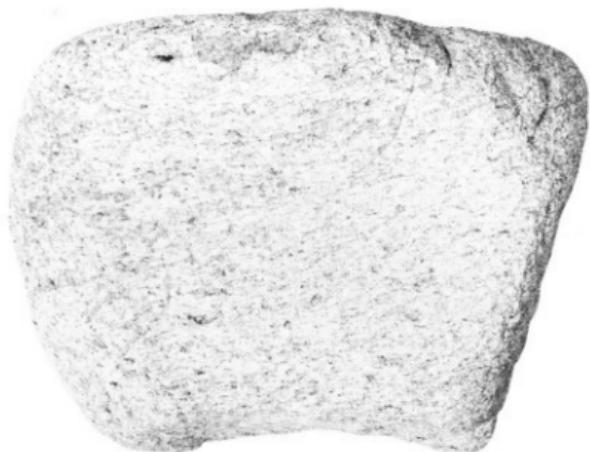
3



4



5



1



2



3



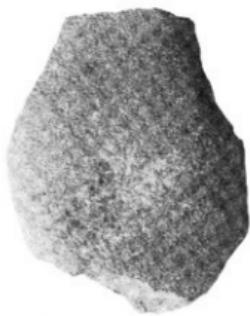
4



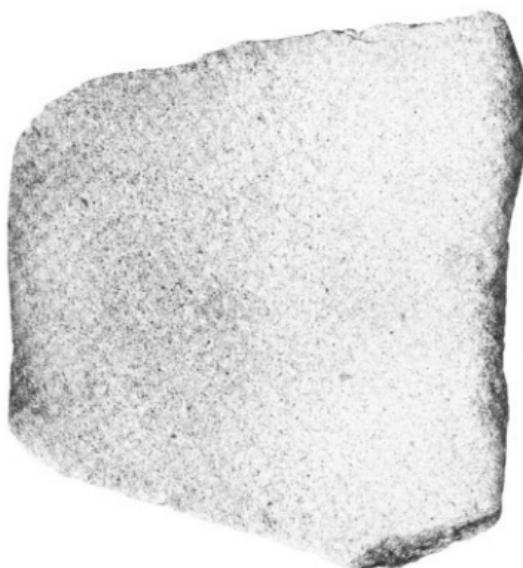
5



6



7



8

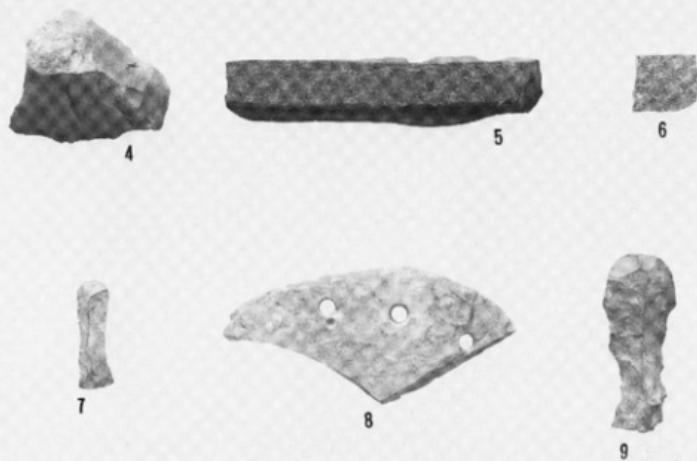


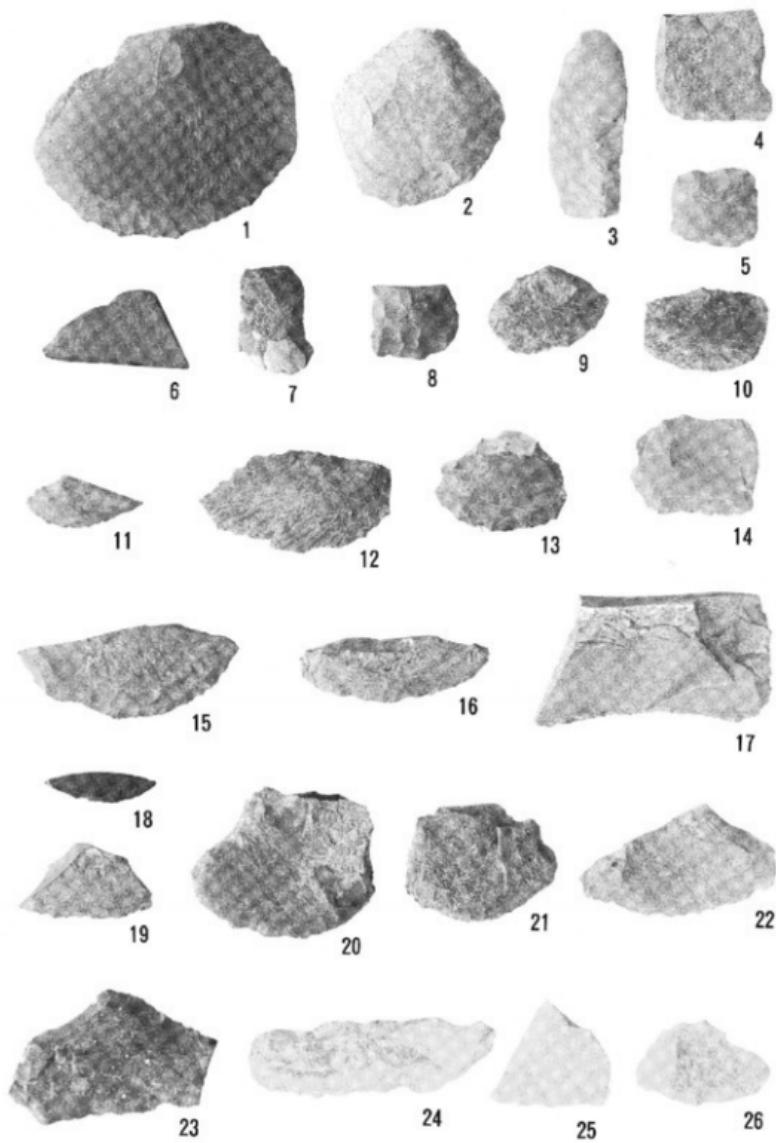
9



10

圖版 82
勾玉 碧玉
原石 用途不明石器





高宮八丁遺跡

石器編

昭和63年3月

編集
発行

寝屋川市教育委員会

大阪府寝屋川市本町1番1号

印刷

サツキ印刷株式会社

